金日成伝

第三部

自立経済の国から十大政綱発表まで

白　峯著・金日成伝翻訳委員会訳

雄　山　閣　刊

민족의 태양
김일성장군

金日成伝

(自立経済の国から十大政綱発表まで)

第三部

白　峯　著
金日成伝翻訳委員会訳

雄山閣版

月報

金日成伝 第三部

自立経済の国から十大政綱発表まで

雄山閣出版株式会社
東京都千代田区富士見二―六―九

『金日成伝』第二部さらに反響を呼ぶ

――市民・学生・主婦のなかで絶讃――

昨年四月に刊行された『金日成伝』第一部にひきつづき九月に第二部が刊行されるや国内の識者、著名人士のなかではもちろん一般市民、学生、主婦のなかで大きな反響がまきおこっている。

ときを同じくしてピョンヤン放送（日本語）でも同書の放送を連続していて読者のなかには感想文を数多く本社に送ってきている。

愛知県立大学外国語学部部長である中平角氏は、日本帝国主義統治の暗たんたる時期に日本で学んでいながら金日成将軍を敬慕していた一朝鮮人学生と知りあったむかしのことを回想しながらこう語っている。

「私は第二次世界大戦のとき早稲田大学で教鞭をとっていましたが、そのとき李というひとりの学生が白頭山に行くといって姿を消したが、いま考えてみると金日成将軍のもとにはせ参じたのではないか、と思う。金日成首相がその当時すでにすぐれた指導者であったことがこの『伝記』を読んでよくわかった。」

また社会活動家である三浦氏は「きょうの朝鮮を知るにはぜひこの本を読まなければならない。朝鮮でアメリカがふるえあがっているのは、民族の太陽とうたわれて

金日成首相の偉大な主体思想と、その労作をたたえる世界各国の新聞雑誌

いる金日成首相がいるからだということがよくわかった。私はこの本を活動の鏡としていくつもりだ。」

宗教家の平山照次氏は「金日成首相の革命活動と不屈の闘争精神、高い徳性はわれわれ一般の人間の想像を超越している。とくに首相の家庭が代をついで愛国的であり革命的な家庭であったことは深く考えさせられる。まさに首相こそ世界にその例のない愛国者でありすぐれた指導者である。首相の思想は宗教の精神にもあてはまる幅のひろい豊富な思想である。」と讃辞をのべている。

大学生の河原新一氏は「祖国と人民に対する、金日成首相の愛が如何に深いかを知った。私は共産主義を信奉するものではないが思想を超越して金日成将軍の人類愛に深く感動した。今後この地球上でおこる種々の問題を正しく解決し救う人はこのように人間に対する深い慈愛をもった方であろうと思う。」とのべている。

また教師の桜井せつこ氏は読後の感激をこうつづっている。

「多くの資料をそろえながらのべられているこの『伝記』は私に大きな感動をあたえた。金日成首相の主体思想の真髄が何であるかをよく理解できた。とくに私は金日成首相がすぐれた理論家であるばかりでなくもっとも

卓越した実践家であることに深い感銘をおぼえた。」

そして労働者である清水曼氏は「これから私が生きてゆくうえでこの『伝記』は限りなく私を励ましてくれるすばらしい本となるでしょう。」と語っている。

地方公務員である高橋正夫氏はこういっている。

「私はこの『伝記』を一息で読みとおした。そして金日成首相の人間的な魅力の完全なとりこととなった。このような方の指導をうけている朝鮮人民はほんとうにしあわせでありうらやましい限りである。」

自動車の運転手である大山一男氏は「暗たんとした時代に生まれながら祖国の光復のために自分の全生涯をかけてたたかってこられ勝利をおさめた将軍の闘争歴史は読むものの涙をさそわずにはおかない。」と語り、学生の岡田淳一氏も「偉大であるといおうか、太陽と呼ぼうか、一言ではとうていいいつくせないほどのすぐれた方である」といっている。

また会社員である竹井健一氏は、金日成首相の偉大な反帝戦略戦術に感嘆して、「首相こそ二十世紀のアジアが生んだ偉大な革命家」であると絶讃しながら「反帝反米戦線の最先端でたたかう朝鮮人民の力の源泉を目の前にみせつけられたようだ。」と語り、金日成首相の卓越した指導力と賢明さについてほめたたえている。

また学生の山本光男氏は「私はこの『伝記』を読んでこれほど卓越した指導者がこの世界に存在していることに驚嘆した。まことに金日成首相は幼いときからこんにちまでその半生は人民のために捧げ、人民の幸福、全人類の幸福のためにたたかってこられた天才的な指導者である。金日成首相は一国の指導者であるばかりでなく全世界の指導者であると思う。」と感嘆している。

このように、こんにち広はんな日本国民のなかから尊敬と信頼をうけている偉大な指導者金日成首相の伝記『金日成伝』は日ましに大きな反響をまきおこしている。

偉大な指導者、現代の英雄

金日成首相をたたえる
世界各国人民の声

世界のすべての人びとが知っている
主体の旗ひるがえす朝鮮を！
世界のすべての人びとが見つめている
千里馬の国――朝鮮を！
全世界の人びとがたたえている
偉大な指導者金日成首相を！
（**ケニア砂糖栽培労働者同盟総秘書・ケニアＡＡ団結委員会準備委員会書記長　ウェ・レ・オロンデ**）

金日成！　あなたは赤い太陽！
（**ナイジエリア山林およびタングア農場員協会中央執行理事会書記長・ナイジエリア・朝鮮親善協会委員長　イジェアイエ・オモレジエ**）

金日成首相は、朝鮮人民ばかりでなく、全世界の平和愛好人民と帝国主義に反対するすべての人民の尊敬と愛をうける、たぐいまれな指導者である。
（**コンゴ（ブ）政府代表団団長　モメンク・カブリエル・メダル**）

金日成元帥！　あなたに万歳を！
おお、永遠なる光明よ
革命の偉大な太陽よ
（**アンゴラ全国勤労者同盟総秘書　ルブアル・パスカル**）

偉大な領袖――金日成首相は、近代の歴史にはじめて登場したもっとも偉大な、もっとも傑出した人物である。
（**シリア・アラブ共和国政府代表団団長　パエズ・イスマイル**）

われわれの心臓をとらえる偉大な徳性、人民的な品性をもつ巨峰……。
（**キューバ革命政府閣僚　カルロス・ラパエル・ロドリゲス**）

金日成首相は、愛国的な、卓越した指導者の模範であり、

全世界人民の親善と友好の象徴である。

（カンビア・朝鮮親善協会委員長エム・ビイ・ジョンス）

主体思想の偉大な創始者！

（三大陸人民団結機構執行書記長ベネズェラ代表ロベルト・ロドリゲス）

主体、自主、自立、自衛および千里馬思想は、社会主義国のなかでも、朝鮮においてだけ見出すことのできる思想である。

（カンボジア・朝鮮親善全国委員会代表団団長　キ、ム・ディト）

真の世紀の創造者、現代の英雄。

（モーリタニア国会代表団団員　パカラ・パリ）

世界において、ただ一人しかいない偉大な指導者である。

（南ベトナム民族解放戦線代表団団長　ホ・フェビ）

金日成首相は、現代においてまたと見ることのできない、もっとも卓越したマルクス・レーニン主義思想家であり、もっとも真正な共産主義者である。

（ラオス愛国戦線中央委員会副委員長シトン・コムマダム）

金日成同志の名は、この世で永遠に輝くであろう。

（サンブボルタ勤労者職業同盟代表団団長　サントウェデヤムバ・ジョゼフ）

共産主義者世界において永遠に輝く、また一つの星。

（セイロン新聞『ネイション』紙主筆　ピヤル・ウイクレマシンゲ）

嵐の時代において、国際革命の歯車を前進させるうえで巨大な寄与をなしているすぐれた指導者。

（フランス共産党政治局委員、フランス労働総連盟書記長、世界労連副議長　ブノワ・プラソン）

レーニンなきあと……もっとも傑出した人物として、世界史の上に永遠にその名をとどめるであろう。

（日本・哲学者　柳田謙十郎）

『金日成伝』英語版も刊行さる

——世界各国に大きな反響——

昨年九月、朝鮮民主主義人民共和国創建21周年を記念し、東京、未来社から『金日成伝』英語版の第一部が刊行された。

同書は日本語版と同様、刊行と同時に内外に大きな反響をまき起こし、またたくまに初版を売りつくしたが、海外からの注文はひきつづき出版社に殺到している。

とくに、同書の広告が『ニューヨーク、タイムズ』、『ザ・タイムズ』などの世界一流紙の一頁全面をかざったことは国際的なビッグ・ニュースとなり、折からひらかれていた国連総会と関係記者団の話題をさらった。

なお、英語版『金日成伝』の第二部、第三部は今春刊行の予定だといわれている。(P)

『金日成伝』を読んで

柳田謙十郎

『金日成伝』第一部を大きな感激をもって読み終えた私は第二部の出るのを鶴首していた。第一部は生い立ちから抗日武装闘争をへて解放された祖国に凱旋したところで終わっていた。

「金日成伝」の第二巻は第二次大戦後の朝鮮人民解放のときから五〇年代の終わり千里馬運動の成功にいたるまで十数年間における金日成将軍を中心とした朝鮮人民

の苦難にみちたたたかいの記録である。あとからあとからとかぎかりなく展開されてやまない感動的な場面の連続に、私は何もかも一切の他事をわすれて五百ページにもおよぶこの大冊をわずか二日の間に読み終わってしまった。

レーニンなきあと、社会主義革命のために身をささげた天才、英雄、偉人はその数が少ないとはいえないが、金日成首相の如きは、まことにその中にあってもっとも傑出した人物として世界史の上に永遠にその名をとどめるものであろう。

歴史は人民がつくる、人民大衆をはなれて個人の功績のみによって歴史の推移を考えようとするのは観念論であるが、そうであるからといってすぐれた指導者のもつ意義を無視したり軽視したりすることは真の史的唯物論の立場に立つものの正しい態度とはいえない。それとともにまた金日成首相のような偉大な指導者を生み出したものは他ならぬ朝鮮人民の苦難の歴史であり、朝鮮民族であることもわすれられてはならない。まことに金日成首相を生み出した朝鮮民族は偉大なる民族であるといわれねばならない。

本書を読むと朝鮮民主主義人民共和国の今日のすばらしい発展がいかにして可能となったか、一見奇跡のようにも思われる異常な進歩が決して偶然なものでないことが手にとるようによく理解される。

金日成首相は十五才のころからすでに人民解放の大業に参加し一日として安き日もなく生死の関頭に立ってたたかいながらその間いつのまにかマルクス・レーニン主義の理論を誰よりもよく身につけ、これを朝鮮の生きた歴史的現実の上に具体化して数々の実践を通してその真理性を証明した。この知性の高さは全く常人を隔絶するものがあり、一九五〇年の朝鮮戦争にさいしても、また戦後の経済建設のしごとにおいても、あるいは教条主義者や修正主義者、反党分裂主義者、スパイとのたたかいにおいても、一々のばあいにおいて眼光するどく事態の本質を見ぬき、これに処する正しい道を発見して勝利をかくとくした。まことに将軍の卓絶した指導力をはなれて朝鮮の革命の大業の成功を考えることは、朝鮮人民ならぬ私たちといえども不可能というほかはないのである。

しかし将軍の偉大さは決してたんにそのすぐれた知性にのみあるのではない。これと同時に愛情の人としても常人のとうてい及ぶべからざるものがあったことは本書を読むものの誰でも深く感ぜざるをえないところであろ

う。おそらく四千万の朝鮮人民中、将軍ほど深く祖国を愛し、祖国のためにその生涯のすべてをささげようとしたものは珍らしいといっても決していいすぎではないであろう。しかも将軍の愛はこの祖国の人民の一人一人に及んで生きてはたらいていた。私は朝鮮民族文化運動の先駆者となった農村婦人李桂山にたいする将軍の人間的な愛情（一六五ページ以下）のところを読んだとき、この上もない感動にうたれてにじみ出る涙にほほをうるおすことを抑えることができなかった。しかもこのような事例は本書にのべられたものだけでも類かぎりなくある。将軍は知の天才であるとともに情もまた世界まれに見る豊かな人であったといわねばならない。

しかも将軍の異常な卓絶性はこれにとどまらない。何人といえども模倣と追随できない不撓の意志、その行動力のつよさに到っては、さらに私たちをして目を見はらさせずにはおかないものがある。将軍がはじめて祖国にかえったとき、郷里万景台の人々は首を長くしてその姿のあらわれるであろうことを待っていた。常人ならば何ごとをおいてもまず第一にとんでかえるのが人情であろう。しかるに将軍がまっさきに訪れようとしたところは降仙製鋼所であって郷里ではなかった。その途中万景台の見えるところを通りながらも副官に命じてあいさつをさせたままで、その時には立ちよろうともしなかった。将軍の頭の中には祖国復興という大業への意志が第一であって、故郷に錦をかざるというようなことは一つの私情にすぎなかったのである。

これらの点を合せ考えると（レーニンはもとよりそうであったが）将軍の心の中には何よりもまず祖国と朝鮮人民とがあって将軍個人というものはほとんど存在しなかった。（一〇ページ）「人民が粟飯を食べるときは、われわれも粟飯を食べなければならない」（二七三ページ）この人民と一体の精神が朝鮮革命の赫々たる大業を成功させたのである。（哲学者）【東京大学新聞一九六九年十一月二十四日号から】

編集部だより

出版・言論の自由の本質は、必然的に人類の繁栄につながるものである、という出版の基本的態度において本書を刊行したわけであるが、編集部の予想以上の多くの反響があったことは大変うれしい。わたしたちはさらに多くの人が本書を通じて人間の在り方を検討していただければ幸甚のいたりである。

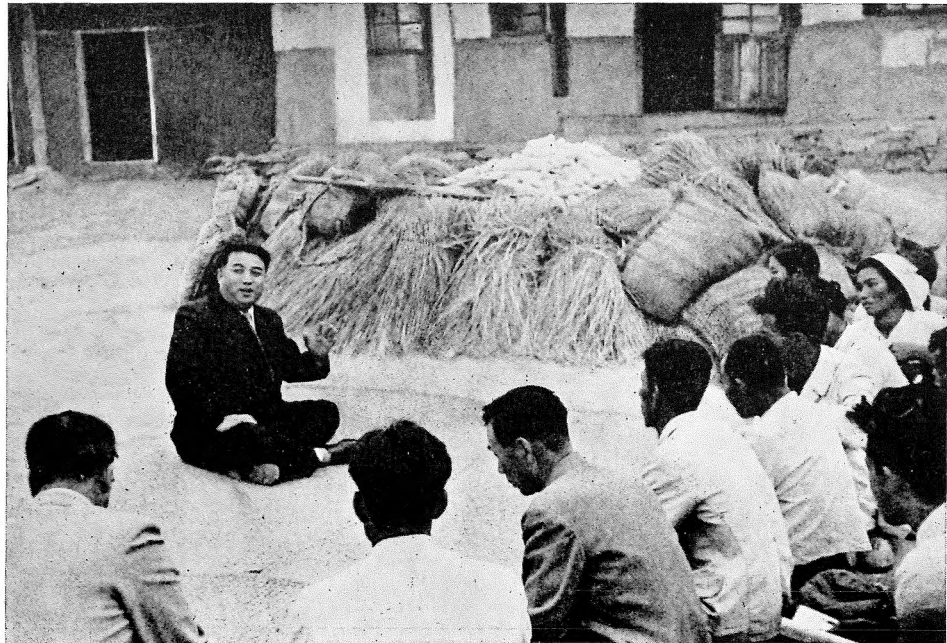
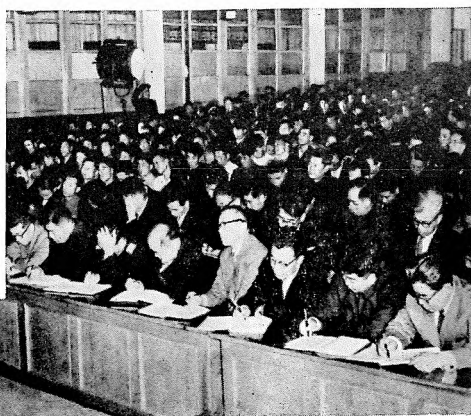
（H）

金 日 成 首 相

朝鮮人民軍部隊を訪問した金日成首相

清津製鋼所を現地指導する金日成首相(第一章第2節参照)

2・8ビナロン工場の建設に参加した人民軍兵士と話合う金日成首相
(第一章第5節参照)

ピョンヤン学生少年宮殿で子どもたちから花束をうける金日成首相
（第一章第７節参照）

平安南道江西郡青山里を現地指導しながら農民と話合う金日成首相
（第二章第3節参照）

大安電機工場の党委員会拡大会議を指導する金日成首相
（第二章第4節参照）

朝鮮労働党第4回大会で中央委員会活動総括報告をおこなう
金日成首相　　　　　　　　　　　　　　　　　　（第二章第4節参照）

黄海南道長渊協同農場を現地指導する金日成首相
（第三章第6節参照）

朝鮮労働党代表者会議で報告する金日成首相　（第四章第1節参照）

科学研究機関を指導する金日成首相　（第四章第3節参照）

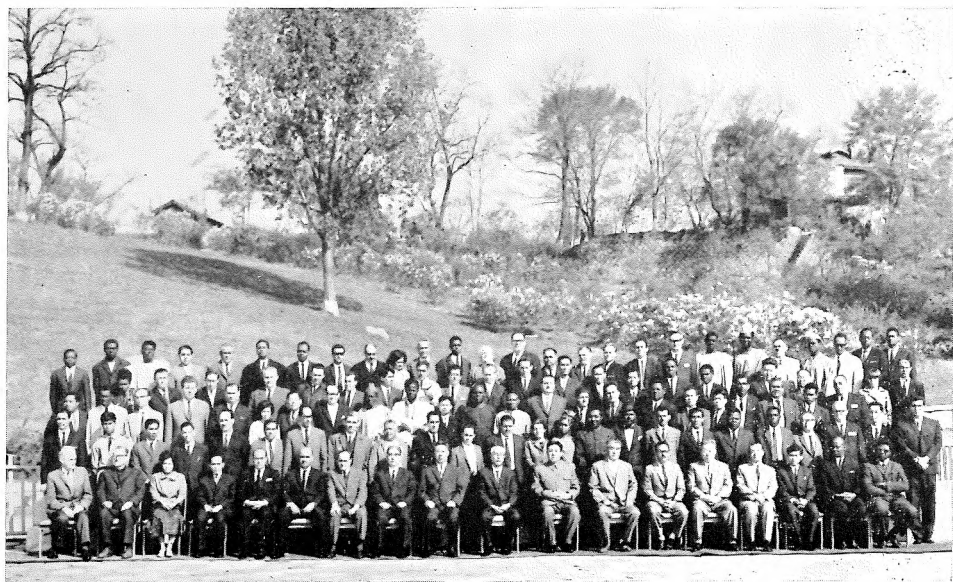
万景台革命学院創立20周年に際して学院を訪問する金日成首相
（第四章第4節参照）

栄誉軍人工場で働く軍人たちと話合う金日成首相(第四章第5節参照)

朝鮮人民軍総合軍事競技大会で陸海空軍名誉衛兵隊を査閲する
金日成首相　　　　　　　　　　　　　　　　(第四章第6節参照)

朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第4期第1回会議で十大政綱を発表する金日成首相　　（第四章第7節参照）

朝鮮労働党中央委員会第4期第8回総会で結語をのべる金日成首相
（第五章第1節参照）

日本から第１次船で帰国した同胞をあたたかくむかえる金日成首相
（第五章第５節参照）

革命の首都ピョンヤンを訪れた世界各国の党および革命組織の代表と席を同じくする国際共産主義運動と労働運動のすぐれた指導者である金日成首相（第六章第１節参照）

金日成首相の天才的労作『現情勢とわが党の任務』『反帝反米闘争を強化しよう』『国家活動のすべての分野で自主、自立、自衛の革命精神をいっそう徹底的に具現しよう』にたいして絶対的な支持を表明する世界各国の新聞　　（第六章第４節参照）

四千万朝鮮人民の敬愛する領袖金日成首相万歳！　　（第七章参照）

金日成伝

〈第三部〉

はじめに

ながい歳月にわたって、国の内外からあらゆる苦難をへてきたわが民族は、悲運につつまれた祖国と人民を救いだす卓越した指導者を心の底から待ちのぞんでいました。

とくに祖国が日本帝国主義の植民地に転落し、人民の運命が生死存亡の危機にさらされていたとき、それはもっともさしせまった民族的な渇望となっていました。

太陽や月さえ光を失った民族受難の時代に、この民族あげての願望をになってあらわれた人こそ、まさしく絶世の愛国者であり、民族的英雄であり、百戦百勝の鋼鉄の統帥者であり、国際共産主義運動と労働運動のすぐれた指導者のひとりである四千万朝鮮人民の偉大な領袖金日成（キムイルソン）首相その人だったのです。

万景台（マンギョンデ）の貧しい農家に生まれた金日成首相は、十四歳のとき、早くも祖国と人民のために一身をささげることを決心し、たたかいの道につきすすんだのちは、偉大な抗日武装闘争の旗じるしのもと、祖宗の山——白頭（ペクトウ）霊峰に祖国光復の烽火を高くあげ、三千里（サムチョンリ）の山河に解放の曙光を照らし、朝鮮（チョソン）人民を英雄的な救国闘争へとふるいたたせました。

年老いたものから子どもにいたるすべての世代は、金日成将軍の名にはげまされて暗たんたる日々にも生きる力と希望を燃やし、その名を胸にひめては不倶戴天の敵日本帝国主義とのたたかいに決起しました。そして朝鮮人民は、一九三〇年代から金日成将軍を偉大な領袖としてむかえることによって、指導者にたいする歴史的な渇望をみたすことができたのであります。

白頭のけわしい山々、高くそびえた峰々を十五星霜にわたって踏みわけ、日本帝国主義侵略者をうちやぶって、ついに祖国を救った金日成将軍は、たたかいの砲火にくすんだ赤旗を高くかかげ、解放された祖国、歓呼にどよめく人民のもとへと凱旋しました。

金日成将軍によって指導された偉大な抗日武装闘争と、金日成将軍の祖国凱旋は、まさに朝鮮民族のもっとも大きな栄光であり、もっとも大きなしあわせであったのです。

将軍は、祖国凱旋後も、ながい歳月にわたる疲れをいやすいとまもなく、祖国の地に自由で富強な人民の楽園を築き、アメリカ帝国主義者の南朝鮮占領によって二つにわかれた祖国を統一するための全民族的な闘争を組織指導しました。

金日成将軍は、解放後、新しい祖国建設の大綱をさししめし、マルクス・レーニン主義の党と人民の主権をうちたて、反帝反封建民主主義革命を輝かしく遂行し、真の人民武力を創建し、共和国北半部を強力な民主基地に築きあげました。

アメリカ帝国主義者が戦争を挑発したときには、祖国の運命を一身にになない、天才的な戦略戦術と卓越した指導によって、世界「最強」を豪語するアメリカ帝国主義者を惨敗のどん底につきおとし、朝鮮人民の偉大な勝利をかちとりました。

金日成首相は、戦後もっともみじかい期間に祖国の地から灰の山と瓦礫を一掃し、社会主義革命と社会主義建設を輝かしい勝利へと導いてふたたび全世界を驚嘆させ、革命をたゆみなく、また、かつてだれひとりとして歩んだことのない道へと疾風のごとく前進させてきました。

将軍は革命と建設のうえで、だれも解くことのできなかった複雑な問題をもっとも正しく独創的に解明することによって、朝鮮人民をいっそう輝かしい勝利の道へとふるいたたせました。

首相はまた、アメリカ帝国主義とその手先どもを一掃するための南朝鮮人民の革命闘争と、祖国統一のための全朝鮮人民の闘争を勝利へと導き、国際共産主義運動の傑出した指導者として世界革命の発展に大きな寄与をしました。

闘争の道に第一歩をしるしたそのときから、じつに四十余年にわたるながい歳月をへてこんにちにいたる金日成首相の革命活動の過程――、それは朝鮮人民にたいする熱烈な愛と献身的な服務の歴史であり、民族の敵との血ぬられた闘争の歴史であり、たえまのないはげしい革命と創造の歴史であり、輝かしい勝利の歴史であります。

わが民族の歴史は五千年のながきにおよびますが、金日成首相のように科学的な革命理論と卓越した指導力をもち、さらに気高く美しい徳性をかねそなえた指導者をいただいた例はかつてありませんでした。

またわたしたちは、金日成首相のように生死の瀬戸際から民族を救いだし、たくましい革命的展開力で前人未到の道を切りひらき、たゆみなく前進しながら祖国と人民を繁栄と勝利の道へりっぱに導いた指導者をほかに知りません。

だからこそ、すべての朝鮮人民は大きな誇りをもち、金日成首相を民族の太陽として、人民の偉大な領袖としてあおいでおり、広はんな世界の人民も、国際革命運動につくした金日成首相の巨大な貢献によって、世界革命運動の卓越した指導者として金日成首相を心から尊敬しているのであります。

このような指導者を推戴しているからこそ、アメリカ帝国主義の支配のもとであらゆる苦痛をなめている南朝鮮の同胞も、心から金日成首相をあおぎみ、ひたすら、統一された祖国で幸福に暮らすその日のために力強く生きぬき、勇敢にたたかっているのです。

この本は、金日成首相の伝記第二部（第一部は金日成将軍の幼年時代と初期革命活動、そして抗日武装闘争をおもな内容としている）であります。ここには金日成首相の祖国凱旋からはじまり、平和的な建設期、偉大な祖国解放戦争の

時期、戦後の復旧建設と社会主義基礎建設の時期、そして社会主義の高峰をきわめ、祖国統一の大事変を主動的にむかえるためにたたかう現在までの首相の卓越した戦略戦術と偉大な導き、高邁な徳性などの重要な内容がおさめられています。

しかし、このように複雑でぼう大な内容を一冊の本に体系的にまとめるということは、きわめてむずかしい仕事でした。筆者自身、ぼう大な内容に圧倒され、迷路におちいったことも一度や二度ではありませんし、また深い理論的な問題と劇的で深刻な場面にいたっては、自分の無能と力不足をなげいたこともしばしばでした。また先へすすむにつれ、高い峰々が蒼空にそびえたち、探求すればするほどはてしない世界がひろがってゆくようでした。したがって、そのなかから基本的なものをえらびだして書くだけでも、研究不足の筆者にとっては力にあまる仕事だったのです。

しかし、広はんな人びとが将軍の伝記を切実にもとめている事実を思い、およばずながらもこれを世にだすことにしました。今後さらに研究をかさね、いっそう完全なものにしていきたいと考えております。

わたしはこの本を出版する機会をかり、祖国の統一とかぎりない繁栄、人民の輝かしい未来と幸福のために、四千万朝鮮人民の敬愛する指導者金日成首相のご健康と長寿を心から祈るものであります。

一九六八年八月

白峯

金日成伝〈第三部〉目次

目　次

目次

目　次

第一章　朝鮮を自立経済の国に

1　自力更生の旗を高くかかげ

戦後復興建設と千里馬(チョンリマ)進軍の日々は、かさなる難関とのたたかいのなかで偉大な革新と飛躍をもたらし、月日をたぐりよせてひた走りにかけた日々であった。

共和国はふたたびたちあがれないとわめいていた敵は、こうした偉大な事実のまえに口をつぐんでしまった。

金日成(キムイルソン)首相の指導のもとに、北半部の人民は難関とのたたかいのなかで強じんにきたえられ、いかなる逆境にもめげぬ無敵の力をやしなっていった。北半部の人民は戦争にも無類の力を発揮し、建設をもみごとにやってのける力強く才能のある人民であることを全世界にくまなく誇示した。

世界は、朝鮮(チョソン)人民の不撓(とう)不屈の英雄的気概とゆるぎない自主性に、ただただ驚嘆するばかりであった。

朝鮮人民のこの気象、この自主精神こそ、金日成首相がうえつけ、つちかったものなのである。

首相は、個々の国において革命と建設をりっぱにおしすすめるためには、自力更生の原則を堅持しなければならないということを鉄則とし、それを革命と建設における旗じるしとして高くかかげた。

首相は、自力更生とはなにかについて、つぎのように定式化している。

「自力更生、これは、自国の革命は基本的にみずからの主体的な力によって完遂しようとする徹底した革命的立場であり、自国の建設は自国の人民の労働と自国の資源によってすすめようという自主的な立場なのです」

まさに自力更生の革命的な旗じるしは、いかなる逆境におかれようとも最後までたたかって勝つという不撓不屈の闘争精神であり、必要なすべてのものを自力でつくりだす創造的な精神なのである。

それはまた、どのような環境のもとでも安逸と沈滞を知らず、継続革新、継続前進する革命精神なのである。

金日成首相の自力更生の思想は、革命勝利の内部的要因と国際的要因の弁証法、労働者階級の民族的義務と国際的義務の統一にかんする深奥な哲学的分析によってうちだされたものである。

首相は、革命と建設における他国の国際主義的な支持と援助は、はげましの役割を果たすきわめて貴重なものではあるが、それはあくまでも補助的な役割を果たすものにすぎず、革命の勝利をもたらす決定的な力はその国の人民の闘争であると教えた。

したがって、国際的な支持と援助ばかりを待ちのぞんで、みずからが努力しないのは革命家の態度ではなく、このような態度ではとても革命はできないことを、はっきりとしめした。

金日成首相は、自力更生の思想が革命と建設において果たす役割について、つぎのようにのべている。

「こうした革命的立場と革命的原則を堅持してこそ、われわれはいかなる複雑かつ困難な情勢のもとでも、革命的節操をまげることなく闘争をつづけることができ、前進の途上であらわれる難関とあい路を勇敢にのりこえ、革命闘争の勝利と建設の成果をおさめることができます。自力更生の革命精神がなければみずからの力を信じなくなり、自国内のエネルギーを動員する努力もおこたって、安逸と怠慢におちいり、消極性と保守主義のとりこになります」

金日成首相はまた、自力更生はそれぞれの国で革命の勝利をうながすことによって、結局は国際革命運動に積極

的に寄与し、支援することになると教えた。
首相はつぎのようにのべている。
「自力更生は共産主義者の気高い革命精神なのです。自力で革命をすすめ、自分の手で社会主義を建設するのがどうしてわるいのですか？
……こうすることがとりもなおさず、国際主義に忠実なことであり、社会主義の共同の偉業に寄与することになるのです」
このように金日成首相の自力更生の思想は、それぞれの国における革命と建設を成功裏にすすめ、国際共産主義運動と労働運動を強化し発展させるうえで、労働者階級の党と国家が必ず守らなければならない革命的で、自主的な立場を反映しているすぐれた思想である。
金日成首相は革命活動に身を投じて以来、自力更生をゆるぎない信条としてきたし、権力奪取の闘争ではもちろんのこと、その後の革命闘争と建設でもかわることなくこれを堅持してきた。
こんにち世界を驚嘆させている朝鮮の威力ある自立的民族経済は、まさに首相のこうした自力更生の思想から芽ばえ、咲きこぼれた花であり、黄金のみのりなのである。
じつに金日成首相は、自力更生の革命思想で自立経済建設路線をしめした自立経済建設にかんする理論の創始者である。
自力更生の原則のもとに、自立的民族経済を建設することは首相の一貫した路線であった。金日成首相はすでに一九三〇年代に自立的民族経済建設の思想を明らかにし、解放後、その革命思想をりっぱに実現したのであった。
首相は、北半部における経済建設の実践的経験にもとづいて、自立的民族経済建設路線が社会主義、共産主義建設の合法則的要求に完全に合致する徹底した革命的経済建設の路線であることを全面的に解明し、論証した。

自立的な民族経済建設の路線は、経済の分野で具現された金日成首相の偉大な主体(チュチェ)思想である。

首相は、政治、経済、文化、軍事など、すべての部門の路線と政策の基礎である偉大な主体思想を、経済分野で自力更生の原則のもとに自立的な民族経済を建設する路線として具現したのであった。

首相はつぎのように教えている。

「われわれは徹底した自力更生の精神をもって、みずからの力で国の自立的経済の基礎をいっそうかためながら国際分業にも堂々と参加し、世界の社会主義体制の威力を強めることに寄与しなければなりません。これは、経済建設で主体を確立するということを意味します」

金日成首相は、自立的民族経済を建設するということがなんであるかについて、こう明らかにしている。

「自立的民族経済を建設するということは、国を富強にし、人民生活を高めるうえで必要な重工業および軽工業製品と農業生産物を基本的に国内で生産、保障できるように経済を多方面的に発展させ、現代的な技術で装備し、みずからの確固とした原料基地を築き、すべての部門が有機的にむすびついた一つの総合的な経済体系となることを意味します」

首相は、まさにこのような自立的民族経済を建設することは、とりもなおさず、富強で文明の発展した独立国家を建設するうえでの必須不可欠の条件であるとみなした。

首相はつぎのようにのべている。

「経済的な自立性なしには、政治的な自主性も保障することはできません。政治的自主性と経済的自立性があってこそ、完全な自主独立国家となることができます」

いいかえれば、経済的に他国に依存する国は政治的にも他国に追従するようになり、経済的に隷属している民族は政治的にも植民地奴隷の境遇からぬけでることはできないということである。

首相は、自立的民族経済の建設はとくに、これまでたちおくれた国を発展した国にするもっとも近い道であると教えながら、つぎのようにのべている。

「自力更生、自立的な民族経済建設の道は、これまで貧しくたちおくれていた国を富強で発展した国にする近道であり、抑圧され、貧しく、飢えていた人民を力強く堂々とした自主独立国家の人民にするもっとも正しい道なのです。

これは、歴史によって確証された明白な真理であります」

金日成首相はまた、自立的民族経済の建設を社会主義の物質、技術的基礎を築き、社会主義、共産主義を成功裏に建設する唯一の正しい方途であるとみなした。

これについて、首相はつぎのように明らかにしている。

「……各国が経済建設と国防建設および人民生活の多様な需要、たえず増大する重工業ならびに軽工業製品、農業生産物にたいする需要を国内生産で円滑にまかなえるように多面的に発展し、最新技術で装備され、そしてみずからの民族幹部と自国の天然資源、原料、資材によって動く、総合的で自立的な民族経済を建設してこそ、確固とした社会主義の物質、技術的土台を築いたということができます」

首相は、社会主義を建設するためには必ず機械製作工業を中核とする威力ある重工業基地を創設し、それにもとづいて軽工業、農業、運輸など、人民経済のすべての部門を現代的技術で装備することによって、社会主義法則の要求にしたがい、勤労者の福利を全面的に増進できる力強い社会主義の物質、技術的基礎を築きあげなければならないとのべた。

そして、こうした社会主義の物質、技術的基礎は、それぞれの民族国家単位で築かなければならないと教えた。

なぜならば、全世界で共産主義が勝利し、国家がなくなるまでは民族的差異がのこり、それぞれの社会主義国家

が完全な独立国家として強化発展する以上、社会主義、共産主義も民族国家単位で建設されるからである。

首相は、それぞれの民族国家の範囲で総合的かつ自立的な経済基礎を築いてこそ、国の資源を最大限に利用することができ、人民経済のすべての部門における正しいバランスを主動的に保ちながら、高い生産速度を保障することができるとのべた。

また、こうしてこそ、科学技術と文化をすみやかに発展させ、勤労者の技術文化水準をたえず高め、かれらを全面的に発展した新しい型の人間に育成し、国際分業をも効果的におこなうことができるとみなした。

首相は、民族国家単位で自立的かつ総合的な経済を発展させるということが、決して国際的な経済的連係を拒んだり、その国に必要なものをすべて自国で生産するということを意味するものではないとのべた。

それぞれの国がおかれている自然、経済的条件が異なり、それぞれの段階で各国の生産力の発展水準と科学技術の発展水準が異なり、生産される原料と製品の品種と量もちがう条件のもとで、それぞれの国は基本的なもの、多く要求されるものは自国で生産し、少ししか要求されないか、自国で生産できないものは有無相通ずる原則のもとに、貿易をつうじて解決しなければならないという立場を守った。

それゆえ金日成首相は、自力更生をおしすすめて自立的経済を建設するということは、国際分業に反対することではなく、またそれとなんら矛盾するものでもないばかりか、かえって国際分業にいっそう効果的に参加できるようにするものであると教えた。

首相はつぎのようにのべている。

「……社会主義的な国際分業は、それに参加する国ぐにの自立的で総合的な経済発展のための有利な条件となります。こうした国際分業もやはり、各自が相応の能力と成果をもって参加してこそりっぱなのであって、なにもっていなかったり、粗末なもので他国のいいものばかりをもとめるのは分業ではなく、物乞いをすることなのであ

ります。また、自分にいいものがあれば、いつどこへいっても必要なものと交換することができます」
このことと関連して首相は、朝鮮がなにをもって、どのように外国と貿易をすべきかについて、そのつど具体的な方向をしめした。
首相はとくに、国自体の機械製作工業を発展させず、地下資源が豊富だからといってそればかりを掘りだしていたのでは、人民生活に必要な製品を思いどおりに生産することができないばかりか、掘りだした鉱石をそっくりそのまま外国に輸出するほかはないということ、また、鉱石を掘り、そのまま外国に売ることばかりしていれば、結局、朝鮮にはほら穴しかのこらなくなり、われわれは子孫に大きな罪をおかすことになるであろうということを、深刻に語った。
したがって北半部では、すでに準備されている自立的民族経済の基礎と、とくに機械製作工業を中核として築かれた強力な重工業基地にもとづき、みずからの原料と技術と労力によって現代的な機械設備を大量に生産し、輸出しなければならないと強調した。
首相は、こうすることがわれわれの民族的利益にかなうことであり、国際分業にも効果的に参加することであるとみなした。
金日成首相は、自立的民族経済の建設をたんに国際分業に効果的に参加するためだけのものとは考えなかった。首相は、自立的民族経済の建設は、一歩前進して社会主義陣営の経済的威力をたえず強めることになり、世界革命の発展を促進することになるとのべた。
社会主義陣営を強化するということは、結局社会主義陣営の団結を強めるとともに、それを構成する個々の社会主義国を強化することにある。したがって、社会主義陣営の経済的威力を強化するためには、個々の社会主義国の経済的威力を強めなければならない。これは、個々の社会主義国が総合的で自立的な経済単位として、自国の天然

資源と潜在的生産力を最大限に利用して、民族経済を自立的に、すみやかに発展させることによってのみ可能なのである。また、社会主義国が経済的に自立し、社会主義制度の優越性をしめしてこそ、帝国主義の政治、経済的隷属に反対し、民族独立と自主自立のためにたたかっている全世界の広はんな革命的人民のなかに社会主義の影響力を強めることができ、かれらの信念と闘志をふるいおこすことができるのである。

民族的差異がのこっており、国家が存在するかぎり、社会主義の物質、技術的基礎は、それぞれの民族国家を単位として築かなければならず、それは必ず機械製作工業を中核とする威力ある重工業基地にもとづく、総合的で自立的な民族経済とならなければならないという金日成首相の命題は、朝鮮だけでなく、世界のすべての国における社会主義、共産主義の偉業の勝利のために、まことに大きな理論的、実践的意義をもつものである。

とくに首相は、自立的民族経済の建設における民族間の不平等をなくすうえで、決定的な保障となるものをさししめした。

金日成首相はこうのべている。

「自立的民族経済の建設は、民族間の不平等の実際的な基礎となる経済的たちおくれをなくし、民族的繁栄をもたらし、社会主義、共産主義社会をりっぱに建設する基本的な保障でもあります」

金日成首相のこの命題は、民族問題の終局的な解決のための根本原則と、そのもっとも早くて正しい道を明示している。

首相は、社会主義、共産主義を建設するには、階級的な差異とともに民族的な不平等もなくさなければならないが、こうした不平等は、それぞれの国で社会主義革命が勝利すると同時にすぐになくなったり、いろいろなかたちでおこなわれる民族の統合によってなくなるものではなく、高度に発展した自立的な民族経済を建設してはじめてなくなるものだとのべながら、こう教えている。

「資本主義時代は、階級的搾取とともに民族的抑圧が支配する時代であり、ごく少数の民族によって大多数の民族の自由な発展がおさえられ、民族的な不平等が存在する時代であります。したがって、資本主義的搾取と抑圧から解放された民族は、みずからを勤労的な社会主義的民族にかえていくばかりでなく、みずからの最大限の自由な発展と全面的な開花を達成するためのきわめて発展した自立的民族経済を築かなければなりません。こうしてこそ、あらゆる民族的不平等をなくし、すべての民族が社会主義を成功裏に建設し、しだいに共産主義へと移ってゆくことができるのであります」

以上にのべたすべてのことは、金日成首相のしめした自立的民族経済建設路線こそ、社会主義、共産主義建設の合法則的な要求にかなう徹底した革命的路線であることを証明している。

金日成首相は、自立的民族経済の建設にかんする原則的な問題とともに、その貫徹のためのもっとも正しい近道をもはっきりとしめした。

首相は、自立的民族経済を建設するための重要な方法として、重工業を優先的に成長させながら軽工業と農業も同時に発展させるという独創的な経済建設の基本路線をしめしたのである。

金日成首相のしめした経済建設の基本路線は、自力更生の旗じるしのもとに、自立的民族経済の基礎をもっとも早い期間に築き、経済的自立と国防での自衛を実現し、国をいっそう富強にし、人民生活も画期的に高める創造的な路線であり、自立経済の基礎をおもに自力で築いてゆく自主的な路線である。ひとことでいって、経済建設の基本路線は、自立経済の土台をどのようにもっとも早い期間内に正しく築くべきか、ということをしめす基本方針となるものである。

金日成首相は、自立的民族経済建設の重要な方途とともに、北半部における革命と建設の経験を一般化し、第二次世界大戦後の世界経済発展のすう勢をマルクス・レーニン主義的に明快に分析し、それにもとづいて、それぞれ

の国の自立的民族経済の建設とともに世界の社会主義市場を確立し、いっそう発展させてゆく方針をしめした。

首相はつぎのように強調している。

「かりに、すべての社会主義国が経済的に、おたがいに有無相通じながら社会主義市場を強化発展させてゆくならば、社会主義諸国の民族経済の発展はいっそう促進され、新興独立国家の経済的自立のための条件はより有利にととのい、ひいては資本主義市場を不安定な状態におとしいれ、世界資本主義経済体系の全般的な危機をいっそう深めることができるでしょう」

金日成首相は、社会主義市場をいっそう発展させ、社会主義諸国間の経済的むすびつきを強めなければならないからといって、社会主義諸国が資本主義諸国と経済的な関係をむすんではならないということを意味するものではないといいながら、しかし、資本主義諸国との経済実務的な関係は、社会主義諸国の対外貿易においてあくまで第二次的な意義をもつものであって、それが対外経済関係の基本となってはならないといましめた。

そして、社会主義市場を発展させるうえで提起される原則的な問題について、つぎのように明らかにした。

「社会主義市場を強固にし、発展させるうえでもっとも重要なことは、兄弟諸国が帝国主義と植民地主義に反対し、社会主義と共産主義建設の共同の大業を勝利させるための政治的利益から出発し、経済的な相互関係においてプロレタリア国際主義の崇高な精神を発揮し、せまい民族的利己主義を徹底的になくすことであります。とくに、発展した社会主義諸国が帝国主義に反対し、社会主義をめざす経済的にたちおくれた国ぐににたいして、いかなる政治的付帯条件や私心もなく、より多くの物質的支援をあたえなければなりません。こうして、これらの国ぐにが帝国主義列強の経済封鎖をりっぱにしりぞけ、資本主義市場との取引を少なくし、社会主義市場にたよれる条件をととのえてやらなければなりません。われわれは他のすべての問題と同様に、対外貿易関係でも決して階級的な立場をはなれたりしてはならず、共産主義的道徳と同志的義理を忘れてはなりません」

これは、社会主義革命が勝利した国ぐにでの自立的民族経済の建設と対外貿易の相互関係、帝国主義と植民地主義に反対する国ぐにの相互の経済的協調の形態、社会主義、共産主義の共同の大業の勝利のためにたたかう社会主義諸国間の相互の経済的連係の原則とその強化の方途にかんする首相の独創的な革命的学説である。

この学説は、社会主義陣営が形成され、アジア、アフリカ、ラテンアメリカの多くの国ぐにが帝国主義植民地のくびきから脱出し、政治、経済的自立の道にはいった二十世紀後半期の情勢を正確に反映したものであり、マルクス・レーニン主義経済学説に新しい境地を切りひらいたものである。

じつに、自立的民族経済の建設にかんする金日成首相の深奥な理論的解明は、マルクス・レーニン主義理論発展にいま一つの不滅の金字塔をうちたて、労働者階級の神聖な世界史的使命を果たすうえで力強いたたかいの武器をあたえたのである。

自力更生の原則にもとづいた自立的民族経済を建設することにかんする金日成首相の思想は、首相を国際共産主義運動と労働運動の卓越した指導者として、自分たちの前途を照らす輝かしい灯台としてあおぐアジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国と世界の広はんな人民のなかで、全面的な支持と共感をよびおこしている。

ブルンジ共和国のある人士は、自力更生と自立的民族経済の建設にかんする金日成首相の偉大な思想と北半部で達成された成果と経験は、「経済的独立の実現のために、いまもたたかっている各国の人民にとってすばらしい教科書」となるとのべた。

金日成首相が高くかかげた自力更生の革命精神と自立的民族経済建設の路線は、経済的独立のためにたたかうすべての国ぐにの人民があくまで堅持すべきもっとも革命的な思想であり、路線である。

金日成首相はつぎのように教えている。

「政治的独立の達成は民族解放革命の終局的勝利のための第一歩にすぎません。独立をなしとげた人民のまえに

は、外来帝国主義者と国内反動勢力の破壊活動に反対し、民族解放の大業を最後まで完遂する課題が提起されています。そのためには帝国主義の植民地支配機構をうちくだき、帝国主義および国内反動の経済的地盤を奪い、革命勢力を強化して進歩的な社会政治制度をうちたて、自立的民族経済と民族文化を建設しなければなりません。こうすることによってのみ、新興独立国家の人民は植民地支配によってゆずられた世紀的なたちおくれと貧困をなくし、強力でゆたかな自主独立国家を建設することができるのであります」

こんにち、多くの新興独立国家の人民は、自立更生の原則にもとづいて自立的民族経済を建設することにかんする金日成首相の偉大な思想と、北半部でなしとげた自立的民族経済建設の大きな成果に非常にはげまされており、自力更生の旗じるしのもとに、ゆるぎない信念をもって新旧の植民地主義に反対しながら、国の経済的自立を達成するためのたたかいを力強くくりひろげている。

このように、金日成首相のかかげた自力更生の旗じるしは、千里馬朝鮮の旗じるしであり、世界の革命的人民の闘争の旗じるしであり、勝利の道を照らす烽火となっているのである。

2　自立経済の模範

金日成首相は、理論の面ばかりでなく、実践的にも、自立的民族経済の模範を創造した偉大な最初の実践家であった。

かつて経済的に非常にたちおくれていた朝鮮で、それも戦争によってふたたび復旧過程をへなければならず、また祖国が分裂しているため国の資源を統一的に利用できないばかりか、アメリカ帝国主義侵略者の南朝鮮占領によってもたらされる軍事的負担などの諸条件のもとで、自立的民族経済を建設するということはきわめて困難なこと

であった。

それはじつに、幾重にもかさなる難関と試練のけわしい山々をこえねばならないきびしい道程であり、自力更生の旗じるしのもとに、すべてを新しく築かなければならない巨大な創造の道程でもあった。

洗練された党と英雄的な人民をもつなど有利な条件もあったが、その困難さはたとえようもないものであった。

しかし金日成首相は、科学的な方針と非凡な革命的展開力をもって党と人民を導き、もっとも近い道すじをへて自立的民族経済を建設した。

首相は、すでに戦後のあの困難な時期に、重工業を優先的に発展させながら軽工業と農業を同時に発展させる独創的な路線をしめし、最短期間内に自立的民族経済の土台を築く道を切りひらいた。

そして、技術的改革の初期の段階においてすでに民族経済の自立的土台を築き、人民経済のすべての部門を現代的技術で装備できる物質的および技術的条件の準備を中心的な課題として提起した。こうして首相は、重工業の優先的な成長にもとづいて工業生産を全般的に急速に発展させたばかりでなく、工業の植民地的跛行性を一掃し、たちおくれた技術的装備を根本的に改善したのであった。

首相は工業のなかでも、重工業の建設を第一義的なものとして重視した。

首相は、「……重工業は国の政治、経済的独立の物質的基礎であり、これなしには自立的民族経済について語ることはできないし、国防力を強化することもできない」と強調し、国内のゆたかな天然資源をもとに、人民経済の発展に必要な資材、原料、動力および機械設備を基本的に国内で生産、保障できるみずからの重工業基地を創設する課題を提起した。これがすなわち自立的で現代的な重工業を創設する路線であった。

金日成首相は、この路線をつらぬくためには、まだ復旧していない企業所を完全に復旧し、既存の企業所を完備し、改善、拡張するとともに、新しい工業部門と企業所を新設しなければならないと教えた。

そして、重工業の優先的発展をしっかりと保障しながらも、重工業のための重工業ではなく、軽工業と農業を同時に発展させ、人民生活の向上にもっとも役にたつ効果的な重工業を建設しなければならないとのべた。

金日成首相が明らかにした自立的重工業の創設方針は、短期間内に比較的少ない資金で強力な重工業基地を建設し、これを土台として軽工業と農業を急速に発展させることのできるもっとも正確なものであった。

金日成首相は、自立的重工業を創設するために、文字どおり不眠不休の努力をかたむけた。

とくに首相は、強力な機械製作工業を建設することにもっとも大きな力をそそいだ。首相は、「機械工業は工業の王」であると指摘し、つぎのようにのべた。

「われわれが国の工業化の基礎を確立し、自立的経済土台を築くためには、工業における植民地的跛行性をなくさなければならず、植民地的跛行性をなくすためには、まず機械工業を発展させなければなりません」

機械製作工業を工業の心臓部とみなした金日成首相は、「はげしい戦争の砲火のなかですでに機械製作工業の土台を築く」ことに着手し、これに力をそそいだ。強力な機械工業の母体である熙川（ヒチョン）工作機械工場が発足したのも、まさにこのときである。

一九五一年十月、首相は熙川工作機械工場に派遣される支配人に、工場の敷地をしるした一枚の図面を手わたしながらこういった。

「われわれはこんどの戦争の過程で、みずからの確固とした機械製作工業がなければならないことを骨身にしみて体験した。

われわれが今後、わが国の革命を自力でなしとげるためには、戦時という困難な状況ではあるが、いまからでも機械製作工業の基地を創設しなければならない。

こうしてこそ戦争に勝利したのち、破壊された人民経済をすみやかに復旧し、わが国を工業国家に発展させる

ことができるのである」

このように首相は、戦時中からすでに千里の慧眼で、戦後の復旧建設と社会主義建設の遠い先を見とおしていたのである。

そのころに首相が設置した工場は、その後すべて自立経済のたのもしいいしずえとなり、柱となった。

金日成首相は機械製作工業を強力におしすすめ、その威力をしめすことによって、「国際分業」をうんぬんしながら重工業の建設方針、とくに機械工業の創設に反対する連中にたいし、決定的な反撃をくわえた。

首相は、戦争の砲火のなかで生まれた熙川工作機械工場を機械工業の「母親工場」として育てる決心をした。そして、むかしはけものしか住まなかったという狼林（ランリム）山脈のけわしい山中に建てられたこの工場をなんどもおとずれた。

一九五四年四月、首相は、設計図もなしに複雑な工作機械をはじめてつくることになったこの工場の労働者たちをたずね、つぎのようなことばでかれらをはげましました。

「……どんなに複雑な機械であろうと、それは人間の手でつくられるものであって、神秘的なものではない。大工がかんなで木をけずるのも、旋盤工が機械で鉄をけずるのも理屈は同じである。……」

つまり機械製作技術を神秘的なものと考えず、腹をきめてとりかかればできないことはないという意味であった。

首相の教えにはげまされた熙川の労働者たちは、首相が帰った日から数えて十九日目に、高性能の施盤をつくりあげ、その後は国際的にも名高い「熙川三号」旋盤と自動工作機械をはじめ、多くの高性能工作機械をつくりだした。こうしてかれらは、自力更生の革命的気概を発揮して工場自体の設備を強化し、一方では全国各地に多くの機械をおくりだした。

この工場は国の機械工業基地を強化して、ほかの工場が自動車、トラクター、パワーシャベル、大型プレスなどの現代的な機械設備を生産するうえで大きな寄与をなした。熙川機械工場は首相の考えどおり、「母親工場」として大きな力を発揮したのであった。

農業の協同化が完成し、多くの工場がつぎつぎに建てられた一九五八年にいたり、機械にたいする人民経済の需要は急激に増大した。こうした需要は、これを解決するための画期的な措置を待ちのぞんだ。

首相は、この環を解くカギは全人民的な運動で機械製作工業を発展させることにあるとみた。そして一九五八年九月に党中央委員会の『赤い手紙』をおくって、すべての党員と勤労者がこの運動に積極的に参加するようよびかけ、みずからも直接人民のなかにはいっていった。

一九五九年三月、咸鏡北道(ハムギョン)の党組織を現地で指導していた金日成首相は、規模の小さな朱乙(チュウル)亜麻工場をおとずれた。

首相は工務動力職場にはいったとき、ある工作機械のまえで足をとめ、こまかくそれを観察していたが、この工場の労働者からそれを自力でつくったということをきくと、非常によろこんでその成果をたたえた。

このとき、一人の労働者が単能旋盤も一台自力でつくったことを報告した。これをきいた首相は、「どれ、どれ、見せてください」とうながした。

旋盤のまえに案内された首相は、腰をかがめて機械の動きを注意深く観察した。機械はボルトなどがけずれる程度のもので、かたちも決してりっぱなものとはいえず、労働者たちはひどく恐縮しているようであった。しかし、金日成首相は、高性能機械でも見るように慎重に手にとって見てから、満足そうに微笑をうかべてこういった。

「朱乙亜麻工場の労働者たちは勇気があります」

このとき、となりにたっていた労働者が、いま万能旋盤を製作中です、と話した。機械工場、それも小さな亜麻

工場で、万能旋盤をつくっているとは！

金日成首相は非常によろこんで、すぐにその現場に足を向けた。だが案内にたった労働者たちは少なからずとまどった。というのは、首相を案内していく場所が家庭用の石炭倉庫のようなみすぼらしい臨時の建物であり、入口のかもいが低いため、背の高い人などは出入りするにも不便なところであったからである。

しかし首相は、労働者たちに肩身のせまい思いをさせまいと、みすぼらしい建物にはわざと気がつかないようなふりをして、腰をかがめてなかにはいり、「こんなりっぱな旋盤までつくっているんですか！」と感嘆しながら、機械を注意深くしらべた。

首相は、この旋盤を労働者たちが自力でつくっているため、設計図もなしに完成しなければならなかったということ、必要な資材は古いものをひろい集めてつかい、組立ては機械修理工がうけもっているということ、年内に五十台の万能旋盤をつくる決議をしたことなど、かれらの話に耳をかたむけながら、なにか深い考えにふけっていたが、やがて幹部たちにこう語った。

「……この工場には貴重なものがたくさんある。他の機械工場の人びとをここによこし、講習をうけさせるようにしなさい。この工場の労働者は勇敢で大胆である！　この工場は党の政策に立脚して機械にたいする神秘主義を完全にうちくだいてしまった！……」

金日成首相は、この工場の労働者が自力で製作した溶銑炉をもくわしく見てまわったあと、つぎのように語った。

「……溶銑炉を自力でつくって溶鉄をひきだし、三台の古い機械をつかって自力で新しい工作機械を生みだしたのは、勇敢で大胆なことだ。

この工場は、まるで重工業の工場のようである。

この工場は党の赤い手紙を高くかかげ、技術にたいする神秘主義とたたかって勝利した工場の一つである。まさにこの工場こそが、機械は工業の王であるという党のスローガンをかかげるだけの資格がある。この工場の模範にならって、工作機械子生み運動をくりひろげなければならない。……」

金日成首相はこうして、小さな一亜麻工場労働者の大胆な考えと実践から、全国にみなぎる機械生産の無限の潜在力と可能性を見とおした。そして首相は、この新しい芽を一点の火種として、全国いたるところで「工作機械子生み運動」の炎を燃えあがらせることをよびかけた。

これは、いつも現実の生活のなかから未来につながる新しいものを創造、育成し、一点を突破して全国を見とおす慧眼をそなえた金日成首相の偉大な発見であった。

こうして、「工作機械子生み運動」はたちまち全国をあおり、現代的な機械技術の要塞を占領する偉大なたたかいとしてくりひろげられていった。

首相は、大型の精密工作機械にたいする人民経済の要求をも同時に解決するため、咸興、龍城機械工場をたずねた。

機械工業の先頭にたつべきこの工場は、その当時まだ、その役割を十分に果たしてはいなかった。大型、中型の機械を製作するためには五〜六メートルのターニング盤を必要としたが、この工場には三メートル・ターニング盤しかなかった。三メートル・ターニング盤のまえにたった首相は、支配人と労働者たちに語りかけた。

「……思いきって、われわれの手で七〜八メートル・ターニング盤をつくってみましょう……」、「さいきん朱乙亜麻工場にいってみましたが、そこでは古ぼけた旋盤で新しい工作機械をつくっていました。それほどむずかしくはありません。革命をおこなうには大胆でなければなりません。

どうです？　支配人同志。この工場でもやってみませんか？」

労働者たちは口をそろえて「やってみます、首相同志」と決意をのべた。その後、かれらは集団の力と大胆さを発揮して、五か月あまりのあいだに八メートル・ターニング盤をりっぱにつくりあげた。

金日成首相はさらに三千トンプレスの製作を発起し、龍城の労働者たちをその製作にたちあがらせた。こうしてかれらは一九六〇年七月、ついに「機械の王」といわれる三千トンプレスを世におくりだしたのである。

首相はこのように、龍城機械工場にたいして段階別にむずかしい任務をあたえ、はじめはみるかげもなかったこの工場を現代的な大型および中型機械生産工場へと発展させた。

首相の偉大なよびかけは、偉大な結実をもたらした。

金日成首相が「工作機械子生み運動」を発起した一年後には、計画にくまれていなかった一万三千余台の工作機械が全国の各工場で新しくつくりだされた。

十年まえに、古い機械三台だけで出発した朱乙亜麻工場は、首相の現地指導以後、すでに二百四十余台の工作機械を自力で生みだしていた。

「工作機械子生み運動」の炎のなかで、わずか一、二台の工作機械が子を生んで職場となり、職場はさらに工場となり、工場はまた新しい工場を生みだしていった。全国をくまなくおおった機械工場は、こうして誕生したのである。

こうして、すでに一九六〇年には、工業総生産額のなかで機械製作工業の占める割合は二一・三パーセント、機械設備の国内自給率は九〇・六パーセントに達し、各種の機械が多くの国々にひろく輸出された。

金日成首相は機械製作工業とともに、製鉄工業をすみやかに発展させるために多くの力をそそいだ。首相の賢明な方針と指導により、金属製鉄工業の分野でも革新がまきおこった。かつて日本帝国主義支配の時代には、中間製品である銑鉄をわずかばかり生産していた製鉄工業は、こんにちでは現代的工業の発展に必要な幾百種の鋼材と圧

延製品の需要を完全に充足させて、なおあまりあるほどになったのである。
こうして加工工業が発展するにともなって、採取工業をそれに追いつかせる課題が提起された。
金日成首相は、採取工業を先行させることは工業生産を正常化し、国の経済全般を発展させる基本的な裏付けであると教えながら、地質探査を先行させ、技術革命と科学研究事業を積極的におしすすめるなど、三つの原則を堅持する方針をうちだし、この問題をりっぱに解決した。
数多い鉱山のうちの一つである甲山(カプサン)鉱山発展の歴史は、金日成首相の深い配慮と直接的指導のもとに、この三つの原則がどのように具現され、その偉大な生命力がどうあらわされたかを雄弁に物語る実例の一つである。
首相は、この鉱山の探査活動をすでに戦争中から着手させていた。当時この部門の責任ある地位にあった分派分子らは、日本の技術者さえながいあいだ見つけだせなかった鉱脈が、われわれにさがしださせるわけがないといって反対した。しかし首相は、分派分子らの卑屈な事大主義的見解をしりぞけ、探査隊員を派遣するにあたってつぎのようにのべた。
「……蓋馬(ケマ)高原には、その地形からみて地下資源が深く埋蔵されている可能性がある。アメリカ帝国主義者と日本帝国主義者は、品位の高いものばかりをもとめて手当りしだい掘り荒したにすぎない。鉱脈がないものときめこまないで、一度開発してみるべきである。甲山鉱山にはもう鉱脈がつきたということをつぎの世代につたえ、かれらが無駄な努力をしないですむようにするためにも、それは必要なことである。……」
一九五八年五月、金日成首相はこの鉱山を直接おとずれた。戦争中すでに探査隊を派遣して具体的な探査の方向をしめしたが、探査活動はまだ積極的にすすめられていなかった。こうした実情を具体的にしらべた首相は、探査と鉱山開発をもっとはばひろくすすめるための課題を具体的に指導した。
仕事というものは、いったんはじめた以上、大胆に本格的におこなうことがたいせつである。首相の教えにした

がって探査区域がひろげられ、その結果、品位の高い鉱脈がつぎつぎに発見された。これにしたがい選鉱場も先をみこして拡張された。甲山鉱山は共和国北半部における屈指の大鉱山にかわっていった。

金日成首相の指導が直接ゆきとどいた鉱山は、ここばかりではなかった。

首相は、科学研究において主体を確立し、製鉄工業の燃料を自力で解決するために大きな力をそそいだ。

これまで世界の工業の歴史は、鉄はただコークスによってのみとかすことができると教えていた。

一時、共和国の一部の科学者たちもこれを信じて、コークス炭の産出をみないわが国では、鉄をとかすために外国からコークス炭を輸入する以外に方法がないと考えていた。

しかし、金日成首相はそれを否定した。

首相は、コークスがなければ鉄をつくることができないという科学者たちの考えは誤りであり、有害な考え方であると指摘し、主体的な立場で革命的にとりくんで研究するならば、自国の原料で十分に問題を解決することができると教えた。

首相は科学者たちに、コークスで鉄を生産する方法がひろまったのは、コークス炭を産出する国で先に産業革命がおこなわれたからであること、朝鮮では溶鉱炉もコークスもないむかしから鉄で釜をつくってご飯をたき、義兵たちは自力で鉄をとかして火縄銃と弾丸をつくり日本帝国主義とたたかったこと、もしわれわれに解放直後から外国のコークス炭を輸入する道がまったくとざされていたならば、どんな方法をもちいてでも自国の原料で鉄をとかしたであろうことなど、具体的な事実をあげながら説明した。そして、科学者、技術者たちが鉄をとかすことで神秘主義におちいらず、自力更生の革命精神をもってこの問題の解決のために努力するならば、朝鮮に豊富な無煙炭、褐炭、高熱炭などで現代的な製鉄工業を十分に発展させることができるとくりかえし強調した。

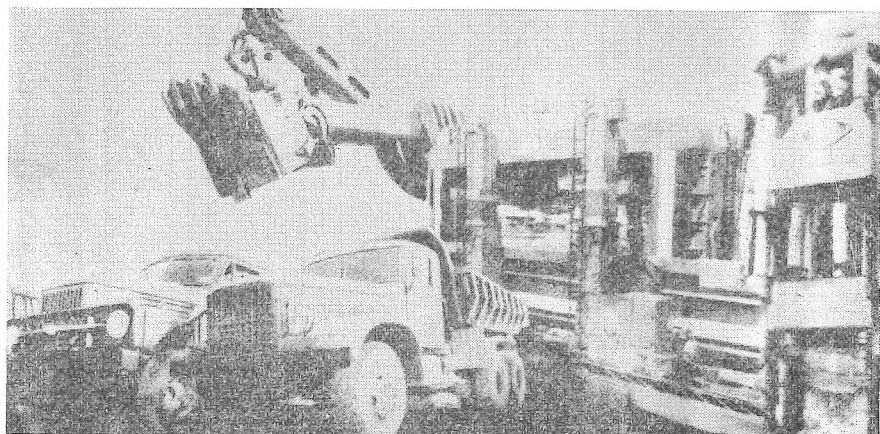
首相の教えに忠実な科学者と技術者たちは、精力的な研究をかさねた。その結果、コークス炭をつかわず、朝鮮

に無尽蔵にある無煙炭で鉄をとかす方法が発明され、生産に導入された。そして粒鉄連続製鋼法のように、わが国の原料によるまったく独創的な製鋼法が発明され、大きな展望が切りひらかれた。

金日成首相は、重工業の他の部門でもひきつづき質的な変革をもたらした。

とくに、主体的な立場で原料問題を解決することについての首相の教えを実践する過程で、化学工業の原料問題が解決され、化学工業自体も飛躍的な発展をとげるようになった。自国の原料による新しい有機化学工業が発展し、わが国に無尽蔵にある石灰石を原料とする塩化ビニールおよびビナロン生産の化学工業が新しく創設された。

こうして共和国北半部は、最新科学の先端をゆく、世界でも指おりの化学工業国にかわり、外国人も驚嘆してやまないように、「たんなる工業国ではなく重化学工業国」に発展したのである。

金日成首相がしめした主体思想と自力更生の革命精神、その大胆な構想と賢明な指導によって、共和国北半部は強力な機械工業国に、金属工業と電気工業、そして化学工業と建材

自立的民族経済が生んだ重工業の威力

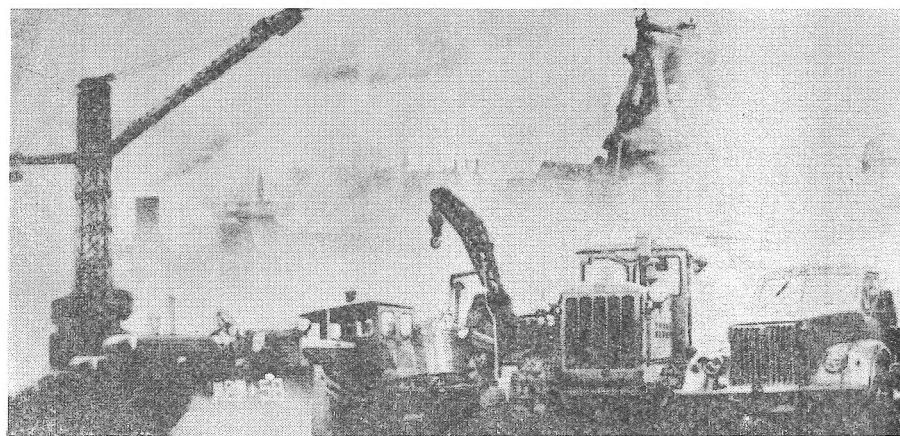
工業をはじめ、他の重工業の部門でも頭角をあらわす国となった。

強力な自立的重工業の創設をめざした首相の偉大な構想は、こうして輝かしい実をむすんだのである。

金日成首相は、人民生活に直接奉仕する軽工業の創設にも大きな力をそそいだ。

北半部における軽工業は、かつてもっともたちおくれた工業部門の一つであった。解放直後、日本帝国主義がのこしていった軽工業といえば、一、二の小さな紡績工場だけで、ほかはまったくとるにたらないものであった。そればかりか、日本帝国主義は朝鮮を商品市場にするために、数千年来つたわってきた手工業までもつぶしてしまった。

そのうえ、解放後、過渡期の初期に築いた軽工業まで戦争によって根こそぎ破壊されてしまった。

こうした条件のもとで、戦後、金日成首相は強力な重工業にもとづく現代的軽工業基地の創設を経済建設の基本路線の本質的な要求として提起し、それをつらぬくための創造的方法をさししめし、短期間内にゆるぎない軽工業基地を築きあげた。

金日成首相は、軽工業の骨幹となる大規模な中央工業工場を大々的に建設し、その技術装備をたえず改善して、質のよい各種の消費財を大量に生産することに大きな関心をはらった。

こうしてピョンヤン紡績工場をはじめ、現代的な紡績工場と大規模な食料品工場、製紙工場および日用品工場などが全国各地にぞくぞくと建設され、消費財生産はいちじるしく増大した。

しかし、社会主義建設の急速な発展によって生産が急激にふえ、それにつれて人民生活が向上すると、増大する勤労者の需要に消費財供給を追いつかせるための新しい任務が提起された。

しかし、国の経済事情から大規模な軽工業工場を一度に多く建設することはできなかった。またそれだけにたよっていては、軽工業の発展をうながし、急激に増大してゆく人民の需要を充足させることはとうてい不可能であった。消費財生産で革新をよびおこすためには、新しい決定的な対策が必要であった。

金日成首相は、中央の工業とともに中小規模の地方工業を大々的に発展させ、現代的な技術とともに手工業的な技術を利用するところに、問題解決のカギがあるとみた。

首相は全国各地にあるさまざまな原料を加工し、全国各地の勤労者の多様な需要を充足させ、地方の原料および資材と家庭婦人の遊休労働力などを合理的に動員するならば、より少ない国家資金で消費財を大々的に生産できると考えた。さらに、潜在力を十分動員するならば、国家資金をより多く重工業の発展にまわすことができるということも洞察していた。

首相の考えは、これにとどまるものではなかった。首相は地方産業を発展させてこそ、将来、都市と農村の差異を成功裏になくすことができるということをも見とおしていた。こうした観点から、首相は一九五八年六月、党中央委員会総会を招集した。この総会で首相は、すべてのエネルギーをことごとく動員し、全人民的運動として消費財生産を発展させること、その重要な方法としてそれぞれの市、郡に一つ以上の地方産業工場を大衆的な運動で建

設する方針をしめした。
　このように首相は、国の経済発展のさしせまった要求と新しい可能性および軽工業の特徴を科学的に分析し、国の軽工業基地を強化し、人民生活をすみやかに向上させうる正確な方途を教えた。
　首相のしめした方針にしたがって、全国の勤労者たちがたちあがった。地方に分散されたままうもれていた大きな潜在力が動員され、わずか数か月のあいだに国家資金もあまりつかわずに一千余の地方産業工場が建てられた。これは消費財生産において、大規模工場と中小規模の地方工場をともに発展させる賢明な方針の偉大な勝利であった。
　金日成首相は、各地の地方産業工場をたずねてはこまかく心をくばり、これを育成した。各郡ごとに平均して十個以上もある地方産業工場は、このようにして生まれ、成長したのである。
　こんにち、北半部には二千余の地方産業工場があり、その技術装備もきわめて高い。
　首相が構想をたて、それが党の路線として提起された中央工業と地方工業を並進させる路線は、その生命力をあますところなく発揮した。一九六〇年にはすでに、地方工業は工業生産高の三九パーセント、消費財生産高の五九パーセントを占めるにいたった。
　地方工業が大々的に発展した結果、国の生産力配置はいっそう合理的なものになり、国防力もいちだんと強化された。またはそれは、経済建設で地方の創意性と積極性をかぎりなく高め、地方の原料源泉をひろく動員、利用する道をひらき、多くの家庭婦人を地方産業工場にひきいれて勤労者の収入をふやし、女性の政治的、文化的水準を急速に高めた。
　この貴い経験は、世界の革命的人民の新しい社会建設をめざすたたかいにとっても、貴重な教訓となるものである。
　金日成首相は、この経験をつぎのように一般化した。

「われわれの経験によれば、軽工業部門では、その経済、技術的特性からみて、一般的に大規模工場と中小規模の工場を併行して発展させることが合理的である。とくに技術が比較的単純で規模の小さな地方工場を多く建設することは、たちおくれている国々で消費財生産を増大させ、工業全般をすみやかに発展させるうえで効果的な方法であることをしめしている。地方工業を建設することはまた、国内のすべての地方を一律に発展させ、とくに工業を農業に接近させ、都市と農村の差異をしだいになくしていくうえできわめて重要な意義をもっている」

共和国北半部では、中央工業と地方工業からなる強力な軽工業基地が築かれ、国内生産の消費商品で人民の生活を保障することができるようになった。織物生産だけをとってみても、一九六五年のはじめには解放前にくらべて一九五倍にふえ、人口一人当り二五メートルの各種織物を供給できるようになった。食品工業と日用品生産も急速に発展した。

このように中央工業および地方工業の二本足でしっかりとたっている北半部の軽工業は、みずからの力、自国の資源と技術によって建設されたものであり、現代的技術で装備された軽工業であり、どのような試練に直面しても、たとえ戦争になった場合でも微動だにしない確固とした軽工業となった。

金日成首相は自立的工業の創設とともに、農業を急速に発展させ、食糧と軽工業原料を自力で生産、供給することを自立的民族経済建設の重要な要求として提起した。それは、強力な工業体系は必ず発展した農業と密接にむすびついていなければならないと考えたからである。

金日成首相はつぎのように教えている。

「もし農業が工業の要求にこたえることができないならば、われわれは重工業を優先させながら軽工業を同時に発展させるという党の路線をつらぬくことはできません。

もしわれわれの畜産業が、肉、皮、羊毛などのような原料を供給することができないならば、軽工業で肉類を加

工することもできず、皮靴をつくることも、毛織物を生産することもできないでしょう。

農業で生産される原料や穀物についても同様です。もし穀物が十分供給されなければ、ぼう大な数の労働者、事務員とその家族に食糧をあたえることはできないでしょう」

金日成首相の構想による農業は、高い科学技術にもとづいて毎年豊作をもたらし、すべての農民が白米のご飯と肉料理をたべ、瓦ぶきの家で絹の服を着て暮らせるようにするだけでなく、国に食糧と工業原料を十分に供給できる高い水準の現代的農業なのであった。

いうまでもなく、たちおくれた農業国であったわが国で、このような農業を建設することは決して容易なことではなく、それは困難で苦しいたたかいを意味した。

しかし金日成首相は、この問題にたいしてすぐれた英知と非凡な展開力をもってあたり、その雄大な構想を絢爛たる絵巻物のようにくりひろげたのであった。

首相は戦後、社会経済発展の成熟した要求にしたがい、適切な時期に農業の社会主義的改造を独創的に実現し、農業生産力をかぎりなく発展させるひろびろとした大路をひらいた。それればかりでなく農村問題にかんする科学的な分析にもとづいて、社会主義農業の物質、技術的土台をしっかりと築いていく方途を全面的に明らかにした。

金日成首相はこうのべている。

「工業の発展程度と農村の具体的な実情にしたがって、なにを先におこない、なにをあとにするかのちがいはありうるが、社会主義農業の物質、技術的土台をしっかりと築くためには、必ず農村での技術革命の四つの基本的課題、すなわち水利化、機械化、電化、化学化を実施しなければならない」

これは、農村における技術革命の四つの基本的な構成部門の弁証法的相互関係を深く分析したうえでだされた結論であった。

首相は、機械化、電化のみに力をいれ、水利化、化学化をおろそかにするならば、農業の収穫高をたえず増大させることはできず、反対に、水利化、化学化のみに力をふりむけ、機械化、電化につとめないならば労働生産性を高めることができず、農民の力仕事を軽減することはできないと考えた。

金日成首相はまた、農業科学の成果と先進的な営農技術をひろく導入し、集約的な営農法をさらに発展させ、穀物生産を中心として工芸作物の栽培と畜産業、果樹業、蚕業など、農業のすべての部門を急速に発展させなければならないとのべた。

金日成首相が明らかにしたこれらすべての路線と政策は、自立的な農業建設の綱領であるばかりでなく、社会主義農業がすすむべき普遍的な道を照らす灯台であった。

首相は、過去の農業がたちおくれた技術によっていたことと、技術的改造に先だって経理形態の改造が実現されたという条件からみて、社会主義的農業を発展させるうえで、もっとも切実な問題となるのは農村における技術革命であると考えた。

首相は、農村での技術革命の旗じるしを高くかかげ、まず水利化を優先的におしすすめた。

首相は、すでに一九四六年の春、普通江(ポトン)改修工事の最初のシャベルをとって全国を水利化する大自然改造事業の偉大な構想をねり、戦後のあの困難な環境のなかでも水利化の雄大な設計図をしめしたのであった。

首相のこの雄大な設計図にしたがってすすめられた平南(ピョンナム)灌漑工事をはじめ、岐陽(ギヤン)、於之屯(オジトン)、青丹(チョンダン)、新渓(シンゲ)地区、鴨(アプ)緑(ロク)江地区などの大規模な灌漑工事の完成と、いたるところでつくられた中小灌漑施設によって、共和国北半部は文字どおり緻密な灌漑網でおおわれた「灌漑の国」となった。

首相のさししめす道にしたがって、戦後北半部人民が歯をくいしばり、困難なたたかいをつうじてつくった灌漑施設は、全世界の人民が羨望(せんぼう)してやまない自然改造の模範となり、その経験はりっぱな教科書として評価され、ひ

ろく普及している。

金日成首相は、農村の技術改造における困難な問題であった機械化も力強くおしすすめた。機械化は、たちおくれた農機具で、数千年来あらゆる苦役を強いられてきた農民を力仕事から解放する大きな革命闘争であった。

金日成首相は、農業の機械化を段階別に力強くおしすすめた。

首相は、農村機械化の最初の段階の方針をつぎのようにしめした。

「機械化の具体的な方針についていうならば、われわれはわが国の機械工業の発展水準がそれほど高くない事情を考慮して漸次すすめるつもりです。……われわれは動力機械と畜力機械をくみあわせ、現代的機械化とともに半機械化を併行させ、平野地帯からはじめて、しだいに山間地帯へ機械化を拡大していかなければなりません」

この方針にしたがって、最初には水利化がひろくおこなわれて収穫がもっとも多かった平安南道、黄海南道の平野地帯では現代的な農機械を導入し、農業における機械化の優越性と有利さとを実証していった。これは全国の農業を機械化するための模範でもあった。

その後、機械工業がトラクターや自動車を本格的に生産するようになったとき、首相は農業の機械化を全面的な実施段階へと導いた。

こうして山間僻地にいたるまでトラクターやトラックはもちろん、地形と耕種体系の特殊性を考慮して創案、製作された現代的農機械がつぎつぎと導入されていった。

共和国北半部ではすでに一九六四年、耕地百町歩当り一台(平野地帯では二台)のトラクターがわりあてられた。農業に導入された現代的な農機械は起耕、運搬、地ならし、種蒔き、撒水、草とりなど、二十余種にわたって農民の力作業を軽減した。

金日成首相の偉大で賢明な方針にもとづいて、農村の電化もきわめて早く実現した。白頭山麓（ペクトウ）の僻地や奥地にも、西海（ソヘ）のさびしい農漁村にも電気がはいり、脱穀、揚水、飼料づくりなどが動力でできるようになった。また、すべての農家が首相がのぞんでいたとおりに、都市生活とかわりなくラジオをはじめ各種の電気用品がひろく利用されるようになった。

金日成首相の綿密で科学的な指導のもとに、化学化の高地も占領された。農地と作物に適した化学肥料の町歩当り施肥量は世界的水準に達し、「二・四D」、「P・C・P」など多種多様な除草剤と植物生成促進剤が本格的に生産、供給された。

金日成首相はこのように、農村の具体的な実情と工業の発展程度にそくして農村における技術革命の四つの基本任務―水利化、機械化、電化、化学化をすすめ、農業科学の成果と先進的農業技術をひろく導入して集約的な営農方法を実施させていった。

首相は、山地が多く耕作面積が少ないうえに地味のとぼしい地方として知られていた北半部の農業条件のもとで、少ない土地で多くの収穫をあげるためには、先進的な集約営農法をひろくとりいれなければならないと教えた。

首相はつぎのようにのべている。

「農業の集約化、これは営農におけるわが党の基本方針である。現代的な科学技術にもとづく集約農法はもっともすすんだ営農方法であり、それは農業における多収穫の基本となる」

首相のこの方針にしたがって、すべての農村では、農作物の単位当りの収穫高を画期的にひきあげるための土地整理と改良作業が活発にくりひろげられ、可能なあらゆるところで二毛作体系がひろくとりいれられ、間作、混作などもひろくおこなわれた。また育種事業が改善され、種子がたえず改良され、自給肥料の施肥量が急激にふえ、すべての農作業が毎年適時に、しかも質的に高い水準ですすめられ、田畑の手入れも十分におこなわれた。

こうした成果にもとづいて、以前は多くの場合、天候に左右されていた農業が、社会主義経済の発展法則にしっかりと立脚した、計画的に発展する農業にかわった。
金日成首相は、農村にたいする指導の水準を、機械で農業をおこない、農薬で雑草をとるという新しい要求水準に高めた。首相は科学的営農方法と農業の総合的機械化、化学化などの問題を直接農民のなかにはいって解説し、新しい模範的な芽を積極的に育成していった。
一九五九年九月、金日成首相は平安南道文徳郡立石協同農場をたずね、試験田からはじまって協同農場内をすみずみまで見てまわった。そして技術学校をでたばかりの十九歳の断髪の女性農産技手に会った。
首相は、地方の特性に適した農業について語るときには経験の多い年寄りとひざをまじえたが、先進的な営農方法をとりいれる問題については、こうして新しいものに敏感な青年たちと語りあうのがつねであった。首相はまだ若いその農産技手に、科学的営農方法を導入する必要性とその方法についてくわしく教えた。
首相が帰ったのち、断髪の少女はその教えをつらぬく一念に燃え、青春の情熱を科学的営農方法の導入にうちこんだ。そのかいがあって試験田は例年にない大豊作をむかえた。新しい芽を育てようとする首相は、つぎの年にも忘れずにこの農場をおとずれ、その若い女性農産技手にいっそう新しい科学的営農方法を教えた。
首相の教えは一人この農産技手だけでなく、この地方のすべての農民を大きくはげました。以前には、学問や科学を知らなくても百姓仕事にはさしつかえないときめこんでいた農民たちも、いまでは勉強をしなければ多収穫をあげることができないということをさとった。農場の人びとは営農知識の習得と協同農場員としての資質を高めるために努力するようになり、働きながら学ぶ教育体系にしたがって技師、技手の隊列も日ましにふえていった。
朝からぼたん雪のふりしきる一九六一年十二月のある日にも、首相は、農業をいちだんと高い水準にひきあげるため、この農場にいま一度足をはこんだ。

敬愛する首相と席をともにした農場員たちのよろこびは、このうえないものであった。首相は田畑の管理工であった若い例の女性作業班長と再会し、しばらくのまに見ちがえるほど大きくなったものだ、とたのもし気にながめ、もう二十一になったからお嫁にもいかなければならないといって、そこにいあわせた農民たちを笑わせた。首相は、こうした家族的雰囲気のなかで農民たちとの話し合いをはじめた。農場員たちは、あたたかでかざり気のない首相のことばにひきこまれ、思っていることをわだかまりなく話した。

首相は女性作業班長に、農場員たちがもっとも骨の折れる作業はなにかとたずね、収穫高をふやし、農民を苦しい労働から解放するためには種まきから、草とり、とりいれ、脱穀、秋耕にいたるまで、農作業の総合的な機械化を実現しなければならないと、一つ一つ手にとるように教えた。

首相の教えにしたがって、農場では総合的な機械化をめざすたたかいがくりひろげられた。トラクターやトラックの運転手の数が急速にふえていった。青年たちはまるで牛を追うように、現代的な農機械をあやつるようになった。機械化作業の範囲も大きくひろげられた。その結果、仕事がまえにくらべて楽になったばかりか、収穫も大きくふえた。

このように、首相が直接農民たちを導きながら創造した科学的営農方法と総合的機械化は、たちまちのうちに全国に一般化された。穀物の収穫高も大きくのびた。

穀物生産ばかりでなく、工芸油脂作物も豊作で、畜産と果樹業もいちじるしく発展した。

畜産問題の解決は、穀物問題におとらず困難であった。もともと畜産の土台が弱かったうえに飼料問題がまだ解決されていなかった。それに農民たちは家畜を飼うことになれていなかったし、飼育経験にもとぼしかった。

金日成首相は、国内の自然経済的条件にそくして畜産業を発展させる正確な方針を明らかにした。首相は牛、羊、兎など、草食家畜と豚の飼育をひきつづき拡大させながら家禽業を大々的に発展させ、国営畜産業と協同農場

の共同畜産を基本とし、これに機関、企業所および個人の副業畜産をくみあわせ、畜産業を専門化、集約化、現代化、衛生化することを強調した。

畜産業発展の基本的なカギである飼料問題を解決するために、山地では山を利用し、田畑の多いところでは二毛作をひろくおこなうべきであると教えた。

首相は、肉類と卵を大量に生産して人民の食卓をかざるため、畜産業にかんする専門的な技術問題にまで細心の注意をはらった。首相は品種改良、優良品種の選択、先進的な飼養管理方法の導入、配合飼料の供給、飼料作物の栽培、山地の利用方法、畜産業の機械化など、多くの問題について深く研究し、いたるところで具体的な指導をおこなった。

首相の教えをつらぬいていく過程で、家畜飼養管理における神秘主義がうちくだかれ、ゆたかで新しい経験がつまれていった。

果樹業の発展でも大きな変化がおこった。全国土を美しい果樹園でおおいつくそうという首相の構想はりっぱに実現した。

農業の発展のためにかたむけられた金日成首相の苦心と努力は、そのすべてをおしはかることができない。

首相は自宅の庭園に試験田をつくり、国内外の新しい品種を入手してはみずからそれを育てたほどであった。こうして首相自身が試験的に育成し、普及させた新しい品種は十指にあまるほどである。

こんなこともあった。黄海南道の延安（ヨンアン）郡を現地指導していた首相は、二毛作粟に強い関心をしめした。小麦、大麦を取り入れたあとの畑にうえられた粟なので二毛作粟とよんでいたのだが、これを普及させれば畑からも穀物の収穫高をいちじるしく高めることができると考えたからであった。

首相はその種子をもちかえり、自宅の庭で畝のはばをそれぞれ十五、四十、六十センチにして試験的に栽培して

みた。その結果、黄海南道でやっていた十五センチはばの畝よりも、四十センチはばの畝の方がはるかにすぐれていることがわかり、首相はこの方法を普及させていった。
首相の庭園にみられるさまざまな植物と果樹、草花は、決して観賞のためのものではなかった。
それは人民のために、どうすればもっと質のよい穀物、果物、肉類を多く生産できるかを研究している首相の試験農場でもあったのである。
春には百花が咲きみだれ、秋ともなれば黄金の波うつ田畑に果実たわわにみのり、家畜の群のどかに草をはむ共和国北半部の農村――、それはまさしく人びとを夢の境地にさそう桃源境ともいえよう。瀟洒な文化住宅の屋並が自然の風景に調和して、その美しさをひときわひきたたせている。これがわずか数年のあいだに建設された共和国北半部の農村の姿である。
このように共和国北半部では、重工業、軽工業、農業など、人民経済のすべての部門が総合的に発展し、経済の自立的土台がしっかりと築かれた。
首相のよびかけにこたえてたちあがった人民が、歯をくいしばり、節約に節約をかさねて建設した自立経済はいかに威力があり、またなんと貴いことか。
このように発展した強力な自立経済をもっているがゆえに、朝鮮人民は、決意さえすればどのようなものでも創造できる人民となり、かつて暗中模索と空想にあけくれていた人民から、理想をこの地上に実現することのできる名手として、大胆な実践と闘争を特技とするほまれ高い人民して生まれかわったのである。
自立経済――、これがあるからこそ朝鮮人民の才能と文明はますます花ひらき、強い心と高い自負心をもって世界史の舞台に登場し、もっとも暴虐な敵をもこれを見くだすことができるようになったのである。
朝鮮の自立経済は、偉大な領袖金日成首相の賢明な指導のもとに、鋼鉄のようにきたえられた朝鮮人民の手にに

ぎられた万能の武器でもある。

朝鮮を訪問したオーストラリアの海運労働組合連邦書記はこう語っている。

「わたしは、朝鮮人民が自分の国にたいして、金日成首相と党にたいして、自分自身にたいして、大きな民族的誇りをいだいていることを知った。……国を守る防衛力を築くと同時に軍隊に必要な装備を供給し、住民のための消費財を保障することのできる重工業と軽工業を建設するということは、じつに力にあまる負担にならざるをえない。これは世界のいずれの国の人民にとっても背負いきれない負担である。

この困難な課題をりっぱにやりとげている朝鮮の人民の精神は、まさしく金剛山の巌にもたとえるべきものだと深く感じた」

共和国北半部をおとずれた諸外国の友人たちは例外なく、この偉大な成果を「自立経済の模範」と率直によび、その経験から自分の国の輝かしい未来を描いている。

アフリカのある政治活動家は、「じつに三十六年間の植民地支配下における貧しい生活と三年間にわたる帝国主義侵略によるはかり知れない破壊にもめげず、あらゆる難関をのりこえた革命的な北朝鮮の人民は、自分たちの前衛部隊である党の指導のもとに自力更生し、こんにち高度に工業化された、現代科学と技術のもっとも先進的な方法をとりいれることのできる国を建設した。これは経済発展と建設のためにたたかっているアジア、アフリカのすべての新興独立国家にとって大きなはげましとなり、模範となっている」とのべた。

一九六四年、アジア経済討論会に参加したネパール代表国の団長はつぎのようにいった。

「愛国的な朝鮮人民はまた、発展途上にある諸国に、自立的民族経済の建設にあたって守るべき自力更生の模範をしめしている。……朝鮮はその模範によって、かれらをはげましており、先頭にたってすすんでいる」

偉大な領袖金日成首相の指導、その賢明な指導にしたがってしっかりと築きあげられた自立的民族経済の土台、

ここには朝鮮人民のたとえようのない誇りと浪漫的な希望がある。

3　天地開闢

歳月をたぐりよせながらはばたく千里馬大進軍のもとで、共和国北半部は自立的民族経済の国になったばかりでなく、凶作を知らず五穀百果がたわわにみのる楽園にかわった。

金日成首相は、このような変革についてつぎのようにのべている。

「われわれは戦後わずか数年のあいだに、日本帝国主義者が三十六年間におこなったものより五倍も多い面積に水をひく灌漑工事をおこない、全国的に治山治水事業をひろくすすめました。数千年にわたって自然災害に苦しんできたわが農民は、われわれの時代になってはじめて、干ばつと水害を知らない農土をもつことができました。……個人経営のせまいわくのなかで、たちおくれた農機具をもって農業をおこなってきたわが農民たちは、大規模な集団経営の主人となり、楽に仕事をしながらも毎年豊作をもたらすしっかりとした技術的土台をもつことができるようになりました。これは、農民たちのことばどおり、わが農村における『天地開闢（てんちかいびゃく）』であります」

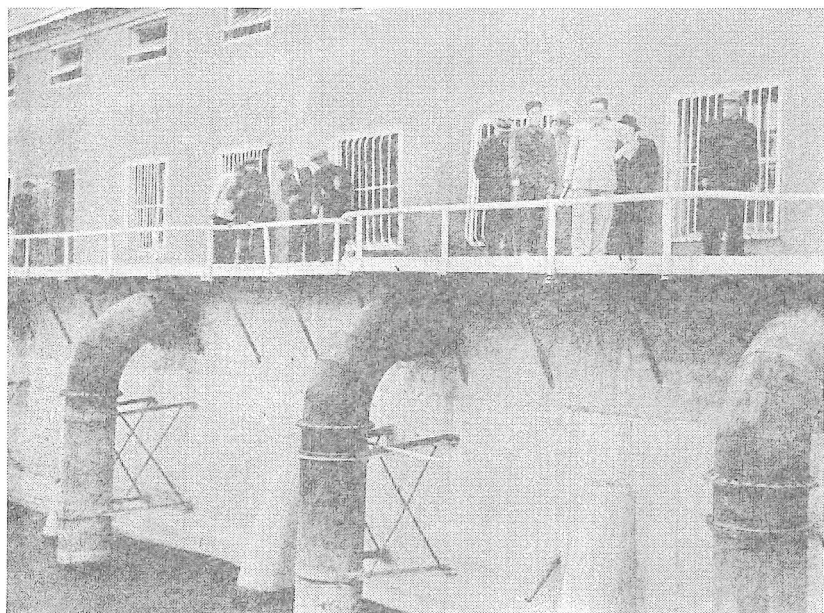
このような「天地開闢」は、卓越した革命の天才である朝鮮人民の敬愛する領袖金日成首相の賢明な指導によってなしとげられたのである。

自然の破壊力を征服するということは、なまやさしいことではない。まして朝鮮のように年ごとに、春にはひどい日照りがつづき、夏にはまた洪水がひんぱんにおこる気候条件で、水害をふせぐということは容易な問題ではなかった。

しかし金日成首相は、自然を征服し、改造する事業を共産主義者に課せられた高貴な任務であるとみていた。

首相は解放直後、人民に土地をわけあたえ、農民を協同化の大家庭に合流させることだけでは決して満足しなかった。首相はいつも、土地の主人となった平野地帯の住民や山間地帯の人たちもすべてが農業をいとなむことができるようにし、かれらが白米のご飯と肉料理をたべて暮らしてゆけるようにする責任が自身に課せられていると考えた。

こうして金日成首相は、大自然改造の遠大な構想をねり、百年の大計を準備した。

やせこけた土地を肥やし、畑を田にかえ、海をさえぎって干潟地を開墾し、灌漑工事を大々的におこない灌漑水路の網で三千里をおおって畑を灌漑し、高い丘にも水をひきあげて田をうるおし、田野に五穀が波うつようにしよう。山にはリンゴの木、梨の木、桃の木

平南灌漑工事現場と揚水場を現地指導する金日成首相

など、果実の木を植えて果実の山をつくり、栗の木、クルミの木、キササゲの木、朝鮮モミ、ポプラなどさまざまな木を植えて、油、紙、繊維の原料を無尽蔵に育てよう。こうして平地を黄金の平野に、山々はすべて黄金の山、錦の山につくりかえよう！

金日成首相のこの構想には、祖国の繁栄をのぞみ、人民生活の向上をねがうかぎりない情熱と責任感がこめられていた。

首相はまず最初に、農村の水利化と治山治水事業に注意をむけた。これは事実上、北半部においてなしとげた天地開闢の基本であった。

首相は解放直後から水利化に力をそそぎ、とくに戦後には農業協同化が実現し、自立経済の土台がしっかりと準備されるにおよんで、灌漑工事と治山治水事業を全国家的、全民族的、全人民的運動として強力にくりひろげていった。

金日成首相は停戦直後、戦争の痛手をいやす戦後復旧建設をくりひろげながら、安州（アンジュ）、文徳、平原（ピョンウォン）の平野をはじめ、およそ五万余町歩の田畑をかかえる十二三千里（ヨルドウ）が原に生命水をおくる平南（ピョンナム）灌漑工事を成功裏におしすすめた。

金日成首相は、停戦直後の緊張した経済的事情にもかかわらず、この工事を一日も早く完成させるために、すべての条件をととのえた。こうして、のべ二千二百余里の水路をもつ平南灌漑は、わずか一年十か月というみじかい期間内に竣工した。

平南灌漑の完成は、干ばつと水害の災難を永久に葬り去ることによって、じつに十二三千里カ原に住む農民たちの世紀的宿願をかなえた天地開闢であり、共和国北半部の食糧問題をみずからの力によってりっぱに解決する最初の歩みであった。

金日成首相は、平南灌漑の竣工につづいて四万余町歩の大同（テドン）、江西（カンソ）、温泉（オンチョン）、南浦（ナムポ）、甑山（ズンサン）の野に生命水をおくる岐（ギ）

陽（ヤン）灌漑、鳳山（ポンサン）ナムリか原、黄州（ファンジュ）ギンドンか原の三万四千余町歩をうるおす於之屯灌漑、昔からノル（鹿の一種）があそぶところといわれ「ノルの庭」とよばれてきた黄海南道新渓谷山（コクサン）の五千余町歩のかわききった土地をうるおす新浚地区灌漑、さらに九万余町歩の鴨緑江灌漑など、国家がおこなう大規模な灌漑工事をはじめ、全人民的運動として無数の中、小規模の灌漑工事を電撃的におしすすめた。

こうして共和国北半部の各地には、一万二千余の貯水池と七千八百余の揚水場、数万の各種水利構造物が新しく生まれ、縦横にひろがる灌漑水路網は、あたかも健康な人体の毛細血管のように力強く脈うちながら全国の田畑に生命水をおくるようになった。

じつにこのすべての変化は、そのいずれもが、金日成首相の人民にたいするかぎりない配慮とその直接的な指導によってもたらされたのである。

於之屯灌漑工事に着工して三か月になろうとしていた一九五七年十二月二十一日のことであった。首相は於之屯灌漑工事の現地をたずねた。この工事を担当する技師長から工事の準備情況をきいた首相は、しばらくなにごとか考えていたが、「灌漑面積単位当りの水の所要量はどのくらいになるのか？」とたずねた。

技師長は、町歩当り平均水深を一メートル以上に見積って設計したとこたえた。すると首相は、わが国の実情では町歩あたり〇・六メートルあれば十分だといいながら、「貯水量にくらべると灌漑面積が少ないようだ。われわれは一滴の水といえども最大限に利用しなければならない」と語り、灌漑面積と貯水量の均衡がうまくとれていないことを指摘し、給水をうける土地の面積をもっとひろげることはできないのかときいた。

金日成首相は、返答につまった技師長をしばらくながめていたが、ふたたび図面に目をおとすと、それを指でしめしながら、「この鳳山と沙里院（サリウォン）後方の高地とそれに黄州、燕灘（ヨンタン）のあたりにも、給水することのできる面積があるようだ。

二段、三段の揚水場を設置すれば黄州ギンドンか原にも水をおくれるのではないか?」といった。

金日成首相のこのことばは、この地方の技術者たちの目をひらかせた。事実、この工事を担当した技術者集団は、このときまでだれ一人として町歩当り平均水深を〇・六メートルにさげ、灌漑面積をひろげることに注意をむけることができなかった。ましてや、高い地帯に水をひきあげることなどは思いもよらなかったのである。

しかし金日成首相は、平地と高地とをとわず、そのいずれにも生命水をあたえ、すべての土地を黄金の土地にかえる大きな構想をいだいて、その実現のために明確な方向と具体的な方法をしめしたのである。

技師長は、「やれます」と力強くこたえた。

首相はこの日、各工事現場をまわりながら労働者たちをはげました。清溪(チョンゲ)提防工事現場についた首相は、あたりの景色をしばらくながめていたが、やがてこういった。

「ここに提防をつくれば黄海北道に『海』ができるであろう。

勤労者たちが休息したり舟遊びができるように、この美しい自然を背景に休養所を建て、潮水は魚の養殖につかうようにするといい。

いまから貯水池区域内の木を根こそぎほりおこし、底を整理しておけば、養殖した魚をかんたんにとることもできよう。その魚をみんなの食卓にそえることができればすばらしいではないか。

それから発電所も建設して、近くの揚水場に電気をおくろう。また、ここの水で沙里院市に運河をつくり、市民が文化生活をたのしめるようにしなさい」

首相は、工事にくわわった青年たちの土によごれた手をにぎりながら、こうした工事をたくさんやればそれだけよい暮らしができ、共産主義社会にも早くゆきつくことができるとはげました。

首相は、一番若く見える青年の肩に手をかけて、「つらくはないか? きみはこの工事をなんのためにやるのか知

っているのかね？　工事が終われば、これからどうなると思う？」とやさしくたずねた。
青年は、はきはきとこたえた。
「みんなが白米のご飯をたべ、もっとよく暮らせるようになります」
首相は、かれが銀波(ウンパ)郡の山村からきた青年であることを知り、「だが、きみはこの工事には直接関係がないのだろう？　きみたちの村までは、この於之屯の水はゆかないんだよ……」といって笑った。
「首相さま、そうではありません。鳳山の平野でもっとたくさんの米がとれれば、わたしたちも白米のご飯をもっとたくさんたべられるのです」
青年がこうこたえると、首相は、
「きみのいうとおりだ。米をたくさん生産すれば、きみたちがとる魚と交換されるからね。つまりたすけあうということだよ」といいながら、父親のような愛情をこめて青年の肩をたたいた。
金日成首相は、翌年の一九五八年五月にもこの工事現場を指導し、その翌年六月、三たび工事現場をたずねた。
首相はそのたびごとに、この建設事業所の人びとの生活問題にいたるまで深い配慮をしめし、かれらの作業を機械化するために建設機械などをたくさんおくり、かれらがやりとげた仕事を高く評価し、技術を思う存分に学び、さらに多くの灌漑工事をしなければならないと力づけた。
「これからはきみたちの力で、もっと大きな工事をやることができるだろう。この工事は一つのりっぱな灌漑大学である。大学が別にあるのではないのだ。この工事を終えるまでここで働けば、大学を卒業したのと同じだ。われわれには、これよりもっと大きな灌漑工事を問題なくやれるだけの十分な力量が準備できている。われわれはこれからも、共和国各地でもっと大きな灌漑工事をやらなければならない。統一が達成すれば、われわれは南半部を北半部と同じように灌漑網でおおわなければならない。そのためには、このりっぱな灌漑大学で、もっとたくさんの技

術者たちを養成しなければならない。そして準備できた力量を分散してはならない」

金日成首相の具体的な教えとあたたかいはげましのことばは、於之屯灌漑工事場を担当したこの工事の人びとを力強い生産闘争にふるいたたせた。首相のたびかさなる具体的な指導にはげまされたかれらは、最初の計画にくらべて三倍にもふえた灌漑面積をもつこの工事を、予定よりも一年くりあげて完成した。

於之屯灌漑工事は、このようにしてできあがった。於之屯灌漑網からは、あたかも金日成首相の徳をたたえるように、三万四千余町歩の田畑に生命水がせせらぎをたてて流れこんでいった。いままではきびを植えても腹一ぱい食べられなかったテサン原にも、旅人にご飯をだしても水だけはやれないといわれていたギンドンか原にも、地主の水車小屋でしか水を見られなかったというチルボン原にも、鳳山ナムリか原にも万年豊作の生命水があふれた。

だからこそ、一九五九年の夏、於之屯灌漑工事が完成し生命水があふれでたとき、ここの農民たちはこんな歌をうたったのである。

於之屯の生命水(みず)がゆくところ
いずこも豊作黄金(こがね)の秋よ
ああ、首相の気高い徳よ
わしらの国はいずこも楽園

金日成首相はあらゆる規模の灌漑工事を指導しながら、一つの協同農場、さらには作業班の農耕地にまで深い関心をはらった。

首相は、一九五七年一月のある夜、ピョンヤン市三石(サムソク)区域長水院(チャンスウォン)協同農場をたずねた。

その夜は、真冬なのにどうしたことか、みぞれが音をたててふっていた。農場についた首相は、第三作業班民主宣伝室に足をはこんだ。そこでは作業班員たちが営農準備について討論していた。

みぞれのふる凍てつくような寒い夜、思いがけなく首相をむかえたかれらは、あまりのうれしさに身のおきどころを知らず、挨拶もしどろもどろに、ともすればじいんと熱くなりがちな目ばかりしばたたかせて顔をほころばせていた。

かれらは数日まえにも、ほかならぬこの場所で、まだ足あと一つついてない元旦の雪道を踏みながらたずねてきた首相をむかえていた。

そのとき首相は、この農場の暮らしと農事の情況が、ほかの農場にくらべてひどくたちおくれていることを具体的に知って、営農をりっぱにおこない、多くの収穫をあげる方法を教えたのであった。ところが、国事に多忙な身にもかかわらず、首相は、その数日後にふたたびこの村をたずねたのである。

首相はすすめられた座ぶとんをおしやって、むしろのうえにすわり、農場員たちと田畑を手入れする方法について意見をかわしながら、水の少ないここでは貯水池をつくらねばならないと教えた。

大城山（テソン）のふもとに位置するこの三石村は、まえをさえぎってたつゴノ峠と、うしろにせまるようにそびえる堂山（ダンサン）というかなり高い山とにはさまれているため、田といえばすべてが天水畓であり、畑の土もまた半分は石ころというやせた土地であった。そして主要作物であるあわ、ひえ、とうもろこしなども一町歩当りの収穫高がやっと六百から七百キログラム程度のものであった。

こうした事情を知った金日成首相は、農場員たちの貧しい暮らしをわがことのように案じた。

農場員たちは、この村に田をおこす方法を考えてみようという首相の話しにただおどろくばかりで、すぐには返事もできなかった。しばらくして一人の老人がたちあがり、「首相さま、わたしどもの村は石ころばかりで、そ

れに、水もありません。で、むかしからずっと、田んぼをおこそうなどとは夢にも思いませんでした。チャジャク谷でわき水がすこしでるにはでますが、もともとかわききったところなので田んぼに水をやるほどの水はでません」といった。

すると首相は、笑顔をうかべながらいった。

「山あいには水があるのがふつうです。ここにだけ水がないというはずはないでしょう」

首相はたちあがりながら、

「さあそれでは貯水池になりそうな場所をさがしにいきましょうか」といった。

首相は、わきたつ農場員たちとともに暗闇の外にでた。

だれかが大急ぎでたいまつをつくった。

首相はそのあかりを手にすると、みぞれふりしきる夜道にたって、「さあでかけよう、みんなわたしについてきなさい」といった。

首相は農場員たちの先頭にたって、けわしい夜道を歩きながら地形をしらべた。みぞれはふりつづけ、冷い風がようしゃなく肌をさした。びっしょりぬれた服はかちかちに凍りついていった。しかし首相は、あかあかと燃えるたいまつをかざして、大またに暗闇のなかをすすんでいった。

農場員たちは、首相のからだを案じてひきとめようとしたが、首相の崇高な姿に心をうたれ、だれ一人口をきくことができなかった。

首相は、名もない一農場の貯水池の場所をもとめてみぞれのなかを急いでいたが、たいまつをかざす首相の姿にはすべての人の胸をうつ崇高なものがやどっていた。

だれもが無意識のうちに、抗日武装闘争の時期の首相の姿を思いうかべていた。雲のようにおしよせてくる敵を

うちくだきながら朝鮮人民のまえに高くかかげた祖国光復のあの炬火！　その炎はいま、自由をえた人民にあたうべく、かぎりない繁栄と幸福をさがしもとめる道を照らして燃えさかっている！
首相は偉大な解放者であり、建設者であった。人民のため宝物をもとめて、雲つく峻嶺もおそれず、猛ける波濤ももののともせず、泰然とした笑みをうかべて難関を征服する英雄的な領袖であった。
ゴノ峠の切りたつ岩場についた首相は、「ここに堰をつくるとよさそうだ」といいながら、貯水池となる場所にみずから坑をうちこんで余水吐と揚水機を設置する位置までえらんだ。
首相の話をきいて、地形をしらべてみた農場員たちは、この村をよく知らないはずの首相が、たやすく、それも暗い夜中に、こうした適切な場所をさがしだしたことに感嘆した。
その日、この村では夜どうしあかりが消えなかった。翌日の明け方から、ただちに貯水池工事がはじまった。
その後も首相は、農場員たちの足が寒さに凍えるのではないかと心配して数十足の長靴をとどけ、つづけてパワアー・シャベル、トラクター、ブルドーザーなどをおくった。それればかりでなかった。たびたびこの農場をたずねては、建設工事と営農を指導した。
その翌年、貯水池工事が完成し、農場がすべての天水沓を水利安全沓にかえ、そのうえ新しく十二町歩の畑を水田につくりかえた。
首相の歩みは新溪ミル洞にもおよんだ。このミル洞では、遠いむかしの先祖の代から、一滴の水も無駄にできないような土地であった。わずかな日照りにも土地は亀の甲のようにひびわれてしまい、穀物は枯れはて、家の台所まで乾ききって飲み水まで切れてしまうのだった。
そのために、この新溪国営農場は、かつて存亡の岐路にたたされたことすらあった。農業省の一部の人びとは、

「新渓農場は発展の可能性がなく収支もあわない」と公言し、農場をなくそうとさえした。農場員たちの心はおちつかず労働意欲もしだいに失われていった。
ちょうどこうした一九五七年六月十九日のことであった。この農場をたずねた金日成首相は、農場事務所に向かってゆっくり歩みをすすめながらこういった。
「新渓農場は石捨場ばかりだときいていたが、なかなかよいところのようだ」
首相は、慎重な表情をうかべながら話をつづけた。
「なんとしてもわからないことだ。農業省にいる一部の人たちは、きてみもしないで、こんなにすぐれた農場をしきりになくそうとするんだからね、ふしぎなことだ。……」
首相はしばらく深く考えてから、「この農場をなくしてはいけない。もっと発展させなければならない」と力をこめていった。
首相は新渓農場の展望についてこう語った。
「ここは、ピョンヤンとソウルまでの距離がほぼ同じくらいだから、統一のあかつきには、ソウルに魚と牛乳を供給したり、バターをおくるにも便利なところだ。それに交通の便がよく気候もあたたかい。それればかりか、開墾できる土地がいくらでもあり、発展の見とおしは非常に大きい。土質も悪くないし、石捨場がないため機械化にも好都合だ……」
首相は、農場区域内にはいってからわずか数時間もたたないうちに、この地域のすべてをミル洞生まれの人たちよりもくわしくよみとり、農場の大きな展望を見とおしたのである。
首相はしばらく歩みをとどめ、四方の山あいをながめまわしながらこの土地の水源についてたずねたあと、つぎのようにいった。

「あの山あいとこちらの山あいの水が合流する、あの下の方に堤防をつくれば大きな貯水池ができそうだ……。この山あいに水を集め、揚水機でひきあげればいいだろう。……」

金日成首相は、この地方が水不足のため毎年わずかな日照りにも、十数キロメートルも先から自動車で水をはこんでくるという話をきいて、ふたたびことばをつづけた。

「ここに上水道をひかなければならない。ここだけ水道をひけないという法はないでしょう…。十分できる。一九五九年度までに上水道工事を完成させよう。そうなればどんなにいいだろう！」

「新溪農場は水にかかっている。水、水を必ず解決しなければならない」

首相は、ミル峠の人びとが水不足のためになめている苦痛を自身の苦痛のように思い、資材と資金がいくらかかっても上水道工事は必ずやらなければならないとくりかえしいいながら、灌漑工事と上水道工事をどうすすめるべきかについてくわしく語った。そして、あのけわしい山道をのぼりおりしながら、貯水池の場所と上水道を設置するための水タンクの位置までいちいちさだめた。

首相が帰ったのち、農場にはトラクター、揚水機、トラック、セメント、各種の建設用機材などが新溪道路せましとひっきりなしにはこばれてきた。技術者たちと支援労力も動員された。

ミル峠は希望とよろこびにわきかえった。農場は新しく、巨大な規模でふたたびたちあがりはじめた。

金日成首相はそれから二か月すぎた九月三日、ふたたび新溪農場を訪問し、この地の人たちをはげました。

金日成首相の教えにしたがってたちあがったミル峠の人たちは、のべ百十万余の人手を要する新溪貯水池を稲妻のような働きぶりでつくりおえ、二百余メートルの高さまで礼成江（リエソン）の水をくみあげる四段式揚水場も短期日内に建設し、千里の水路を掘りあげた。

新溪ミル峠では、数千町歩に達するその広大な田畑に生命水がしぶきをあげてながれこんだ。

百尺掘っても水がでず、人の住めないミル洞といわれてきたこの地に、見てくれといわんばかりに建ちならんだ千百余棟の文化住宅では、水道のせんをひねればいつでも勢いよく水がながれでるようになった。

こうしてミル洞の新しい歴史は、金日成首相の熱い愛情と配慮のもとでひらかれた。

北半部の農村を灌漑網でおおいつくそうという金日成首相の水利化計画には、水田ばかりでなく、畑を灌漑するという遠大な構想も大きな位置を占めていた。

天水畓をすべて水利安全畓にかえてゆくかたわら、金日成首相は畑を灌漑する遠大な構想をたて、その実現に人民をふるいたたせた。

一九五八年一月、首相は黄海南道信川(シンチョン)郡セナル協同農場をたずねたとき、畑灌漑についてつぎのように話した。

「畑に灌漑をすれば、高い収穫をあげることができます。党は今後すべての畑に水をひくことを考えています。まずみなさんの組合でやってみて、それから全国的に実施するつもりですが、このセナル農業協同組合で一つ、畑灌漑の革命をおこしてごらんなさい」

この話をきいた農場員たちは、はじめは、その真意がよくのみこめなかった。農作業のすべてはほとんど身につけている農民たちであったが、かれらは畑灌漑ということばをこのときはじめてきいたのであった。農民たちは、畑灌漑とはすべての畑に水をやることであり、高地帯の場合には揚水機で水をくみあげ高いところから溝を掘って水を下に流せばよいという、首相の具体的な説明をきいてはじめてうなづいた。

この地の農場員たちはその後、首相がおくってくれたトラック、揚水機、モーターなど、多くの機材と技術者、設計技士たちのたすけをかりて畑漑灌の工事にとりかかった。はじめてやる工事なので難関やあい路も多かったが、首相のつきない配慮に力と勇気をえて、すべての困難を克服していった。そして四段、五段にも揚水機施設をつくって百メートルの高さまで水をくみあげ、のべ十六キロメートルの水路を掘った。

生命水をえて、みごとに育った小麦がゆたかな穂をみのらせた一九五八年五月の下旬に、首相はふたたびこの地をおとずれた。揚水場のかたわらにたって、丘のうえの畑に勢いよくくみあげられていく水の流れを見た首相は、満面に笑みをたたえながら、「あなたたちの組合はもう凶作を知らない組合になった。ほんとうにすばらしい！　わが党がしようとしたことは、まさにこれだったのです！　貴重な水を一滴も無駄に流さず、全部畑におくらなければなりません。じつにりっぱです」といって、かれらの成果をたたえた。

それからしばらくたった九月に、首相は歴史的な朝鮮労働党中央委員会総会をひらいて、全人民を自然征服へと、灌漑面積の百万町歩拡張へとよびおこした。

労働者たちは、自立経済から流れるように量産される数多くの揚水機、変圧機、鉄管、鋼材、木材、セメントなどを農村におくりこんだ。一九五九年の田植えどきまでに、労働者階級がおくった営農機材と物資だけをとってみても、その量はじつに百万トンに達する。

里単位に拡張された協同農場の団結した力、農民たちの燃えるような熱意、これととけあった労働者階級の強力な支援によって、この歴史的で巨大な事業は、わきたつ革命的空気のなかで、疾風のような早さですすめられていった。そしてわずか六か月のあいだに、三十七万七千町歩の灌漑面積を拡張するという奇跡を生んだ。

こうして灌漑面積は、日本帝国主義時代の実に七倍にあたる八十万町歩に拡張され、水利化はみごとに完成した。

かつて、わずかな日照りにも田畑が干あがり、農民たちの胸を痛めた十二三千里か原と温泉か原、見わたすかぎりの葦の原野を前に風さえためいきをつくといわれた鴨緑江畔の無名坪（ムミョンピョン）、アメリカ帝国主義者の軍靴に踏みにじられ黄江浦から流れこむ潮水になやまされていた豊徳（プンドク）か原、沓面貯水のために隣家へゆくにも氷のうえを歩くか小船にのらなければならず、田植えもやっと夏至をすぎてからはじめていた鳳山ナムリと黄州キンドンか原など、国中

のいたるところが、いまでは水の心配をしなくてすむようになった。
農業における水問題の完全な解決は、洪水と干ばつでながいあいだ農民を痛めつけてきた悲しい歴史の幕をとじ、国中の農耕地では年ごとに豊作をもたらすようになった。
金日成首相は灌漑工事とともに、治山治水事業にもきわめて大きな意義をあたえた。
首相は解放直後すでに、文殊峰にのぼり、ながいあいだの日本帝国主義者の略奪によって根こそぎにはぎとられてしまった祖国の山河に強く胸を痛め、植樹と造林事業を大々的におこなわなければならないと語った。
首相は苛烈な戦争の砲火のなかでも、乱伐された山を見ては強く心を痛めた。伐採されたあとの切株に虫がついてまわりの木をそこなうことがあるといっては、その切株をぬきとらせたこともあった。そして治山治水の遠大な構想をねり、いたるところでその実現を指導した。
北半部では、戦後みじかいあいだに八十八万町歩の植樹造林事業がすすめられた。こうして、日本帝国主義がもたらした数十年の災難によりまるはだかにされた山々が、はじめて密生した樹林の緑の衣裳をまとうことができるようになったのである。
四千キロメートル近くの提防が築かれた東海地区だけでも、六百余の洪水調節池がつくられた。治山治水の課題は基本的に完遂された。こうして北半部では、干ばつとともに水害をも克服することができたのである。
世界には国も多い。だが、干ばつと水害をなくした国がいったい何か国あるだろうか?
この世紀の変革は、金日成首相の指導のもとに自立経済を建設した北半部において輝かしくなしとげられた。干ばつと水害がむかし話となった農村――、これはこの地球のつづくかぎり豊作を約束された農村である。
金日成首相がねりあげた天地開闢の構想には、干潟地開墾がまた大きな位置を占めていた。首相はすでに解放直後から、先祖たちがかなえられぬ夢として描いていたこの事業について構想を練り、戦争の砲火のさなかにそれを

いっそう成熟させていった。

一九五二年四月十二日、山村に疎開していた金日成総合大学をおとずれた首相は、学者たちとの会合でつぎのように語った。

「……わが国は、人口の高い増加率にくらべて、農耕地が制限されている。したがって、われわれは戦争が終われば、新しい土地獲得のための闘争をたえずくりひろげ、ひきつづき農耕地を拡張しなければならない。

わたしはいま毎日地図を見ながら、西海岸の広大な干拓地や咸鏡南北道の高原地帯、そして傾斜地や河床をどうすれば開墾できるだろうかということを考えている。……」

首相の再三におよぶ教えと具体的な指導をうけながら、干拓地調査活動が強力にすすめられた。干拓地開墾者たちは、容赦なくおしよせる潮水とたたかいながら、平安北道薪島(シンド)干拓地と平安南道の海岸一帯の干拓地をはじめ、数万町歩の干拓地を開墾した。

これらの干拓地ではすでに、毎年ゆたかな穀物や繊維原料となる葦をとりいれている。

首相はこれに満足せず、鴨緑江の河口から礼成江の河口にいたるおよそ六百キロメートル区間の西海岸全域に強固な堤防を築き、海を埋立てる大自然改造を構想している。

首相のこの万年大計の構想が実現すれば、人民の生活はどれほどゆたかになることであろう！ そしてまた、祖国の地図はどれほど大きくかわるであろう！

金日成首相はさらに、国土の七〇パーセント以上が山におおわれている北半部の地形を考慮して、山を十分に利用する問題にも心血をそそいだ。山を治め、それを人民生活に総合的に利用する問題もまた、大自然改造にたいする首相の構想のうちで大きな位置を占めている。

抗日武装闘争の時期から練られてきた首相のこの構想は、社会主義制度のもとで全面的に実践されていった。

金日成首相の具体的な指導をうけて、山を合理的に利用する問題にとりくんだ平安北道昌城（チャンソン）では、山こそ無尽蔵の財富を秘めた「黄金の山」であることを実証したし、咸鏡南道北青（プクチョン）郡では、全国の山を果樹園でおおう新しい動きが芽ばえた。

山が多い条件のもとで、それをどう利用すれば人民の福祉につくすことができるかという問題を解くために、首相は専門家もおよばないほどの深い研究をおこない、みずから果樹の試験栽培すらこころみた。

人民の幸福と万年大計をはかる苦心にみちた首相の努力、その具体的な指導をはなれては、北半部の「黄金の山」、その果実の山について語ることはできない。

山の合理的な利用をめざす金日成首相の雄大な構想は、首相の足跡がしるされたいたるところで具現されはじめ、一地方で創造された経験は全国各地で一般化された。

一九五九年十月、金日成首相は咸鏡南道北青郡龍田里（リョンジョン）文化（ムンファ）協同農場をおとずれた。首相はこの農場が、山の斜面にさえ果樹園をつくったことに大きな関心をよせた。

首相は切りたつような傾斜地の段々畑になっている果樹園にわざわざ足をはこび、果樹栽培情況をしらべ、ここの幹部たちに先進的果樹栽培法を具体的に教えた。

一九六一年四月、ふたたびこの協同農場をおとずれた首相は、郡内の三百余名の果樹栽培者たちが参加した協議会を指導した。

協議会に参加した人びとは、先をきそって討論に参加した。首相はかれらの討論に耳をかたむけてから、「ここに集まったみなさんはすべて果樹業の旗手であり、技師であり、博士」であるとのべ、果樹業の展望についてつぎのように語った。

「わが国には山がたくさんあります。およそ九百万町歩にもなります。北青の人たちのように高い山、深い谷まで果樹園と桑畑を切りひらくならば、うるわしい三千里祖国がすべて、黄金の山、絹の山になることができます。わが国の山面積の百分の一だけを開墾しても、じつに数多くの果樹園をつくることができます。そうなればどんなにかすばらしい、住みよい地上の楽園となることでしょう。数年後ここで百万トンの果実を生産すれば、五十万トンはわれわれが消費し、五十万トンは外国に輸出して、小麦百万トン、とうもろこし百五十万トンを輸入することができます。

そうなれば食料と家畜飼料問題も解決して、肉類生産も世界的水準に到達することができます。そして組合ごとに果実加工工場を設置し、ブドウ酒などをつくって飲めば人民も長寿を保つことができます。

……われわれは古い社会をくつがえし、天地を変革する革命をしています。われわれは共産主義社会を建設する人間です。われわれは山を開墾して数年内に三十万ないし五十万町歩の果樹園をうるわしいわが祖国の山河につくり、つぎの世代にゆずりわたさなければなりません」

このように金日成首相は、一株のリンゴの木、一区画の桑畑を見ても、朝鮮人民の幸福と子孫万代の繁栄に思いをはせるのであった。

数日後、この山間の村で歴史的な朝鮮労働党中央委員会常務委員会北青拡大会議がひらかれた。この会議では四～五年内に三十万ないし五十万町歩の果樹園をつくり、十万町歩以上の桑畑を拡張することが決定された。

歴史的な北青会議がひらかれたのち、共和国北半部の全土はいちじるしく変貌していった。

これまで、リンゴの木は育たないといわれていた慈江道の山峡にもリンゴ園が生まれ、豆満江（トゥマン）のほとりにも温和な平地帯にだけしか見られなかった果物の木が深く根をはり、労働党時代の明るい光をうけながらすくすくと育ち、実をむすんでいった。

こうして共和国北半部は、大自然改造をめざす金日成首相の偉大な構想とその精力的な指導によって、いたるところに生命水あふれ、山野には、五穀百果熟する国に、都市や農村が緑につつまれた美しく住みよい人民の楽園にかわったのである。

金日成首相がたてた大自然改造の雄大な構想が輝かしく実現された結果、豆満江のほとりにも、白頭高原から臨津江、高城の南江にいたる地域にも、東海から西海にいたる地域にも、見わたすかぎりの十二三千里カ原と鴨緑江下流の黄草坪にも、けわしい山また山の三水や甲山にも、天地開闢がなしとげられ、全国に万年豊作の歌声が高らかにひびきわたるようになったのである。

首相は北半部で達成されたこのような成果にもとづいて、統一された祖国のすべての山野を改変する大自然改造の雄大な構想をすでに準備している。

その構想が実現される日は遠くない。その日がくれば、南半部の農村においても、北半部の農村と同じように、あらゆる不幸の歴史が永久に消え去るであろうし、白頭山の天池から済州島の果てまで、三千里の美しい山河は、四千万朝鮮人民がみずからの偉大な領袖である金日成首相をいただき、首相の導きにしたがって、燦然たる美しい歴史を創造する幸福な国に、この世にまたとない地上楽園にかわることであろう。

4　民族幹部の大部隊を育成して

金日成首相が創設、指導した自立的民族経済路線の過程は、自分の力で国家を管理し、経済を運営できる民族幹部の大部隊が準備されていく過程でもあった。

金日成首相は、かつて「いかなる国においても自身の民族技術幹部がなくては、経済的に自立することができな

いし、新しい社会を建設することもできません」と教えた。

自立経済を建設することができるか否か、国の経済的たちおくれと隷属状態からぬけることができるか否か、民族の自主性を守れるか否かということは、自身の民族技術幹部をもつことができるか否かに大きくかかっている。

しかし民族技術幹部は、短時間に育つものではない。一人の有能な技師を育成するにしても十五～二十年はかかるし、自身の力でたくさんの民族幹部を育成するには、そのためのしっかりとした基礎がなくてはならない。

日本帝国主義の植民地支配下では、朝鮮人は技術労働から完全にはみだされ、技師、技手はさておき、機関車の運転さえろくに覚えられない状態であった。それに北半部には、解放の年まで一つの大学すらなかった。

したがって金日成首相は、一九四八年四月の南北連席会議のときに「北朝鮮の民主建設でご苦心なさっていることはなんですか?」という南朝鮮記者の質問に、「……解放後の人民政権にとって、もっとも困難で重大な問題は幹部問題でした」とこたえたのである。民族幹部のなかでも、とくに技術幹部が不足していたことは、国家管理と経済文化建設にとってもっとも大きな難関の一つであった。

じつに、自身の民族幹部の隊列を組織することは新しい祖国建設のためのたたかいでなによりも緊要かつ切実な問題として、革命と建設の成果を左右するカギでもあった。だから金日成首相は、自力更生の旗じるしを高くかかげて、国の経済を建設するうえで幹部の育成を第一におき、民族幹部問題を解決することにまず関心をはらったのである。

金日成首相は民族幹部を育成するにあたり、インテリの隊列を確固と築くことに力をそそいだ。インテリは新しい社会建設に重要な役割を果たすものである。主権をにぎった労働者階級は、自己のインテリ隊列をもつことによってはじめて科学と技術、文学と芸術を発展させることができ、社会主義、共産主義を成功裏に建設することができるのである。

首相は、インテリ隊列を組織するうえで勤労人民出身の新しい民族幹部を大々的に育てるかたわら、解放前からのインテリを大胆に信じ、教育し、改造して、新しい祖国建設にひきいれるという方針を堅持した。

解放前からのインテリの問題は、重要であった。かれらを新しい社会の建設にひきいれることができるかどうかは、国の経済、文化の発展にも大きく影響する問題だった。

金日成首相は、朝鮮革命発展の特殊性と朝鮮のインテリがもつ特性を考慮し、解放前からのインテリを大胆に信じて、かれらを新しい社会建設のにない手に育てたのであった。

首相は、つぎのようにのべている。

「民族幹部の問題を解決するうえで、解放前からのインテリを、革命と建設に積極的に参加させることは、きわめて重要な意義をもっております。われわれは、わが国の解放前からのインテリの大部隊が資産階級の出身であり、むかしはやむをえず帝国主義や搾取階級に奉仕したけれども、植民地のインテリとして、外来帝国主義の抑圧と民族的差別待遇のために反帝革命意識をもっていること、そして学問をし、真理を把握しているという点では、社会発展の法則にしたがって先進的な階級である労働者階級のために服務できるということを考慮し、かれらを大胆に信じ、教育し、改造して新しい社会の建設に積極的に参加させる方針をとりました」

首相の確固とした立場と賢明な方針、そしてそのあたたかいいつくしみと配慮のもとで解放前からのインテリは、首相のさししめす道にしたがって祖国と人民のために誠実に働き、その過程で自身を労働者階級のために服務する社会主義的インテリに改造しながらりっぱな民族幹部に成長したのである。

首相は、解放前からのインテリを改造するかたわら、労働者、農民出身の新しいインテリを養成することに全力をつくした。

首相は解放直後、日本帝国主義の植民地奴隷教育制度をなくし、すべての人びとが学べる人民教育制度を実施し

た。同時に、一九三〇年代の苦難にみちたたたかいのなかで、抗日遊撃隊員を有能な政治活動家、軍事指揮官に育成したその貴い経験を生かして成人教育体系と通信および夜間教育、短期講習など、いろいろなかたちや方法で民族幹部をより多く育成しながら高等教育機関を創設し、これをひろげていった。

首相の賢明な方針により、勤労者は働きながら学び、学びながら働くことが一つの重要な習性となり、そのなかで多くの幹部がはぐくまれた。きのうまで労働者であったものが現代的な工場のりっぱな支配人となったり、戦時中の女性労働者が、協同農場の有能な管理委員長となるようなことはめずらしくなかった。

一方、金日成首相は、勤労者出身のりっぱな民族幹部を体系的に育成するため、国の事情がきわめて苦しかった一九四六年十月にも、民族幹部養成の強力な基地である金日成総合大学を創設し、その後、それらを母体として工業、農業、保健、教育、文化など、あらゆる部門にわたって専門家を育成する単科大学や専門学校などを大々的に創設した。

首相は、はげしい戦火のさなかにも民族幹部を育成しつづけ、第一線でたたかっている兵士まで学校にいかせたり、都市と農村の全土が炎につつまれていたあのきびしい折にも、学校教育が中断されないよう気をくばった。

首相は、一九五一年につぎのように教えている。

「掘っ立小屋や、地下室、防空壕を利用して学生たちの勉強をつづけさせ、かれらをりっぱな民族幹部に養成しなければならない。これはきわめて重要な課題であり、戦争におとらず重要なことである」

首相のこの教えによって、戦火のなかでも人材養成のための教育は中断されることなくつづけられた。

祖国解放戦争がおこり、数万里はなれた外国からはせ参じた留学生が、口ぐちにアメリカ帝国主義侵略者の撲滅を叫んで銃を手にしようとしたとき、首相はその愛国的な熱情に満足しながらも、やさしくこうさとしたのであった。

「われわれは、きみたちにたたかってもらいたくない。きみたちの力をかりなくても、十分敵を追いはらうことができる。だからきみたちは、心配せずに勉学にはげみたまえ。そして戦争が終わってから人民経済復旧建設でうんと活躍してもらいたい」

首相はこうさとして、かれらをふたたび帰したばかりか、後方と前線の人民軍からさらに多くの青年をえらんでは外国に留学させたのである。

暴虐で野蛮きわまりないアメリカ帝国主義と決死の戦火をまじえているさなかでとられたこれらの措置は、勝利にたいする首相のこのうえない楽天的な信念を物語るものでもあるが、首相が人材養成をいかに重視していたかを端的にしめす一例でもあった。

首相にとって、民族幹部の養成はたんなる教育の問題ではなく、未来の革命的課題を解決するための積極的な準備活動であり、国家万年の大計をはかるもっとも重要な事業の一つであった。したがって首相は、民族幹部の隊列を大々的にひろげるため、まず幹部養成事業と教育事業をすすめていった。

金日成首相は、戦後復旧建設の偉大なる設計図をひろげ、破壊された人民経済の急速な復旧建設を指揮しながら民族幹部の養成に力をそそいだ。

首相は、停戦直後にひらかれた朝鮮労働党中央委員会第六回総会の報告のなかで、民族幹部の養成についてつぎのように強調している。

「戦後人民経済復旧発展のための基本課題を成功裏に実行し、将来わが国を工業国家にしてゆくには、高等教育と技術教育を強化して民族幹部を多く養成することに全党的、全国家的注意をはらわなければなりません」

首相は、戦後の苦しい条件のもとでも民族幹部の養成に多くの資金をまわし、真っ先に各級学校の校舎を復旧、新設し、教科書を出版し、教育施設などをととのえさせた。

首相は一九五六年には初等義務教育制を、一九五八年には中等義務教育制をアジアで最初に実施した。

その後、国の工業と農業はかつてなく早い速度で発展し、人民経済のあらゆる部門で技術革命が高まり技術幹部がさらに要求されるにつれて、首相は、技術人材の養成を国の生産力発展と技術革命の早い速度に追いつかせるため、正規の大学を大々的に建設するかたわら通信大学と夜間通信網を大きくひろげ、世界でもはじめての、働きながら学び、学びながら働く工場大学と共産大学を創設した。

他方では、すべての勤労者の技術水準と文化水準を全般的に一段階高めるため、文盲からぬけでた人には初等教育課程の知識が習得できる勤労者学校を、初等教育課程を終えた人には中等教育課程の知識を習える勤労者中学校を、すべての工場、企業所、農村、漁村などに創設した。

さらに、一九六六年にはアジアではじめて九年制技術義務教育を実施する画期的な措置を講じた。

そうして、子どもたちが働ける年齢に達するまでは、だれでも正規の学校で、無料で、十分に科学、技術の知識を学んで新しい社会の建設者となるようにし、広はんな勤労青年と現職の働き手たちには、仕事をしながらでも高等教育がうけられるようにしたのであった。

北半部では、各級の正規学校だけでなく工場や企業所、国営農場および牧場などに設置された技術大学や専門学校などでも、多くの有能な技師や技手が育った。

こうして北半部の工場、企業所、国営牧場は生産工場としてだけでなく、民族幹部養成の強力な基地にもなったのである。

日本帝国主義時代には、目に一丁字もなかった労働者と農民が、りっぱな機械技師、農産、技師になり息子や孫のいる人さえも大学生とよばれるようになった。ある家庭では、父は通信大学で、息子は昼間大学で学び、父と息子が同じ日に同じ大学を卒業する情景さえみられた。まったくいずこでも文明が波うつ時代となったのである。

金日成首相は、飛躍的に発展する社会主義建設にあわせて、民族技術幹部を大々的に育てるための賢明な方針とともに、すぐれた民族幹部を育成する正しい教育方針を明らかにした。

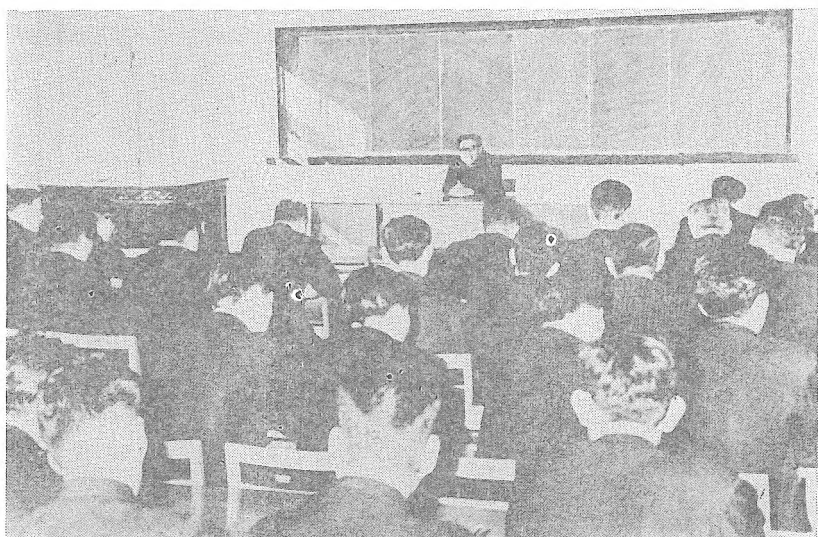
首相は、民族幹部の養成において必ず主体を確立すべきであると教えながら、つぎのように語っている。

「……われわれの主張は、朝鮮人は朝鮮の自然を利用して暮らさなければならないということである。朝鮮人がシベリアで住むわけにはいかない。全世界が共産主義社会になってからでも、朝鮮人は朝鮮に住むことになる。だからわれわれは、わが国の自然を研究しなくてはならない。あらゆる研究活動は、朝鮮のことに服従されなくてはならない。つまり、わが国の発展とわれわれの革命に必要なものを研究しなくてはならない。このことがとりもなおさず、教育における主体である。……」

人材養成と教育事業で主体を徹底的に確立し、それを社会主義、共産主義を建設するための革命闘争と建設事業に服務するようにさせ、朝鮮革命をになってたつつぎの世代を社会主義、共産主義建設者として育てることに服務させるのは、金日成首相の一貫した教育思想であり、首相が人材養成と教育事業で堅持している基本原則である。

首相は、金日成総合大学創立一周年をむかえたとき、この大学の学生たちにつぎのように教えた。

「きみたちは、りっぱに朝鮮の農業をいとなみ、朝鮮の工業をいっそう発展させ、人民の生活と国家建設に必要な物資を豊富につくり、われわれのすばらしい民族文化を発展させ、わが国をしっかりと守らなければならない重大な責任をになっています。きみたちの手でわれわれの祖国を富強に建設しなければなりません。汽車も、自動車も、汽船もすべてきみたち自身の手でつくらなければならないし、燦然と輝く文学芸術もきみたち自身によって創造されなければなりません」

首相は、一九六〇年三月、金策(キムチェク)工業大学をおとずれたときも、この大学の教員や学生たちが研究のために、苦心さんたんしてヘリコプターをつくっているのを見て、その意気ごみはほめたが、つぎのようにのべた。

マルクス・レーニン主義学院幹部班の学生たちに講義する金日成首相

「……わが国の現状では、ヘリコプターよりも、浅瀬で流れの急な河川でも航行できる船や、電気機関車、それに傾斜地を耕すことのできる農機械をつくることの方がもっと必要なのだ。……」

このように首相は、つぎの世代が朝鮮についてよく知り、一つのことを学んでも朝鮮の現実をよく知って、朝鮮革命に役立つように学ぶようにし、かれらが自身の力と信念で革命と建設をおこなえるように育てた。

また、教育で主体を確立するために、教育の内容と教科書の編さんにいたるまで細心の注意をはらった。とくに首相は、教育における主体の確立で、朝鮮労働党の路線と政策、党の輝かしい革命伝統で徹底的に武装することがもっとも重要な問題であるとのべた。

金日成首相は、人材の養成と教育において、党と革命にかぎりなく忠実な共産主義建設者を育てることを強調し、つぎのように教えている。

「……大学教育でもっとも重要なことは、学生が高い思想性、党派性、人民性、階級性をもつように教育

することである。人民のために服務し、党のために服務し、自分の祖国のために服務するという思想を徹底的にもつように教育しなければならない。このことをのぞいては、技術を教えてもしかたがない。労働者階級のために服務しない技術が、なんの役にたつだろうか。だから大学教育で重要なのは思想性なのである。……」

と同時に首相は、役にたつ人材を育てるために、つぎのような方針を堅持した。

「教育事業と幹部養成事業で、わが党が堅持しているもう一つの重要な方針は、一般教育と技術教育、教育と生産労働を密接に結合させることである」

これは、つぎの世代を首相の偉大な革命思想と党政策で徹底的に武装した熱烈な革命家に、生きた知識をもった有能な社会主義、共産主義建設者に育てるもっとも正しい教育方針であった。

共和国北半部で九年制技術義務教育が実施され、工場技術大学が創設され、勤労者学校と勤労者中学校が創立されたことは、まさに一般教育と技術教育、教育と生産労働を密接に結合させる金日成首相の独創的な教育思想の輝かしい具現である。

こうして、マルクス・レーニン主義の創始者たちが、一つの理念としてだけ提起した真の共産主義的教育方針が、金日成首相によって共和国北半部ではじめて実生活に輝かしく具現され、そのすばらしい模範が創造されたのである。

教育と生産を結合する教育方針のなかでも、働きながら学ぶ教育体系をもった工場大学の創設はとくに画期的な意義をもつものであった。

金日成首相はつぎのようにのべている。

「これらの大学は、労働者階級のなかから新しいインテリを大量に養成し、教育と生産、理論と実践をもっとも密接に結合させるようにする。また、多くの中核的労働者が生産から遊離することなく高等教育をうけられるの

で、生産と技術の発展はいっそう促進される」

金日成首相の直接的な指導のもとに、現代的な大鉄鋼工場に発展した主体の工場——降仙製鋼所一つをとってみても、むづかしい技術的な問題は、工場大学の卒業生と大学生がひきうけて解決している。大学で学んだ理論を基礎にして、自分たちの職場の圧延機能力を四十トンの水準にまでひきあげられる二台同時圧延を創案導入したのもかれらであった。工場大学を卒業してから、かれらが創案し生産に導入した技術革新件数は数千件に達している。

平穏な書斉で育った「青白きインテリ」ではなく、戦火のなかできたえられ、学び、科学の真理を探求したかれらにとって、科学知識とはそのまま実践の手段であり、闘争の武器であった。

工場大学出身の働き手たちは、技術革新の名手であるばかりでなく、現代的工場を管理運営する中核となった。降仙製鋼所だけをみても、基本職場である鉄鋼職場で働く職場長、責任技師、初級党書記はいずれも工場大学出身者である。

働きながら学ぶ工場大学と職場高等技術学校の創設——、それはじつに、労働者階級出身のインテリを大々的に育て自立経済を成功裏に建設するだけでなく、すべての勤労者を技師、技手の水準にひきあげようという首相の構想の輝かしい実現であった。

金日成首相は、民族幹部を育成していく独創的な路線と方針をしめしただけでなく、民族幹部を短時日のうちによりよく、より多く養成するために全力をかたむけ、かれらをあたたかい肉親の愛情でいつくしんだ。

金日成首相は、党と国家、経済建設のあらゆる部門を指導するせわしい毎日をおくりながらも、大学をたずねたり、その部門の幹部をよんでは人材養成と大学発展について綱領的な教えをあたえ、かれらをいつくしみ育てた。

首相が金日成総合大学を直接指導したことだけでも四十数回におよび、その部門の幹部をよんで教えをあたえたことまであわせると、じつに百十数回にもおよぶ指導をおこなっている。

首相は、金策工業大学をたずねては、有能な技術人材をよりよく育てて各部門におくるようにと指示し、恵山(ヘサン)農林大学をたずねては高山地帯の農業を、また海州(ヘジュ)農業大学をたずねては黄海南道一帯の農業をになえるような技術者を養成するよう教えた。

じつに、首相は共和国北半部のほとんどの大学と幹部養成機関をたずねては教育内容と課程案などを検討し、校服、学用品、学習条件、ひいては学校の実験室をつくることにまでくまなく関心をはらいながら、深い配慮をめぐらした。

金日成総合大学では、首相からおくられた鳥類や魚類の標本だけで一つの陳列館がつくられた。首相はたまたま山で鳥をつかまえたり、川や湖水で魚を釣ったとき、そのなかに大きいものやめずらしいものがあったり、あるいは人民からおくってきた贈り物でも、それが学生の教育に必要なものであれば、ためらうことなく総合大学におくるのであった。

一九五九年、咸鏡北道の農民が朝鮮虎をとらえて首相に贈物としてとどけてきたときも、首相はすぐにそれを総合大学におくり、虎の皮で剝製標本を、骨で骨格標本をつくり、内臓もすてずに標本にして教育と科学研究に利用するよう、こまごまと注意をあたえた。

金日成首相は学校をたずねるたびに、いつも学生たちの寄宿舎にたちよって、部屋はあたたかいか、食事は十分か、病気の学生はいないか、たりない本はないかと、学生たちの生活のすみずみにまでこまかく気を配るのであった。

共和国北半部の青年学生たちは、このように、どこの国の学生もうけられない、山よりも高く、海よりも深い父なる首相の配慮と愛情につつまれて、知、徳、体をかねそなえたりっぱな民族幹部として育っている。

首相の父なる愛と配慮は、決して青年学生たちだけにしめされたものではなかった。首相は青年学生とともに教

育者、科学者、技術者にも厚い配慮をしめした。
首相は戦時中、教育者、科学者、技術者たちが敵の野蛮な爆撃にさらされることを憂慮して、かれらに安全な場所をあたえ、国家万年の大計のため科学研究をつづけるように配慮した。
また戦後の複雑な社会主義建設を指導するときも、工場、企業所、農村、漁村、学校、科学技術機関を指導するときも、必ず教育者、科学者、技術者たちの活動条件と生活条件などをしらべて適切な措置を講じ、かれらの健康にも深く留意した。
首相の肉親的な愛と配慮につつまれて、教育者、科学者、技術者たちは思いのままに科学研究をすすめ、つぎの世代を有能な民族幹部に育成し、自身をひたすら首相に忠実な革命戦士、赤い教育科学技術者としてきたえていった。
金日成首相の賢明な指導によって、共和国北半部ではすぐれた人民的教育制度がしかれ、民族幹部養成の確固とした基地が築かれた。
解放前には大学一つさえなかった北半部に、いまは九十八の大学が建ちならび、人民経済各部門で働いている技師、技手および専門家の総数は、じつに四十二万五千七百余名に達している。
解放直後、共和国北半部には、百名以上の技師をかかえる工場は一つもなかった。しかしいまでは、千余名の技術者を擁する工場、企業所が数えきれないくらいある。

金日成総合大学第１号庁舎

このようにして、共和国北半部では革命と建設で提起される困難で複雑なあらゆる問題を、自身の民族幹部の大部隊の力と知恵によってりっぱに解決できるようになった。

北半部をおとずれたある外国の友人は、北朝鮮では国家の管理と工場や企業所の管理運営が、すべて朝鮮人の専門家と技術者によっておこなわれているということをきき、その真偽をたしかめるため、あちこちをたずね歩いたが、結局、一人の外国人技術者も見出せなかったといって非常に感嘆した。

北半部では、このようにあらゆる国家行政から工場、企業所の管理運営にいたるまで、全部自己の民族幹部の力でおこなっているため、どんなことでも決心さえすれば必ずやりとげられるし、現にやりとげている。

民族技術幹部の大部隊の育成、これは自己の幹部、自身の力で国を建設せねばならないという金日成首相の偉大な革命思想、主体思想の具現であり、民族幹部育成にかんする首相の遠大な構想と賢明な指導によって、自立的民族経済建設で達成したもっとも大きな成果の一つである。この成果によって、北半部では大規模な現代的工場をはじめとするあらゆる工場、企業所、農場などが自分の力によってりっぱに管理運営されている。

自立経済建設とともに、民族技術幹部育成部門でなしとげられたこの偉大な成果は、千里馬朝鮮の大きな誇りである。

5　労働党時代の記念碑――大ビナロン工場

一九六一年五月六日――。

この日、金日成首相は、工業都市咸興をめざして疾走する列車のなかで、春たけなわの朝をむかえた。

陽徳（ヤンドク）、孟山（メンサン）のけわしい山岳地帯をぬけた列車は、やがて、果てしなくひろがる咸州（ハムジュ）平野にさしかかった。あけ放

たれた車窓からは、豊饒な大地の香りをふくんだ五月の薫風が流れこんできた。走りすぎてゆく田畑、うすもやのなかにきらめく小川のさざ波、新緑の森やうす紫のけむりをたなびかせている瀟洒な瓦ぶきの家々、窓ごとに朝やけを映して輝く学校の校舎、朝露を踏んで仕事にはげむ農民たち、エンジンをひびかせて走るトラクター、そしてのんびりと草をはむ仔牛や山羊の群れ——、こうした景色が、えもいわれない調和をおりなしながら、ゆたかな農村の風景美をつぎつぎとくりひろげていく。

金日成首相は、なにか深い思索にふけりながらも、春の協同農場に終始ほほえみをなげかけていた。

この日、首相は、朝鮮の労働者階級がなしとげたいま一つの巨大な創造物である大ビナロン工場の竣工式を祝うために、咸興にむかうところであった。

思えば、なんと多くの竣工式がおこなわれたことであろうか！　星の数ほどもある大小さまざまな工場、とどまることを知らない各種経済施設の建設と竣工式、花吹雪と旋風のような歓呼、首相をむかえてとりおこなわれた数多くの竣工式、首相の祝賀のことばにはげまされて新たなたたかいをくりひろげていった日々——、それは自立的民族経済の力と、首相にあくまで忠実な人民の威力をしめした日々であり、新しい宝物と武器を胸にいだいた祖国が、未来にむかって大きく歩みはじめた日々であった。

金日成首相をのせた列車が咸興駅の構内にすべりこむと、早朝から大きな人波をなして待ちわびていた咸興市の市民たちが、嵐のような万歳と歓呼をもって出迎かえた。

列車からおりた金日成首相は、少女たちからおくられた花束を高くかざし、群衆の歓呼にこたえた。

咸興市の歴史はじまって以来、この市のすべての人びとが、これほどの大きな誇りと歓喜にひたったことはなかった。メーデーまでにビナロン工場の建設を終える決意をかためた建設者たちと市民は、いまそれをみごとになしとげ、首相をむかえてともに勝利を祝う大きな感動に酔っていた。

金日成首相は、咸興市民の熱烈な歓迎にこたえたのち、龍興に位置するビナロン工場の竣工式場にむかった。

つい最近まで、足場の丸太と踏み板にとりまかれて、まるで林にかこまれたかのように見えたビナロン工場の大小の建物は、すっかり祝日のよそおいをこらしていた。五階建てのアルデヒト職場の建物の屋上には、五角の星が燦然と輝く共和国国旗が力強くひるがえり、五色のアドバルーンが澄みわたった五月の大空にくっきりとうかんでいた。式場にあてられたアルデヒト職場前のひろびろとした構内は、建設者たちと人民軍将兵、科学者、技術者、それに咸興市の市民など、一万余名の群衆でうめつくされていた。

金日成首相が党と政府の指導者とともにビナロン工場に姿をあらわした瞬間、建設者たちは花束をふりかざし、のども裂けんばかりに万歳を叫び、歓呼の声をあげた。

建設者たちから花束をうけとり、歓呼でむかえる人びとに熱い答礼をおくった首相は、あらゆる難関を克服して不死鳥のようにたたかってきた建設者と軍人たち一人ひとりの手をかたくにぎった。

一兵士の荒れたぶこつな手をにぎった首相は、革進的な労力闘争の痕跡をとどめたかれの顔とひびわれた手を見くらべながらたずねるのだった。

「この工場はきみたちが建てたのかね?」

「そうであります、首相同志!」

「よくやった! これは、党の赤い戦士、人民軍でなければできない仕事だ……」

ことばじりをにごしながら兵士の手をじっと見つめていた首相は、強く胸をうたれたのか、それ以上話をつづけることができなかった。

どんなに多くの難関とたたかい、どれほどの情熱で仕事にうちこんだことだろう、兵士たちの手がこんなにも荒れるとは――。零下二十度をくだる酷寒と龍興平野の烈風にさらされながら、昼夜を分かたず突貫作業をつづけて

きたこの手、骨の髄にまでしみとおる冷い水にひたりながら、数かずの難関にもめげず、ひたすら領袖と党のために、父母と兄弟と姉妹に美しいビナロンの衣服をおくるために、決死の覚悟で作業をいそがせてきた建設者たちの手！　その手をじっと見つめていた首相は、ハンカチをとりだすと、熱い涙にぬれた顔にあてたまま、ながいあいだその場にたちつくしていた。

兵士たちも泣いた。領袖の熱い心情をわが心でくみ、領袖の戦士たる幸福感につつまれたかれらの顔には、感激の涙がとめどなく流れた。

「首相同志、気になさらないでください！　われわれの苦労やたたかいは、みなたいしたものではありません。わたしたちにもっと困難な任務をあたえてください！　首相同志のよびかけに最後まで忠誠を誓います。……」

涙にぬれた兵士たちの顔は、こう語っているかのようであった。

竣工式に参加した建設者たちと市民のすべてが、感激にふるえながら、「金日成首相万歳！」、「朝鮮労働党万歳！」を叫びつづけた。

歓迎曲がなりひびき、無数のゴム風船が青空高く舞いあがるなかで竣工式がはじまった。

首相は、満面に笑みをたたえながら、ビナロン生産の第一工程であるアルデヒト職場の入口にわたされた赤いテープのまえに足をはこんだ。

ふたたび歓声がわきおこり、花吹雪が舞いあがった。首相はテープを切り終ると、ビナロンの発明者である李升基（リスンギ）博士をふりかえりながらこういった。

「きょうは、李先生の宿願がかなえられる日ですね」

領袖のこのことばに、どうこたえればいいのだろうか！　一瞬、李博士の両眼には熱い涙がみちあふれた。感激にむせぶ博士はことばを口にすることもできず、ただうなだれるばかりであった。

いまわしい、すぎし日の出来事が走馬燈のようにかれの脳裏をよぎった。

すでに、一九三九年にビナロンを発明しながらも、ただ祖国がなかったがゆえに、それをうずもれさせなければならなかった暗い日々――。アメリカ帝国主義の占領下で、ひとにぎりのカーバイト、ひとかけらの氷すら手にいれることができず、研究を中断しなければならなかったことなど……。

しかし、共和国のふところにいだかれてからは、あのいまわしい出来事がすべてむかし話となり、いまかれは、敬愛する領袖金日成首相の厚い愛情につつまれ、科学者の夢を心ゆくまでにかなえながら、幸福な新しい生活をおくっているのだ。

じつに領袖の配慮は、山の高さ、海の深さにもまさるものであった。

戦争の一時的後退期の苦難にみちた日々に、博士とその家族の身辺を憂慮した首相は、かれに牛車をさしまわして安全な山道から後退させ、戦争の困難な条件のもとでも、ビナロンの研究がつづけられるようにと、実験器具と試薬品をおくり、有能な科学者を派遣して研究集団まで組織してくれたのであった。

戦後、国内の事情がきわめて困難であったにもかかわらず、首相は中間試験工場を建て、直接現地までおもむいて激励のことばをあたえ、このような大ビナロン工場まで建設できるようにしてくれたのである。

博士が何日間か入院したときは、金日成首相は博士の病気にひどく心を痛め、朝鮮人蔘二株と直筆の見舞文までおくってくれたのであった。

敬愛する金日成首相の配慮のおかげで、はじめて博士は科学者としての宿願をかなえ、生きるよろこびと幸福を味わうことができたのである。

領袖をむかえる嵐のような歓呼の声に、博士はすぎし日の回想からさめ、われにかえった。

かれは顔をあげると、首相に歓呼をおくる群衆をながめながら、ふたたび深い考えにふけった。

のちにかれは、このときのことを回想しながら、つぎのようにしたためている。

「みなさん！　みなさんにビナロンの衣服があたえられるとき、それをごくあたりまえのことだと思ってはなりません。それが一科学者や技術者、幾人かの労働者によってつくられたものだとは、決して考えないでください。そのビナロンには、子どもたちにきれいな服を着せたいとねがう首相同志の、海よりも深く、山よりも高い慈父なる愛がこもっていることを忘れないでください！

遠い将来、あなたがたの子孫が、もしもビナロンの由来をたずねたら、一科学者や技術者の名を語るべきではなく、労働党の歴史を語ってきかせるべきです。

そうすればかれらは、ビナロンがどのようにして生まれたかを知るにちがいありません」

ビナロンの発明者のこのことばには、人民により美しい、より多くの衣服を着せるため、四千万朝鮮人民の偉大な領袖金日成首相がビナロン生産についやしてきた十年の歳月と、そこにひめられた貴い愛情が脈うっている。

ビナロンの歴史は、苛烈な祖国解放戦争の時期にはじまる。

一九五二年四月二十七日、牡丹峰（モランボン）地下劇場において全国科学者大会がひらかれた。

最高司令官である金日成首相は、多忙な身でありながらも、この会議の開会日から最後の日まで欠かさず参席し、朝鮮の科学者のすすむべき道を明確にしめす歴史的な演説をおこなった。

首相は科学者に提起されている課題について、各部門別にくわしくふれながら、つぎのようにのべた。

「われわれの工業部門には、高分子、有機合成工業を発展させることができる十分な可能性がすでに存在しているにもかかわらず、これがまだ全面的に利用されてはいません。

解放後わが技術者が、われわれの誇るゆたかな電力、無煙炭、良質の石灰石を原料としてカーバイトからアルコール、醋酸などを生産したことは、もちろん大きな成果でした。しかしこれにとどまることなく……一連の高級有

機合成製品の生産工程が必ず確立されなければなりません」
首相のこのことばには、他人に依存することなく自立的な化学工業を発展させるための遠大な構想がひめられており、一日も早くカーバイトからビナロン繊維をひきだして、人民に美しくて良質な服地を供給しなければならないという、かぎりない愛情がこめられていた。
金日成首相は、大会の休憩時間に李博士を招き、かれの健康を気づかいながら、生活とビナロン研究の進捗状況をくわしくたずね、かれを強くはげました。
全国科学者大会でのべられた金日成首相の教えは、ビナロン研究集団の活動を大きくはげました。研究集団は新たな希望と勝利への確信をいだいて、研究に全力をかたむけた。かれらの胸には領袖の偉大な構想を実現する栄誉と責任感がみちあふれていた。
かれらには難関も多かった。戦時であったため これといった実験室もなく、実験用の機械や試薬も不足していた。そのうえ一日に数回の爆撃にみまわれた。しかしかれらは、一日として研究の手を休めなかった。
金日成首相は戦時の多忙な日々にもかかわらず、ビナロンの研究に深い関心をよせ、可能なかぎりの条件をととのえ、大きな配慮をしめした。首相は、ビナロン研究集団が実験器具、試薬品などの不足から難関にぶつかっていることを知るたびに、外国に人をおくり、それらの資材を購入しては研究集団にとどけた。
研究集団のメンバーは、首相がとどけてくれる実験器具や試薬品を歓声をあげてうけとり、だきあってよろこんだ。
科学の研究にとって実験器具と試薬品は、農業における種子と同じように貴重なものであった。しかし、それにもまして貴いものは、そこにこめられた領袖の気高く深い心であった。
ビナロン研究集団は領袖のつきることのない配慮をうけながら、ビナロン研究にいっそう情熱をかたむけた。そ

して一九五六年、かれらはついにビナロンの試製品を世にとうことができた。
ビナロンの試製品を完成したというニュースに、だれよりもよろこんだのは金日成首相その人であった。
首相はただちに朝鮮労働党中央委員会常務委員会をひらき、ビナロン生産の工業化問題を討議にかけた。この日、首相は研究事業の状況とビナロン製造工程、ビナロンの繊維の原価、用途、質などを具体的にしらべてはなにごとか思索にふけり、科学者たちにさまざまな問題点をただしたりした。首相の顔には、なんとしてでも子どもたちに質のよい服を着せてやりたいとねがう慈愛にみちた父親の心情がやどっていた。
この会議で、金日成首相は綿花にかわるビナロンの長所を強調しながら、つぎのように語った。
「このビナロンは綿に近いものであり、子どもたちの服から大人の服にいたるまで、多種多様の衣服をつくることのできる大衆的な繊維である。
このビナロンで、子どもたちの服をつくり、女性にジャケットをつくってやることができれば、どんなにかいいだろう。
ビナロン生産の工業化を早急に実現し、人民に良質な服地をあたえなければならない。……」
首相のこのことばにはげまされて、ビナロン生産の工業化をめざす中間試験工場が建設された。この工場ではただちに試験生産がすすめられた。しかし、日産二百キログラムの中間試験工場を建設したものの、その実験成果は満足すべきものではなかった。新たな難関がたちはだかった。これにともない一部の働き手のあいだでは、あせりと消極的な態度が見えはじめた。
一九五八年六月二十四日、首相が中間試験工場をおとずれ、研究集団に勇気と力をあたえたのは、こうした難関につきあたっていたときのことであった。
首相は中間試験工場をつぶさに見てまわり、数多くの問題を処理しながらつぎのように語り、研究員が大胆に考

え、大胆にとりくむことができるようはげました。

「化学工場もそれほど神秘的ではないようだ。みんながこうしてつくりだした試験装置を拡張しさえすればいいのではないか？　戦後、黄海製鉄所を建設したときのように、大胆に考え、大胆にとりくみ、全人民的運動をくりひろげて建設にかかれば、ビナロン工場もわれわれの手で十分につくりあげることができる。

党中央は、みなさんの研究のためならなに一つ惜しむものではない。資材も資金も要求どおり確保しよう。だからなに一つ気にせず、大胆にやってみなさい。これはまだ実験工場だから、まず、やれるだけのことをやってみて、それでだめならやりなおすことにしようではないか。

そうして、一日も早くビナロン生産の工業化をめざす研究事業を完成しなければならない。

わたしは、みなさんが必らずこれをなしとげてくれるものと信じています。……」

金日成首相のこのことばによって、研究員たちがそれまでおそるおそる歩んできた小道はあとかたもなく消え去り、かれらの眼前にはたんたんとした自由な大道が切りひらかれていた。

ビナロン研究集団は、首相があたえてくれたことばにはげまされて、ながいあいだ苦心しながらも解決できなかった技術的な問題をつぎつぎに解決し、大規模なビナロン工場設備の設計と、それにともなう技術的課題も成功裏になしとげた。

一九五九年三月二十五日、金日成首相は城川江（ソンチョン）畔の龍興か原におもむいた。首相は沼が多く葦の生い茂ったこの広大な野原をみずから踏査し、ここにビナロン工場の敷地をさだめ、その建設方針を具体的にしめした。

首相は建設工事のプランが正確であるかどうかを再三確認したのち、一万トン能力ではなく二万トン能力のビナロン工場を建設すべきであるとのべた。

やっとのことで一万トン級の工場建設案をたててきた科学者たちは、そうすることができるか、とたずねる首相

のといに、とっさにはこたえられなかった。

首相は当惑する科学者たちを見まわしながら、二万トン級が十分に可能であることを具体的に説明し、その経済、政治的意義を強調した。それればかりか首相は、建設が終われればその勝利を祝う操業式を大々的におこなおうといいながら、いまから操業式の準備をととのえておいた方がいいだろうと語ったのである。

首相は、すでに、龍興か原にそびえたつ大ビナロン工場をありありと脳裏に描いていたのである。首相のこの確信にみちたことばをきいて、科学者たちの胸中にも確固とした勝利の信念が燃えさかった。

金日成首相は建設に必要な一切の準備がととのうと、一九六〇年初頭に「ビナロン大戦闘」の一大運動を組織した。

ビナロン工場建設は、ほとんど前例のない大規模な建設であった。工事期間中に八十六万三百十立方メートルの土を処理しなければならなかった。これを一メートル四方の堤防に換算すると清津(チョンジン)から高原、ピョンヤンをへて開城(ケソン)にまで達する量である。九万二千余立方メートルのコンクリート使用量は、周囲一メートルの柱になおせば白頭山の三倍の高さになるぼう大な量であった。つかわれた煉瓦は、千八百七十五万トンにものぼり、これを一列にならべると、ほとんど地球を一周する数であった。設計図だけでも一万二千余枚に達し、これは三百余名の有能な設計者集団が二～三年かかって、やっとできる設計量であった。

しかし金日成首相は、このぼう大な建設を完遂させる正確な目算をたてていた。

首相は、科学技術分野の成果と強力な重工業、なかでも機械製作工業の強固な基地があること、以前からこの工場の建設を準備し、それがかなりの程度にまで進捗していたことなどの客観的条件を正確に分析し、大衆を革命的大高揚へとふるいたたせる党と、党の意図を最後までつらぬく労働者階級を先頭とする勤労大衆のかたい決意、そのつきぬ創造力を信じていたのである。

建設場は工事に着手した最初の瞬間から、領袖の偉大な構想を一日も早く実現しようとねがう建設者たちの革命的熱意でわきたった。

工事がはじまった直後、首相は建設場をおとずれた。

八・一五解放十五周年慶祝大会において、党の自主的祖国統一方針をいま一度明らかにし、つづいて千里馬作業班先駆者大会の席上で革命的高揚をよびかけた首相は、八月二十八日、龍興か原に姿を見せたのであった。

首相は労働者たちと握手をかわしながら、からだは大丈夫か、子どもたちも元気か、とかれらの労をねぎらった。また、建設にたちあがった軍人たちの泥にまみれた手をにぎりしめては、からだに気をつけるのだ、つらくはないか、食事と睡眠を十分にとっているか、困難な問題はないか、などとたずね、かれらの生活のすみずみにまでこまかく気をくばった。

首相は建設者たちに、ビナロン工場がもつ意義を十分に知って建設に参加することがたいせつであると語り、もっと早く、いっそう堅固に、より美しく建設するようにとかれらをはげましながら、党と祖国のために、人民のしあわせのために服務することほど貴いことはないと、くりかえし強調した。

首相は建設場をつぶさに見てまわり、工事の進行状況を具体的にしらべたのち、現地でビナロン工場建設関係者会議をひらいた。首相ははじめ、この会議を二日間にわたっておこなう予定であったが、一日だけで終わらせた。討論にくわわった人びとや列席した人びとは、首相が提起したすべての課題を期限内に完遂することを決議した。かれらの意気ごみは天をも衝かんばかりであった。

これをみた首相は、それ以上会議をつづける必要を感じなかった。

首相は国中をビナロン工場建設へとたちあがらせた。

「すべてをビナロン工場建設へ！」

首相のこの戦闘的なよびかけにこたえて、全国がいっせいにたちあがった。各地から組立工、木工、溶接工たちが先をあらそって建設場にかけつけた。徳川(トクチョン)自動車工場をはじめて、全国各地から八十余台の自動車と千五百余台のどっしりとした建設機械が、地軸をゆるがせながら建設場にあらわれた。

機械工場や金属工場をはじめ、三百余の企業所もビナロン工場建設を支援した。龍城(リョンソン)、北中(プクチュン)、楽元(ラクウォン)などの機械工場をはじめ、各機械工業部門の労働者たちは、数千におよぶ精密で複雑な現代的機械設備と資材を、金属工業の労働者たちは各種の鉄材と鋼材を、建設工場と林山事業所の労働者たちはばく大なセメントと木材を、それぞれ建設場におくりこんできた。

かれらは一万二千余車両の機械と化学装置、設備と資材などをビナロン工場建設場に供給した。

ビナロン工場建設場には軍人もかけつけ、農民や青年たちもやってきた。咸興市の市民、家庭の主婦たちも建設者たちをたすけ、全国各地から数多くの人びとが休暇をとっては建設に参加した。芸術家たちも、夜は建設者のために公演をおこない、昼はかれらといっしょに働いた。

全国的な支援のもとに、建設場は炎のるつぼと化した。建設場には昼と夜の区別がなかった。

建設者たちは、八月に首相がここをおとずれたとき誓った決意どおり、一九六一年のメーデーまでに工場を竣工させるため、ひた走りに走った。

「八・二八突撃隊」、「白頭山突撃隊」をはじめ馬東熙(マドンヒ)、朴吉松(パクキルソン)など、不屈の共産主義闘士の名を冠した二百余の突撃隊が編成された。かれらはわずか一日で一万余立方メートルの土を掘りおこし、五百から六百立方メートルのコンクリートを流しこんで基礎をうちかため、十万余枚の煉瓦をつみあげた。

かれらは、日本帝国主義の植民地時代には一年以上はかかるものとされていた、高さ四十メートルの煙突をわずか十三日間でつくりあげた。

科学者と技術設計の働き手たちも、事務室の机にすわってばかりいなかった。かれらは建設者と寝食をともにしながら難関を解決していった。数多くの創意と考案がすぐさま作業に導入され、作業能率をつぎつぎに高めていった。

こうしたなかで、門型起重機が七・五トンの敷板を三十メートルの高さまでもちあげ、二階、三階、四階建ての建物を組立てるという独創的な建築法を生んだ。

ここでは一日の作業計画を五〇〇パーセント超過完遂することがあたりまえのこととなり、一〇〇〇パーセントを超過しても話題にならず、ついには三五〇〇パーセントをこえる「ビナロン速度」を生みだして世上を驚嘆させたのであった。

こうした奇跡には、感動的なエピソードや英雄的な逸話が数多くひめられていた。

ある機械設計士は合成塔設計をうけもったとき、国の実情にそくした設計図をつくるために数多くの工場、企業所をたずね歩き、見たこともきいたこともない数百種の機械を研究し、ついにこの設計を完成させた。かれは資材を節約できるよう設計するために、半月のあいだに寝食を忘れて仕事に没頭し、過労がたたってついにたおれてしまった。同僚がかれを病院にはこびこもうとすると、かれはがんとしてこれをこばみ、つぎのように語った。

「ぼくは戦線で入党した党員なのだ。メーデーまでに工場を完成せよという党と首相同志の委任を完遂できないまま、病院にゆくことはできない」

工場も完成に近づいた一九六一年三月二十三日、五階建ての醋酸精溜職場建設場では、危険このうえない事態が生じた。四～五階にまでとどく九トンの巨大な柱がかたむいてしまったのである。四階の頂上からは「ワイヤーをつかめ」という労働者の叫び声がきこえてきた。これをきいた人民軍の兵士がワイヤーにとびつき、力いっぱいひっぱった。しかし一人だけの力では、九トンもの柱をもちこたえることはできなかった。二メートル、三メートル

……かれは容赦なくひきずられていった。しかしかれはただ、「どんなことがあっても、ワイヤーをはなしてはならない」という一念で死をもおそれず、自分の腕にワイヤーをしっかりとまきつけ、最後までそれをはなさなかった。かれの犠牲的な行為によって事態は収拾され、大事故は未然にふせがれた。

このように、ビナロン工場の建設は、金日成首相のすぐれた指導と、首相の高い志をうけてたちあがった全国の勤労者、ビナロン工場建設者たちの英雄的で犠牲的な闘争によって完成されていった。

沼と湿地と葦の荒野であった龍興か原には、雄大なビナロン工場が労働党時代の記念碑として毅然とそそりたった。

敷地総面積数十万平方メートルの広大さを誇るこの工場は、その建物の数だけでも大小数十に達する。これらの建物には数えきれないほどの精密機械と装置がすえつけられ、これが複雑にいりくんだながい排管で連結されている。工場の全工程が能率的かつ経済的な最新式工程となっており、これらすべての系統が流れ作業でむすばれ、各工程はすべてオートメーション化されている。

ビナロン工場は、その規模の大きさと現代的な設備において、世界でも第一等級の大化学工場である。このような誇るべき工場を、北半部の人民はみずからの科学技術、みずからの設計、みずからの力によって、着工後一年たらずのあいだに、それも本格的な施工からはわずか半年といういみじかい期間に完成させたのであった。

ビナロン工場はじつに、朝鮮人民の敬愛する領袖金日成首相の革命思想、主体思想によって建てられた主体的工場であり、自立的民族経済の土台があったからこそ建設できた自立的民族経済の縮図であった。

したがってこの工場が、名実ともに朝鮮的な工場となったのは当然のことであり、それが朝鮮人民の誇るべき工場であることは、これもまた当然といわなければならない。

ある外国の訪問者も、動かしがたいこの現実をたたえながら、ビナロン工場は「ビナロンの科学的発見の過程に

はじまり、設計、建設、設備製作にいたるまで、すべてが朝鮮の技術者、労働者たちにより、世界的規模で建設された完全に朝鮮的な化学繊維工場」であると指摘した。

北半部人民は、世界でも一等級の大ビナロン工場をみずからの力で建設することによって、朝鮮人民の革命的気概を全世界にしめし、敬愛する領袖と朝鮮労働党のまわりに鉄のごとく統一団結した朝鮮人民の偉力をいかんなく示威したのであった。

金日成首相は、ビナロン工場竣工式を終えた翌日の七日、ふたたびビナロン工場竣工を祝いながら、五月の労働者の祝典、メーデーを記念する咸興市群衆大会に参席した。

首相は、メーデーの群衆大会において、『化学工業をいっそう発展させるために』と題する演説をおこなった。

首相はこの演説で、ビナロン工場建設についてくわしくのべながら、ビナロン工場の建設は化学工業の建設における大きな大学であり、科学技術が達成した巨大な成果であり、科学技術の急速な発展をしめす明白なあらわれであり、国を現代的工業国家に発展させるための朝鮮労働党の政策の結実の一つであると指摘した。

首相は七か年計画における党の基本方針にふれながら、今後、化学工業をさらに発展させるための大きな展望についてくわしくのべた。

首相は七か年計画期間に党が提起した重要な課題が、化学工業を急速に発展させる人民経済の全面的な化学化を促進させることであると指摘しながら、

「われわれは七か年計画期間内に咸興地区の化学工業基地をさらに強化し、咸鏡北道阿吾地（アオジ）地区と平安北道博川（パクチョン）地区に大規模な新しい化学工業基地を創設しなければなりません。

……咸興地区の建設者たちと勤労者の前には、ビナロン工場第二段階工事をひきつづき推進し、年産二万トンの生産能力を最短期間内に完成し、新しく一万トン生産能力をもつビクロン工場を建設する課題が提起されていま

す」とのべた。

金日成首相の演説は、咸興地区の人民を新しい偉業へとふるいたたせるアピールであった。

咸興の勤労者たちは、首相のかぎりない信任に歓呼をもってこたえ、首相が明示した新しい課題を遂行する誓いもかたく示威行進に参加した。二十万の群衆の示威行進がはじまった。

金日成首相は、龍城、興南(フンナム)、本宮(ボングン)の、「ビナロン都市」の労働者階級と協同農民、青年学生、労農赤衛隊などの隊列が主席壇のまえをとおるたびに、手をあげて答礼をおくった。群衆の示威はときがたつにつれますます高潮していった。この日、保健関係の働き手たちの示威隊列はとくに大きな拍手と注目をあび、異彩を放った。

「人間への愛!」とかかれたスローガンを先頭に、白衣の保健部門の働き手たちの隊列は、花で飾った山車(だし)を肩にのせて

メーデー咸興市群衆大会主席壇で
方夏秀少年と共にいる金日成首相

主席壇のまえまでくると、いったんそこでとまった。

すると、一輪の大きな造花のなかから、興南肥料工場病院の二重千里馬外科科長と看護婦、咸興医科大学の学生とともに、方夏秀(バンハス)少年が姿をあらわし、花束をかかえて主席壇にむかった。

瞬間、群衆はうしおのように主席壇のまえにおしよせ、示威隊列もとまった。

花のなかからでてきた方夏秀少年ら四人が、花束をかかえて主席壇に走りよった。

三度火傷が全身の四八パーセントにもおよぶ致命傷をうけ、死境をさまよっていた方夏秀少年――、人間へのかぎりない愛に燃える赤い医療集団、労働者、学生たちの輸血と皮膚の移植によって、労働党の息子として蘇生(そせい)したこの少年は、自分の命を救い、愛情の根源を育ててくれた父なる領袖のふところめざして、いまかけていくのであった。

満場の歓呼につつまれながら、四人は主席壇にのぼっていった。

金日成首相は、走りよってくる方夏秀少年を見つめ、亡くしたわが子をふたたびとりもどたし父親さながらによろこび、「おお、おまえが方夏秀なのか、さあここへおいで」といいながら少年をだきあげ、主席壇の演壇のうえにすわらせた。首相は少年の頭をなでながら、「そう、おまえは労働党の息子なのだ」と、いくどもつぶやくのであった。

首相は、少年の命を救った人たちを、「みなさんは真の共産主義者です」とたたえ、医科長と学生の手をとって、ともに歓呼する群衆に答礼をおくった。

熱いものが人びとの胸をうった。この瞬間、群衆のだれもが心の底で泣いた。

人民にたいする領袖のかぎりない愛情、領袖にたいする人民のかぎりない忠誠心と信頼――、これこそが朝鮮の力の源泉であり、これがあればこそ朝鮮の未来はかぎりなく美しいのである。

城川江畔の龍興か原で挙行されたビナロン工場竣工式と、咸興市二十万市民の群衆大会は、いま一つの奇跡を生

みだした朝鮮人民のよろこびの示威、自立的民族経済の偉力の示威であり、人民を指導してこの偉力を生ましめた敬愛する領袖への頌歌であった。

こうして難関のなかできたえられながら、勝利の道をまっしぐらに駆けてきた朝鮮人民は、領袖がさししめす新たな勝利――、七か年計画の高地をめざして力強く前進していった。

6　人民生活にたいする肉親的配慮

「……こんにち、わが勤労者は、どうすればよりりっぱな暮らしができるか、どうすればこのすばらしい世の中で末ながく生きることができるかということに考えをめぐらせており、かれらの生活は希望にみちた明るくたのしいものになりました。人びとがあらゆる搾取と抑圧から解放され、失業と飢餓のおそれを知らず、なに一つ心配なくともに働き、ともに学び、だれもが幸福に暮らしているということが、こんにちの北半部の現実であり、社会主義制度下におけるわが人民の生活であります」

これは、金日成首相が八・一五解放十五周年記念慶祝大会でおこなった報告のなかの一節である。

人民のこうした幸福、とくに、安定した希望にみちた生活は、自立的民族経済の確固とした物質的土台のうえに花ひらいたものであった。

金日成首相は、戦後に遂行された三か年経済計画期間に自立的民族経済の土台を構築して人民生活をいちじるしく改善し、貧農を完全になくしたが、五か年計画期間には、自立的民族経済の土台をさらに強化して人民の衣食住の問題を基本的に解決し、農民の生活を全般的に中農の水準にまでひきあげた。

これはじつに、人民の物質的文化生活にもたらされた世紀的な変革であった。

社会主義制度が樹立され、国の経済力が強まるにつれて人民の生活がゆたかになるのは当然のことであるが、共和国北半部の人民がいとなむ幸福な生活を、たんに社会制度や経済的な威力だけで説明しようとするならば、それは大きな誤りである。

同じ社会経済的条件のもとでも、人民がゆたかに暮らせるかどうかということは、その国の指導者の政策と路線、配慮などによって大きく左右されるものであり、朝鮮人民の幸福な生活は、すべて、偉大な領袖金日成首相の正しい指導と肉親的配慮によってもたらされたものにほかならない。

人民がこよなく敬愛する金日成首相は、人民生活をたえず向上させることを自身の革命活動の最高原則とし、直接の目的としていた。

首相はこう語っている。

「マルクス・レーニン主義党がひとたび政権をにぎった以上、人民の生活にたいして責任をもち、かれらの物質、文化的福利を体系的に高める義務をもつものである」

首相はいかなる政策、路線を作成するにあたっても、人民の生活をまず考え、工場や農村で現地指導をおこなうときにも、つねに人民の暮らしを念頭においていた。

金日成首相は、まず第一に、経済発展と人民生活の向上を大きく左右する蓄積と消費を、社会主義経済建設の基本路線にしたがって合理的に調節した。

首相が堅持した原則は、経済土台を強化し、人民生活向上の源泉となる蓄積を急速に増大させながらも、同時に人民生活の当面の需要をみたすために消費をものばしていくことであった。

首相はつぎのようにのべている。

「われわれは蓄積なしに収入を食いつぶしたり、消費してしまうというような政策を実施することはできませ

ん。必ず将来のために、わが国の繁栄のために、国家の工業化のために、また、社会主義の基礎をいっそう強化するために、たえず蓄積をふやしていかなければなりません。蓄積ももちろん、人民のためにおこなうものです。ただ時間的にみて消費との差異が生ずるにすぎません。

いいかえれば、消費は当面の需要をみたすのに反し、蓄積は人民生活を系統的に向上させるためのものでありま す。われわれは将来のために、さらに蓄積をふやさなければなりません。

だからといって、蓄積だけにかたより、将来のみを考えて、当面の人民生活をかえりみないようなことがあってはなりません。したがって、いままでもそうでありましたが、蓄積と消費の均衡を正しく保ち、経済建設と人民生活にたいする問題を合理的に解決することがきわめて重要であります」

金日成首相は、国民所得の約四分の三は消費に利用し、のこりの四分の一を蓄積にまわすことを原則とした。この原則は党の経済建設の基本路線に具現されたし、経済土台の強化と人民生活の向上を急速かつ順調に解決することを可能にした。

金日成首相は蓄積と消費の相互関係を正確に調節したばかりでなく、消費量を正確に分配し、すべての人びとが均等にりっぱな暮らしができるようにした。

だれもが衣食住の心配もなく暮らせるようにするために首相が堅持した原則は、消費量の分配において「……すべての部門の労働者の賃金比率をいっそう合理的に調節し、異なる地域の農民の収入を平均的に向上させ、同時に労働者、事務員および農民の生活をもすべて均衡的に高める」ことであった。

首相は社会主義分配原則を徹底的につらぬき、労働の質と量に応じて消費量の分配をいっそう正確にし、人民経済各部門間における労賃の均衡をしっかりと保障することによって、最低賃金と最高賃金の差をちぢめるよう調節するとともに、低い単位の賃金を系統的に高める措置をとった。

一方、労賃はこれを体系的にひきあげ、物価は大はばにひきさげ、労働者、事務員の税負担を系統的に軽減していった。

その結果、住民から徴収する税金は国家予算の収入総額のわずか二パーセントにすぎず、労働者、事務員の実質賃金は、一九四九年にくらべ、一九六〇年には二倍以上に増加した。

金日成首相は、労働者、事務員の生活をひきつづき高めながら、農民の生活を早急に改善することに力をつくした。

首相は、労働者と農民とのあいだにみられる生活条件と水準の差をなくすことを、都市と農村間の差、労働者階級と農民との階級的差をなくし、社会主義、共産主義を成功裏に建設する問題であるとみた。

首相はつぎのように指摘している。

「社会主義国家は、労働者、事務員の生活ばかりではなく、農民の生活についても責任をもち、全人民的所有の発展ばかりでなく、協同的所有の発展についても責任をおうものである」

金日成首相はこうした原則にもとづいて、協同農場に国家的支援をさらに多くあたえるための、積極的な対策をたてた。

これと同時に、山間部では山を合理的に利用し、海の近くでは海を利用する方針を実践するように導いていった。

その結果、農民は平野地帯ばかりでなく、もともと土地がやせて人の住めそうもない地方や山地、それに耕地の少ない海岸地帯など、すべての地域で高い所得をうることができるようになった。

金日成首相は、人民生活を向上させるうえで生産と消費をつなぐ環である商業をも重要視した。

首相は、「社会主義商業とは、その本質上、住民にたいする供給事業」であると教えた。ここには勤労者の福祉

増進と生活上の不便をなくすことをめざす首相の深い配慮がこめられている。

首相は人民がどこででも、四季の区別なく好みにあう商品を入手することができるように、白頭山のふもとにある四、五軒の林産労働者の村にも、東海岸よりにある小さな農村にも商店をつくり、こうした村の商品価格をピョンヤンやその他の都市の商品価格と同じ価格に統一した。

金日成首相はつぎのようにのべている。

「……社会主義商業は、勤労人民の利益のために、かれらの生活を向上させるために奉仕することを目的の基本としています。勤労人民の住むところならば、どんな山間僻地であろうと、そこに商店をもうけるということは人民の生活上の便宜をはかるためであり、計画的に供給し、すべての勤労者に均等にその消費量がゆきわたるようにしようとするものです」

首相はつねに、工場で生産される製品が人民のあいだにきちんとゆきわたっているかどうかを視察した。首相は現地指導にでかけるときには必ず商店にたちより、どんな商品がよく売れるかをたずね、味噌や醤油の味までためすほど商品の質に深い関心をよせ、平凡な店員たちとも国の生活全般について話しあったりした。

金日成首相は、農村の名もない一店員をまねいて、商業問題を討議する全国家的会議に参席させ、国の生活についてともに討議したこともあった。

金日成首相は、個人消費量の分配と同時に、社会的もしくは国家的負担によって全人民の物質、文化的福利を増進させるうえでも大きな配慮をめぐらした。

北半部における社会的恩恵は、社会にたいする労力的寄与いかんにかかわりなく、すべての人民にほどこされ、それはまた、社会の共同的需要を充足させるうえで役立っている。したがって、こうした社会的恩恵は事実上、共産主義の萌芽であるということができる。

このように首相は、共産主義を未来の課題としてとどめておくのではなく、共産主義的要素を朝鮮の現実にそくして独創的に創造したのである。

首相は、社会主義をりっぱに建設し、共産主義を成功裏に実現するために、また住民の生活を均等に向上させるために、勤労者にたいする社会的恩恵を増大させていくことに多大の配慮をしめした。

その結果、人口の四分の一にあたる二百六十九万名の学生たちは、人民学校（日本の小学校にあたる）から大学にいたるまで無料で、奨学金まで支給されながら学び、子どもたちは生まれたときから託児所、幼稚園で、これも国の費用ですくすくと育っているのである。

国家はまた、労働者、農民の衣食住に深い配慮をほどこしている。これは前例のない人民的施策である。

労働者、事務員、学生たちは、その家族数に関係なく、すべてが国の負担で十分なだけの食糧を、ほとんど無料で供給されている。学生には季節ごとに新しい制服と外套まで無料または無料に近い廉価で支給されている。

全国いたるところに病院と診療所が設けられ、だれもが無料で治療をうけている。子どもの多い母親たちは六時間労働で、妊婦たちは産前産後七十七日間の有給休暇があたえられている。

金日成首相は、勤労者の労働保護ばかりでなく、社会保険および社会保障事業にも大きな国家的配慮をよせている。労働者、事務員、農民は無料で休養所、静養所などで休息することができ、身寄りのない老人には余生を平穏におくることのできる養老院があり、父母のない子どもたちには孤児院が完備され、国の保護のもとで心ゆくまで学ぶことができるようになっている。

都市の住民や農村の住民をとわず、すべての人びとには国家負担で建てられたアパートや文化住宅があたえられ、労働者、事務員の住宅使用料は生計費の〇・三パーセントにすぎない。これに電気、水道および燃料代をくわえても住宅使用料は生計費のわずか三パーセントをでない。しかも農民は国家から無料で文化住宅をうけ、無料で

使用している。

こうした大きな社会的恩恵は、すべての人民が社会主義制度の優越性を心ゆくまで味わい、だれもが幸福で希望にみちた生活ができるようにとねがう、金日成首相の人民的施策とあたたかい配慮とによってもたらされたものである。

人民生活の向上をめざす首相の独創的な方針のおかげで、北半部の人民は子どもから青年学生、老人にいたるまで、家族数の多少にかかわらず、肥沃な平野地帯や耕地の少ない山間僻地とをとわず、どこでもだれもが心ゆくまで働き、学び、失業と貧困を知らず、なに一つ心配なく、希望にみちた生活をいとなんでいる。だからこそ朝鮮人民は、この社会をさして、「地上の楽園」とよんでいるのである。

搾取と圧迫のない社会、このようにしあわせに暮らすことができるのは、父なる領袖と、その指導のもとにある労働党によってもたらされたということをあまりにもよく知っているがゆえに、朝鮮人民は、領袖と党のために、より希望にみちた未来のために、革命の終局的勝利のために一身をなげうってたたかっているのである。

このように、金日成首相が社会主義制度の優越性を最大限に発揮させ、人民の生活問題をりっぱに解決したことは、社会主義、共産主義建設にかんする理論および実践的内容をゆたかにした、いま一つの生きた模範となるものである。

朝鮮をおとずれて、金日成首相の人民的施策に感動したナイジェリアのある訪問客は、つぎのように語っている。

「わたしは子どものころ、『バイブル』で『天国』があるということを読んでひどくあこがれたものだった。しかしその『天国』は話だけで、実際に見たこともないし、またそこへいった人もいなかった。ところがわたしはいま、千里馬朝鮮で、かつてわたしが、あんなにもあこがれていたその『天国』を見たような気がする。

朝鮮の社会制度はなんとすばらしいことか……」

一九五八年、南朝鮮から北半部へ亡命してきた旅客機に一人のスチュワーデスがのっていた。南朝鮮で生活してきた彼女は、北半部人民のすべてがのびのびと誇りにみちて働き、衣食住の心配が少しもないことにおどろいた。彼女は、北半部にはとくに美しく着かざった人もいなければ、とくに貧しい服を着た人もいないこと、商店には「豪華」な商品がないかわりに、日常生活に必要な物資は豊富であること、とくに衣食の問題で基本となる米と服地がゆたかであることをひどくうらやんだ。

金と権力のあるものには「天国」であるが、絶対多数を占める労働者、農民をはじめ勤労人民には地獄である南朝鮮で、街や村をさまよう失業者と絶糧農民、乞食と浮浪者と孤児を見なれてきた彼女が、北半部人民の幸福な生活を見て驚嘆と羨望の念をかくすことができなかったのは、あまりにも当然なことであった。

四千万朝鮮人民の偉大な領袖である金日成首相は、北半部人民の生活が向上すればするほど、飢餓と貧困にあえぐ南朝鮮の同胞に思いをはせ、心を痛めるのであった。首相は、咸興に大ビナロン工場を建設するにあたっても、着のみ着のままの南朝鮮同胞の分まで予見したし、岐陽トラクター工場を建設するときにも、嶺南(リョンナム)（慶尚南北道）や湖南(ホナム)（全羅南北道）平野の農民たちのトラクターのことも考えにいれていた。

首相は、信川の一農場に新しく建てられた文化住宅で、農民たちと夕食をともにしたあと、床についてからも南の地の農民に思いをはせては眠られぬ夜を明かし、開城の松都(ソンド)大学の学生たちと一日をすごしながらも、南半部をかたときも忘れることができないと語ったのである。

ファショ的暴圧と搾取、飢餓と貧困にあえぐ南半部の人民に思いをはせる首相が、そのあたたかい救援の手をさしのべたのは、またいくたびであったことか！

金日成首相は人民の生活が向上すればするほど、かれらにさらに大きな幸福とよろこびをもたらすために全力を

かたむけた。
きのうは興南の労働者たちや茂山の鉱夫たちとともに家庭生活について語り、きょうは山奥の昌城の人びとの生活を気づかって狼林山脈のけわしい峰々をこえた。つねに国中をたずね歩き、人民生活の向上に力をつくすことを日課とする首相であった。
一九五七年六月のある日、カモメさえまだ目を覚ましていない夜明けまえの海辺で、首相はコートのすそを露にぬらしながら西海の小さな漁港をたずねた。
たったいまおきたばかりの漁夫たちは、舟底の魚を甲板にすくいあげたり、網をつくろったりすることに余念がなかった。
船首の方へゆっくりと足をはこんだ首相は、「この船はどこの船ですか？」とたずねた。
こんな早朝から、まさか首相が船べりにたって話しかけてこようとは思ってもいなかった漁夫たちは、首相のことばには返事もせず、そのまま仕事をつづけていた。
「この船はどこの船ですか？」
首相がもう一度同じことをたずねたとき、だれがこんな朝早くから、わかりきったことを聞くんだといわぬばかりにやっと一人の漁夫が、ふりかえりもせず、
「組合の船じゃて！」とこたえた。
「それで、魚はたくさんとれますか？」
「そんなこたあ、漁にでてみなけりゃわかりませんな！」
「いや、いままでにとれた魚のことですよ、どれくらいとれたんですか？」
「そんなこたあどうだってかまやしねえ、これからとりまくるんじゃ。……」

「どうして漁がうまくいかないんですか？」

「うまくいかないこたあないやね。まえにくらべりゃ何倍もよくなっているがね。しかし、まだまだじゃ……。わしら、首相さまのおことばどおり、たくさんとるためにゃ、もっと早く海にでなきゃならないんじゃが……」

日がさしのぼり、濃い霧もしだいに晴れてきた。

「ちょと見せていただけませんか？」

金日成首相は踏み板をしなわせながら船にのぼった。

「あっ、首相さま!!」

漁夫たちは、びっくりした。かれらは、いままでことばをかわしていた当の本人が、夢にも忘れることのなかった金日成首相であることに気づいてあわてふためいた。

首相は、「朝早くからご苦労です」といいながら、漁夫たちの骨ばった手をかわるがわるにぎった。

人民に十分な米と魚肉類を供給するために、早朝からへんぴなこの漁港をたずね、漁夫たちをはげます首相をむかえたかれらは、大きな感激と興奮につつまれた。

金日成首相は船底をのぞきながら、「とれた魚を見せてくれませんか？」といった。漁夫たちは、おとなの腕ほどもあるイシモチを二四、首相のまえにもちだした。

「ほう、りっぱな魚ですね、もっとたくさんとる方法はないものでしょうか？」

イシモチを手でさわりながらこう話す首相の顔には、より多くの魚を人民にあたえたいとねがう切々とした心情がやどっていた。

漁夫たちは首相の質問にこたえて、困っている問題をくわしく話した。

金日成首相はかれらの話をききながら、それを一つ一つ解決していった。

数十年を漁労にたずさわってきた漁夫たちではあったが、かれらも海の幸（さち）を全人民の生活とむすびつけて、これほどまでに考えたことはなかった。漁夫たちは目がしらを熱くした。

首相は、ちょうど二か月前である四月に党中央委員会総会をひらいて、水産業を大きく発展させるために慎重な討議をおこない、これにかんする決定書を採択したばかりであった。

朝早く船上で漁労工と話をかわす金日成首相

人民の生活向上を最高の念願とする首相は、五か年計画期間内に年間五十～六十万トンの漁獲量をあげることによって、一人当り六十キログラムの魚を保障すべきであると提起し、その具体的な方法をも明らかにした。だが首相はそれだけではあきたらず、こうしていま漁港をたずね、みずから指導しているのである。

首相が人民生活のたえまない向上のためにしめした配慮は、到底そのすべてを語りつくすことができない。

一九六三年六月二十五日、首相は数名の畜産部門の幹部たちと協議会をひらいたことがあった。そのとき、首相の机のうえには家禽業と畜産業にかんする各種の資料が数十件つまれてあった。

関係部門の幹部たちが席につくと、首相は静かな

語調でつぎのようにのべた。

「きょう、みなさんをここへよんだのは、人民にもっと多くの肉類を供給できるよう、いっしょに協議するためです。……齢五十にもなって、まだ十分に、人民に肉をたべさせることもできないのが、気にかかってならないのです」

会議に出席した人びとは、目がしらがうるむのをどうすることもできなかった。

首相は席上、肉類をより多く供給するためのもっとも適切な方法は、家禽の飼育をのばすことであると指摘しながら、鶏を飼うことの有利さと、家禽飼育の大きな展望についてくわしく説明した。

首相はその後、みずから全国の牧場を現地指導しながら、新しくつくられる数多くの牧場と原種場、配合飼料工場などの敷地までもさだめたのであった。もっとも現代的なピョンヤン家禽牧場はこのようにしてつくられ、そして発展した。

一九六七年七月、金日成首相はこの牧場を再度おとずれた。牧場の実態を具体的に調査した首相は、鶏卵生産計画がまだ消極的であると指摘しながら、支配人にこうたずねた。

「いま鶏卵一つの原価はいくらぐらいですか?」

首相は支配人のこたえをきき終わると、原価を半額以下にさげなければならないと強調した。これは生産を高めるだけでなく、人民が卵の値段に負担を感じないほどに原価をさげて、肉類と卵が毎日食卓にのぼるようにするための指示であった。

首相の偉大な構想と具体的な指導のもとに、全国各地に豚と乳牛、鶏肉と卵、ウサギ、アヒルなどを生産する数多くの牧場が新しくつくられた。

瓦ぶきの家で白米のご飯と肉料理をたべ、絹の服を着て暮らしたいという朝鮮人民のむかしからのねがいが実現

される日は目前に迫っていた。

牧場ばかりでなく、都市の周辺と労働者地区ごとに噴水式灌漑システムを導入した野菜供給源が完備され、いたるところに果てしない果樹園がつくられた。

北半部人民の生活はきょうもゆたかであるが、明日はさらにゆたかで美しいものになることであろう。

こうしたすばらしい成果が、たちおくれた経済をひきつがされ、そのうえ戦火による全般的な復旧期をへなければならなかった北半部において、さらには新たな戦争挑発に見さかいのないアメリカ帝国主義者と直接対峙している情勢のもとでなしとげられたという事実を考えるとき、その成果はいっそう高貴で驚異的なものであり、人民を指導してこのような革新を創造した金日成首相の業績は、いっそう偉大であるといわなければならない。

人民にたいするかぎりない愛情と厚い配慮——、これは金日成首相の革命活動の全過程をつらぬく一貫した原則である。白頭山の峻嶺を踏みわけて日本帝国主義侵略軍を撃破し、十五星霜のたたかいの年輪を刻みつけてきたのも、人民がしあわせに暮らす世の中を築くそのためにほかならなかった。

「われわれの目的は、革命を達成して祖国をとりもどし、すべての人民がしあわせに暮らせるようにすることにある。……われわれは困難で苦しいときには、奪われた祖国、敵に踏みにじられている故郷の山河、着のみ着のままで飢えにさらされた父母と妻子のことを考えよう!……

すべての人民が十分にたべられ、りっぱな服を着て、しあわせに暮らす輝かしい未来を考えよう」

一九三五年、北満遠征の困難な時期に、首相はこのように語ったのである。

むかしの人は、偉大な人物をさして、天が生んだ人だと素朴に信じ神格化した。

しかし、金日成首相は貧しい農家に生まれ、苦しみと艱難に痛めつけられた人民の生活を自身の体験をつうじて知りつくしているがゆえに、かれらを幸福な生活に導くためすべてをなげうってたたかい、きょうもまた人民の家

庭生活と子どもたちの服やはきものにまで気をくばり、深慮しているのである。
つねに人民と苦楽をともにし、素朴で質素な生活をおくるそのことによって、よりいっそう偉大で身近な人民の領袖金日成首相の厚い配慮と大いなる愛情につつまれ、朝鮮人民の生活は日ましに、ますます爛漫と咲きつづけていくであろう。

7 「一番よいものを子どもたちに」

子どもたち――、それは金日成首相にとってかけがえのない愛の対象であり、子どもたちに一番よいものをあたえることは、犯すことのできない原則となっている。
じつに、子どもたちにたいする首相の厚い愛情と配慮は、かぎりなくひろく、深い。
首相はつぎのようにのべている。
「わたしたちがいま、苦労しながら新しい社会を建設しているのはいったいだれのためでしょうか？　もちろん、わたしたち自身のためでもありますが、主としては、わたしたちのつぎの世代のためであります。わたしたちは、いま植えたばかりのリンゴの木からその実をとってたべることもありますが、しかしそれはわたしたち自身のためであるというより、つぎの世代のためであるという方が、より正しいのです。いまわたしたちは、大同江のほとりにりっぱな遊歩道をつくろうとしていますが、これもすべて、わたしたちがうけついだものがあまりにも貧弱だったからです。ですから、いまは多少の苦労をしても、わたしたちの世代がたくさんの仕事をやりとげ、つぎの世代に、りっぱなものをのこしてやらなければならないのです」
この首相のことばには、子どもたちにたいするつきない愛と思いやりがこめられている。

金日成首相は革命活動の初期から、共産主義者が真っ先にめぐらす配慮の対象は子どもたちであると教え、どんな困難な状況にあっても、一番よいものは、まず、子どもたちにあたえてきた。

首相は抗日武装闘争の苦難にみちた日々、遊撃根拠地が焼かれ、食べものすらなく、おとなたちが飢えと寒さにふるえているときでも、子どもたちのためには学校を建ててやり、食べものと着るものをあたえ、かれらが飢えと寒さを知らず、心ゆくまで学び、思う存分に遊べるように心をくだいた。

首相はまた、敵の襲撃があるたびに、まず子どもたちの安否をたずね、リンゴ一つが手にはいっても、それを子どもたちに食べさせた。

こうした配慮は、首相が祖国に凱旋して新しい社会を築きあげたのち、いっそうひろく、いっそう深まっていった。

祖国に凱旋してまもなく、首相は名もない山間僻地の雑草をかきわけて学校の敷地をさだめ、子どもたちを知、徳、体をかねそなえたりっぱな人材に育てなければならないとのべ、建国の初期には北朝鮮臨時人民委員会を創建し、その第一回会議で、子どもたちのために鉛筆工場を建て、質のいい檜柏の木で鉛筆をつくることを重要な課題として討議した。

国中が砲煙につつまれた祖国解放戦争の時期にも、首相はみずから炎のなかをくぐって地下教室をたずね、湿気が多くはないか、教科書やノート、鉛筆はみなそろっているかと気をくばり、子どもたちの生活と学習条件をこまかく見守り、戦火のなかで父母を失った子どもたちのためには、特別に数多くの学園を建ててかれらをむかえ、肉親にまさるとも劣らないいつくしみのなかで子どもたちをはぐくんでいった。

そして停戦後、まだ内閣の庁舎や国家機関が防空壕や臨時の建物のなかにあった困難なときでも、首相は真っ先に、子どもたちの学校や幼稚園、託児所から建設をはじめた。

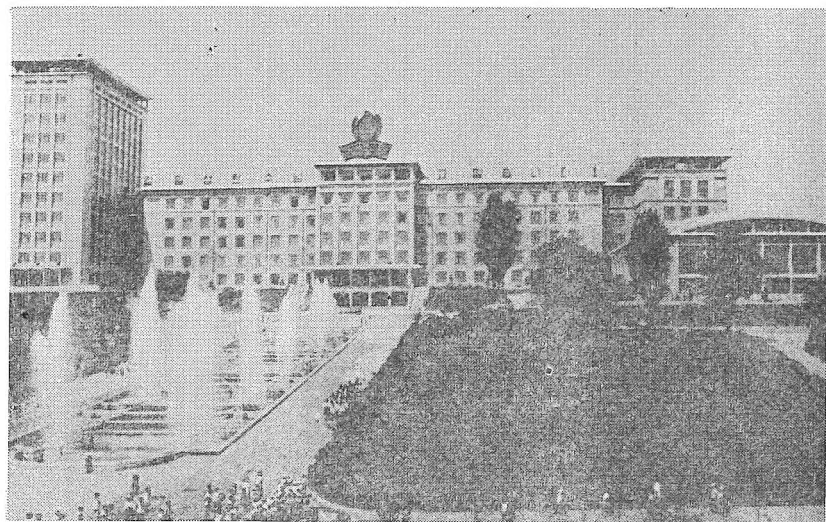
首相はまた、国中が歯をくいしばり、昼夜をわかたず復旧建設にたちあがっていたときにも、子どもたちのため

に初等義務教育制と中等義務教育制を実施したし、国防建設と経済建設を併進させる困難な課題を遂行しながらも、アジアではじめての全般的九年制技術義務教育を実施した。
こうして共和国北半部には、今日、白頭山の麓の名もない僻村里から西海の孤島の小さな漁村にいたるまで、美しい学校や幼稚園、託児所が建ちならび、すべての子どもたちが国家の負担で、心ゆくまで学んでいるのである。
それだけではない。金日成首相は、季節ごとに、一番よい生地で子どもたちの服をつくって着させ、すべての名勝地には少年団のキャンプ場と休養所をつくり、わが国をおとずれた外国の人びとが一様におどろきの目を見はる学生少年宮殿も建設した。
また現地指導のせわしいさなかでも、子どもたちにゆき会えば車からおり、服装からはきものにいたるまで気をくばり、ゆく先々で真っ先にたずねるところといえば、まず、学校であり、幼稚園であり、託児所であった。
一九六一年九月三十日の午後、首相が松濤園少年団キャンプ場をたずねたときのことだった。子どもたちは、せきをきったように歓声をあげながら首相のもとへとんできた。
首相は、先をあらそってふところへとびこんでくる子どもたちを両手で抱きかかえ、頭をなでてやりながら、なにかもっと食べたいものはないか、海はこわくなかったか、どんな遊びが一番おもしろかったかと、やさしくたずねた。
そして、子どもたちにかこまれた首相は、きれいなキャンプ場の建物のまえで、海をながめながら同行した幹部たちにこう語った。
「松濤園は美しい！　むかしは金持ちが一人じめした避暑地だったが……。このようにすばらしいところで、われわれの子どもたちが元気いっぱい遊ばなくては！」
そのとき随員の一人が、ここは松林も砂浜もすばらしく、海も遠浅になっていてよいので、他のことに利用しよ

うとたいせつにとっておいたのですが、首相同志が少年団のキャンプ場にしなさいといわれたので、そのとおりにしましたというと、首相は、「よくやった、よくやった」とくりかえしほめた。

首相は満足そうな笑みをうかべながら、

「一番すばらしい場所を子どもたちにあたえたことは、ほんとにいいことだ。それをとっておいてだれにやれよう。一番いいものは子どもたちにあたえるべきなのだ。一番いいものは！」といった。

キャンプ場は、じつにりっぱにできあがっていた。しかし、首相はキャンプ場を注意深く見てまわりながら、テーブルクロースからベッド、絵画などの備品にいたるまで、子どもたちに一番いいものをあたえなければならないと語った。そして、子どもたちの寝具を手にとると、綿入りのふとんが大きくて重いのを心配し、毛布か刺し子縫いのふとんにかえるように指示し、壁にかかった鏡のまえで、みずから帽子をかぶりなおしてみながら、子どもたちが全身を写して身なりをただすことができるように、もっと大きな鏡にとりかえるようにといった。

ピョンヤン学生少年宮殿

このように、金日成首相は、子どもたちを「国の王様」であるといいながら、かれらのためには、なにものをも惜しまなかった。

ピョンヤンの一角にそびえる学生少年宮殿の建設過程は、子どもたちをかぎりなく愛し、たいせつにする首相の志を如実に物語るものである。

首相は戦後復旧建設の困難な時期に、ピョンヤンでも景色がよく見晴らしのいい将台丘に宮殿の敷地をさだめ、雄壮で華麗な世界一流の大宮殿を建てることにした。

首相の志を心にうけとめた設計家たちは、一九五六年から、ピョンヤン学生少年宮殿の設計にとりかかった。そしてかれらは、自分たちとしては最大の大胆さと誠意をつくし、大きくて華麗な建築物の図面を描きあげた。しかしそれは、金日成首相の気高い志とは、あまりにもへだたりがあった。

首相は設計図を見て、にっこりしながらこういった。

「みんなご苦労だった。しかし、これはあまり小さすぎてだめだね。……」

首相は手をあげ、線を描いてみせながらことばをつづけた。

「……この図面の五倍にすべきだ。名前からして宮殿だというのに、将台丘いっぱいに建てなくては……。わが国の王様が住む宮殿にふさわしく、大きくて美しいものをもう一度設計してごらんなさい……」

その後、設計図は首相の指導をうけながら何回もなおされ、建設の過程でも何回となく、首相の現地指導がおこなわれた。

こうして、世界でも類例のない五万平方メートルの大児童宮殿が、首相のさだめた将台丘に雄然とそびえたったのである。

わが国をたずねる外国の人びとは、「子どもたちのために、これほど雄大で美しい宮殿をつくるという考えが、

どのようにして金日成首相の胸に思いうかんだのだろうか」といって、そのおどろきをかくそうとしない。しかし、外国の友人たちといえども、首相の気高い志をおしはかることはできないであろう。

偉大な領袖の熱い志がひめられているこの宮殿で、いま子どもたちは、技術、科学、体育、文化など、すべての部門にわたって自己の才能をあますところなく発揮し、知、徳、体をかねそなえた国のあとつぎとしてすくすくと育っている。

金日成首相がピョンヤン製糸工場で、現地指導をしていたときのことである。

首相は製糸工たちの労働条件を改善するために、工場の建物を新しく建てるよう指示しながら、新しい建物ができたら、古い建物はどうするつもりかと工場の幹部にたずねた。すると一人の幹部がたちあがって、それを託児所か幼稚園につかうつもりです、とこたえた。

そのこたえをきくやいなや、首相は、「託児所に!?」と反問しながら、「とんでもないことだ! 子どもたちには、一番りっぱな建物をあたえるべきです。古い建物は倉庫にでもしなさい。……託児所と幼稚園は、新しくりっぱにつくらなければなりません」とさとした。

子どもたちをりっぱに育てること——、それを共産主義者の崇高な任務の一つと考える首相は、すでに抗日武装闘争の時期、つぎのようにのべている。

「……共産主義者は、つねに未来を愛することを知らねばならない。われわれが自分の一生をひたすら革命偉業のためにささげ、全力をつくしてたたかっているのも、わが人民の幸福な未来を早めるためではないか! だからこそ、われわれは、武器をとって日本帝国主義とたたかうことだけを革命事業だと考えてはいけないのだ。あの少年たちをりっぱな革命闘士に育て、やがて祖国建設の働き手に育てあげることも、われわれのたいせつな革命事業なのだ。……」

子どもたちにかんする問題を、党と国家の重要な事業だとみる首相は、朝鮮革命の戦略戦術を決定する党中央委員会政治委員会の席上においても、毎年、春や秋の季節のかわり目には、子どもたちの校服のデザインや配色の問題まで提出し、最高人民会議や内閣総会でも、たびたび、子どもたちのための法令や決定を採択させた。

金日成首相は、子どもたちの教育に特別な関心をはらい、かれらを労働者階級の革命思想と不屈の闘争精神で教育することを、革命の勝利にかんする、祖国と民族の勝敗を左右する根本的な問題であると考えた。

首相はつぎのようにのべている。

「われわれの革命は、長期にわたる困難な闘争である。だから、われわれがなしとげられなかった革命は子どもたちがひきつぎ、また子どもたちの代でもなしとげられない場合は、そのつぎの代まで、代々ひきついで必ず革命を完成させなければならない。だから、われわれが朝鮮革命に最後まで忠実であるためには、革命の血すじをひきつぐ、つぎの世代をしっかりと育てなければならないのだ。

いま、われわれ自身が革命のためにりっぱにたたかうだけでなく、革命の将来がかかっている子どもたちをりっぱに育ててこそ、革命家としてのわれわれの責任を果たしたということができるのだ」

首相は、子どもたちを革命家に育てあげるための要求性を高めた。

子どもたちは、かつてのような圧迫や搾取をうけたこともないし、困難な革命闘争で試練をへたこともなく、社会主義祖国のふところで自由と幸福だけを体験して成長した。

金日成首相は子どもたちを、地主と資本家をにくみ、帝国主義に反対し憎悪する思想で教育し、徹底した民族自主意識、高い民族的な誇りと自負心で教育しなければならないと教えた。

首相は、子どもたちを抗日遊撃隊員のように、祖国と人民のためにはすべてをささげることを知り、いかに困難

な条件のもとでも、革命の原則と革命家の節操を最後まで守りぬくことを知り、未来を愛し、勝利にたいする確信と革命的楽観主義をもち、謙虚で素朴な気高い品性をもつように教育しなければならないとのべた。

金日成首相は、子どもたちにたいする共産主義教育を強化し、かれらが人民を愛し、友人を愛し、組織と集団を愛するようにはぐくみ、労働を愛し、朝鮮人民がたたかいとった偉大な成果である社会主義制度の優越性をしっかりと身につけるようにしなければならないとのべた。

首相はまた、子どもたちを共産主義の世界観で武装させるだけでなく、科学文化の最新の成果を生きた知識として所有し、強い体力と芸術的な素養、高い文化性をもたせることによって党と革命に忠実であり、知、徳、体をかねそなえた、全面的に発展した新しい人間に育てなければならないと教えた。

金日成首相はゆく先々で学校をたずね、子どもたちの生活に深い関心をよせ、教員たちをはげまし、ときには、子どもたちの家庭教育のようすを知るために、生徒たちの家を訪問しては、文字などを教えたりした。

一九六一年八月、雨がはげしくふる日のことだった。金日成首相は雨にぬれながら、昌城郡薬水谷(ヤクスゴル)に住む朴玉花(パクオクファ)の家をたずねた。

首相はまるで、生徒の家を訪問した担任教師のように、その家の主人に気さくに挨拶をすますと、部屋のなかへはいっていった。

首相の突然の訪問をうけた家の人たちは、あまりの感激にどうしていいのかわからなかった。首相は玉花の父親とむかいあって話をかわした。

首相は、机にむかって勉強している玉花の姿をたのもし気にながめていた。そして、玉花のノートを一枚ずつめくると、「字が上手だね、ほんとに上手だ」とほめながら、手をとってやさしく教えてやった。

山奥の飾りっ気のない部屋にすわって、生徒に文字を教えている金日成首相――。そして、そのまえで鉛筆をに

ぎり、文字を書いている名もない山里の幼い少女……。首相のまえにすわって文字を教わっている娘の姿を見やる両親の目には、感激の涙がにじんでいた。

また、金日成首相は、両親がいない子どもたちにたいして、とくにあたたかい愛と配慮をめぐらした。首相は、こうした子どもたちの面倒を国家でみるようにし、大学まで無料で学ぶことができる道をひらいた。

金日成首相は、両親のいない子どもたちをつねに気づかって、心の安らぎをおぼえることがなかった。

「両親のない子どもたちのことを思うと、なかなか寝つかれないものだ」

首相はいつも、口ぐせのようにこういいながら、この不幸な子どもたちによろこびとしあわせをあたえようと、つねに心をくだいていた。

一九六〇年四月二十九日、牡丹峰の桜が、いまたけなわのときだった。

金日成首相は、幼い生徒たちがどんな合服を着ているのかと気づかい、公園にでて、そこで遊んでいる何人かの子どもたちを副官に命じてつれてこさせた。

自分の子どもたちに新しい服を着せた親のように、目を細めてそれをながめていた首相は、ふと、ある少女の靴に目をとめた。

ほかの子どもたちはみな、新しい服に新しい靴をはいているのに、崔英玉（チュエヨンオク）というその少女だけは、なぜか古い靴のままだった。

「お父さんはどんな仕事をしているの？　工場にいっているの、それとも事務の仕事？」

「……」

少女は口をつぐんだままだった。

首相は英玉の手をとり、じつの親のようにやさしく、一つ一つたずねていった。

英玉は、自分の手をやさしくなでてくれる首相の大きくあたたかな手を見ながら、目に涙をいっぱいうかべて話をしはじめた。

それによると、英玉の父親は戦争のときにゴム工場で働いていたが、アメリカ軍の爆撃にあって死に、母親は食料加工工場に勤務していたが、一年前、病気のために亡くなったということだった。そして、のこった家族といえば、十六歳になる姉の英淑と十二歳になる弟の英実、それに八歳になる妹の英姫という、幼い四人だけだった。

しかし、このきょうだいは、国からあたえられる補助金でりっぱなアパートに住み、学校にかよっていた。

慈父の心情で崔英玉生徒の制服を手にとってみる金日成首相

「そうか。……とにかく、小鳩のようなおまえたち三人で……、ご飯をたいたり、洗濯をしたり、掃除をしたり……、感心だ！　おまえたちだけで暮らしをたてながら、学校へかよっているというんだね。……ほんとうにりっぱだ。……」

首相は表情をくもらせ、声をおとしてとぎれがちにいった。そして、手帳に英玉の住所を書きとめた。

この日、首相は英玉きょうだいのことが心配で、午睡もとれなかった。

その夜、政務を終えた金日成首相は、副官に命じて英玉きょうだいを私邸に招

いた。

四人きょうだいをのせた車の音をきくと、首相は階段からおりて出迎えた。

「おまえが英淑だね……。幼い妹たちの世話をしながら、学校にかよっているというんだね……。たいへんだろう！……手が少し荒れているようだね……」

英淑は突然、首相の胸に顔をうずめて泣きじゃくった。

「英淑、泣くんじゃない。……世帯主が泣いちゃだめじゃないか。さあ、もうやめて……、泣くのはおよし……」

すすり泣く少女の肩をやさしくなでる首相の目にも、熱いものがにじんでいた。

首相はやがて、英玉たち四人きょうだいと食事をともにして、別れるぎわにこういった。

「あさってのメーデーの日は、わたしの家でお祝いをしょう。行事が終わったら、どこへもいかないで家で待っていなさい」

五月一日、盛大な記念行事が終わってからのことだった。幹部たちと昼食をともにした金日成首相は、自宅に客がきているだろうからといって、先に席をたった。みんなは、いつになく首相がせくのを見て、きっとたいせつな客にちがいないと思った。

三日間の休日がすぎ、仕事がはじまった五月三日のことである。

国事にかんする討議のため、幹部たちを集めると首相はこう語りだした。

「メーデーのときは、同志たちと昼食をとってから、すぐに席をたってしまって、すまないことをしました。あの日にもちょっと話しましたが、ぜひ会ってやらなければならない客がいたのです。ついこのあいだ、わたしたちは、子どもたちの制服問題を政治委員会で話しましたね……」

幹部たちは、金日成首相から、学生たちの制服問題について新しい話があるものと思い、手帳をとりだして書きはじめた。首相は話をつづけた。

「……わたしたちは学父兄にも、こんな制服をつくって子どもたちに着せようと思うが、どうだろうかときいてみたことがありましたね。ところが、当の子どもたちにはきいてみなかった。そこで新しい制服をだしてやったあと、服の格好を見るのをかねて、子どもたちの意見をきくために、何日かまえ、人民学校の生徒を何人かつれてこさせたのです。みんな新しい制服を着て、新しい靴をはいていた。党が新しい服を着せたのだから、どの両親にしても新しい服にあうような新しい靴を買ってはかせたい気持は同じでしょう。……ところが、一人の子どもだけが古い靴のままだった。ひと目でわかったが、胸が痛んでね。……」

幹部たちはペンをとめた。金日成首相の話は、かたちや色など、新しい制服そのものについてではないとわかったからである。

首相は静かにことばをつづけた。

「……わけをきいてみると、思ったとおり、両親のいない子でした。十四歳の女の子だったが、二つ年上の姉といっしょに、下のきょうだい二人の面倒をみながら暮らしていた。一番下の妹は、少しまえ、知り合いのおばさんが元山(ウォンサン)へつれていって育てているということだったが……ともかくそれで、メーデーの日には、子どもたちだけでお祝いするのはさびしかろうと思い、その子たち三人をわたしの家によんで、いっしょにお祝いをしたのです。……そんなことがあって、同志たちとながく席をともにできなかったのです。……」

金日成首相の気高い徳性をつねに身近に感じてきた幹部たちではあったが、みんな熱い感激をおさえきれず涙ぐんだ。

一方、メーデーを金日成首相の家ですごした英玉たち三人きょうだいは、その翌日、首相がおくってくれたリン

ゴ、たまご、お菓子などをそのままつつんで両親の墓参りをした。英淑が墓のまえに包みをひろげ、低い声で語りかけた。

「わたしたちは元帥さまのところへ、二度もまいりました。……元帥さまは、わたしたちを学院にいれてくださるそうです。……英姫もつれてきてあげるとおっしゃいました。……」

そして英玉にむかってこうことばをつづけた。

「英玉、お父さんやお母さんがこのことを知ったら、たいへんよろこばれるでしょうにね……どんなによろこぶことでしょう。……」

三人きょうだいは、首相の私邸がある方角にむかって、いつまでもたちつづけていた。

金日成首相はその後も、たえず英玉たちきょうだいの面倒をみた。そしていまその子たちは、首相のかぎりない配慮といつくしみによって、それぞれ大学と革命学院で、幸福に育っている。だれが彼女たちを孤児といえよう。まさしく金日成首相こそ、父母のいないすべての子どもたちの親なのである。

だから首相は、平安南道順川(スンチョン)郡舎人場(サインジャン)に住む一婦人が、九人の孤児をひきとって育てているという話をきいたとき、わざわざ人をつかわして感謝の意を表した。そして、その婦人に会ったときには、「あなたに会う面目がありません。子どもたちをたくさんあずけておいて、一度いってみよう、いってみようと思いながらも、ついゆきそびれてしまって、まったくすまないことをしました。人づてに消息はきいていましたが、たずねてゆくことができず、ほんとうにすみませんでした」と、率直に謝意を表したのである。

解放直後の一九四七年八月下旬のことであった。

全国各地からえらばれた百余名の少年団員が、金剛山キャンプを終えて帰る途中、そのうちの十三名がピョンヤンにたちよることになった。それまで一日に何回も、金日成将軍に会わせてくださいと引率者にせがんできたかれら

は、ピョンヤンにつくと、ますます強くせがみだした。
昌城からやってきた十四歳の少年は、目に涙さえうかべて、「先生、将軍さまに会わせてください。ねえ先生!」とねだった。
また他の少年は、重大な国事でおいそがしい将軍が、子どもたちにまで会ってくださることはむずかしいという引率者に、「先生、遠くからでもいいのです。ひと目だけでも、将軍さまに会わせてください」といって、だだをこねはじめた。
一度だけでも将軍に会わせてくださいと、涙をうかべ、足をばたばたさせてせがむ子どもたちの気持に心を動かされた教員は、せめて遠くからでも将軍に会わせ、解放された朝鮮の、すべての少年たちがいだいているねがいをかなえてやろうと、党の中央庁舎のまえに子どもたちをつれていった。
ながいあいだ待ったあと、将軍がのった車が走ってきた。教員は興奮した胸をおさえ、子どもたちにそっと、あれが将軍さまのお車だ、と教えた。緊張した面持ちで車を見つめていた子どもたちは、車が正面にはいる瞬間に将軍をかい間みることができた。つねに心に描きつづけてきた将軍——、その将軍の姿を見た少年たちは、われを忘れてわっと道路へ走りでた。そして、もどってきなさいと叫ぶ教員の声もきかばこそ、将軍がはいっていった庁舎をいつまでも見つめていた。
正面の受付をつうじてこれを知った将軍は、さっそく仕事を中断し、子どもたちをなかによびいれた。
子どもたちが執務室のまえまでいったとき、将軍はわざわざでむいて子どもたちの手をとり、やさしく頭をなでた。
その日、将軍はながいあいだ子どもたちと親しく話しあった。そして昌城からきた少年には、「解放まえ、わたしたちがパルチザン闘争をやっていたとき、昌城にもいったことがあるが、その当時、塩はたいへん貴重なものだ

ったのだが……ところで、きみの家では何月に塩をもらったの？」とたずねた。少年が、塩は三月にもらい、六月にも供給をうけるはずですとこたえると、将軍は手帳になにかを書きとめ、北朝鮮人民委員会の産業局と交通局に電話をかけ、昌城郡にもっと塩をおくるようにと指示した。

将軍は子どもたちと、くったくなく話をつづけた。

「きみたちはみんな、わたしたち労働者や農民の子どもなんだね……。じゃあ、ここがどこだか知ってるの？」

「党中央委員会です」

「そうだね。ところで労働党はなにをする党かな？」

「労働者、農民の利益を代表してたたかう党です」

「そう、そのとおりだ。きみたちはなんでもよく知ってるんだね、感心だ。ところで、金剛山はおもしろかったかい？」

将軍は、九竜淵（クリョンヨン）や万物相（マンムルサン）など多くの名所を見てきましたと、得意気に話す子どもたちを満足そうに見やりながら、つぎのようにたずねた。

「じゃあ、また一つきいてみるかな。そんなにすばらしい金剛山には、だれがゆかせてくれたの？」

「金日成将軍さまです」

まるで約束でもしていたかのように、少年たちはいっせいに大きな声でこたえた。

「いや、それはちがう。そうじゃなくて、労働党のおかげなんだよ。それから、みんなのお父さんやお母さんが国のために、たくさんの仕事をしたからゆけたんだよ。わかったかね？」

将軍はこういうと、慈愛のこもったまなざしで少年たちを見まわした。そしてこの日、将軍は少年たちに歌をうたってもらったり、特別に映画を上映させ、子どもたちを両腕にだいたり、ひざのうえにすわらせたりしながら、

たのしい午後のひとときをすごした。
革命もつぎの世代の幸福のためにおしすすめ、建設もつぎの世代の繁栄のためにおこない、子どもたちのためならすべてをささげ、一番いいものを子どもたちにあたえるのは、金日成首相の気高い理念であり、徳性である。だからこそ、外国の友人たちがいうのである。
「金日成首相は、子どもたちのために生まれた偉大なお方だ」と、「首相の導きをうける朝鮮は、まさしく『子どもの国』だ」と。
まさに朝鮮の子どもたちは、この世で一番しあわせである。かれらは生まれてからすぐ、託児所や幼稚園で牛乳やおやつ、栄養剤まで国家の負担であたえられ、人民学校から中学校までの九年間を無料で義務教育をうけ、大学に進学すると奨学金までもらって学んでいる。
しかし、金日成首相は南朝鮮の不幸な子どもたちを思い、つねに胸を痛めている。
首相は季節のかわり目ごとに、すべての学生たちに新しい制服を着せるときになると、学齢期にありながら靴みがきの箱やガム、たばこのはいった本箱を首にぶらさげ、ボロをまとって街をさまよう南朝鮮の子どもたちに思いをはせ、父母のない子どもたちが初等学院で幸福に育っていく姿を見るにつけ、乞食をしながら橋の下で夜をすごす南の孤児たちのことを思って胸を痛めた。
南朝鮮の子どもたちを救うために、首相はなんども救護の手をさしのべた。たとえば南の孤児たちを共和国にうけいれて育てることについて、また、貧しい家の子どもたちが勉強できるように衣服、はきもの、学用品などの援護物資をおくることについて、さらに南半部の学生たちを、北半部の学生たちのように大学まで国家負担で学ばせることについて、国家的な決定を採択したりした。
南の子どもたちのことをかたときも忘れず、かれらの不幸な境遇を肉親の情で気づかい、心を痛める首相――、

この首相の心を、どうしてすべておしはかることができようか。

金日成首相の太陽にも似たあたたかい配慮につつまれて、南朝鮮の子どもたちが北半部の子どもたちのように、なんのかげりもなく、すくすくと幸福に育つその日は、遠からず、必ずやってくるであろう。

第二章　党と社会主義国家の機能と役割を高めるために

1　党の指導的役割を高めて

共和国北半部で革命と建設が高度に発展するにつれ、金日成首相は党をいっそう強固にし、その指導的役割を高めることに全力をそそいだ。

革命の発展にともない党を強化し、その役割を高めることは、首相がつねに堅持してきた革命的な原則であった。

金日成首相は革命の参謀部である党の戦闘力を強化し、その指導的役割を高めることこそ、社会主義革命と社会主義建設を勝利的におしすすめる決定的な保障であるとみなした。

首相はまず、党の隊列を不敗の統一体として結束させ、これを組織思想的に強固にすることに力をかたむけた。

戦後の困難な情勢のもとで、党の統一と団結の強化なくしては、党の戦闘力を高めることもできず、党に課せられた複雑で困難な任務を成功裏に遂行することもできなかった。

アメリカ帝国主義をはじめ内外のあらゆる敵の攻撃をしりぞけ、大衆を革命闘争に組織動員するためには、党の統一団結を強化し、党の隊列を強固なものとしなければならなかった。

金日成首相は、社会主義革命が本格的にすすめられるにしたがって階級闘争がさらに先鋭化し、それが党内に反

映されてもろもろの日和見主義的潮流が頭をもたげてくると、ただちにその危険性を看破してこれに反対する党内思想闘争をくりひろげた。
党の統一と団結のため、首相がくりひろげた党内の思想闘争のおもな内容は分派分子に反対する闘争であった。
首相はつぎのように教えている。
「反分派闘争が、わが党の建設と党の組織思想的強化のための活動において、特別に重要な位置を占めているのは当然なことであります。わが国の労働運動における分派の余毒を根だやしにして党の統一を強化し、党の強固なマルクス・レーニン主義的組織思想体系を確立するための歴史的な課題が、こんにちわれわれの世代の党員にあたえられています」
分派を根こそぎにし、党の統一と団結を強めることは、党と革命を発展させるうえで死活的な問題であった。
分派分子は例外なく敵と結託し、革命の偉業に反対して悪らつに行動してきたし、困難な情勢がかもしだされるたびごとに、いつも頭をもたげて党に挑戦してきた。
党の統一をさまたげる癌（がん）であり毒素である分派主義を一掃しなくては、全党に唯一思想体系を確立することはできず、革命と建設において党の指導的役割を高めることもできなかった。また分派を根こそぎにしないでは事大主義と教条主義を克服して主体を確立することもできず、修正主義に反対してマルクス・レーニン主義の純潔性を守ることもできなかった。なぜなら、党内にあらわれた教条主義者や事大主義者は例外なく分派分子であり、かれらによって修正主義が密輸入されていたからである。
金日成首相は、分派を克服する原則をつぎのように明示している。
「かれらとたたかううえでの原則はこうです。大きな罪を犯したものは厳罰に処し、そうでないものには思想を点検するが、その思想点検は厳格にし、処罰は寛大にしなければなりません。いいかえれば、かれがどのようにし

て分派に加担し、その思想の根源はなにかをきびしくつきとめてから、処罰は寛大にし、かれらにみずからの過ちをただすことができるように道をひらいてやらなければなりません。分派とのたたかいで事実と根源を正しくつきとめもせず、また誤りをあらためるという確約もとらず、ただ、うやむやにしてはなりません。だれにでもわかるように分派の内容を洗いざらいひろげさせたあと、武装解除を完全にしてから処罰は寛大にするのがよいのです。こうした原則によって処理するのがよいのです」

この原則は、革命の前進をはばむあらゆる日和見主義に反対するたたかいにおいても指針となった。

金日成首相は、反分派闘争とともに事大主義、教条主義を克服して、主体を確立するための闘争を強力にくりひろげた。

首相は教条主義と事大主義を断固克服して、すべての分野で主体を確立させてゆく党の方針をさししめし、その貫徹へと全党をふるいたたせた。

首相の方針にしたがい、党は事大主義、教条主義を克服するための党内思想闘争をつうじて幹部や党員にその危険性をよく知らせ、各級の党団体や全党員が金日成首相の革命思想とその具現である党の路線と政策を身につけ、つねにそれを尺度として活動できるように思想闘争を強力にくりひろげた。そして党員と勤労者の民族的自負心と自主意識を高め、あらゆる問題を自分の実情にあわせて自力更生の原則にしたがい、自主的に解決していく気風を確立するよう努力した。

金日成首相は、国際共産主義運動内に現代修正主義が台頭するにつれ、分派分子、事大主義、教条主義に反対する党のたたかいを反修正主義闘争と密接にむすびつけた。

国際共産主義運動の隊列内に現代修正主義が台頭するや、党内にひそんでいた分派分子や教条主義者、事大主義者たちがたがいに結託し、修正主義や大国主義者の威をかりて反党、反革命的な陰謀をめぐらしてきた。

かれらは現代修正主義者の主張をほとんどそのまままくりかえしながら、党と革命を破壊するために、革命と建設における党の指導的役割を拒否し、マルクス・レーニン主義党の建設のいしずえである民主主義的中央集権制の原則に反対して、党内で無原則的な「民主主義」と分派活動の「自由」をとなえ、果てはばかばかしい「分派有益説」までかつぎだしてきた。これは党の指導体系をくずし、鋼鉄のような統一を破壊し、実質的には党を武装解除させて、党を自分たちのほしいままにしようとする陰謀であった。

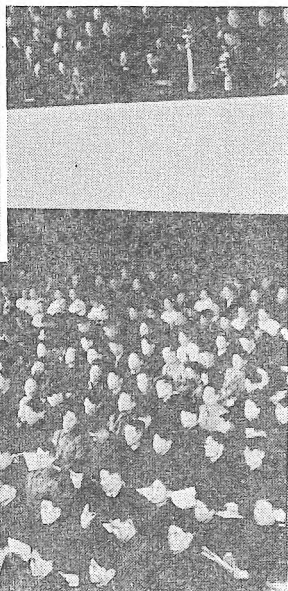
かれらは、輝かしい党の革命伝統、党と革命の歴史的な根源を抹殺し、党の中核隊列を切りくずし、プロレタリア独裁にかんするマルクス・レーニン主義学説を否定し、人民政権のプロレタリア独裁の機能をマヒさせようと策動した。

かれらは党の正しい路線とあらゆる政策に反対し、党の経済政策を誹謗して、その貫徹をさまたげた。

現代修正主義の危険性をいち早く看破した金日成首相は、修正主義、大国主義者と結託して党に挑戦した崔昌益一派をはじめとする反党反革命分派分子に決定的な打撃をあたえる一方、修正主義に反対しマルクス・レーニン主義の純潔性を守るための思想闘争を強力におしすすめた。

金日成首相の正しい方針にしたがって、党は党員と人民を信じ、そのひたむきな支持に依拠して敵の反動攻勢とあらゆる日和見主義者の攻撃に決定的反撃をくわえた。

金日成首相は、分派主義、修正主義など、共産主義運動内部のあらゆる不健全な思想に反対する強力な党内思想闘争と、敵の反革命策動を粉砕する全人民的な政治闘争を組織指導する一方、勤労者の生産闘争を力強くはげまし、社会主義建設の大高揚と千里馬運動をくりひろげることによって内外の敵を徹底的に粉砕した。

金日成首相は、このたたかいを勝利へと導きながら党を組織思想的に強固にし、党員をきたえ、全人民を党のまわりに団結させて革命のとりでを磐石のようにかためた。

朝鮮労働党代表者会議で結論をのべる金日成首相

内外の敵の攻勢に決定的な打撃をあたえ、わざわいを福に転じた金日成首相の卓越した戦略戦術と賢明な指導のもとに、党はアメリカ帝国主義とその手先一味の反動攻勢を撃破し、分派主義、教条主義、現代修正主義に反対するたたかいで勝利をおさめた。

古くから共産主義運動で大きな弊害となっていた分派を一掃した党は、一九五八年三月にひらかれた党代表者会議を契機に、新たな発展段階にはいることになった。

金日成首相は党代表者会議で、戦後の困難な時期に党に挑戦した反党反革命分派分子をそのつど粉砕した反分派闘争の経

験を総括分析して、分派の余毒を徹底的にとりのぞき、あらゆるブルジョア思想の要素と修正主義思想の潮流に反対してねばり強くたたかうことを強調した。

首相はこうのべている。

「……われわれはひきつづき、分派主義、地方主義、家族主義に反対して、党の統一をかたく守るたたかいを力強くくりひろげなければなりません。

分派主義、地方主義、家族主義は、共産主義とは縁もゆかりもありません。われわれはこれにいっそう強く反対しなければなりません。地方主義や家族主義も、その本質においてはやはり分派主義です。あるものは大きく、あるものは小さいだけで、実際はみな分派主義なのです。

分派主義は資本主義思想からでたものです。ほかからでたものではありません。ですからこれは、資本主義に反対する共産主義と席をともにすることができないのです。これはわれわれの思想と敵対するもので、なんの共通性もありません」

金日成首相は、分派の思想的余毒を一掃すると同時に、分派を生む温床である地方主義、家族主義を克服して党の統一と団結を決定的に強め、全党に唯一思想体系を確立するためのたたかいへと全党員を導いた。

一九五九年三月、咸鏡北道の党組織にたいする集中指導を総括する道党拡大総会でおこなった金日成首相の演説『咸鏡北道党組織の課題』は、地方主義、家族主義を克服し、その余毒を徹底的にとりのぞき、全党に唯一思想体系を確立するための党のたたかいで指導的指針となった綱領的文献である。

金日成首相はこのなかで、咸鏡北道党組織の活動の欠陥はすべて、地方主義の余毒をとりのぞけなかったところにその原因があったと指摘し、地方主義、家族主義の余毒を根こそぎにして党の統一と団結を強化することを重要な課題として提示した。

金日成首相は、党の統一と団結を強化するうえでもっとも重要なことは、党内に民主主義中央集権制的な規律をただし、全党に唯一思想体系を確立することであると教えた。

首相はこうのべた。

「わが党は改良主義の党ではなく、マルクス・レーニン主義の党であり、資本主義に反対し、社会主義と共産主義の勝利のためにたたかう戦闘的な党であります。資本主義をくつがえし、社会主義と共産主義の勝利をおさめるためには、民主主義中央集権制の原則にしたがった党の鋼鉄のような統一が必要であります。

党の参謀部である党中央委員会の指示と決定にしたがって、全党が一人のように一心一体となって動かなくてはなりません。指導部で『前へ！』と号令をかけたときに、ゆかないといって後方でぐずぐずしていたり、『左へ！』と号令をかけるのに右へにげだすといった現象が党内にあってはなりません」

民主主義中央集権制は朝鮮労働党の基本的組織原則であり、党建設の基礎である。金日成首相は、広はんな党員大衆の意思にしたがって党の路線と政策をうちたて、党指導部をえらび、その指導部が、路線と政策を実践するためのたたかいを唯一的に指導することが民主主義中央集権制であると教えた。民主主義中央集権制の原則がつらぬかれてはじめて、全党が党中央の唯一の指導のもとに一体となって動けるのである。

金日成首相は、党の唯一思想体系をうちたてるうえで基本となることは、党員と勤労者が党の路線と政策をしっかり身につけるようにすることであると指摘し、つぎのように教えている。

「なによりもまず、党の幹部は党の政策と党中央委員会の決定を研究して、全党員がそれをよく理解するように解説し宣伝しなければなりません。全党員が党の政策と決定をよく理解してこそ、党中央委員会の委員長から里党委員長にいたるまで、ひいては百万党員がみな、息をしても同じように息をし、話をしても同じことを話し、行動をともにすることができるのです」

つぎに金日成首相は、このなかで幹部問題を改善強化し、インテリを正しい観点にたって教育し、新しくはいってきた労働者を教育してたえず改造してゆき、党の活動方法を改善し、党内に革命的秩序と規律をうちたてることについての具体的な課題を明かにした。

古典的労作『咸鏡北道党組織の課題』でしめされた首相の教えは、党の唯一思想体系を確立し、党活動を決定的に改善強化するための党の指針となった。

首相の教えにしたがって党は、党員と勤労者のなかに党の唯一思想体系を確立するため、党の政策教育と革命伝統教育を深め、党員が党の組織生活を強めるよう全力をそそいだ。

党の唯一思想体系を確立することは、マルクス・レーニン主義党建設の基本的原則であり、革命と建設におけるあらゆる勝利の決定的な保障である。

党の唯一思想体系とは、党の創建者であり指導者である朝鮮革命の偉大な指導者金日成首相の革命思想を唯一の指導的指針にすることである。

もし、マルクス・レーニン主義党内に、領袖の思想以外のほかの思想があるとすれば、それはマルクス・レーニン主義党ではなく、たんなるクラブにすぎない。このような党はその隊列内で思想と意思と行動の統一が保てず、したがってなんの力も発揮できない。

領袖は、労働者階級の前衛部隊であり革命の参謀部である党を創建し、指導し、党の指導思想と革命の戦略戦術を提示する階級の最高脳髄であり、党の心臓である。領袖は労働者階級と全革命大衆の統一と団結の中心であり、この中心はただ一つしかない。したがって革命の領袖をかたく守り、そのまわりに鋼鉄のように団結して領袖の革命思想を徹底的に擁護貫徹することは、社会主義、共産主義の大業を勝利に導く不可欠の要求である。

金日成首相の革命思想で身をかため、その具現である党の路線と政策を無条件に擁護貫徹することは、全労働党員

と勤労人民の最大の義務であり、最優先的な課題である。
党は、金日成首相の偉大な革命思想で全党員と勤労人民を武装させる精力的な活動をつうじ、金日成首相のほかはそのだれをも知らず、首相の思想以外はいかなる思想も知らない唯一思想体系を確立する一方、事大主義、教条主義を克服して主体を確立した。
金日成首相は、党を組織思想的に強化する基本課題の一つとして、党組織における党内活動の強化を強調した。首相は、党活動で主たるものがなんであるかについて、つぎのように教えている。
「党活動で重要なことは、まず第一に幹部をよく知り、党の中核を育て、党組織を強化することであり、第二には、党の政策を正確に貫徹するための組織指導活動であり、第三には、思想教育活動であります」
首相は、党の隊列をかため、党の戦闘力を強化するうえで、とくに重要な意義をもつのは幹部問題であると指摘し、こうのべている。
「幹部がすべてを決定します。幹部がみな健全で思想水準が高く、みんながひたすら党の政策を支持する党派性の強い人たちであれば、われわれの社会主義革命も、社会主義建設も、祖国の平和的統一もすべて問題なく成功裏に実現することができます。幹部問題が正しく解決されないと、なにごともできません。だから、われわれはいままでもそうであったが、とくにこんにち、幹部活動をたいへん重要視しているのです」
金日成首相は、革命において基本となる幹部問題を第一の課題としてかかげ、幹部を党にあくまで忠実な人たちでしっかりとかため、かれらをたえず教育し、幹部問題の基本原則を守ってこの問題を解決してゆく具体的な方途を明示した。
首相の教えにしたがって党は、党派性、階級性、人民性の高い活動家で幹部の隊列をしっかりとかためるとともに、中核の党員を育て、たえずその隊列を拡大強化することによって党の隊列を鋼鉄の隊伍に確固と築きあげた。

金日成首相は、党の戦闘力を強化するうえで重要な意義をもつものは党員の党派性を高め、党生活を強めることであるとのべた。

首相はこう教えている。

「だれでも党生活をおろそかにすれば、その人はつねに、いろいろな誤謬や過ちを犯すことになります。だから党生活を避けようとする傾向とは強くたたかい、同時に、マルクス・レーニン主義思想教育をいっそう強化しなければなりません」

首相の方針と教えによって、党規約上の義務を日常活動と生活に具現していくという党員の党生活の強化は、党派性をきたえる基本的な方途となった。そして革命課題の実践と密接にむすびついた党員の党生活から、党と領袖にたいするかぎりない忠誠心と党政策を貫徹するための真の革命精神、剛毅な戦闘力が生まれたのである。

金日成首相は、都市と農村で生産関係の社会主義的改造が完成し、社会主義建設が急速にすすむにつれて、それにそうように党の活動体系と方法をたえず改善し、各級党組織の指導的機能を高めることを重視した。

社会主義建設の深化発展にともない、党のまえには新たな解決を要する困難な課題が数多く提起された。人民経済の規模はさらにぼう大となり、その内部的連係はよりいっそう密接になったし、地方の権限もまた拡大された。

こうした事情は社会主義建設のあらゆる部門、あらゆる単位で党組織が指導的役割をさらに高め、党および国家機関と大衆団体が唯一の意思と規律によって、一致して行動することを切実に要求した。

金日成首相は、発展する現実と新しい環境に適応するように活動家の活動作風をただし、党の活動方法を決定的に改善することを重視した。

首相は、官僚主義と、大衆と遊離した事務室的活動作風を決定的に排撃し、生産現場にたいする指導を強化し、あらゆる指導において大衆の政治的自覚を高め、かれらの積極性と創意性を発揚させる政治活動を優先させ、すべ

ての活動を大衆の力に依拠して革命的に解決するようにした。

首相は、活動家を党の革命的大衆観点で武装させ、かれらに革命的な活動気風と指導方法を教えることに全力をそそいだ。

一九五九年二月、生産企業所党組織員および党委員長、道、市、郡党委員長の講習会でおこなった首相の演説『党活動方法について』は、活動家の活動作風をただし、党の活動方法を改善するうえでじつに大きな意義をもつ古典的労作である。

この労作は、工場の党および郡党委員会の任務について、党の活動作風について、党の教育活動と党活動家の修養について、党員の成分問題（社会階級的関係によって規定される人間の社会的区分）をはじめとするいくつかの問題についての四つの部分からなっている。

労作で金日成首相は、党組織に課せられている重要な任務は、党を強化し大衆を党のまわりにかたく結束させるとともに、当面の革命課題を遂行することであるとのべ、党を強化し大衆を党のまわりに結束させるのも、つまりは革命課題をりっぱに遂行することにその目的があるのであるから、党組織が経済活動をしっかりと把握してたくみに指導しなければならないと教えた。

首相は、党組織が行政経済活動を代行すべきではなく、党の路線と政策にしたがって正しい方針をたて、仕事を分担し、その実行情況を点検する方法で指導しなければならないと強調してつぎのようにのべた。

「党委員長と行政活動家の関係は、たとえていえば、船の舵（かじ）をとる人と櫓（ろ）をこぐ人の関係のようなものです。行政活動家が前方で櫓をこぎ、党委員長がうしろにすわって舵をとり、左へ右へと指示しながら方向を正しくきめてこそ、船をまっすぐに航行させることができるのです。こうしないで、二人ともまえにでて櫓ばかりをこいでいては、一見早いように思えるが、まっすぐいけずにまがりくねってすすむものだから、結局はおそくなるほかありま

せん」

金日成首相はまた、党活動において官僚主義的作風を徹底的になくし、おもに説得と教育によって全党員や勤労者が革命課題の遂行に意識的にたちあがるようにすべきであるといいながら、抗日武装闘争の革命伝統を継承して人民的活動作風をうちたてるべきであると教えた。と同時に、党思想教育活動を強化し、党活動家の修養をたえず高めるための具体的な方途をしめした。

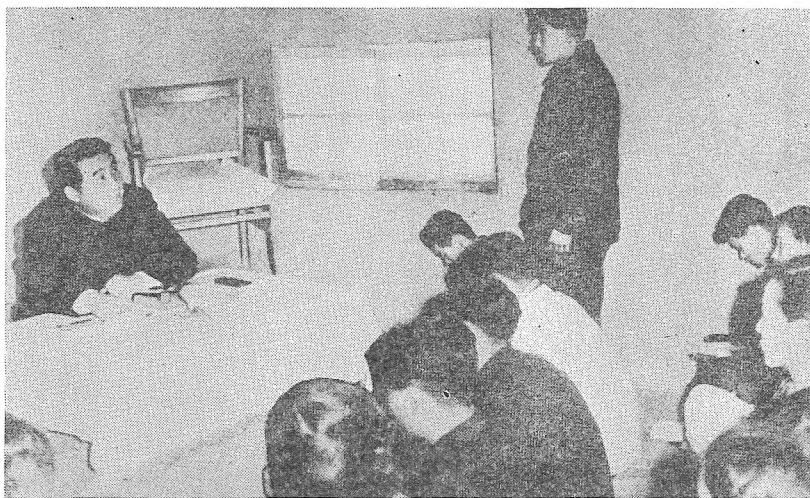
金日成首相は、労働者階級の隊列を強固にし、成分と環境の複雑な各界各層の大衆を教育改造する活動を強化し、一人でも多く革命の側にたたせなければならないと教え、インテリを大胆に信じ、辛棒強く教育し、労働者階級の革命精神で武装させ、かれらを革命に忠実であるように正しく導いていく党の終始一貫したインテリ政策を明らかにした。

じつに首相のこの古典的な労作は、活動家の活動作風をただし、党の活動方法を改善するたたかいで画期的な転換となった。

金日成首相は、社会主義建設の急速な進展にともない、各級党組織の指導機能を高めるための賢明な対策を講じた。

首相は、社会主義建設のあらゆる部門で各級党組織がその指導的機能を十分発揮できるようにするための措置として、各級党委員会がその単位の最高指導機関となるようにした。

すなわち、国家機関、大衆団体を例外なく党の指導と統制のもとにおき、その機関や組織の活動で提起される新しい重要な諸問題を党委員会の集団的討議にかけてから組織し、執行できるようにした。

金日成首相は社会主義建設のすべての部門で、その単位の最高指導機関である各級党委員会の「舵とり」としての役割を高めることによって、行政経済活動にたいする党の指導を強化するうえで新たな転換をもたらした。

黄海南道延安郡梧峴協同農場コミデ作業班分細胞総会を指導する金日成首相

首相の方針が貫徹されるにしたがって、各級党委員会の集団的指導が以前にくらべていっそう強化されたばかりでなく、方向的指導と方法的指導を結合させ、全般を掌握して中心の環に力を集中し、党活動と行政経済活動を密接に結合させて、あらゆる問題を成功裏に解決していけるようになった。

また問題の討議における集団性とその執行における個人責任制が密接に結合されて、行政経済活動家の責任と自立的な役割がいちだんと高まった。

金日成首相はまた、党組織を地域的および生産単位別に組織する原則にしたがって、工場、企業所にたいする党の指導をさらに強化できるように生産的単位を中心にして、これに地域的単位を結合させる措置をとった。

これは道、直轄市党委員会が、中央工業企業所をふくむ道内の人民経済全般を責任をもって統制できるようにし、大規模な工場、企業所の党組織の権限を拡大して、道、直轄市党委員会がそれらを直接指導するようにし、中心となる郡党委員会を新たに設けたことなどである。

このような措置は、道（直轄市）中心の郡工場党委員会

などの指導的機能を高めたばかりでなく、工場、企業所党委員会にたいする指導をさらに強化することによって、労働者階級のなかでの党活動の水準をさらに高めるようにした。それに郡党委員会が農村の党組織をはじめ、郡内のその他の組織にたいする指導に力を集中できるようにした。この結果、党中央委員会の統一的指導は、その機能と役割がいっそう高まった各級党組織をつうじてより早く大衆のなかに浸透し、生産にたいする部門別専門指導機関の行政技術的指導と地方党組織の党的指導が密接に結合され、社会主義を全面的に、より成功裏に建設することができるようになった。

朝鮮労働党が朝鮮革命を自主的に、独自に指導していく主体性のある党となったのも、社会主義革命と社会主義建設で輝かしい勝利をおさめたのも、すべて党建設にかんする金日成首相の独創的な方針が貫徹されたたまものである。

じつに、首相の賢明な指導があったからこそ、党は一つの思想意志でかたく団結した鋼鉄の隊列となり、朝鮮人民を革命と建設において偉大な勝利へと導きつづける、洗練され、きたえられたマルクス・レーニン主義党となることができたのである。

2　人民政権を社会主義建設の強力な武器に

金日成首相は、社会主義建設において党組織の指導的機能を高めると同時に、人民政権機関の機能と役割をさらに高めることに深い関心をはらった。

首相は、人民政権の階級的本質とその任務を明らかにして、つぎのようにのべている。

「人民政権は、わが党のすべての路線と政策の執行者であり、社会主義建設の強力な武器であり、わが革命のた

のもしい守り手であります」
　金日成首相は、社会主義革命と社会主義建設が本格的にはじまった戦後の時期に、すでに人民政権の機能と役割をさらに高めるための一連の措置をとった。
　首相はなによりも、国家政権機関の活動家たちにのこっている官僚主義と形式主義をなくし、正確な指導方法と正しい活動作風をうちたてる闘争に火をつけた。
　当時、政権機関の活動家のなかにあらわれた官僚主義と形式主義は、革命の前進をはばみ、人民政権と大衆との連係を強化するのに大きな障害となっていた。この問題は一時も早く解決されねばならなかった。
　一九五五年四月、党中央委員会総会における金日成首相の報告『官僚主義を克服することについて』は、党内はもちろん、政権機関の活動家たちのなかにのこっている官僚主義と形式主義をなくし、活動方法と活動作風を改善するうえで大きな意義をもつ指針的な文献であった。
　このなかで金日成首相は、党の路線と政策が正しくたてられたのちは、それが成功裏に遂行されるか否かは、全的に働き手たちがいかに活動するかにかかっていると教え、官僚主義の階級的本質と表現形態、その弊害を指摘し、指導方法と活動作風をただす正確な綱領的指針をあたえた。
　金日成首相のこの教えを貫徹するたたかいをつうじて、党と政権機関、経済機関の活動家たちの仕事に大きな変化があらわれ、活動方法と活動作風がただされていった。
　また金日成首相は、政権機関にたいする党の指導を強化し、政権機関の活動家たちの隊列をしっかりとかためながら、人民政権機関のあらゆる活動において、主体を徹底的にうちたてるようにした。そして、人民政権機関は、金日成首相の偉大な革命思想である自主、自立、自衛の原則で一貫した主体思想をあらゆる分野で徹底的に具現することによって、内外ともに複雑な情勢下にあってなお、輝かしい成果をおさめることができたのである。

社会主義革命と社会主義建設が急速にすすめられるにしたがって、反党分派分子らは、人民政権のプロレタリア独裁の機能をマヒさせようと悪がしこく策動した。かれらは、人民政権は統一戦線にもとづいているためにプロレタリア独裁の機能を遂行することができず、また遂行してはならないと主張し、「順法性」、「人権擁護」などの美名のもとに党の司法政策を攻撃し、反革命分子や反国家的犯罪者まで庇護した。こうした修正主義的な害毒行為は、党の司法政策の遂行に重大な悪影響をおよぼした。

このようなとき、金日成首相は、人民政権のプロレタリア独裁の機能をいっそう強化するための正確な方向と方途をさししめした。

一九五八年四月、全国司法、検察活動家会議における金日成首相の演説、『わが党の司法政策を貫徹するために』は、階級闘争にかんするマルクス・レーニン主義理論をいっそう発展させ、豊富にし、国家のプロレタリア独裁の機能を強化するうえで、理論的、実践的に大きな意義をもつ歴史的文献となった。

このなかで金日成首相は、人民政権のプロレタリア独裁の機能をさらに強化することを強調し、国家法の本質とその階級的性格にかんする深いマルクス・レーニン主義的分析をおこなった。

首相はこうのべている。

「法は固定不変のものではありません。いかなる法でも、かわることなく、万病に効く薬のように、いつ、どこにおいても適用され、効果があるというものではないのです。法を社会経済制度や政治制度と切りはなして、あたかも天から降ってきたもののように考えたり、または、ある人が一度つくっておけば、万年たってもかわらないもののように考えることは正しくありません。

法は社会経済制度の反映であり、政治の一つの表現形式なのです。一定の社会経済制度と階級闘争をはなれた法というものはありえません。社会経済制度がかわり、階級闘争の内容がかわるのに、どうしてその反映である法が

かわらずにいられましょうか？」

首相はつづけて、つぎのように教えている。

「社会経済制度がかわり、階級の政治闘争の内容がかわれば、法もかわらないわけにはいきません。こんにちわれわれが要求している法とは、どのような法でしょうか？　こんにち、われわれは社会主義制度のもとに生きており、労働者、農民をはじめ、広はんな勤労人民が社会主義を建設するために、地主、資本家の反革命的反抗を鎮圧する人民政権のもとで生きています。したがってわれわれの法が、わが社会主義制度と社会主義の成果を守る武器でなくてはならず、プロレタリア独裁の武器でなくてならないのは明らかです」

金日成首相は、共和国の法を正しく執行するためには、党の政策を積極的に擁護し、それを徹底的に貫徹しなくてはならず、そうするには、党の政策を深く研究し、党派性をきたえなければならないと教えた。

金日成首相の賢明な指導のもとに、党は人民政権のプロレタリア独裁の機能を強化しながら、社会安全、検察、司法機関などを強化し、その役割と機能をさらに高め、すべての分野で革命的な制度と秩序を確立して、反革命との闘争を全人民的運動として強力にくりひろげた。そして、くつがえされた搾取階級の反抗を鎮圧し、外部から潜入する敵をすかさず摘発して、敵のあらゆる破壊謀略活動を徹底的にうちくだいた。

金日成首相は、人民政権機関の経済組織者的、文化教養者的機能をさらに高めるためにも努力した。

首相は変化していく現実にそくし、社会主義建設において人民政権機関に提起されている課題をいち早く見とおし、解決の方途を全面的に明らかにして、その機能と役割を高めた。

首相はつねにこう教えている。

「……わが人民政権が人民の利益を擁護し、人民のためにより忠実に服務し、革命の武器として党の政策を責任をもって執行する、強力な政治的主権機関となるようにしなければなりません」

金日成首相は、都市と農村において社会主義制度が勝利した条件のもとで、各級政権機関の経済管理をより計画化して、計画生産、蓄積、分配、消費の社会主義的原則をつらぬくようにし、生産と建設を計画的に組織して発展させ、労働行政事業を改善し、教育、保健、都市経営および農村建設事業などを全面的に、着実にすすめるようにした。

これと同時に、首相は、社会主義建設が急速にすすみ、その規模がさらに大きくなるにしたがって、地方政権機関の機能を強化し、その権限を拡大する独創的な措置をとった。

これは、社会主義建設の実践的要求にあわせて、国家の中央集権的指導と地方の創意性を結合させ、国家経済機関の指導的役割を高めて、人民経済のすべての部門で、党の路線と政策をいっそうりっぱに貫徹するようにしたものである。

人民政権機関の指導を強化し、国家のプロレタリア独裁の機能を高めることについての金日成首相の教えと賢明な指導のもとに、人民政権は社会主義革命と社会主義建設の強力な武器としてさらに強化発展し、あらゆる複雑かつ困難な革命課題をも、りっぱに遂行できるようになった。

金日成首相は、発展する現実と変化する新たな環境にあわせて、国家経済機関の指導体系と活動方法をたえず改善し、完成するために深い関心をはらった。

社会主義革命が勝利したのち、変化した新たな環境にあわせて国家機関の指導を全面的に改善することは、社会主義、共産主義建設において提起される根本問題の一つであった。

国家、経済機関の指導体系と方法を新たな環境にあわせて、適時に革命的なものに改善し完成してゆかねば、勝利した社会主義制度を強化発展させることも、その優越性を発揮することもできず、生産力の高い発展テンポを堅持することもできない。

金日成首相はこれを適時にとらえ、偉大な青山里（チョンサンリ）精神、青山里方法を創造してそれを国家活動に具現し、切実な

問題として提起されていた国家、経済機関の指導体系と方法の問題をりっぱに解決した。

人民政権機関のプロレタリア独裁の機能を高め、国家の活動を強化することにかんする金日成首相の独創的な方針が貫徹されたため、人民政権は社会主義革命と社会主義建設の強力な武器としていっそう強化発展し、困難な課題をりっぱに遂行した。

金日成首相は、社会主義建設の強力な武器である人民政権をしっかりとかため、その機能と役割をたえず高める過程でえた実践的経験にもとづき、社会主義下でのプロレタリア独裁にかんするマルクス・レーニン主義理論を新たに発展させ完成させた。

金日成首相は、社会主義制度がうちたてられたのちにも革命は継続されるということを科学的に分析し、これにもとづき、社会主義下においてもプロレタリア独裁をひきつづき強化しなければならないという科学的な命題を提起し、その機能と任務を具体的にさししめした。

首相は、社会主義制度を樹立したのちにも革命を継続しなければならないと強調し、つぎのようにのべた。

「……社会主義の完全な勝利をなしとげるためには、われわれはまだ、もっと多くの仕事をしなければなりません。社会主義の基礎が建設されてからも、社会主義国家は、政治、経済、文化のあらゆる分野で革命をひきつづき、徹底的に遂行しなければなりません」

金日成首相は、このように生産関係の社会主義的改造が終わり、社会主義制度が樹立されてからも革命を継続しなければならないことを教え、その根拠として、まず社会主義制度が樹立されたあとも、階級闘争がつづけられるという条件を指摘した。

首相はつぎのようにのべた。

「搾取階級が清算され、生産関係の社会主義的改造が終わったのちにも、資本主義から社会主義への過渡期の全

期間にわたって階級闘争はつづきます」

都市と農村で社会主義的改造が完成されると、搾取階級は階級として完全に清算され、その社会経済的地盤もなくなる。しかし搾取階級の残存分子は依然としてのこっており、かれらは階級的本性をすてず、その古い地位をとりもどすための破壊謀略活動をつづける。かれらは、力のうえではとるにたらぬものであるが、帝国主義者たちの支持とその力をたのんであがくのである。したがって社会主義のもとでも、くつがえされた敵対階級の残存分子との階級闘争をつづけないわけにはいかないのである。

とくにわが国の場合は、南朝鮮にアメリカ帝国主義者がとぐろをまき、北半部にたいする破壊謀略策動と思想的浸透をたえず強行している条件のもとで、たとえ北半部で敵対階級がくつがえされたとはいえ、その残存分子の策動がまだありうるため、それに反対する階級闘争を強化しなければならない。

他方、社会主義制度が樹立された結果、古い思想を生む経済的基盤はなくなったが、勤労者たちの意識のなかには、古い社会からひきつがれた古い思想の残滓がながくのこっている。これは、人びとの思想意識の発展が社会の物質的変化にくらべておくれるためであり、帝国主義者たちの思想文化的浸透によって、ブルジョア思想の毒素がたえず侵入してくるからである。

ここから、社会主義下においても古い思想的残滓の腐蝕作用がおこり、これをとりのぞく思想革命を中心内容とする階級闘争がつづけられなければならないのである。

つぎに金日成首相は、社会主義下において革命をつづけなければならない根拠として、社会主義制度のもとでも都市と農村の差異、労働者階級と農民の差異がのこっている点を指摘した。

社会主義制度が樹立されたのちも、都市と農村、労働者階級と農民の差異はながいあいだのこる。生産手段の所有面ではひとしく社会主義的所有であるが、工業が全人民的所有となっている反面、農業は農民の協同的所有にも

とづいている。それに思想意識水準も、農民は労働者階級よりおくれている。したがって社会主義制度が樹立したのちにも、都市と農村、労働者階級と農民の差異をなくすための革命をつづけなければならない。

金日成首相はまた、生産力を発展させる面でも、なさねばならない仕事が多いことを、その根拠の一つとして指摘した。

社会主義制度が樹立されることによって、生産力発展のひろい道が切りひらかれる。だが、それだからといって生産力の発展がただちに高い水準に到達するものではない。生産力を社会主義、共産主義社会に相応する高い水準にひきあげ、搾取から解放された人民によりゆたかな生活をあたえるためには、もっと多くのことをしなければならない。

金日成首相は、こうした科学的分析にもとづいて、社会主義制度が樹立されたのちにも過渡期はつづき、社会主義国家は、プロレタリア独裁の機能をひきつづき強化しなければならないことを新しく解明した。

首相はこうのべている。

「敵対階級のしゅん動があり、古い思想の腐蝕作用がつづき、都市と農村の差異、労働者階級と農民の階級的な差異がのこっており、国の工業化が完全に実現されず、社会主義の物質、技術的土台がしっかりと築かれていない社会は、まだ完全に勝利した社会主義社会とはいえません。

社会主義の完全な勝利を保障し、労働者階級の歴史的偉業を完遂するために、社会主義国家は階級闘争の武器、社会主義、共産主義建設の武器としての自己の役割をさらに強化しなければなりません」

金日成首相は、社会主義のもとにおけるプロレタリア独裁の機能と任務についても、これを科学的に解明した。

首相はつぎのようにのべている。

「……社会主義国家は、プロレタリア独裁を強化し、一方では階級闘争をつづけ、他方では社会主義経済建設を

力強くおしすすめなければなりません」

このように金日成首相は、社会主義のもとにおいてのプロレタリア独裁は二つの機能——、すなわち階級闘争の機能と経済建設の機能を強化しなければならないと教えた。

階級闘争の機能を強化してこそ、勝利した社会主義制度を守り、それを強化発展させることができるのであり、経済建設も、より成果的にすすめることができるのである。

また経済建設の機能を強化してこそ、一日も早く社会主義、共産主義社会を建設して、人民により幸福な生活をあたえることができ、国の独立と自主性を徹底的に保障することができる。だから、この二つの機能のうち、どの一つをおろそかにしてもいけないのである。

金日成首相はとくに、プロレタリア独裁の二つの側面——、すなわち独裁と民主主義を正しく結合させることについてのマルクス・レーニン主義理論を全面的に発展させた。

首相は、独裁と民主主義の結合において生じうる左右の偏向を警戒しながら、民主主義の階級的性格について全面的な解明をあたえ、民主主義にたいする超階級性に反対して闘争しなければならないと教えた。

人類の歴史において、かつて階級をはなれた国家が存在しなかったように、階級性をはなれた民主主義もなかったし、またありえないものなのである。いかなる国家においても、民主主義は主権をにぎった階級のための民主主義であり、敵対階級にたいする独裁がこれと結合されるのである。

金日成首相はこうのべている。

「こんにち、われわれの時代には二つの独裁があります。一つはブルジョア独裁であり、他の一つはプロレタリア独裁であります。

……ブルジョア独裁は労働者、農民には独裁を実施し、地主、資本家には民主主義を実施します。……プロレタ

リア独裁は地主、資本家には独裁を実施し、労働者、農民をはじめ、広はんな勤労人民にたいしては民主主義を実施します。資本主義制度のためにはブルジョア独裁が必要であり、社会主義制度のためにはプロレタリア独裁が必要であります」

社会主義のもとにおいて、独裁と民主主義のこのような階級性を否定し、すべての人びとがみなうけいれることのできる「純粋な民主主義」、「完全な自由」を主張するならば、それは敵対階級のしゅん動と古いブルジョア思想の腐蝕作用をゆるすことになり、人民にブルジョア民主主義と奴隷的自由を強要することになり、党と労働者階級の指導を弱めることになる。

金日成首相は、プロレタリア民主主義だけが最高形態の民主主義であり、真の正しい民主主義であるということを正確に解明した。

首相は、プロレタリア民主主義の基本内容は搾取階級を永遠に清算し、労働者階級をはじめとする勤労人民の真の政治的自由と権利を保障し、しあわせな物質、文化生活を保障し、たがいの同志的協調と援助を強化することであるとのべ、プロレタリア民主主義よりも高い民主主義があるとすれば、それはすでに民主主義ではないと教えた。

金日成首相は、社会主義制度が樹立されたのちも革命をつづけ、プロレタリア独裁をたえず強化することにかんするこの理論を、朝鮮民主主義人民共和国創建二十周年記念慶祝大会でおこなった報告『朝鮮民主主義人民共和国は、わが人民の自由と独立の旗じるしであり、社会主義、共産主義建設の強力な武器である』において全面的に集大成し、体系化した。

このように金日成首相は、社会主義制度が樹立されたのちにも革命をつづけなければならず、プロレタリア独裁をひきつづき強化しなければならないという理論を新たに提起して、継続革命とプロレタリア独裁についてのマル

クス・レーニン主義思想を固守し、それを現代にあうよう創造的に発展させた。
社会主義制度を樹立するまでのプロレタリア独裁にかんする問題は、マルクス・レーニン主義の創始者たちによってすでに解明され、また実践されてきたが、社会主義制度が樹立されてからのち、すなわち社会主義、共産主義建設の時期におけるプロレタリア独裁についての問題は、いままで解明されていなかった。
金日成首相はプロレタリア独裁にかんするマルクス・レーニン主義理論を発展させ、プロレタリア独裁は搾取階級が清算されてからもひきつづき存在し、強化されなければならないということと、搾取階級が清算され、社会主義制度が樹立されてのち、プロレタリア独裁が遂行しなければならない課題を新たに解明して、社会主義制度樹立後の時期におけるプロレタリア独裁にかんする理論を完成した。これはマルクス・レーニン主義発展のうえでの偉大な出来事である。
金日成首相は、社会主義下におけるプロレタリア独裁についての理論を完成して、わが人民に社会主義、共産主義建設の威力ある思想、理論的武器をあたえ、社会主義、共産主義を建設しているすべての国の人びとに、社会主義、共産主義建設の正確な道をさししめした。そして、プロレタリア独裁にかんするマルクス・レーニン主義理論を乱暴に歪曲している左右の日和見主義者たちの誤った見解に打撃をくわえ、それを理論的に完全に破綻させた。
これはなによりも、金日成首相の偉大な主体思想の輝かしい勝利であり、その天才的な理論の金字塔である。

3　青山里精神、青山里方法

北半部に築かれた社会主義制度はますます強く根をおろし、革命と建設はさらに高い段階に到達した。
そうなるにつれ、新しく解決しなければならない問題が数多く提起された。なかでも発展する現実と移りかわる

新しい環境と条件にそくして、党と国家および経済機関の指導体系と幹部の活動方法や活動作風を全面的に改善することが焦眉の問題となった。これは、革命と建設における根本的な問題であり、切実な要求として提起されていた。

この数年のあいだに、北半部では根本的な変化が生じた。都市と農村で個人農経営が社会主義的経営に改造され、人民経済において社会主義的経済形態が全一的に支配するようになった。これによって人民経済はいっそう計画化、組織化されるようになり、生産力発展の広大な道がひらかれた。

ぼう大な五か年計画が二年半という短い期間に基本的に完遂され、生産力はきわめて早い速度で発展した。生産の規模はさらに大きくなった。

偉大な革命的変革の過程で、党は分派分子を一掃し、金日成首相を首班とする党中央委員会のまわりに一つの心、一つの意思で鉄の団結をかためた不敗の隊伍に強化成長し、ゆたかな経験をつんだ洗練された党となった。

社会主義建設の一大高揚と千里馬運動の炎のなかで、大衆の政治的熱意もかつてなく高まった。

北半部のこのような環境と新しい条件は、それにそくした指導を必要とした。すなわち、勤労者の政治思想的自覚をさらにうながし、高まった大衆の革命的熱意を社会主義建設へといっそう積極的に動員し、複雑でしかも規模の大きくなった社会主義経済をより計画的に運営しうる指導が必要であった。

これは、党と国家機関が大衆路線を徹底的につらぬき、新しい環境と条件にあうように指導と大衆との関係を正しく解決するということを意味した。

もともと、社会主義が勝利したのち、それにあわせて党と国家の指導および経済管理を改善し、たえず完成させていくのは、社会主義、共産主義建設において提起される根本問題の一つであり、社会主義建設の成果と社会主義制度の前途は、この問題をどのように解決するかに大きくかかっているものである。

首相は、マルクス・レーニン主義の原理を創造的に適用して、わが国の革命と建設の実践的経験を一般化し、つくりだされた新しい環境にあうように国家と経済機関の活動を改善し、その活動家たちの指導水準を高めるための一連の重要な措置をとった。

すでに革命に勝利した国は多いが、この問題にたいして全面的な解答をあたえた人物はいなかった。また、あたえうる人もいなかった。したがって、他の国から学びとるような経験はなおさらなかったのである。

金日成首相は、この問題も、他の問題と同様に主体的な立場から独創的に解決しなければならなかった。

金日成首相はつぎのようにのべている。

「生産関係の社会主義的改造が完成し、社会主義制度が確立されたのち、社会主義、共産主義を成功裏に建設しうるかどうかは、たえまなく発展する生産力に社会主義的生産関係をどのように適用させ、完成させてゆくか、確立した土台にあうよう上部構造をどのように完成し、土台にたいする上部構造の作用をどのように強化するか、ということに大きくかかっています」

一九五九年三月、首相は咸鏡北道党委員会拡大総会で、地方の党および政権機関の指導を新しい環境にそくしてあらためねばならないと提議し、同じ年の十二月、党中央委員会総会でふたたび抜本的な対策をうちたてたのである。

いまは実践あるのみだった。

しかし活動家たちは、依然として古い活動方法にとらわれていた。それはとくに、きわめて短期間のうちに社会主義的協同経営に改造されて協同農場が里単位に総合され、その規模が大きくなった農業部門においてあらわれた。

金日成首相は、党と国家および経済機関の活動がすべてこの問題にひっかかって、これ以上前進できないでいることを看破した。

首相は、これを早急に解決することなしには革命の新しい高地を占領することも、社会主義建設でひきつづき千里馬の勢いでかけることもできないと判断した。

一九六〇年の初頭に、首相はみずからこの問題を完全に解決しようと決心した。

首相は、この問題をもまた、典型的な一つの模範を創造し、それを農村の党および国家機関の活動全般に、さらには人民経済のすべての分野に一般化する方法で解決するという計画をたてた。そして、その典型的な農村として平安南道江西郡青山里をえらんだのである。

人口にくらべ農地もさほどひろくないこの村は、北半部のどこにでもあるような平凡な農村であった。

一九六〇年二月四日、吹雪まじりの、凍りつくような早朝であった。

金日成首相の乗った車は、一晩中降りつづけた雪をけって走った。

車窓から、雪におおわれた田畑や果樹園にかわった野山、新しく建った文化住宅などをながめる首相は、深い感慨にふけっていた。

一九四七年の夏、橐峠(タク)で道路修理をしていた青山里の人びとにはじめて会ったとき、かれらが、自分たちはこの国の主人になったとよろこんでいたこと、そして、農民たちが一年の収穫をすませたあくる年の春、ふたたび青山里をたずねて、山のふもとのカニの甲らのようなあばら屋をとりこわし、瓦ぶきの家を建てる計画や、この村を全国の模範村にしようと語りあったことなどが、まるできのうのことのように思いだされるのであった。

土地とともに生きてきた老人や勤勉な青壮年たち、そして親切な女性たち——、首相にとって忘れがたい顔見知りのこの村の人たちは、みな知恵と勇気をもった誇り高い人びとであった。

かれらは、祖国解放戦争の時期には牛の背に偽装をこらして畑をたがやし、愛する郷土をりっぱに守ってたたかった。

鋤一つろくにない戦後の復興建設のあの苦難にみちた情況のもとでも、かれらは、村をたずねて困難な生活を心配してくれる首相のまえで、むしろ笑顔を見せたのであった。

「首相さま！　むかしから国と百姓は一心同体だといわれてきました。それなのに、国が困っているときに、わたしたちがこれしきの苦しみをどうしていとうことがありましょう。苦あれば楽きたる、といいます。よく働きさえすれば、わたしたちの生活もすぐによくなることでしょう。首相さま！　あまり、ご心配なさらないでください」

金日成首相は、年老いた組合員のこのことばをいつまでも忘れることができなかった。こうした人びととならば、できぬ事などありはしないのだ！

村についた首相は、ある人民軍遺族の家をたずねた。

首相は、降りつもった雪を踏みしめながら庭にはいっていった。

「ご主人は、いらっしゃいますか？」

「はい。どうぞ部屋へおあがりください」

この家の主婦は作業班長をつとめていたので、作業班の人でもきたのだろうぐらいに気軽にこたえた。

しかしつぎの瞬間、彼女は、こんなに朝早く、思いもかけなかった金日成首相の姿を見て、すっかりまごついてしまった。

金日成首相は、寒いからどうぞ早く部屋においりくださいという主婦のすすめに、いやおかまいなくといいながら、台所のなかを注意深くながめたのち、微笑いをうかべながらこうたずねた。

「朝食には、なにをめしあがりました？」

主婦が、米のご飯をたべましたと返事をすると、首相は満足気にうなずき、昨年は労力点数を何点ほどあげたの、

か、家族は何人いるのかとたずねたのち、部屋にはいっていった。
首相は、主婦の姑にも挨拶をしてから、お年はいくつか、子どもたちはよく勉強をするのか、生活に困ったことはないか、寝具はみなそろっているかと、ていねいにたずねた。
この家の主婦は、遺家族の生活をこれほどまでに心配してくれる首相のあたたかい愛情に、涙をおさえることができなかった。
戦死した夫のためには涙一つ見せたことのなかった彼女ではあったが、遺家族のよろこびを自分のよろこびとし、遺家族の痛みをみずからの痛みと感じ、寒ければ寒いで、暑ければ暑いなりに遺家族の生活のすべてを気づかう首相の大きな愛情に、流れおちる涙をどうすることもできなかった。
金日成首相は、遺家族を党の柱と考え、いつもかれらをよりどころにして活動状況を分析し、それを展開していった。この日も首相は、この家ばかりでなく何軒もの遺家族と人民軍家族を訪問しては生活のようすをたずね、農場の仕事と党活動について意見をかわしたのであった。
この日から十五日のあいだ、金日成首相は青山里の人びとと生活をともにした。
雪におおわれた田んぼで、村の民主宣伝室で、名もない農民の家で、首相は農場の生活について組合員たちと語りあい、かれらを導いた。
また、里党組織と協同農場の幹部に里の実情をきき、党員たちとともに真剣に話しあった。老人にも会い、婦人にも会った。大衆の意見はあますところなくきいた。江西郡の党幹部とも何回となく話をかわし、かれらに教えもした。
こうした過程をつうじて、首相は里内の実情をすみずみまで把握し、これを分析した。そして里党総会、郡党幹部の協議会、郡党委員会の初級党総会、郡党委員会総会などを、その準備から進行にいたるまで、一つ一つみずか

ら指導した。

金日成首相はこの青山里と江西郡にたいする現地指導をつうじて、指導幹部が下部におりてゆき、すべての情況をどのように調査すべきか、こまかな指導をどのようにおこなうべきか、党の政策をつらぬくための正しい対策をどのようにたてるべきか、などの問題について生きた模範をしめした。

首相は、江西郡青山里党総会でおこなった演説『社会主義的農業の正しい運営のために』、江西郡党委員会総会でおこなった演説『新しい環境にあわせて郡党の活動方法を改善するために』、党中央委員会常務委員会拡大会議でおこなった演説『江西郡党活動の指導での教訓について』などにおいて、社会主義的農業および人民経済全般にかかわる指導体系と活動方法の問題を全面的に明らかにした。

金日成首相はこれらの演説で、まず社会主義的農業の正しい運営のための基本課題を明らかにした。

首相はまず、農繁期に建築、漁労、サークル活動など副次的な仕事に多くの労力を分散させることなく、仕事の中心である営農にすべての力をふりあて、これを基本にして労力の配置をすべきであると指摘した。

そして、農業の運営における計画化の水準を高めるよう強調した。個人経営のときにも、耕作をいつおこない、いつ、なにをどれほど植え、資金をどこに、どれほどつかうべきかなどと計画をたてて仕事をしたものである。ましてや百戸もある大きな経営を、計画もたてずに運営できようか？　場あたり式計算ではとても、大きな協同農場を運営することはできないとのべた。

計画化とは、ほかでもなく、協同農場でしなければならない仕事がなんであるかを決め、その仕事をするためにどのように資金と資材と労力を配分するかをあらかじめ決定することであるとのべ、計画の作成にあたって、生産計画とともに原料と資材の保障計画、労力および資金計画などを綿密にたてるべきであり、生産力の諸側面にたいする科学的な検討とはばひろい集団的な討議にもとづいて計画をたてなければならないと指摘した。

者の生産意欲を高めるよう指導した。

金日成首相はまた、社会主義的分配原則を厳格に守ることを強調し、思想的自覚と物質的刺激を結合して、勤労

首相は、力のいる労働と簡単な労働、技術的な熟練のいる労働とそうでない労働を区別し、農場員にたいする労働日評価を正確におこなうとともに、党政策教育、革命伝統教育、共産主義教育を強化し、すべての人びとが自分自身と社会のために積極的に働くよう教育しなければならないと強調した。

金日成首相が明らかにしたように、社会主義的経済管理においてもっとも重要なのは、勤労者にたいする政治思想教育を先行させることによって大衆の政治的自覚と革命的自覚をたえず高めることである。

もしも勤労者にたいする政治、思想教育を先行させ、その自覚と意識を高めようともせず、ただ物質的刺激のみに重点をおき、金によって人を動かし経済を発展させようとするならば、それは勤労者たちにブルジョア思想をひろめることになり、ついには社会主義建設に大きな害毒をおよぼす結果を生む。また逆に、労働の質に多くの差がのこっており、勤労者の古い思想ののこりかすが清算されていない情況のもとで、労力にたいする正当な報酬をあたえず、平均主義におちいるならば、やはり社会主義建設に障害をおよぼすことになる。

金日成首相は、こうした二つの偏向をいずれも警戒しながら、勤労者にたいする政治活動をしっかり先行させ、物質的刺激を併行させる唯一の正しい方針をうちだしたのである。

首相のこの教えは、生産関係の社会主義的改造が完成された新しい環境にそくして、農業ばかりでなく人民経済全般の社会主義経済を正しく運営する基本的な指針となった。

つぎに、金日成首相は郡党委員会と郡人民委員会の活動を改善する対策をうちだした。

金日成首相が明らかにしたように、社会主義協同農場の管理運営にあらわれた一連の欠点は、里党および協同農場管理活動家たちが熱意はあるものの、新しい環境にそくした活動方法を知らないことから生じたものであった。

このような情況のもとで、郡が里を正しく指導する問題はきわめて重要であった。しかしながら、郡党と郡人民委員会の指導体系と活動方法は新しい環境、新しい条件にそぐわなかったし、その指導においては大衆のなかに深くはいりこめず、事務室的な活動方法と官僚主義的で形式主義的な活動作風がのこっていた。

金日成首相は、青山里と江西郡の党活動にたいする指導において、郡党委員会と郡人民委員会の古い活動方法と古いカラをうちこわし、新しい環境と新しい条件にそくして、指導を下部に密着させる新しい指導体系と活動方法をうちたてることに深い注意をはらった。

首相は、地方幹部の指導水準が現実の発展についていけない情況のもとで「中央が道をたすけ、道が郡をたすけ、郡が里をたすける指導体系」をたてるだけでなく、とくに郡が里を正しく指導することが重要であると強調した。

首相は、里が基本生産単位となり、郡党と郡人民委員会が末端指導単位となっている実情から、郡の幹部が郡にとどまって公文書や指示を里へおくり、里をつうじて個人農を指導していた古い事務室的な活動方法を根本的にあらため、里へ直接おりていって、里の活動家をたすけなければならないと教えた。

金日成首相はまた、郡党の指導において行政的活動作風を決定的になくし、政治活動、人びとを教育し改造する活動をすべてに先行させることを教えた。

首相は、党活動の基本は統治する方法ではなく説得と教育であるとのべ、仕事が複雑、困難であるときほど人びとを啓発し、かれらに正しい道をしめしてこそ、だれもが確信をもってその道をすすむことができると指摘した。

首相は政治活動を先行させる方法について、つぎのようにのべている。

「政治活動を先行させるためには、なによりもまず、郡党委員会と郡人民委員会の活動家および農村や地方産業工場の党員に、わが党がしめした当面の革命課題の本質とその実行方法について徹底した認識をあたえねばなりません。

青山里党総会を指導する金日成首相

そして、党員がこの課題を実行するため、さらに具体的な方法を十分に討論するようにし、党員が大衆のなかにはいって党の政策を解説浸透し、大衆とこの課題を解決するための具体的な方法をひろく討論するようにし、このような討論にもとづいて、各党員に細密な任務をあたえなければなりません」

金日成首相は、政治活動をすべての活動に徹底的に先行させながら、これに必ず経済建設を密接に結合させるべきであると教えた。

金日成首相が明らかにしたように、経済建設からはなれた政治活動はありうるはずがなく、経済建設の遂行において具体的なたすけにならない政治活動などは、なんら意味をもたない。いいかえれば、政治活動に裏うちされない経済活動は方向を失うことになり、またその成果は、大衆の政治的自覚にもとづかないものであるため、確固としたものでなく拡大発展させることもできない。

したがって金日成首相は、政治活動と経済活動をともにしっかりと把握してすすまねばならず、それを密接に結合させるよう強調したのである。

金日成首相はまた、郡党委員会の集団的指導を強化するよう指摘し、その基本的な方法を明らかにした。

首相は、郡党委員会の集団的指導を強化するためには、まず集団的指導機関である郡党委員会を党に忠実で能力のある幹部によって構成せねばならず、つぎに、委員たちが大衆のなかにはいって広はんな大衆の知恵をくみ、その建設的な意見を正しく総合しなければならないと指摘した。

とくに首相は、集団的指導において、大衆路線をつらぬく問題についてつぎのようにのべた。

「集団的指導においてもっとも重要なことは、大衆の知恵をくみ、その建設的な意見を適時に総合する問題です。郡党委員の何人かだけで昼夜集まって討論したところで、たいした意見がでるはずはありません。必ず委員は大衆のなかにはいってゆき、大衆とともに生活し、大衆の真の声をきいたのちにふたたび集まってこそ、新しいすぐれた意見がでるのです。

いきいきとした創造的な知恵は、大衆のなかからでてくるものなのです。もちろん大衆の意見は、はじめは断片的で不十分なものであるかも知れませんが、それを適時にとらえ、集団的な協議をつうじて補充し、体系化する任務が党の活動家たちにまかせられています。党の指導機関はこのように総合され、体系化された意見をふたたび大衆のなかに浸透させ、その方向に大衆を指導していかなければなりません。こうすることがすなわち政治的指導であり、生きた指導であります」

金日成首相は青山里の指導をつうじて、じつにすぐれた指導方法をしめした。それは確固とした主体的立場と徹底した革命的大衆路線、深い科学的洞察力と革命的展開力、理論と方法をたくみに活用し、創造的に発展させる卓越し洗練された指導の典型であった。

青山里の凍てついた大地がとけ、新しい春が芽をふいた。そして、その春風にのって、首相が創造した偉大な青山里精神と青山里方法がはばたきはじめた。

それは千里馬の勢いで天かける朝鮮人民を、いっそう早く前進させる力強い翼であった。

金日成首相はつぎのように指摘している。

「青山里精神と青山里方法は、わが党の伝統となっている革命的大衆路線を、社会主義建設の新しい現実にあうよう具体化し発展させたものであります。青山里方法の基本は、上級機関が下級機関を援助し、上の人は下の人をたすけ、つねに現地におりていって実情を深く知り、問題を解決するための正しい方法を講じ、すべての事業において政治活動、人びとにたいする活動を先行させ、大衆の自覚的熱意と創造性を動員し、革命課題を遂行していくことにあります」

じつに青山里方法は、政治活動の先行、政治活動と経済活動の有機的結合、指導と大衆の結合、指導における一般性と具体性の結合、現実の具体的分析にもとづく科学的方途の探求、活動にたいする全般的掌握とその遂行順序の正しい選定、中心の環にたいする力の集中など、革命的指導の根本原則と方法を集大成したもっともすぐれた活動方法である。

したがって青山里方法は、大衆を指導する真の党的、政治的方法であり、もっとも科学的な共産主義的活動方法であり、革命化の力強い方法である。ここには、社会主義のもとで必ず守らねばならない党と国家および経済機関の指導における諸原則と方途が明確に提示されており、革命的な活動方法の規範と要求のすべてが明らかにされている。

青山里方法の真髄をなすものは、大衆を信じ、大衆に依拠して大衆の知恵と創造力を動員し、社会主義建設を促進させるマルクス・レーニン主義的大衆路線であり、人民的活動方法と活動作風である。ここにこそ、偉大な青山

里方法の革命的本質と真の生命力があるのである。

青山里方法に具現されたすべての原則と要求は、ある特定の時期と個別的分野にのみかぎられるものではなく、社会主義、共産主義建設のあらゆる分野で、そしてその全歴史的期間にわたり、かたく守ってゆかねばならない普遍的な指導原則であり、方法である。

また、社会主義建設における指導と管理の根本問題に全面的な回答をあたえた青山里方法は、わが国だけではなく、社会主義、共産主義を建設するすべての国のマルクス・レーニン主義党が守らねばならない革命的指導方法、教範となり、全世界に光を放っているのである。

金日成首相が、真の共産主義的方法の鑑であり、典型である、偉大な青山里方法を創造することができたのは、首相が文字どおり、人民的活動方法と活動作風の偉大な体現者であるからである。

金日成首相は、抗日武装闘争を組織指導した時期からこんにちにいたるまで、革命活動の全期間にわたり、つねに大衆の力をかたく信じ、大衆に依拠してすべての革命活動を指導した。

歴史の創造者である人民の力は無尽蔵であり、革命の勝利は広はんな人民大衆を革命闘争に動員できるかどうかにかかっているというこの真理を、だれにもましてもっとも深く体得していた金日成首相は、それを自身の革命活動において徹底的に具現したのである。

金日成首相は、いかなる問題であれ、それを決定し、解決するにあたっては、絶対に主観的な独断をゆるさず、いつも集団的な方、大衆の力にしっかりと依拠することを教えた。

世の中でもっともすぐれた教師は人民大衆であり、人民大衆の知恵と創造力は、こんこんとわきいでる泉のように決してつきることがないということが、金日成首相の確固不動の信念である。

それゆえ金日成首相は、その革命活動の初期から事務室的な活動作風、とくに官僚主義に強く反対し、つねに大

衆のなかにはいり、大衆を教えるばかりでなく、大衆に謙虚に学ぶことを幹部に強く要求し、みずからその模範をしめした。

金日成首相は、つねに現実のなかに、人民のなかに深くはいっていって党員や大衆と語り、相談し、現実のなかで仕事をさがし、人民とともに対策をたてた。

かつて抗日武装闘争の時期にも、金日成首相は毎日のように連隊と中隊、小隊と分隊におりてゆき、隊員たちとともにすごした。解放後、祖国に凱旋したときも、一番最初にたずねたのは労働者や農民であった。祖国解放戦争の困難な時期にも、金日成首相は、いつも各界各層の人民や人民軍兵士たちのあいだで生活をともにした。

金日成首相が、いかに日常的に大衆とともにすごし、人民のなかに深くはいっているかは、その現地指導がよく物語っている。

共和国北半部の都市や農村、工場と企業所、学校と科学文化機関など、そのどこにも金日成首相の足跡がしるされていないところはない。

初歩的な資料によってみても、一九五四年から一九六一年にいたるまで、金日成首相は合計千三百余回にわたって全国各地の工場、農村、教育文化機関、商業流通機関を現地指導している。平安南道の各機関、企業所、農村を現地指導したものだけでも二百七十余回におよび、青山里にたいしては、じつに三十八回もの現地指導をおこなっている。

首相は、一年の半分以上は現地におもむき、直接大衆を指導し、かれらと生活をともにした。

首相は、偉大な青山里精神、青山里方法を一般化する活動に精力的にとりくんだ。

青山里精神、青山里方法は社会の切実な要求を正しく反映したものであり、また金日成首相が直接しめした模範

ピョンヤン市勝湖区域梨峴協同農場を現地指導する金日成首相

によって、大衆の心を強くとらえ、一点の火花は力強い炎となって全国に燃えひろがっていった。

青山里精神、青山里方法は、党と国家活動および経済指導に根本的な転換をもたらした。革命の前進をはばんでいた古い指導体系と古い活動方法は一掃され、新しい革命的指導体系と活動方法、活動作風が全面的に確立された。

金日成首相は、みずからその貫徹を現地で指導し、ピョンヤン市勝湖(スンホ)区域梨峴(リヒョン)里において、全国にはばたく青山里方法の偉大な生命力をみたのである。

首相は、ここの里党総会でおこなった演説『党活動で主となるものは、すべての人を教育、改造して団結させることである』において、青山里方法が生んだ偉大な結実を総括した。

青山里方法の貫徹において達成された成果は、なによりもまず、各級党組織の活動と活動方法が新しい環境にそくしてあらためられ、社会主義建設のあらゆる単位で党組織の指導的機能が高まり、党の唯

一思想体系がさらにしっかりとうちたてられたことである。

青山里精神、青山里方法を生活に具現するたたかいをつうじて、党活動は事務室で会議をしたり書類をつくったりする仕事ではなく、創造的情熱のわきたつ農場と機械のまえにおける生きた創造的活動にかわっていった。すべての活動家が党的、政治的方法で活動するようになり、現実のなかに深くはいりこみ、実情を科学的に研究分析し、正確な対策をたて、大衆に学び、大衆に教えながらたがいに力と知恵をあわせて党政策の貫徹に専心するようになった。そして党の意図が大衆のなかに深く浸透し、党の政策がさらにりっぱにつらぬかれるようになった。

こうして朝鮮労働党は、金日成首相の賢明な指導をうけて活動する党、前進する党となり、党と大衆の統一はさらに不敗のものとなった。

また、青山里方法を貫徹するたたかいで、人間を教育し改造する困難な仕事が、大衆自身によってりっぱに解決されていった。これは、党の大衆路線の偉大な勝利であり、青山里方法をつらぬくたたかいにおいて党がかちとったもっとも貴重な成果であった。

金日成首相はつぎのように指摘している。

「わが党員は、人間の思想を改造し、その革命的熱意をよびおこし、広はんな大衆を革命事業に動員するうえで大きな力を発揮し、自身の能力にたいする大きな自信をもつようになりました。もし全党員がひきつづきこのような勢い、このような自信をもって前進するならば、朝鮮革命が必ず勝利するであろうことはうたがう余地もありません」

金日成首相は、人間改造でおさめた成果は、黄金よりも、数百万トンの米よりも貴重なものであり、なにものにもかえがたいものであると高く評価した。

すべての人びとが共産主義的に活動し、学び、生活する生気はつらつとした革命的気風が全社会にみなぎるよう

になった。

こうして青山里方法は、社会主義建設において大衆の積極性と創造性を最大限に動員し、社会主義制度の優越性を全面的に発揮させ、社会主義建設の偉大な推進力である千里馬運動をひきつづき力強く発展させる強力な武器となった。

青山里方法は経済事業に大きな変化をもたらした。

青山里精神、青山里方法が創造された最初の年には、すべての農村に大豊作がもたらされた。北半部の農民はこの年、前年の一・四倍、一九四六年の二倍の穀物をとりいれた。

青山里方法により、工業分野でも大きな成果がおさめられた。この年の工業総生産高は一九四六年にくらべ三・五倍にのびた。

春に金日成首相をむかえて年間の生産計画をたてた青山里の人びとは、大豊作となった田野をながめ、興奮をおさえることができなかった。

秋空が明るく澄みわたった九月十日、金日成首相はふたたびここ青山里をおとずれた。せまいあぜ道を歩きながら、首相はよろこびにつつまれて黄金の穂波うつ野面(のずら)を見わたした。

最初に田を見てまわった首相は、しだれ柳の木の下で農場員とともに語りあった。

金日成首相は、管理部門の働き手たちに現金および現物収入の見込み額と控除すべき現物、金額についてくわしくたずねて手帖に記入し、それを計算した。

「控除額をすべてさしひいても、一戸当りの平均は、穀物が三・二トン、現金が四百円になるね……」

首相のことばをきいて、農場員たちはよろこびにわきかえった。

このとき、農場員の一人が首相にこういった。

「首相さま！　ことしは一年分の穀物だけを家にのこし、あとは国でそっくり買上げてくれればと思います」

農場員たちはみんな、そうしてくれれば心配事が一つ解決されます、と口ぐちにいった。

金日成首相は農場員たちを見まわして、こうたずねた。

「それなら、一人当りどれほどのこせば、一年間十分にすごせるだろうかね」

農場員たちは、おとなと子どもをくるめて一人当り、もみ五～六カマスあれば十分だとこたえた。

金日成首相はしばらく考えていたが、「それだけで十分かね」といった。

「三百キロだとすると……、それは少しすくないようだ。息子が除隊して帰る家もあれば、工場で働いている娘が休暇をとって遊びにくることもあるだろうし……。

それに、嫁にいった娘が実家をたずねることもあろうし……、そうなれば、親もとにやってくる息子や娘に、いちいち、『配給米をもってこい』とでもいうつもりかな？」

農場員たちがわあーっと笑い声をあげると、首相も肩をゆすって笑った。

首相はことばをつづけた。

「むかしから朝鮮人には、町で嫁やむこの親御に会うと、米を売った金をはたいても酒をもてなすという風習があるほどなのに、一年に一度たずねてきた嫁やむこの親御を、ただで帰すわけにはいかないでしょう。だから、子どもとおとなをくるめて、一人に四百キロずつはのこしておかねばなりませんね」

農場員たちは首相の慈父のような愛情に胸をつまらせた。

さる二月には、雪の道をかきわけて、ここをたずね、新しい年の農業と農場の暮らしについて、手をとるように教えてくれたばかりか、今度はまた、国事のいそがしいなかを、穀物の分配量についてまで気づかってくれる首相――金日成首相を指導者とあおいで生きる朝鮮人民の幸福はいったい、なににたとえられるだろう！

金日成首相はこの日、農場員に分配された現金とあまった穀物のつかい方についても具体的に教え、新しく建てる文化住宅の土地までさだめたのであった。

首相の姿は、まさに子どもの暮らしを気づかう父親の姿そのままであった。

4　大安の事業体系と新しい農業指導体系

偉大な青山里精神と青山里方法は、党活動、国家活動、経済指導などのあらゆる分野に花ひらき、人民経済のあらゆる部門に新しい奇跡と革新をまきおこした。

しかし、金日成首相はこれだけで満足しなかった。

首相は青山里精神と青山里方法を、工業と農業の指導管理にさらに深く具現する新しい偉大な構想をたてた。

金日成首相は、すでに確立した社会主義経済制度の優越性を全面的に発揚し、経済をひきつづき発展させるためには、社会主義経済管理において大衆路線をさらに徹底的につらぬかなければならないと考えた。

首相は、社会主義のもとにおける経済運営の基本方法は人びとの熱意を高め、かれらが自覚的にたちあがるようにすることであり、これは経済管理で大衆路線を全面的につらぬくことによってのみ可能であるとみなしたのである。

これは、生産の発展において決定的な役割を果たすのが人間であり、社会主義は大衆の積極的な活動によってのみ建設されるものであって、複雑な大規模生産は大衆の集団的な知恵を集めてのみ科学的に運営できるということから出発している。

北半部において社会主義的生産関係が強固なものとなり、工場、企業所が多くなって生産の規模がさらに大きく

なった条件のもとでは、ある個人の才能や小さな知恵にたよるのではなく、大衆の集団的な知恵と創意性をひろく発揮させることによってのみ、生産を急速に成長させることができるのである。

金日成首相は大衆路線を徹底的につらぬく方向で、社会主義経済の管理問題を根本的に革新しようと決意した。これは高度な創造性を要する、きわめて困難かつ複雑な問題であった。この問題は、いままでどの書物にも解明されていなかったし、先に革命をおこなった国ぐににおいても、きわめて切実な要求として提起されてはいながら、解決をみないままのこされていた問題でもあった。これはまさに、マルクス・レーニン主義を生きた武器として駆使し、豊富な実践的経験をもつ金日成首相によってのみ解決できる問題であった。

金日成首相は、確固としたマルクス・レーニン主義的原則と主体的立場、革命的な大衆路線を具現した青山里方法にもとづいて、さらには、社会主義建設の指導において蓄積した豊富な実践的経験にもとづいて、生活が提起する問題を朝鮮の具体的実情から独創的に解決した。

首相は、企業の管理運営において大衆路線を徹底的につらぬき、社会主義経済制度の優越性を全面的に発揚させる環が、工業と農業の指導管理に青山里精神、青山里方法を具現し、経済指導管理体系を革命的に変革することにあると考えた。

金日成首相は、一九六一年十二月の党中央委員会第四期第二回総会で、経済指導管理に青山里精神、青山里方法を具現する決定的な対策をたて、ときを移さず、みずから大安(テアン)電機工場におもむいてその模範を創造した。

一九六一年十二月六日の早朝、大安電機工場をたずねた金日成首相は、直接労働者のなかにはいり、工場の実態をくわしく調査する仕事からはじめた。

首相は機械のそばで労働者たちと語り、党分組会議にも参加し、あるいは党と行政機関の幹部と話しあいながら、党活動と行政、経済活動、さらには労働者の生活情況にいたるまで、工場内の実情を全面的に調査した。

金日成首相は、すべての問題について細大もらさず大衆の意見をたずね、これを科学的に分析した。十五日間、工場の実態をくわしく調査して、自身の構想をもう一度整理した金日成首相は、一九六一年十二月十六日、工場党委員会拡大会議をひらいた。

首相はこの会議で、以前のそれとは本質的に異なる新しい企業管理体系をうちだし、この体系にあわせて、活動家たちの活動方法と活動作風をどう改善すべきかについて一つ一つ具体的に教えた。

金日成首相は、新しい指導体系において、工場を支配人個人によってではなく、工場党委員会の集団的指導制にもとづいて管理運営するという原則をうちたてた。

そして、生産にたいしてはある個人が責任を負うのではなく、全党員と労働者、技術者が責任を負い、なによりもまず集団的指導機関である工場党委員会がその責任を負うようにした。

金日成首相はまた、生産を総合的に指導することができる生産指導体系をたてた。

すなわち、生産と関連のあるいくつかの部署がたがいに分離していた以前の欠陥をただし、計画部、生産指導部、技術部、工務動力部などを包括して工場参謀部を組織し、技師長が参謀長の役割をうけもつようにした。こうして生産にたいする技術的指導を強化し、計画から技術準備、生産過程の指導にいたるまで、生産と直接関連するすべての部分を熟練した技術者が総合的に指導するようにした。

同時に首相は、新しい指導体系において、生産をおこなう部署の役割を根本的に改善した。以前は生産に直接参加する労働者に、物資を適時に保障できるようになっていなかった。資材の保障も上部では伝票を切るだけでなんの責任ももたず、すべての生産者が直接責任を負うようになっていた。そのために、職場長をはじめ生産を指導する責任者たちが、生産を指導するのではなく、資材を入手するためにあちこち走りまわるのに時間をついやしていたのである。

首相は新しい指導体系において、資材を上部から下部に供給する体系をたて、職場長が資材の入手にわずらわされることなく、本来の仕事に専念できるようにした。

金日成首相はまた、新しい指導体系において、生産者大衆の生活に全的な責任を負う後方供給体系をつくることによって、生産者大衆が生産活動にすべての熱意と創造性を発揮できるようにした。

こうして、新しい工業管理体系である偉大な大安体系が生まれたのである。

これは社会主義経済管理における青山里精神、青山里方法の徹底した具現であり、じつに偉大な革命的変革であった。

首相によって創造された大安体系の基本は、経済機関、企業所があらゆる活動を党委員会の集団的指導のもとにおこない、政治活動を先行させ、大衆を動員して提起された革命の課題を遂行し、上級機関が下級機関を援助し、上の人が下の人をたすけ、知っている人が知らない人を教え、すべての人が同志的に協調し、すべての職場、すべての工場、すべての部門がたがいに密接に協力して協同生産を発展させ、客観的な経済法則にもとづいて経済を科学的に、合理的に運営することである。

金日成首相は大安の事業体系を創造することによって、なによりも工場の管理運営における党の集団的指導を保障し、生産者大衆の責任感と創造性をさらに高めた。

首相はつぎのように指摘している。

「新しい事業体系のもっともすぐれた点は、工場の管理運営で集団性を十分に保障することにあります。

以前には、工場における一切の決定権が支配人にゆだねられ、支配人が生産にかんする責任を負っていました。労働者たちは工場の管理運営に十分参加できなかったし、……生産がうまくいっているかどうかは、かれらにとって、ほとんどかかわりのないこととなっていました。

しかし新しい事業体系では、工場党委員会が最高の指導機関として工場を管理運営し、すべての党員、労働者、技術者が工場の管理に参加しています。生産にたいして特定の個人が責任を負うのではなく、すべての党員と労働者、技術者たちが責任を負い、なによりもまず集団的指導機関である工場党委員会が責任を負うのであります」

首相は、生産手段が社会的所有となっており、現代的な大規模機械生産にもとづく社会主義経済では、生産にたいする生産者大衆の集団的管理がその本質的要求となり、生産を科学的に、合理的に運営するための必須不可欠の条件となっていると考えた。

事実、首相が明らかにしたように、生産手段の主人となった生産者大衆を生産管理に参加させてこそ、生産においてかれらの主人としての自覚と革命的熱意をさらに高めることができ、経済管理において個人の主観と独断をなくし、大衆の集団的知恵により、大規模な社会主義経済をりっぱに運営できるのである。

金日成首相は、生産にたいして支配人が一人で責任を負い、労働者、技術者が生産管理に参加しなければ、勤労者は生産の主人としてでなく、官僚主義的な命令と指示に服従する、たんなる雇用者として行動することとなり、生産がうまくいっているかどうかについては、ほとんど関心がなくなるであろうことを見ぬいていた。

それゆえ首相は、支配人の唯一管理制は社会主義制度の本質にもとり、勤労者大衆の創意性と積極性を発揮できなくさせる、本質的には資本主義的なものであるとみて、それを工場党委員会の集団的指導制による管理にとってかわらせたのである。

首相は、大衆のなかに深く根をおろした党組織の集団的指導のみが、大衆を動員し、その集団的知恵をひろく発揮させることができ、経済管理に提起されるすべての問題を党的、階級的立場で、かつ全国家的、全人民的立場で、労働者階級の利益にあうように解決してゆくことができると考えたのである。

党委員会の集団的指導にもとづいた経済管理の創造性は、ここだけにあるのではない。

金日成首相は、党委員会の集団的指導制にもとづく経済管理は政治活動を先行させ、党的、政治的方法で大衆を動員し、これに経済、技術的指導を併行させ、提起される経済的課題をりっぱに遂行することができるようにするものであると教えた。

政治活動を先行させることは、社会主義建設で大衆の革命的熱意と創造的積極性を動員して、経済管理で大衆路線をつらぬくもっともすぐれた方法である。

金日成首相は人民経済の指導管理における党の指導的役割を高め、党活動をたえず強化することにより、あらゆる活動において政治活動を先行させる原則をりっぱに具現した。

こうして首相は、党活動家はもちろん、すべての幹部たちが政治活動をおこない、政治活動が経済活動と密接に結合することによって、すべての生産者を思想的に動員し、かれらが自分に提起された革命課題の意義と遂行方途を明確に把握し、その遂行に自覚的にたちあがるようにしたのであった。

金日成首相が創造した大安体系の優越性は、経済管理において官僚主義、セクト主義、利己主義の要素をなくし、上級機関が下級機関をたすけ、上の人が下の人をたすけ、すべての人びとが同志的に協調し、すべての職場や工場、部署がたがいに密接に協力して、社会主義的共同生産を発展させていくところにある。

ここには、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という集団主義的、共産主義的生活原則がりっぱに具現されている。

こうして金日成首相は、規模が大きく、各部門間の関係が複雑な社会主義生産において、行動の一致をはかり、共同作戦を正確におこない、かたくむすびあい、団結した力で提起された革命課題を遂行していく力強い要因をつくりあげたのである。

金日成首相はさらに、大安の事業体系で党の大衆路線をつらぬき、計画の一元化を実施し、民主主義的中央集権

制にもとづく計画的指導をさらに強化する独創的な方法を提示した。

その結果、国家の経済生活がきわめて大きく複雑なものとなった新しい環境のもとで、客観的経済法則にもとづき、経済をさらに科学的に、合理的に運営できるひろびろとした展望が切りひらかれた。

首相は、計画の作成に生産者大衆を参加させようともせず、生産と遊離した計画活動家にのみそれをまかせて主観主義的、官僚主義的な計画を作成している現象を批判し、計画の作成において大衆路線をつらぬかねばならないと教えた。

また、中央から地方にいたる計画事業を統一的におこなう全国的な一つの国家計画機関体系を確立して、上部からの指導と大衆を密接にむすびつける対策をたてた。

国家計画委員会に直属する計画機関を地方におき、機関、企業所の計画部署を計画細胞として活動するようにし、中央から企業所にいたる計画事業を統一的に実行する一元化された計画化体系と、それに依拠して実現される細部化計画がそれであった。

計画の一元化とは、計画を個人の一存でたてるのではなく、国家の要求どおりに、社会の発展の必要に応じて計画をたてることであり、計画の細部化とは、人民経済の全般的発展を個々の企業所の活動と正確にむすびつけ、あらゆる部署と企業所の実情にあうように計画を具体化し、経済活動の細部にいたるまで、かみあうようにすることである。

金日成首相の一元化計画体系と細部化計画の理論は、社会主義経済の計画化において、これまでだれも着想できなかった緊要かつ重大な問題に科学的な回答をあたえる独創的な理論であり、この理論の創始は世界的意義をもつものであった。

これまでの計画化体系には一定の矛盾があった。国家計画機関で働いている活動家たちは、国家の経済生活全般

にかんする展望はもっていたが、客観的現実と具体的生産の予備についてはよく知らなかった。一方、生産者たちは具体的現実と企業所の生産予備についてはよく知っているが、国家の全般的経済生活の情況と全般的な人民経済発展の展望をもてなかった。

この矛盾は、国家計画機関の働き手たちの主観主義と、生産者たちの機関本位主義、地方本位主義との矛盾としてあらわれた。

金日成首相は、計画化における国家計画機関活動家の主観主義と生産者の機関本位主義、地方本位主義をなくし、国家の意図と生産者の創意性を密接に結合させ、計画を真に現実的、科学的、かつ動員的なものとなる方向を、計画化体系の一元化にもとめたのであった。

金日成首相はつぎのように指摘している。

「もっとも合理的かつ現実的で動員的な計画をたてるためには、国家計画機関の主観主義を克服するだけではなく、生産者の機関本位主義と地方主義をなくすことによって、全般的、国家的利益の立場からこの矛盾を正しく解決し、国家の要求と生産者の意見をよく総合しなければならない。まさに、この問題を正しく解決する目的から、われわれは計画化体系を一元化するようにしたのである」

大安の事業体系は、計画の一元化とあいまって、一つの工場、企業所においてさえ数百数千種の原料、資材、工具などの消費規準を科学的にさだめ、あらゆる生産工程をたがいにかみあわせる計画の細部化をりっぱに実現することのできる体系である。

このように大安の事業体系は、生産にたいする党の指導を決定的に強化し、企業管理運営で青山里方法と党の大衆路線を徹底的に具現した指導体系であり、工業管理における古い資本主義的残滓を決定的に清算し、社会主義制度の優越性を最大限に発揮させるもっともすぐれた共産主義的指導体系である。

以前の工場管理体系は、社会主義的なものではあったが、まだ資本主義的残滓を多くもっていた。そこには官僚主義的でセクト主義的、かつ利己主義的な要素が多くのこっていた。上部から下部におりていって援助するのではなく、官僚主義的に指令だけをおろし、各職場のあいだでも協調する気風が欠けていた。そのため古い指導体系では労働者の積極性と創意性を十分に発揮させることができず、人びともいそがしく走りまわってはいたが、生産面では大きな成果をあげることができなかった。

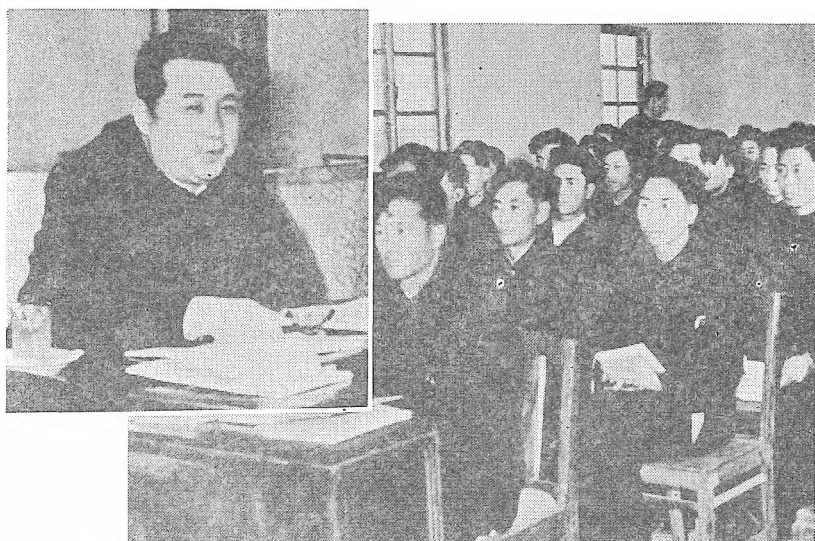
従来のこのような欠点をぬぐい去った大安の事業体系は、共産主義的、集団主義的原則をいっそう徹底的に具現することを可能にし、人びとが共産主義的に働き、共産主義的に生活できることを可能にし、すべての人を団結させ、かれらの献身性と創意性をさらに発揮できるようにした。

金日成首相が創造した大安の事業体系は、これらの優越性により、社会主義経済を急速に発展させうるばかりでなく、すべての勤労者の思想意識を共産主義的に教育、改造し、社会主義、共産主義建設の物質的要塞と思想的要塞をともに占領する力強い方法である。

したがってこの体系は、工業指導管理体系における根本的変革を意味し、一部の国で実施されている企業所の収益率と勤労者の物質的関心のみを追求する日和見主義的管理体系とは根本的に区別される、もっとも革命的で先進的な事業体系である。

いつも一点をつうじて全国を洞察し、一つの環をつきやぶって全般を解決してゆく首相は、大安でみずから創造した新しい体系を全国に一般化する活動をくりひろげた。

そして安州炭鉱、ピョンヤン紡織工場などをはじめとする工場、企業所などをたずねては、大安の事業体系をつくりだす活動を具体的に指導した。

首相はまた、新しい指導体系の革命的意義とその優越性をみとめることができず、古い活動体系にこだわる消極

平安南道粛川郡を現地指導する金日成首相

分子、保守主義者との強力な思想闘争を組織する一方、多くの会議と現地指導をつうじて工場管理幹部と労働者たちに大安体系の優越性を理解させ、それを徹底的に導入するよう指導した。

こうして国のあらゆる工場、企業所から管理局、省にいたるまで、工場のすべての単位で古い指導管理体系が清算され、新しい指導管理体系である大安の事業体系が確立された。

大安の事業体系の確立は、つくりだされた新しい環境に経済指導管理を適合させ、工業にたいする指導管理運営を根本的に改善する画期的な措置となった。

金日成首相は大安の事業体系を確立したのち、ひきつづき新しい農業指導体系の創設に力をそそいだ。

もちろん、首相は農業協同化実現の初期から、協同経営にたいする国家的指導体系と活動方法に深い関心をはらっていた。とくに首相が創造した青山里方法は、協同農場にたいする国家的指導を強化するうえで画期的な転換をもたらした。

しかしながら金日成首相は、農村における現実の急

速な変化が、青山里方法の徹底化による新しい農業指導体系を要求していることをよみとっていた。協同農場は規模がさらに大きくなり、現代的技術をそなえていた。農村活動の範囲は拡大し、それはいっそう複雑なものとなり、農業にはさらにぼう大な課題が提起されていた。

金日成首相は、農村につくりだされたこのような新しい条件にそくして、社会主義農業の指導体系を決定的に改編する構想をいだき、大安電機工場党委員会拡大会議がおこなわれた二日後の一九六一年十二月十八日、雪の道を踏んで平安南道粛川（スクチョン）の地をたずねた。

この日、金日成首相は粛川郡内の農村指導幹部、協同農場管理活動家たちと席をともにして郡内の農作業と農業の指導管理の情況を調査し、農業指導体系を根本的に改善する具体的な指導をおこなった。

首相は、農業を直接に指導する専門的農業指導機関である郡協同農場経営委員会を創設した。そして、みずからその機構をととのえ、それぞれの部署と活動がどのような機能を果たし、どのような仕事をするかについて具体的にしめした。

粛川郡にたいする現地指導ののち、首相はこれを全国にひろめ、各郡には郡協同農場経営委員会を、道には道農業委員会をそれぞれ組織し、農業省を農業委員会に改編する画期的な措置をとった。こうして中央から郡にいたる整然とした農業指導体系が新たにつくりあげられた。

金日成首相は、新しい農業指導体系において、なによりも農業にたいする指導を企業的方法にかえ、農業発展のさしせまった要求を適時に解決していった。

以前、個人農の時期には、郡人民委員会が農業を行政的方法で指導していた。

しかし、農業が平均三百戸をこす農家と五百余町歩の農耕地をもつ大規模な社会主義的協同農場に集団化され、工業と同様に現代的技術をそなえた一つの技術工程となったため、行政的方法ではこれを円滑に指導することがで

きなくなった。

それはただ、技術的指導を基本として計画作成、生産組織、土地と農機械および灌漑施設の利用、技術の発展、資材の保障、労働力の配置と組織、生産物の分配、財政管理など、協同農場のあらゆる経営活動を直接掌握して組織し指導する方法、すなわち企業的方法によってのみ、りっぱに指導することができるのであった。

金日成首相は、農業発展のこうした切実な要求を適時にとりあげ、農業にたいする指導を企業的方法に切りかえる方針をとったのである。

首相は、農業の企業的管理運営の単位として、郡がもっとも合理的だとみなした。

協同農場では規模があまり小さく、管理幹部と技術幹部の数も十分とはいえず、農業の総合的機械化を実現する経済の土台も弱かった。反対に、道ではその規模が大きすぎた。

しかし、郡には技術幹部と管理幹部が少なからずおり、農機械作業所、農機械修理工場、灌漑管理所など農業に奉仕する国家企業所がおおむねそなわっていた。また、農耕地も一万町歩前後であって、すべての技術設備を総合的に利用するうえでも便利であった。

金日成首相は、これらすべての具体的実情を科学的に分析して郡を基本単位とし、農業を企業的方法で指導する専門的国家機関である郡協同農場経営委員会を創設したのであった。

金日成首相が創設した新しい農業指導体系は、社会主義農村問題の正しい解決方法を明らかにしたもっとも革命的で、独創的な措置でもあった。

金日成首相は、その後、『わが国における社会主義農村問題にかんするテーゼ』で全面的に明らかにしたように、社会主義下における農民問題、農業問題をりっぱに解決するためには、農村で技術革命、文化革命、思想革命を徹底的に遂行しなければならず、農民にたいする労働者階級の指導と、農業にたいする工業の援助と、農村にた

いする都市の支援を全面的に強化しなければならず、また、農業にたいする指導と管理を工業の先進的な企業管理の高さにまでたえずひきあげ、全人民的所有と協同的所有の連係を強化し、協同的所有を全人民的所有にたえず近づけねばならないと考えた。

金日成首相は、郡協同農場経営委員会を創設することによって、社会主義農村問題の解決におけるこうした要求をもっとも円滑に充足させうる方途を切りひらいた。

事実、以前の郡人民委員会は、農業にたいする国家的指導の機能をもってはいたが、物質、技術的手段を直接もっていなかったため、協同農場を技術、財政的に援助することができなかった。一方、郡には農業に奉仕する国営企業所はあったが、それらを統一的に掌握する機関がなかったために、これらの企業所は農業を発展させるうえで効果的に歩調をあわせることができなかった。

金日成首相は、郡協同農場経営委員会を創設し、それが農機械作業所、農機具工場、灌漑管理所、家畜防疫所など、郡内の農業分野で国家所有に属するすべての企業所と技術設備および技術力量を統一的に掌握して、協同農場を企業的方法で指導するようにした。

首相はこうした措置をとることによって、国家的所有と協同的所有の有機的結合を実現し、農業協同経営にたいする国家の技術、財政的援助を決定的に強化することのできる道をひらいたのである。

この措置は農村において技術革命をさらに力強くおしすすめ、協同農場にみられた散漫性と自然発生性の残滓をなくし、それをいちだんと組織的、計画的に発展させることを可能にし、協同農場の管理運営方式を国営経営のすぐれた管理運営方式にもとづいてあらためることができるようにした。そして組織的、技術的にだけでなく政治、思想的および文化的に農民にたいする労働者階級の指導的役割を強め、労働者階級が責任をもって農民を共産主義社会まで導いていく道を切りひらいた。

これらすべては、労働者階級の指導的役割を高め、労農同盟をさらに強め、全人民的所有の指導的役割を高めながら協同的所有を全人民的所有へたえず導いてゆく強力な方法となったのである。

金日成首相はつぎのように指摘している。

「新しい農業管理体系は、社会主義的協同経営の将来の発展展望にも完全に合致しています。

……共産主義に到達するためには、国家の経済が一つの全人民的所有形態にならなければならず、したがって協同的所有の、全人民的所有への転化が必要なことはいうまでもありません」

農業にたいする新しい指導体系は、青山里方法、とくに上部が下部をたすける方法を、すべての経営活動にたいする企業的指導方法によって具体化し、さらに発展させた指導体系であり、複雑で困難な社会主義農村問題解決への正しい方法を明らかにした、もっとも先進的で革命的な指導体系である。

金日成首相は、大安の事業体系と新しい農業指導体系を創設することによって、社会主義のもとで生産力と生産関係の相互関係および、土台と上部構造の相互関係についての理論を豊富にし、発展させ、マルクス・レーニン主義の宝庫にいま一つ大きく寄与した。

社会主義革命が勝利したのち、社会主義、共産主義をりっぱに建設できるかどうかという問題は、たえず発展する生産力に生産関係をどのように完成させ、土台にたいする上部構造の作用をどのように強めるかということにかかっている。

金日成首相は、マルクス・レーニン主義の原理を創造的に適用し、朝鮮における社会主義革命と社会主義建設の実践的経験を一般化し、大安の事業体系と新しい農業指導体系を創造することによって、社会主義建設の運命を左右するこの重大な問題を解決するための基本原則と具体的方法を科学的に解明した。

新しい経済管理指導体系をもつにいたった一九六二年は、年頭から大きくわきたった。大安の事業体系と新しい

農業指導体系は、全国で偉大な生命力を発揮した。

すべての工場や企業所では、新しい企業管理体系による党委員会の集団的指導のもとに青山里方法が徹底的につらぬかれ、生産管理、勤労者の思想意識などすべての分野で画期的な変化がおこった。

こうして巨大な生産的予備が見出され、設備利用率と労働生産能率が系統的に上昇し、幹部と勤労者のあいだで集団主義、共産主義的な活動作風と生活気風がさらに発揚された。

農業と農民の生活にも新しい変化がおこった。

郡協同農場経営委員会は、郡内の物質的手段と技術力量を統一的に把握して、協同経営にたいして企業的指導を実施し、全人民的所有と協同的所有の有機的結合を実施し、協同的所有にたいする全人民的所有の指導的役割を決定的に強化し、協同経営にたいする国家的援助をさらに効果的に実現した。農村における技術革命が強力におしすすめられ、協同経営が組織的、経済的にいっそう強められ、協同農民の技術文化水準と思想意識の水準が急速に高まって、労農同盟はいちだんと強化された。

こうして、農業生産も工業生産と同じように、社会主義経済の発展法則にしたがい、確固として発展できる物質、技術的および組織、経済的基礎が築かれた。

大安の事業体系と農業にたいする新しい指導体系は、日を追ってますますその威力を発揮し、共和国北半部における社会主義建設をさらに高い段階にむかって力強くおしすすめている。それはまた、マルクス・レーニン主義の宝庫をゆたかにした功績と権威によって、社会主義を建設する世界の革命家の指針となり、生きた教科書となっている。

金日成首相は、工業と農業にたいする新しい指導管理体系の創設とともに、青山里方法にもとづく党活動のいっそうの改善強化にも大きな注意をはらった。

首相は、黄海南道党組織にたいする党中央委員会の指導活動を組織し、ここにあらわれた党活動の全般的情況を分析して、党活動を決定的に改善強化する方法を探求した。

これにもとづいて、首相は一九六二年三月に党中央委員会第四期第三回総会を招集し、党活動において青山里精神、青山里方法を徹底的に具現する対策をたてた。

総会でおこなわれた首相の結論『党の組織活動と思想活動の改善強化について』は、じつに、党建設において綱領的意義をもつ文献である。

金日成首相はこのなかで、なによりもまず党活動とは、つまり党の隊列をしっかりとかためてその戦闘的機能を十分に発揮させる活動であり、その基本的な環は、党員が党の組織生活をりっぱにおこなうよう指導することにあると指摘した。そして党員が党のあたえる任務を遂行する活動、すなわち党員の政治生活であり革命活動である党の組織生活を強化するか否かによって、党が強力な不敗の党となるかどうか、党が自己の闘争目的を実現するかどうかが左右されると強調した。

首相は、党員の党組織生活を強化するためには、党活動の基本的指針である党規約が要求する方向で党員の党組織生活をおこなうように指導し、すべての党員が属する細胞と一部党員の属する委員会をりっぱに活動させることが重要であると、つぎのように指摘した。

「細胞や委員会では、党員がつねに党の任務をうけもってそれを実践するようにし、ふたたび新しい課題をあたえて、その実行を指導し援助する組織活動をしなければなりません。

党員がこのように、党組織から党の任務をうけもち、その実行情況を報告し、さらに新しい課題をうけてそれを遂行することが、つまり組織生活であります」

金日成首相はついで、党活動を中断することなくひきつづきおこなわなければならず、そうしてこそ党員をたえ

ず動員することができるとのべ、党活動、党員の党組織生活において重要なのは、会議よりも各党員がうけもっている党の具体的な課題をりっぱに実行することであると指摘した。

金日成首相は、党活動、党組織生活にたいする評価基準について、つぎのようにのべている。

「党活動がりっぱにおこなわれているかどうかを評価する基準は、結局、党組織がどのように築かれているか、党組織と党員が十分に活動し、自身がうけもつ党の課題をりっぱに遂行しているかどうかという点にあります」

首相はまた、党活動を強化するにあたって、党をととのえて、党を活動させる仕事を主としておこなう党の組織部と宣伝煽動部の活動を強化することがきわめて重要であると指摘した。これとともに、すべての部署が党の活動を最優先させ、幹部問題を第一の活動としておしすすめ、党組織と党員を活動させるためあらゆる努力をかたむけなければならないと強調した。

ついで首相は、党は祖国を統一し、社会主義を建設するという二つの革命課題を遂行していることを想起させながら、経済活動にたいする指導の強化を重要な課題として提起した。

首相はつぎのようにのべている。

「それでは、党は経済活動をどのようにおこなうべきでしょうか。

党は経済活動を請負うのではなく、指導しなければなりません。党は、経済関係の党組織と党員を動かさねばならず、かれらを指導して経済活動を党の要求する方向で保障しなければなりません。わたしがいつもいうことですが、党活動家たちは、経済課題の遂行で舵とりの役割をしなければなりません。党活動家は経済活動家が党の路線にしたがって正しい方向にすすむよう、うしろから舵をとらなければなりません……。

重要なのは、党活動家が先頭にたつにしても、うしろにつくにしても、舵をとることにあります。党活動家はつねに党の政策を把握して党員と党組織を動かし、正しい方向に人びとを導いていかなければなりません」

金日成首相は、党委員会が行政経済事業にたいする「舵とり」の役割を正しくおこなう方法について明確にしめした。

首相はまず、党活動家の行政経済事業にたいする指導が、行政的命令でなく党的な方法、すなわち党組織と党員を動員し、政治的、かつ組織的に活動をおこなう方法によらねばならないと指摘した。

そして党活動が指導において主観主義におちいることなく、現実をあるがままに客観的に見なければならず、そのためには下部におりていって実情を具体的に把握せねばならないとのべた。

文献のつぎの部分で金日成首相は、農村における階級闘争についてとくに強調しながら、転覆された地主の策動にたいしてするどい監視の目をそそぎ、階級闘争を日常的な政治闘争、全大衆的な闘争としてくりひろげなければならないと教えた。

金日成首相はまたこの文献で、党員を反修正主義思想でしっかり武装させる重要な問題を提起した。

首相は、マルクス・レーニン主義の教育を強化する一方、党員のあいだで修正主義者の反マルクス主義的観点と見解を徹底的に暴露し、党員がことの是非をはっきり区別できるようにしなければならないとのべた。そして、党員が主体をさらに確立し、自力更生の革命精神で武装することが、反修正主義闘争においてきわめて重要であると強調した。

首相はまた、修正主義に反対する闘争とあわせて、欧米かぶれの風潮に反対する闘争をおこなってこそ、修正主義の浸透を徹底的にふせぐことができると指摘した。

じつに、首相の労作『党の組織活動と思想活動の改善強化について』は、党の組織、思想活動と経済活動など、党活動のあらゆる分野で解決せねばならぬ党建設の諸問題について明確な回答をあたえた古典的労作であり、党建設理論を独創的に発展させた偉大な文献である。

金日成首相の教えにしたがい、各級党委員会と党組織は、青山里精神、青山里方法にもとづいて指導体系を新しい環境にあわせて確立し、党活動を全面的に改善する闘争を強力におしすすめた。
こうして党活動は全面的に改善され、党の指導的役割がさらに高まり、経済にたいする党の指導が強化され、大安の体系と新しい農業指導体系の偉力は、さらに力強く発揮されたのである。

第三章　社会主義の高峰めざして

1　勝利者の大会、輝かしい設計図

一九六一年三月二十日にひらかれた朝鮮労働党中央委員会総会は、この年の九月十一日に、歴史的な第四回党大会を招集するとの決定を発表した。

この朗報に接した勤労者たちは、一九六一年度の経済計画を党大会前に完遂し、計画よりも百万トン多く穀物を生産するために力強くたちあがった。党中央委員会は、金日成首相の提案によって人民をはげまし、愛国の熱意を大きく高めるためにすべての党員と勤労者に赤い手紙をおくった。

金日成首相は、きわめて多忙な毎日をすごしていた。党大会で報告する党中央委員会活動総括報告をはじめ、諸文書の作成、また党大会準備と関連して提起される多くの国内問題と対外問題の解決など、じつに多忙をきわめていた。

しかし、多忙であればあるほど、首相は綿密な計画にしたがって複雑な仕事をくまなく処理し、多くの時間をつくっては青山里精神、青山里方法の貫徹過程を現地でみずから指導した。そうかと思うと定期的な党中央委員会総会をはじめ、第三回党大会以後の活動をふりかえり、数多くの各部門別会議を指導して新たな決意をかためさせ

たりした。

　こうして五月のまる一か月というものは、咸鏡北道地区にたいする現地指導についやされた。首相は人民のなかにはいって増産闘争をはげまし、党大会に提出する七か年計画の輝かしい設計図をつくり、人民とひざをまじえながら、その科学的な根拠をいくどもたしかめた。

　金日成首相の肉親のようなあたたかい指導にはげまされた勤労者の意気ごみは、きわめて高かった。みんながたすけあい、知恵と力をあわせ、高い目標にむかって兵士のように突進した。

　「党大会のまえに超過完遂しよう！」という合い言葉が、すべての工場と田畑からわきおこった。歩くことがもどかしくてひた走り、二〇〇パーセントの成果をあげてもだれ一人これを自慢するものはいなかった。

　革新には革新でこたえるという、叙事詩的なたたかいが国中でくりひろげられた。

　英雄的な労働者階級と、かれらを支援する軍隊と人民は、咸鏡南道に世界第一級の大ビナロン工場を建設し、新義州と清津には巨大な化学繊維工場を建てた。検徳の鉱夫たちが年間計画を四か月も短縮して終えたのを皮切りに、全国各地から大会前に年間計画を完遂したという知らせが党中央へつぎつぎとつたえられた。また一方では、いろいろな大型工作機械や溶鉱炉がつくられ、スマートな電気機関車が花吹雪をあびてスタートし、電子計算機がせわしげに動きだした。すべてのものがみずからの技術、みずからの資材、みずからの労力でつくりだされた創造物であり、偉大な朝鮮労働党の大会にささげる労働者階級と科学者、技術者たちの忠誠の贈り物であった。

　穀物百万トンを増産するため奮闘した協同農村の農民たちは、黄金の稲穂波うつ大豊作の田野を党大会への贈り物とした。

　千里馬運動の意気ごみはいたるところにみちあふれ、共産主義思想と共産主義道徳の赤い花は国中に咲きこぼれた。

いたるところで革新がおこり、田も畑も果樹園もたわわにみのって、千里の遠方にまでそのかぐわしい香りを放ち、五穀が波うつ秋たけなわの九月十一日！　ついに歴史的な朝鮮労働党第四回大会が雄壮華麗なピョンヤン大劇場でひらかれたのであった。

第三回党大会から五年、ながくはない歳月だったが、まさに歴史的な時代の偉業にふさわしい雄大な建設と革命をなしとげてひらかれる栄光の大会、勝利者の大会であった。

金日成首相の古くからの戦友である抗日闘士たちと、解放後、首相のもとで育った革命戦士たち、強じんでしかも洗練された党の活動家と労働革新者たち、革命を自己の生命とみなして活躍する勤労インテリと千里馬の騎手たちが大会に参加した。

大会参加者のなかには、死線をこえてはせ参じた南朝鮮革命組織の代表や、反動分子の迫害をしりぞけて東海(トンヘ)をわたってきた在日朝鮮人祝賀団の代表もいた。

大会にはまた、社会主義諸国をはじめ、多くの国境をこえてきた諸大陸の三十余か国の共産党、労働者党の代表たちが参加した。

共和国北半部のすべての勤労者はもちろんのこと、たたかう南半部の兄弟や、遠く異国の空の下で祖国を慕う海外同胞が、ピョンヤンに耳目を集中した。

世界の戦友と善良な人民も、ピョンヤンの声に耳をかたむけた。アメリカ帝国主義者とその手先どもも、かれらなりにピョンヤン放送に耳をかすまさずにはいられなかった。

午前八時三十分、朝鮮人民の偉大な指導者であり、世界革命運動のすぐれた指導者のひとりである金日成首相が党の指導幹部たちと兄弟党の来賓たちとともに、明るい笑みを満面にたたえて主席壇に姿をあらわした。

参加者は全員起立して嵐のような拍手をおくり、「朝鮮労働党万歳！」を声をかぎりに叫んで、敬愛する指導者

金日成首相をむかえた。

それは苦難の建設と革命に勝利した人びとのみが、その勝利を導いた偉大な指導者にかぎりない忠誠と感謝とよろこびをささげる熱狂的な歓迎であった。

第三回党大会からこの大会までの期間、金日成首相は、どれほどのけわしい道のりとどれほどの献身的な闘争をへ、どれほどの雄大な偉業をつみかさねてきたことだろう！

内外の敵の挑戦をうちくだきながら創造した千里馬の大進軍、前人未到の茨の道をかきわけて全面的に完成した社会主義的生産関係、搾取と貧困のない社会制度の確立、悪戦苦闘のなかで築きあげた自立的民族経済の基礎——、首相はこれらすべての歴史的勝利を組織し指導して、朝鮮人民を不屈の闘士に、英雄に育ててきたのである。

首相はいくども手をふり、会場に熱い挨拶をおくった。

大会の初日、首相はふたたび熱烈な歓呼をうけながら、朝鮮労働党中央委員会活動総括にかんする報告をおこなった。

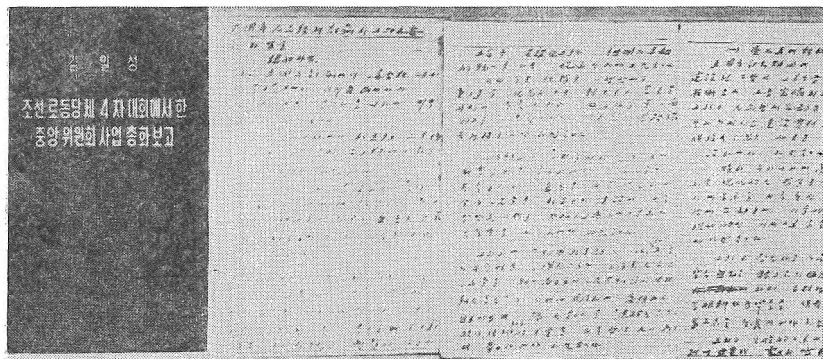
首相の報告は、総括期間、党建設と革命発展のなかで築きあげた独創的な理論と、新たな大飛躍をめざす輝かしい展望と、その明確な里程標とを明らかにした綱領的文献であった。

報告は、「輝かしい総括」、「偉大な展望」、「祖国の平和的統一のために」、「党」、「国際関係」の五つの部分からなっていた。

「輝かしい総括」で首相は、第三回党大会が提起した社会主義的改造の完成と社会主義建設での歴史的勝利、そしてその勝利をたたかいとることのできた要因を科学的に総括した。

第三回党大会から第四回党大会にいたるまでの期間に社会主義の基礎建設が輝かしく遂行され、その過程で社会主義制度を強化し、社会主義建設を促進するうえで本質的意義をもつ重要な路線や政策が確立され、科学的に定式

化された。
報告のなかで明らかにされたように、技術的改造に先だって生産関係を社会主義的に改造する方針、重工業を優先的に発展させながら軽工業と農業を同時に発展させるという社会主義経済建設の基本路線、自立的民族経済建設路線、社会主義建設での党の総路線となった千里馬運動などは、朝鮮ではじめて創造され、理論、実践的に輝かしい勝利をおさめた独創的な社会主義建設理論であった。
第三回党大会以後、党がおさめたすべての成果と貴い経験は、やがて社会主義建設の新たな高地を占領するたたかいの確固としたもととなった。
報告の「偉大な展望」の部分で明らかにされた七か年計画は、社会主義革命と建設をおしすすめるうえで、まさに画期的な意義をもつものであった。
金日成首相は、七か年計画の基本課題について、つぎのようにのべている。
「七か年計画の基本課題は、勝利した社会主義制度に依拠して全面的技術改建と文化革命をおしすすめ、人民生活を画期的に向上させるところにあります。われわれは、社会主義的工業化を実現して人民経済のすべての部門を現代的技術で装備し、すべての人民の物質的、文

김 일 성
조선로동당 제 4 차 대회에서 한
중앙위원회 사업 총화 보고

朝鮮労働党第4回大会でおこなった中央委員会活動総括報告

化的生活水準を決定的に高め、社会主義の高峰を占領しなくてはなりません」

首相は、五か年計画を社会主義の基礎建設を完成する計画として規定したとすれば、七か年計画は、さらに輝かしい社会主義の高峰にのぼる雄大な計画として提示した。首相がしめした七か年計画は、思想革命とともに全面的な技術革命と文化革命をもっとも中心的な課題としてうちだした。

首相は、この雄大な七か年計画の歴史的課題を成功裏に解決するためには、重工業を優先的に発展させながら軽工業と農業を同時に発展させ、科学と文化を全面的に発展させるという党の路線を堅持しなくてはならないとのべた。

まさにこの路線を徹底的につらぬいてこそ、七か年計画期間に社会主義的工業化と技術革命、文化革命を実現し、人民経済のすべての部門を急速に発展させて自立的民族経済をしっかりとかため、人民生活を画期的に向上させることができるのであった。

首相は、七か年計画の基本課題につづいて部門別課題を明らかにした。

七か年計画の目標は、じつにぼう大なものであった。計画期間に工業生産高は三・二倍、農業生産高は一・四倍にふえ、七か年計画の最終年度にはわずか一年間で五か年計画の全期間の生産高よりもはるかに多い工業製品を生産することになるのである。

こうなれば、共和国北半部は、世界でもっとも発展した国と堂々と肩をならべられるのである。

七か年計画期間に、農村では八万台以上のトラクターと無数の機械が手労働にかわるであろうし、穀物生産高もひきつづき増大することになる。

そればかりか、文化革命も急速におしすすめられ、科学は世界的水準に到達するであろうし、九年制技術義務教育が完全に実施されて、技術者は八十万人に近い大部隊となる。

金日成首相は、人民生活を向上させる見とおしについても明らかにした。計画期間に国民所得は二・七倍に成長し、戦前の九倍をこすことが見こされた。

税金は完全に廃止され、古い社会の遺物である租税制度が永遠になくなり、無料教育、無償治療など、国家予算の支出による人民への配慮はますます増大する。そして共和国北半部は、現代的な工業と発展した農業をもつ強力な社会主義工業国になり、人民は雄壮華麗で文化的な都市と農村で、楽しい生活をおくれるようになる。

いかに雄大で輝かしい展望であろうか！　ほかならぬ朝鮮人民が、わずか十六年まえまでは暗黒のなかで生きてきた朝鮮人民が、このような展望を遠からず現実のものとしてもつことになるのである。頑固な封建制度のもとに千年ものあいだ、しいたげられ身もだえてきた国、王宮一つ建てるにも全人民が膏血をしぼられた国、日本帝国主義の鉄鎖にしばられ、山河と言語まで奪われていた国の人民が、このような楽園を目前の現実として約束されたのだった。

停戦直後はどうであったろう。目につくものは廃墟、ただ廃墟だけであった。のこっているものといえば、燃えたぎる憎悪の念と闘志だけであった。

あれから八年――、いや、廃墟とのたたかいの復興期があったのだから、実際に建設にあてられた年数といえば、じつに五本の指を折るわずかな期間でしかなかった。してみると朝鮮人民と朝鮮革命は、歩いてきたのではなしに一日を十年百年にかえて、疾風怒濤のごとくひた走りに走ってきたわけである。

いかにながい歳月が流れようとも、金日成首相の大いなる愛と、その愛にはげまされた人民の献身的なたたかいのなかで創造されたこの時代の偉勲は、永遠に光を放つであろうし、子々孫々にいたるまで、かれらに自分たちのうけついだその栄光と重い使命についておのずと自覚をうながすことであろう。

輝かしい七か年計画の展望はまさにこうした偉大な指導者と人民によってのみ創造しうる明日の現実であった。

金日成首相は報告のなかで、あらゆる難関と試練を勇敢にのりこえて七か年計画を成功裏に完遂することを全党と全人民によびかけながら、そのための基本方途を明らかにしめした。

首相はその基本方途として、すべての指導幹部が政治的、実務的水準を決定的に高めて青山里方法を徹底的につらぬき、人民経済のあらゆる部門で全大衆的運動によってたえまなく技術革新をおこない、文化革命をおしすすめ、すべての勤労者にたいする共産主義教育を強化して、社会主義建設の総路線である千里馬運動をさらに発展させなくてはならないと強調した。

七か年計画の遂行は、北半部にうちたてられた社会主義制度をいっそうりっぱにするばかりでなく、祖国統一の大業をなしとげるための確固とした保障なのである。これがまさに、金日成首相がうちたてた七か年計画の終局的な目的であった。

一九六〇年九月のある日、首相が軍事境界線近くの一協同農場をたずねたときのことである。

首相は境界線のすぐ近くでしばらく南の方を見つめていた。首相のうしろでは五穀百果のみのるゆたかな田野が秋風に黄金の波をうっていた。だが、境界線の南側は息づまるような寂莫のなかに雑草だけが生い茂っていた。踏みにじられた同胞の血と涙のなかでのび放題にのびた雑草の茂みはあまりにも索漠で、あまりにも荒涼としていた。

それを見つめる首相の表情は、憤怒と苦痛でくもりがちだった。

この日、首相は、農場の経営状況や、農場員の暮らしむきなどをつぶさに見てまわった。

どこを見ても豊作であり、どの家も中農程度の暮らしになっていた。

しかし、首相は満足しなかった。よりゆたかな生活をということもあるが、それよりも祖国の統一を早めるためには、これで十分だと満足すべき根拠がないと考えたからである。

首相は農場員にこう語った。

「南北の差を天と地ほどにしてしまわなければなりません。七か年計画の目的がそれなのです。それは結局、祖国の統一を早める道なのです」

じつに七か年計画とは、このように首相がながいあいだ練ってきた社会主義の高峰を征服し、民族の宿願である祖国統一を一日も早くなしとげるための輝かしい設計図なのであった。

報告のつぎの部分「祖国の平和的統一のために」では、南朝鮮でますます強化されているファッショ化とその重大な結果を分析し、南朝鮮の革命を遂行するための戦略戦術的方途を天才的に明らかにした。

首相は、「南朝鮮人民が反帝反封建闘争を成功裏におしすすめ、この闘争で勝利するためには、マルクス・レーニン主義を指針とし、労働者、農民をはじめとする広はんな人民大衆の利益を代表する革命的な党をもたなくてはなりません」と強調し、このような政党なしには人民大衆に明確な闘争綱領をあたえることもできず、革命大衆をかたく結束することもできず、大衆闘争を組織的に展開することもできないと教えた。

つづいて首相は、南朝鮮人民の闘争課題を具体的にしめした。

首相は、南朝鮮人民は闘争のホコ先を、アメリカ帝国主義侵略軍を追いだし、アメリカ帝国主義の植民地支配を完全にくつがえすことにむけ、人民の抗争によって侵略者をふるえあがらせ、南朝鮮のどこにも足を踏みいれるところがないようにしなければならないとのべた。

と同時に、南朝鮮人民はファッショ独裁をたたきつぶし、民主主義的自由と権利をたたかいとり、土地改革をはじめとする諸般の民主改革の実現をめざしてたたかわねばならないと強調した。

首相はまた、自主的原則にもとづいて祖国の平和的統一を達成するための党の一貫した立場をかさねて明らかにし、祖国統一の民族的宿望を実現するためには南北朝鮮人民が団結し、南朝鮮におけるすべての愛国的、民主的勢

力をもうらする反米救国統一戦線を形成する課題をしめした。

首相は報告の「党」の部分で、過去ながいあいだ巣喰っていた分派が一掃され、党の統一と団結が強化され、活動作風と方法がいちじるしく改善された諸成果を総括し、今後の党の隊列を組織思想的にいっそうかため、党の指導力を強化するための課題を提示した。

ここで強調された重要な問題の一つは、すべての活動において党の革命的大衆路線を正しく実践し、革命的活動方法と作風をひきつづき改善することについてであった。

首相は、「大衆を教育改造し、団結させることは現段階においてわが党が解決すべき中心問題」であるとして、これをおしすすめるためには、これまでおさめた成果と経験にしたがって、大衆のなかで共産主義教育を革命伝統の教育と密接にむすびつけて、いっそう力強くくりひろげなくてはならないと教えた。

首相はまた、「党の統一のためのたたかいは、党の全組織と全党員の神聖な最高の任務」であるといいながら、全党員は党の政策で自分自身を完全に武装して、修正主義、教条主義、地方主義、家族主義と、あらゆる日和見主義に断固反対してたえまなくたたかい、党の隊列の統一を徹底的に守らなければならないと強調した。

報告のつぎの部分の「国際関係」で、金日成首相は、帝国主義侵略勢力にたいする非妥協的立場、プロレタリア国際主義の原則、平等と互恵の原則などにもとづく対外政策を明らかにした。

金日成首相の報告は、全党員と勤労者を首相の革命思想と、その具体的なあらわれである党の路線と政策でしっかりと武装させ、かれらに確固たる勝利の信念と革命にたいする高い自負心をいだかせた。

報告はじつに、理論、実践的に大きな意義をもつものであった。報告は、金日成首相の創造的方針と賢明な指導のもとに北半部でなしとげられた社会主義革命と社会主義建設の諸成果を理論的に深く分析し、体系化しており、社会主義のより高い峰を征服するための輝かしい展望とその実現方途を科学的に明示した歴史的な文献であった。

ここでしめされ、解明された深奥な独創的理論は、マルクス・レーニン主義を創造的に発展させ、豊富にしたものであった。

金日成首相の報告は、大会参加者ならびに全人民の大きな感動をよびおこした。

大会の討論者は、みな一様に、勝利にかざられた共和国北半部の輝かしい現実についてかぎりない自負心をもって語り、すぐれた英知と展開力をもって人民を導いている金日成首相を熱烈にたたえ、忠誠を誓った。

大会に参加した外国の友人たちもまた、深い感動につつまれた。かれらは北半部の現実から、社会主義制度のすばらしい威力と、その世界的意義をはっきりよみとることができたとのべ、朝鮮労働党の政策が終始一貫、創造的で科学的であることを一致して強調した。

かれらは、科学的にうらづけされた金日成首相の報告ばかりでなく、討論の新鮮さについても感激をおさえきれなかった。感動のあまり、たちあがって手ぶり身ぶりをまじえながら歓声をあげる人も少なくなかった。

朝鮮の荘厳な現実を目にしたある代表は、朝鮮は「まるで魔法使いの国」だといった。

かれらのほとんどが、「今度わたしは千里馬思想を学んで帰るつもりだ」とのべた。

大会の壇上から、党の配慮のもとで学ぶしあわせをうたい、大会を祝う花のような天真爛慢な少年少女たち、領袖と党にたいする熱烈な忠誠と幸福な生活を誇るピョンヤン市民の大示威行進、三万人からなる大集団体操『労働党時代』、——どこへいっても活気にあふれる創造と革新の気概、見るものきくものすべてが、かれらの感嘆の的であった。

第四回党大会——それは共産主義者が革命と建設をどのようにおこない、その活動をどう総括し、大会をどのように運営しなければならないかということをしめした一つの手本であった。

第四回党大会は、わが国の革命発展の全般的な過程において非常に重要な位置を占めている。

大会は、社会主義の基礎建設の成果を総括し、将来社会主義の高峰を征服するための雄大な里程標をしめすことによって、人民大衆をして自分たちの輝かしい未来をはっきりと見とおせるようにし、祖国統一のための南北朝鮮人民の闘争を大きくはげましました。

大会は、党自体の強化発展にも大きな意義をもっていた。いままで党建設でおさめた成果をかため、さらにそれを発展させる課題を全面的にしめすことによって、社会主義建設の雄大な課題にそくして党の戦闘力と指導力を高めた。

第四回党大会は国際的にも大きな意義があった。

大会は、朝鮮における社会主義革命と建設で達成した成果と、より輝かしい未来のための設計図をさししめすことによって、世界の革命的人民を大きくはげまし、アメリカ帝国主義をはじめとする国際反動勢力と現代修正主義者たちには甚大な打撃をあたえた。

勝利者の大会――第四回党大会は、社会主義の高峰を征服するための新たな荘厳なたたかいへと、党員と人民大衆を力強くよびおこした。

すべての人びとは朝鮮労働党第四回大会の決定を心から支持し、社会主義革命と社会主義建設の新たな段階にむかってつきすすんだ。社会主義の高い峰を征服するたたかいのなかでは、新たに解決すべき理論、実践的諸問題が多く提起された。

金日成首相は、社会主義建設で提起される複雑かつ困難な問題を解明することによって、社会主義建設をもっとも早い近道へと導いた。そして、その過程で首相は、社会主義の完全な勝利と終局的勝利にかんするマルクス・レーニン主義理論をいちだんと豊富にし、完成させた。

金日成首相は、社会主義の完全な勝利はどのような時期になしとげられ、またそのためにはどういう課題を遂行

しなければならないかということについて、科学的な解明をあたえた。

社会主義の完全な勝利とは、一国内で、資本主義にたいする社会主義の完全な勝利をさしていう。

金日成首相は、このような社会主義の完全な勝利は、社会主義制度が樹立されてからも、くつがえされた搾取階級の残存分子のしゅん動がなくなり、古い資本主義思想の腐蝕作用がなくなり、あらゆる階級的差異、すなわち労働者階級と農民の差異がなくなって階級のない社会となり、人民の生活水準を過去の中産階層以上に高めえるほど生産力が発展したとき、はじめて達成されるということを明らかにした。そして、このときにいたってはじめて、過渡期も終わるものであると教えた。

金日成首相は、このように社会主義の完全な勝利の目じるしを明確にしめしたばかりでなく、その実現のための具体的な課題と方途についても、科学的に完璧な解答をあたえた。

首相は、社会主義の完全な勝利のためには、「階級の敵にたいする独裁を強化し、思想革命を徹底的におこなって全社会を革命化、労働者階級化しなければならない」と教えた。

社会主義の完全な勝利のためには、なによりも社会主義国家のプロレタリア独裁の機能を強化し、むかしの地位を奪回する夢をすてないくつがえされた搾取階級の残存分子と、こうした敵対分子と結託して社会主義制度を攻撃しようとする帝国主義者の反革命的なたくらみを一掃しなければならない。そして思想革命を力強くくりひろげ、勤労者の意識のなかにのこっている古い資本主義思想の残滓を根こそぎにし、かれらを共産主義思想で武装させ、外部から浸透してくるブルジョア思想の毒素を徹底的にうちくだかねばならない。

こうしてこそ、資本主義が復帰する可能性を完全に断ち切ることができるのである。

金日成首相は、社会主義の完全な勝利のためには、「農村問題を終局的に解決し、協同的所有を全人民的所有の水準」にまでひきあげなければならないと教えた。

農村のたちおくれを克服し、協同的所有を全人民的所有の水準にひきあげてこそ、くつがえされた搾取階級の残存分子と外部から侵入する反動的ブルジョア思想毒素の足がかりをなくすことができ、工業生産力だけでなく、農業生産力も社会主義制度にそくして急速に発展させることができるし、農民も労働者階級のように全社会のために働き、利己主義からぬけだして集団主義の道をしっかりとすすむことができるのである。

社会主義農村がこうなったときはじめて、農村も都市の水準にまで高まり、労働者階級と農民間の階級的差異が消滅し、農民が労働者階級化し、無階級社会が実現されるのである。

金日成首相はまた、社会主義の完全な勝利をなしとげるためには、「社会主義経済建設を力強くおしすすめなければならない」と教えた。

社会主義経済建設は、人民を苦しい労働から解放するばかりでなく、工業労働と農業労働、重労働と軽労働、肉体労働と精神労働の差異をなくして楽に働きながらもより多くの物質的富を生産し、勤労者の物質、文化生活水準を過去の中産階級以上にまで高める根本条件となるのである。したがって社会主義国家は国の工業化と技術革命、文化革命をおしすすめて、社会主義の物質、技術的基礎を築くかたわら、すべての勤労者を現代的機械を駆使しうる知識と技能をもった、全面的に発展した共産主義者に育てなくてはならないのである。そして、すべての人が生活をつうじて社会主義制度の優越性をいっそう深く理解し、社会主義制度のために献身的にたたかうようにしなくてはならない。

金日成首相は、社会主義の完全な勝利にかんする理論だけでなく、社会主義の終局的勝利にかんしても新たな理論を提示した。

社会主義の終局的勝利とは、社会主義国家が帝国主義者の侵略と武力干渉、資本主義復旧のくわだてから完全にぬけだすことをいうのである。

金日成首相は、こうした社会主義の終局的勝利がどのようにしてなしとげられるかについて、「世界革命の終局的勝利は、多くの国で社会主義革命がおこり、完全に勝利し、しだいに社会主義陣営が拡大し、強化し、発展する過程をつうじてなしとげられるものである」と教えた。

すなわち、社会主義にたいする帝国主義的包囲が、帝国主義にたいする社会主義的包囲にかわったとき、社会主義の終局的勝利がなしとげられると教えているのである。

社会主義国家が帝国主義者の侵略と武力干渉をふせぐためには、みずからの主体的勢力をたえず強化するとともに、社会主義陣営のほかの部隊と万国の労働者階級、全世界の被抑圧人民の積極的な支持声援と協力をうけなくてはならない。

しかし、ここで根本的な意義をもつのは、社会主義陣営の形成とその拡大発展である。

それは社会主義陣営がたえず拡大発展してこそ、社会主義にたいする帝国主義的包囲が、帝国主義にたいする社会主義的包囲にかわることができるからである。

金日成首相は、社会主義の終局的勝利にたいするこのような科学的な理論をもとにして、社会主義陣営の統一と団結の重要性を強調し、つぎのように教えている。

「社会主義の終局的勝利をなしとげるには、社会主義諸国の階級的同盟と社会主義陣営の統一団結を強化し、その威力を不敗のものにしなくてはなりません」

社会主義陣営の拡大発展は、社会主義の終局的勝利と帝国主義の滅亡を促進させることになるため、帝国主義者は社会主義陣営を破壊しようとあらゆる手段と方法をつくしてあがくのである。

したがって、社会主義の終局的勝利のためには、社会主義陣営の統一団結と階級的同盟を強化して、帝国主義諸国の侵略と破壊謀略策動から社会主義諸国をかたく守らなければならず、ひいては植民地諸国での民族解放闘争と

資本主義国の労働者階級の革命運動を積極的に支持声援し、その勝利を促進させなくてはならないのである。
もともと労働者階級は、歴史の舞台に登場したその日から、団結の武器によって国際資本の奴隷的な隷属の鎖を断ち切り、革命の勝利をなしとげた。
この真理は、こんにち国際的に連合された帝国主義の包囲を社会主義的包囲にかえ、社会主義の終局的勝利を達成するためのはげしいたたかいにおいても依然真理としてのこっている。したがって、社会主義の終局的勝利と世界革命の勝利は、プロレタリア国際主義の原則にもとづく国際共産主義運動の団結した力によってのみ達成することができるものであり、なによりもまず、その中心である社会主義陣営の統一団結を強化してこそ、それは確固として保証されるのである。
金日成首相は、社会主義の完全な勝利と社会主義の終局的勝利にかんするこの理論を、朝鮮民主主義人民共和国創建二十周年記念慶祝大会でおこなった報告『朝鮮民主主義人民共和国は、わが人民の自由と独立の旗じるしであり、社会主義、共産主義建設の強力な武器である』のなかで全面的に体系化した。
このように金日成首相は、社会主義の完全な勝利と終局的な勝利にかんする科学的な理論を新たに解明することによって、社会主義、共産主義建設にかんするマルクス・レーニン主義理論を創造的に発展させたのである。
金日成首相は、社会主義の完全な勝利と終局的な勝利にかんする理論において、プロレタリア独裁の樹立をもってはじまる過渡期は社会主義制度の樹立によって終わるものではなく、社会主義が完全に勝利するまでつづかなければならないことを明確にして、過渡期に解決すべき課題と、それにともなう社会主義国家の任務を具体的に明らかにした。
このような内容は、これまで解明されなかった問題であり、現代が切実に解明を要求している問題であった。
金日成首相は、この切実で重要な諸問題にたいして科学的な解答をあたえたのである。

そして首相は、社会主義の完全な勝利にかんする左右の日和見主義者たちの誤った主張と見解を理論的に完全にうちくだき、マルクス・レーニン主義の真髄を守り発展させるうえで大きな寄与をなし、主権をにぎった国の労働者階級が自己の歴史的使命を実践してゆく明確な道をしめした。

朝鮮人民は、金日成首相がしめしたこの科学的理論を武器として、明確な方向と内容をしっかりとつかんで革命と建設をさらに力強くすすめていったのである。

2　全面的技術革命へ

人民は、天がける千里馬に拍車をかけながら、社会主義建設で新たな大高揚をまきおこしていた。

金日成首相は、人民のこうした気勢をあらゆる面からはげまし、すべての党員と人民を、技術、文化、思想革命の遂行へとふるいたたせた。

首相は、第四回党大会でしめした七か年計画の課題にしたがい、全面的な技術革命の遂行に大きな意義をあたえた。

過去、産業革命の経験ももたず、資本主義的発展段階も踏まずに、古い社会からたちおくれた生産力をうけついだにすぎないわが国において、技術革命をおしすすめるということはとくに重要であった。技術革命をおこなってこそ経済の自立性を確固と保障し、労働生産性をいっそう高め、すでに勝ちとった社会主義制度を強固にし、社会主義の完全な勝利を達成することができるのであり、人間による人間の搾取から解放された人民を、重い労働から解放することができるのである。

金日成首相はこうのべている。

「技術革命——、これは圧迫と搾取から解放されたわが人民を苦しい骨のおれる労働から解放し、楽に働きながらもより多くの財富を生産し、人民の生活をいっそうゆとりある文化的なものにする重要な革命であります。主権を手にし新しい社会を建設しているわれわれ共産主義者にとって、これは必ず解決しなくてはならない偉大な事業であり、崇高な革命課題であります」

かつてわが国は、技術、文化的にたちおくれていた。日本帝国主義者が植民地的略奪のために建設した工場、企業所には、手労働がそのままのこされていた。生産道具は旧式で、労働は苦役にひとしかった。無残に裂けた皮膚、はがれた爪、まるで鳶口（とびぐち）を思わせる労働者、農民のその手は、いまにも苦痛の呻き声をたてるようでさえあった。四十、五十歳になれば、もう腰がまがり、めっきり老けこんで余命いくばくもなかった。

しかし、解放後は多くの変化がおこった。生産技術が改善され、機械が大量に供給された。そして先進的な社会主義的生産関係が、全社会を唯一的に支配するようになった。

だが、生産力の発展は順調ではなかった。機械化されたのは一部分で、力にあまる手労働がまだ少なからずのこっていた。

金日成首相の思索は、どうすれば技術革命をおしすすめることができるか、どうすれば人民を苦しい手労働から完全に解放することができるか、ということに集中されていた。農民に会えば、かれらの苦しみを少しでもやわらげようと気をくばり、工場や建設場、漁港や伐採場と、どこへいっても機械化の対策について語った。

しかし、人民経済をすべて新しい技術で装備するということは、容易なことではなかった。それは、長期間を要する困難で複雑な事業であった。資本主義国では、技術革命の遂行に普通三百年はかかり、早くても百年は要した。それさえ、資本家を肥やすだけで、人民は殺人的に搾取され、失業と貧困のどん底にさまよわなければならないそのような技術革命であった。それでも、利潤にのみ血眼になっている資本家たちは、多くの部門で苦しい労働

をそのままのこしておいた。
金日成首相は、歴史的にうけついだ技術的なたちおくれを、労働党の時代に必ず一掃する決意をかため、もっとも重大な革命的課題の一つとして、全面的技術革新をしめしたのであった。
過去、植民地であった国での技術革命は、たんに技術的なたちおくれを一掃する革命にとどまるのではなく、帝国主義者によってもたらされたすべての悪結果をぬぐい去り、帝国主義的隷属と抑圧のあらゆる根源を根こそぎにする深刻な革命であった。技術革命をおこなってこそ、帝国主義者が二度と侮らなくなるのである。
全面的技術改革は、社会主義、共産主義建設の必須の要求であったばかりでなく、人民経済を多方面的に発展させ、現存の生産土台を効果的に利用し、製品の質を高め、品種をひろげ、人民の生活水準をいっそう高めるためにも切実に要求されていた。
問題は、このように重大な技術革命を最短期間内に、どのようにしてなしとげるかということであった。
金日成首相は大衆の創造力に依拠し、国の物質的、人的力量を総動員し、それを全面的な技術改革へとむけた。
金日成首相がしめした全面的な技術改革は、部分的なものではなく、文字どおり全面的に技術改建をおこなおうとするものであり、大衆の創造的な熱意によって、きわめてみじかい期間内にこれを達成しようとする技術革命遂行における独創的で革命的な方途であった。
首相は、五か年計画期間に、個別的な経済部門では、すでに技術改造がある程度すすめられており、技術発展をたすける先進的な制度と強力な経済的基礎があり、全人民的な教育制度によって勤労者の技術、文化水準がたえず高まっていることを考慮し、全面的技術改建を一定の計画期間内に遂行しようと決心した。
金日成首相は、全面的技術革命を遂行するためには、つねに党のよびかけに忠実で、革命性の高い人民大衆の創意性を高度に発揮させなければならないと教えた。

首相はつぎのように指摘している。

「技術を全面的に改造するには、人びとの大衆的知恵と創意性が必要です。それも、ながい時間をかけておこなってもいいものなら、少しの力を動員してもできましょうが、われわれは資本主義諸国で長期間かかったことを、わずか数年のあいだになしとげようとするのですから、勤労大衆の創造力をすべて動員しなければできないのです」

首相の、この大胆で、しかも独創的な構想は、社会主義制度の威力と人民大衆の創造的能力にたいするかたい信頼にもとづいたものであり、同時に技術改建の試験的段階で成功した経験にもとづいたものであった。

事実、これまで技術改建でつみかさねてきた成果は大きく、経験も豊富であった。戦後の経済復興と改建拡張も自力でおこなったし、自立的民族経済を建設しながら集団的な創意性を発揮して現代的な工場を建設し、数多くの機械と設備も生産した。中央工業はもちろんのこと、地方工業と農業でも少なからぬ技術が導入された。

この過程で党と人民大衆は多くの経験をつみ、自信も深めた。そればかりでなく、全面的な技術改建は前進をいそぐ勤労者自身の要求でもあった。

首相はまた、技術革命を全面的におしすすめるためには、生産者と科学者、技術者の協調を強めなくてはならないと強調し、大衆的な技術革新は生産者の創造的経験と現代科学技術がむすびついてこそ、はじめて燎原の火のように燃えさかるものであると教えた。

金日成首相は、全面的技術改革の偉大な構想を大胆に実践へと移しながら、その具体的な方針を明確にしめした。

それは、生産工程に新たに電子工学を導入し、機械化されたところは半オートメーション化、またはオートメーション化し、手工業的技術がのこっているところでは機械化と総合的機械化をおこなうこと、あと先の順序をよく

見きわめて、人手が多くかかり骨のおれる石炭、鉱業、建設、林業、水産、農業部門と地方産業の機械化を優先することと、そしてそのために、その母体となる機械工業を強力に発展させること、などであった。

勤労者たちは首相の正しい方針にしたがい、大衆的な技術革新運動にこぞってたちあがった。

首相の指摘どおり、技術革命は社会と人民自身のより大きな幸福のためのたたかいであり、社会主義の高い峰を征服し、祖国統一の日を早めるたたかいであり、社会主義建設の意気揚々たる流血のない最後の突撃であった。

金日成首相が指導した一九六〇年八月の党中央委員会総会は、勤労者を大衆的な技術革新へとふるいたたせた重要な総会であった。技術革新を全面的にくりひろげ、技術人材の養成を強化することにかんする総会の決定と、技術革命の成功的遂行のための金日成首相の教えは、勤労者たちの創造的熱意をさらに高めた。

首相は全般的な対策とともに、まず人手の多くかかる工程の技術革新に力をそそいだ。そして第四回党大会以後、ただちに石炭部門、鉱山部門、農業機械作業部門などの熱誠者大会をひらいて、技術革新での模範を部門別に一般化する措置をとった。

首相は、どこででも、力仕事に従事している人を見ると、そのことが気になってそのまま素通りできなかった。

とくに炭鉱や鉱山部門に、まだそれがのこっていることにひどく心を痛めた。地下の深いところで働くだけでもたいへんなのに、仕事まできつくてはなるまい、どうすればかれらも機械工場の労働者なみに、文化的で、楽に働くことができるようになるか、などと、よく思索にふけっていた。

首相は一九六一年十二月二十三日、安州炭鉱をおとずれた。首相は長時間にわたって炭鉱の状況をきいてから、炭鉱の幹部たちに、生産を高めるためには青山里精神、青山里方法にしたがって、人びとにたいする活動をどうすべきかについて具体的に教えた。

そして、骨のおれる採掘労働を楽で文化的な労働にするため、坑内作業の機械化に力をいれ、だれもが技術革新

の先頭にたつようくりかえし教えた。

首相の肉親もおよばない配慮と教えによって、全炭鉱は創造の熱意にわきたった。労働者と技術者は力と知恵をあわせて坑内作業の機械化にとりかかった。悪戦苦闘をかさねたすえ、ついにかたい鉱脈をたやすくけずりとり、掘りだした石炭をチェーン・コンベアにのせるにいたるまで、すべてを自動式におこなう円筒式採炭機をつくりあげた。

円筒式採炭機を導入したとの知らせをきいた金日成首相は、非常によろこんだ。この部門における機械化の道がひろくひらかれはじめたのである。

「すべての炭鉱で安州炭鉱のように作業を全部機械化、自動化すれば、炭鉱で石炭を掘ることも、紡績工場で布を織ることも、労働にさほど大差はないでしょう」

首相はこういって、すべての炭鉱で円筒式採炭機を積極的に導入するよう強調した。

この現代的な自動式機械の生産は、この部門の労働者たちを興奮させた。よろこびにつつまれた鉱夫たちは、自動式機械のまえで、すでに遠いむかし話となった日本帝国主義支配下での炭鉱労働を思いおこした。

数千尺の地下坑道で、鞭にうたれ、ろくすっぽ腰ものばせぬまま、怒りの涙でツルハシをぬらしながら、ときにはガスで窒息し、ときには落盤にあって貴い命を奪われた日々——。

また、重い荷をかついで目もくらむ吊橋をわたる最中に、空腹と過労で落ちて死んだり、片輪となったあの地獄の苦役——、一度踏みこんだが最後、二度とぬけだすことのできない死の泥沼労働——、このように悽惨きわまりなかったかつての労働が、金日成首相の導く労働党時代になって、機械工場の労働なみに安全で楽な労働となったのである！

四十年ものあいだ坑夫として働いてきたある功勲坑夫は、日本帝国主義が支配していたときになめつくした苦役

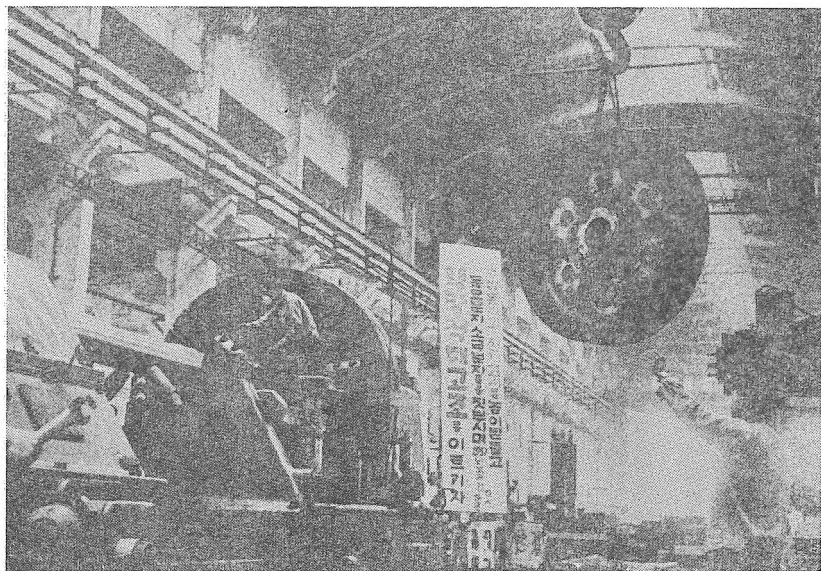
を思いおこして、「首相さまのおかげで、山を機械で掘るのをこの目で見ることができましただ」と涙を流しながら、感懐をこめて語っていた。

これは、この坑夫一人だけのよろこびではなかった。

力仕事の機械化は、鉱山、水産、林業、農業など各部門でも早いテンポですすめられた。

金日成首相は、地方産業工場（この部門には家庭の主婦をはじめ女性労働者が多かった）の技術装備を改善するためにも、深い関心をはらった。どこへいっても、その地方の地方産業工場を見てまわり、具体的な指示をあたえた。

一九六一年の夏、朔州（サクジュ）のある小さな食料品工場をおとずれた首相は、女性労働者がおもに手労働に従事しているのを見て非常に心配し、生産をより合理的に組織し、知恵と力をあわせて生産工程すべてを機械化する方途を具体的に教えた。

その後、この工場の女性労働者たちは、熱心に機械化をすすめた。ことがうまくはこばないときはみ

龍城機械工場の大型機械職場

んな集まって相談し、ありったけの知恵をだしあって首相の教えをつらぬいていった。大衆の熱意と力というものは、おそろしいものである。一年もたたぬあいだに、工場は見ちがえるようにかわってしまった。

一九六二年の夏、金日成首相はこの工場をふたたびおとずれた。首相はすべての工程が機械化されているのを見て非常に満足し、みなさんこそ技術革命の先駆者ですと、工場の労働者たちをほめたたえた。

金日成首相の精力的な指導によって、すでになしとげられた昌城の地方産業の機械化経験とともに、朔州食料品工場のこうした経験は、ひろく一般化され、すべての地方産業工場の機械化に大きなはげましをあたえた。

金日成首相が、技術革命のためにもっとも心血をそそいだのは、いうまでもなく機械工場と現代的機械製作であった。どこへいっても要求されるのは機械であった。それもふつうの性能をもった機械ではなく、性能のよい大型機械であったし、現代的な電子工学を導入した高速精密機械であった。この問題の解決は、少なからず機械工業の発展にかかっていた。

金日成首相は、つぎのように指摘した。

「わが国の人民経済発展の展望と要求に照らして、大型掘削機、大型自動車、大型トラクター、大型船舶、大型工作機械などを生産する大型設備生産基地をさらに拡大強化し、速度が早く精密な機械を生産する精密機械生産基地をしっかりと築き、われわれの機械工業をいちだんと高い水準にひきあげなければなりません」

首相の教えに忠実な多くの機械工場労働者たちは、技術の新たな要塞を占領するために大型機械の製作にとりくんだ。

楽元（ラクウォン）機械工場の労働者は、採掘工業を先行させるには必ず大型掘削機がなければならない、と教えた首相のことばを戦闘命令としてうけとめ、日に千五百人分の労働量に相当する四立方メートルの大型パワーシャベルの製作にいどんだ。この機械は、二万二千余個の精密な付属品と二十余個のモーターと発電機を装備する複雑な大型機械で

あった。
ところが楽元機械工場には、そのような大型掘削機を製作できる設備がととのっていなかった。むづかしい問題は一つや二つでなかったし、設計図すらなかった。
しかし、領袖の戦士として、いつも難関をつきやぶり、新しいものを創造することに無限の誇りを感じてきたかれらは、今度もまた強じんな意志をもってたちあがった。
設計図をもたないかれらは、大型掘削機をもとめて数百キロメートルもはなれた遠い茂山地区にまででかけて、複雑な機械の構造を一つ一つ綿密に写しとった。
また十トンをこえる部分品を加工するだけの機台や運搬機材をもちあわせていなかったかれらは、移動式ボーリングや移動式プレスなどをつくって、大型掘削機のあとをついてまわり、一つ一つ部分品をつくっていった。
かれらは難関につきあたるたびに、長白のけわしい山脈（やまなみ）をかけめぐりながらたたかった抗日遊撃隊を心に描いては勇気をふるいおこし、みずからの技術、みずからの資材、みずからの労力によって、ついに大型パワーシャベルの製作に成功したのであった。かれらは機械の名も、革命伝統の威力になぞらえて「長白号（チャンペク）」と名づけた。
一九六三年十月、六回目に楽元機械工場をおとずれた金日成首相は、自力更生の威力を誇る巨大な「長白号」を満足気に見やりながら、労働者たちにこう語った。
「すばらしいものをつくった。こんなにりっぱな大型パワーシャベルをつくるようになったのだから、わたしたちの技術水準もおどろくべき発展をしめしたものです」
大型パワーシャベルの生産を前後して、各地の機械工場では七十五馬力の無限軌道トラクターや、十トン級の大型トラック、それに三千トン級の冷凍船をはじめ、数多くの大型機械設備をつぎつぎと生産しだした。
金日成首相は工業部門に、大型機械の生産ばかりでなく、機械工業の半オートメーション化と、オートメーショ

ン化のためにも切実に要求され、しかも労力と資材を節約しながら製品の質を高めることのできる単能機械と精密機械をより多く生産するよう、よびかけた。

首相のこのよびかけにこたえて、中央工業と地方工業部門の労働者たちは、工作機械子生み運動当時の意気ごみで、単能機械子生み運動を広はんにくりひろげた。

首相はさらに、複雑で精密な機械を自由自在に生産できる自動機械生産運動をよびかけた。

領袖のよびかけなら、いつ、いかなる場合でも忠実にそれを遂行する万端の準備をととのえていた労働者と技術者たちは、苦心奮闘のすえ、プログラムフライス、プログラム旋盤、数学式プログラム装置による自動機械など、多くの現代的自動機械をつぎつぎと生産しだした。

すべての機械工場で、オートメーション化をめざす力強いたたかいがくりひろげられていた一九六三年の七月、金日成首相は亀城機械工場を現地指導した。

たのもしい機械基地の一つであるこの工場の労働者たちは、首相の教え以後わずか数か月のあいだに、早くも多くの自動機械をりっぱにつくりだした。

この工場でつくったプログラム旋盤は、一枚のプログラムカードを移送装置に設置してスイッチをおすだけで、製品が自動的に加工されてでてくる優秀な機械であった。しかも機械一台当りの生産能率は五倍以上で、一人で四台の機械を動かすことができた。製品の精密度も百分の一ミリまで保障することができた。それは、設計図どおりのことを人間がおこなうという機械ではなく、機械がひとりでに精密にやってのける「共産主義機械」なのであった。

オートメーション化は、共産主義社会の物質的、生産的基礎である。領袖のよびかけさえあれば、ただちにこうした最新自動機械も一気につくりだすことのできる千里馬朝鮮の工業は、まさしく世界の先進工業の隊伍に堂々と

仲間いりできる誇るべき工業なのである。

亀城機械工場を現地指導した金日成首相は、この工場の労働者、技術者たちが自力でつくったプログラムフライスを満足気にながめながら、つぎのようにのべた。

「プログラムフライスのようなプログラム式機械は、完全にオートメーション化された非常に発達した機械です。こういう機械をたくさんつくらなければなりません。こうした機械をつくれば、機械にたいする神秘性をうちやぶることができます」

自動化機械製作の分野には、日ごとに多くの新しい機械が仲間いりし、そうした機械を生産することのできる物質的、技術的土台は、作業班から職場へ、職場から工場へとひろまっていった。

これは、共産主義の地上楽園を建設するという首相の偉大な構想にしたがって、共産主義的生産の手本をつくる誇らしく、輝かしいたたかいであった。

なんとおどろくべき変革であろうか！

領袖の指導はなんと賢明で偉大なものか！

朝鮮の労働者階級はまたなんと偉大であることか！　またいかに才能あり、英雄的であることか！

かつてたちおくれた植民地であり、類例のない苛烈な戦争をへた国が、早くも共産主義的生産の土台を自力で築きあげられるようになったのだ！

このように金日成首相は、すでに復旧と改建の時期に技術革命をこころみ、準備してきたように、技術革命の時代にはもう共産主義時代の生産的、技術的土台であるオートメーション化に着手していたのである。おもに現実的な問題の解決に力をそそぎながらも、つねにそれを未来の課題とむすびつけ、未来の課題のなかで、現在できることをすべてまえもってためし準備しておき、時期がくればそれを積極的におしすすめてひろく一般化し、建設と革

命をたえず、そしてすみやかに前進させること――、これは金日成首相の指導における重要な特徴なのである。
金日成首相の賢明な指導にしたがって全党がふるいたつと、技術革命はさらに高揚した。人民経済のあらゆる部門、あらゆる工場、企業所、職場、作業班がたちあがり、労働者、農民、科学者、技術者すべてが合流した。
金日成首相は、この勢いを千里馬運動にむすびつける一方、党組織を動かし、大安の事業体系を貫徹させることによって、全国を大衆的な技術革新運動でわきたたせた。
この運動は、大安電機工場のある作業班員たちが、月に一件以上の新技術導入運動をよびかけたことからはじまった。それは、一九六二年十一月に金日成首相がその工場を現地指導したとき、首相が発案したものであった。
これは技術革新を作業班員全員が集団的課題としてとらえ、新しい技術を計画的に導入するという新しい革新的な発起であった。こうして、これまでは技能労働者の個別的な仕事であった新しい技術の導入が、いまや大衆的なものとなった。
「月に一件以上の新技術導入運動」は、非常な速さで共和国北半部のすべての工場と企業所にひろがった。大安電機工場だけでも、この運動の結果、一九六三年には前年の三倍に達する二千三百件の創意考案と技術革新案が生産に導入され、すべての技術、経済的目標が更新された。千里馬の騎手たちは、生産革新者であると同時に、新技術導入の名手でもあった。
金日成首相は、勤労者たちのなかで活発に展開された大衆的技術革新運動を高く評価し、これを積極的にはげました。それにともなって、作業班を中心としていた技術革新運動は、「作業班間の連合革新運動」に発展し、一九六五年には、「生産の専門化と機械化、オートメーション化のための職場間の連合革新運動」に発展した。
英雄的な労働者階級は、作業班間、または職場間の連合革新運動によって、加工手段のある単位が加工手段のない作業班や職場をたすけ、特殊な技術や技能をもっている単位がもっていない単位をたすけて、生産の専門化と機

械化、オートメーション化を早めた。そして、大衆的技術革新は、全面的機械化とオートメーション化へと発展した。

このような生産現場はあたかも機械大学のようであった。だれもが働きながら教え、教わった。無知であっては複雑な機械を動かせないので、学習はとりもなおさず革命活動であった。「おじさん」とよばれながらも熱心に学んでりっぱな技手、技師となる年配の労働者も多かった。企業所の指導幹部と技術者も、生産現場で労働者とひたいをつきあわせて技術的課題を解いていったし、著名な科学者や技術者と科学研究機関も、生産現場に分室をもうけて研究活動をおこなった。

文字どおり大衆的で、全面的で、はばひろい、深みのある技術革新の炎が燃えさかった。この過程で、すべての生産工程と技術、経済的目標が改善され、ついには基本生産工程と補助的生産工程を包括するすべての生産工程が機械化、オートメーション化されていった。

そして、人民経済のすべての部門の生産技術的基礎はさらに強化され、既存の設備、現存の労働力と資材で、より多様で質のよい製品をいっそう多く生産するようになった。

金日成首相は、ながい時間を要する困難な技術革命を、このように革命的で独創的な方法をもって指導し、人民のあらゆる創造的な力と知恵をくみあげて、人民経済の全般を新しい技術で装備していった。

そして、かつて技術文化の面でたちおくれていた朝鮮は、いまや名将が宝剣を手にしたように、近代的な技術を自由自在に活用する国となり、敵のいかなる武器にもびくともしない名匠のよろいかぶとに身をかためた無敵の国となった。

これはまさしく、歴史に誇るべき偉大な勝利であった。

3　思想革命と文化革命

金日成首相が、社会主義の完全な勝利をおさめるためにしいた戦線は、きわめて広大なものであった。

金日成首相は、社会主義の高峰を征服するために、党と全人民を全面的な技術革新へと導きながら、同時に思想革命と文化革命をいっそう力強く発展させていった。

社会主義的生産関係がすでに全面的に確立され、人民経済の技術的改建が積極的におしすすめられていた時期、首相は労働者階級の党が技術革命とともに思想革命、文化革命をすすめてゆくという継続革命の課題をうちだし、これを強力に推進してきた。

首相は思想革命をとくに重視し、これを優先させることを革命の課題とみなして、その推進に力をそそいだ。

金日成首相は、つぎのようにのべている。

「……技術、文化、思想革命の課題は相互密接に関連しており、これらは統一的な過程でおこなわれなければならない。

なかでも思想革命は、すべての事業に優先させなくてはならないもっとも重要で、もっとも困難な革命課題である」

首相は、社会主義のもとでも階級闘争がつづけられるだけに、敵の侵害から社会主義をしっかり守り、革命と建設をおしすすめるためには、人民大衆の階級的自覚を高める思想革命を強力にくりひろげなくてはならないと教えた。

首相はつぎのようにのべた。

「社会主義のもとでは、また、労働者の意識のなかに古い思想ののこりかすがあり、これに反対するたたかいも労働者階級の思想とブルジョア思想とのたたかいであるという意味で、階級闘争の一つの表現であります。万が一われわれが、古い思想ののこりかすに反対するたたかいを弱めるならば、勤労者のあいだでブルジョア的、小ブルジョア的思想が助長されるおそれがあり、それはわれわれの社会主義建設に大きな支障をきたすだけでなく、敵の破壊策動にたやすく利用されるようになります。われわれは、勤労者のあいだで古い思想に反対するたたかいを少しもゆるめることなく、ひきつづき強力にすすめなければなりません」

また首相は、「社会主義の優越性、社会主義の生命力は、なによりもこの制度のもとでは搾取と抑圧から解放された勤労者が共同の目的と利益のためにたがいにかたく団結し、同志的に緊密に協力し、自覚的に熱心に働くことにある」とのべ、勤労者の思想、意識水準を高めることなしには、社会主義のこの本質的優越性を発揚させることはできないし、革命と建設をおしすすめることもできないと教えた。

金日成首相はさらに、思想革命を社会主義の完全な勝利を達成し、共産主義へと早く移行するための基本的な条件とみなした。

首相はつぎのようにのべている。

「もしも、われわれが思想革命の問題、各界各層の大衆を革命化する問題をりっぱに解決すれば共産主義へ早くすすむことができるし、これを正しく解決できなければ共産主義に早くゆきつくことはできないでしょう」

首相は、社会の物質的諸条件によって規定される人間の意識は、社会の物質的諸条件の変化よりもたちおくれるし、また思想意識の変化は、社会生活の物質的諸条件の変化のようにはっきりあらわれないのが特徴であるだけに、物質的富を十分に生産してから人間の思想を改造するとなると、それではあまりにもおそすぎると考えた。したがって、社会主義革命と同時に思想の改造に着手したとしても、結局は物質生活の改造にくらべてたちおくれる

ものであり、したがって、思想改造はなににもまして強力におしすすめなくてはならないと教えた。

首相は、社会主義社会では、同志的協力と団結が社会関係の基本となっており、新しい共産主義意識が成長して支配的なものとなっているため、思想改造事業をうまくおこないさえすれば、思想革命をいっそうすみやかになしとげ、社会主義の完全勝利と共産主義への移行を早めることができると教えた。

そこで金日成首相は、思想革命を軽視するあらゆる偏向をきびしくいましめた。

首相は、社会主義制度が確立され、物質、文化的生活水準が向上しさえすれば、勤労者たちの思想意識もおのずから改造されるという修正主義的な見解に断固反対し、社会主義制度の勝利は古い思想を生みだした経済的基礎を一掃し、勤労者を新しい思想で武装できる社会、経済的および物質、技術的条件をととのえるにすぎず、社会主義建設がすすむにつれて思想教育活動をいっそう精力的にねばり強くすすめてこそ、実際に勤労者たちを教育改造することができると強調した。

首相は、もし社会主義革命が勝利したからといって勤労者たちのあいだで思想教育を中断するならば、人びとのあいだでは古い思想ののこりかすがよみがえることがありうるし、しだいに安逸に流れて思想的に堕落し、帝国主義を憎まなくなり、最後まで革命をおこなおうともせず、ひいては、他人が圧迫され搾取されようと、自分のことしか考えないようになるだろうとのべた。そしてこれは結局、自国の革命を失敗させるばかりか、世界の革命運動にも害をおよぼすことになるだろうと警告した。

金日成首相は、思想革命をおろそかにすることはマルクス・レーニン主義にそむき、修正主義の道に転落することを意味するとのべた。

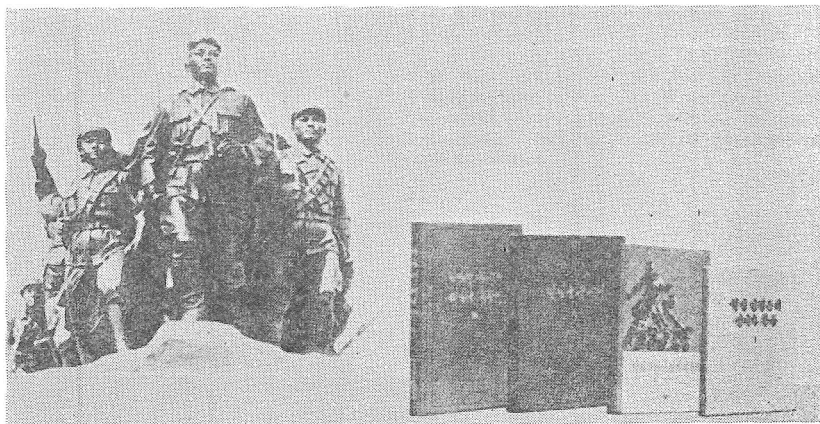
金日成首相は、このように思想革命をもっとも重要な問題としてかかげながらも、技術革命と文化革命を決しておろそかにしなかった。

首相は、技術革命と文化革命をおしすすめて社会主義の物質、技術的基礎をかため、勤労者たちの文化水準を高めることは、社会主義、共産主義建設における不可欠の要素であるばかりか、勤労者の思想意識を改造するうえでも重要な条件になるとのべ、思想革命の重要性だけを強調して、技術革命と文化革命をおろそかにすることもやはり誤りであると教えた。

金日成首相は、つぎのようにのべている。

「人間の思想改造というものは、かれらの経済生活をはなれて思想教育だけでおこなえるものではありません。朝から晩まで革命、革命とさわいで新聞に文章などを書き、万歳をとなえるだけで人間の思想意識が改造できるものではありません。

人間の思想意識はつまるところ、社会生活の物質的条件によって規定されるものですから、社会主義社会においては経済力を強め、人民の生活水準を高め、社会主義制度の強化発展にもとづいて改造されるものです。したがって、経済建設をりっぱにおこない、社会主義の物質、技術的土台をしっかりとかため、人民の生活水準を高めて社会主義の優越性を十分に発揮させることが、人間の思想意識を改造する根本的な保障であります」

ここから首相は、思想革命を完全に優先させながら、並行して

『抗日パルチザン参加者たちの回想記』

技術革命と文化革命を強力におしすすめる原則を堅持した。

この原則は、勤労者たちの思想を改造し、社会主義の物質、技術的基礎を強化して、勤労者たちの文化水準も高めうる大路をひらいたものであった。

金日成首相がしめした、すべての事業において思想革命を優先させるというこの方針は、とりわけ革命と建設において は人間とその意識が非常に大きな役割を果たすという首相自身の信条を社会主義、共産主義建設に具現したものであり、人間の意識を物質的条件に追いつかせ、物質的土台が築かれさえすれば、そのまま共産主義社会に移行することのできる、社会主義制度の優越性を利用して社会主義、共産主義建設をいっそう早くおしすすめることのできる、もっとも革命的な方針である。

これは思想革命の遂行にかんするマルクス・レーニン主義理論の創造的発展であった。

社会主義制度が確立されたのち、思想革命を強力におしすすめ大衆教育に転換をもたらした首相は、社会主義建設が社会主義の高峰を征服する新しい段階にはいるにつれ、思想革命をいっそう深めていった。

首相は、共産主義教育でこれまでおさめた成果と経験を生かし、ひきつづき党政策の教育と革命伝統の教育を強めながら、階級的思想教育を中心とする共産主義教育をさらにすすめ、大衆教育において肯定的模範による感化教育と生産現場を拠点とする共産主義教育を同時にすすめる方針を堅持していった。

とくに首相は、内外の敵の破壊策動がいっそう悪らつになっている情勢のもとで、全人民が、南半部を侵略しているアメリカ帝国主義と地主、資本家にたいする階級的警戒心を高め、社会主義制度の本質と優越性をはっきり認識し、社会主義制度を守り、祖国の隆盛発展と人民の繁栄のために積極的にたたかうことができるよう、社会主義的愛国主義教育をいっそう強化した。

そして、人民経済発展の強力な推進力であるばかりでなく、人間改造のすぐれた大衆的学校となった千里馬作業

咸鏡北道吉州郡第２中学校の学生たちと歓談する金日成首相

班運動を、思想革命のもっとも威力ある手段とみなし、人間を教育改造する活動をさらに深化発展させていった。

金日成首相は、社会主義のもとで、地主も資本家も知らずにしあわせに育った新しい世代によって、世代の交代がおこなわれている実状を明察し、学校教育問題にとくに深い関心をはらった。

首相は、学校を思想革命の重要な拠点の一つであるとして、つぎのように教えている。

「教育事業とは、非常に重要なことであると同時に、非常にむずかしい仕事なのです。

いかなる社会においても、人間教育において学校教育が非常に重要な位置を占めています。とくに社会主義建設がすすみ、共産主義社会が近づけば近づくほど、国家の文化、教育者的機能をうけもっている学校の任務は、いっそう大きくなります」

首相は、社会主義のもとで学校教育の比重が

大きくなることを法則とみなした。

共和国北半部では新しい世代が幼稚園で教育をうけ、すべてが全般的九年制技術義務教育をうける。これは、人間が精神的にも肉体的にも急速に発展する青少年時代の大部分を学校ですごしていることを意味しており、したがって、つぎの世代にたいする革命的世界観の基礎をつくる重い責任を、学校が遂行しなければならないということを意味しているのである。

金日成首相は、このような重大な使命をになう学校教育の具体的な方向と方法を明確にしめした。

首相は、つぎの世代を共産主義の働き手に育てあげられるかどうかは、教育に直接たずさわっている教員にかかっているとのべながら、「学生たちを共産主義者に育てるには、まず、教育者自身がりっぱな共産主義者になり、革命家にならなければなりません」と教えた。

金日成首相は、思想革命とともに、文化革命をおしすすめる正しい道を明らかにした。

首相が文化革命をおしすすめるためにしめした方針は、勤労者たちの一般的な知識水準と文化、技術水準を高めるというものであった。

これは、勤労者を有能な社会主義建設者に、多方面的に発達した共産主義社会の人間に育てることにその目的がある。

首相は、文化革命をおしすすめるこの方針を徹底的につらぬくため、社会主義建設の各時期ごとに、あらゆる努力を惜しまなかったし、終始一貫、多くの資金と力をこれに投じたのであった。

そして文化革命の遂行過程では、すでに大きな成果をおさめており、将来これをさらに強力におしすすめてゆくに十分な条件をととのえている。

金日成首相の方針にしたがって実施された全般的九年制技術義務教育は、育ちゆくつぎの世代に学びの大道をひ

らいたばかりでなく、現代的な科学、技術の要塞を占領しうる一般的な基礎知識と技術をしっかり身につけ、九年制技術義務教育につづく高等教育の質を高め、国の科学、技術水準をよりひきあげることを可能にした。
全般的九年制技術義務教育はまた、だれもが自習できるような基礎知識をあたえることによって、勤労者の文化、技術水準を高め、文化革命をいちだんと高めうる基礎を築いたのである。
金日成首相は、こうした条件のもとに、勤労者たちの学習気風を確立し、だれもが一般知識水準を高めるためにさらに努力し、すべての人が一つ以上の技術を身につける課題を提示した。これと同時に、堅実で有能なインテリの大軍を育成する課題をしめした。
首相は、こうした課題を遂行するためには人民教育事業をさらに発展させるとともに、読書活動をさかんにおこなわなければならないと教えた。
首相はこうのべている。
「すべての勤労者が読書を好み、学ぼうとする熱意が高まってこそ、文化革命はりっぱになしとげられるのです」
社会主義、共産主義建設における文化革命の遂行過程とは、ほかでもなく労働者階級のインテリの大軍を育成する過程なのである。
書物を読むことにかんする首相の教えは、まさしく新しい世代を共産主義の働き手にりっぱに育てるとともに、勤労者たちの一般知識と技術の水準を高めて、全社会を労働者階級のインテリの大軍に発展させるという構想を具体化した方針なのである。
実際、書物は革命をおこなう人びとにとっては、なくてはならない一つの糧(かて)である。
書物は人間に政治、経済、文化、軍事のすべての部門にわたる多様で豊富な知識をあたえてくれる。
革命をおこなう人間は書物を読まずには生きてゆけないし、またいかなる活動もできない。政治活動や文化活動

をするにしても書物を読まなければならないし、経済や技術を発展させるにも書物を読まなければできない。だから金日成首相は、広はんな読書運動を人びとの一般文化水準と政治、技術水準を高める一つの方法とみなし、全社会に学習気風をうちたて、すべての勤労者が毎日読書する運動を展開しなければならないと教えたのである。

金日成首相は、読むべき書物についても具体的に明らかにした。

「では、みなさんはどういう本を読まなければならないのでしょうか？

なによりもまず党の諸文献を学習し、つぎには革命伝統にかんする資料を学習し、マルクス・レーニン主義の原理と自分の専門部門の技術書を読まなければなりません。そして文学書も読まなければなりません。人間の生活において文化生活は切りはなせないものです。しかし書物を読むにしても、腐り果てたブルジョア小説のようなものを絶対に読んではいけません。われわれは革命のための書物、社会主義建設のための書物を読み、それ以外のものは読む必要もなく、また読んではなりません」

金日成首相が文化革命をおしすすめるうえでとらえたもう一つの重要な環は、衛生文化、生産文化を全面的に確立することであった。これは、人間こそがなにものにもかえがたい宝であるという首相の崇高な志からでた方針であった。

金日成首相は、つぎのように教えている。

「われわれの制度のもとで、人間より貴いものはありません。われわれは保健事業を発展させて人間の生命を守り、勤労者の健康をさらに増進させなければなりません」

首相は、保健部門では病院と診療所を増設し、そこに医療活動家をたくさん配置し、医師の資質を決定的に高め、勤労者にたいする医療保健をいっそう改善するとともに、予防医学の方針を堅持し、都市や農村で衛生防疫事

業を日常的におこなわなければならないと教えた。

首相は、生産文化を発展させることは人間の健康のためばかりでなく、製品の質を向上させるためにも重要であると強調しながら、文化的に生活する習慣を身につけるようにさとした。

金日成首相は、文明をめざす勤労者たちの文化的要求をみたし、人民大衆を共産主義的に教育するうえで、文学芸術のもつ大きな意義についても明らかにした。

首相は、思想性と芸術性の高い文学芸術作品を、より多く創作すべきであると強調した。

このように、金日成首相の思想革命と文化革命にかんする理論は、社会主義、共産主義建設のための偉大な綱領の一部分であり、その革命性と創造性によって、マルクス・レーニン主義の宝庫を新たに飾る偉大な理論である。

偉大な理論はつねに偉大な現実を生むように、思想革命と文化革命にかんする金日成首相の偉大な思想は、北半部の現実のなかでゆたかにみのっている。

首相の教えをうけた人民は、首相の思想でしっかり武装し、革命のために自分のすべてを惜しみなくささげる不屈の革命家、共産主義者にきたえられている。そして全国が革命的情熱でわきかえり、千里馬の勢いで革新また革新、前進また前進しながら新たな奇跡を創造していった。

のみならず、勤労者たちは、高い文化水準と共産主義的道徳をかねそなえた文化的な人間に発展していった。

このような不屈の革命性と高い文化性――、そこに共和国の不敗の威力の源泉があり、無限の発展と繁栄の確固とした基礎があるのである。

4　花ひらく文学芸術

金日成首相は、人民にたいする思想教育と人民の文化的素養を高めるうえで、文学芸術のもつ役割を非常に重視した。

一般的に、指導者たちは、文学芸術となんらかの関係をもつものである。

しかし金日成首相のように、文学芸術の使命を革命に深くむすびつけた指導者はかつていなかったし、首相のように文学芸術の発展に強い関心をよせ、つねに指導し配慮している指導者はいないであろう。

帝国主義者やその手先にとっては、文学芸術は人間を堕落させ、人民の階級意識と闘争心をマヒさせる一種の精神的な麻酔剤であり、また一部のみたされた人たちの享楽の道具にすぎない。

また革命の背信者たちは、文学芸術がすべての階級に差別なく服務するものとして、人民大衆の実践活動とは関係なく、なにか「純粋な美」を探究するものとして、あるいは人民の血と汗で肥えふとった資本家と、飢え、しいたげられている労働者とが一つのテーブルで食べたり、飲んだり、同じリズムにあわせて踊ったり、うたったりすることができるといった式の、階級間の「協調」を説く手段とみており、また事実そのように悪用されている。

だが、文学芸術にたいする金日成首相の考えは、これとは本質的に異なるものであった。

首相は、文学芸術の教育的な意義について、こうのべている。

「ほんとうに社会主義的で革命的な文学芸術は、人間生活の一番美しく一番崇高な世界を人びとに見せてくれます。わたしたちは、文学と芸術によって生活をより深く理解することができ、いっそう実のある生活を創造するたたかいで力と勇気をうることができます」

首相にとって、文学芸術は生活の真実を探究し、人間を美しく崇高な精神世界へと案内する手段、いいかえれば新しい生活を創造するたたかいを鼓舞し、人類の理想である社会主義、共産主義社会を建設する荘厳なたたかいへと人民をふるいたたせるすぐれた手段であり、勤労する人民の手ににぎられた美しい生活の教科書であり、一切の古いものと醜悪なもののまえで、憤怒と軽蔑をもってこれとたたかう、革命と階級闘争の鋭利な武器なのである。

だから金日成首相は、早くも抗日武装闘争のあのきびしい日々に、革命的文学芸術の発展に心血をそそいだのであった。

首相自身、かの有名な『血の海』、『城隍堂（ほこち）』など数多くの脚本を書いた創作家であり、演出者であり、浪慢的な闘争精神が脈うつ無数の革命歌の創作者でもあった。

首相の模範と教えにしたがって、パルチザンの隊員も詩を書き、歌をつくり、力をあわせて劇を上演して大衆に見せたりした。

こうした作品は、静かな書斉でつくられたものではなかった。敵とたたかう行軍の途上で、けわしい山奥の密林の休息の場で創造されたものであり、かぎりない革命的情熱と、祖国にたいするあこがれと愛のなかで生まれたものである。

こうした文学芸術は、力と希望をあたえてくれる道づれであり、異国の荒野をさまよう同胞には、祖国へつうずる革命の道をしめし、重苦しい胸をはらす壮快な春雷でもあった。

抗日武装闘争の折、首相によってかたちづくられた革命的文学芸術は、誇りある伝統として解放後の朝鮮の文学芸術に直接うけつがれて発展し、さんらんたる開花をもたらした。

金日成首相は、党創建の当初から朝鮮革命に服務する党的で革命的な党文芸路線をうちたて、革命発展の時期ごとに、作家、芸術家をたたかいにむかって正しく指導し、はげましました。

首相は党の文芸政策について、つぎのようにのべている。

「わが党の終始一貫した文芸政策は、わが人民の悠久な文化遺産を批判的にうけつぎ、他国の先進文化の成果を批判的にうけいれながら、社会主義制度のもとにおけるわが人民の生活と感情を反映した、新しい民族文化を発展させることにあります」

首相がしめした党の文芸政策には、内容において社会主義的であり、形式において民族的な民族文学芸術の性格にかんする問題、朝鮮の現実に照らしあわせた社会主義的リアリズムの諸原則にかんする問題、文学芸術の党派性と人民性にかんする問題、民族文化の遺産をうけつぎ、これをあらためるとともに、外国の先進文化を批判的にうけいれる問題、大衆文化活動を活発にくりひろげ、文学芸術を全人民の享有物とする問題などが全面的に明らかにされている。

こうした路線は、共和国北半部の文学芸術を、朝鮮革命に徹底的に服務するもっとも党的で人民的な文学芸術に、高い思想性と芸術的香気を放つ黄金の芸術に花ひらかせた。

金日成首相は、文学芸術を党の思想、文化革命遂行の有力な手段の一つとみなし、文学芸術は党の思想と路線を徹頭徹尾擁護し、朝鮮労働党によって導かれる朝鮮革命に忠実に服務する高い党派性をもたなければならず、また、そうしてこそ、自己の使命をまっとうできると教えた。

首相は党的な文学芸術の使命について語りながら、「われわれの文学芸術は、北半部での社会主義建設に服務するとともに、南朝鮮の解放と祖国の統一のための全朝鮮人民のたたかいに服務しなければならない」と教えた。

もし、文学芸術がこうした使命の遂行に服務できないとすれば、それは党と人民の利益に反するばかりか、真実を歪曲することになり、正しい意味での文学芸術とはいえない。

金日成首相の文芸思想におけるこうした党派性は、文学の人民性と密接にむすびついている。

首相は、「党派性はすなわち人民性である」とし、文学芸術の人民性について、つぎのようにのべている。

「芸術は、必ず人民大衆のなかに深く根をおろさなければなりません。作曲家、劇作家、音楽家、舞踊家および演技者たちは必ず人民の生活を深く研究しなければならないし、創作するうえで、人民が創造し、人民の感情と念願を正しく反映した民族古典と人民歌謡をひろく利用しなければなりません」

また首相はこうのべている。

「芸術の真の評論家は人民であります。人民にまさる聡明な評論家はいません。人民の判定に合格した作品はよい作品であり、人民の判定に合格できなかった作品は、よくない作品とみなければなりません。小説、詩、音楽、映画、そのほかのすべての芸術は、人民大衆が理解できるものでなければならないし、人民大衆のために服務しなければなりません」

文学芸術の人民性についての金日成首相のこの教えには、人民は社会の物質的生産者であるばかりでなく、あらゆる精神的富の創造者でもあるという唯物論的世界観から出発したものであって、文学芸術の創作において決定的な役割を果たすのは人民であり、芸術作品の質的水準と歴史的生命は人民が創造した富、なかでも人民の精神的富をどの程度もりこんでいるかによってきまるという、深奥な内容がこめられているのである。

たとえば『春香伝』、『沈清伝』や民謡など、多くの古典文学作品が、ある個別的な作家の孤立的な幻想になるものではなく、豊富な人民的才能の創造物であることを考えるとき、金日成首相の思想がいかに正しいものであるかがよくわかる。

文学芸術の人民性についての首相の思想は、これにとどまるものではない。

首相は、生産し、建設し、革命する人民、歴史を創造する人民大衆のなかに、永遠でしかも無限な美の源泉があると考えた。そこに詩があり、小説があり、美しい音楽があり、戦闘的な演劇があると考えたのである。

首相はつねに、人民を第一に考え、人民を美の所有者、創造者であると考え、「人民が愛するもの、それはとりもなおさず詩的なものである」と強調した。

金日成首相は一九六六年二月四日、シナリオ作家、映画演出家たちと会い、人民性を要約して、「人民性とは、人民の要求をくみとり、それを解決することです」とのべた。

首相は、古典文化遺産についても、こうした人民性の尺度によって評価をくだし、「人民の感情と念願を正しく反映した民族古典と人民歌謡をひろく利用しなければなりません」と強調したし、「燦然と輝くわが民族芸術の遺産を継承発展させ、先祖がのこした美しくて進歩的なすべてのものがわれわれの時代に開花するようにしなければなりません」とのべた。

金日成首相は、過去の民族文化遺産をすべて古いものとして一掃しようとする虚無主義的な傾向と、進歩的であれ反動的であれ、文化遺産でありさえすればなんでも継承しようとする復古主義的傾向をきびしくいましめ、遺産のなかで保守的で反動的なものはすて、人民的で進歩的なものだけを現実の生活の要求にそくして継承し、革新してゆく原則を堅持した。

首相はつぎのように指摘している。

「民謡、音楽、舞踊など各部門においてわが民族固有のすぐれた特性を保存すると同時に、新生活が要求する新しいリズム、新しい旋律、新しい律動を創造しなければならないし、わが人民が有している豊富で多様な芸術形式に新しい内容をもりこむようにしなければなりません」

文化遺産の継承にかんする金日成首相のこの文芸思想は、首相の独創的な思想であり、また首相の主体思想の輝かしい具現である。

首相は、文化の民族的特性をなくさなければ「世界的価値」をもつものにならないという考えや、逆に、古い民

族文化をすべてそのまま保存してこそ世界文化の宝庫に寄与できるという人びとの見解を批判し、民族文化において民族的特性の保有とその間断なき革新こそが、世界文化の宝庫に寄与する道であると考えた。そして外国の先進文化をうけいれる場合でも、民族的な土台が主体とならなければならないとのべた。

金日成首相のこうした文芸思想が、いかに正しいものであるかということは、こんにち世界が驚嘆し、模範とあおいでいる朝鮮の民族文化芸術の開花が、それをあますところなく証明している。

首相は、すぐれた古典の思想、芸術的な本質をだれよりも深く、そして正しく評価した。

金日成首相は、古典を評価するに際して、それがつくられた時代の歴史的条件をはなれて軽卒に評価したり、その本質をそこなってまで勝手に改作したりすることをかたくいましめた。

と同時に、首相は現代の作家たちが歴史的事件や人物を形象する場合にも、その歴史的真実に厳密に立脚するだけでなく、それがわれわれの時代の人民の階級意識と愛国心を鼓吹するうえで役立たなければならないと考えた。

一九四八年一月のある日、金日成首相が劇『李舜臣将軍』（金台鎮作。首相の教えを貫徹すべく、作者の死後、趙霊出、李甲基、黄徹らの劇作家および演出家が討議し、趙霊出の責任のもとに、全九場の戯曲に改作した。――訳者）を観覧したときのことである。

首相はこの劇を創造した集団にたいして、歴史上いかなるすぐれた将軍も、人民大衆とのつながりがなくては勝利は不可能であると指摘し、その劇のなかで、ある老人が草鞋をあんで李舜臣将軍の兵営をたずねる場面は、李舜臣と人民とのつながりをあらわす意味でよくできていると評価した。

そして、この作品の欠陥をおぎなう具体的な方法をしめし、金応瑞将軍（壬辰祖国戦争のときの名将。一五九三年一月、ピョンヤン城を奪還、のち慶尚左兵使となって釜山を奪還し、功が多かった。――訳者）が日本軍の兵営にいく場面にたいして、「われわれの方で日本軍の兵営をたずねていっているが、これは誤りである。日本軍の方でわれわれの兵

営にくるように描くべきである」とのべた。

また、李舜臣将軍が勝利の歓呼のなかで戦死する場面については、この戦死の場面で劇を終わらせるのではなく、将軍が陣頭で指揮をとり、最後の勝利の決戦へと全軍をふるいたたせ、敵に大きな打撃をあたえているところで終わらせるべきだと指摘した。

こうしてこの劇は、歴史的真実と現代的要求とを統一的に把握した首相の教えにしたがい、欠陥をなおして高い思想、芸術的水準に達することができたのであった。

金日成首相は、文学芸術の社会主義的内容と民族的形式の相互関係の問題についても、正しく解明した。

首相は、「わが人民が有している豊富で多様な芸術形式に、新しい内容をもりこむようにしなければならない」とのべ、創作で人民的芸術形式をひろく利用するにしても、むかしのままではなく、それを発展させて利用しなければならないと教えた。

金日成首相は、朝鮮画における民族的色彩、音楽における民族的旋律、文学創作における民族的特性を強調し、一九六六年四月三十日、作曲家たちとの談話をつうじて、「古い形式に社会主義的な内容をもることは、社会主義的リアリズムとはいえない」と指摘した。

金日成首相のこの文芸思想は、一般的には内容と形式の統一、具体的には民族文化の社会主義的内容と民族的形式の統一にかんする正しい解答となっている。

首相は、民族的形式の建築物における社会主義的内容とはどういうものであるかについて、建築家たちにこうのべている。

「われわれが建築する建物の社会主義的内容とはなにか？　それは人民にとって、便利で、優雅で、美しくて、頑丈であることを意味します。これがとりもなおさず、われわれが要求している建設の質なのです」

社会主義的内容と民族的形式の統一についての金日成首相のこのような教えは、すべての事物と芸術的現象を、徹底した共産主義的党派性と人民性の見地から分析評価することによって、もっとも深奥な真実に到達できるものであるということをよくしめている。

首相は、文学芸術の現代性にかんする問題、肯定的主人公――共産主義闘士の典型にかんする問題、思想性と芸術性の統一にかんする問題などについても、朝鮮革命の観点、すなわち偉大な主体思想の照明のなかで明らかにした。

こうした美学上の問題の解決で、とくに首相が一九六〇年十一月二十七日に作家、芸術家にあたえた教え、『千里馬時代にふさわしい文学芸術を創造しよう』、一九六四年十一月二十七日に文学芸術家たちのまえでおこなった演説『革命的な文学芸術を創作することについて』および、戦後、映画芸術家たちにあたえた多くの教えなどは、きわめて歴史的意義の深いものである。

この教えのなかには、社会主義の高峰にむかってつきすすむ千里馬時代と、祖国統一のための南北朝鮮人民のたたかいから、なにをどう反映すべきかという首相の豊富な美学思想と文芸政策が明示されている。

金日成首相は、文学芸術の現代性についてこう教えている。

「結局、すべての文学芸術作品は、こんにちのわが人民にたいして、どのように生き、働き、たたかうかを教えるうえで役立たなければなりません。ですから作家、芸術家たちは、以前にもまして現実に関心をもたなくてはなりません。現実生活に近いものを描くほど、作品はいっそう価値あるものとなります」

首相は、社会主義的リアリズム文学芸術の価値は結局、自分たちの時代の先進的な時代精神のなかで、人民に提起されている切実な問題に解答をあたえることにあると考えた。

現代性にかんする金日成首相の文芸思想の現実的意義は、ただこれだけにとどまるものではない。

首相が明らかにした独創的な文芸思想のいま一つの側面は、歴史的な主題を現代性の見地から発展させると同時に、過去のすぐれた「民族的形式を時代にそうよう発展させ」、そこに現代的内容をもることによって、現代的主題を解決するということである。

金日成首相は、農民が党の政策をかかげてあらゆる難関とあい路を克服しながら協同農場を組織する話も、むかしからつたわる民族的形式の唱劇で創作できるから、一度ためしてみるようにとのべた。作家、芸術家たちは首相の教えにしたがい、唱劇だけでなく、舞踊、民謡、朝鮮画を現代人の美感にあうよう新しく創造し、発展させることに成功した。

いままで、少なからぬ社会主義国の芸術活動では、現代性を正しく生かすことができず、とくに舞台芸術にいたっては現代的主題の開拓にはほとんど無関心であった。それはこの問題にかんする理論が貧困で、文学芸術の党派性、人民性を軽視していたからである。

朝鮮をおとずれた外国の政治活動家たちが、ピョンヤンの劇場などで芸術公演を見て驚嘆するのも、主としてその現代的主題の作品のゆえであった。

そして一部の人びとは、朝鮮で見た現代的主題の作品に学び、それを自国の劇場の舞台で再現までした。

この現代性にかんする問題は、とくに肯定的な主人公——共産主義闘士の典型創造にかんする金日成首相の美学思想と密接にむすびついている。

金日成首相は、つぎのようにのべている。

「搾取と抑圧がなくなり、すべての人に自由に発展する道がひらかれている社会主義制度のもとでは、人びとは美しいもの、よいものへむかい、全社会には肯定的なものが支配するようになります。社会主義のもとでは、すべての肯定的な現象が広はんな人民大衆のなかで共鳴をよびおこし、それはただちに全社会的な模範に普遍化される

のです〉〉」

こうして、共和国北半部の社会主義社会における芸術は、その制度の優越性によって現実のなかで美しいものの模範と、人間の肯定的特質をかぎりなくのばす豊富な可能性をもつようになった。それは搾取と抑圧が支配する資本主義社会では、先進的な芸術と制度とが敵対的に衝突するが、社会主義社会ではそれ自体のなかに人類の理想が、新しい人間――共産主義闘士の大衆的闘争をつうじて現実化されているためである。

金日成首相は、社会主義、共産主義理想のためにたたかう実際の英雄のなかから、かれらの偉勲と肯定的性格の特質を典型的に創造することを強調し、こうした新しい型の人間の典型をとおして、すべての勤労人民を共産主義的人間に改造できると教えた。

同時に、金日成首相は、「南朝鮮の人びとに革命闘争の方法を教え、かれらの革命的情熱をふるいおこさせ、階級的な自覚を高め」るため、南朝鮮の革命闘士の典型を創造しなければならないと教えた。

金日成首相は、革命闘士の典型のなかでも、とくに英雄的な抗日武装闘争にくわわった共産主義闘士の典型を創造することが、人間改造と全社会の革命化に重要な意義をもつとくりかえし強調した。それは抗日武装闘争が朝鮮革命運動の源泉であり、抗日の革命闘士が文学芸術の肯定的主人公の模範であり、かれらの闘争業績と革命精神が、こんにちの人民からかぎりない尊敬をうけているためである。

金日成首相は、こうした共産主義闘士の典型的な性格的特質と内面世界のゆたかさを美学的に明らかにし、たたかいのなかで成長してゆく主人公を描き、平凡な人たちのなかから英雄的な姿をもとめ、たたかいと試練のなかで革命的楽観主義をきわだたせ、闘士の形象をつうじて革命にたいする認識過程を描写することなどにかんする、重要かつ原則的な問題を明らかにした。

これらすべての問題は、社会主義的リアリズムの文学芸術における共産主義闘士の典型にかんする深奥な美学的

解明となっている。

金日成首相はさらに、芸術において、「生産で決定的役割を果たすのは機械ではなく、人間であるという思想が強調されなくてはならず、偉大な生活は一人や二人のすぐれた人の力によってではなく、自己の歴史的使命を自覚した数百万勤労者のたたかいによってつくりだされるという、マルクス・レーニン主義的観点がはっきりとでていなくてはなりません」と強調し、つぎのようにつづけている。

「このような映画の主人公は、快活で楽天的であって、難関にめげず前進しようとする意志が非常に強い典型的な新しい人間として描かなければならない」

つまり金日成首相は、現代の肯定的主人公——闘士の典型を時代精神と歴史の主流のなかで描写し、主人公の成長過程を生活とたたかいの合法則性のなかでとらえ、主人公の階級的本質と精神世界の気高さとゆたかさを正しく反映してこそ、人びとにわれわれの偉大な生活を理解させ、人民大衆を革命的に教育する教科書となるような肯定的模範を創造することができると考えた。

首相はまた、共和国北半部における社会主義建設に服務するばかりでなく、南朝鮮の革命と祖国統一のための全朝鮮人民の闘争に服務する革命的大作を創造するよう強調して、こういう革命的大作は、「偉大な歴史的事件を背景にして、朝鮮革命の発展とともに闘争のなかで成長してゆく主人公の典型的な姿」を描くものでなければならないと教えた。

肯定的主人公——共産主義闘士の典型にかんする金日成首相のこうした文芸思想は、マルクス・レーニン主義美学の大きな発展である。

これと同時に、金日成首相は、作品における思想性と芸術性の統一について強調している。

首相は、「芸術において抽象性は死である」、「高い芸術性と結合した高尚な思想性——」、これは芸術作品の価

値を規定するうえで唯一の正当な規準である」と教え、「芸術は、人民に後退をもとめるのではなく、幸福な未来にむかう前進を呼びかけなければならない」と強調した。

そして作家、芸術家たちが党の政策で武装し、社会主義、共産主義建設と祖国統一のために献身する熱烈な革命闘士にならなければならないとのべながら、「熱烈な愛国者でない作家が、どうして愛国的な作品を創作することができ、人民を愛さない芸術家が、どうして人民のための芸術を創作することができましょうか？」と指摘している。

このことばは、現代の作家、芸術家だけでなく、あとからつづく文学芸術のすべての世代が深く考えなければならない座右銘である。

すぐれた文芸思想にもとづく金日成首相のこうした教えのほとんどは、作家、芸術家たちに直接会い、かれらの創作活動を指導しながらあたえられたものであった。

首相は、天才的な芸術的洞察力で作品の思想、美学上の長短を分析し論評したばかりでなく、人物形象上の細部にわたってその長短を指摘し、作品を描きなおす方向と具体的な代案までだして創作活動を指導した。

朝鮮の映画芸術が非常に早い速度で発展したのも、この分野にはらわれた金日成首相の深い関心と直接的な思想、美学的な指導をはなれて考えることはできない。

たとえば劇映画『成長の途上にて』（白仁俊（ペクインジュン）シナリオ、鄭雲峰（ジョンウンボン）演出、第一部—一九六五年、第二部—一九六六年、国立芸術映画撮影所制作。——訳者）も、首相の細心な指導をうけて完成されたすぐれた作品である。

この映画は、アメリカ帝国主義とその手先どもの植民地隷属化政策に反対してたたかう、南朝鮮の青少年たちの成長過程を見せてくれる作品である。

この映画の第一部を見た金日成首相は、この映画の思想、芸術性を全面的に分析し、じつに具体的な助言を映画

の制作スタッフにあたえた。
首相は、この映画の主題となっている反米思想について、「作品では反米思想が弱い。ソウルの街路で、アメリカ軍のジープに子どもがひかれる場面があるが、ここでは多くの人たちがただ黙って見ているだけである。憤怒をおさえきれなかった人もいただろうに、冷ややかな笑いをうかべている人と無表情につったっている人たちだけが強調されている。南朝鮮の人民がまるで、すべて腰ぬけであるように描かれているではないか」と指摘し、この映画の基本的な欠陥をこまかく分析した。
また、主人公の学生が自分の血を売って学友の授業料をおさめる場面については、「飢えている母親もたすけられないのに、学友の学費のために血を売ることは、資本主義社会での典型とはなりえない」と指摘した。
そして、金日成首相は、南朝鮮の青年たちがなぜアメリカ帝国主義に反対するにいたるのかを描くことが重要であるとのべ、かれらのめざめてゆく過程を社会的環境との密接な関連のなかでえぐりだす方法まで指導した。
こうして、『成長の途上にて』第一部はもちろん、第二部も直接、首相の指導によって、思想、芸術性の高い作品として完成されたのである。
劇映画『崔学信一家』（白仁俊シナリオ、呉秉超演出、国立芸術映画撮影所、一九六六年制作。——訳者）も、首相の指導をうけて思想芸術性の高い作品として完成されたものの一つである。
この映画でくりひろげられる事件は、かつての祖国解放戦争で、人民軍が一時的に後退した時期からはじまっている。
ながいあいだ、アメリカを崇拝してきたキリスト教の牧師崔学信とその一家が住んでいる村にも、アメリカ帝国主義侵略軍がおしよせてくる。そして、かつてソウルに遊学していた崔学信の息子が、かいらい軍の将校となってあらわれる。

崔学信は侵略者を歓迎し、かれらにつかえる。かれは侵略者が人民を弾圧するのを見ても、それは「天意」であると信じてうたがわない。

だがやがて、かれの胸にも一沫の不安と苦悩が生まれてくる。

アメリカ帝国主義侵略者と交際していたかれの長女が、かれらに殺され、海岸にその死体がうかびあがったのである。

この事件は、崔学信とその妻、そしてかいらい軍将校の息子を絶望におとしいれる。妻は気が狂い、あげくの果てにアメリカ軍の銃弾にうたれて死ぬ。

しかし崔学信の末娘だけは、最初からみんなとはちがった道を歩いていた。

共和国で育ち、学んだ彼女は、負傷した一人の人民軍兵士を家にかくまって献身的に看病する。だが危険がせまってくると、その兵士は、以前、教会堂の鐘守りをしていた老人の協力をえて、付近に駐屯していた人民軍部隊に無事帰るのだが、この一件が敵に知れ、事件は大詰となる。

アメリカ軍は、すでに不安におののき、動揺をきたしている崔学信の息子に、鐘守りの老人を大衆の面前で銃殺せよと命ずる。かれはしかたなく銃口を老人にむける。しかし、かれには引き金がひけない。

老人は、幼いころのかれを背に負ぶってかわいがってくれた、いわば恩人なのだ。

良心の苛責にさいなまれ、せっぱつまったかれは死を覚悟して、やにわに銃口の向きをかえるとヤンキーを射殺してしまう。そして、アメリカ軍の銃口がいっせいに向けられると、かれは恥ずべき自分の生涯をみずからの手で断ってしまう。

これを知った崔学信は、息子の死体をかかえながら涙を流してアメリカ軍を呪う。だが、ときはすでにおそかった。

ながい歳月にわたってアメリカを崇拝してきたかれは、妻と娘と息子の生命を奪われるという大きな代価をはらってはじめて、アメリカ帝国主義侵略者とは人間の仮面をかぶった野獣であるという真実に気がついたのである。人民軍と当地の遊撃隊が村を解放すると、崔学信はかれらのまえで自分を呪い、朝鮮人民の不倶戴天の敵であるアメリカ帝国主義者を必ずうち滅してくれと泣き叫ぶ。この叫びがほかならぬ、ながいあいだの崇米主義者であった人物の口からでてきたところに、問題の深刻さがまざまざとうきぼりにされる。

金日成首相は、この映画の創作過程を何回も指導し、高い思想と芸術的な目で欠点を指摘し、それを克服する具体案をだした。

首相は、登場人物の性格と相互関係、かれらの個別的な運命についてまで明らかにし、この映画の基本をなす主人公の思想の発展過程を、完全な真実性と劇的な鋭さをもって描くように教えた。

首相のこの教えにしたがって、映画の制作スタッフは、悲劇的な色彩の強いなかで、アメリカ帝国主義侵略者の野獣性を遺憾なくえぐりだし、アメリカ帝国主義撃滅を叫ぶ主人公を強い芸術的表現力でもって描き、作品の思想性をいっそう高めることに成功した。

そのほかにも、劇映画『わたしがえらんだ道』（国立芸術映画撮影所、一九六四年制作）、『人民教員』（許竜三、韓相雲シナリオ、千尚仁演出、国立芸術映画撮影所、一九六四年制作。――訳者）をはじめ、多くの作品が首相の指導を直接うけ、思想、芸術性がいちだんと高い作品となった。

このように首相は、大衆的で機動的な映画芸術の役割を重要視したのである。

首相が文学芸術の各分野にたいする思想、芸術的な指導でもっとも重視したのは、きびしい革命と建設でわきたつ現代の精神であり、より明るい未来のために英雄的にたたかっている闘士の形象、人民の形象であった。

こうした闘士たちの姿――、いまここに人民を一つに集約した形象がある。それは、世紀をたぐりよせて天がけ

る千里馬朝鮮の象徴、千里馬銅像がそれである。

ピョンヤンの空高くそびえたつこの銅像（一九六一年完成）は、金日成首相の構想によって建立された記念碑的な世界的大作である。

はじめ画家や彫刻家たちは、羽のない馬が数頭かけている構図を考えていた。しかし金日成首相は、「馬が数頭もいれば、どれも目だたなくなる」と指摘し、朝鮮人がむかしから描いてきた童話的で象徴的な美学的空想を利用し、こんにち朝鮮労働党の指導のもとに、朝鮮人民が社会主義、共産主義の高峰をめざして意気天をも衝かんばかりの勢いで疾風のようにかけている気象を象徴した翼のはえた千里馬の構想をうちだした。

また一部の人たちが、この千里馬に一人の騎手をのせるべきだという意見をだしたとき、金日成首相は、「これはあくまでも象徴的なものであるべきである、騎手を一人にすれば、あとで特定の英雄の銅像とまちがえられる」とのべ、気骨のたくましい労働者と農民女性との二人にした方がよいと教えた。

これは革命をおこない、建設をすすめる朝鮮人民にたいする首相のかぎりない愛情からでた構想であった。

首相にとって、もっとも美しく誇らしく、そして貴いものは、朝鮮人民であった。苦難の荒波をのりこえてきながらも、ますます勇壮大胆となり、侵略者をそのつど手痛くたたきのめし、首相と党にしたがって革命と建設を早めてきた人民、こうした人民によって首相はつねにはげまされ、天才的な構想を練り、昼夜をいとわず活躍しながらも休息さえとろうとしないのであった。

朝鮮人民は首相の指導のもとに、世界が驚嘆してあおぎみる革命と建設の名手となった。朝鮮人民は南朝鮮の同胞を救うために、いっそう富強で賢明になるためにたたかっているのである。

その偉大な人民が大地のうえにたっている。だが金日成首相は、この人民は空に、千里馬銅像のうえにまたがり、永遠にはばたいていなければならないと考えた。千里馬にのった朝鮮人民の形象は、首相のこうした情熱には

ぐくまれて創造されたのである。

このような首相の深奥な思想は、われわれの時代ばかりでなく未来永劫にまでおよぶであろう。

金日成首相の美学思想と文芸政策は、ただ朝鮮の文学芸術ばかりでなく、国際的にも大きな意義をもっている。

首相の美学思想と文芸政策は、社会主義的リアリズム文学芸術の本質と使命をゆがめる左右の日和見主義者にたいする痛打となるものであり、革命的な文学芸術家にとっては普遍的な指針となるものである。

それればかりか、首相の革命的で創造的な美学思想は、マルクス・レーニン主義美学をより豊富にし、その戦闘的で革命的な旗じるしをいっそう高めている。

首相は、解放後こんにちにいたるまで文学芸術家の大部隊を育て、かれらを革命的に教育し、数多くの文学芸術作品が満開する花園をつくるかたわら、文学芸術作品の利用と創作活動が大衆自身のものとなるように導いた。

文学、音楽、舞踊、演劇、美術、映画、手芸などの芸術サークルは、一九六〇年現在で六万二千八百余に達し、ここには二十五万二千名以上の勤労者がもうらされている。

こうして文学芸術は、人民の生活と密接にむすびついた大衆的な創造活動となった。大衆文化のこのような発展は、人民の思想水準と文化的素養を高めるうえで大きな役割を果たすことができた。

このように朝鮮の文学芸術は、金日成首相の科学的で多方面にわたる細心な指導があったからこそ、あらゆる左右の日和見主義的偏向とブルジョア文芸潮流の浸透をはばみ、真の社会主義的リアリズムの高峰に到達することができたのである。

かつて日本帝国主義侵略者に踏みにじられ、抹殺されかけていたわが民族文化芸術は、首相の導きのもとに、もっとも革命的で、民族的で、人民的な芸術として開花し、すべての舞台は、いたるところで人民から熱烈に歓迎されている。それればかりではなく、朝鮮の芸術は、世界のいたるところで嵐のような喝采をあびているのである。

たとえば、世界青年学生祝典での朝鮮芸術団の公演の反響は、文字どおり熱狂的な賛辞の嵐であった。

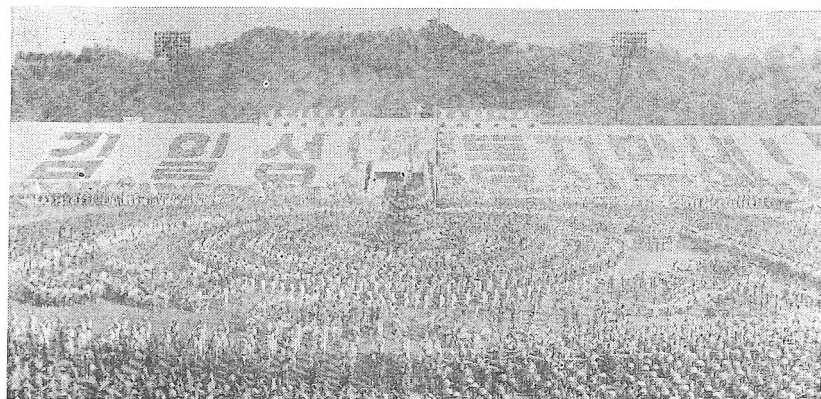
「朝鮮の芸術は、もっとも革命的で、もっとも美しい芸術である」、「魔術のように神秘的な芸術である」、「黄金の芸術である」、「ダイアモンドの芸術である」

これはワルシャワ、ウィーン、ヘルシンキに集まった祝典参加者たちの一致した賛辞であった。

ソフィアでひらかれた第九回世界青年学生祝典（一九六八年）で、朝鮮芸術団の公演を見たブルガリアのある人はこういっている。

「朝鮮人民は世界ではじめて、革命の時代のまったく新しい芸術を創造した。とくに群舞『苦難の行軍』は、音楽と舞踊、演劇と映画の要素がすべてふくまれており、それこそ、あらゆる芸術形式がみな包括されている総合的芸術の模範である」

ソフィアをおとずれていたソ連高級党学校の一女性教授は、「こんにち、あなたがたの芸術は、帝国主義侵略者をうちやぶるたたかいで、大砲や銃よりももっと強力な武器となっています」と賛辞を惜しまなかった。

第九回世界青年学生祝典準備委員会のアルジェリア代表もこういっている。

大集団体操『千里馬朝鮮』の一場面

「みなさんの芸術は奇跡的であり、驚異的な芸術であります。朝鮮の芸術は世界の芸術のもっともすばらしい模範であります。朝鮮の芸術こそ真の芸術であり、革命的な芸術であります。…朝鮮の芸術は革命的芸術の旗じるしであります。芸術を学びたければ、朝鮮の芸術を学ばなければなりません」

この朝鮮の文学芸術は、金日成首相の主体的な革命的美学思想の輝かしい具現であり、その大きな勝利なのである。

まさに金日成首相は、祖国の地上に富強な社会主義楽園を築いた人民の偉大な領袖であるばかりでなく、朝鮮の歴史上はじめて燦然と輝く民族文化の開花期をもたらした偉大な芸術家でもある。

5　昌城で育った新しい芽

朝鮮には山が多い。どこからでも山が見える。季節によっては、寒空のもと吹雪にかすんでそそりたつ山であったり、色あざやかな新緑を着かざり力いっぱい背のびをする華麗な山であったり、一望千里見わたすかぎり燃えさかる炎のような紅葉の山であったりして、美しく荘厳なその姿は、むかしから詩や歌に多くうたわれてきた。

しかし、山はながめるためにだけあるのではなかった。国土の七〇パーセント以上を占めている山は、炭鉱や鉱山であり、大小さまざまな工場と町であり、多くの農民をかかえる生活の場であり、政治と経済活動の巨大な対象なのである。

しかし、とくに問題となるのは、山間地帯の農民の生活状態であった。日本帝国主義の時代やそれ以前はいうにおよばず、多くの恩恵をうけている解放後においても、農民の生活は他の部門にくらべて依然として苦しい状態にあった。したがってこの問題が、全朝鮮人民のいつくしみ深い指導者である金日成首相の関心をひかないはずはな

かった。

社会主義祖国に、日かげの部分があってはならない。山間地帯の農民はながい歳月をけわしい山にとりかこまれ、だれよりも貧しく暮らしてきただけに、もうそれがむかしの語り草となるような、平野地帯におとらぬしあわせな暮らしをしなければならない。かれらも豊潤で文化的な共産主義楽園につれてゆかなければならない。これが首相の考えであった。

首相は繁雑な国政を処理し、工場や鉱山を指導しながらも、つねに山間僻地のことを忘れたことはなく、解放直後から陽徳の火田民や、慈江道時中の山間僻地をはじめ、多くの山林をみずからたずねては、山をよく利用して暮らしをたてるようにと教えた。

金日成首相は、山を、決して人間を拘束し、生活をさまたげるだけの荒々しい自然だとは考えなかった。首相にとっては、それは鉱石や木材、果実、薬草、それに各種の工業原料をたくわえた自然資源の無尽蔵な源泉であり、文字どおり「黄金の山」であった。

山を変革してこれを合理的に利用し、人間生活に積極的に利用し、服従させることは、首相のながいあいだの念願であった。

この遠大な構想は、首相の徹底した革命的立場とともに、抗日武装闘争の苦難の歳月のなかではぐくんだ、山にたいする非凡な見識にもとづくものであった。

それればかりではなかった。山を利用し、山間地帯の農民問題を解決することは、首相の社会主義農村問題解決の重要な構成部分であったし、祖国の地に社会主義、共産主義を建設する大事業の一構成部分であった。

首相は、山間地帯の昌城と碧潼の人びとは、「統一されても昌城や碧潼に住むはずで、故郷をすててよそへゆくわけにもいかない」といった。結局、山間地帯の人たちは、自分たちが住んでいる山を変革して楽園につくりかえ

なければならないということであった。
金日成首相は、みずからこうした僻村に模範をつくって山間地帯の農民に見せなければならないと考えた。
首相は、平安北道昌城郡をそうした地帯としてさだめた。
朝鮮の西北端に位置する昌城郡は、狄踰嶺(ジョギュ)山脈からつきでた海抜千四百四十七メートルの飛来峰(ピレ)の大小の山ひだにかこまれ、郡内の総耕地の九五パーセントが山で、わずか五パーセントが傾斜の多い畑となっている山奥の農村であった。
それに水豊湖(スプン)ができてからは、けわしい山と山のあいだにあった小さな水田まで埋もれてしまった。必需品はなにからなにまで、平地からはこんでこなければならなかった。それこそ、だれでも住むのをためらう山また山の深い山奥であった。
金日成首相は、このような地域を、住みよくゆたかなところにかえようと考えたのである。
首相が祖国解放戦争後、はじめて昌城の地をたずねたのは、一九五五年のことであった。それ以後、首相は、ほとんど毎年のようにこの地をおとずれた。
首相はここをおとずれると、疲れをいやすまもなく、きまって戦死者の家族や農民、それに郡と里の幹部たちに会い、農業協同化の組織とその発展状況、山を活用して生活を改善する方法などについて話しあい、その対策を一つ一つたてていった。
それは少しも格式ばらず、ざっくばらんで肉親的な指導であり、大きな問題から生活のこまかい問題にいたるまでくまなく気をくばる、ひろくて深い指導であった。生活全般にわたって関心をはらうかと思うと、戦争で犠牲となった一戦士の息子が素足で学校にかようのを見て深く胸をいため、靴を買ってあたえ、その少年一家の面倒を父がわりになってみてやったりもした。

昌城にたいする首相の指導は、年とともにいっそうひろくなり、深くなっていった。

首相は地方の産業工場をうまく運営し、拡張し、発展させてゆけば、昌城の農民は、原料源泉地である山がすべて「黄金の山」であるということを理解しようし、その「黄金の山」の開発も難なくすすめることができると考えた。いいかえると、工業と農業をむすびつけ、郡を総合的に発展させてこそ、見すてられていた山が無尽蔵の富の源泉であることを実証できると考えたのである。

首相は、幹部や農民たちに、「黄金の山」をうまく利用しさえすれば、いままではただの葦のしげみにすぎなかった原っぱを「黄金の原」にかえて、黄金波うつ肥えた平地でゆたかな生活をおくっている人たちよりも、もっとゆたかな暮らしができると、くりかえしいいきかせた。

そして昌城では、どこにでもある木の実や野生の繊維、白楊などを原料にして、食料工場、織物工場、麻袋工場、製紙工場、家具工場などを建設し、発展させなくてはならないとさとした。工場の敷地をどこにさだめ、建設資材にはなにをつかうか、工場の機械化の方法はどうするか、などについて具体的に教えた。

教えをうけた郡党の責任者と幹部たちは、農民の先頭にたち、首相のさだめてくれた場所に工場を建てはじめた。

労働党の伝統的な活動方法にしたがい、かれらが身をもってしめしたこの模範は、会議や文書に明け暮れていたときとはちがって、大衆をふるいたたせた。しかし、なにしろはじめてのことであったため、壁は一メートルも積みあげないうちに崩れてしまった。ふなれなうえに知らぬことが多く、ことごとくが難関にぶつかった。

しかし、首相の教えに忠実な昌城の人たちは、ついに千五百平方メートルのりっぱな食料工場をつくりあげたのである。

食料工場の建設でえた経験を生かし、製紙工場はわずか十五日間で建設された。そして織物工場、麻袋工場、家

具工場、農機具工場、とうもろこし工場がつぎつぎと建設されていった。国から資材と技術者の援助がなければ、工場の建設はむずかしいといわれていた消極性と神秘主義は、完全に消しとんでしまった。

首相の肉親的な配慮と教えにはげまされた農民は、山の木の実をはじめ多くの野生原料を集めて工場へとどけた。地方幹部は、首相の教えを農民に解説するかたわら、生産された製品を大衆に見せて、かれらの熱意をさらに高めていった。

工場でも、自力で原料基地を築いた。技術装備がしだいに改善されるにつれ、製品も多くなり、質も高まった。

このように地方産業工場は、その発生発展の全過程において、金日成首相の細心な指導をうけたのであった。

織物工場にしても、一九五八年九月開設当時は、工場とは名ばかりで、普通の住居に織機二台をおき、わずか六人の家庭の主婦によって木綿を日に二、三尺織っているにすぎないありさまであった。労働規律もなく、原料も不足していた。

こうした折、一九五九年の七月、首相がこの工場をおとずれ、主婦労働者と会ったのであった。

首相のまえにすわった彼女たちは、あまりにも貧弱な「工場」が恥ずかしくてうなだれたままじっとしていた。

しかし首相が、「たいへんでしょう。家事だけにしたがっていたのに……たいへんでないはずがない」とやさしく話しかけると、それをきっかけに、だれからともなく話がではじめた。

首相は、足りない原料は、地方のツルウメモドキ、葛、ヤマグワ、コマユミの皮などの野生繊維を買いいれておぎなうこと、新しい工場はどこに建て、建設資材にはなにをつかうかということまで、こまかく教えた。

その後も、首相は幾度となくこの工場をおとずれ、設備の機械化の方法などについて具体的に指示した。

首相の教えを実践する過程で、他人の家を借り、ほそぼそと働いていた六人の主婦労働者は、豊富な原料基地をもち、りっぱな工場で働く大集団にかわり、手で織る織機のかわりにたちならぶ多くの動力織機で、すばらしい布

地を織るようになった。また工場だけではなく、きのうの家庭の主婦がいまでは技術労働者に、堂々たる社会主義勤労者に生まれかわった。

ほかの工場もすべてこれにならって変貌し、発展していった。

地方産業工場を発展させるための金日成首相の教えとその貫徹は、輝かしい実りをもたらした。郡の経済が画期的に発展し、住民の物質的生活にも大きな変化がおこった。

一九六二年の一年間だけでも、昌城郡では人口一人当り十六・五メートルの織物と、八・三キログラムの紙が生産され、労働者、事務員とその家族に、毎日、一人当り二十四グラムを供給できる食用油が生産され、各種の食料加工品と日用家具製品は郡内の需用をみたしてもあまりあるほどになった。

首相の教えを実践した昌城の人びとは裕福となり、生活を楽しむようになった。

人びとは、以前はけわしく威圧感しかなかった高い山々を、いまでは無尽蔵の宝の山としてうっとりとながめるようになった。うらさびしかった山間の僻村には、こうしてしあわせと繁栄の歌がひびきわたった。

金日成首相の系統的な指導をうけ、農業もいちじるしく変化した。山をうまく利用しはじめると、まず畜産業が活気をおびてきた。

首相は畜産業を発展させる方法を具体的にしめすかたわら、直接協同農場をたずねて、家畜の飼育管理のしかたや共同畜産業の規模のきめかた、それに労働力の組織方法までこまかく教えた。

とくに金日成首相は、ひろい草原がなくては放牧が不可能だときめこんでいた教条主義者たちの誤った見解を批判し、渓谷が多く斜面の多い朝鮮の地形にそくして、五十〜八十頭ずつの小牛や羊の群れを、五〜六日間ずつ順に谷間をまわりながら放し飼いするというみごとな放牧方法をしめした。この方法で放牧してみると、結果はおどろくほどよかった。ひと夏だけで小牛の体重が七十〜八十キロにもふえた。

首相はまた、クローバのような外国の牧草ではなく、葛や萩をたくさん植えて、飼料の問題を解決するようにと教えた。

こうして、いたるところに葛の山が生まれた。錦野(クムヤ)協同農場では、百町歩の葛の山をつくるようにといわれた首相の教えを、百四十七町歩も超過遂行した。農業副産物でなければ、家畜の飼育はできないという古い考えかたは、みじんにくだかれた。

葛は飼料として非常によいものであった。葛の山でとれる飼料単位は、町歩当り二トンのとうもろこしよりもよかった。首相の指摘どおり、葛は一度植えさえすれば、ずっと刈り取ることのできるまたとない「万年牧草」であった。しかも栄養価が高く、どんな草食動物もむくむくと育った。

深いしじまのなかに心ない風だけが音をたてて吹きまくっていた禿山に、肥えた牛や羊の群れを目のあたりに見る昌城の人たちは、みな恍惚と夢を見る心地であった。

しかし、だれにもましてよろこんだのは金日成首相であった。代々貧困にあえいできた人びとの身の上がかわって、ゆたかな暮らしをし、ながいあいだ貧困と悲しみにうち沈んでいたかれらの顔が満月のように明るくなったのを見ると、首相はこよなく満足し、まるで自分のことのようによろこんだのであった。

一九六一年に錦野協同農場をおとずれたときのことであった。

首相が牧場の方へ歩いていくと、川辺にそってまるまると肥えた羊の群れが移動していた。首相は顔をほころばせ、やにわに一頭の羊を抱きかかえると、つやのいいふさふさとした羊の背中を軽くたたきながら、同行の農場員と幹部に、「羊は草だけで飼える家畜ですから、たくさん増殖して収入をふやしなさい」と、助言した。

人民にたいする首相の熱い愛にすっかり感激した農民と幹部たちは、のどをつまらせてただ目をしばたたいているだけだった。

畜産業はまさしく高収入をもたらした。一労働力当りの畜産の収入は、米作よりも小牛の場合で四・五倍、羊の場合は五・二倍も高かった。

首相の教えどおりに畜産を発展させてみると、堆肥も多くでき、やせこけた山畑も肥沃な土地とかわった。家畜の群れによる移動式放牧は、運搬の不便な山畑に堆肥を施す手数をはぶかせた。昌城の人は、「まめに働く農民に悪い土地はない」という首相のことばの真意をからだで感じとった。

農民たちは、昌城では「畑の穀物の王は、とうもろこしである」とのべた首相の教えにしたがって、とうもろこしを大量に植え、毎年豊作をもたらした。

つい数年まえまでも、食糧と種穀を毎年国からの援助にあおいでいた昌城郡が、一九六一年には自給自足したうえ、なお千トン余りの穀物を国に売るというおどろくべき変革をもたらした。

金日成首相のすすめで大量に植えはじめた唐がらしも、やはり豊作であった。

一九五九年ころまでは、唐がらしもよくできなかった。種子をじかにまいたまま、手入れも十分にしなかったからであった。「土よりも石の多い畑で、唐がらしがとれたところで、しれたものだ」という人もいた。

このことを知った金日成首相は、種子をじかにまかずに、唐がらしの苗を温床で育ててから畑に植えるようにと教えた。温床をつかってみると、まさしく従前の三倍もの唐がらしがとれた。はじめの収穫で勇気をえた農民たちは、畑の面積も三倍にふやした。

一九六一年、峰泉（ポンチョン）協同農場はとうもろこしの豊作に唐がらしの豊作がかさなり、それに家畜までふえて、一戸当りの穀物三トン、現金千五百円（そのうち唐がらしからの収入が一戸当り平均七百四十円で、全体の半分であった）をうけた。

生まれてはじめて厚い札束を手にした農民たちは、うれしさのあまり踊りの輪をつくり、口ぐちに「金日成同志

万歳!」を叫んだ。かれらにとっては、毎日が祝日であった。

山を総合的に利用するという首相の方針にしたがって、以前には見むきもしなかった山の木の実が、人民生活の向上と経済発展のための財源となった。

多くの草食動物を飼育するかたわら、山イチゴ、山ブドウ、山梨、サルナシの実、クヌギ、ドングリなど野生の果実と、ツルウメモドキの皮、萩の皮など野生繊維を採取する仕事は、昌城の生活をいっそうゆたかにした。昌城はどこでも毎年豊作になり、山の幸があふれ、ことあるたびに人びとは踊りだし、歌をうたった。悲しみにうち沈み、けわしい山をながめては都市や平野にあこがれるようなこともなくなった。農民の生活は全般的に中農、あるいは富裕な中農の水準に高まった。ゆたかな平野地帯の農民の生活とくらべても決しておとらなかった。

こうした変化は、昌城ととなりあわせの碧潼や朔州の土地でも、ほとんど同時におこった。山間地帯の農民の生活問題は完全に解決された。

金日成首相は、このような経験を総括しながら、つぎのように説明した。

「昌城と碧潼でおこった大きな変化は、やせた土地に住む人も、党の方針どおりにしさえすれば、平安南道の文徳や咸鏡南道の咸州、黄海南道の載寧(ジェリョン)、信川のような平野地帯の人たちに決しておとらない暮らしをすることができるという確固とした結論をくだすことができます」

昌城は経済生活だけでなく、文化的にも大きく発展した。新しく建てられた瓦ぶきの家には電気がつき、ラジオと有線放送の音が村中に流れた。学生や青年たちは、ほとんどが楽器をこなせるようになった。

金日成首相の教えは、教育保健事業と衛生文化面においてもみごとに実践され、すべての学校、機関、村はきちんと整頓され、清潔になった。

各種の工業製品は、郡内の高まる需要をみたし、遠く大都市の百貨店のウインドウにまでかざられ、好評を博し

た。禍を福に転じる「天地開闢」とは、まさに昌城でのこの変革をさしてのことばである。

金日成首相の精力的な指導によって、昌城でもたらされたこのような変革は、山間地帯の農民問題を解決したすばらしい模範であった。

山間地帯の人民生活は、自力更生の原則のもとに積極的に解決されていった。首相はこの地域の自然経済的特質にそうように都市と農村をむすびつけ、工業と農業を総合的に発展させることによって、この問題を解決したのであった。

また昌城で創造された経験は、どうすればすべての地域を一様に発展させることができるかという問題解決の方法を明らかにしたものでもあった。

この経験にもとづいて、金日成首相は、社会主義、共産主義建設において郡が非常に重要な役割を果たすという新しい命題を明らかにした。

首相はつぎのように指摘している。

「郡の活動を強め、郡の所在地をりっぱにすることは社会主義建設を早めるだけでなく、ひいては都市と農村の差異をしだいになくして共産主義社会を建設するうえでも、非常に重要な意義があります」

社会主義、共産主義建設において郡をいっそう強化するという問題は、金日成首相がマルクス・レーニン主義理論をさらに発展させ、まったく新しく開拓した独創的な思想である。

金日成首相が昌城で創造したこのような模範は、社会主義建設における当面の難問題を解決したことだけに意義があるのではなかった。それは、実践のなかで創造された共産主義建設の新しい芽であったのである。

金日成首相は、このような新しい芽、昌城の模範を全国に一般化するために、一九六二年八月、地方の党および経済活動家昌城連席会議をひらいた。

この会議で金日成首相は、『郡の役割を強化し、地方工業と農業をさらに発展させ、人民生活をいっそう高めよう』と題する結論をのべた。

現地の昌城でおこなわれたこの会議は、現地見学までともなわれた。会議の参加者たちは、いいつくせない感動をうけた。

昌城連席会議は、農民問題、とくに山間地帯の農民問題の解決を大きく促進させ、社会主義建設における郡の役割を決定的に高めるうえで重要な意義をもつものであった。

この会議ののち、金日成首相はふたたび全国の山間地帯をくまなくまわりながら、昌城の経験を一般化し、いたるところで変革をおこさせた。けわしい山々が雲のうえにそびえる「天（あま）が下の最初の村」といわれている両江道（リャンガンド）の三水・甲山、慈江道の狼林と楚山（チョサン）、江原道の法洞（ポプドン）と黄海北道の谷山、平安南道の陽徳と徳川など、すべての山間地帯で世紀的な飛躍と革新がおこった。

昌城で創造された模範は、じつにすべての深山幽谷に永遠の幸福をもたらした社会主義の光であった。

昌城で創造された模範、これを思うときわれわれは、人民にたいする金日成首相のかぎりない愛を感じ、首相の炎のように燃えさかる革命的情熱とまばゆいばかりの創造力のまえに深く頭がさがるのである。

さらに、首相がこのように困難な大業をほんのつかのまの休息の日々に、それも共和国北半部の全土をわきたたせた建設と革命を指導するあいまをぬっておこなったことを思うとき、われわれはいっそう深い感動をおぼえざるをえないのである。

6　社会主義農村問題の大綱

社会主義の高峰を征服し、社会主義の完全な勝利をめざす闘争過程は、革命と建設においてだれも歩んだことのない新しい道を切りひらいてゆく過程であった。この過程で提起される数多くの諸問題は、新しい探求と独創的な解決を待っていた。

金日成首相は、社会主義革命と建設の実践過程でつみかさねられた諸経験を分析し、一般化しながら、革命の前途をはっきりとしめすための探求活動をあらゆる面からひもといていった。そのうちの一つが社会主義農村問題であった。

もともと農村問題は、社会主義、共産主義建設の勝敗を左右するかなめの一つである。なぜなら、社会主義のもとでも農民は、人口の少なからぬ部分を占めている労働者階級のたのもしい同盟者であり、農業は人民経済の二大部門の一つであるからである。

共和国北半部における農村問題は、かつて朝鮮が帝国主義の従属下にあった事情から、反帝反封建的民主主義革命においてはもちろん、社会主義革命においてもとくに重要な位置を占めていた。そのために金日成首相は、つねに農村問題にたいし格別の注意をはらってきたのである。

首相は、すでに反帝反封建的民主主義革命の段階で、まず最初に土地問題を徹底的に解決し、社会主義革命の段階でも協同化の近道を切りひらき、世紀的にたちおくれていた農村をみじかい期間内に先進的な社会主義農村にかえた。この過程で農村問題解決における大きな前進がもたらされた。とくに農業協同化の完成は、農村問題解決での歴史的転換であった。

農業協同化が完成されてからの農業の生産力はたえまなく発展してきたし、農民の生活も、以前よりは見ちがえるほどよくなった。

しかし農民は、いまだに力のいる労働から解放されていなかったし、かれらの生活と思想と、文化も、労働者階級の水準にくらべてたちおくれていた。こうして社会主義、共産主義建設においても農村問題は、依然としてその解決が待たれる当面の重要な問題となっていたのである。

ところが社会主義が勝利したのちの農村問題については、いかなる文献にも明らかにされていなかったし、国際的経験からしてみても未解決の問題としてのこされていた。

一歩先んじて革命をおこなった一部の国ぐにでも、農村問題を正しく解決できず、左へかたむいたり右へかたむいたりして、農業生産において多くの欠陥をみせていた。これに乗じて帝国主義者とその召使どもは、農業では社会主義が資本主義に劣ると中傷し、誹謗をあびせた。社会主義農村問題はそれほど困難で複雑な問題であり、早急に解決をせまられていた重大な問題であった。

首相は、農村建設の実践課程で、また農村の現実を多方面的に調査し、対策をうちたてる具体的な指導の過程で、社会主義農村問題解決の方途を一つ一つ練っていった。

首相は、農業協同化が完成すると、ただちにこれまで準備してきた技術革命と文化革命を前面におしたてて、大規模な協同経済の優越性を発揚させる新しい農業指導の体系を創造した。また昌城にたいする体系的な指導のなかで、社会主義、共産主義建設における郡の役割を独創的に明らかにした。

首相は、なおも各地の農村の実情を具体的にしらべ、問題点の対策をたてながら研究に研究を重ねていった。

一九六二年十二月に碧城(ビョクソン)郡西院(ソウォン)協同農場をおとずれては、国家からおくられた多くの機械や農機具をこなせる人が農村にたりないということと、農村にはぼう大な革命を最後までやりとおす中核勢力が少ないことを知り、農村

出身の除隊軍人と青年たちを農村に定着させるという国家的な対策を講じた。

一九六三年八月には、両江道内の農村の事情を現地でしらべ、協同農場などに脱穀場、種子倉庫、肥料倉庫などを国家の資金で建て、農業にたいする国家投資をいっそうふやす対策をたてた。

また一九六三年十一月には、順安（スンアン）郡中石下里協同農場と大同郡徳村協同農場農民の生活状況を現地で具体的に分析し、急速に発展する工業と労働者の生活に農民の生活を追いつかせるための方法を探求した。

社会主義農村問題解決にはらわれた金日成首相の努力をあげればきりがない。要するに金日成首相は、共和国北半部の全農村の具体的な姿と、そこからでてくる多くの問題を総合し、農村にたいする精力的な指導過程とその経験とを科学的に分析し、一般化するなかで、ついに世人が偉大な文献としてひとしく称賛してやまない、『わが国における社会主義農村問題にかんするテーゼ』を完成したのであった。

このテーゼは、一九六四年二月にひらかれた朝鮮労働党中央委員会第四期第八回総会で、党の文献として採択された。

テーゼは、社会主義農村建設でしめされた金日成首相の実践的模範と、農村問題をあくまで解決しようという首相の確固とした立場を雄弁に物語っており、首相の卓越したマルクス・レーニン主義的創造性と洞察力をはっきりとしめている。

テーゼには、社会主義農村問題解決のための基本原則と方途など、社会主義建設において解決が待たれているぼう大な諸問題が全面的に明らかにされている。

金日成首相は、社会主義農村問題解決の大綱で、まず生産関係が改造されたあとの農村問題ではなにを解決しなければならないかを明らかにした。

金日成首相は、このことについてつぎのように書いている。

「社会主義のもとにおける農民問題と農業問題は、農村にうちたてられた社会主義制度をたえず強化し、それにもとづいて農業生産力を高度に発展させ、農民の生活をゆたかにし、搾取社会がのこした農村のたちおくれを一掃し、都市と農村との差異をしだいになくしていくことにある」

社会主義農村問題解決にかんする金日成首相の思想は、結局、畑仕事も工場労働のように現代的な科学と技術で解決して、より多くの生産物を安価につくりだし、農民にも労働者と同じように八時間労働制を実施し、思想的、文化的水準でも労働者階級と農民、都市と農村間の差異をなくそうということである。こうなれば、都市と農村の勤労者の生活のいずれもが、すべて文化的で、ゆたかになるのである。

首相は、社会主義農村問題をただたんに、生産力を発展させる技術、経済的問題としてだけでなく、農村生活のあらゆる領域から古い社会の遺物を一掃し、新しいものを創造し、革命の基本動力を強固に築く一大革命闘争としてとらえていた。

すなわち、労働者階級が自己の信頼できる同盟者である農民をたすけ、かれらとの団結をいっそう強めながら、かれらを共産主義社会へと導いてゆく、深刻な社会革命の問題とみなしたのであった。

これは、農業協同化以後も、農村でひきつづき革命をおこなわなければならないという思想であった。

社会主義農村でひきつづき革命をおこなうという金日成首相の思想は、これまでだれ一人として提起しえなかったものであり、マルクス・レーニン主義理論を創造的に発展させた完全に新しく、独創的な理論であった。

金日成首相は、テーゼのなかで、社会主義のもとにおいて農村問題を成功裏に解決するために必ず守らねばならない三つの基本原則を、つぎのように明らかにした。

「第一に、農村で技術革命と文化革命および思想革命を徹底的に遂行すること。

第二に、農民にたいする労働者階級の指導、農業にたいする工業の援助、農村にたいする都市の支援を極力強め

ること。
第三に、農業の指導と管理をたえず先進的な工業の企業管理の水準にひきあげ、全人民的所有と協同的所有のむすびつきを強め、協同的所有をたえず全人民的所有に接近させることである」
金日成首相は、社会主義のもとにおいても、都市にくらべて農村がたちおくれる原因は、技術、文化、思想的に農村がたちおくれているところにあると考えた。
ここから首相は、「技術革命、文化革命、思想革命——、これは社会主義的協同化が完成したのち、農村で遂行しなければならない革命の中心的な課題である」と規定した。
これは水利化、電化、機械化、化学化をおこなって農業労働を軽くしながらも、農業生産力を高度に発展させ、農民の技術、文化的水準を高めて、だれもが技師や技手の水準に達するようにし、農民を共産主義的革命思想で武装させ、その思想意識を改造することを目的とした課題であった。
首相は、この革命任務が遂行されさえすれば、都市と農村間の差異、労働者階級と農民間の階級的差異がなくなり、社会主義農村問題は解決されるということを明らかにした。
首相は、技術革命、文化革命、思想革命をどうおしすすめるかという問題と、この三大革命課題の相互関係についても明確な解答をあたえた。
金日成首相は、つぎのように指摘している。
「われわれは、あくまで思想革命を先行させながら、それと並行して、技術革命と文化革命を力強くおしすすめなければならない」
首相は、思想革命をあらゆる活動に先行させなければならないと強調しながらも、これとともに、技術革命と文化革命もまた、決しておろそかにしてはならないといましめた。

首相は、社会主義農村問題解決のためのいま一つの基本原則として、農民にたいする労働者階級の指導、農業にたいする工業の援助、農村にたいする都市の支援を強化する問題を明らかにした。

金日成首相は、労働者階級が自己の同盟者である農民をあらゆる面からたすけ、かれらを共産主義社会まで導いてゆくことは、労働者階級の崇高な任務であると考えた。

金日成首相はテーゼで、つぎのように指摘している。

「労働者階級の党と国家の指導、援助は、農村における社会主義制度の発生、強化、発展にとって欠くことのできない条件である。農民は、ただ労働者階級の指導と援助のもとでのみ社会主義への道をすすむことができ、さらには共産主義へと移行することができるのである」

首相は、労働者階級の党と国家は、労働者や事務員の生活にたいしてばかりでなく、農民の生活にたいしても責任を負わなければならないと強調しながら、もしも社会主義のもとで農村をさげすむような資本主義思想がのこっていて、農村を積極的に援助しないとすれば、都市と農村間の差異はますます大くなるばかりで、農業は少しも発展しなくなると教えた。

首相は、農業の協同化にも国家的支援を惜しまなかったが、社会主義農村問題を終局的に解決するためには、それ以上に国家的支援を強化しなければならないと教えた。

金日成首相は、つぎのように指摘した。

「労働者階級は、農民を政治的、思想的に指導するばかりでなく、物質的にも、技術的にも、文化的にも、財政的にも農民を援助しなければならない。社会主義国家は農民の負担を軽くし、収入を増加させるため、あらゆる面で努力し、労働者と農民の生活水準をひとしく向上させなければならない」

農業協同化の以後にも、社会主義農村問題の解決のために国家的支援をあらゆる面から強化しなければならない

という考えは、金日成首相によってはじめて明らかにされた独創的な思想である。
首相はテーゼのなかで、農民の生活向上のために農業現物税を廃止し、それまで協同農場がおこなっていた生活、文化施設の建設や住宅建設を国家がおこない、農民にも労働者や事務員と同じような社会、文化的施策を実施するなど、人類の歴史上前例のない措置を明示した。
金日成首相は、テーゼのなかで、社会主義農村問題の終局的な解決のためのいま一つの基本原則として、農業にたいする指導と管理問題の解決およびその方法を明らかにした。
首相は、都市と農村間の差異、労働者階級と農民間の階級的差異は、技術、文化、思想の分野だけでなく、管理と所有の面でもあらわれることを指摘して、つぎのようにのべている。
「……都市と農村間の差異、労働者階級と農民間の階級的差異をなくすためには、技術、文化、思想分野における農村のたちおくれを克服すると同時に、所有関係と経済管理の水準における農村のたちおくれをなくさなければならない」
金日成首相は、協同農場の管理水準を国営企業所の管理水準へとひきあげるには、国家の専門的な農業指導機関である郡協同農場経営委員会などが協同農場を行政的にではなく、生産技術的に指導しなければならないと教えた。いいかえると、国家機関が援助して、協同農場の管理水準を先進的な国営企業所の水準へひきあげなければならないというのであった。
これもまた、金日成首相によってはじめてしめされた新しい問題であった。
金日成首相は、所有問題を解決するには、工業が農業にひきつづき生産的援助をあたえ、協同的所有にたいする全人民的所有の指導的役割を高めなければならないと教えた。これは農業に直接服務する国家企業所である農機械作業所、灌漑管理所、採種農場、農事試験場、種畜場、獣医防疫所など、全人民的所有に属する現代的な物質、生

産的手段をさらに拡大強化し、それらが農業生産で圧倒的な比重を占めるようにしながら、協同的所有をしだいに全人民的所有の水準へとひきあげてゆく方針である。

このように所有問題の解決においても、金日成首相は、マルクス・レーニン主義理論を新しく発展させたのである。

金日成首相はまた、社会主義、共産主義建設における地域的拠点にたいする問題を独創的に明らかにした。

首相は、農村の村落と農民の作業場が全国各地にひろく分散していて、農民が小さな集団に分散して働いている点、そしてこうした特性は、社会がより発展しても、都市とは依然区別されるという特性としてのこるという点などを慎重に考慮した。したがって、このような農村を合理的に、また集中的に指導するためには、どうしても地域的拠点が必要であるとみたのであった。

首相はつぎのように書いている。

「農村のように地域的に分散したところを指導するうえで重要なことは、地方ごとに一定の地域を統一的な指導の単位とし、それを拠点にして、その地域内のすべての対象を直接指導することである」

金日成首相は、昌城の経験を具体化し、社会主義、共産主義の建設においてこうした地域的拠点の役割を遂行するに適した単位は郡であ

농촌문제해결을 위한 김일성수상의
정확한 방침은 우리의 교과서로 된다

김일성동지의 력사적인 로작《우리 나라 사회
주의농촌문제에 관한 테제》의 위대한 사상은

오늘 전세계 혁명가들을 무한히 고무하고있으며 농촌문제에
관한 맑스—레닌주의리론의 보물고를 풍부히 하고있다

『わが国における社会主義農村問題にかんするテーゼ』の国際的な反響を報ずる新聞

ると教えた。

金日成首相がはじめて明らかにした社会主義、共産主義建設における地域的拠点にかんする理論は、社会主義、共産主義建設の大業を促進するうえで大きな意義をもっている。

じつにテーゼは、社会主義農村問題にかんする百科全書であるといえる。そればかりではなく、このテーゼは、社会主義、共産主義建設全般において新しく提起された数多くの未開拓分野を科学的に解明したマルクス・レーニン主義の古典的文献であり、国内外で、現在中心的に提起されている農村問題を正しく解明した社会主義、共産主義建設の強力な理論、実践的武器である。

革命と建設の複雑な事業を包括的に指導する多忙ななかで、いままで世界各国で未開拓の分野としてのこっていた社会主義農村問題の終局的解決の方法を全面的に明らかにし、社会主義、共産主義建設の大路を切りひらいた金日成首相は、まさに卓越したマルクス、レーニン主義理論家であり、偉大な政治活動家である。

共和国北半部でめざましく発展している農業、これは社会主義農業と、テーゼがさししめた路線の威力にたいする確証に他ならない。

金日成首相は、テーゼを発表したのち、すぐに実践的な対策を提示した。

農村では新しい変革がおこり、思想革命と文化革命が強力におしすすめられた。党の政策教育と革命伝統教育および階級教育を基本とする共産主義教育が強力にくりひろげられた。

金日成首相の発起によって、農業勤労者同盟が新しく組織されて活動するようになり、農民のあいだで千里馬作業班運動がいっそう大きくくりひろげられ、共産主義的に働き、生きようとする革命的な気風が確固とうちたてられた。

農民の一般的知識水準と技術、文化水準も急速に高まった。農村にはすでに党が育成した十万四千余名の技師や技手が働いている。

確固とした自立的重工業の強力な支援をうけ、農村の技術革命が活発にくりひろげられ、農業の物質、技術的基礎もいっそう強固になった。

金日成首相は一九六六年十一月、黄海南道を現地指導しながら、畑仕事を科学技術的におこなうことと、とくに農作物が被害をこうむらないように溜り水をぬきとる工事を、せん滅戦の方法でおしすすめる戦闘的な課題をさししめした。

溜り水をぬきとる工事は、農業を自然災害から完全に解放するための大自然改造事業の一部分として、収穫を安全に、また多くあげるための重要な対策の一つであった。すべての農耕地には灌漑水路がクモの巣のようにおおいつくされているため、干害は克服されたが、梅雨どきには洪水による被害が憂慮された。溜り水をぬきとる工事は、まさにこの問題を解決しようというものであった。

首相の呼びかけにこたえてふるいたった農民の愛国的な熱意と、強力な自立的工業の積極的な支援によって、一九六七年の上半期だけでも総数三千百九十個の対象にたいし、一秒当り五百十五トンの溜り水をぬきとることのできる揚水設備がととのった。これは戦後十四年間にととのえた総揚水能力の四分の一にあたるぼう大な工事であを

た。

水利化とともに機械化が成功裏におしすすめられ、トラクターや自動車など、各種の農機械がいちじるしくふえた。それればかりではなく、協同農場には、その農機械を農業生産に効果的に利用できるような新しい運営体系がうちたてられた。

電化と化学化においても、大きな成果がおさめられた。

ほとんどすべての農家に電気がはいり、農村の固定作業では、電力をより多く利用するようになった。

化学化における成果もいちじるしく、この五年間だけでも農耕地一町歩当りの化学肥料の施肥量は一・八倍、農薬供給量は一・七倍にふえた。

農民を骨のおれる労働から解放するという金日成首相の偉大な構想は、輝かしく実現しつつある。

一方、金日成首相は、農民のあいだで政治活動を強化し、農業にたいする指導を改善するため、指導員を系統的に派遣し、重要な営農期には全国家的および全人民的な労力支援活動を組織する措置を講じた。

とともに、テーゼで明らかにされたとおり、一九六六年までに農業現物税制を廃止するという歴史的な課題が実現された。その結果、全農場員にあたえられる穀物は、毎年一戸当り平均三百五十キロ以上増加した。

階級が生じ、国家が発生して以来の数千年間、農民を苦しめ、飢えにあえがせた税金――その税金ということばがむかしの語り草となった世の中が、まさに金日成首相が指導する労働党時代にいたってはじめて、夢ではなく、現実となったのである。

農業の発展と農民の生活向上のためにとられた国家的措置は、これだけではない。テーゼが発表された以後だけでも、国家はばく大な国家資金を支出して、十三万六千世帯の文化住宅をはじめとするぼう大な農村基本建設をおしすすめた。

農業にたいする指導と管理も、より整然ととのえられた。青山里精神、青山里方法が徹底的につらぬかれ、新しい農業指導体系の優越性がますますはっきりとしめされ、とくに分組管理制が全般的にとりいれられた。

金日成首相の直接の発起によって新しくとりいれられた分組管理制は、農村で思想、技術、文化革命をひきつづき徹底的に遂行し、協同農場管理運営水準を高めるうえで、その優越性をいかんなく発揮した。

金日成首相は、一九六八年二月にひらかれた全国農業活動家大会で、大きな生活力をしめしている分組管理制の優越性を一般化し、それを正しく運営して、農業生産で新しい高揚をひきおこす課題を具体的に明らかにした。

分組管理制は、分散的な農業生産の特性と、管理活動家の管理運営の水準および農民の思想意識水準にかなった生産組織単位を必要とする現実的な要求を、もっとも合理的に解決した生きた模範である。

金日成首相は、作業班が協同農場の基本生産単位ではあるが、その規模が大きすぎて、班員の労力組織と労力管理がうまくできないことを考慮し、分組をもっとも合理的な生産組織単位とした。軍隊においても中隊、小隊の下に分隊があるように、作業班の下に組織される分組が、まさにその生産組織単位にあたると教えた。

分組管理制は、分組に一定の面積の田畑と労力および役畜、その他の生産道具を固着させ、国家の計画にもとづいてそれぞれの分組の町歩当り収穫高の基準をきめたあと、その基準を遂行する程度に応じて分組員の労働日数を評価する管理運営の形態である。

これは、統制もむずかしく、労働の成果も秋の刈りいれ後にきまるという農業労働の特性にあうよう、農場員の自覚と創意、熱意と集団主義精神を高度に発揮させる生産組織の基礎単位なのである。

これによって、大規模な協同経営の優越性についていけなかった協同農場の管理運営形態の問題が、みごとに解決されたのであった。すなわち、農業にたいする指導と管理体系が、下部の基礎単位から中央にいたるまで、精密な歯車のように完全にととのったのである。

テーゼによってしめされた思想の正しさと偉大さ、その貫徹のための金日成首相の正確な指導によって、北半部における農業生産は、凶作を知らずにたえず成長していった。

黄金波うつ田野と高くつみかさねられた稲むらを見あげる農場員は、だれもが金日成首相の大きな配慮を身にひしひしと感じた。

黄州郡新上協同農場のある農場員は、こう語っている。

「人は、よくわしらに、たいへんだったろうというのだが、ほんとうは、国でなにもかもしてくれたです。首相さまのテーゼがでてからちゅうものは、うちの農場にも肥料やトラクターがうんとこさやってきて、脱穀場や、それに揚水場が二、三個ずつつくられたし、去年は現物税までなくなったですだ。だから、わしども農民はじっとしていられねえです」

圧迫も搾取もない農村、国家の強力な援助をうけ、年ごとに豊作でにぎわう農村、工業と同じように機械と化学の力で動く農村、農民が思想、意識的に変貌する農村、年ごとにいっそうゆたかになり繁栄する農村、これがテーゼのしめす道にしたがって発展する共和国の社会主義農村なのである。

『わが国における社会主義農村問題にかんするテーゼ』は、金日成首相がそれまで研究をかさねてきた、社会主義のもとにおける農村の問題解決のあらゆる方途を集大成した文献であり、社会主義、共産主義建設の普遍的な真理を具体的に解明した独創的な文献である。いいかえれば、社会主義農村問題の終局的解決のための方法を全面的に解明したマルクス・レーニン主義的文献なのである。

だからこそ、このテーゼを読んだ外国の革命的人民と進歩的な人士は、こぞって、この文献を社会主義、共産主義社会建設の根本的問題を科学的に解決した貴重なマルクス・レーニン主義の文献として、社会主義農村問題解決のためのもっとも正しい教科書として、つきることのない創造性がふくまれた革命的文献として高く評価してい

るのである。

ベトナムの一友人は、北半部の農村を見てまわり、「金日成首相が提示されたわが国における社会主義農村問題にかんするテーゼがどんなに正当であり、正確であり、つきることのない創造性をもっているかをいっそうよく理解することができた」と語った。三大陸人民連帯機構からきた一代表は、「農村問題解決のための金日成首相の方針が、いかに正しいかということがはっきりとわかった」といいながら、それは「われわれの教科書となる。真の社会主義は、朝鮮のように建設されなければならない」と強調した。

パキスタンの新聞『イブニング・スター』紙は、その論説で、「このテーゼは、社会主義のもとで農民問題と農業問題を終局的に解決するための偉大なマルクス・レーニン主義的農村建設の綱領であり、社会主義農村の輝かしい未来を照らす里程標であり、社会主義、共産主義建設のための威力ある武器」であると、テーゼのもつ巨大な理論的実践的意義を明らかにした。

ハバナ駐在ギアナ人民進歩党代表は、「世界革命の卓越した指導者である金日成同志のこのテーゼこそ、まさに国際共産主義運動と世界革命闘争に大きく貢献した貴重な文献である。……われわれは、灯台のように前途をこのようにはっきりと照らしてくれた農村問題解決のための理論をほかに知らない」と強調した。

外国の友人が、テーゼにしめされた思想の偉大さとその巨大な生命力にたいしてよろこびを禁じえないのは、こんにちの朝鮮の農村から、明日の自国の農村の姿を描いているからである。

ザンジバルの一社会活動家は、「このように美しく、文化的で協同化された農村をもっている朝鮮は、ザンジバルの模範である」といい、共和国北半部をおとずれたタンザニアのある人は、朝鮮で目にしたすべてのものは、「新しい生活を建設しているすべての新興独立国家が必ず学び、見習わねばならない模範」であると指摘した。

パキスタンの一新聞は、論説で、「朝鮮でおさめられているあらゆる成果は、われわれの時代の卓越したマルク

ス・レーニン主義者である金日成首相の賢明な指導の輝かしい結実である。金日成首相のテーゼは、朝鮮のようにたちおくれた植民地半封建国家であった国における農村問題の正しい解決をしめす偉大な綱領であり、国際的意義をもつ古典的文献である」と強調した。

日がたつにつれ、この文献はいっそう広はんな世界的反響をまきおこしている。やがて人類が、このテーゼの道にしたがって前進するであろうことはうたがう余地がない。

第四章　革命基地を不敗の要塞に

1　歴史的な党代表者会議、偉大な路線

朝鮮革命をとりまく国際的な情勢は、非常に複雑であった。アメリカ帝国主義を頭目とする帝国主義者たちは、侵略と戦争政策を悪らつにおしすすめながら、情勢を極度に緊張させていた。

アメリカ帝国主義は、世界のいたるところで戦争の火種をまきちらし、多くの国の人民を野蛮きわまりない方法で弾圧していた。かれらはおもに、自由と独立をめざす人民の闘争がもっとも激しくくりひろげられているアジアに侵略のホコ先をむけていた。

それはベトナムにおける侵略戦争の拡大によって、もっとも露骨に、もっとも集中的にあらわれた。

一方、社会主義陣営と国際共産主義運動は、現代修正主義と左翼日和見主義によってきびしい試練をへていたし、統一団結が保たれていなかった。

このことは、帝国主義に反対する世界革命勢力の統一的な闘争のさまたげとなり、朝鮮の革命と建設に少なからぬ影響をおよぼしていた。

そして国際共産主義運動と朝鮮革命のまえには、多くの理論的、実践的な問題がたちはだかり、そのすみやかな

解決が待ちのぞまれていた。

金日成首相は、このような複雑な政治情勢を正しく分析して、世界革命と国際共産主義運動の前途を切りひらき、情勢にそって朝鮮革命を導いてゆく構想を練るために心血をそそいでいた。

首相は、革命運動の発展過程においてある程度の曲折はありうるが、全般的な情勢は依然として革命に有利に発展しているとみなした。

首相は、全世界的な範囲で社会主義と帝国主義、革命勢力と反革命勢力とのあいだに激烈にくりひろげられている闘争、そのなかで成長している民主主義と社会主義勢力、とくにアジアをはじめアフリカ、ラテンアメリカ大陸で力強くおこっている自由と独立のための反帝反米闘争を重視した。

朝鮮戦争における惨敗を境に、滅亡の一路をたどっているアメリカ帝国主義は、ベトナムやラオスで愛国的な人民の集中砲火をあび、徹底的にうちのめされていた。

帝国主義者には、もはや「静かな裏庭」などは存在しなかった。かれらが凶器をひそめて襲いかかるところでは、きまって排撃の怒濤がまきおこり、銃口がするどく、かれらの胸ぐらにつきつけられた。植民地をがんじがらめにしていた鎖は、かえってかれらをうち返すムチとなった。

世界の革命勢力の成長と植民地体系の崩壊とによって、帝国主義勢力はいちじるしく弱まり、帝国主義列強間の内部矛盾はますます深まっていった。

結局、アメリカ帝国主義を頭目とする帝国主義勢力は、侵略戦争にしがみつけばつくほど、世界の広はんな人民の強力な闘争に出会い、いっそうぬきさしならぬ窮地におちいるばかりであった。

こうしたことから金日成首相は、帝国主義、とくにアメリカ帝国主義者の侵略と戦争策動はかれらの滅亡を早めるだけであり、したがって、朝鮮革命の全国的勝利を達成できる大事変が近づいていることを見とおした。そして

首相は、侵略と戦争の挑発に狂奔するアメリカ帝国主義を頭目とする帝国主義者を破滅へと追いやり、世界革命を促進させる戦略戦術の問題、国際共産主義運動の内部にあらわれた左右の日和見主義を克服し、統一と団結を強化する原則とその方途の問題、情勢の推移にかなった党の対内外活動方針、党員と勤労者を思想的にしっかりと武装させ、革命と建設をおしすすめる具体的な課題などを提起した。

首相はこれらを、祖国統一の偉業を早め、目前の革命的大事変にそなえるためのたたかいの一環とみなした。それは、卓越したマルクス・レーニン主義理論家であり、天才的な戦略家であり、ながい革命闘争で豊富な経験をつんできた金日成首相によってはじめて可能な、積極的で革命的な構想であった。

首相は、この構想を全人民に明らかにするため、朝鮮労働党代表者会議をひらいた。

歴史的な党代表者会議は、一九六六年十月五日からピョンヤン大劇場でひらかれた。

会議場は、各道（直轄市を含む）党委員会総会や朝鮮人民軍党委員会総会で選出された代表者と、傍聴者として参加した党および政権機関の幹部、勤労者団体の責任者、経済および科学、文化部門の活動家たちでうずまった。会議にはまた、アメリカ帝国主義とその手先に反対して勇敢にたたかっている南朝鮮革命組織の代表と、六十万在日同胞の代表である在日本朝鮮人祝賀団のメンバーも参加した。

午前九時、参加者たちの万歳と歓呼の声で場内がゆらぐなかで、金日成首相が主席壇にのぼった。

首相は、朝鮮の共産主義者と革命的人民、真に革命を遂行しようとする世界のすべての前衛的な闘士と共産主義者にさししめすぼう大な戦闘的綱領をたずさえ、革命の時代のまえにすえられた、そして朝鮮革命と世界革命のあらゆる問題のまえにすえられた歴史的な演壇にたったのである。

万歳と歓呼はなりやむことを知らなかった。

やがて場内が静まると、首相は、『現情勢とわが党の任務』と題する歴史的な報告をおこなった。

首相の報告は、

一、国際情勢と国際共産主義運動で提起されているいくつかの問題について、二、社会主義建設を促進させ、われわれの革命基地を強化することについて、三、南朝鮮の情勢と南朝鮮人民の闘争について、などで構成されていた。

首相は報告のはじめの部分で、現代にたいする正確なマルクス・レーニン主義的分析と評価をくだし、反帝反米闘争と現在の国際共産主義運動の基本問題などについて、全面的で深奥な分析と科学的な解明をあたえた。

その中心となる問題は、帝国主義、とくにアメリカ帝国主義の侵略的、略奪的本性にかんする問題、反帝反米闘争の強化とその戦略にかんする問題、ベトナム人民の闘争を支援し、キューバ革命を守る問題、新興独立国家の闘争課題と三大陸人民の闘争を支援する問題、左右の日和見主義を克服し、マルクス・レーニン主義の純潔を守り、社会主義陣営の統一と国際共産主義運動の団結をなしとげるための基本原則と方法にかんする問題、兄弟党の相互関係で守らねばならない規範と、共産党および労働者党の活動で自主性を堅持する問題などである。

首相はこれらの問題で、マルクス・レーニン主義の原則にたいする忠実性と革命的な原則性、徹底した反帝反米的立場とその戦略の天才性、終始一貫堅持している確固とした主体性と自主的な立場をふたたび明らかにした。

(報告で明らかにされた世界革命の戦略戦術的問題については、他の章で具体的にふれることにする)

金日成首相は報告のつぎの部分で、祖国統一と革命の全国的勝利のためには、朝鮮革命の威力ある基地——共和国北半部において革命と建設を促進し、革命基地を政治、経済、軍事的にいっそう強化しなければならないと強調し、アメリカ帝国主義の侵略策動に対処して経済建設と国防建設を並進させてゆく路線と、全社会、全勤労者の労働者階級化、革命化の方針およびその具体的な課題を明らかにした。

この部分で首相は、主権を手にした労働者階級に提起される革命と建設の課題、戦争と平和にたいする立場と態度、現在の社会主義、共産主義建設の可能性についての態度、社会主義のもとにおける人民大衆の政治的、思想的

統一とプロレタリア独裁の使命と任務にたいする問題などについて、独創的で深奥なマルクス・レーニン主義的解答をあたえた。

こうして首相は、マルクス・レーニン主義の革命的原則をゆがめる左右の日和見主義者に深刻な打撃をあたえ、朝鮮人民と世界の共産主義者に社会主義、共産主義建設の威力ある武器をにぎらせたのであった。

とくに首相は、経済建設と国防建設を並進させてゆく革命的路線を新たにうちだすことによって、アメリカ帝国主義者の侵略策動からかもしだされた情勢のもとで革命と建設をひきつづき力強く促進し、いかなる環境のなかでも革命の民族的任務と国際的任務を同時におしすすめることのできる道を新たにしめしたのである。

この路線は、キューバ共和国に反対するアメリカ帝国主義者によってカリブ海に危機がつくりだされ、ベトナム民主共和国に反対するバクボ（トンキン）湾事件がひきおこされることによって、世界とアジアで緊張状態がいっそう激化していた一九六二年に、すでに首相によって提起され、党が実践してきた基本的な戦略方針であった。

この路線の基本は、国防建設の占める比重を経済建設のそれにおとらぬ程度に高めて、両方にひとしく力をそそぎ、国防力をいっそう強化して祖国防衛の完璧を期するとともに、経済建設においてもひきつづき革命的高揚を持続させることにあった。

金日成首相は、革命において経済建設と国防建設の正しい結合がもつ意義とその重要性について強調しながら、つぎのようにのべている。

「経済建設と国防建設をどのように結合させるかということは、社会主義と共産主義建設の運命を左右する基本問題の一つであります」

首相は、戦争がおこればすべてが破壊されるからといって国防建設のみに力をいれ、経済建設を怠ったり、逆に、平和的な気分にひたって経済建設だけにかたより、国防力を十分にたくわえないのは、すべて誤りであるとし

て、こうのべている。

「もちろん、帝国主義がのこっているかぎり戦争の危険は消えないし、戦争がおこれば多くのものが破壊されるでしょう。だからといって、戦争とそれによる破壊とをおそれて、必要な経済建設をおこなわないとすれば、国の威力を強めることもできず、どだい帝国主義が滅亡しないことには、社会主義も共産主義も建設できないことになります。帝国主義者がつくりだす戦争の危険と、かれらが挑発する侵略戦争は、われわれの経済建設をおくらせたり、一時中断させることはできても、決して社会主義と共産主義へ向かうわれわれの前進をさえぎることはできないのです。

一方、人民は、帝国主義者の侵略と戦争政策に反対する強力な闘争をくりひろげて、戦争を防止し、平和を維持し、強固にすることもできます。だからといって戦争がおこらないとばかり考え、国防力の強化を怠れば、かえって戦争の危険を増大させることになり、社会主義や共産主義の建設どころか、帝国主義の侵略から革命の獲得物も守れず、祖国と人民を守ることもできなくなります。戦争防止の可能性はあくまでも可能性であって、帝国主義がのこっているかぎり、平和の絶対的保障というものは決してありえないのであり、任意の時刻に戦争はおこりうるのです」

このように首相は、戦争の危険と戦争による破壊が、社会主義、共産主義の建設におよぼす影響を過大評価も過少評価もしない革命的な立場から、この問題を解いたのである。

経済建設と国防建設についての首相の深奥な弁証法は、つぎのようなものであった。

「……戦争のおこる危険性がましたとしても、国防力をさらに強めながら、経済建設をひきつづきおしすすめて国を富強にし、人民の生活を向上させ、社会主義、共産主義への前進を促進させるようにしなければなりません」、「……また戦争がいますぐおこらないとしても、経済建設を積極的におしすすめながら国防力をひきつづき強化し、

帝国主義の侵略から革命の獲得物を守り、祖国と人民を守れるように、つねに、そなえていなければなりません」

この命題には、偉大な共産主義者である首相の不屈の革命思想と、戦争と平和にかんする深奥なマルクス・レーニン主義哲学の真髄がこめられている。

じつに首相の命題には、たとえ戦争がおこってひどい破壊をうけても、党があり、政権があり、人民があり、領土がある以上は、また新しい生活を建設することができるのだという革命の勝利にたいする確固不動の信念と、革命的楽観主義がみちあふれている。

ここにはまた、防衛力を鉄壁のごとくかためてこそ、敵はみだりに攻めようともしなくなり、たとえかれらが無分別に冒険をおかしてきても、一撃のもとにこれをせん滅できるのだという、首相の自衛路線と強固な信念がなみうっているのである。

経済建設と国防建設の並進路線は、首相の偉大な主体思想の輝かしい具現であった。

首相がしめした経済建設と国防建設の並進方針は、プロレタリア独裁の問題、帝国主義と戦争の問題、社会主義、共産主義建設の方途などにかんするマルクス・レーニン主義理論を、新しい歴史的な現実にあうように創造的に発展させたものであり、帝国主義がのこっている条件のもとで、革命に勝利した労働者階級が社会主義と共産主義をどのように建設し、帝国主義と戦争にたいしては、どういう態度をとらなければならないかという原則的な問題について、全面的で、しかも科学的な解答をあたえたものであった。

金日成首相によって創造されたこの路線は、朝鮮革命と世界革命を勝利へ導く重要なカギであった。

首相はこの路線から、アメリカ帝国主義のいかなる不意の侵攻をも主動的に撃破し、革命の獲得物と祖国と人民を確固と守ることができ、社会主義建設の安全も保障できる道をさがしもとめた。そして、祖国統一の革命的大事変を主動的にむかえ、革命の終局的な勝利が達成できる道もまた、この路線からさがしもとめたのである。

首相は、経済力とともに国防力を最大限に強化してこそ、世界反帝戦線でになっている国際主義的な重大な任務もりっぱに遂行でき、帝国主義侵略者に反対してたたかっている兄弟的人民をいっそう効果的にたすけることができると考えた。

この路線はじつに、労働者階級の民族的義務ばかりでなく、国際的義務をも成功裏に実現する唯一の方針なのであった。

これはまた、平和を保障する賢明な方針でもあった。それは、経済建設と国防建設の並進が戦争をふせぐ力を確固とたくわえ、帝国主義があえて戦争をひきおこしても、それをうちくだく万端の準備をととのえるもっとも強力な方途となるからである。

祖国の統一と朝鮮革命の勝利を保障する北半部の革命基地を、文字どおり、鉄壁のようにかためるという首相の雄大な構想は参加者の心を完全にとらえた。

金日成首相は報告のなかで、革命の基地である北半部が不敗の力となっている条件のもとで、朝鮮革命の全国的勝利は南朝鮮の革命勢力をいかに準備するかに大きくかかっていると指摘しながら、このことに少なからぬ注意をかたむけた。

金日成首相は報告のこの部分で、南朝鮮にかもしだされている情勢を科学的に分析し、南朝鮮人民の民族解放民主主義革命の課題と当面の闘争課題をふたたび明らかにし、革命的な大事変を主動的にむかえるため、強力な革命的力量を準備することについての基本方針と、その具体的な課題をも明確にしめした。

首相が明らかにした南朝鮮革命の戦略戦術的方針は、会議に参加した者だけでなく、四千万朝鮮人民すべての心をわきたたせた。

とくにそれは、地下で、山中で、監獄で、南朝鮮革命の勝利のためにたたかっている南朝鮮の革命家たちを興奮

させ、その勇気をふるいたたせた。(報告で明らかにされた南朝鮮革命にかんする首相の戦略戦術的方針は、他の章で具体的にのべることにする)

首相の声は、共産主義者の闘志と使命感、情熱と大胆さ、こうしたすべてが独創的な英知ととけあってひびく声であった。それはまた、闘争と前進の号令であり、すべての反帝戦線の参謀部にあたえた勝利の戦略であった。

首相が報告を終えると、場内からは嵐のような拍手と歓呼の声がまきおこった。

かれらの顔には、複雑多難な現在の国際情勢と朝鮮革命のあらゆる問題を、これほど深奥に、全面的に、火を見るようにはっきりと解明し、世界の革命的人民と朝鮮人民のすすむべき勝利への大路を切りひらいた偉大な領袖をいただくかぎりない誇りと、首相にたいする熱烈な忠誠心がみなぎっていた。

会議は十月十二日までつづいた。会議では、報告にもとづいて熱烈な討論がくりひろげられた。討論者たちはすべて、金日成首相の報告を高い誇りと自負心をもって全面的に支持し、報告のもつ朝鮮革命と国際共産主義運動における理論、実践的意義について強調した。

討論者たちは、金日成首相の報告を朝鮮労働党が対内外活動において終始一貫堅持している正しい立場と、革命にたいするかぎりない忠誠を証明したマルクス・レーニン主義的文献であると高く評価しながら、党と敬愛する指導者金日成首相のまわりにかたく団結し、主体を確立し、自力更生の革命精神をいっそう発揮して、報告にしめされた綱領的な課題を最後までつらぬくかたい決意を表明した。

かれらはまた、革命と建設にかんするマルクス・レーニン主義理論の創造的具現である経済建設と国防建設の並進路線を力強くおしすすめ、敵のいかなる侵攻も徹底的に粉砕することができるように、国の経済力と防衛力を鉄壁のようにかためることを誓った。

会議では、熱烈な拍手のうちに在日本朝鮮人祝賀団々長の演説と、南朝鮮革命組織代表の演説がおこなわれた。

アメリカ帝国主義とその手先の暴圧のもとで屈することなくたたかいながら、瞬時たりとも忘れることのできなかった金日成首相――、いまその偉大な領袖のまえで演説をおこなうかれらの目には感激の涙があふれていた。
南朝鮮革命組織の代表たちは、朝鮮人民をつねに勝利へと導く敬愛する指導者金日成首相と党中央委員会に、南朝鮮の革命家たちの名において熱烈な挨拶をつたえた。
かれらは、南朝鮮の革命家と愛国的人民が北半部人民のたたかいにはげまされながら、あらゆる逆境にもめげず屈することなくたたかっていることをつたえ、報告にしめされた方針をつらぬく確固とした決意を表明した。
場内は興奮のるつぼと化した。かれらが、アメリカ帝国主義と朴正煕かいらい一味のファッショ支配のもとで呻吟している南朝鮮人民の惨状についてのべると、参加者たちは、みな涙をおさえることができなかった。
巨大な監獄と化した南朝鮮――、南朝鮮人民にしいられたおそろしい苦役と失業、飢えとさげすみ、またアメリカ帝国主義に踏みにじられている女性と、なんの夢も希望もなく学校へもゆけずにごみ箱をあさっている子どもたちの悲劇について、南朝鮮の革命代表が声をふるわせて憤激を吐露したとき、場内は悲憤と激情の一色につつまれた。だれもが声をかみころし、歯をくいしばって泣いた。金日成首相も、いくどもハンカチを目にあてていた。
なぜ涙を流すのだろうか?
それは南朝鮮人民の苦痛が、革命的で、もっとも人間的で、もっとも国と同胞を愛する朝鮮の共産主義者の苦痛にほかならなかったからである。
南朝鮮革命組織の代表は、革命のためにすべてをなげうつ覚悟でいる南朝鮮の革命家と人民は、南北朝鮮人民が一堂に相まみえるその日のために、朝鮮人民の不倶戴天の敵アメリカ帝国主義者を追いだし、祖国の統一を達成するその日のために、最後までたたかうであろうとのべた。
金日成首相はたちあがると、南朝鮮革命組織代表の手をながいあいだにぎりしめた。

参加者たちは、熱烈な歓呼をおくった。

じつに党代表者会議は、マルクス・レーニン主義の革命的な旗じるし、反帝反米闘争の旗じるしを高くかかげ、朝鮮革命の大業と世界革命の勝利をめざして屈することなくたたかいをくりひろげている金日成首相の自主的で、革命的な確固とした立場と不屈の意志にみちあふれていた。

会議は、金日成首相のまわりにかたく結集した全党の鋼鉄のごとき統一、領袖と党と人民の偉大な団結をふたたび示威した。

代表者会議は、朝鮮労働党と朝鮮人民の革命史上、画期的な意義をもつ歴史的な出来事であった。

朝鮮人民は、卓越した指導者金日成首相の偉大な革命思想と自主路線を高くかかげ、革命的大事変をむかえるための荘厳なたたかいにたちあがった。

党代表者会議でおこなった金日成首相の報告は、朝鮮人民に朝鮮革命の前途を明らかにした綱領的文献として、朝鮮革命の勝利を確約する威力ある思想、理論、実践的武器であった。

またそれは、国際共産主義運動の発展の途上に提起される一連の理論、実践的問題にたいする正しい解答をあたえたことによって、マルクス・レーニン主義の純潔を守り、それを豊富にし、国際共産主義運動と全般的な世界革命運動を発展させうるうえで大きく寄与した。

したがって金日成首相の偉大な文献は、朝鮮人民のなかではもちろん、世界のいたるところで嵐のような反響をよびおこした。世界の通信と放送、新聞と雑誌は先をあらそって金日成首相の報告を紹介した。

世界各国の数多くの共産主義者と革命的人民と友人たちは、首相の報告をもっとも貴重な文献として熱烈に歓迎した。

社会主義国家、兄弟党、アジア、アフリカ、ラテンアメリカの新興独立国家と、そしてこれらの地域の革命組織

と機構は、金日成首相の報告をひろく紹介し宣伝したし、多くの国で報告の全文が翻訳出版された。

広はんな人びとは、金日成首相の報告を「社会主義陣営形成後の活動を全面的に総括した歴史的文献」であり、「現代の国際共産主義運動の指導的指針となる偉大な文献」であると高く評価し、また、アジア、アフリカ、ラテンアメリカの新興独立国家と民族解放運動の組織では、その「前途を照らす貴重な文献」として高く称賛した。

朝鮮を訪問したキューバ共和国の副首相兼革命武力相は、「朝鮮労働党代表者会議は、われわれにつねにマルクス・レーニン主義の原則を堅持し、帝国主義を打倒するため、朝鮮の兄弟と世界のあらゆる人民が肩をならべて、長期かつ困難な闘争をおしすすめる情熱を大きくよびおこしてくれた」と語った。

また、日本の民主団体のある指導者はつぎのように語った。

「党代表者会議でおこなった金日成同志の報告は、十余年の国際労働運動においてもっとも貴重な文献である。日本では広はんな人びとが読んでおり、大きな反響をまきおこしている」

オランダ共産党中央委員会委員長は、自党の機関紙に金日成首相の報告の内容とその正しさを解説した文章を発表し、つ

朝鮮労働党代表者会議でおこなった金日成首相の報告の国際的反響を伝える新聞

ぎのように書いた。

「朝鮮労働党は慎重で戦闘的な党であり、よい意味で大きい党である。……北朝鮮は地球上の反対側にあるが、朝鮮労働党は重要な党であり、その声には重みがある」

アフリカの新興独立国家のある指導者は、「現情勢にたいする金日成首相の客観的な分析は、われわれに左右の日和見主義をはっきり見分けられるようにしてくれた。……国際情勢の分析と国際共産主義運動において提起される一連の問題にたいする朝鮮の党の立場を高く評価する」とのべながら、朝鮮民主主義人民共和国は社会主義諸国のなかでも、もっとも模範的な国であると語った。

カンボジア王国政府の外相は、「朝鮮労働党代表者会議で、経済建設と国防建設を並進させることを、さししめした金日成首相の報告は、アメリカ帝国主義にたいするもっとも適切な回答である。四千万朝鮮人民の敬愛する指導者金日成首相の賢明な指導をうけている英雄的な朝鮮人民は、必ずやアメリカ帝国主義を追いだし、祖国統一の大業をなしとげずにはおかないであろう」とのべた。

じつに金日成首相の歴史的な報告は、朝鮮革命と世界革命の闘争方針を教える偉大な教科書であり、前進と闘争の文献、勝利の文献なのである。

2　ふたたび革命的大高揚の炎を

金日成首相は、党代表者会議でしめした並進路線の貫徹へと人民大衆をふるいたたせながら、社会主義建設のすべての戦線に視線をくばり、新しい活動をくりひろげていった。

首相の執務室では、国の経済発展の展望と当面の経済建設の課題について、具体的な協議がつづけられた。

金日成首相は、国家計画委員会の幹部、各相、工場や企業所の支配人、国防部門の責任幹部たちと親しく席をともにして、何日間も計画を検討し、解決方法をしめした。

それればかりでなく、首相は直接かれらをつれて現地へゆき、困難な問題がなんであるかをよく見きわめたうえ、その解決方法を一つ一つ教えた。

首相は全般的な社会主義経済建設をきわめて短期間内に改編し、多くの人的、物的資源を国防建設にふりあてながら経済建設を力強くおしすすめていった。

首相は、ぼう大な規模の国防建設と社会主義経済建設を強力におしすすめるには、社会主義経済をたえず高いテンポで発展させなければならず、十年前に千里馬の大高揚の炎を燃えさからせたように、ふたたび革命的大高揚の炎を高くかかげなければならないと考えた。

経済建設と国防建設を並進させる独創的な路線の革命的本質も、まさにここにあったのである。

並進路線のぼう大な課題を貫徹するために、革命的大高揚をまきおこすうえでの困難な問題は一、二にとどまらなかったが、首相はなによりもまず、一部の人たちのなかにあらわれていた消極性と保守主義をなくさなければならないと考えた。

首相は、これまで新しい路線を実践してきたときのように、経済建設と国防建設を並進させる党の新しい路線を実践するたたかいでも、すべてのたちおくれとのはげしいたたかいが必ずともなうものであると教えた。

首相はつぎのようにのべている。

「消極性と保守主義は、社会発展の過程であらわれる一つの必然的な現象であるといえます。革命闘争や、われわれの生活には、積極分子がいる反面、消極分子がおり、勇敢な人がいる反面、卑怯な人がつねにいるものであり、新しいものと先進的なものがある反面、必ず古くて沈滞したものがあるものです。……消極性と保守主義に反

対するたたかいは、一つの重要な革命闘争であります」

実際のところ、一部の活動家たちは今度も英雄的な労働者階級の威力を信じなかった。かれらは古い公称能力と基準にとらわれ、難関のまえでしりごみし、集団的革新運動をおそれて勤労大衆の荘厳な前進運動をさまたげようとした。

とくに経済部門の一部の指導幹部たちは、経済が発展し、その規模が大きくなれば前進速度は高められないという、非常に危険な見解のとりこになっていた。これは、自国の経済が早く発展しないことを合理化するためにつくりだした現代修正主義者の詭弁と、帝国主義者が社会主義を誹謗中傷するためにつくりだした反動「理論」をうのみにしたところからでたものであった。

金日成首相は、このばかげた反動的な「見解」を糾弾し、社会主義建設の実践的な経験にもとづいて、社会主義のもとでは、人民経済がたえず高いテンポで発展するという経済法則を新たにしめした。

首相は、社会主義のもとで、経済を高いテンポで発展させる重要な要因となる基本投資額の増大と労働生産性の高揚は無限の可能性をもっており、社会主義のもとでは建設がすすみ、経済の基礎が強化されればされるほど、その可能性はいっそうますますものであって、社会主義のもとで経済はたえず高いテンポで発展することができるということを論証した。

このことから首相は、生産者の政治的自覚と労働にたいする熱意が非常に高く、強力な機械工業を中核とする自立的民族経済がある条件のもとで、政治活動をよくおこない、勤労者の創意性を積極的にふるいおこし、人民経済の管理運営を改善すれば、生産の成長テンポをいっそう高められるということを明らかにし、社会主義のもとでは、人民経済がたえず高いテンポで発展するという経済法則を定式化したのである。

この経済法則は、社会主義経済制度の優越性をもっとも集中的にしめし、社会主義、共産主義建設を最大限に促

進させるものとして、社会主義、共産主義建設において本質的な意義をもつ法則である。
社会主義の優越性は、なによりもまず人民経済の高い発展テンポにあらわれる。そしてそれは、指導者と党の指導のもとに大衆の熱意を最大限にふるいおこし、経済管理を改善して生産力の発展に強く作用させることによってはじめて証明できるものである。ところで、こうしたあらゆる客観的条件と現実的な可能性がもっともよくととのえられている社会主義国こそ、ほかでもなく金日成首相の導く朝鮮民主主義人民共和国なのである。
したがって、この経済法則は、まさに金日成首相によってのみ発見しえたものである。
この経済法則の発見は、じつに社会主義経済建設の理論を完成し豊富にした金日成首相のいま一つの生きた模範であり、これはマルクス・レーニン主義の発展に大きく寄与した。
この経済法則は、社会主義制度の優越性を最大限にふるいおこし、党および国家の経済機関の指導幹部をひきつづき革新し、ひきつづき前進させる革命思想と、勝利の信念でかたく武装させ、勤労者のたぎる熱意と高まる気勢に経済の指導がたちおくれないようにさせ、革命的大高揚の炎を高める威力ある武器なのである。
金日成首相はこの武器をしっかりと手にし、消極性と保守主義をうちやぶりながら、勤労者の革命的熱意をふるいたたせ、革命的大高揚の炎を燃やすのに全力をかたむけた。
一九六七年二十五日、金日成首相の執務室には、首相によばれてかけつけた城興(ソンフン)の経験ゆたかな鉱夫たちが集まっていた。
金日成首相は、現場からかけつけた労働者たちとまる一日ものあいだ、鉱山の情況や前進を早める方法などについて話しあった。
かたときも忘れたことのない敬愛する指導者とともに、鉱山について語りあう鉱夫たちの胸は高なった。自分の家にいるように気楽な気持になったかれらは、日ごろ考えていたことを首相にありのまま話した。

当時、この鉱山には消極性と保守主義にとらわれた一部の人びとが、千里馬騎手や鉱夫たちが仕事をより多くやろうとするのに反対して、「大きい国でさえ工業の発展テンポが七〜八パーセントをこえないというのに、この大きな鉱山で、どうして生産を一五〇パーセントも発展させることができようか？」などと、とりとめもないことを主張しながら、前進速度をおさえようとしていた。

鉱山の情況をきいた金日成首相は、消極性と保守主義をうちくだき、社会主義建設でふたたび大高揚をよびおこすために、工業の最初の工程である採取工業から火の手をあげなければならないとさとした。

首相は、一小隊の生産計画まで隊員たちとともに練った。

このとき鉱夫たちは、前年より一・五倍も増大した一九六七年のぼう大な計画を、八月十五日までにやりとげると首相に誓った。

金日成首相は非常によろこび、「必ず三か月半くりあげてやりとげるというのだね。すばらしい。たいへんすばらしいことだ。その信念が重要だ。われわれの労働者階級がやるといえばきっとやれる」とほめたたえた。

ひたすら領袖の教えた道をつきすすむ労働者階級、いかなる艱難辛苦もいとわず、無限の創造力と偉大な力をもってひた走る労働者階級、かれらの素朴で雄々しい姿から、首相は、社会主義のもとでの経済発展のテンポにかんする独創的な理論の正しさをふたたび実証することができたのである。

金日成首相は、国家、経済機関の指導幹部と勤労者のなかで、消極性と保守主義に反対する思想闘争を力強くくりひろげ、集団的革新運動の炎をいっそう高めるために、千里馬運動をより強化発展させることに深い関心をはらい、職業総同盟、農業勤労者同盟、社会主義労働青年同盟などの勤労者団体が千里馬作業班運動を強力におしすすめてゆくように指導していった。

千里馬作業班運動は、勤労者を党の唯一の思想、金日成首相の革命思想でかたく武装させ、全社会を革命化し、

左右の日和見主義を徹底的に排撃して、自力更生の革命的旗じるしのもとに、あらゆる活動と生活において自主、自立、自衛の革命的原則を徹底的に具現する方向へと発展していった。

金日成首相は、革命的情熱にわきたつ全国土に目をむけた。大きくもない工場や名もない農村、漁村にいたるまでくまなく見てまわった首相は、城興の鉱夫たちと会ってからわずか数か月のあいだに、生産と建設、企業管理のすべての部門で、勤労者の創造的な積極性がいっそう高まっているのを目撃した。ひたすら党と領袖に忠実な英雄的労働者階級と千里馬騎手たちは党の新しい路線にそって、前進をさまたげる消極性と保守主義、古いものと沈滞しているすべてのものをうちくだきながら経済建設と国防建設を力強くおしすすめていった。

しかし、革命の要求と情勢の緊張度にくらべて、この程度の成果に満足してはいられなかった。

金日成首相は、勤労者の革命的な熱意をいっそう高め、千里馬大進軍を全国で力強くおしすすめていくことを決心した。

首相は五か年計画の第一歩を踏みだしたあの困難な時期に、降仙（カンソン）の労働者たちと会って千里馬大高揚の口火を切ったように、今度も龍城機械工場を新しい千里馬大高揚の一大革命的転換の拠点としたのであった。

それは、新しい路線をつらぬくうえで中心的な環となるのが機械工業部門であり、なかでも龍城の占める位置がとくに重要であったからでもあった。龍城の労働者階級は、すでに消極主義と保守主義に反対し、ふたたび千里馬の大高揚をまきおこすたたかいで大きく貢献していたし、つねに千里馬進軍の先頭にたっていた。かれらには工業都市咸興の数多くの労働者がついており、また協同農民と科学者、インテリがついていた。

金日成首相は、龍城で燃えあがる大高揚の炎が咸興市をへて、国中いたるところでいっせいに燃えひろがることをすでに見とおしていた。

一九六七年六月十五日、龍城機械工場をおとずれた首相は作業現場から見てまわった。どの機台にも革新の火花

が散っていた。首相は、機械労働者の献身的な姿を満足気に見つめていた。なんと愛すべき誇らしい人びとであろうか。かれらこそ、かつてのきびしい試練のときにもひたすら党を心から信じ、偉大な奇跡を生みだしてきた英雄たちではないか。

首相は、龍城機械工場を「革命伝統をうけついだ工場」だとたたえ、労働者をはげました。

労働者の労働情況や生活をつぶさに見てまわった首相は、工場党委員会拡大会議を指導した。

金日成首相はこの会議で、経済建設と国防建設を並進させる党の革命的路線のもつ意義についてのべながら、この並進路線は、どんなことがあっても貫徹しなければならないとつぎのように指摘した。

「……なぜ国防建設と経済建設を並進させなければならないのか？　わが国のような情況におかれている国では、経済建設と国防建設を必ずすすめなければならない。

経済建設をりっぱにおこなってこそ、わが人民の士気を高め、生活水準をいっそう高めることができる。

戦争がおこれば、建設したものが失われることもある。

なぜ失われることだけを考えるのか？　……それがこわくて建設できないとすれば、それは卑怯である。……経済建設と国防建設を並進させる路線は正しい。われわれは社会主義の優越性をいっそう発揮し、祖国統一の革命的大事変を十分に準備をととのえてむかえるために、必ずこの路線を実現して、われわれの経済的、軍事的威力をいっそう強化しなければならない。……」

首相のことばにききいる労働者たちは、並進路線の底に流れる首相の偉大な革命思想に深く胸をうたれた。

また、国にかもしだされた困難な情勢のもとで、多くの人的、物的資源が要求される国防建設に力をそそぎながらも、経済建設をりっぱにおしすすめて、人民生活をいっそう豊潤なものにさせようと心をくだく首相の人民にたいする深い愛に心をうたれるのであった。一部の幹部たちは、消極性、保守主義などの古い思想ののこりかすを克

服することができずにいた自身を恥じた。

金日成首相は、国防建設と経済建設を並進させる問題は、まさに路線上の問題であるため、この路線を貫徹するためには、強力な思想闘争がともなわなければならず、その実践過程では動揺分子や投降分子もでてくるであろうとのべながら、党の路線を心から擁護し、それを最後まで貫徹するたたかいの先頭にたつのは、「……まさに労働者階級以外にはだれもいない。……」、「……わが労働者階級こそ、党の路線の真髄を知っている」と力をこめて語った。

首相は、並進路線を貫徹するにはどうすればよいかについて、確信にみちた語調でこうのべた。

「われわれが、経済建設と国防建設が同時におこなえるのだという確信をもっておしすすめれば、それは必ずできる。しかし、安逸にひたり、気がゆるみ、平穏無事におこなおうとすれば、それはできない」

「どのようにおこなうべきか？

一九五七年に千里馬運動をすすめたときのように、千里馬の大高揚をひきおこし、経済建設と国防建設をおしすすめなければならない」

「われわれは革命の時代に生きているから、革命家らしく生き、行動しなければならない。革命家らしく生きられなければ、屍も同然である。革命家らしく生きようとするならば、革命的気概をもってきびしいたたかいをおこなわなければならない、党の革命的な路線をつらぬくためにたたかわなければならない」

つづけて首相は、党の路線を心の底から擁護し、それを最後までつらぬきとおすたたかいで、龍城の労働者階級がなしとげなければならないいくつかの問題を一つ一つ具体的に教えながら、「みなさんが革命的大高揚の先頭にたたなければならない」と力をこめて語った。

首相を身近にむかえ、そのつきざる愛と信頼を一身にうけた労働者たちは、首相の教えどおりにたたかうことを

かたく誓った。

かれらは首相の賢明な指導と偉大な革命思想、そして首相がつねに堅持している革命的な活動方法と革命的な展開力に大きな誇りと自負心を感じ、そこからつきることのない力と知恵をえたのである。

首相が明らかにした革命的路線の偉大な生命力をことばではなく、先頭にたって実践によってしめそう、そして革命の時代に生きる真の労働者階級にふさわしく、首相の忠実な戦士として、党の輝かしい革命伝統をうけついだものらしく生き、そして働こう、――これがかれらの決意であった。

首相が帰ってのち、龍城の労働者階級は従業員集会をひらき、千里馬作業班運動の炎をいっそう高くかかげ、革命的大高揚の先頭にたって一九六七年末までに千里馬工場の称号をかちとることをかたく決意し、これに呼応するよう全国の工場や企業所の労働者階級によびかけた。

かれらは年間計画のほかに、経済建設と国防建設に切実に要求される設備を製作し、年間計画を三か月余も短縮して、十月十日の党創建記念日まえにやりとげる戦闘的な目標をかかげて働いた。すべての作業班、すべての職場では、きのうの新記録がきょうはもう古びたものとなり、午前中にたてられた新記録が、午後にはより高い基準にとってかわられた。

半月あまり龍城と咸興地区で現地指導をおこなった金日成首相は、ピョンヤンにもどると党中央委員会第四期第十六回総会をひらき、龍城の労働者階級がおこした革命的大高揚の炎を全国に一般化し、いっそう組織的に拡大する対策をたてた。

そのかたわら、金日成首相は革命の参謀部である党を強化して革命の隊伍を強め、大衆の政治思想意識をたえず高めるたたかいも力強くおしすすめていった。

首相の方針にしたがって党は、党の唯一の思想体系を確立する全党的なたたかいを力強くくりひろげ、全社会を

労働者階級化、革命化するための活動を精力的に展開した。

こうして全党と全人民のなかには、金日成首相の偉大な革命思想でかたく武装し、党の政策を最後まで貫徹する革命的気風が確立し、勤労者の政治思想意識は非常に高まっていった。勤労者は革命闘争と建設活動に全精力と才能をかたむけ、おたがいにたすけあい、はげましあいながら創造と革新をまきおこしていった。

龍城に燃えあがった革命的大高揚の炎は全国にひろがり、いたるところで荘厳なたたかいがくりひろげられた。あらゆる部門で技術神秘主義がうちやぶられ、新しい機械、新しい技術が創造された。消極性と保守主義は完全にうちくだかれた。そして、経済が発展すれば前進のテンポを高めることができないといっていた現代修正主義理論も粉みじんとなった。

革命的大高揚の炎のなかで、ふたたび世人をおどろかす革新と奇跡がおこった。

たとえば、千里馬のふるさと降仙で大高揚の炎をまきおこした一九五七年には、「公称能力」六万トンといわれた分塊圧延機で十二万トンの鋼片をひきだしたが、今度はその「公称能力」の七・五倍に達する鋼片をひきだして世人を驚嘆させた。また革命の首都ピョンヤンでは、「ピョンヤン速度」が創造された一九五八年の一年間に建設したものと同じほどの高層文化住宅を、わずか三か月間で建てるという新しい「ピョンヤン速度」が創造された。

一九六七年十月二日、龍城機械工場が最初に年間計画を超過達成したのにつづいて、二百八十余の工場、企業所が党創建記念日以前に計画を遂行し、年末までには国防建設にぼう大な労力と資材と資金をあてても、工業総生産高をその前年にくらべてじつに一七パーセントも高めるというおどろくべき奇跡を創造した。

そして、穀物生産は解放直後にくらべて二・七倍に、工芸作物、蔬菜、果物、畜産物生産も急速に高まった。こうして北半部では、すでに食糧を自給自足しているばかりでなく、相当量の予備を保有するようになり、農業のすべての部門をより高い水準へと発展させうる確固とした基礎が築かれた。

人民経済の急速な発展とともに、人民の物質、文化生活の水準も日ましに高まった。一九六七年に人口一人当りの国民所得は、一九四六年にくらべて九倍、一九四九年にくらべて四・四倍に高まった。

党と首相の意を支持してたちあがったすべての農業勤労者たちの献身的な働きによって、農業生産においても一大高揚がまきおこった。

一九六七年の穀物収穫高は、一九六六年よりも一六パーセントも高まった。

こうして北半部の工業生産は、一九四八年にくらべて二十二倍に高まった。こんにち北半部では、重工業が新しい技術によって装備され、国内の天然資源によって急速に発展している。そのうち、一九六七年の機械製作工業の生産高は、一九四八年にくらべて百倍にふえ、工業生産高で占める比率は七・四パーセントから三一・四パーセントに高まった。機械製作工業を中核とする北半部の重工業は、国の経済的自立性を強固にし、人民経済のすべての部門で技術革命を力強くおしすすめることのできる確固とした基地として、いっそう大きな威力を発揮するようになり、軽工業と農業の発展にいっそう役立つようになった。

消費品の生産基地も確固と築かれた。いま北半部では自力で生産した商品で人民の需要をみたしており、今後良質のさまざまな消費品をもっと多く生産できる基礎が築かれた。

国防建設の分野でも大きな成果がおさめられた。

党と人民は、経済建設を力強くおしすすめながら、これと併行して軍需工業を強力に発展させた。多くの人的、物的資源を軍需産業にあて、経済を全般的に改編していった。

すべての工場や企業所は困難な情況のもとでも生産力をひきつづき高め、緊迫した情勢が生じれば、とどこおりなく大々的に軍需品が生産できるよう、万端の準備をととのえた。

首相が教えたとおり、共和国北半部の経済は、社会主義経済を成功裏に建設するだけでなく、人民軍を現代化

し、全国を要塞化するのに必要なものをいくらでも自力で生産し、また、いかなる情況のもとでも前線と後方の物質的需要をみたせるような、強力な生活力のある自立的民族経済にかわった。

こうして一九六七年は、朝鮮でいっそう新しい大高揚がおきた年に、千里馬がいっそうおどろくべき速度でかけはじめた歴史的な年となった。

このような大高揚は、経済が発展し、生産の規模が大きくなっても、生産者大衆の革命的熱意を高め、技術をたえず発展させてゆけば、経済は必ず早いテンポで前進するということを確証したものであった。

このことは、金日成首相の不滅の主体思想と自主、自立、自衛の革命路線の偉大な生命力の示威であり、大衆路線の輝かしい勝利であった。

千里馬運動をつうじて、朝鮮人民は党と金日成首相のまわりにいっそうかたく団結し、朝鮮はさらに強固な自立的民族経済の基礎をもつ威力ある社会主義国家に、朝鮮革命の強力なとりでに、社会主義の東方の哨所をかたく守ってたつ世界革命のたのもしい前哨のとりでとなった。

社会主義建設の大高揚と千里馬の速度は、月日とともにますます高まっていった。

一九六八年の人民経済計画を大衆のなかで討議し実行する過程で、生産者大衆の革命的熱意と創造力こそ、まさに無尽蔵であることがかさねて証明された。

金日成首相は一九六八年四月、党中央委員会第四期第十七回総会をひらき、当時の情勢に対処して経済建設と国防建設をいっそう効果的におしすすめるための具体的な対策をうちたてた。

金日成首相の革命思想を胸にきざみこんでいる会議参加者たちは、だれもが前年度よりも一二四パーセント増大した一九六八年度の工業生産計画を、共和国創建二十周年記念日までに終えることによって、四か月くりあげて完遂することをかたく決意した。

金日成首相は、第四期第十七回総会の決定貫徹にたちあがった勤労者および千里馬騎手たちの革命的情熱をいっそう力強く燃えたたせるために、一九六八年五月に第二回全国千里馬作業班運動先駆者大会をひらくことを提起した。

首相の参席のもとにひらかれたこの大会では、一九六〇年におこなわれた第一回全国千里馬作業班運動先駆者大会でおこなった金日成首相の教えの実行情況を総括し、社会主義建設のすべての戦線でひきつづき千里馬の大高揚をひきおこすことについて討議した。

千里馬騎手たちはこぞって、その間の活動情況を金日成首相に報告した。

ある鉱山の掘進小隊長は消極性と保守主義の策動をうちくだいて、十年のあいだに一件の事故もなく、毎年鉱物生産高を一四〇パーセントに成長させながら年ごとに年間計画を四か月以上もくりあげて完遂したし、一九六八年の計画を敬愛する指導者金日成首相の誕生日である四月十五日以前に終えることによって、七か年計画を三五〇パーセントに超過達成したと報告した。

世界ではじめて、一人で七十二台の機台をうけもったある紡織工場の織布工は、毎年の計画を四〇〇パーセント超過達成し、七か年計画を四月十五日までに三九八・五パーセント超過完遂したと報告した。

一か月に二千百五十メートル掘進して世界的掘進記録を創造し、さらにそれを二千三百十六メートルにひきあげて朝鮮の英雄的気概を全世界にしめした鉱夫たち。前年の計画を三か月もくりあげて完遂し、ぼう大な年間計画とともに、高さが九階建てのアパートほどもあって、重さが二千トンにもなる六千トンプレスの製作を共和国創建二十周年まえに終えるためにたちあがった機械工場の労働者たち。溶解工や美装工たち。機関士や漁労工、国防の第一線にたつ哨兵たち。――かれらはみな首相の教えをりっぱに貫徹し、ひきつづき千里馬の大高揚をまきおこすことをかたく決意した。

金日成首相は、かれらの討論をききながら満足気であった。いかなる公称能力も基準量も眼中にない千里馬の騎手たちであった。つねに前進、前進、闘争、また前進することだけを知る朝鮮の英雄たちであった。

金日成首相は、みずから育てたかれらを見つめ、このたのもしい柱に支えられた朝鮮の明日に思いをはせた。

大会の最終日に、首相は、千里馬の大高揚をひきつづきおこすことを強調した。首相は、革命的大高揚をひきつづき高めるためにどうすべきかを、長時間にわたって詳細に言及した。

首相の教えをうけた大会参加者のだれもが、その教えどおりにたたかうことをかたく決意した。

全国はかぎりない感激と興奮にひたり、革命的大高揚の炎は力強く、ますます勢いよく燃えさかった。

まさにこれは、激化するアメリカ帝国主義者の侵略策動に対処して全国を鉄壁の要塞につくりあげ、もしかれらが無謀にも攻めよせてきたときには、一撃のもとにこれを撃破できる万全の準備をととのえている朝鮮の勤労者たちの威力の示威であった。

それはまた、たとえ明日戦争がおこるとしても、今夜までは建設をおこなって民族経済の自立的基礎をしっかりとかため、人民生活をいっそう向上させ、社会主義制度の優越性をさらに高めようという首相の教えに、こぞってふるいたった朝鮮の労働者階級と勤労者の不屈の闘志と、革命的情熱のあらわれであった。

そしてそれは、自力で朝鮮革命を最後まで遂行しようという主体的立場と革命的原則でつらぬかれた金日成首相の革命的路線をあくまでも擁護し、貫徹しようとする人民大衆の、党と首相にたいするかぎりない忠誠心の炎なのであった。

金日成首相は人民の無限の力を信じ、人民はまた首相にしたがってたたかった。この不敗の統一団結のうえに、朝鮮革命の終局的な勝利をめざす革命基地の政治、軍事的力量と自立的民族経済が磐石のようにかためられていったのである。

この偉大な成果と明るい展望は、革命的気概をふるいたたせながら主体と自力更生の旗をひるがえす千里馬の国――朝鮮に世界の目を集中させ、世界の革命的人民の闘争を力強くはげましたのであった。

3　全社会を不敗の革命隊伍に

金日成首相は、社会主義建設を新しい大高揚へと発展させる一方、人民大衆の政治思想的統一を強化し、すべての分野にわたって社会を労働者階級化してゆく方向へと革命を深化させていった。

人民大衆の政治思想的統一と全社会の労働者階級化、革命化は、社会主義、共産主義建設における基本問題の一つであり、労働者階級にあたえられた歴史的任務の一つである。

金日成首相は、社会主義社会の階級関係にたいする深奥な分析と、すでに蓄積したゆたかな経験にもとづいて、人民大衆の統一団結を強化する活動と階級闘争を正しくむすびつけ、全社会を革命化、労働者階級化する独創的な理論をうちだして、この問題に天才的な解答をあたえた。

金日成首相が新しく創造したこれらすべての理論は、当時の情勢に対処して北半部の革命隊列を強固にし、朝鮮革命の終局的な勝利をおさめるうえでの力強い理論、実践的武器であり、マルクス・レーニン主義の宝庫をいっそう豊富にした偉大な理論である。

金日成首相は、社会主義社会の階級関係をマルクス・レーニン主義的に分析したうえで、社会主義のもとでの社会関係の本質についてつぎのようにのべている。

「搾取社会では、搾取階級と被搾取階級、支配階級と被支配階級間の階級的対立と闘争が社会関係の基本となりますが社会主義制度が勝利したわれわれの社会では、労働者階級と協同農民、勤労インテリの団結と協調が社会関

係の基本をなしています。われわれの労働者、農民とインテリは、社会的、経済的境遇の共通性、目的と利害関係の共通性によって同志的にむすびつき、たがいに緊密に協調し、わが党の指導のもとに、ともに共産主義の偉業の勝利をめざしてたたかっています」

ここから金日成首相は、人民大衆の政治思想的統一が社会主義社会を動かす基本動力になると科学的に明らかにした。

首相は、搾取階級を打倒して新しい制度をうちたてることが社会発展の基本問題となっている搾取社会では、階級闘争が社会発展の基本動力となるが、古い社会ののこりかすを一掃し、すでに確立された社会主義制度をたえずかためてゆき、人びとの思想と道徳を改造し、経済と文化をひきつづき発展させることが社会発展の基本問題となっている社会主義のもとでは、人民大衆の政治思想的統一が社会発展の基本動力になると考えた。

首相は、つぎのように古典的な定義をくだしている。

「労農同盟を基礎とする人民大衆の政治思想的統一、党の指導のもとに社会主義と共産主義を建設しようとするかれらの共通した志向と熱意は、われわれの社会の発展をうながす基本動力であり、社会主義建設をおしすすめる決定的な要因です」

しかし金日成首相は、人民大衆の政治思想的統一が社会主義社会発展の基本動力になるからといって、社会主義社会には敵対的な要素もなく、階級闘争もないということを意味するのではないとのべている。

首相は、社会主義のもとで人民大衆の統一団結と敵対分子にたいする階級闘争はたがいにかたくむすびついており、政治思想的統一それ自体が階級闘争を前提としているとみなした。

それは、社会主義のもとでの人民大衆の政治思想的統一が反革命との闘争を前提とする団結であり、勤労者のなかで古い思想の残滓を一掃し、すべての階級的差異をとりのぞくための階級闘争を前提にしているからである。

首相は、社会主義のもとでも階級闘争はひきつづきおこなわれると教えながら、社会主義のもとでの社会発展の過程を科学的に分析し、社会主義のもとでの階級闘争の内容と方法、それを正しくおこなうための創造的方針などをしめしてこれに全面的な解答をあたえた。

金日成首相はこう教えている。

「社会主義のもとでの階級闘争は、なによりもまず、外部から侵入する敵対分子と、くつがえされた搾取階級の残余分子の破壊活動に反対し、ブルジョア的および封建的な反動思想とその浸透に反対する闘争にあらわれています。……

社会主義のもとではまた、勤労者の意識のなかに古い思想ののこりかすがあり、これに反対する闘争も、労働者階級の思想とブルジョア思想間の闘争であるという意味で階級闘争の一つのあらわれなのです」

首相は、外部から侵入してくる敵対分子と、くつがえされた搾取階級の残余分子の破壊活動に反対する闘争は、仮借なき独裁と鎮圧の方法でおこなわなければならないと教えている。

かれらは階級的本性から意識的に社会主義制度をくつがえそうとし、労働者階級の党と政権に反対する敵対分子なのである。したがって首相は、かれらを説得や啓蒙の方法では決して改造できないし、かれらは社会主義制度に意識的に反対するのであるから、断固として粉砕する以外に方法はないと教えている。

しかし首相は、古い思想的残滓とのたたかいは、共同の理想を実現するために手をとりあってすすむ勤労者内部の問題であり、すべての勤労者を教育改造し、共産主義社会にまで導いてゆくために提起される課題であると考えた。

したがって首相は、この問題はあくまでも説得と教育の方法によって解決しなければならず、人びとの思想を改造し、団結をいっそう強化するためのものでなければならないとさとしている。

金日成首相は、社会主義のもとでの人民の政治思想的統一と階級闘争にたいするすぐれた分析によって、この両者の正しい結合を社会主義、共産主義建設の成果を左右するカギであると考えた。

首相はつぎのようにのべている。

「社会主義のもとでは、労働者階級と農民、インテリの同盟が社会関係の基本になるということを忘れて、階級闘争を一面的に強調し、それを誇張すれば、極左的な誤りを犯すことになるでしょう。この場合には人を信じられなくなり、あいまいな人を敵対分子のようにあつかうようになり、党と大衆を切りはなし、社会的不安をかもしだすことになります。

逆に、社会主義のもとでも敵対的要素があり、古い思想ののこりかすがあり、階級闘争がつづくのだということを忘れ、人民大衆の政治思想的統一だけを考えてそれを絶対化すると、極右的な誤りを犯すようになります。この場合には、敵対的要素にたいする警戒心がにぶり、古い思想に反対する闘争が弱まり、党と労働者階級の指導的役割がマヒし、社会生活でブルジョア的影響がひろまるおそれがあります」

金日成首相は左右いずれの偏向にも反対し、階級闘争をたくみにおしすすめながら、人民大衆の統一と団結をたえず強化しなければならないと教えながら、その正しい道を明らかにしている。

首相はその道を、階級路線と大衆路線を正しくむすびつけ、ごく少数の敵対分子を孤立させ、鎮圧すると同時に、社会のすべての構成員を革命化、労働者階級化することにもとめた。

金日成首相は、歴史的な党代表者会議において、全社会の革命化、労働者階級化についての思想をつぎのように定義づけた。

「階級関係の見地からみるならば、社会主義と共産主義を建設する過程というのは、主権をにぎった労働者階級が経済と文化、思想と道徳のすべての分野にわたって社会を自分と同じ姿に改造してゆく過程、すなわち労働者階

級化してゆく過程であります。プロレタリア独裁の歴史的使命は搾取階級を清算し、その反抗を鎮圧することだけにあるのではなく、すべての勤労者を改造し、労働者階級化することによって、あらゆる階級的差異を徐々になくしてゆくところにあります。搾取階級が清算され、社会主義制度が勝利したわれわれの社会において、プロレタリア独裁の重要な任務は勤労者を教育改造し、全社会を労働者階級化することであります」

金日成首相のこの命題のなかには、社会主義、共産主義建設と関連した一連の新しい貴重な思想がこめられている。

搾取階級が一掃され、社会主義制度が確立されたということは、社会主義、共産主義建設における一つの明白な転換点にすぎず、社会にはまだ、労働者階級と農民間の差異がのこっている。工業と農業のあいだには、生産力発展水準の差異によって労働条件の差異、生産手段にたいする所有形態の差異がのこり、これとともに社会のすべての成員の思想と道徳、文化と技術水準における差異ものこるのである。労働者階級が社会主義の完全な勝利をおさめるためには、このようなあらゆる階級的差異をなくし、社会を自分と同じ姿に改造しなければならないのである。

ところが搾取階級が清算されたのちにも、まだ社会にのこっている労働者階級と農民間の階級的差異をどのようにしてなくし、どのような道をとおって無階級社会にいたるのかという解答は、これまで理論的にも実践的にも明らかにされていなかった。

金日成首相は、社会主義、共産主義の建設過程をはじめて階級関係の見地から分析し、この問題にもっとも明確な解答をあたえた。

首相は、社会主義制度が確立されたあと、マルクス・レーニン主義党のすべての路線と政策を一つの明白な階級的目標に向けさせ、共産主義へと正しくすすむ道をさししめした。

金日成首相は、プロレタリア独裁の歴史的使命と階級廃絶の道を新しく明示したばかりでなく、そのもっとも近い道をしめしたのである。

首相は、労働者階級の指導的役割と、その革命的作用の強化を社会の労働者階級化、革命化における基本的な原則と考えた。

首相はこうのべている。

「労働者階級は、自己の階級的指導を弱めたり、自分自身を他の階層のなかに溶解させることによって階級的差異をなくすのではありません。これとはまったく逆に、労働者階級は自己の階級的立場を確固として堅持し、指導的役割をたえず高め、他の勤労者を労働者階級に改造してゆくことによって、かれらとの団結を強化するのであり、あらゆる階級的差異をしだいになくしてゆくのです」

金日成首相のこの教えには、階級的差異をなくすうえで労働者階級が確固とした規準にならなければならず、そのためには労働者階級がなによりもまず自己の階級的立場をかたく守り、指導階級として自分自身をたえず完成してゆくとともに、社会生活のすべての分野で労働者階級の指導的役割と革命的作用、プロレタリア独裁の経済組織者的、文化教育者的機能をたえず強化しなければならないという思想が強調されている。

首相は、階級的差異をなくすうえで労働者階級を確固とした規準にし、その指導的役割をひきつづき高めていくことを強調することによって、こんにち問題となっている理論、実践的諸問題、すなわち、生産関係の社会主義的改造後におけるプロレタリア独裁の役割とその任務にかんする問題、友好的な階級間の政治思想的統一の階級的原則の問題、共産主義的人間育成の階級的内容などについての明確な解答をあたえた。

そして首相は、全社会の革命化、労働者階級化をつうじて、社会主義、共産主義を建設するうえで思想的側面と物質的側面の相互関係について全面的に明らかにした。

首相は、社会主義、共産主義建設を遂行するためには技術革命をおこない、生産力を高い水準にひきあげ、全人民的所有の全一的支配を確立するばかりでなく、思想革命をおこなって人びとの頭のなかにのこっている古いブルジョア思想ののこりかすを徹底的に根こそぎにし、すべての勤労者を集団と全社会の利益のために、祖国と人民のために水火をもいとわず献身的にたたかう労働者階級の革命思想、マルクス・レーニン主義的世界観でかたく武装させ、同時に文化革命をおこなって、かれらを高い文化、技術の所有者にしなければならないと教えた。なかでも勤労者の思想意識の改造を第一義的なものとみなした。

このように金日成首相は、社会主義、共産主義建設の階級的本質を明らかにし、その全過程における労働者階級の指導、プロレタリア独裁の歴史的使命を科学的に明らかにすることによって、階級廃絶の新たな道をしめした。このような道は、まさに、洗練されたマルクス・レーニン主義的英知と、現実にたいする、天才的な洞察力をもつ金日成首相によってはじめて明らかにされたのである。

金日成首相は、全社会の革命化、労働者階級化の方法と課題についても明らかにした。

首相は、全社会の革命化、労働者階級化における労働者階級の指導的役割と革命的作用を強化するために、労働者階級の思想性と組織性、文化性をたえず高めなければならないとのべた。

労働者階級が革命的な思想と鋼鉄のような組織性、高い文化性でかたく武装してこそ、農民とインテリにたいする革命的作用をひきつづき強化することができるのであり、また農民とインテリが労働者階級を規準にして、自己の革命化、労働者階級化をいっそううながすことができるのである。

金日成首相は、社会主義、共産主義建設において労働者階級のもっとも信頼すべき同盟者である農民の革命化、労働者階級化を革命勝利の重要な条件とみなし、その方法を科学的に明らかにした。

首相はつぎのようにのべている。

「農民を革命化し、労働者階級化するということは、結局、労働者と農民の差異をなくすということを意味します。労働者と農民の差異を完全になくすためには技術を発展させ、工業労働と農業労働の差異をなくし、協同的所有を強化発展させ、しだいに全人民的所有にかえてゆくことと同時に、農民のたちおくれた思想を労働者階級の先進的な思想に改造しなければなりません」

首相は、『わが国における社会主義農村問題にかんするテーゼ』ですでに提示した方針にしたがい、農民にたいする労働者階級の政治的指導と革命的影響を強化しながら、農村において思想革命と文化革命を力強くおしすすめ、農民の思想文化水準におけるたちおくれをなくし、かれらを労働者階級の革命思想で徹底的に武装させ、高い文化と技術をもつ人間に改造してゆかなければならないと教えている。

そして、農村で技術革命をひきつづきおしすすめ、農民を苦しい労働から解放し、協同的所有を強化発展させてしだいに全人民的な所有へと移行させなければならないと明らかにした。

金日成首相は、全社会の革命化、労働者階級化でもっとも重要な位置を占めるのは、インテリを革命化することであると教えながら、インテリ革命化の意義と内容を全面的に明らかにした。

首相はつぎのように教えている。

「インテリを革命化し、労働者階級化するということは、インテリの意識のなかにのこっている古い思想ののこりかすを完全にぬぐい去り、かれらを労働者階級の革命精神で、共産主義思想で武装させ、真の労働者階級のインテリに、熱烈な共産主義者に育成するということを意味します」

このように、インテリの革命化は、かれらを革命の一時的な同伴者としてではなく、党と革命に忠実な真の共産主義的な革命家に育てる措置であり、ここにはインテリにたいする首相のあたたかい配慮と信頼がこめられている。

金日成首相は、解放後いち早くインテリの問題に深い関心をはらい、勤労人民出身の新しいインテリを大々的に育てる一方、解放前からのインテリを教育改造するために一貫して努力してきた。

首相は、解放前からのインテリの大部分が富裕な家庭の出身であり、かつて、日本帝国主義と搾取階級に服務はしたが、植民地国家のインテリとして外来帝国主義の民族的抑圧と差別待遇をうけてきたため、民族的、民主主義的革命性があると信じ、かれらを新しい社会の建設に積極的にひきいれて勤労人民に服務するインテリに改造する方針をとった。

首相は、解放前からのインテリをたえず教育するかたわら、かれらを革命闘争の試練をとおしてりっぱな社会主義インテリに育てたのである。

インテリにたいする首相のこのあたたかい愛情はかわることなく、年月とともにいっそう深まっていった。首相は、インテリにブルジョア的、小ブルジョア的思想ののこりかすが比較的多くのこっているからといって、かれらをうたがい、排斥することは一種の分派主義的傾向であり、党のインテリ政策とはなんのかかわりもないものであると指摘し、つぎのようにのべている。

「わが党は、われわれのインテリを信じており、かれらをたいせつにし、愛し、かれらの功労を高く評価します。党はインテリの思想改造をひきつづき忍耐強く指導し、たすけるであろうし、かれらが自分の知恵と才能を存分に発揮して、社会主義建設にいっそうよく服務できるように、すべての条件をととのえるでありましょう」

まさにインテリの革命化は、首相のインテリにたいするつきない愛のあらわれである。

首相は、革命の途中で脱落する人を革命の同伴者であるといいながら、たとえていうならば、われわれが元山（ウォンサン）までいくのに、最後までいっしょにゆけず、陽徳、あるいは馬息嶺（マシク）の峠で落伍してしまう者をいうのだといった。

もしインテリを革命化せず、かれらの思想をたえずきたえなければ、かれらは共産主義をめざす革命闘争の途中

で落伍する同伴者になってしまうと警告しながら、インテリにたいする共産主義教育を強化し、かれらを徹底的に革命化することによって、インテリを革命の同伴者ではなく、最後までともにたたかってゆく革命家にしなければならないと教えた。

共産主義社会までインテリをつれてゆくという首相のこのあたたかい愛は、南半部のインテリにもそのままあてはまる。

金日成首相は、こんにち南半部にはアメリカ人に雇用されているインテリが多いが、統一後、かれらが敵に服務したからといってかれら全員に大きな罪をきせることはできないとのべながら、あくまでもかれらをかばい、教育し改造して、ともにすすんでゆかなければならないとつねに教えている。

金日成首相は、全社会、全勤労者を労働者階級化、革命化するうえでもっとも重要なことは、かれらのなかで党の組織生活と大衆団体での組織生活を強化することであると教えた。

「人はだれでも組織の規律を守って集団主義精神を養い、自己批判もし、相互批判もし、直接批判をうけもし、人が批判されるのをきいて自分をかえりみたりする過程をとおして、たえず思想がきたえられていくものです。したがって組織生活を強化することは、人を革命化するうえでもっともよい方法なのです」

首相は、組織生活を強化することは、人を革命化することが一日や二日ではなく、ながい期間をつうじておこなわれるだけに、なおさら必要であると強調した。

首相は、人を革命化するうえでいま一つ重要なことは、勤労者を朝鮮労働党の政策でしっかりと武装させ、かれらのなかに党の唯一思想体系を徹底的に確立することであると教えた。

金日成首相はつぎのようにのべている。

「党の唯一思想とは、思想における主体、政治における自主、経済における自立、国防における自衛の原則でつ

らぬかれたわが党の思想である。わが党の思想、わが党の政策は、朝鮮革命を完成し、朝鮮人民を社会主義、共産主義へともっとも正しく導く、われわれの現実に創造的に適用されたマルクス・レーニン主義である」

いいかえると、党の唯一思想とは、朝鮮労働党と朝鮮革命の偉大な領袖であり、国際共産主義運動と労働運動の卓越した指導者である金日成首相の革命思想であり、それは、マルクス・レーニン主義を朝鮮の現実に創造的に適用し発展させた思想であり、政治における自主、経済における自立、国防における自衛の原則につらぬかれた主体思想であって、朝鮮革命をもっとも正しく勝利へと導き、その終局的勝利を保障する偉大な思想である。

金日成首相の革命思想は、われわれの時代の偉大なマルクス・レーニン主義思想であり、帝国主義とあらゆる日和見主義に反対し、革命の勝利のためにたたかうすべての人びとの前途を明るく照らす灯台である。

金日成首相の革命思想は、党員と人民を党と領袖の思想と意思どおりに考え、行動し、革命の正しい戦略戦術を体得するようにするだけでなく、それを尺度としてすべての問題をはかり、資本主義、修正主義、極左冒険主義、教条主義、事大主義、封建儒教思想などをふせぐ有力な武器になっているのである。

したがって朝鮮労働党は、全党員と人民が金日成首相以外はだれをも知らず、首相の革命思想以外はいかなる思想をも知らない党の唯一思想体系を確立することを思想教育のいしずえとして、金日成首相の思想が具現された党政策の教育に第一義的意義をあたえた。

金日成首相は、党の唯一思想体系を確立するための教育活動で、とくに革命伝統の教育を強化した。

首相はこうのべている。

「革命伝統教育を深くおこなうことは、人びとを革命化し、唯一思想体系を確立するうえでもっとも重要な作用をします。われわれが唯一思想体系を確立するのは結局、革命をよりよくおこなうためなのです。われわれは南朝鮮を解放して祖国を統一し、共産主義を建設しようとしています。そのためには革命伝統教育をいっそう深くおこ

ない、人びとを革命思想で徹底的に武装させなければなりません」
金日成首相は、党の政策と革命伝統でかたく武装した人こそはじめて朝鮮の革命家になれるのだとのべながら、つぎのように教えている。
「われわれは、わが党の政策と革命伝統でかたく武装したとき、いかなる難関と試練のなかでも主体性を失わずに自己の革命的立場を守ることができ、革命闘争をなおもはげしくくりひろげることができるのです。党の政策と革命伝統で武装した人には、修正主義も教条主義も事大主義も絶対によりつくことができません。このような人こそ、党的思想体系がしっかり確立した真の朝鮮の革命家であるということができます」
金日成首相は、党の唯一思想体系を確立し、党の路線と政策を守り、それをつらぬくためのたたかいは、事大主義に反対し主体性を確立するためのたたかいと密接な関係があるとのべながら、事大主義のあらゆる表現に反対してそれを根こそぎにし、すべての分野で主体をいっそう徹底的に確立し、自力更生の革命精神をいっそうふるいおこす教育を思想活動の重要な課題の一つとしてうちだした。
首相は、その具体的な課題についてのべながら、党員と勤労者が党の思想、党の政策で武装して、その正しさを確信し、勝利の信念をいだくとともに、民族的自負心を高めるようにすることがもっとも重要であると強調した。
金日成首相は、思想革命をおしすすめるための思想活動で、いま一つの重要な問題として共産主義教育をうちだし、なかでも勤労者の階級的自覚を高め、かれらを帝国主義と地主と資本家を憎む精神で武装させる階級教育がその基本にならなければならないと教えた。
首相のこの教えのなかには、じつに重要なことがふくまれている。
金日成首相は、朝鮮の現実と全般的な国際情勢をみごとに分析し、階級的思想教育を正しくおこなうかどうかを、社会主義、共産主義建設の運命につながる重大問題として提起した。

首相は、かつて日本帝国主義に反対してたたかい、地主や資本家の搾取をうけたことのある人たちはしだいに年をとり、帝国主義も、地主や資本家も知らず、苦労も知らない新しい世代が社会主義制度のもとで育っており、かれらが国の主人として登場している条件のもとで、もしも階級的思想教育を強化しなければ、若い世代が敵を忘れ、闘争をきらい、安逸だけをむさぼるようになり、したがってわれわれの革命偉業をうけつぐことができないばかりか、われわれが築きあげた業績さえも失ってしまうようになるだろうと警告した。

また首相は、労働者階級をはじめとする勤労人民の出身で苦労をしてきた人であっても、教育をうけずにながいあいだ安楽な生活をつづければ、圧迫され、さげすまれた過去の境遇を忘れ、しだいに安逸になり、階級意識がマヒしてくるとのべながら、アメリカ帝国主義者をわが国土から追いだして祖国の統一を実現し、朝鮮革命を最後までやりとげるためには、勤労者のなかで階級的思想教育をいっそう強化しなければならないと教えた。

首相は勤労者にたいする共産主義教育において、社会主義的愛国主義教育を非常に重要視した。

金日成首相は社会主義的愛国主義について、つぎのように規定している。

「社会主義的愛国主義は、社会主義、共産主義をめざす労働者階級と勤労人民の愛国主義であり、それは、階級意識と民族的自主意識を結合させ、自己の階級と制度にたいする愛を、自己の民族と祖国にたいする愛と結合させます」

労働者階級をはじめとする勤労人民は、民族の圧倒的多数を占めている勤労人民の利益をはなれては、民族の利益を考えることができない。資本主義の道は搾取と抑圧、隷属と没落の道であり、社会主義だけが階級的搾取とともに階級的抑圧を根絶し、民族の完全な独立と繁栄を保障するのである。

だからこそ金日成首相は、勤労人民の利益のために、社会主義のためにたたかう共産主義者だけがもっとも徹底した愛国者であり、自己の階級的解放と社会主義をめざす労働者階級と勤労者だけが、真に愛国的な感情をもつこ

とができると教えた。

じつに、金日成首相がはじめて全面的に明らかにした社会主義的愛国主義とその気高い思想は、だれが真の愛国者であり、だれが真の愛国的な思想をもつことができるかについての明確な解答であり、真の愛国主義とそうでないものとを区別する試金石なのである。

首相は、社会主義的愛国主義教育で重要なことは、まず勤労者に、世界でもっともすぐれた共和国北半部の社会主義制度にたいする自負心、革命にたいする自負心、社会主義と共産主義にたいする自負心をはぐくませ、個人主義と利己主義に反対し、集団主義精神で武装させることであると強調した。

と同時に、南朝鮮を忘れぬようにし、世界の階級的兄弟との連帯の精神をつちかい、社会主義、共産主義の未来を愛するように教育しなければならないと教えた。

金日成首相は、人びとを革命化するためには、思想革命とともに文化革命を積極的におしすすめなければならないとのべながら、一人のこらず一般知識水準を高め、一つ以上の技術を身につけるようにと教えた。

このように金日成首相は、人民大衆の政治思想的統一と全社会、全勤労者の労働者階級化、革命化にかんする偉大な思想と理論を創造することによって、社会主義制度の樹立後、労働者階級がどのような道をたどり、どのような方法で社会主義を建設し、無階級社会である共産主義を実現するかについて、はじめて総合的で、しかも整然とした解答をあたえたのであった。

これは首相が、社会主義、共産主義建設にかんするマルクス・レーニン主義理論を創造的に発展させ、いっそう豊富にしたいま一つの模範として、朝鮮人民とともに全世界の共産主義者と革命的人民に大きなよろこびをあたえた。

朝鮮労働党は、首相のさししめす道にしたがって全勤労者のなかに党の唯一思想体系を確立し、かれらを革命化

する一大思想教育と思想闘争をくりひろげた。

この闘争は、金日成首相の革命思想、党の路線と政策にもとづき、あらゆるブルジョア反動思想、修正主義思想、封建儒教思想、事大主義思想、分派主義、地方主義、家族主義の要素に反対する闘争と密接にむすびつけてくりひろげられた。

この過程で、全党員と勤労者は、金日成首相以外はだれをも知らず、首相の革命思想以外はいかなる思想も知らぬ党の唯一思想体系によっていっそうかたく武装するようになった。

すべての勤労者は、いかに困難な試練をへようとも、ひたすら首相の革命思想と意思どおりに生き、行動し、首相のためであれば水火をもいとわぬ真の親衛隊、近衛隊、決死隊として、階級の敵には復讐の砲火をあびせることを知る共産主義者として、南半部の兄弟と世界の階級的兄弟のためにはいつでも血をわかちあうことのできる熱烈な革命家として、いっそうしっかりと準備されていった。

そして、党の唯一思想体系にもとづいた全社会の政治思想的統一がかつてなく強化され、祖国の統一と朝鮮革命の決定的な担保である北半部の革命基地は、不敗の革命隊伍として、いっそう堅固に築かれるようになった。

この不敗の政治的とりでを征服しうるいかなる力も存在しえないのである。

4　革命家の遺児を胸にいだいて

革命は一世代で終るものではなく、幾世代もへながらつづけられる苛烈な闘争である。

共産主義者は、この峻厳なたたかいで果たしえなかった革命課題をつぎの世代につがせねばならず、革命をうけつぐ後継者とその骨幹部隊を育てなければならない。

これは、革命の将来にかかわる重要な問題である。

したがって金日成首相は、革命の後継者を育てあげ、とくに革命の基本骨幹部隊を育成する活動を非常に重要な革命事業の一つとみなした。

首相はつねに、こうのべている。

「……革命をおこなうには、基本的な骨幹が必要である。家を建てるにも土台と柱がしっかりしていなければならないように、国にりっぱな幹部がいてこそ、国家は強固なものになる。……」

金日成首相は、革命の将来をになう骨幹部隊はまず、革命家の遺児たちのなかから育てなければならないとし、共産主義者は自分の後継者をりっぱに育てる任務があり、政権をにぎったのちには、国家が責任をもってかれらを育てなければならないとのべた。

さらに首相は、革命家の遺児をいつくしみ、りっぱに育てることこそが、革命なかばにしてたおれた闘士たちにたいする革命的な義理を果たすことであると強調した。

まさに金日成首相は、祖国の自由と独立のために勇敢にたたかい、惜しくも犠牲となった戦友や闘士たちの遺児をすべてその胸にいだき、いつくしみはぐくんだ慈父である。

革命家の遺児は、栄えある抗日武装闘争で勇敢にたたかい、祖国の解放を見ずしてたおれたか、あるいは国の内外で反日闘争にたずさわり、犠牲となった革命闘士の子弟たちであり、また祖国解放戦争で犠牲となった人民軍将兵やパルチザン、愛国烈士たちの子弟なのである。

金日成首相は、この遺児たちを国のもっとも貴い宝として、肉親もおよばぬ愛をそそいで育てていった。首相は、かれらが父母の志をついで革命の道につきすすみ、熱烈な愛国者に、りっぱな革命家になるよう教育してゆくことこそ、自身の重要な革命課題であると考えた。

祖国に凱旋した首相は、国情が複雑で困難であった一九四七年の三月、早くも革命家の遺児を育てるために万景台革命学院の創設を考え、国家的な対策をたてると同時に各地に人を派遣し、遺児たちを一人ひとりつれてくるようにした。

首相は中国東北地方にでかける同志をよび、つぎのように語った。

「あの子どもたちは、われわれが山でたたかっていたとき、おなかをすかし、追いたてられながら日本帝国主義者に一番ひどく苦しめられ、蔑視されてきた子どもたちです。

あの子どもたちは、両親が革命家であったがゆえに、他人が勉強しているときでも自分は学べず、幼いときから人の荷物をかつがなければならなかったし、はずかしめもうけなければなりませんでした。

いまわが祖国は解放されたが、あの子どもたちは東北の地で、なすすべもなくすごしていることでしょう。われわれが、そしてあの子どもたちの両親が、なんのために血を流してたたかったか？　それはいうまでもなく、人民とつぎの世代のしあわせのためでした。あの子どもたちを必ずつれてきてください。勉強もさせ、両親の遺志をつがせなければならないのです」

首相は、どこそこには、いつ、どこで犠牲になったただれそれの息子がいるはずであり、またどこには、いつ、この戦闘でたおれたただれそれの子どもがいるはずだからとこまごまと教え、どんなことがあっても必ずつれてくるようにと指示した。

こうして、祖国のいたるところから、中国東北の地から、慈愛にみちた首相を慕って革命家の遺児たちが集まってきた。

一九四七年八月三日、首相は学院に多数の遺児たちが到着したという知らせをうけ、いそいでピョンヤン近郊の間里（カンリ）にむかった。

かたときも忘れたことのない首相の姿を見ると、遺児たちは先をあらそって「将軍さま！」と叫び声をあげながら、首相の胸のなかへとびこんできた。

「よしよし、みんな、ずいぶん苦労しただろう……」

子どもたちを抱きかかえるようにして、その背をさすりながらこうつぶやく首相の目は、熱い涙でぬれていた。

遺児たちはまるで、日本帝国主義をうちたおして帰ってきた父親に再会したかのようによろこび、父母を失ってさまよっていた自分たちをこうしてあたたかくむかえいれ、学ばせ、いつくしんでくれる首相を見て、声をあげて泣きぬれた。

順番に遺児たち一人ひとりの名前をきき、いままでの生活や親戚のことなどをこまかくきいた首相は、やがてつぎのように話した。

「……きみたちの両親は、祖国の自由と解放のために、最後の血の一滴までささげてたたかった熱烈な革命闘士たちだ。

きみたちの両親はむかし、わたしといっしょに白頭山一帯で銃をとり、悪らつな日本帝国主義と勇敢にたたかったが、祖国の解放を見とどけないまま、惜しくもこの世を去ってしまったのだ。

しかし、きみたちの両親は、息をひきとるまぎわにも、やがて祖国が解放された暁には子どもたちを勉強させ、りっぱな革命家に育ててほしいという遺言をのこした。

だからわたしは、きみたちの両親のその遺言をかたときも忘れず、祖国が解放されたら学院を建て、革命家の子どもたちを国で育てようと考えてきた。

そうしていま、わが党と人民政権は、こうして学院を建てたのだ。

だからきみたちは、両親の志をついで、りっぱな革命家にならなければならない。……」

万景台革命学院の食堂を見まわる金日成首相

首相は、熱心に学び、りっぱな革命家になれとくりかえし強調し、子どもたちと別れた。
　金日成首相は、当時まだ国情が困難であったにもかかわらず、まずこの子どもたちのために大きくてりっぱな学院を建て、何不自由なく学べるようにしてやらなければならないと考えた。
　一九四七年八月のある日、首相は多忙なあいまをぬって、学院の敷地をきめるために万景台にむかった。
　万景峰にのぼった首相は、生い茂る雑草をかきわけ、一番景色のすばらしい場所をえらんだ。
　やがて学院が建った。
　一九四七年十月十二日、学生たちが待ちこがれていた開院式の日がやってきた。首相もこの日を心待ちにしていた。
　新しい制服に身をつつみ、運動場に整

列した学生たちは、父なる金日成首相を熱烈な歓呼でむかえた。

首相は感激も新たに、学生たちをたのもしげに見わたした。

革命の先烈たちの志をつぐ意味で、袖口とズボンの両脇に太く赤い線がはいっている制服姿の遺児たち、それを主席壇でたのもしげに見やる首相の表情には、満足そうな笑みがただよっていた。

ひろい運動場は、遺家族、党および政権機関、社会団体の代表たちと抗日パルチザン参加者たちでうめつくされた。

金日成首相はまず、祖国の自由と解放のためにたたかい、きょうのこのよろこびをともにすることなく世を去った革命同志たちのために、しばし黙悼をささげることを提案した。

つづいて首相は演説で、いまは亡き抗日革命闘士の英雄的なたたかいをふりかえり、学生たちは必ず国のりっぱな働き手に、熱烈な革命家にならなければならないと強調した。

開院式の参加者たちは深い感動につつまれた。

日本帝国主義統治下の暗い日々には、東北の各地に遊撃根拠地をつくり、そこへ飢えにさいなまれていた人民と革命家の家族を移すために心をくだいた金日成将軍――、その将軍がいまは、祖国の解放のためにたたかってたおれた革命家の遺児たちをふところにいだき、心ゆくまで学ばせるためにりっぱな学院を建てたのである。遺家族の胸は、首相にたいする感謝の念でうちふるえ、ハンカチを目にあてたまま顔をあげることもできなかった。

開院式が終ると、運動場では多彩な運動会がひらかれ、首相も学生たちといっしょに、たのしいひとときをすごした。

運動会でとくに人気を集めたのは、幼い生徒たちの来賓さがし競争であった。出発点から走ってきた生徒たちが紙きれを一枚ずつひろって幹部の名をよぶと、首相はその場にたちあがって幹部たちの腕をひっぱり、「崔庸健(チュエヨンゴン)同

志、早く早く！　あっ、金策同志、おそいぞ、いそいで！」とせきたてた。首相は、子どもたちの手をとって走ってゆく幹部たちの後姿を見て、手をたたきながら笑った。
学生と遺家族たちの胸は、父なる領袖のふところにいだかれた幸福感でみちあふれた。
金日成首相は、その後も一年に二、三回ずつ学院をたずね、遺児たちの生活に気をくばり、学院がすすむべき方向について一つ一つ教えた。
首相は、遺児たちを革命家に育てるためには、まず革命の先烈たちの志を正しくうけつがせなければならないと指摘し、かれらが軍事と政治をよく知り、あらゆる部門にわたって知識を習得できるよう対策を講じた。
一九四八年十二月十一日、万景台革命学院をたずねた首相は、遺児たちにつぎのような内容のことを話した。
……学生たちの第一の課題は、革命先烈の志を正しくうけつぐことである。
きみたちの両親は革命的節操を守り、祖国の解放のために最後までりっぱにたたかった。だから、きみたちは父母の志をつぎ、りっぱな革命家にならなければならない。
革命事業というものは、やさしいことではない。われわれが白頭山一帯でたたかっていたとき、日本帝国主義者はわれわれを見て、パルチザンは「大海のなかの粟粒にすぎない」と、あらんかぎりの誹謗と中傷をした。しかしわれわれは、屈せず最後までたたかって勝利した。
きみたちもこうした必勝の信念、不屈の闘争精神で武装しなければならない。
つぎに、きみたちは、みんなの両親が果たせなかった革命の偉業をうけつぎ、祖国を統一させなければならない。
党と政府は、みんなを宝のようにたいせつにし、心をくばっている。
きみたちは、わが革命のつぼみである。

きみたちは、政治と軍事学をよく学ばなければならない。政治と軍事をよくかねそなえてこそ、有能な働き手になることができる。

そして、一般の科学知識もよく知らなければならない。物理も知り、数学も知り、化学も知り、わが国の歴史と地理もよく知らなければならない。そうしてこそ、全面的に発展した、すぐれた働き手になることができるのだ。……

首相のこのことばは、遺児たちにたいする教育の指針となった。

このことばのなかには、革命家の遺児たちを、革命闘争でたおれた父母のように党と革命のためにはすべてをささげてたたかう熱烈な愛国者に、りっぱな革命家に育てようという、首相のかぎりない志がひめられているのである。

国と民族の運命をかけていた祖国解放戦争の峻厳な日々にも、金日成首相は数多くの保育園や初等学院、軍事学院などを設立し、戦争で犠牲になったすべての愛国烈士の遺児たちを育てるのに心をくだいた。

戦争の砲火がやむと、首相はすぐ、戦死した人民軍勇士と犠牲になった愛国烈士の遺児たちのために学院の敷地をととのえさせ、多忙な日々にも、父母を失ってさびしく暮らしている遺児たちをのこらずさがしだして学院へおくった。

一九五五年の夏、首相が平安北道の昌城をたずねたときのことだった。自動車がとある橋にさしかかったとき、勉強を終えた薬水（ヤクス）中学校の人民班の生徒が歌をうたいながら家路についていた。

いつも子どもたちに出会うと、なにかひとことやさしく話しかけなければ気のすまない首相は、この日も子どもたちを見つけると、手招きしてよびよせた。

走ってきた子どもたちから少年団の敬礼をうけた首相は、にこにこしながら子どもたちの頭をなでた。首相は、学校が遠くてたいへんだろうといいながら、この村からかよう生徒の数はどれくらいいるのか、からだのよくない

子どもはいないかなど、いろいろやさしくたずねていたが、ふと、素足でたっている許南雄少年を見て顔をくもらせた。

「家にはだれがいるの?」

「おばあさんと母がいます。……それから弟が二人います」

「お父さんは?」

少年は口をつぐんだままだった。

「お父さんはいないのかね?」

首相は腰をかがめ、少年の顔を見つめながら静かにきいた。

「父は戦死しました」

少年は口ごもるように、やっとこうこたえると、すぐ涙をうかべ、うなだれてしまった。

首相は少年をぐっと抱きよせると、頭をなでてやりながら、しばらくは無言のままだった。

少年は手の甲で涙をぬぐうと、頭をわずかにもたげた。

「これを見なさい。この子どもに靴一つ満足にはかせてやれないのに、それでもこの子は、わたしに挨拶をしてくれるのだ……」

首相はこうつぶやくと、沈痛な面持で遠い空を見やった。

砲声がやんで、わずか数日しかたっていないのに、戦争の傷あとをいやす困難なたたかいのなかでも、片田舎の一少年に靴をはかせることに心をくだき、素足の子どもを見ては胸を痛める首相——、その首相の姿にうたれて、同行した人びとは目がしらをおさえた。

「さあ、頭も刈って、靴も買ってはこう……」

首相はこういいながら、少年のほおをハンカチでぬぐってやった。
少年を車にのせた首相は、「石ころ道では足が痛いだろう？　けがでもしたら、たいへんじゃないか。学校へもゆけなくなるし……」といいながら、なんども少年の頭をなでた。
首相は南雄少年の家をたずね、その家族たちと会った。
金日成首相は、南雄少年の二人の弟たちをまえにすわらせて頭をなでながら、その祖母と母親にむかい、生活で困っていることはないかとくわしくたずねた。首相のあたたかい心づかいに祖母と母親は声をつまらせた。
首相は南雄少年の三兄弟に靴を買いにやらせた。首相は時間がなかった。予定の時間はとっくにすぎていたが、首相は子どもたちが靴を買ってくるのを見てから出発しようといって、庭にたったまま待っていた。
やがて、子どもたちをのせた車が帰ってきた。パリパリの新しい靴をはいた三兄弟が、いそいそと首相のまえに走りよった。
南雄少年は元気よく少年団の敬礼をしたが、「首相さま！……」というと大粒の涙をこぼしてしまった。
「……靴を買ってくださって……、一生懸命に勉強します……。一生懸命に……、勉強します……」
そして南雄少年は顔をそのまま首相の胸にうずめ、泣きじゃくるのだった。
少年の母親も目に涙をいっぱいうかべながら、「この子ったら、首相さまに……、そんなご挨拶のしかたがありますか、まったく……」といったきり、声をつまらせてしまった。
金日成首相は無言で少年の背中をさすり、涙をふいてやった。少年は泣くまいとしていたが、とめどもなくあふれる涙をどうすることもできなかった。
南雄少年の家族は、遠ざかっていく首相の車を、ただ涙で見おくるばかりだった。
その後、金日成首相はふたたびこの家をたずね、南雄少年を万景台革命学院に入学させる手続までとったのだ

った。

首相のこうしたいつくしみをうけ、すくすくと育っている遺児は、許南雄少年だけではなかった。

首相は延安郡梧峴里(オヒョン)をたずねては、敵に父母を殺された趙百淳(チョベクスン)少年のためにわざわざ自動車をむかえにまでやって革命学院で学ばせ、安岳(アンアク)郡路岩(ロアム)里では敵に父親を奪われた李哲国(リチョルグク)兄弟をつれて帰り、学院に入学させたりもした。

遺児たちを宝のようにたいせつに、いつくしみ、何不自由なく幸福に育てる首相のかぎりない愛は、じつの肉親でさえおよばぬほど、生活のすみずみにまでゆきわたっていた。

一九六六年十一月七日、海州(ヘジュ)革命学院をたずねた首相は、学生たちの元気な歓迎行進を見て、たいへんりっぱだったとほめたあと、学生たちの帽子を手にとり、子どもたちはりっぱだが帽子がよくないと指摘し、子どもたちの気にいるようになおしてやるべきだと語った。また首相は、隊列を見てまわりながら制服や下着、靴にいたるまで気をくばり、寒くはないか、病気の学生はいないかとこまかく気をくばった。

食堂では献立表を見て、毎日、豆腐や肉類をだし、子どもたちの好きなおかずをつくってやらなければならないとのべた。

寝室では、ふとんやベットの下までのぞいて見て、ふとんがあまり厚すぎては子どもたちの成長によくないといいながら、もう少し薄くして刺し子縫いにしてやり、部屋の温度も子どもたちの発育をそこなわぬよう、適温を保つようにしなければならないと語った。

こんなこともあった。

一九六〇年八月十六日、万景峰のふもとの大同江で何人かが釣をしていた。そのとき、思いがけなく金日成首相が姿を見せた。

首相はかれらと気さくに話をかわし、そのなかの一人に、どんな仕事をしているのかとたずねた。
ところがその人はすぐには返事ができず、耳もとまで真っ赤にしてもじもじしていた。
かれは万景台革命学院の理髪師であった。むろん自分の仕事に愛着を感じてはいた。しかし、首相からじかに職業をきかれると、製鋼所の溶解工だとか、汽車の機関士のようなたくましい職業であれば、いかにも誇らしく返事ができるのにと考えてしまい、なぜか理髪師である自分がみじめに思えてならなかったのである。
かれは口ごもりながら、やっときこえるくらいの声で、「わたしはただの……、学院の理髪師でございます」とこたえた。
川のほとりを何回も往き来していた首相は、これをきくと微笑した。
「ほう、理髪師、学院の理髪師かね。じつにすばらしい仕事だ。たのしいでしょう。毎日、あのかわいらしい子どもたちの頭をなでてやれるんだから……。残念ながらわたしは、仕事がいそがしくてそれができない……。あの子たちの面倒をよくみてあげてください」
首相は足をとめると、うらやましそうに理髪師を見つめ、こんな内容の話をした。
「……わたしたちの未来――、わたしたちの子孫――、やがてこのすばらしい社会をうけつぐ子どもたちですから、花よりもきれいで、黄金よりも貴いのです。そうではありませんか。あなたは、じつに、すばらしい仕事をしていますすよ……」
首相のことばに強く感動した理髪師は、世の中にはいろいろな職業があり、だれもが自分の仕事を誇りにしているが、なかでも理髪師の仕事が最高であるように思えてきた。そして、遺児や子どもたちにたいする首相のなみなみならぬ愛情に心をうたれ、自分の浅はかさを悔いるばかりであった。
金日成首相は、このように革命家の遺児たちをいつくしみながらも、決して愛におぼれ、甘やかすようなことは

なかった。鋼鉄が炎のなかできたえられるように、革命家は、たゆまざる修養と実践活動のなかで鍛練されなければならなかった。

首相は、革命家の遺児たちがおのれの本分を忘れず、党と革命にかぎりなく忠実であり、アメリカ帝国主義を追いはらい、南朝鮮を解放する革命闘争で、いかなる難関にもうち勝つ不撓不屈の闘士に、有能な政治活動家に成長するようさとした。

一九五八年十二月二十一日、南浦革命学院をたずねた首相は、学生たちにつぎのようにのべた。

「……きみたちは、もっと勉強しなければなりません。きみたちの両親や親戚の人たちは、アメリカ帝国主義に反対してたたかい犠牲となったのですから、きみたちは、敵がだれなのかをかたときも忘れてはなりません。

アメリカ帝国主義は、わが民族の敵であり、階級の敵なのです。

きみたちの両親は、地主や資本家たちに搾取され、抑圧されて苦しんできました。

わたしたちの敵であるアメリカ帝国主義と地主や資本家たちを憎み、かれらのために、きみたちの両親が虐殺されたことをかたときも忘れてはなりません。……」

首相は、革命家遺児学院の教職員や幹部たちにも、つねに、子どもたちをやたらにかわいがるだけでなく、正しく育てなければならないとさとした。

一九五九年五月二十二日、海州革命学院を訪れた首相は、学院の教育綱領を検討して、「あまり大事にしすぎて、甘えさせてはいけない。鍛練させなくては――」と語り、その教育方法を具体的に教えた。

首相は、ピョンヤン見学もさせ、黄海製鉄所へいって労働者のたたかう姿も見せてやるべきだとのべながら、行きは歩いてゆき、帰りは汽車にするのがよいとのべ、行軍の途中の食事は自分たちでつくらせ、テント生活もさせるようにと教えた。

首相は万景台革命学院でも、学生たちを蝶よ花よと育てては、なんの役にもたたない人間になってしまうと指摘し、小さいときから自分のことは自分でする習慣をつけさせなければならないとさとした。

首相は、遺児たちを幼いときからきたえてこそ、いかなる難関にも、試練にもうち勝つ、革命的な意志がそなわるのだと教え、革命戦跡地の踏査やキャンプ生活もさせなければならないとのべた。そして村にはいれば、抗日遊撃隊員のように家の庭をはいたり、人民をたすけるようにしなければならないと教えた。

首相は、このように遺児たちを育てることがとりもなおさず、犠牲となった革命家たちにたいする同志的義理を果たすことであり、またそのようにしてこそ、われらをりっぱな革命家に育てることができ、朝鮮革命の明日を安心してまかせることができるのだと考えた。

金日成首相は、かつて抗日武装闘争のときに、遺児たちを育てながらこうのべている。

「……われわれは、将来の祖国の運命を双肩にになってゆく働き手を育てている。この子たちは、祖国が解放されるその日まで靴をぬぐいとまもなく山野をかけめぐり、たたかわねばならない闘士たちである。われわれは、この子どもたちが、いかなる困難や難関にもひるまずにつきすすんでゆく、不撓不屈の革命家に育ててあげなければならない。

だからたとえ、きょうは胸が痛んでも子どもたちにはきびしくし、よくないことをしたときには叱ってやらなければならない。子どもたちを真に愛することは、ただ子どもたちの欲するままにさせることではなく、革命家として、りっぱな共産主義者として育つように教え、導いていくことなのである。……」

学生たちは生活のなかできたえられた。

金日成首相の熱い愛と懇切な教えをうけ、革命家の遺児たちは国の柱として育っていった。

首相のふところにいだかれて二十余年、この間、遺児たちは政治、軍事的にしっかりと武装され、知、徳、体を

かねそなえ、全面的に発達したたくましい革命家に成長した。
かれらのなかには人民軍の将領もおり、党と国家と社会団体の重責をになう幹部もいる。また祖国解放戦争のときと戦後に、亡き父母のように不滅の偉勲をうちたてた英雄たちもいる。
一九六七年十月十一日の午後、金日成首相は万景台革命学院を訪問した。学院創立二十周年を明日にひかえた教職員や学生、卒業生たちの胸は熱い感激にふるえた。
父なる領袖のいつくしみのなかで、たくましく育ってきた卒業生と在学生たちは、首相をまえにして、これまで自分たちがなしとげてきたことを一部始終話した。
深い愛をこめて育て、たくましく成長したわが子の晴れ姿を見る父母の心情が感無量であるように、あれほど心をくだき、いつくしんできた革命家の遺児たち、同志の忘れ形見——、そのたのもしい姿を見あげる首相の心はいかばかりであったろうか。
首相は満面に笑みをたたえ、遺児たちの話をきき終わると、こう語った。
「きみたちは父母が果たせなかった志をついだし、革命的なわが党のふところで育ったのだから、代をついで革命の花をひきつづき咲かせなければならない。これは学院創立のときにわたしが話したことだが、きょうもまた、このことをいおうと思う。
きみたちの父母は、十五星霜にわたって日本帝国主義に反対する困難なたたかいをおこない、またわが党と人民軍隊は、この抗日武装闘争の栄光に輝く革命伝統をうけついでいる。抗日武装闘争のときや、あの祖国解放戦争のときに犠牲となったきみたちの父母は、みな祖国と人民のために日本帝国主義とアメリカ帝国主義に反対してたたかい、最後の勝利を見ることもなくこの世を去った。
まだ、われわれの革命の大業は完成されていない。われわれは祖国ののこり半分を完全に解放しなければならな

いし、またそこでも、北半部と同じく社会主義社会を建設しなければならない」

われわれは敵がいるかぎり革命をつづけなければならず、革命の代をしっかりとついでゆかなければならない。

偉大な父、金日成首相の教えを胸深く刻む卒業生と在学生の顔には、党と領袖に最後まで忠実であろうとする鋼鉄のようなかたい決意がみなぎっていた。党と領袖の近衛隊として、革命戦士としてのかれらの誓いと決意は、祖国と革命の未来をしっかりと約束するものとなった。

こうして、金日成首相がふところにいだき、いつくしみ、はぐくんできた革命家の遺児たちは、祖国のいしずえとして、柱として成長し、革命のたのもしい骨幹部隊となったのである。

5 「花は咲きつづけなければならない」

金日成首相のあたたかい配慮の手がさしのべられていないところはない。

すべての人によろこびと力をあたえる首相は、栄誉軍人にも生きる誇りと幸福をもたらしてくれた。

栄誉軍人は、三年間の祖国解放戦争で祖国を死守して傷ついた人民軍の将兵たちであり、パルチザンたちであり、敵の蛮行によって重傷をうけた愛国闘士たちである。

栄誉軍人をたいせつにし、いつくしみ、革命の花を咲きつづけさせるのは金日成首相の気高い徳性であり、偉大な政治の一部分である。

首相はこうのべた。

「かつて、敵の拷問をうけながら獄中生活をおくり、地下活動をした人がおり、また武器を手にとり、白頭の密林のなかで艱難辛苦をなめながら日本帝国主義に反対してたたかった闘士たちがいたからこそ、解放後わが党が創

建されたのであり、われわれの輝かしい祖国——朝鮮民主主義人民共和国が生まれたのだということを知らなくてはなりません。また多くの同志たちがかつての祖国解放戦争で血を流し、命をかけてたたかったからこそ、わが党と祖国が守られたのであり、わが人民は勝利することができたのであります。……

かれらが血を流さず、犠牲をはらってたたかわなかったら、こんにちのわが党も、わが祖国もありえないし、わが人民の幸福もありえなかったでしょう」

このように、金日成首相は栄誉軍人をこよなく貴重に思い、かれらにとくに気をくばることを共産主義者の当然の義務とみなした。

戦傷者にたいする問題は、かねてから多くの国ぐにで複雑な社会的問題となっていた。これは戦傷者がだれのために、なんのためにたたかったのかによって、おのずと異なってくる。

凶悪な帝国主義の侵略から人民の自由と、国の自主権を守る正義の戦争で勇敢にたたかって負傷した場合、それは栄光に輝く偉業である。だが侵略と略奪のための戦争にかりだされ、恥ずべき犠牲を負った場合には、悲惨な運命からのがれることはできない。

資本主義社会では、不具となった軍人は社会ののけものとされ、乞食同然となる。かれらは、黄金に目がくらんでいる独占資本家とその手先たちから結局職場もあたえられず、また被圧迫人民と被搾取階級に反対する恥ずべき戦争に参加した罪によって、社会の尊敬と愛をうることもできないのである。

祖国と人民のためにたたかう戦士であってこそ、はじめて人民の愛と尊敬をうることができるのであり、人民が国家の主人となった社会主義制度のもとにおいてはじめて、栄誉軍人は党と国家の恩恵をうけることができるのである。まさに朝鮮の栄誉軍人は、祖国の統一独立と自由と栄誉のために、アメリカ帝国主義侵略者に反対する戦争で高貴な血を流したがために、社会全体の崇高な愛と尊敬をうけているのである。

金日成首相は、かつて栄誉軍人にこう語った。

「祖国のために血を流したあなたたちこそ、党の一番貴い中核であり、わが国における重要な骨幹である」

そして首相は、かれらを大事にし、特別な関心と配慮をはらうのを惜しまなかった。

首相は祖国解放戦争の困難な時期に、すでに栄誉軍人にたいして国家的な配慮をはらった。戦争がもっとも苛烈をきわめた一九五一年四月十三日、首相は、祖国解放戦争によって不具者となった人民軍将兵およびパルチザンたちと、敵の蛮行によって不具の身となった愛国闘士たちを国家で保護し、かれらにその労働能力の喪失程度に応じて技術技能教育をおこない、仕事ができるようにする栄誉軍人学校設置にかんする内閣決定を発表した。

また一九五一年八月には、栄誉軍人に社会保障を適用する内閣決定を採択し、それまでかれらにあたえられていた社会国家的な恩恵を法的にさだめた。

金日成首相は栄誉軍人のため、金日成綜合大学、金策工業大学などいくつかの大学に栄誉軍人班を設けさせ、そこで大学過程をうける予備知識がそなわれば学部に移せるようにした。

中央党学校や人民経済大学をはじめ政治学校にも栄誉軍人班を設置し、かれらを党と国家のりっぱな幹部となるように教育した。

首相は工場や企業所など、あらゆる部門で栄誉軍人を優先的に働かせるようにした。一グラムの鉄、ひとにぎりのセメントもたいせつにしていた戦後のきびしい条件のもとでも、栄誉軍人の不便な身を憂慮して機械化、オートメ化された栄誉軍人工場や栄誉軍人生産協同組合を特別につくり、資金と運輸機材にいたるすべてのものを十分にあてがい、かれらが社会主義建設に献身できるようにした。

首相は、栄誉軍人の出退勤の便にも心をくばり、バスをだしたり自転車や三輪車まであたえたりした。また病床に伏している栄誉軍人のために鹿茸（ロクギョン）や山蔘（サンサム）（いずれも高貴薬）をおくったり、またラジオや楽器などをおくってな

ぐさめたりした。

首相のいつくしみによって、各地に栄誉軍人のための栄誉戦傷者病院、療養所、栄誉軍人保養所などが建てられ、栄誉軍人工場には産業診療所が設置されて、無料で高価な薬をあたえている。

こうして栄誉軍人は、すばらしい文化施設と特設のサービス施設を利用して何不自由なく働き、生活しているのである。

栄誉軍人にたいする金日成首相のかぎりない愛と配慮は全人民を感動につつみ、だれもがかれらをたいせつにするという社会的な美風を生んだ。

金日成首相は、栄誉軍人が生きるよろこびを感じ、社会主義建設で模範をしめすようにはげました。

一九五九年十月十七日、首相は、全国地方産業および生産協同組合熱誠者大会に参加した栄誉軍人たちに会った。

金日成首相は、栄誉軍人工場支配人から、かれらの生活のようすをくわしくきいた。

栄誉軍人は、めいめいが自分たちの生活のようすをつぶさに話した。たとえ不具の身ではあっても、金日成首相のあたたかい配慮によって何一つ不自由をしていないこと、そして生産だけでなく、学習でも大きな成果をおさめていることなどを話した。

かれらの話にじっと耳をかたむけていた首相の顔には、満足感とよろこびの色がただよっていた。首相は、祖国のために命をとして敵とたたかい、不具となった栄誉軍人が、戦後の廃墟をかきわけ、各地で工場を建て、生産協同組合を組織して社会主義建設に献身していることをほめたたえた。

「祖国愛が非常に強く、わが党と党中央委員会を守る気持が強いあなたたちは、戦時中は血を流して祖国を守り、きょうは誇りある労働によって祖国の繁栄と社会主義建設に貢献しています。あなたたちのこのような英雄的

なたたかいは、わが労働党が育てた真の赤い戦士としての行動であります」

そして首相は、栄誉軍人が生活で困っていることはないか、仕事でつらいことはないかといろいろと気づかい、幹部に、かれらの生活の面倒を親身になってみてあげるようにとさとした。

金日成首相は、栄誉軍人のすすむべき道をふたたびこう教えた。

「花はひきつづき咲きつづけなければなりません。かつて革命運動をした人に会うと、わたしはいつもこういいます。きのう花が咲いていたのなら、きょうも咲いていなければなりません。きのう革命闘争をよくしていたのに、きょうはやめていれば、きのうはきれいな花であったのが、きょうはもう枯れてしまっているのとかわりありません。……ですから栄誉軍人のみなさんも、かつて自分は祖国のために血を流し、花を咲かせたとすれば、いまでも花を咲かせるようにし、これからもひきつづき咲かせようという覚悟をきめて、党と祖国のためにつねにたたかい、つねに努力しなければなりません」

栄誉軍人は、不便な身でありながらも安逸と沈滞を吹きとばし、金日成首相の教えを忠実に実行した。

咸興の栄誉軍人紙加工日用品工場の栄誉軍人とその妻たちは、自力で工場を建て、ビニール製品を生産した。手のないものは義手をはめ、目の見えないものは情熱と感覚を手先に集中させて働いた。

身動きのできないピョンヤンの一栄誉軍人は、病床に伏しながらも詩を書き、社会主義建設にたちあがった人民をはげましたし、失明した一栄誉軍人は、領袖にささげる忠誠の歌を作曲して大劇場の舞台にのせた。

いつ、いかなるときにも咲きつづける、革命の赤い花にならなければならないという首相の教えは、かれらの生活の信条となった。

金日成首相は、祖国の津々浦々で革命の赤い花を咲かせている栄誉軍人をたのもしげに見つめていた。しかし、不具の身で、仕事に精をだしているかれらの身を案じない日はなかった。

一九五八年五月のある日、咸鏡北道吉州(キルジュ)栄誉軍人作業所をたずねた首相は、両腕のない一栄誉軍人の義手にみずから万年筆をにぎらせ、字を書くその軍人の動作をじっと見つめて顔をくもらせた。

首相は、かれらが戦時中に勇敢にたたかったように、社会主義建設において模範となっているという話をきき、

「……みなさんは、からだを無理してはいけない。だからみなさんは、仕事はしても決して無理をしてはいけない。食欲がでるくらいに仕事をするほうがよい。しかし、人間は遊んでばかりいると食欲がなくなるものだ。だからみなさんは、仕事はしても決して無理をしてはいけない。食欲がでる程度に働くのが一番いいのだ」と語り、かれらの健康を気づかった。

一九五九年三月十五日、首相は国の北端の地雄基(ウンギ)をたずねたときも、まず栄誉軍人たちと会った。

「ほんとうにうれしい。わたしは、みんなといるときが一番うれしいのだ」

金日成首相は栄誉軍人一人ひとりの手をにぎり、祖国解放戦争のきびしかった日々を感慨深げに思いかえし、不便な身で生産にはげんでいるかれらをほめたたえた。

首相はかれらがつくったボタンを見て、よくできているとほめながら、「これ、もらっていってもいいかね？　みんながつくったボタンをもっていってつかおうと思うんだが……」といい、ボタンをいくつか手にとった。

それより良質のボタンがピョンヤンにはいくらでもあった。しかし首相は、ここでつくられたボタンは貝でつくった粗末なボタンではあったが、そのなかに栄誉軍人の貴い魂がこもっているからというのだった。

栄誉軍人のいるところ、首相の愛といつくしみにみちた感動的な話がないところはなかった。

一九六七年六月十三日、咸興地区を現地指導していた首相は、咸興栄誉軍人紙加工日用品工場をたずねた。

ひたすら首相を信じ、そのいつくしみのなかで何不自由なく暮らしてきた栄誉軍人たちは、自分たちの生活が見てもらえるよろこびでわきたった。

車からおりた金日成首相は、やさしい微笑をうかべて栄誉軍人の手をかわるがわるにぎりしめた。

「からだの具合はどうかね？」

こういいながら首相は、不自由な手足を動かしながら歓迎してくれる栄誉軍人たちをあたたかくむかえた。

首相がローラー職場をのぞいたとき、ローラーからは塩化ビニールのうすい膜が流れでていた。

栄誉軍人とその妻たちの働きぶりを見つめていた首相は、うすくてねばりけのある塩化ビニールの膜を手でさわってみて、やはり栄誉軍人の一人である支配人の肩をたたきながら、「厚さがこれくらいなら、りっぱなものだ」といって、非常に満足そうな表情をしめした。

首相は、不便なからだで案内にたった支配人が、それほど勾配の急でない階段で、「首相さま、ここに階段がありますから」といって先に歩こうとするのをおしとどめ、かれの腕をとり、かえって支配人をかかえるようにしておりていった。

首相はどの職場でも栄誉軍人の働きぶりをつぶさに見てまわり、いとしいわが子を見守る父親のように、一つ一つほめては激励のことばをかけるのだった。

工場をひととおり見終わると、首相は、レインコート職場のまえの木かげに腰をおろして、支配人と初級党秘書をそばによび、りっぱにととのった工場の構内を見わたしながら、「みんなに、よく働いてくれたとつたえてください。工場がとてもきれいです。気持よく整備されています。栄誉軍人たちが党と国家のために、こうして働くことは大きな貢献となります。みんな党のためにりっぱに働きました。祖国のために最後まで血を流してたたかい、いまもりっぱにたたかっています」と語った。

かれらの胸は、形容できないほどのよろこびと幸福感でみたされた。

首相は、いっしょに写真を撮ろうといって席をたった。

かたときも忘れたことのない首相と、思いがけず写真をいっしょに撮れるというので、栄誉軍人とその妻たちは

心をときめかせて家にもどり、したくをして集まってきた。
金日成首相は、幾重にもまわりをかこんでいる栄誉軍人とその妻たちを見わたしてから、「どうして婦人たちをうしろにたたせるのですか？ 家庭婦人の苦労はなみたいていではないのに、一番うしろにたたせて撮るのはいけません。まあ準備したんですから一枚撮って婦人たちをまえにならばせ、もう一枚うつしましょう」といった。
首相のことばに、いあわせた人びとすべてが、とくにだれよりも夫の不便なからだを気づかい、いつもかげになってささえてきた婦人たちはみな目がしらを熱くした。
かれらは、興奮と感激のなかで写真を撮り終わると、今度は婦人たちをまえにならべてもう一枚撮影した。
やがて首相が帰路につく時刻がきた。
栄誉軍人とその妻たちは感激をおさえきれず、いっせいに万歳を叫んだ。そして首相を見おくるため、工場の正門につうじる道へと走っていった。
ところが、車の方にむかって歩きかけた首相は、なにを思ったかうしろをふりかえり、急に先ほど写真を撮った場所へと足を早めた。
そこには、両足を失った一人の栄誉軍人がすわっていた。かれは、みんなのように走っていって首相を見おくることができないために、せめてもと、声をかぎりに万歳を叫んでいたのである。
思いがけず、首相が自分の方にひきかえしてくるのを見たかれは、感激のあまり、涙でぬれたほおをぬぐおうともせず、いまにもとびだしそうに全身をうちふるわせ、「万歳！ 万歳！」と叫びつづけた。
首相は、熱い涙をとめどもなく流しているかれのそばにかけよると、その両手をかたく、かたくにぎりしめた。
あまりの感激に、かれは身をよじらせてむせび泣いた。

一人の栄誉軍人の傷痕に、これほどまで心を痛める首相の姿に、ほかの栄誉軍人とその妻たちも思わずほおをぬらした。そして「金日成首相万歳！」を叫びつづけたのである。

金日成首相は涙にぬれている栄誉軍人とその妻たちを見やりながら、熱くこみあげてくるものをおさえるようにして車の方へ歩いていった。

栄誉軍人たちは、車内でそっとハンカチで目がしらをおさえている首相の姿を見て、いっそう深い感激の涙を流した。

栄誉軍人をわが子のようにいとおしむ首相の愛！　その大いなる愛をはかりうるものが、果たしてこの世にあるだろうか！

この大いなる愛によってこそ、岩をもくだき、川をもわきたたせた戦火のさなかでも、また、戦後のたびかさなる難関にも寸分もひるまず勇敢にたたかい、建設をすすめ、勝利したのではなかったか――、また、この大いなる愛によってこそ、人びとの心はつねに偉勲にはせる思いで燃えたぎったのではなかったか！

まさに、この偉大な愛、この不滅の力があったからこそ、栄誉軍人は革命的楽観主義にみちあふれた笑いをとりもどし、真の不屈の革命闘士に育つことができたのであり、革命にかぎりなく忠実な戦士として、とわに咲きつづける革命の赤い花となることができたのである。

6　金城鉄壁のとりで

アメリカ帝国主義者と直接対峙している北半部では、革命と建設において国防力の強化に大きな力をかたむけなければならなかった。

アメリカ帝国主義者は南朝鮮を完全に軍事的侵略基地にかえ、数万の侵略軍と六十万をこえるぼう大なかいらい軍を擁し、戦争準備にいっそう躍起となっていた。

アメリカ帝国主義はかいらい軍を増強し、大量殺りく兵器をはじめ各種の軍事技術装備をたえずひきいれながら、南朝鮮で戦時動員態勢をととのえる一方、軍事境界線一帯で北半部地域にたいする戦争挑発行為をひっきりなしにおこなった。

アメリカ帝国主義者は「韓日条約」なるものをたてに、日本軍国主義者をはじめアジアの反動と南朝鮮のかいらいどもをかき集めて、新たな侵略的軍事同盟のでっちあげに血眼となる一方、南朝鮮の軍事力をベトナム戦争に投入するなど、アジア侵略の目的達成のため狂奔していた。

朝鮮とアジアの全域において、ますます拡大されてゆくこうした戦争の危険を洞察した金日成首相は、社会主義の獲得物をしっかりと守るよう国防力を鉄壁のごとく強化し、敵のいかなる挑発をも一撃のもとにうちくだく万端の用意をととのえることをもっとも重要な問題とみなした。

金日成首相は、こうした全般的情勢の諸要求から出発して、ぼう大な経済建設とともに国防力をそれこそ金城鉄壁のようにかためるために多くの力をそそいだ。

そのため首相は、自衛の路線を徹底的に堅持しながら、その具現である全軍の幹部化、全軍の現代化、全民武装化、全国要塞化を基本内容とする軍事路線の全面的貫徹へと全党と人民をふるいたたせた。

金日成首相は朝鮮人民軍を創建し、これを育成強化する全過程において、軍隊の幹部化と現代化を軍事路線の重要な構成部分としてうちだした。

首相のしめした軍隊の幹部化とは、戦争がおこった場合、すべての軍人がみな一階級うえの職務を遂行できるよう政治思想的に、軍事技術的にかれらを準備させる方針をいうのである。

これは人民軍隊の戦闘力をたえず強化し、現在の人員で祖国防衛の任務をりっぱに遂行できるばかりでなく、軍事指導幹部の予備をつねにふやし、いったん有事の場合には、人民軍の武力を急速に拡大しうる賢明な方針である。

軍隊の現代化とは、現代戦の要求にそうよう、人民軍を現代的兵器と戦闘技術機材でかたく武装させ、すべての軍人が最新式の兵器をりっぱにあつかい、現代的軍事科学と軍事技術を十分に所有し、活用できるようにすることである。

これは人民軍を政治思想的に、作戦戦術的だけでなく、現代的軍事技術機材で武装させることによって、一騎当千の革命武力に強化するもっともすぐれた方針である。

金日成首相は、全軍の幹部化、全軍の現代化の方針をつらぬくための課題も明らかにしめした。

首相は、軍人のなかで政治思想活動を強化し、かれらを党の唯一思想で、社会主義的愛国主義思想と不撓不屈の革命精神で武装させるとともに、人民軍部隊の戦闘訓練をより精力的にくりひろげ、すべての軍人が現代的軍事科学と軍事技術を十分に所有し、最新式兵器と戦闘技術機材などをりっぱにこなせるようにしなければならないと教えた。また現代戦の要求にあうように、人民軍を現代的兵器と戦闘技術機材でしっかりと武装させ、とくに、朝鮮の実情にあう軍事科学技術をより広はんに発展させることをしめした。

金日成首相は、全民武装化と全国要塞化を軍事路線のいま一つの重要構成部分とみなした。

全民武装化と全国の要塞化は、武装闘争をふくめたすべての革命闘争において、人民大衆が決定的役割を演じるという首相の革命的歴史観からでたものである。

首相は、社会主義祖国を敵の侵略から守るためには、労働者や農民をはじめとする全人民を政治思想的に、軍事技術的に武装させなければならず、国の津々浦々に防衛施設をしっかりと築いて、全国を鉄壁の軍事要塞にかえな

ければならないと教えた。

じつに全民武装化と全国の要塞化は、前線と後方の差をなくし、地上と空中、海上などひろい空間でおこなう立体的な現代戦の要求にそうように国の防衛力を強化することによって、敵がいかなるかたちで、どこから攻めよせようとも、かたくかためられた要塞にたよって、すべての人がみなたたかえるようにする、軍事戦略上もっとも威力ある全人民的、全国家的防衛体系なのである。

これは金日成首相が、革命と建設を指導するうえで一つの信条としている大衆路線を国防分野でつらぬいたものであり、自衛の原則を現実のなかで徹底的に具現したものである。

まさに、全人民を武装させ、全国を要塞化してこそ、敵の執拗な破壊活動を完全にうちくだき、あらゆる武力侵攻をみずからの力でうちやぶることができるのである。ここにこの路線をうちたてた金日成首相のすぐれた戦略的英知がある。

全人民的防衛体系はまた、人民大衆のかたい政治思想的統一と確固たる自立的民族経済をもった共和国北半部の社会主義制度の本質的優越性を、国防分野でりっぱに具現したものである。

金日成首相は、全人民的防衛体系をうちたて、それを確固としたものにするためには、労農赤衛隊を組織して、その隊列をかため、戦闘政治訓練を強化すると同時に、すべての幹部と党員が軍事知識と祖国解放戦争の経験を研究し、体得しなければならないと教えた。

そして全人民が片手に武器を、もう一方の手に鎌とハンマーをもち、社会主義祖国をりっぱに守りながら社会主義をしっかりと建設しつづけなければならないと教えた。

金日成首相がしめした軍事路線は、首相の伝統的な革命的軍事思想の輝かしい開花であった。

首相はかつて抗日武装闘争の時期に、自衛の原則にしっかりと依拠し、抗日遊撃隊を創建し、赤衛隊、反日自衛

隊など種々の半軍事組織をつくり、遊撃戦の拠点として遊撃根拠地を創設し、遊撃隊を中核とした強固な根拠地防衛体系をうちたてることによって、革命戦争と軍事建設のあらゆる分野で、非常に豊富で多方面的な貴い業績と経験をつんだ。

首相は解放後、抗日武装闘争の時期に築いたこうした伝統を、現代戦の要求と朝鮮革命発展の特性、国の地理的および地形的条件にあうように発展させた。

金日成首相が独創的な軍事路線を創始したのは、マルクス・レーニン主義軍事理論における一大革新であり、首相の不滅の功績である。

第二次世界大戦後、アメリカ帝国主義を頭目とする帝国主義者の戦争政策と侵略策動に対処して、全世界の共産主義者をはじめ、とくに解放と完全独立のためにたたかう革命的人民は、現代に適応した革命的武力建設と国の防衛のための正確な方法を全面的に明示するマルクス・レーニン主義的軍事理論を要求していた。

それは、マルクス・レーニン主義古典学者たちが、当時の時代的制約によって革命的暴風雨の時代、世界革命の時代の軍事理論をうちたてていなかったためであった。とくに国際共産主義運動の内部で、左右の日和見主義が頭をもたげ、かれらの投降主義的、妥協的な行為が軍事建設に影響しはじめてからは、その要求がますます切実なものとなった。

こうしたときに、金日成首相は、革命武力建設と社会主義国家の防衛問題を現代の歴史的条件にもとづいてマルクス・レーニン主義的に深く分析し、戦争の法則とあらゆる実践的経験を生かし、もっとも革命的な軍事路線を新しくしめし、典型化することによって、それを解決する正しい方針と方法を全面的に明らかにしたのである。

これはながい歳月にわたって困難な抗日武装闘争を直接指導し、正規の武力建設の豊富な経験と、世界「最強」を誇っていたアメリカ帝国主義との戦争を勝利へと導いた貴い経験、さらに、徹底した反帝国主義的立場と確固と

した主体的立場を堅持した百戦百勝の鋼鉄の統帥者であり、偉大なマルクス・レーニン主義者である金日成首相の卓越した指導能力を全世界にしめしたものであった。

金日成首相は、もっとも革命的な自衛的軍事路線を創造したばかりでなく、それに確固ともとづいて国の自衛的国防力を強化する戦線をみずから指揮した。

首相は、国防力を強化するうえでなによりもまず、人民軍と全人民の政治思想的準備をととのえることに大きな関心をはらい、これを国の防衛力強化の基本とし、勝利の確固としたいしずえとした。

首相のこうした立場は、戦争の歴史的諸経験と、戦争における人的、政治思想的要因の役割にかんするマルクス・レーニン主義的分析にもとづくものであった。

首相は、武装力を築くうえで基本になるものは人間であり、戦争の勝敗はなによりも戦場で直接敵と相対してたたかう大衆の精神状態と、政治的覚醒に大きくかかっていると考えた。

こうして首相は、人民軍隊、革命の軍隊はいかなる帝国主義侵略軍にもない政治思想的優越性をもっており、これがとりもなおさず、革命武力の不敗の力の源泉であるとつねに教えたのである。

首相はこうのべている。

「人民の自由と解放のためにたたかう崇高な使命と革命精神、将兵間の同志的友愛と自覚的な軍事規律、人民との密接な連係などは、いかなる帝国主義侵略軍隊にもないマルクス・レーニン主義的革命軍隊の特性であり、優越性であります。革命軍隊はまさに、自身のこうした政治思想的優越性によって技術的にも数的にもはるかに優勢な侵略軍隊を撃破することができるのです」

そして首相は、全党員と人民、そして軍隊と労農赤衛隊員のなかで政治思想活動を極力強化させ、とくに国の防衛力の中心となる人民軍の強化に全力をかたむけた。

首相は社会主義革命と社会主義建設を指導する多忙ななかでも、人民軍戦闘英雄大会、人民軍政治活動家会議など、人民軍隊内のいくつかの会議と大きな事業を発起、指導し、そのたびに人民軍の戦闘力強化のための綱領的指針をあたえた。

とくに首相は、軍隊内で「赤い旗中隊運動」を提起し、それを全軍の幹部化、全軍の現代化の方針をつらぬくための強力な推進力とした。

首相は一九六〇年八月のある日のこと、祖国解放戦争のきびしい戦火のなかでくりひろげられてきた模範中隊創造運動を、人民軍の戦闘力強化の新しい要求にそうように発展させるための新たな構想をもって、人民軍のある区分隊をたずねた。

その日も首相はまず戦士たちと会い、ふるさとや年令、家庭の情況や入隊年月日、戦闘経験や健康状態などについてやさしくたずねながら、かれらの生活に肉親的配慮をめぐらした。

「きょうは一つ、みんなと相談をしてみようと思うが――」

首相はこう話題をかえて、慈愛のこもったまなざしでかれらを一人ひとり見まわしながら、こうことばをついだ。

「いま社会では、勤労者たちが千里馬作業班運動をくりひろげているが、軍隊でも『赤い旗中隊創造運動』をおこしたらどうだろう？　軍隊では戦争中から模範中隊運動をくりひろげてきたが、これはいまの実情には少しあわない……。だから模範中隊運動よりいちだんと高い、共産主義教育を中心とする『赤い旗中隊運動』をくりひろげた方がいい」

首相は、すべての軍人を政治思想的にしっかりと武装し、軍事技術的に準備された一つの鋼鉄のような共産主義的赤い軍事集団をつくる巨大な集団的革新運動の火をつけたのであった。

人民軍戦士たちと語りあう金日成首相

首相が発起した赤い旗中隊運動は、やがて二重赤い旗中隊運動へ、二重赤い旗中隊運動は三重赤い旗中隊運動、赤い旗連隊運動へと発展した。

赤い旗中隊運動は全軍人を党と領袖にあくまで忠実な革命戦士の集団に、たがいにたすけあい、築きあいながら共産主義的に学び、生活する一つの赤い家庭に、軍事科学と技術によってかたく築かれたたのもしい戦闘隊列にする強力な手段となった。

金日成首相は前線の兵士をたずね、かれらの戦闘政治訓練を直接指導した。

首相は戦士たちの手を一人ひとりにぎりながらその労をねぎらい、また直接いろいろと戦闘動作をさせては、まちがったところはなおしてやったりした。

首相は、「きみたちが祖国をりっぱに守っていてくれるので、党と人民は安心している」といってかれらをはげましもした。

それればかりではなかった。
首相は毎年二・八節（朝鮮人民軍創建日）になると、どんなに忙しくても必ず人民軍戦士たちと会ったし、現地指導の忙しいさなかでも、人民軍戦士に出会うと自動車をとめてかれらと握手した。まことに、人民軍にたいする金日成首相の愛と配慮は格別なものであった。
首相は人民軍を一騎当千の軍隊に育成するかたわら、一九五八年には、アメリカ帝国主義侵略者の侵略策動によってつくりだされた複雑かつ緊張した情勢をするどく洞察し、ただちに労農赤衛隊を組織し、その戦闘力を強化する対策をたてた。
首相はとくに、その隊列を組織するにあたり、除隊軍人をその中核となるよう関心をはらった。
首相の方針にしたがって、多くの除隊軍人が全国の津々浦々で、都市や農村で、工場、企業所や協同農場で、社会主義建設をりっぱにおしすすめながら祖国防衛にたちあがった。
首相は労農赤衛隊の戦闘力を強めるため、かれらを党の唯一思想でかたく武装させ、戦闘訓練を強化し、戦闘技術を身につけ、抗日武装闘争と祖国解放戦争の経験を学ぶように教えた。そしてかれらが、どんな複雑な環境のなかでも自己の軍事的任務をりっぱに遂行できるように育成した。
一方、首相は全国を難攻不落の要塞にするため全力をかたむけた。
金日成首相は、国の軍事的威力の物質的基礎となる後方の強固さを、戦争の運命と軍隊の勝敗を決定する恒久的要因とみなし、これを強固なものとすることにも関心をはらった。
事実、いかなる軍隊も軍事技術機材や軍需物資だけでなく、高い自覚と健全な体力をもった戦闘員をたえず補充しうる確固とした後方なしには、戦争で勝利をおさめることはできない。
首相は人民軍の後方をもっともたのもしい階級的後方、もっとも物質的に強固な後方に強化することによって、

人民軍を全人民の積極的な政治道徳的支持と強力な物質的支援をうける不敗の人民武力にするよう力をつくした。

首相は人民軍を援助することに全党的、全人民的な関心をはらうようにし、だれもが人民軍将兵をじつの兄弟のように愛し、誠心誠意たすけることによって、かれらが自己の軍事的任務をりっぱに遂行できるようにした。

首相は、経済建設と国防建設を並進させる方針を強力におしすすめ、国を富強にし、人民生活を向上させるとともに、国防建設のぼう大な需要をもみずからの力でおぎなえる経済的な保障を築きあげた。

とくに軍事戦略的に重要な地域をしっかり固め、軍需工業を発展させ、必要な物資の予備をたくわえると同時に、有事の際にはすべての経済を急速に戦時体制にかえ、戦時でも生産が支障なくつづけられるよう人民軍の物質的後方をしっかりと築いた。

金日成首相の賢明な指導のもとに、党の偉大な軍事路線はりっぱにつらぬかれた。

軍隊内では、金日成首相の革命思想以外にはいかなる思想も知らず、首相のほかはだれをも知らない党の唯一思想体系が確立され、すべての軍人が領袖と党を生命をもって守り、領袖と生死苦楽をともにする決意でみちあふれている。

人民軍将兵の同志的友愛と自覚的規律、そして人民との血縁的連係などの高貴な気風が人民軍の全隊列にみなぎり、人民軍の政治道徳的優越性はいっそう高まった。

人民軍の軍事技術装備は全般的に改善され、指揮官の指揮能力がいちだんと高まり、その戦闘力はいっそう強化された。

人民軍は最新兵器によって装備され、全将兵がみな現代的な軍事科学と軍事技術を身につけた。とくに人民軍は日本帝国主義とたたかって勝利し、世界反動の元凶アメリカ帝国主義侵略軍をうちやぶり、遊撃戦もやり、現代戦

もおこなった豊富な経験をつんでおり、いつ、いかなる情況のもとで、いかなる帝国主義侵略軍が攻めてきても、それをうちのめすことのできる洗練された優秀な用兵術と戦闘力をもつ革命軍隊に成長した。

人民軍隊列の質的構成も根本的に変化した。

人民軍が創建された当時は、きびしい革命の試練のなかできたえられた革命的骨幹が数千名しかいなかったが、こんにちでは、抗日武装闘争に参加した経験ゆたかな革命闘士とともに、祖国解放戦争の戦火のなかできたえられた革命的骨幹が数万名に増加した。

人民軍の全般的な隊列構成にも質的な変化がおこった。

人民軍隊列は労働者、農民、インテリなど勤労人民のすぐれた子弟たちで、革命闘争の実践のなかできたえられ、高い技術文化水準を所有しており、共産主義的に教育された新しい世代によって編成されている。これによって人民軍の軍人は最新の軍事科学技術で武装し、どんな複雑な現代的兵器と戦闘技術機材をもりっぱにこなせる、一騎当千の幹部軍隊に早く成長することができた。

これは、いままで軍事建設分野でおさめたもっとも大きな成果であり、革命の勝利を促進するうえでかけがえのない貴いもとでである。

このように不敗の武力に成長した人民軍について、金日成首相は大きな自負をもって、朝鮮人民軍創建二十周年記念宴会でつぎのようにのべた。

「栄光に輝く抗日武装闘争の革命伝統をうけつぎ、祖国解放戦争の豊富な戦闘経験をもち、党の唯一思想体系で確固と武装し、現代的軍事科学技術と最新式軍事技術機材によってしっかりと装備され、正規の武力に成長した朝鮮人民軍は必勝不敗であります」

金日成首相の賢明な指導によって、全民武装化と全国要塞化の課題は大きな成果をおさめた。

1　共和国北半部の領空に侵入して撃墜されたアメリカ帝国主義侵略空軍機の残がい
2　共和国北半部の領海に侵入して撃沈された警護艦第56号
3〜4　共和国北半部の領海に侵入してだ捕されたアメリカ帝国主義の武装スパイ船「プエブロ」号と逮捕されたアメリカ帝国主義侵略者たち

国の津々浦々に確固とした防衛施設が築かれ、全国土が鉄壁の要塞と化した。
とくに、豊富な戦闘経験と軍事技術をもつ数多くの除隊軍人が全国の都市や農村で、工場企業所や協同農場で社会主義建設をりっぱにおこないながら、祖国を水ももらさぬ防衛体制でかためることによって、全人民的、全国家的防衛体系はますますその威力を発揮するようになった。
金日成首相のしめした革命的軍事路線が徹底的に貫徹され、北半部では全人民的防衛体系がしっかりとうちたてられ、人民軍とともに全人民が要塞化された陣地と強固な後方に依拠して祖国をりっぱに守り、敵を追いはらって

南朝鮮の解放と祖国統一の革命偉業を完遂できる万端の準備をととのえている。
首相は確信にみちた口調でこうのべている。
「われわれは共和国北半部に、どのような帝国主義侵略にも対処できる、鉄壁の防衛力を築きあげたということを確信をもっていうことができます」
これはこんにちの人民軍が、アメリカ帝国主義侵略者によって戦争がひきおこされた一九五〇年当時の人民軍ではなく、また当時の朝鮮人民でもないということをしめしている。
かつてないほど成長し、強化された人民軍と人民のこの威力は、まさに新たな戦争挑発に狂奔しているアメリカ帝国主義侵略勢力を決定的に威圧しており、血に飢えている敵を恐怖のどん底につきおとしている。
朝鮮人民軍は、ごう慢無礼にも北半部の領海に侵入し、海賊行為をはたらいた敵の警護艦第五十六号を一撃のもとに撃沈し、自分たちの力を過信していたアメリカ帝国主義の最新型武装スパイ船「プエブロ」号を、八十余名の船員とともに生捕りにした。
これは、世界の革命的人民のはげしい攻撃のまえで色を失ったアメリカ帝国主義者にくわえた朝鮮人民のいま一つの大きな打撃であり、一騎当千の不敗の革命武力である朝鮮人民軍の軍事的威力の一大示威であった。
これはまた、徹底した反帝反米的な立場と不屈の革命的意志をそなえた金日成首相が育てた朝鮮人民軍と朝鮮人民のこうまいな革命精神の一大示威でもあった。
このように、アメリカ帝国主義侵略者のいわゆる「世界の強国」の「神話」は、ひきつづき朝鮮であますところなくうちくだかれている。
人民軍とともに全朝鮮人民は、アメリカ帝国主義者の「報復」には報復で、全面戦争には全面戦争でこたえ、血にうえた野獣どもに、より大きな惨敗をあたえる烈火のような闘志と決意をみなぎらせている。

金日成首相の指導をうける朝鮮人民のこうした確固とした立場は、帝国主義強盗どもをどのようにこらしめ、真の平和と祖国の安全をどのように守るべきかを、全世界の人民のまえに実践的な模範をもってしめしたのであった。

北半部に築かれた鉄壁の防衛力は、白頭の吹雪のなかで、密林のかがり火のそばで朝鮮の前途を構想し、人民武力建設の基礎をつちかってきた金日成首相の遠大な構想のあらわれであり、首相の偉大な主体思想、卓越した軍事思想の輝かしい勝利であり、人民武力建設のためにささげた首相の貴い努力とあたたかい配慮の結実である。

朝鮮人民は、首相の賢明な指導のもとに鉄壁の防衛力を築いたからこそ、複雑かつ緊張した情勢のなかでも、みずからの力によって社会主義祖国の安全と革命の獲得物をりっぱに守っており、祖国統一と朝鮮革命の全国的勝利を確固と保障しているのである。ここに、世界の真の共産主義者たちと革命的人民から、反帝闘争の模範としてかぎりない尊敬と信頼をうけている金日成首相の偉大な側面があるのである。

7　偉大な文献――十大政綱

北半部の人民は、革命的高まりでわきかえっているさなかで、人民主権を磐石のようにうちかためる一九六七年十一月二十五日の最高人民会議代議員選挙をむかえた。

祝日一色に飾られた街路と村の選挙場は、早朝から選挙民でわきかえっていた。

首相と党の指導をうけ、自由で富強な楽園を建設した有権者たちは、だれもが共和国の公民となった誇りとよろこびをおさえきれず、歌をうたい、踊りにわきたった。

この日、敬愛する指導者金日成首相は、ピョンヤン市大城区域第七十八号分区選挙場で投票した。

三神(サムシン)炭鉱の労働者と選挙民は、自分たちの選挙区から推せんした最高人民会議代議員候補である三神炭鉱の功勲

鉱夫をえらぶため、わざわざでむいて投票する敬愛する指導者に最大の栄光をささげた。

一方、黄海製鉄所の労働者をはじめ松林(ソンリム)市の選挙民は、金日成首相を自分たちの選挙区から最高人民会議代議員候補に推薦したことをかぎりない誇りに思い、興奮のなかで敬愛する首相に熱烈な忠誠の一票を投じた。

全国のすべての有権者たちは、首相と党にたいするかぎりない忠誠心と人民政権にたいする積極的な信頼の情をもって、公民としてのほまれ高い義務を遂行した。

全国四百五十七か所の選挙区で、選挙人名簿に登録された全選挙者の一〇〇パーセントが選挙に参加し、しかも、その一〇〇パーセントが各選挙区で登録された最高人民会議代議員候補者に賛成投票をおこなった。

ひきつづき、十一月三十日におこなわれた各級人民会議代議員選挙にも、全選挙者の一〇〇パーセントが参加し、一〇〇パーセントが賛成投票をするという歴史的な勝利をおさめた。

これは、やはり一〇〇パーセント参加し、一〇〇パーセント賛成投票をした一九六三年の第三期最高人民会議および各級人民会議代議員選挙とともに、偉大な首相の賢明な指導をうける朝鮮人民の輝かしい歴史に黄金の文字でしるされるいま一つの輝かしい勝利であった。

世界の選挙史には、かつてこのような例がなかった。これは人類の歴史上唯一の、人民が自己の指導者の革命思想でかたく武装し、一つの思想で団結した不敗の革命隊列をもつ朝鮮だけに見られる偉大な出来事であった。

このことによって朝鮮人民は、金日成首相と、首相が指導する党と政府にたいするかぎりない忠誠と絶対的な支持をいま一度ひろく宣言し、首相がしめす革命課題を水火をもいとわず必ずなしとげるという戦闘的な決意を示威したのである。

全国土が選挙でおさめた偉大な勝利の誇りとよろこびにつつまれていた十二月十四日、ピョンヤンでは、歴史的な最高人民会議第四期第一回会議がひらかれた。

会議がひらかれるピョンヤン大劇場は、全国各地からえらばれた最高人民会議代議員と傍聴者によってうずめつくされた。各国の外交代表も来賓席についた。

午後四時、敬愛する指導者金日成首相が、党と政府の指導幹部とともに満面に笑みをうかべながら主席壇にあらわれた。

参加者たちがおくるわれんばかりの万歳の歓呼と拍手は、いつまでも場内をゆり動かした。それは党と人民政権の創建者であり、指導者である金日成首相にたいする絶対的な信頼と忠誠心に燃える全人民の心情をつたえた熱烈な歓呼であった。

会議は、首相の賢明な指導のもとに、人民政権がもたらした偉大な勝利と成果をたたえる代議員の熱のこもった討論によって最初から感激と興奮のなかですすめられた。

最高人民会議は、敬愛する指導者金日成首相を朝鮮民主主義人民共和国の国家首班に、内閣首相にふたたびむかえ、首相がさししめした新しい内閣組織案を全員の賛成によって承認した。これは、首相にたいする全朝鮮人民の絶対的な支持と信頼の明確な表示であった。

金日成首相を首班とする新内閣が組織されたというニュースが新聞やラジオをつうじて知らされると、国中から感激の歓声がわきおこった。

世界の多くの新聞も、「四千万朝鮮人民の偉大な指導者」、「民族的英雄」、「朝鮮人民の解放者」、「国際共産主義運動および労働運動のすぐれた指導者」、「アジア、アフリカ、世界でもっとも卓越した、もっとも偉大な歴史的闘士」、「世界の被圧迫人民の偉大な友」などの大見出しをかかげ、金日成首相が内閣首相にふたたび推戴されたことを大々的に報道し、祝った。

金日成首相は、最高人民会議で歴史的な共和国政府政綱『国家活動のすべての分野で自主、自立、自衛の革命精

神をより徹底的に具現しよう』を発表した。

金日成首相は政綱で、一貫して堅持してきた偉大な主体思想と、それが具現された党の路線と政策の革命的内容、革命と建設において主体思想がもつ巨大な意義を全面的に深く解明し、革命実践で主体思想を具現するための党と政府の活動を総括して、今後国家活動のすべての分野で、自主、自立、自衛の革命精神をより徹底的に貫徹するための綱領的な課題を明らかにした。

首相は、十か条からなる共和国政府政綱で、北半部における革命と建設を促進し、朝鮮革命の全国的勝利を早めるための綱領的課題をつぎのようにしめした。

一、共和国政府は、わが党の主体思想をあらゆる部門にわたってりっぱに具現することにより、国の政治的自主性を強固にし、わが民族の完全な統一独立と繁栄を保障することのできる自立的民族経済の土台をより堅固にし、自力によって祖国の安全をりっぱに守れるよう、国の防衛力を強化するための自主、自立、自衛の路線を徹底的に貫徹するであろう。

二、共和国政府は、人為的な国土の両断と民族の分裂による現在のようなわが人民の不幸を一日も早くなくし、南朝鮮人民を解放し、祖国統一を実現するために、北半部の人民をつねに南朝鮮人民の聖なる反米救国闘争を支援し、革命的大事変を主動的にむかえることができるよう精神的に、物質的にしっかり準備させるであろう。

三、共和国政府は、朝鮮労働党の指導のもとに、思想革命と文化革命をより強化し、労働者階級の指導的役割を高め、農民とインテリをはじめとする社会のあらゆる成員を革命化、労働者階級化するためのたたかいを強力に展開するであろう。

四、共和国政府は、人民政権の機能と役割を高め、広はんな人民大衆を革命と建設に積極的にふるいたたせるため、国家、経済機関の活動家のなかで官僚主義をなくし、革命的大衆観点を確立させるようにするであろう。

五、共和国政府は、朝鮮労働党の社会主義工業化政策をひきつづき堅持し、人民経済のすべての部門で技術革命を実現させるためにたたかうことにより、国の自立的民族経済の土台を強化して人民生活をいっそう高め、勤労者を苦しい労働から解放する栄誉ある課題を遂行するであろう。

六、共和国政府は、朝鮮労働党の主体思想にしっかりと依拠し、国の科学技術の発展を促進し、社会主義的文化を建設するため、ひきつづき頑強にたたかうであろう。

七、共和国政府は、現在かもしだされている情勢に対処して、国の防衛力をよりいっそう強化し、積極的に、全人民的な防衛態勢をととのえるために全力をつくすであろう。

八、朝鮮民主主義人民共和国政府は、自力更生の旗のもとに、自力と内部源泉を最大限に動員し、自立的民族経済を建設する路線をひきつづき堅持しながら、プロレタリア国際主義の原則と完全な平等および互恵の原則にもとづいて他国と経済関係をむすび、対外貿易を発展させてゆくであろう。

九、朝鮮民主主義人民共和国政府は、海外にいるすべての朝鮮同胞の利益と民族的権利を擁護するため、積極的にたたかうであろう。

十、われわれは、朝鮮民主主義人民共和国が創建されたその日から、帝国主義の侵略に反対し、わが人民の自由と独立を尊重し、わが国と平等な立場で国家関係をむすぶことをのぞむすべての国ぐにと親善関係を強めることを終始一貫して明らかにしてきたし、これからもひきつづき対外政策の分野で、この原則をしっかりと堅持してゆくであろう。

政綱で前面にうちだされたおもな課題は、党の主体思想を具現し、政治において自主性をかたく守りながら、経済建設と国防建設の分野で自力更生の革命的原則を貫徹し、党の自立的民族経済路線と自衛路線をひきつづき忠実におしすすめ、国の経済的威力と経済的自立性を堅固にし、自衛力をいっそう強化することである。

政綱は、主体思想を国家活動のすべての分野において、より徹底的に具現するという基礎のもとに、南朝鮮革命と祖国統一の偉業を一日も早くなしとげるためのたたかいに全力をかたむける革命的立場を明らかにした。

これは朝鮮の革命偉業の勝利のため、アメリカ帝国主義に反対し、あくまでたたかうという反帝反米的な革命的立場と、そして堅固な主体的立場と、不屈の意志と、確固とした信念をそのまましめしたものである。

政綱は、朝鮮革命の全国的勝利を早めるため社会主義建設で、共和国北半部の人民に課せられた政治、経済、軍事的課題を具体的に明らかにした。

政綱は、共和国政府の自主的で原則的な対外政策をいま一度明らかにして、反帝反米闘争を強化し、朝鮮革命の国際的連帯性をいっそう強固なものとするための課題をしめした。

政綱には、対外的な経済的連係を発展させることについて、共和国政府が一貫して堅持している確固とした立場が明らかにされており、世界社会主義市場の意義とその役割、対外経済活動において社会主義国家が堅持しなければならない原則が解明されている。

金日成首相が発表した共和国政府の偉大な十大政綱は、主体思想を共和国政府の対内外政策にみごとに具現した国家活動の指針であり、朝鮮革命の勝利の前途を明るく照らす綱領的文献である。

政綱は主体思想に徹底的に立脚し、朝鮮革命の偉業の勝利と国際革命の大業の勝利をかちとるため、必ず解決しなければならない原則的な諸問題にたいして深奥な科学的、理論的解明をあたえた現代の卓越したマルクス・レーニン主義文献であり、と同時に、社会主義、共産主義建設の道を科学的に明らかにすることにより、マルクス・レ

ーニン主義の思想理論の宝庫をいっそう豊富にし、国際共産主義運動の実践的経験を発展させ、豊富なものとする偉大な文献である。

政綱をつらぬいている基本思想は、金日成首相の偉大な主体思想である。

思想における主体、政治における自主、経済における自立、国防における自衛の原則で一貫している金日成首相の主体思想は、マルクス・レーニン主義の革命的原則と革命精神からでたものであり、首相が指導する朝鮮共産主義運動の実践的経験と、国際革命運動の歴史的経験を一般化した首相の革命思想の真髄となっている。

これは朝鮮革命を勝利へと導く、もっとも正しい指導思想であり、現代のマルクス・レーニン主義の最高峰である。

これはまた、労働者階級の革命偉業を遂行するうえで、個々の国の共産主義者と革命的人民に力強い革命的武器をあたえ、社会主義、共産主義を建設するたたかいで普遍的意義をもつ革命思想である。

主体——、これはまさに、革命と建設において守らなければならない共産主義者の根本的立場であり、態度なのである。

金日成首相は政綱で、主体思想の革命的本質と意義を明らかにしながら、主体をうちたててこそ革命と建設で勝利をおさめることができると、つぎのようにのべている。

「主体をしっかりうちたててこそ、事大主義や教条主義に反対し、マルクス・レーニン主義の普遍的真理と他国の経験を自国の歴史的条件と民族的特性にあうように創造的に適用してゆくことができ、他人にたよろうとする依存心をなくし、自力更生の精神を発揚して、自分のことはあくまでも自分が責任をもって自主的に解決してゆくことができ、したがって個々の国は、自国の革命偉業と建設を成功裏におしすすめることができるのです」

主体思想は、日本帝国主義とアメリカ帝国主義に反対してたたかって勝利した革命闘争の嵐のなかで、自然と社

会を改造する偉大な革命と建設の試練のなかで点検され、勝利してきた偉大な思想である。このために、首相の主体思想は不敗の威力と巨大な生命力をもっており、その光は燦然と輝いているのである。
金日成首相によって創造された主体思想は、首相が革命闘争に身を投じた当初からこんにちにいたるまで、四十余年の血のにじむ革命闘争の過程においてよりいっそう発展し、豊富となった。
じつに朝鮮革命において、主体を確立するか否かということは、その運命を左右するカギとなる問題であった。
金日成首相は、政綱でこうのべている。
「わが国がおかれている地理的位置と環境、わが国の歴史発展の特殊性、そしてわれわれの革命の複雑さと困難さによって、主体を確立するということは、われわれに特別重要な問題として提起されております。主体を確立するかどうかということは、われわれの革命の勝敗を左右するカギとなる問題であり、わが民族の興亡を決する死活的な問題であります」
金日成首相は、朝鮮革命の対内外的環境と国の実情を深く洞察し、主体を確立することに第一義的な関心をむけ、主体確立のための偉大な方針をうちだし、その貫徹のために精力的なたたかいをくりひろげてきた。
金日成首相は、マルクス・レーニン主義の原則にしっかりと立ち、朝鮮革命が提起するすべての問題を自主的に、国の具体的現実にあうように、そしておもに朝鮮人民自身の力によって解決するため全力をつくした。
革命がいかに困難であろうとも、革命の主人である朝鮮の共産主義者と朝鮮人民の力によって、朝鮮革命を必ず完遂しなければならないということ、これは首相のかたい信念であり、ゆるぎない立場であった。
首相は朝鮮革命にたいする高い責任感をもって、朝鮮人民の革命闘争と建設を正しく指導するために主体を確立し、マルクス・レーニン主義を国の現実に創造的に適用し、いっそう発展させる独創的な立場をつねに守ってき

た。

首相は、党の自主的な路線とあらゆる政策をたてるときは、つねに朝鮮革命の要求と国の具体的現実をまず考慮した。そしてマルクス・レーニン主義の原則と国の現実にあい、朝鮮革命を成功裏に発展させるのに役立つものであれば、どんな既存の公式や命題にもしばられず、大胆にそれをおしすすめた。

首相は、他国の革命と建設の経験を尊重しながらも、それにはつねに批判的に対処した。有益な経験はうけいれ、不必要で有害な経験はうけいれなかった。他国の経験をうけいれるときでも、それを朝鮮の実情にあうように改造し、変形しながらうけいれた。

金日成首相は、こうした主体的立場を堅持して、革命発展の各時期ごとに賢明で独創的な革命路線と政策をしめし、遠大で深遠な洞察力と不屈の意志、強じんな革命的展開力でもって朝鮮革命が提起するすべての問題を成功裏に解決したのであった。

まことに、金日成首相の偉大な主体思想と洗練された指導があったからこそ、朝鮮人民は、解放後新しい祖国建設の第一歩を踏みだしたあの困難で複雑なときにも、またアメリカ帝国主義を頭目とする十六か国の武力侵略者に反対し、祖国の自由と独立を守る偉大な祖国解放戦争のときにも、そしてすべてのものが破壊され、なにからどう手をつけていいのか途方に暮れていた戦後のあの困難なときにも、勇気を失わず、革命勝利の前途を確固と見わたしたし、万難を排して革命と建設で輝かしい勝利をおさめることができたのである。

朝鮮人民は実生活をとおして、ひたすら金日成首相の偉大な主体思想を身につけ、首相の卓越した指導にしたがってつきすすむとき、いかなる風波と試練も、いかなる敵もおそれることなく、必ずより大きな勝利をおさめることができるという信念をかためた。

金日成首相の主体思想の本質的要求の一つは、革命と建設のすべての問題を自分の頭で考え、自国の実情にあう

ように解決してゆく創造的立場を守ることである。これは、マルクス・レーニン主義の一般的原則と他国の経験にたいする確固とした自主的立場をしめしている。

金日成首相は、つぎのようにのべている。

「主体というのは、すべてのことをわが国の実情にあうようにしてゆき、マルクス・レーニン主義の一般的原則と他国の経験をわれわれの実情にあうように、創造的に適用してゆくことを意味します」

朝鮮の共産主義者は、朝鮮で革命をしているのであり、朝鮮の共産主義者にあたえられた基本任務は、朝鮮革命を朝鮮の現実にそってりっぱにおこなうことである。

マルクス・レーニン主義は教条ではなく、行動の指針であり、創造的学説である。であるからマルクス・レーニン主義は、各国の歴史的条件と民族的特性にあわせて創造的に適用されたとき、はじめてその不敗の威力を発揮することができるのである。

金日成首相の主体思想は、マルクス・レーニン主義の原則にしっかりと依拠し、自分の頭で考え、自分の独創的な信念と判断にもとづいて、自分の実情にあうように自主的に、革命路線とすべての政策を規定し、実践することによってのみ、革命と建設で勝利をおさめることができるということを教えている。

個々の国は、おたがいに異なった環境と歴史的条件におかれており、個々の党は、自国の具体的な環境と条件から革命と建設をすすめている。したがって、革命闘争と建設にはどこの国、どの時期においても、そのまま模倣をして機械的に移しかえればいいという既成の公式やサンプルなどはないし、またあるべきものでもない。

かりに独自の思考力が少しもなくて既存の公式に教条的にとりつかれたり、他人の経験に盲目的にしたがったりするだけでは、重大な失敗と破綻をまぬがれなくなる。

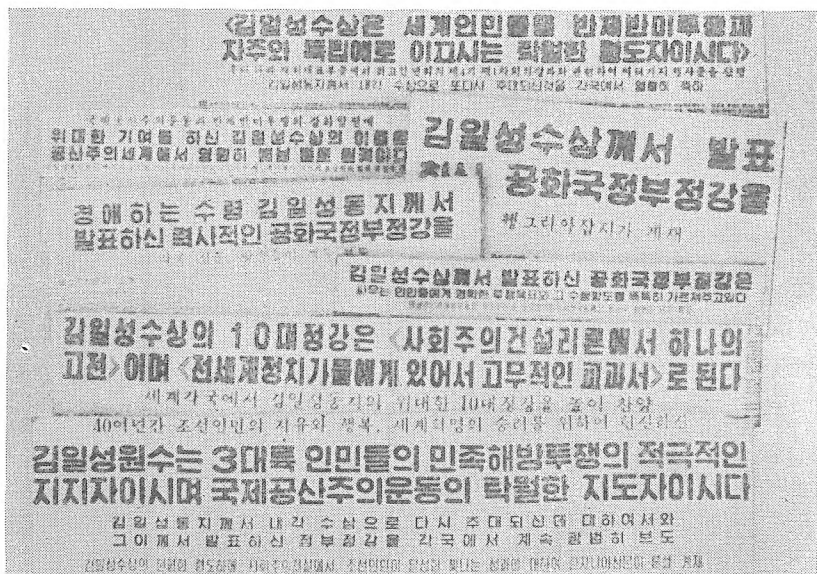
労働者階級の党は、主体思想をいつ、いかなる境遇においても確立していてこそ、確固とした主見をもってマル

クス・レーニン主義の道にそって前進することができるのである。

金日成首相の主体思想の本質的要求のいま一つは、革命と建設で提起されるあらゆる問題を他人の力をかりてでなく、自分自身が責任を負い、主として自力によって解決する自主的立場を堅持することである。

これは、個々の国の革命はその国の内部の要因によっておこり、したがって革命勝利の決定的要因も、あくまでその国の主体的な力量によるものであるというところからきている。

金日成首相はかつてこう教えている。

「朝鮮革命の主人は、わが党とわが人民であり、朝鮮革命勝利の決定的要因も、われわれ自体の力である。他人にたいする依存心をもっていては、革命をおこなうことはできないし、他人が、われわれのかわりに朝鮮革命をなしとげてくれないということは、わかりきったことである。革命においては国際的な支持声援も重要であるが、なによ

金日成首相が発表した共和国政府の十大政綱をたたえる国際的な反響を報じる新聞

りも主人であるわれわれ自身が努力し、たたかってこそ革命を前進させることができるし、勝利へと導くことができるのである」

首相のこのような信念と主体的立場は、朝鮮革命を朝鮮人民の力によって最後までやりとげようという、確固とした革命精神をしめしている。

金日成首相の主体思想は、個々の国の革命の主人はその国の共産主義者と人民であり、したがって、共産主義者は自国の革命と建設において、主人としての立場をしっかりと守らなければならず、自国の人民の力を信じ、自力によってたちあがろうとする自力更生の革命精神を発揚してこそ、革命偉業を勝利のうちに完遂できるのだということを教えている。

これは、マルクス・レーニン主義の原則から直接でてくるものであり、プロレタリア国際主義の原則にもそうものである。

自力更生の革命精神がなければ、自分の力を信じなくなり、自国の内部源泉を動員するための努力もしなくなって、結局、革命闘争で献身性と不屈の革命的意志が発揮されなくなる。こうなれば他人にたいする依存心がおこり、結局は、革命と建設を失敗させることになる。

労働者階級の党は、主体思想に確固と依拠して、自力更生の革命的旗じるしのもとに自国の人民の革命的熱情と創造力を正しくふるいたたせてこそ、革命闘争と建設を成功裏におしすすめることができるのである。

金日成首相が明らかにした共和国政府政綱に一貫している偉大な主体思想と、それを具現した自主、自立、自衛の革命路線は、社会主義、共産主義にむかう労働者階級の党と革命的人民が必ず堅持しなければならない偉大な革命思想であり、革命路線である。

じつに、金日成首相の主体思想とそれにもとづくすべての革命的で創造的な原則と命題は、労働者階級の革命偉

業のためのたたかいで普遍的意義をもつものである。

とくに政綱で明らかにされているように、民族国家の単位となる社会主義の物質、技術的基礎のうちかためと、民族問題解決の原則的方法、全社会の革命化、労働者階級化とその方法、世界社会主義市場の意義と社会主義国が対外活動において守らなければならない原則的態度などをはじめ、すべての命題は、マルクス・レーニン主義の思想と理論の発展に卓越した寄与となるものである。

まことに、あらゆる点からして、十大政綱はマルクス・レーニン主義をいっそう発展させ、より豊富にするもっとも科学的で革命的な偉大な文献である。

偉大な政綱は、朝鮮人民を主体思想によっていっそう徹底的に武装させ、かれらに明確な闘争目標と展望を明らかにし、強力

수령의 위대한 10대정강을 높이받들고 화학고지 점령을 위한 사회주의경쟁의 불길을 더욱 높이자!

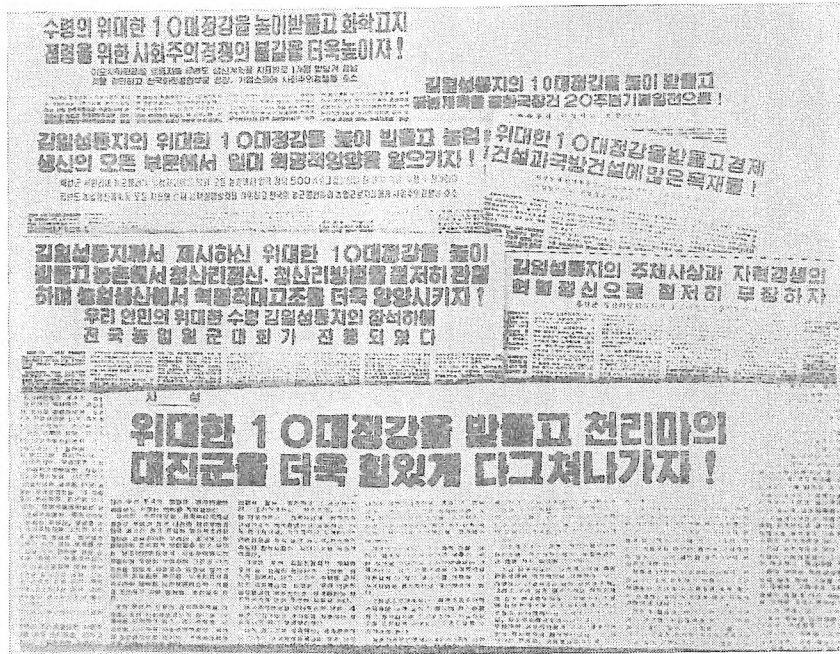
김일성동지의 위대한 10대정강을 높이 받들고 농업생산의 모든 부문에서 일대 혁명적앙양을 일으키자!

김일성동지께서 제시하신 위대한 10대정강을 높이 받들고 농촌에서 청산리정신, 청산리방법을 철저히 관철하며 농업생산에서 혁명적대고조를 더욱 앙양시키자!

우리 인민의 위대한 수령 김일성동지의 참석하에 전국농업일군대회가 진행되었다

김일성동지의 주체사상과 자력갱생의 혁명정신으로 철저히 무장하자

사설

위대한 10대정강을 받들고 천리마의 대진군을 더욱 힘있게 다그쳐나가자!

金日成首相が発表した共和国政府の十大政綱を高くかかげ　千里馬の大進軍を力強くおしすすめることを全人民に訴える新聞

な思想的、理論的、実践的武器をあたえた。

それは、祖国の自主統一のためにたたかっている全朝鮮人民に不屈の革命的意志と力の源泉をあたえる旗じるしとなっており、アメリカ帝国主義を頭目とする革命の敵には、戦慄と恐怖、不安におののかせるおそろしい爆弾となっている。

そればかりでなく、政綱は国際的にも、帝国主義と相対して勇敢にたたかっている革命的人民に勝利の信念と勇気をいっそう高め、かれらの反帝反米的で自主的なたたかいを鼓舞する灯台となっている。

だからこそ十大政綱は、世界の革命的人民のなかで、嵐のような反響をひきつづきまきおこしているのである。

世界の多くの新聞は、金日成首相の肖像を丁重にのせ、首相が明らかにした十大政綱を特筆大書して報道しており、首相の偉大な主体思想について数多くの論説をのせている。

世界の多くの革命家と人民は、金日成首相が発表した共和国政府政綱を、「こんにちの『共産党宣言』」、「社会主義建設理論における一つの古典、マルクス・レーニン主義宝庫に貴重な貢献」、「全世界の政治家のための教科書、歴史的で鼓舞的なテーゼ」、「全世界の人民の闘争の前途を照らす貴い太陽」、「反米民族解放のため、世界平和のためたたかう全世界の人民の闘争綱領」とほめたたえながら、金日成首相を「世界の人民を反帝反米闘争と、自主と独立に導く卓越した指導者」とかぎりなく尊敬し慕っている。

じつに四千万朝鮮人民の偉大な指導者金日成首相の偉大な主体思想は、全世界にその光を放ち、燦然と輝いており、「世界のすべての革命家が具現しなければならない革命思想」となっている。

世界の革命的人民とその組織の指導者たちは、こぞって朝鮮民主主義人民共和国の政府政綱から金日成首相の偉大な主体思想を学ばなければならない、とのべている。

チリー社会党中央委員であり、三大陸人民団結機構執行書記局のチリー代表は、自分の確固とした信念を談話で

こう発表している。

「世界革命の偉大な指導者である金日成同志は、政府政綱で、われわれ革命家が反帝闘争で守らなければならない態度と立場を明確に教えている。まさに、この偉大な歴史的文献は、ただ朝鮮人民の革命と建設において必要な文献であるばかりでなく、わがチリー人民と、そしてアメリカ帝国主義の隷属と搾取をうけているすべての人民の生活と闘争の旗じるしとなる貴重で歴史的な文献なのである。われわれ革命家は、金日成同志が教えたこの貴い主体思想と自力更生の革命精神を学び、またこれを手本としなくてはならない。これを手本としてこそ、東方で輝いている朝鮮のように、各国が自分の力で革命をおしすすめることができるのである。だから金日成同志のこの革命思想は、まさにわれわれ革命家にとって千金よりも貴重な旗じるしとなるのである」

マリ・スーダン連盟党のある指導的幹部は、自分の信念をこう語っている。

「政綱のなかに一貫している思想であり、金日成同志が明らかにした朝鮮労働党の主体思想は、マルクス・レーニン主義にたいするもっとも重要で、もっとも決定的な寄与となっている。主体思想は、たたかうことを決心した人民にとってもっとも革命的な路線である。革命をおこなう人民は、主体思想によって自国の革命を遂行しなければならない。主体思想こそ、世界のあらゆる革命家が具現しなければならない革命思想である。われわれはこの思想で武装することによってのみ、帝国主義者にうち勝つことができる。主体思想でかたく武装した人民は、帝国主義者のいかなる策動もうちやぶることができる。わたくしは朝鮮人民のすべての勝利のカギが、まさにこの主体思想にあると思う」

金日成首相の偉大な主体思想をみごとに具現した十大政綱は、その内容と革命的原則が確固とした真理であることによって、不敗の威力と大きな生命力を発揮している。

北半部の全人民は、偉大な十大政綱を高くかかげ、経済建設と国防建設で新しい革命的大高揚の炎を燃やしつづ

けている。

この偉大な政綱が実現されるとき、政治において自主的で、経済において自立的で、国防において自衛的な朝鮮民主主義人民共和国は、いっそう富強で威力ある社会主義強国とかわるであろうし、南朝鮮革命と祖国の自主的統一のための朝鮮人民のたたかいは、必ずや歴史的な勝利をおさめることであろう。

第五章「分断された祖国をつぎの世代にゆずりわたすことはできない」

1　崇高な使命、卓越した構想

四千万朝鮮人民の偉大な領袖金日成首相は、国の北半部における社会主義、共産主義建設の偉業を導きながら、つねに、アメリカ帝国主義侵略者に踏みにじられている受難の地――南半部のことを忘れなかった。

共和国北半部における革命と建設にかんする首相のすべての路線と政策の基底には、民族分裂の悲劇を一日も早く終わらせようという燃えるような熱情が、大河のようにとうとうとして流れていた。

首相は分断された祖国を統一し、うるわしい祖国の山河に、かぎりなく美しい人民の楽園である社会主義、共産主義社会を建設することを、もっとも重大な気高い歴史的使命とみなし、その使命をまっとうすべく、あらゆる努力を惜しまなかった。

首相は、抗日武装闘争の時期に早くも、朝鮮共産主義者の闘争目的についてつぎのようにのべている。

「山うるわしく水清いわが祖国の地に、圧迫と搾取のない社会を建設し、ゆたかな資源をわれわれの力で開発し、全人民が自由でゆたかに暮らせるようになれば、どんなに生きがいがあって、幸福なことでしょう。われわれがいま血を流してたたかう終局の目的も、また、まさにここにあります。……これは空想ではありません。われわ

れ共産主義者の理想は科学的であるがゆえに、それが必ず実現されるであろうことは、疑う余地がありません」
このことばには、朝鮮革命にたいする首相の遠大な理想がこめられている。
金日成首相は、十五星霜にわたるあの困難な抗日武装闘争の日々に、まさにこの信念で遊撃隊員を教育し、鍛練したし、またこの信念で自由自在に天才的な戦術を創造し、栄えある抗日武装闘争を勝利へと導き、ついには祖国の解放を達成したのである。
しかし、解放後、アメリカ帝国主義侵略者の南朝鮮占領とその侵略政策によって、国は二つに分断され、朝鮮革命は全国的に同じく発展することができなくなり、南北朝鮮は、まったく相反する道を歩むようになった。
こうして、朝鮮における社会主義、共産主義偉業の勝利をめざす首相の崇高な目的と偉大な構想は、共和国北半部においてのみ輝かしく実現され、国土の半分と人口の三分の二を占める南半部においては、それがいまだに実現されないでいるのである。
共和国北半部では、人民が国の主人となり、だれもがうらやむもっとも先進的な社会主義制度が実現されたのに、南朝鮮はアメリカ帝国主義の完全な植民地に、侵略的軍事基地にかわった。また北半部は、強力な自立的民族経済をもつ社会主義強国となったが、南朝鮮では工業が外国資本の隷属物となり、農業も疲弊し、南朝鮮経済は破産と飢えだけがのたうちまわる涙の経済にかわった。
北半部では、美しく英知にみちた社会主義的民族文化が開花発展し、人びとは気高い美徳を分かちあい、革命と創造の誇りにみちあふれているのに、南朝鮮では退廃的なヤンキー「文化」とアメリカ式生活様式が流れこみ、吐き気をもよおす背倫や背徳がはびこり、民族文化と美風良俗はあますところなく踏みにじられ、泥のなかになげすてられている。
北半部では、勤労人民が国の主人となって政治に参与し、経済を運営し、だれもが衣食住と病気の治療、子弟の

教育の心配もなく、希望にみちあふれて働き、しあわせな生活をいとなんでいるのに、南朝鮮人民はあらゆる民族的圧迫と搾取をうけ、飢えと貧困のなかで、人間以下のみじめな生活をおくらねばならないのだ。

アメリカ帝国主義者の南朝鮮占領と国土の両断によって、共和国北半部の輝かしい社会主義の楽園と、南朝鮮の暗たんたる生き地獄との差は、日ましに大きくなっており、悠久な歴史をつうじてつちかわれたわが人民の民族的共通性すら、しだいに失われようとしている。

南北の分断は、国の資源、人民の知恵と才能を、祖国の繁栄と民族の福祉をはかるために統一的に利用できなくしており、南朝鮮人民を塗炭の苦しみにあえがせている。

金日成首相は、祖国の分断によって、わが民族のうえにおおいかぶさっているこのような苦痛と不幸をだれよりも深く憂慮し、祖国の統一偉業の完遂と全朝鮮革命の勝利のために心血をそそいできた。

首相は、朝鮮共産主義者の歴史的使命について、つぎのようにのべている。

「朝鮮共産主義者の目的は、祖国を統一し、全国的に社会主義革命と社会主義建設をなしとげ、さらには共産主義を建設することにある」

そして、朝鮮共産主義者のこの崇高な目的を達成するための前途を明らかにした。

金日成首相は、つぎのようにのべている。

「……こんにち朝鮮労働党と朝鮮人民のまえには、二つの革命課題が提起されている。その一つは、国の北半部で社会主義を建設することであり、他の一つは、南朝鮮をアメリカ帝国主義の植民地支配から解放し、祖国の統一を実現することである。

この二つの革命課題は、たがいに密接にむすびついており、その実現をめざすたたかいは、統一的な朝鮮革命の終局的勝利をうながすたたかいである」

朝鮮革命の終局的勝利を促進するための金日成首相の戦略的構想には、複雑で困難な朝鮮革命の特殊性と、社会主義、共産主義建設をめざす朝鮮共産主義者と人民の志向が正しく反映されており、祖国統一と朝鮮革命の勝利をもっとも早い方法で導く金日成首相の革命思想、主体思想と戦略戦術の基本的要求が正しく明示されている。

首相のこのすぐれた構想には、朝鮮革命の当面の基本的任務と終局的目的、民族解放の任務と階級解放の任務が統一的にむすびつけられており、全国的範囲で民族解放革命を完遂し、革命をひきつづき社会主義、共産主義へと導いてゆく、首相の継続革命にかんする思想が輝かしく具現されている。

いいかえれば、これはすでに抗日武装闘争の時期に首相がしめした継続革命の思想――すなわち反帝反封建的民主主義革命を徹底的に遂行し、ひきつづき社会主義革命へとすすむ独創的な継続革命の思想を、解放後、祖国が分断され、北半部に革命基地が築かれた新たな歴史的条件にそくして具体化し、発展させたものである。

首相のこの卓越した構想は、南朝鮮を解放し国を統一することによって、朝鮮革命の当面の基本的任務である民族解放革命を全国的に完成し、そのうえで全朝鮮革命の統一的発展の道を切りひらこうとするものである。

そして、北半部で社会主義建設を早めることは、北半部の革命基地をかたく築き、国の統一を早め、すすんでうるわしいわが祖国の山河に社会主義、共産主義社会を建設するためのものであり、ここには朝鮮革命の終局的目的への志向がはっきりとしめされている。

金日成首相は、このような戦略的構想から出発して、祖国を統一し、民族解放革命を全国的になしとげ、共和国北半部で社会主義建設を促進する二つの革命課題を、同時に力強くおしすすめる立場を堅持してきた。

首相は、南朝鮮がアメリカ帝国主義に占領され、国が統一されていないからといって、北朝鮮でも南朝鮮が解放されるまで革命を発展させずに待たなければならないという誤った見解を断固しりぞけ、共和国北半部での社会主義革命と社会主義建設を力強くおしすすめた。

北半部で社会主義建設を促進することにたいする首相の構想には、まさに北半部の社会主義力量を朝鮮革命の前途を規定する基本的要因とみなし、それに依拠して国を統一し、全朝鮮革命の終局的目的を実現しようとする革命思想が底をつらぬいている。

金日成首相は、北半部において社会主義建設をすみやかになしとげ、革命基地を強力に築きあげてこそ、国の統一と朝鮮革命の終局的勝利がしっかりと保障されるとみなした。

首相は、このようにのべている。

「共和国北半部での社会主義建設と革命力量の成長は、わが祖国の統一と全朝鮮革命の勝利のための決定的な保障となります。われわれは党と人民のすべての力を動員して、北半部での社会主義建設をさらに促進し、われわれの革命基地を政治、経済、軍事的にいっそうしっかりとかためなければなりません」

首相は、北半部で社会主義建設を促進し、革命基地を不敗の力量にしっかりと築きあげることは、アメリカ帝国主義の朝鮮侵略政策にたいする強力な打撃となるばかりでなく、南朝鮮におけるアメリカ帝国主義の植民地支配の危機をいっそう深め、南朝鮮人民の革命闘争の発展を促進し、わが国におけるあらゆる情勢の変化と力関係を革命の側に決定的に有利にかえる基本的要因であるとみなした。

首相のこのような構想は、解放直後すでに、党の戦略的路線として具体化されていた。首相が解放直後に提示した有名な北半部民主基地路線がまさにそれである。

金日成首相は、北半部に強力な革命基地を創設する革命的民主基地路線を提示し、それを貫徹することによって、祖国統一と朝鮮革命勝利へのもっとも近い道を切りひらいたのである。

首相はつぎのようにのべている。

「アメリカ帝国主義者の侵略政策に対処して、すでに解放された北朝鮮で革命を積極的におしすすめ、北朝鮮に

しっかりとした革命基地を創設したからこそ、祖国の統一と革命の全国的勝利への道を成功裏に切りひらくことができたのであります」

このように、北半部革命基地路線は、祖国統一と朝鮮革命の勝利をめざす金日成首相の戦略的構想の礎石となっているのである。

金日成首相のこの偉大な構想は、朝鮮革命を最後まで責任をもって遂行するという原則的で革命的な立場にもとづいている。

また一方、首相は、北半部での社会主義建設だけを考え、その成果に満足して、南朝鮮人民を解放し、祖国を統一する任務を忘れている一切の現象にたいしても、これを断固反対した。

首相はつねに、北半部で革命と建設を強力におしすすめ、革命基地を政治、経済、軍事的にしっかりと築きあげるとともに、南朝鮮を解放して祖国の統一を実現し、革命の全国的勝利をめざしてたたかわなければならないと教えた。

金日成首相は、朝鮮革命の終局的勝利を達成するためには、なによりもまず祖国の統一を実現しなければならず、北半部で社会主義建設を強力におしすすめるのも、結局は、朝鮮革命の当面の基本任務である祖国の統一を最大限に促進するためのものであると強調した。

首相はつねに、南朝鮮人民を解放して祖国を統一しなければ、人類の最高の理想である社会主義、共産主義を朝鮮全土に建設することはできないし、したがって朝鮮の共産主義者は自己の崇高な任務を果たすことができないと強調した。

つぎに、祖国の統一と朝鮮革命の勝利をめざす金日成首相の偉大な戦略的構想において重要なことは、南北朝鮮におけるそれぞれ異なった二つの革命路線を提示し、それをたがいに密接な連関のもとで遂行していくことであ

る。

金日成首相は、祖国統一と全朝鮮革命の勝利のためには、北半部で社会主義建設を早いテンポですすめるとともに、南朝鮮で革命を遂行しなければならないと教えた。

「……いま北朝鮮と南朝鮮は、それぞれ異なる情勢のもとにおかれており、南北朝鮮における革命はその発展段階がそれぞれ異なっている。それゆえ、朝鮮革命は一つの統一をなしているにもかかわらず、現在においては北朝鮮と南朝鮮で、それぞれ異なる革命課題が提起されざるをえない。いいかえれば、北朝鮮では社会主義建設が当面の革命課題であり、南朝鮮では反帝反封建的民主主義革命が当面の課題となるのである」

金日成首相は、北朝鮮における社会主義建設と南朝鮮における反帝反封建民主主義革命の課題は、ともに全朝鮮革命の有機的な構成部分をなし、ともに祖国統一の課題と密接な連関をもっていることを明確にした。

すなわち、北半部で社会主義建設を促進することは、朝鮮革命の基地を政治、経済、軍事的にしっかりと築き、祖国統一の偉業を主動的に促進するためのものであり、南朝鮮における反帝反封建民主主義革命は、南朝鮮からアメリカ帝国主義侵略者を追いだし、その手先どもをうちたおすことによって国を統一し、革命の全国的勝利を保障するためのものである。

南北朝鮮にそれぞれ異なる二つの革命路線を提示し、それを祖国統一の課題と密接に結びつけて導く金日成首相のこの戦略的構想は、アメリカ帝国主義の南朝鮮占領によって国が分断され、南北朝鮮にそれぞれ異なる社会制度が存在する条件のもとで、祖国統一のもっとも現実的な近道を切りひらいた、まさに独創的で創造的な路線である。

金日成首相のこの戦略的構想にはまた、南朝鮮革命を遂行することによって国の統一を達成し、民族解放の課題を完遂する朝鮮革命のもっとも合理的な方途が明らかにされている。

金日成首相は、国が南北に分断され、たがいに完全に閉ざされた状態におかれている条件のもとで、国の統一を達成するもっとも合理的な方途は、南朝鮮からアメリカ帝国主義侵略者を追いだし、人民を帝国主義および封建的抑圧と搾取から解放する南朝鮮革命を遂行することであるとみなした。

金日成首相は、つぎのようにのべている。

「南朝鮮にアメリカ帝国主義とその手先をそのままにしておいては、国の平和的統一を考えることはできません。わが祖国の平和的統一は、南朝鮮で現在のかいらい政権をうちたおし、進歩的勢力が政権をにぎったのちにのみ実現することができます。……わが国の統一問題は、あくまでも一国の悲劇的な分裂を終わらせ、外来帝国主義侵略者から奪われた自己の領土と人民をとりかえし、国の完全な独立を達成しようというわが民族の死活的要求にかんする問題であります。その具体的方途がどうであれ、祖国の統一はアメリカ帝国主義侵略者をわが国土から追いだし、南朝鮮かいらい政権をうちたおしたのちにこそ、はじめて達成することができます」

ここから出発して首相は、まさに北半部で社会主義建設を促進する課題とともに、南朝鮮で反帝反封建的民主主義革命課題を遂行する二つの革命路線を提示したのである。これは朝鮮革命の具体的な現実的条件と、南朝鮮社会発展の合法則的要求をもっとも正しく反映したものである。

このように首相は、南朝鮮革命を遂行することによって国の統一を達成することを祖国統一のもっとも合理的な方途とみなし、南朝鮮で革命が勝利すれば平和的に祖国統一を実現することができ、祖国を統一すれば、南朝鮮における反帝反封建的民主主義革命の課題を徹底的に遂行し、全国革命を完遂することができると教えた。

しかし首相は、祖国統一と南朝鮮革命が密接にむすびついているからといって、それを一つにみなしたり、混同してはならないといましめ、南朝鮮革命は南朝鮮人民自身がこぞってたちあがり、アメリカ帝国主義とその手先をうちたおして人民が政権をにぎることであり、それ自体の遂行方途をもつものであると教えた。

金日成首相は、朝鮮革命を朝鮮人民自身の力で遂行する主体的立場と自力更生の革命的原則をしっかりと堅持し、祖国統一と朝鮮革命の全国的勝利のためのもっとも正しい方針――すなわち革命勢力をつちかう方針を明らかにした。

金日成首相は、祖国統一と全朝鮮革命の勝利をめざす戦略的課題として、三大革命勢力――すなわち北朝鮮の革命勢力と南朝鮮の革命勢力、さらに国際革命勢力を強化しなければならないと教えた。

首相はこうのべている。

「わが祖国の統一、朝鮮革命の全国的勝利は結局、三大勢力の準備にかかっているといえる。

第一に、共和国北半部で社会主義建設をりっぱにおこない、われわれの革命基地を政治、経済、軍事的にさらに強化することであり、

第二に、南朝鮮人民を政治的に目ざめさせ、かたく団結させることによって南朝鮮の革命勢力を強化することであり、

第三に、朝鮮人民と国際革命勢力との団結を強化することである」

金日成首相は、祖国統一と全朝鮮革命の遂行において、この三大革命勢力の性格と役割、位置はそれぞれ異なっているが、たがいに切りはなすことのできない関係にあり、それらはたがいに関連をもち、作用しながら革命を促進し、制約する諸要因であるとみなした。

首相は、全朝鮮革命のもっとも重要な原動力である北半部の社会主義勢力と、その影響のもとでたえず強まっている南朝鮮の愛国的民主勢力は、ひとしく祖国統一をめざす朝鮮人民の主体的な力であり、国際革命勢力は、朝鮮人民にたいする国際的な支援の力であると教えた。

このことから首相は、三大革命勢力を強化するうえでつねに、朝鮮人民の主体的な革命勢力をしっかりとかため

ることをもっとも重要な問題とみなした。

金日成首相は、アメリカ帝国主義侵略勢力とその手先である南朝鮮の地主、買弁資本家、反動官僚に反対する革命闘争において、外部の支援も重要ではあるが、それはあくまでも補助的役割を果たすだけであり、革命勝利の決定的な要因は、朝鮮人民の主体的な力であると強調した。

これはまさに、朝鮮革命の主人は朝鮮人民であり、なによりもまず主体的な力量を強化してこそ、朝鮮革命を勝利へと導くことができるという徹底した主体思想、自主的立場にもとづくものである。

首相は、朝鮮人民の主体的な力をたえず強めるとともに、国際革命勢力を強化し、それと団結することもまた重要なことであるとみなした。

首相のこの方針は、アメリカ帝国主義者を国際的に孤立させ、そして弱め、朝鮮人民が祖国統一の偉業を遂行するうえで有利な国際情勢をつくりだすためのものであり、朝鮮人民の主体的な革命闘争にたいする国際的支援の力を強化するためのものである。これは朝鮮においてばかりでなく、世界的規模でアメリカ帝国主義の滅亡を促進するための反米闘争戦略にもとづくものである。

金日成首相の三大革命勢力強化にかんする戦略的方針は、国際反動の元凶であるアメリカ帝国主義と直接対決している朝鮮革命の困難さと複雑さ、長期性などの特殊性にたいする科学的見とおしにもとづいてうちたてられたものであり、アメリカ帝国主義にうち勝つことのできる強力な革命勢力を準備し、革命の内的要因をも同時に成熟させ、祖国統一と全朝鮮革命を確信をもって勝利へと導くための戦略的方針である。

そしてこの戦略的方針には、祖国統一と朝鮮革命を朝鮮人民自身が主人の立場から責任をもって遂行する主体的立場と、国際革命勢力と団結して世界反動の元凶、アメリカ帝国主義侵略勢力をうちたおすという共同偉業の勝利を保障するプロレタリア国際主義的原則が徹底的に結合されており、その基礎には徹頭徹尾、反米反帝の革命的な

立場がつらぬかれているのである。
金日成首相は、革命の決定的な時期に、朝鮮人民の主体的な力である北半部の社会主義勢力と南朝鮮の民主主義勢力を結合して、国の統一と全朝鮮革命の勝利を達成する戦略的方針をも明らかにした。
金日成首相は、祖国の統一は南北朝鮮人民が力をあわせてアメリカ帝国主義侵略者を追いだし、成就しなければならない民族至上の課題であると指摘し、つぎのようにのべている。
「全朝鮮人民がかたく団結して、アメリカ帝国主義侵略者とその手先どもに反対するたたかいにたちあがるならば、敵がいかにあがこうとも、ゆうにかれらをうちのめし、栄えある勝利をかちとることができるでしょう。
全民族の団結した力によって、アメリカ帝国主義は朝鮮から追いだされるであろうし、祖国統一の偉業は必ずや達成されるでありましょう」
革命の決定的な時期に、南北の革命勢力を結合させることについての首相の方針は、朝鮮人民の主体的な内部の力を総動員し、反革命勢力にたいする革命勢力の圧倒的優勢をもって、祖国統一と朝鮮革命の全国的勝利を達成するためのものである。
金日成首相は、「祖国の統一は平和的方法によっても実現されうるし、非平和的方法によっても実現されうる」とのべながら、祖国の統一がいかなる方法で実現されるにしても、南北朝鮮に革命勢力の準備がととのい、それが戦略的に結合されてこそ、祖国統一と全朝鮮革命の勝利をしっかりと保障することができると教えた。
金日成首相の卓越した戦略的構想とすべての方針は、国の統一と朝鮮革命の全国的勝利をめざす朝鮮人民のもっとも正しい闘争方針であり、勝利の道を照らす唯一の輝かしい灯台である。
現実は、首相のすぐれた戦略的構想と、首相がさししめした方針の偉大な生命力を雄弁に証明している。強力な自立的民族経済をもつ社会主義強国となった共和国北半部は、国の統一をめざす威力ある基地に、不敗の要塞にか

わったし、南朝鮮の革命家と愛国的人民は難関を切りひらき、たたかいのなかで鍛練され、ねばり強く幅ひろい革命隊列を築きあげている。

一方、世界のいたるところで憎悪と反撃にあい、うろたえているアメリカ帝国主義者は、南朝鮮においても、日ましにはげしく燃えさかる反米闘争の炎にまきこまれている。

朝鮮人民の勝利は確定的である。終局的な勝利は、金日成首相の指導のもとに、その卓越した戦略的構想と方針を実現するためにたたかう四千万朝鮮人民のものである。

南朝鮮でアメリカ帝国主義の植民地ファッショ支配が崩壊し、アメリカ帝国主義者とその手先どもが滅亡の奈落にころげおちる日、そして朝鮮人民が統一された国土で金日成首相をいただき、輝かしい未来にむかって前進するその日は遠くない。

朝鮮の共産主義者と革命的人士たち、民族的良心をもつすべての人びとの任務は、偉大な領袖金日成首相の戦略的構想を実現するためにすべてをささげてたたかい、終局的勝利を最大限に促進することである。

2　南朝鮮革命の旗じるし

金日成首相は、国の統一をなしとげようという四千万朝鮮人民の念願をいだき、北半部で社会主義建設を力強くおしすすめる一方、南朝鮮革命路線をしっかりと堅持し、南朝鮮人民のたたかいを正しく導くために心血をかたむけた。

一つの統一された革命でありながら、二つの地域でまったく異なった発展をしめしている朝鮮革命の複雑さと特殊性は、南朝鮮の革命家と人民に、朝鮮革命の共通した終局的目的の達成と密接に連関しながらも、その内容にお

いて北半部とはまったく異なる闘争課題と方途を明らかにすることを要求した。

金日成首相は、南朝鮮の情勢と社会経済的条件、南朝鮮革命発展の前途、朝鮮革命全般の要求などを科学的に分析、評価し、これにもとづいて、南朝鮮革命の基本路線と当面の課題、その遂行方途などを明確にさししめした。なによりも首相は、その天才的な英知と偉大な主体思想の光によって、南朝鮮革命の人民民主主義的発展の道とその勝利の前途を照らした。

首相がさししめした南朝鮮革命の人民民主主義路線は、南朝鮮の社会経済状態と階級関係にたいする科学的な分析にもとづいたものであり、南朝鮮社会発展の合法則的要求と、南朝鮮革命をひきつづき深化、発展させ、朝鮮革命全体の統一的発展を実現しようという、朝鮮の共産主義者の志向と人民の念願をもっとも正しく反映したものである。金日成首相は、南朝鮮にたいするアメリカ帝国主義の植民地従属化政策と軍事基地化政策によってもたらされた南朝鮮の社会経済状態を科学的に分析し、南朝鮮がアメリカ帝国主義の完全な植民地に、軍事基地になっていることを明らかにした。

南朝鮮の「政権」なるものは、アメリカ帝国主義者の銃剣によってつくりだされたかいらい政権であり、主人であるアメリカの指図を忠実に実行する道具にすぎない。アメリカ帝国主義は、またこのかいらい政権をつうじて、いわゆる「援助」をエサにして、南朝鮮の政治、経済、文化、軍事など、すべての部門をその手中におさめた。

かいらい政権といわゆる「援助」というものは、南朝鮮にたいするアメリカ帝国主義の新植民地主義支配の重要な手段である。

アメリカ帝国主義は南朝鮮を占領したのち、自己の植民地支配にとってより有利な地盤を築くために、南朝鮮の社会、経済的関係を一部再編成した。

アメリカ帝国主義は、一方では、自己の余剰商品処理の仲買人、アメリカ独占の資本浸透の案内者、資源略奪と

軍需品の現地調達者の役割をうけもつ買弁資本を育成し、他方では地主制度を保存しながら、植民地的支配と略奪に有利に南朝鮮農村の封建的搾取体系を再編成した。

アメリカ帝国主義者はまた、「共同防衛」の名目で六万余名にのぼるアメリカ帝国主義侵略軍を投入し、六十余万に達するかいらい軍を維持しており、増大する軍事的需要をみたすために南朝鮮経済を完全に軍事化している。

こんにち南朝鮮社会は、その性格において植民地半封建社会である。アメリカ帝国主義は、南朝鮮ですべての権力をにぎり、かいらい政権をあやつって、もっとも狡猾で悪らつな新植民地主義支配を実施している。南朝鮮経済はアメリカ帝国主義に完全に従属し、農村では依然として封建的地主制度が支配している。のみならず、アメリカ帝国主義の軍事的占領下にある南朝鮮は、大陸侵略のためのかれらの兵站基地になっている。

南朝鮮のこうした植民地的社会、政治、経済体系は、南朝鮮社会の民主主義的発展を妨げる桎梏（しっこく）となっており、経済的破局と人民大衆の無権利と貧困の根源となっている。

そして、その経済的破局と人民の悲惨な社会的境遇は、深刻な社会経済的および民族的矛盾を生みだしている。

金日成首相は、このように南朝鮮社会を解剖し、その基本矛盾をつぎのように規定した。

「現段階における南朝鮮社会の基本矛盾は、アメリカ帝国主義と、それと結託した地主、隷属資本家、反動官僚を一方とし、労働者、農民、都市小ブルジョアおよび民族資本家を他方とする両者間の矛盾である」

ここから首相は、南朝鮮革命は反帝民族解放的、反封建民主主義的性格をもつようになることを明確にしめした。

首相はこうのべている。

「……南朝鮮人民が自由と解放をかちとるためには、アメリカ帝国主義侵略勢力を追いだし、それと結託した地主、隷属資本家、反動官僚を打倒しなければならない。なかでも、アメリカ帝国主義は、南朝鮮人民の第一の闘争対象である。……

ゆえに南朝鮮革命は、外来帝国主義侵略勢力に反対する民族解放革命であり、封建勢力に反対する民主主義革命である。

南朝鮮においてこの革命を遂行する動力は、労働者階級をはじめ、そのもっともたのもしい同盟者である農民と、帝国主義および封建勢力に反対する学生、知識人、小ブルジョア階級である。また民族資本家も反帝反封建闘争に参加することができる」

さらに首相は、南朝鮮革命は反帝反封建民主主義革命の課題を遂行するものではあるが、本質においては労働者階級の指導のもとに、社会主義をめざす人民民主主義革命の性格をおびると教えた。

それは南朝鮮革命がいま、反帝反封建民主主義革命の課題を遂行するが、これは孤立した革命ではなく、一九三〇年代の抗日武装闘争の革命伝統をうけついだ朝鮮革命の一構成部分として、北半部における社会主義建設と密接にむすびついているということにあった。

金日成首相は、南朝鮮革命の性格をこのように明らかにし、その基本任務をつぎのように規定している。

「南朝鮮革命の基本的任務は、アメリカ帝国主義の植民地支配を一掃して南朝鮮社会の民主主義的発展を保障し、北半部の社会主義力量と力を合わせて国の統一を達成することにあります」

首相は、南朝鮮人民にとってもっとも優先的な闘争課題は、南朝鮮からアメリカ帝国主義の侵略軍隊を追いだし、南朝鮮とアメリカとのあいだにむすばれたあらゆる従属的な軍事、経済的条約を撤廃し、すべての侵略機構を粉砕することによって、アメリカ帝国主義の植民地支配を一掃することであると教えた。

金日成首相は、南朝鮮人民のこうした反米闘争は、必ずアメリカ帝国主義の侵略勢力を扶植する手先である地主、買弁資本家、反動官僚どもを打倒する闘争と結合させなければならず、結合させてこそ南朝鮮革命は勝利することができるとのべた。

首相はまた、南朝鮮人民の重要な闘争課題は、南朝鮮社会の民主主義的発展のためにたたかうことであると教えた。

首相は、南朝鮮社会の民主主義的発展のためには、ファッショ的暴圧制度をなくし、人民の民主主義的自由と権利をたたかいとらなければならないことを明らかにした。首相はまた、土地問題、農民問題を解決する課題について明示した。

首相の土地綱領は、農村における封建的な土地所有関係を一掃して、土地債務や貧農の一切の負債をなくし、地主の土地を無償で没収して、土地をもたないか、または、わずかばかりしかもたない農民に無償で分けあたえ、農民の世紀的な宿望をかなえてやることである。

金日成首相はまた、南朝鮮革命が解決しなければならない反帝的な産業国有化の綱領をも明らかにした。

それは、アメリカ帝国主義者と買弁資本家、民族反逆者どもが所有する工場、鉱山、鉄道運輸機関および銀行を国有化して、外来帝国主義と国内売国勢力の経済的基盤をうちこわし、自主的な民族工業を創設することである。

金日成首相は、このほか社会文化的および軍事的改革の課題についても明示した。

それは民主主義的な労働法令の実施、学園の民主化と人民的教育制度の実施、民族文化と人民保健の建設、男女平等権の実施、またアメリカ帝国主義の手中から「国軍」の統帥権を奪いかえし、それを民族の軍隊、人民の軍隊にかえ、反人民的な兵役制をなくし、ファッショ的軍事制度を民主主義的に改革することなどである。

金日成首相はさらに、朝鮮革命全体の重要な構成部門としての南朝鮮革命のいま一つの重大な基本的任務は、北半部の社会主義勢力と力をあわせて、祖国の自主的統一を実現することであると明らかにした。

金日成首相は、南朝鮮革命の基本的任務を明示するとともに、南朝鮮革命において根本的意義をもつものは権力問題の解決であることを明らかにし、権力を奪取する方途を明示した。

首相は、みずからの決定的な闘争によってのみ、南朝鮮人民が抑圧者をうちたおし、真の自由と解放をかちとることができると教え、つぎのようにのべている。

「南朝鮮人民は、アメリカ帝国主義者を南朝鮮から追いだし、その植民地統治をうちくだく闘争を、主権をかちとる闘争と密接にむすびつけてすすめなければならないし、これにあらゆる形態の闘争を従属させなければなりません」

金日成首相のこの命題には、南朝鮮革命の主たる問題は人民が政権をとることであり、それはただ、暴力的方法によってのみなしとげることができ、当面のいろいろな形態の闘争は、このための準備とならなければならないという深遠な思想がつらぬかれている。

首相は、つぎのように教えている。

「……その闘争形態（政治闘争と経済闘争、合法闘争と非合法闘争、暴力闘争と非暴力闘争、小規模の闘争と大規模の闘争といった、いろいろな闘争形態をさす――引用者註）がどのようなものであれ、それらはすべて主権をかちとるための決定的な闘争の準備とならなければならず、その決定的闘争はただ、暴力的方法によってのみ勝利することができるのであります」

南朝鮮人民は、金日成首相のこの教えどおりに、革命的な方法、暴力的な方法によって、アメリカ帝国主義とその手先どもを一掃して政権をにぎってこそ、真の自由と解放をかちとることができ、民族至上の課題である祖国統一の偉業をも達成することができるのである。

金日成首相が明らかにした南朝鮮革命の基本路線は、一九三〇年代の抗日武装闘争の時期に発表した祖国光復会の綱領と、解放後、北半部でそれを具体化し、輝かしく具現したその経験を南朝鮮の実情に適応して発展させたものであり、南朝鮮人民の自由と解放のもっとも正しい道を明らかにしたものである。じつにこれは、南朝鮮革命の

旗じるしであり、南朝鮮の革命家と愛国的人民が、みずからのたたかいにおいて堅持しなければならない唯一の正しい指針である。

金日成首相は、南朝鮮革命の基本路線を明らかにしたばかりでなく、南朝鮮革命発展の各段階ごとに、それに適合する革命の正確な戦略戦術的方針をたて、南朝鮮人民にたたかいの前途を照らした。

首相は解放直後、南朝鮮人民の闘争が高揚の一途をたどっていた時期、また一九四八年に南朝鮮にかいらい政権がでっちあげられたのち、人民の闘争が一時的退潮期にはいった時期、そして祖国解放戦争の時期に、当面する情勢にもとづいて党をどのように建設し、統一戦線運動をどのようにくりひろげ、大衆運動をどのように導くべきかという問題について、具体的な方針を明らかにした。

首相が明らかにした闘争方針は、南朝鮮人民を大きくはげましたし、かれらを勝利への確信でふるいたたせた。

南朝鮮人民の革命闘争は、アメリカ帝国主義とその手先どものファッショ的暴圧が支配するきわめて困難な条件のもとですすめられ、多くの紆余曲折をへざるをえなかった。

それにもかかわらず、南朝鮮人民は解放後の北半部における革命の成果にはげまされながら、一九四六年の南朝鮮労働者の九月ゼネストと十月人民抗争、一九四八年の二・七救国闘争と五・一〇単独選挙反対闘争、十月の麗水(リヨス)での軍人暴動など、アメリカ帝国主義とその手先どもの植民地ファッショ支配に反対し、生存の権利と民主主義、祖国の統一のためにねばり強くたたかった。

このような闘争は、南朝鮮の人民大衆がアメリカ帝国主義の植民地従属化政策に強力に反対し、祖国の統一と独立、自由と民主主義を断固として要求していることをしめしたし、かれらの革命性とその威力を大きく示威した。

しかし、アメリカ帝国主義とその手先李承晩かいらい一味の野獣のような暴圧と、当時南朝鮮労働党の指導部に

潜入していた朴憲永、李承燁などのスパイ分派一味の破壊謀略策動によって、党の組織は完全に破壊され、革命勢力は分裂、瓦解されるにいたった。

金日成首相は、南朝鮮の革命家に革命的党を建設し、労働運動をよみがえらせ、高揚させるためには、かつて南朝鮮の労働運動が失敗した深刻な経験から教訓をくみとらなければならないと教え、かつての南朝鮮の労働運動が失敗した原因について、つぎのように明らかにした。

「南朝鮮労働運動の失敗の原因は、この運動の指導層と中核が、マルクス・レーニン主義とは縁もゆかりもないさまざまな分派分子や、はなはだしくはアメリカに雇われたスパイなどによって構成されており、かれらの罪悪的行為の結果、党がしっかりと組織されず、労働運動を正しく指導しえなかったことにある。

かれらは、闘争のそれぞれの段階における状況と敵味方間の力関係をマルクス・レーニン主義的に分析することなく、また合法的闘争と非合法的闘争を組合わせる問題を十分考慮することなく、盲目的に人民を流血のたたかいに追いやった。こうして党組織は敵のまえにことごとく露呈され、数多くの堅実な党員が検挙され、闘争の隊伍はばらばらになってしまった。分派分子によって四分五裂した党組織は、党内に潜入したスパイの密告や敵の弾圧によってことごとく破壊された」

朴憲永、李承燁などのスパイ一味の罪業によって、南朝鮮で革命的党をつくり、革命の隊列を築きあげる活動は、戦後の時期にいたって、白紙から新しくはじめなければならなかった。

金日成首相は、抗日武装闘争の時期にみずから創造した敵の支配地域内および国内の革命工作にかんする豊富な指導経験を南朝鮮の実情にあうように具体化し、南朝鮮の革命運動を発展させるためのもっとも正しい新たな道を切りひらいた。

金日成首相は、戦後における南朝鮮の革命運動では、ファッショ化された南朝鮮の条件のもとで、革命の準備期

に相応するよう革命勢力を保存しながら、またそれをたえず成長させるためにたたかわなければならないと教えた。

首相は、この基本方針に立脚して、革命発展のそれぞれの時期に南朝鮮人民のたたかいを発展させる、具体的な闘争方向をさししめした。

一九六〇年三月十五日、李承晩かいらい政権の不正選挙に反対して馬山（マサン）市民が闘争の最初ののろしをかかげたのを契機に、南朝鮮人民の救国闘争がいっそうはばひろく、新たな段階にはいったときであった。

金日成首相は、馬山の蜂起が決して偶発的な事件ではなく、さらに大きな事変に発展することを科学的に予見し、全人民的抗争によって売国的なファッショ政権を打倒する道を明らかにし、闘争の状況にかなった適切なスローガンと闘争方向を明示した。

抗争が絶頂に達した四月二十一日、金日成首相の発起によって、朝鮮労働党中央委員会は、南朝鮮人民の英雄的な四月蜂起の勝利の前途を照らすアピール、「南朝鮮人民に告ぐ」を発表した。

アピールは、南朝鮮人民に、アメリカ帝国主義侵略軍を追いだし、李承晩かいらい政権を打倒するよう訴えた。このアピールは、大衆的蜂起にたちあがった南朝鮮人民の新しい生活、新しい政治をめざす勇敢な闘争をさらに激励した。

南朝鮮人民は、英雄的な四月蜂起によって、アメリカ帝国主義の古くからの手先である李承晩ファッショ政権を打倒し、アメリカ帝国主義の植民地支配に甚大な打撃をあたえた。

アメリカ帝国主義者は、植民地支配の危機を収拾すべく、かいらい政権に張勉一味をすえ、「民主政治の実現」、「福祉社会の建設」などのいつわりのスローガンをかかげさせた。

このようなとき、金日成首相はふたたび、南朝鮮における事態発展の本質を科学的に分析し、南朝鮮人民に真の

自由と解放の道をさししめした。

首相は一九六〇年、八・一五解放十五周年慶祝大会の歴史的な報告のなかでつぎのようにのべている。

「アメリカ帝国主義者の南朝鮮占領がつづき、わが国が分裂しているかぎり、だれがどのような方法で政権の座を占めようとも、破局に直面している南朝鮮の事態を収拾することはできないし、人民の要求を解決することもできません。ただ、かわることといえば、李承晩政府が『張承晩』政府に改称されることだけであり、その境遇と末路は同じものであり、人民の生活にはなんらの改善もみられないでしょう」

首相はひきつづき、当面する情勢に相応するよう自主的統一の新しい局面を主動的に切りひらくための措置として、南北連邦制案をうちだし、南朝鮮人民を自主的統一をめざすたたかいへとふるいたたせた。

南朝鮮人民のたたかいのホコ先は、しだいにアメリカ帝国主義にむけられるようになった。アメリカ帝国主義の植民地支配の危機はいっそう深まり、祖国の自主統一をめざす大衆の闘争気勢はさらに高まっていった。

これにあわてふためいたアメリカ帝国主義者とその手先どもは、軍事クーデターをおこし、破局におちいった植民地支配の危機の「出路」を軍事ファッショ独裁のでっちあげにもとめ、ファッショ暴圧で南朝鮮人民の反米救国闘争を踏みにじろうと狂奔した。

金日成首相は、南朝鮮の当面する重大な事態をただちに洞察し、それに対処して反革命の攻勢をしりぞけ、南朝鮮革命を積極的におしすすめる方針をうちだした。

首相は、一九六一年九月にひらかれた朝鮮労働党第四回大会での報告で、その方針を全面的に明らかにした。

金日成首相は、アメリカ帝国主義によってでっちあげられた軍事クーデターの反動的でファッショ的な本質と、その破滅の前途を科学的に分析し、南朝鮮革命の反帝反封建的綱領を具体化してふたたび明らかにし、南朝鮮人民の闘争課題を全面的に解明した。

そして、南朝鮮人民が反帝反封建闘争において勝利をかちとるためには、マルクス・レーニン主義を指針とし、労働者、農民をはじめとする広はんな人民大衆の利益を代表する革命的党を組織しなければならないし、その合法的地位をたたかいとるためにたたかわなければならないと教えた。

首相の歴史的な報告は、南朝鮮革命が提起する基本的問題について正しい解答をあたえ、南朝鮮人民に明確な闘争目的と任務と闘争方途を明らかにした綱領的文献であった。

金日成首相は、一九六六年十月、朝鮮労働党代表者会議でおこなった歴史的な報告において、南朝鮮の現情勢を全面的に深く分析し、それにもとづいて、現段階における南朝鮮革命の戦略戦術的方針をより具体的に提示した。

金日成首相は、南朝鮮における現情勢の重要な特徴についてつぎのようにのべている。

「南朝鮮の現情勢における重要な特徴は、アメリカ帝国主義とその手先どもが、悪らつな軍事ファッショ独裁にもとづいて、侵略と戦争政策をいっそう強化していることであり、その結果、アメリカ帝国主義の植民地統治に新たな、より重大な危機が生じていることであります」

金日成首相は、南朝鮮の現情勢は革命勢力を急速に成長させ、民族解放民主主義革命を促進することを要求していると指摘し、その具体的方針を明らかにした。

首相は、南朝鮮革命の基本任務と南朝鮮人民の戦略的闘争課題をいま一度想起させ、当面の闘争課題として、「アメリカ帝国主義とその手先どもの戦争政策を破綻させ、ファッショ的暴圧に反対し、民主主義的自由と権利をかちとるためにたたかわなければならない」と教えた。

反ファッショ民主化のための闘争を先行させる首相の方針は、南朝鮮人民の革命闘争を、切迫した当面の課題である反ファッショ民主化闘争を拡大発展させる過程をつうじて反米救国闘争へと深化、発展させるための正確な闘争方途を創造的に切りひらいたものである。

金日成首相はひきつづき、「現段階での南朝鮮革命の基本方針は、敵の弾圧から革命勢力を保存するとともに、それを不断に蓄積し、成長させることによって革命の決定的な時期をむかえる準備をすることにあります」と、戦後終始一貫して堅持している戦略戦術的方針をふたたび強調し、それを貫徹するうえで提起される課題を具体的に解明した。

金日成首相は、南朝鮮で革命勢力を準備し、革命を前進させるうえで重要なことは、マルクス・レーニン主義の戦略戦術的な原則にもとづいて、大衆運動と闘争を正しく組織指導することであると強調した。

「敵味方の力関係を正確に見きわめず、国の内外情勢を慎重に評価することもせずに、冒険主義的な闘争をおこなうならば、敵の弾圧から革命勢力を保存し、蓄積するうえで重大な損失をきたし、結局は革命を大きく後退させる結果をもたらすことになるでしょう。他方、革命が困難だからといって、有利な情勢が到来するのを待つだけで積極的な闘争をおこなわなければ、革命勢力を蓄積することもできず、革命の途上にもたらされる困難な局面を打開することもできないでありましょう」

金日成首相はこのように、大衆運動と闘争を組織指導するうえで左右の偏向を警戒し、南朝鮮の当面する主、客観的情勢に応じて政治闘争と経済闘争、暴力闘争と非暴力闘争、合法闘争と非合法闘争など多様な闘争形態を正しく組合わせて、革命運動を積極的に発展させていかなければならないと教えた。

金日成首相は、南朝鮮において革命勢力を準備するうえで、なによりも重要なことは革命の参謀部であるマルクス・レーニン主義党を組織し、そのまわりに社会の基本大衆である労働者、農民を結集し、強力な革命の主力部隊を編成することであると教えた。

南朝鮮の革命運動の経験は、労働者、農民、進歩的な知識人のあいだに深く根をはったマルクス・レーニン主義党の統一的な指導がなければ、革命勢力の成長も、革命運動の成果的な発展ものぞめないということをしめした。

解放直後、南朝鮮で人民大衆のたたかいは非常に高まったが、真の革命的中核をもつ党の指導が保障されなかったがために、たたかいを勝利へと導くことができなかった。祖国解放戦争後にも、たびたび有利な情勢がもたらされはしたが、革命的党の統一的な指導がなかったために、人民大衆を決定的な闘争へと導くことはできなかった。

金日成首相は南朝鮮で、戦闘的でしかも弾力性のあるマルクス・レーニン主義党を組織し、その指導的役割を高めることに決定的な意義をあたえ、つぎのように教えた。

「南朝鮮の革命組織と革命家たちは、敵に反対する実践闘争をつうじて党の隊列をたえず拡大強化しなければならず、とくに党組織を、たたかいのなかできたえられ、点検された革命的中核分子によって質的にかためなければなりません。南朝鮮の革命的党組織は、マルクス・レーニン主義の世界観をしっかりともち、人民のために最後までたたかう覚悟ができており、どのような試練にあっても革命の節操を守りぬく不屈の革命闘士たちの戦闘的部隊とならなければなりません。党組織の指導的骨幹は、どのように複雑な状況のもとでも情勢を正しく判断し、マルクス・レーニン主義戦略戦術の原則にもとづいて、運動を巧みに指導することのできる、準備された革命家たちで組織されなければなりません」

これは南朝鮮がアメリカ帝国主義侵略軍に占領され、ファッショ化された条件のもとで、首相が当初から強調してきた党建設の賢明な方針である。

金日成首相は、革命の主力軍を編成するうえで、革命的党組織をしっかりとかためるとともに、革命の基本大衆である労働者、農民を決定的に、かたく団結させるべきであると強調した。

労働者とともに、農民を主力軍として組織することについての首相のこの方針は、新しい独創的な方針であり、労働者階級の指導的役割を高め、労農同盟を強化し、農民大衆の革命性をあますところなく発揮できるようにすることによって、革命の主体的要因を決定的に強化し、革命勝利の基本条件を準備する重要な方途である。

この方針は、植民地民族解放革命において農民問題の解決が基本となるという、マルクス・レーニン主義の一般的原則を南朝鮮革命の具体的条件にそくして創造的に発展させたものであり、南朝鮮農民の具体的な社会的、階級的境遇と、かれらの革命的役割にたいする科学的な分析、評価にもとづいたものであった。

金日成首相は、労働者、農民を組織化する方針をつぎのようにのべている。

「大衆組織は、広はんな大衆をもうらした組織とならねばならず、真に階級的利益を擁護する民主主義的組織とならなければならず、原則的には合法的組織でなくてはなりません」

金日成首相は、革命を勝利させるためには、革命の主力軍を編成するとともに、革命に利害関係をもつすべての勢力をたたかいとり、それを一つの政治的勢力に結集させて、反革命を徹底的に孤立させなければならないと教えるとともに、南朝鮮で労働者階級の指導のもとに、労農同盟にもとづく労働者、農民、学生、知識人、都市小ブルジョアジーおよび良心的な民族資本家など、各界各層の愛国的民主勢力をもうらする広はんな反米救国統一戦線を形成しなければならないとかさねて強調し、統一戦線運動で守らなければならない原則と、その実現方途をつぎのように明らかにした。

「南朝鮮の革命組織と人民は、広はんな統一戦線を形成するために、あらゆる努力をはらわなければなりません。反米救国闘争の旗のもとに、とくにアメリカ帝国主義とその手先の戦争政策とファッショ弾圧に反対し、ベトナム派兵と『韓日条約』に反対する闘争の旗のもとに、最大限に広はんな階層を結集して共同闘争を展開しなければなりません。

統一戦線を形成し、強化するにあたっては、下層統一戦線を基本にし、これにもとづいて上層統一戦線を形成する方針をしっかりと堅持し、低い形態の共同闘争からしだいに高い形態の闘争へと発展させ、部分的な連合から全面的な連合へと発展させてゆくようにしなければなりません」

この方針は、革命の基本的要求とさしせまった当面の要求を正しくむすびつけ、広はんな大衆をたたかいに決起させることのできる当面の闘争スローガンを前面にかかげ、反帝反ファッショ愛国勢力の共同闘争を発展させ、このたたかいを戦略的要求にそうように深化発展させる過程をへて、反米救国統一戦線を形成することを明らかにしたものである。

首相はまた、南朝鮮で反革命勢力を弱め、革命勢力を強めるうえで、かいらい軍にたいする働きかけを強化することがきわめて重要であると強調してつぎのように教えている。

「南朝鮮の革命組織と革命家たちは、『国軍』にたいする活動をたくみにおこない、兵士大衆と中級、下級将校を革命の側にたたかいとることに深い関心をはらうべきであります」

金日成首相は、南朝鮮で反革命を孤立させ、革命勢力を成長させるうえで政治、思想活動に大きな意義をあたえた。

「革命は、大衆をめざめさせることからはじまります。人民大衆を意識化することなくして、かれらを組織的に結集させることも、大衆運動を発展させることもできません。こんにち南朝鮮において、敵の反動的思想攻勢が日ましに強まっている条件のもとで政治、思想活動を先行させる必要性はますます大きくなっています。南朝鮮の革命組織は、労働者、農民の階級意識と人民大衆の民族意識を高め、かれらを政治的に啓蒙し、めざめさせるために積極的に努力すべきであります」

首相はこのように教えるとともに、人民大衆を政治的にめざめさせる政治、思想活動を、あらゆる活動に先行させねばならないと強調した。

金日成首相が明らかにした南朝鮮革命の戦略戦術的方針は、朝鮮革命の特性と、南朝鮮の現実に相応するよう革命にかんするマルクス・レーニン主義理論を創造的に発展させた輝かしい模範である。

この方針は、南朝鮮の革命家たちと人民に新たな力と勇気、そして勝利の信念をあたえ、かれらのたたかいの前途を照らす灯台であり、人民大衆を闘争へとよびおこす革命の旗じるしである。

南朝鮮人民は、革命発展のそれぞれの時期に応じた偉大な領袖の教えと、北半部での社会主義建設の巨大な成果にはげまされながら、軍事ファッショ独裁が一切の進歩的なものを圧殺しているきわめて困難な状況のもとでも、ひるむことなくたたかいをすすめた。

南朝鮮の革命家と労働者、農民および愛国的青年学生は、四月人民蜂起以後も、ひきつづき英雄的な闘争を力強く展開した。

「韓日会談」を粉砕するための一九六四年の三・二四闘争と六・三蜂起、一九六五年八月の大衆的示威闘争は、米日帝国主義者の侵略政策に反対し、軍事ファッショ独裁を打倒するための反帝、反ファッショ愛国闘争であった。

南朝鮮の革命家と愛国的人民は、きょうも反米救国抗争の旗じるしをさらに高くかかげ、いたるところでより

アメリカ帝国主義者とその手先朴正煕一味に反対してたたかう南朝鮮の人民たち

積極的なたたかいをくりひろげている。

南朝鮮人民の革命闘争につねに深い関心をはらっている金日成首相は、かれらの闘争を評価し、つぎのようにのべている。

「いま南朝鮮人民の革命闘争は、以前よりもさらに一歩前進し、さまざまな形態で展開されており、闘争形態がより多様化しています。それは、いっそう広はんな大衆的闘争として展開されています」

南朝鮮の革命家たちは、偉大な領袖金日成首相の教えをかかげ、山中で、地下で、そして牢獄で勇敢にたたかっており、困難なたたかいの試練にもめげず、革命勢力をしっかりとかためている。アメリカ帝国主義者とその手先朴正熙一味の戦争政策に反対し、生存の権利と民主主義をかちとり、祖国の自主的統一をめざすこのたたかいには、労働者、農民、漁民や青年学生、知識人、都市貧民など、広はんな人民大衆が参加しており、かれらの闘争は示威、籠城、ストライキ、集団反抗、暴力的衝突など、積極的な形態へと発展しながら拡大強化している。

南朝鮮人民のさまざまな形態の闘争は、武装闘争と組合わさってさらに積極化し、敵に甚大な打撃をあたえている。

南朝鮮出版物の報道によれば、一九六七年六月から十月までの期間だけでも、南朝鮮では百二十余回にわたる武装グループの活動があり、それによってアメリカ帝国主義侵略軍四百一名をふくむ四百七十四名のアメリカ軍およびかいらい軍と警察が掃討された。武装グループは、アメリカ帝国主義侵略軍の兵営とかいらい軍哨所および警察支署を襲撃し、軍用列車を爆破するなど、果敢な闘争をくりひろげた。

一九六八年一月二十一日夜、多数の人員からなる南朝鮮武装遊撃隊の一小部隊は、朴正熙逆賊がとぐろをまいている「青瓦台（チョンワデ）」から五百メートルの地点にまで進出し、朴正熙一味があわててくりだしたかいらい警察部隊および特務隊と銃撃戦をくりひろげ、敵の心胆を寒からしめた。その後も武装グループは、かいらい「中央庁」まえの

世宗路(セジョンノ)およびその他の地点に出撃したし、「国際電信電話局」などのかいらい中央機関を襲撃し、手榴弾をあびせた。

武装遊撃隊は南朝鮮のいたるところに出没し、敵を不意うちにし、人民に革命的影響をあたえ、人民大衆の物心両面にわたる支援のもとで、その活動範囲をますます拡大している。

南朝鮮の広はんな地域で展開されている武装遊撃闘争は、敵の後頭部を痛撃し、かれらを不安と恐怖のどん底に追いこみ、南朝鮮人民に新たな力とたたかいの確信をあたえ、かれらの政治的動向に大きな変化をもたらした。

これに恐れをなしたアメリカ帝国主義者とその手先朴正熙一味は、南朝鮮の革命家と人民たちの武装遊撃闘争と大衆的革命闘争を抹殺しようと、アメリカ軍とかいらい軍、警察、果ては予備師団にいたる十余師団をも動員し、いわゆる「掃討作戦」にはのべ六百余万人もつぎこんだ。

積極化する南朝鮮人民の反米救国抗争に恐れをなしたアメリカ帝国主義者とその手先どもは、危機からの出路を野獣のような弾圧と戦争政策の強化にもとめ、ますます無謀な「反共」騒動と冒険政策にしがみついている。これはかれらの地位を強化するどころか、かえってその滅亡の危機を促進する結果をもたらしている。

金日成首相は、このような無謀な道につきすすんでいるアメリカ帝国主義の脆弱性と滅亡の不可避性を確証して、つぎのようにのべている。

「……アメリカ帝国主義は下り坂を歩んでいる。アメリカ帝国主義がもっとも横暴にふるまっているこんにち、その脆弱性はかつてなくはっきりとあらわれている」

南朝鮮におけるアメリカ帝国主義の地位は西山落日の運命にあり、その滅亡は不可避である。これは、なにものをもってしてもふせぐことのできない歴史発展の必然性である。

南朝鮮の植民地制度を維持しようと、アメリカ帝国主義が強行している断末魔のあがきは、南朝鮮人民のさらに

大きな不満と反抗に会うであろうし、かれらの植民地支配の崩壊過程をいっそう促進するであろう。
金日成首相のよびかけにこたえ、祖国統一の偉業を達成するために、南朝鮮人民が支援を要求するときには、いつでも決定的闘争にたちあがれる政治的、思想的準備と、物質的準備をととのえている北半部人民の強力な支援をうける南朝鮮人民の革命闘争が勝利する日は近い。
アメリカ帝国主義者とその手先朴正熙一味に反対する闘争をとおして、日ましに強化されている南朝鮮の革命勢力が決定的な時期を早めてついに革命にたちあがるとき、アメリカ帝国主義の植民地支配は必ずやくつがえされるであろう。
そして、祖国統一の偉業は、北半部の強力な社会主義勢力と南朝鮮の愛国勢力が一つにむすばれ、その強大な力によって輝かしく達成されるであろう。

3　祖国統一の主導権をにぎって

四千万朝鮮人民の敬愛する領袖金日成首相は、南朝鮮革命を完遂して祖国を統一し、統一なった祖国をつぎの世代にゆずりわたすことを自身の崇高な使命、民族至上の課題としている。
金日成首相は、国土の分裂によって民族がなめている苦痛と不幸をだれよりも深く憂慮し、われわれの世代に必ず祖国統一の偉業をなしとげ、統一された祖国をつぎの世代にゆずりわたさなければならないと、くりかえし強調している。
「われわれは、南朝鮮の同胞がおかれているこの惨状を座視することはできないし、分裂した祖国を決してつぎの世代にゆずりわたすことはできない。国と民族が分断され、同じ血をうけついだわが同胞、兄弟姉妹が、外来侵

略者にありとあらゆる民族的侮辱とさげすみをうけているこの不幸な状態をそのままにして、朝鮮のいかなる共産主義者も、朝鮮のいかなる良心的な民族主義者も自己の任務をまっとうしたとはいえない。

われわれは必ずわれわれの世代に南朝鮮革命をなしとげ、祖国を統一しなければならないし、統一した祖国をつぎの世代にゆずりわたさなければならない」

金日成首相は、つねに人民をこのように教育するとともに、国の統一という民族的大業をなしとげるための卓越した戦略戦術的方針をしめし、その実現にむかって人民を導いてきた。

首相が明らかにした祖国統一のもっとも正確で唯一の道——それは、朝鮮人民の主体的な力をもって、いかなる外勢の干渉をもしりぞけ、自己の民族問題にみずからが責任をおい、みずからの手で解決する自主的統一の道である。

金日成首相はつぎのようにのべている。

「わが祖国の統一を実現するにあたってはいろいろの方途がありえます。しかし、その具体的な方途がどうであれ、祖国の統一は、あくまでも朝鮮人民の手によって自主的に解決されなければならず、またそれ以外の道は決してありえません」

もともと朝鮮人民は、アメリカという国がこの世にあらわれるはるか以前のむかしからアジアの文明を誇ってきた人民であり、その才能と英雄性によって世界の耳目をそばだたせてきた民族である。偉大な領袖金日成首相の指導のもとに朝鮮人民は、「大東亜共栄圏」を夢みていた日本のサムライと、世界制覇を夢みていたアメリカ帝国主義をうちやぶった英雄的人民であり、世界でもっともすぐれた社会主義制度とゆるぎない自立的民族経済を建設した誇り高い人民であり、「黄金の芸術」を創造した聡明な人民である。世界が「アジアの光明」として、自国の輝かしい未来像としてあおぎ、驚嘆と羨望を惜しまない社会主義祖国をもつ栄誉ある人民である。

この聡明で、誇り高いわが人民が、ほかならぬ自国の問題を、どうして外勢にまかせることができようか。

金日成首相がさししめした自主統一の原則——、これはまさに、首相の不滅の主体思想の具現であり、アメリカ帝国主義侵略勢力をうちやぶる勝利の保障であり、祖国南半部の地と愛する同胞を解放し、革命の全国的勝利をめざす民族解放革命における勝利の旗じるしである。

金日成首相は、崇高なわが民族の名においてつぎのように言明した。

「われわれは、国連が朝鮮問題を討議する権利をもたず、わが国の内政に干渉する権利をもたないと認めます。朝鮮問題は、ニューヨークやワシントンで外国人が論議する問題ではなく、ピョンヤン、もしくはソウルで朝鮮人同士で討議されなければなりません」

にもかかわらず南朝鮮の売国的反動勢力は、相もかかわらずアメリカ帝国主義にへつらいながら、いわゆる「国連監視下の統一論」を念仏のようにとなえている。かれらのこうした主張は、「国連監視下の統一」だけが唯一の方途だということである。これは民族の内部問題に外勢をひきいれ、アメリカ帝国主義侵略者に朝鮮をゆだねることであり、狼に羊を育てさせるようなものである。

「国連監視下の統一論」は、「国連」の仮面をかぶったアメリカ帝国主義侵略者のあやつりと銃剣のもとにおける全朝鮮の「選挙」を主張するものであり、それはつまるところ、南朝鮮におけるアメリカ帝国主義の植民地支配体制を北朝鮮にまでひろげようとするものである。

外勢に依存して国の統一をはかることは妄想であり、それは全朝鮮を帝国主義の侵略にまかせようとする売国奴のたわごとである。

金日成首相は、こうした連中をつぎのようにきびしく糾弾した。

「歴史は、外来侵略軍によって国が占領され、外部勢力の干渉が存在する条件のもとで、国の独立と統一が達成

されたという記録をとどめていません。……

アメリカ軍隊の南朝鮮占領を庇護しながら国の統一をうんぬんする連中は、実際には統一に反対する連中であり、帝国主義の手先どもであります」

金日成首相は、南朝鮮のかいらい一味が「勝共」と「赤化の危機」をとなえていることについても、あますところなく糾弾した。

首相は、南朝鮮かいらい一味が「赤化」と「勝共」をわめきたて、統一問題を「七十年代後半」にいたって論議するといっていることは、国で統一をわめきたてるだけで事実上、祖国の統一になんらの関心をもしめしていないことを意味するとのべ、その本質をつぎのように暴露した。

「……『勝共』とは空の星を手にとることを夢みるもののおろかな寝言にすぎず、『赤化』の危険をわめきたてることは統一に反対して分裂を永久化し、南朝鮮人民をアメリカ帝国主義の植民地的終身奴隷にしようという、かれらの売国逆賊的本質をさらけだすだけです」

金日成首相は祖国の統一後、全朝鮮に樹立される社会制度についても正しい解明をあたえた。

首相はつぎのようにのべている。

「祖国が統一された後、わが国にどのような社会制度を樹立するかということは、当然全朝鮮人民の総意によって決定される問題であります。もし南朝鮮人民が北半部人民と同じく、こぞって共産主義をのぞむならば、統一されたわが国にはいうまでもなく、そのような理念にもとづく社会制度が樹立されるでありましょう。

共産主義思想は人類の輝かしい未来を照らしだすもっとも先進的な思想であります。共産主義者の指導のもとに北半部人民が社会主義建設で達成した成果は、共産主義思想を指針にするとき、人民のために、民族的繁栄と祖国の隆盛発展のために、いかに偉大な仕事をなしうるかをはっきりとしめしています。こんにち共産主義思想は地球

上すべての大陸で数億万人民の心をとらえており、かれらを自由と解放、新しい社会建設をめざす聖なるたたかいへと鼓舞しています」

金日成首相のこの教えには、祖国の統一が人民の利益と合致して達成されるべきであるという叫びがりょうりょうとひびきわたっており、社会主義制度をすでにうちたて、社会主義の高峰めざしてつきすすむ共和国北半部人民の念願がこめられており、アメリカ帝国主義の植民地支配のくびきからぬけだし、新しい社会の建設をめざす南朝鮮人民の歴史的宿望がこめられている。

南朝鮮人民は、四千万朝鮮人民の偉大な領袖金日成首相が指導する共和国の旗のもとに祖国を統一し、首相の偉大な革命思想を南朝鮮にも具現して、首相の指導のもとに北半部人民と同じように社会主義の楽園で、自由でしあわせに暮らすことを望んでいる。南朝鮮人民は、金日成首相を、自己の前途を照らす太陽として、四千万朝鮮人民の偉大な領袖としてあおぎ、みずからの運命を全的にゆだねているのである。

金日成首相は、祖国統一の唯一にして正確な道をさししめしたばかりでなく、一日も早く祖国を統一して南朝鮮人民に輝かしい未来をもたらすために、もっとも公明正大で、現実的かつ自主的な平和統一方案を提起し、その実現のために全力をつくした。

首相が提起した自主的な平和統一方案は、アメリカ帝国主義に幻想をいだいてこれと妥協し、革命の平和的発展をうんぬんする右翼投降主義とはなんの共通性もない。

それは、南朝鮮からアメリカ帝国主義侵略者を追いだしてその植民地支配を一掃し、祖国統一の実現をめざす徹底した反米反帝的、革命的方針である。

金日成首相は、自主的平和統一の先決条件は南朝鮮からアメリカ帝国主義侵略者を追いだし、その植民地支配をうちくだくことであると教えた。

首相はつぎのようにのべている。

「問題は、南朝鮮がアメリカ軍の占領下にあり、アメリカの支配下におかれていることにあります。アメリカ軍の南朝鮮駐屯とアメリカの植民地従属化政策は、祖国統一の根本的障害であります。したがって南朝鮮からアメリカ帝国主義侵略軍を撤去させ、アメリカの植民地統治を一掃するたたかいなしには、祖国の統一について語ることはできません。

また、外勢の干渉を許さないためには、外来侵略勢力の足場となっている売国勢力に反対しなければなりません。

かつては日本帝国主義の番犬をつとめ、ついでアメリカ帝国主義の走狗に身を変じ、こんにち米日帝国主義の忠実な手先となっている朴正熙のような売国奴一味は打倒されなければなりません。このような勢力をそのままにしておいては、外勢の干渉を排除することはできず、国の自主的統一をなしとげることはできません」

それゆえ首相は、祖国の自主的な平和統一の実現は南朝鮮で革命力量をいかに拡大強化し、敵といかにたたかうかに大きくかかっていると強調し、つぎのようにのべている。

「南朝鮮にも自主的な政権が樹立されるか、あるいは南朝鮮が中立化でもされるなら、わが人民自身の手によって国の統一をなしとげるうえで、事実上大きな難関はなくなるでしょう」

これは、首相が革命の客観的法則と祖国統一をめざすたたかいの実践的経験を深く分析してくだした結論である。

祖国統一をめざすたたかいの全過程にわたって、南朝鮮での情勢発展にそくして金日成首相が提示した自主的な平和統一方案は、このような原則的立場にもとづいたものである。

金日成首相は、北半部における革命と建設を指導する多忙な日々にも、南朝鮮の革命情勢の発展から目をはなさず、つねに祖国統一問題の主導権をにぎり、アメリカ帝国主義に連続的な打撃をあたえながら、祖国の自主的統一

の新しい局面を切りひらいてきた。

首相は徹底的な政治的暴露により、主たる敵を孤立させて打撃をあたえ、広はんな大衆を結束して革命闘争にふるいたたせる卓越した指導方法を、祖国統一のとびらをひらくたたかいにも具現していった。

首相は自主的な平和統一をめざすたたかいで、つねにそのホコ先をアメリカ帝国主義侵略者を南朝鮮から撤退させることにむけた。

金日成首相は、このような攻撃の基本方向をゆるぎなく堅持してアメリカ帝国主義の植民地従属化政策と民族分裂策動をそのつど具体的に暴露し、つねにその策動を制圧する主動的な措置を講じてきた。

金日成首相は抗日武装闘争の時期、たくみな戦術で日本侵略者に息つくいとまもあたえずつづけざまに打撃をくわえたように、アメリカ帝国主義とその手先どもの「北進」、「勝共統一」政策をあますところなく暴露粉砕し、統一問題でかれらを完全に受身におとしいれ、連続的な打撃をくわえ、かれらをのがれることのできない窮地へと追いこんだ。

停戦直後、アメリカ帝国主義者が停戦協定を乱暴に踏みにじり、南朝鮮の軍事基地化政策を強化し、朝鮮で新たな戦争を挑発しようと策動したときにも、首相は、自主的平和統一方案と具体的な提案をつぎつぎに提示して南朝鮮人民のたたかいの前途を明示し、祖国統一の新しい局面を主動的に切りひらいた。

一九五四年十月、朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議が採択した祖国の平和統一を促進するためのアピール、つづいてとられた南北間の通信、郵便連絡の開始と北半部の豊富な電力を南朝鮮へおくる問題をふくむ一連の経済、文化交流をはかる提議や具体的措置、一九五六年四月、朝鮮労働党第三回大会で提起された「南北間の接触を促進する問題からはじめて、南北統一問題まで討議し、その実際的対策を講ずることのできる」常設委員会設置にかんする方案、朝鮮から一切の外国軍隊の撤退を要求した一九五八年二月の朝鮮民主主義人民共和国政府声明など、そ

の攻勢は連続的で、しかも祖国愛にみちあふれたはげしいものであった。

金日成首相のこのような措置は、南朝鮮人民の絶対的な支持と共感をよびおこしたし、アメリカ帝国主義と李承晩一味にたいする南朝鮮人民のつもりつもった憤りと怨みの炎を爆発させるうえで大きな影響をおよぼした。

アメリカ帝国主義とその手先どもの苛酷な弾圧にもひるまず、生存と民主主義的権利をめざす南朝鮮人民のたたかいは、とどまることがなかった。そしてついに、一九六〇年四月、人民蜂起によって李承晩かいらい政府はうちたおされ、アメリカ帝国主義の植民地支配は甚大な打撃をうけ、「北進統一」政策は総破産をまぬがれえなくなった。

李承晩かいらい政権が崩壊するや、アメリカ帝国主義は張　勉をかわりの手先として政権の座にすえ、いわゆる「先建設、後統一」というデマスローガンで南朝鮮人民の祖国統一の志向をおさえようと画策した。

金日成首相は、北半部における社会主義建設の成果にもとづき、アメリカ帝国主義とその手先どもの欺瞞政策を徹底的に暴露し、祖国統一の決定的局面を切りひらくために積極的で、大胆な構想をしめした。

それは、八・一五解放十五周年慶祝大会の歴史的な報告で明らかにされた南北連邦制にかんする方案と、これを実践的に具体化した一九六〇年十一月の最高人民会議の意見書、そして南北間の経済文化的協力の実現をはかる提議などであった。

首相が提起した南北朝鮮連邦制案は、南北朝鮮に樹立された現存の政治制度を当分そのままにして、二つの地域間の経済文化および社会経済的連係と協調の強化をその内容とするものであった。これは、断ち切られた民族的連係を回復するための過渡的措置として南北間の理解を深め、祖国統一を促進するうえで有利な局面を切りひらくためのものであった。

この方案は、アメリカ帝国主義と張勉一味を完全に窮地に追いこんだ強力な爆弾であったし、南朝鮮人民の心を

強くとらえ、かれらを自主的統一のための反米救国闘争へ呼びおこす力強い推進力となった。
南朝鮮人民はこの方案を革命的熱意で支持、歓迎し、「統一だけが生きる道」であると叫びながら祖国の自主統一をめざす反米救国闘争を力強くくりひろげた。
首相はまた、アメリカ帝国主義者が危機にさらされたその支配権を維持すべく、かいらい軍内のファシスト分子をけしかけて軍事ファッショ独裁をでっちあげた重大な情勢に対応して、自主的統一の新しい局面を打開するために民族あげての反米救国闘争を展開する方針をうちだした。首相は、一九六一年九月、歴史的な朝鮮労働党第四回大会の演壇から、「アメリカ帝国主義者とその手先どもを徹底的に孤立させ、自主的平和統一の旗のもとに、南朝鮮のすべての愛国的民主主義的各階層を結束しなければならず、南朝鮮の愛国的民主主義力量と、北朝鮮の愛国的社会主義力量との結合を実現する」ことを、全朝鮮人民によびかけた。
金日成首相が提起したこの方針は、南朝鮮人民の反米救国闘争を強く鼓舞したし、アメリカ帝国主義と朴正煕一味をますます窮地に追いこんだ。
金日成首相がさししめした統一方案とすべての具体的な提案は、祖国の自主的平和統一の前途を切りひらくための大胆な発起であり、主動的な提案であった。
統一方案においては、南朝鮮から一切の外国軍隊を撤退させ、いかなる外勢の干渉をも排除し、あらゆる政治活動の完全な自由が十分に保障される条件のもとで、一般的で、平等な、直接秘密投票による南北総選挙によって統一的な民主主義的中央政府を樹立し、祖国を統一する方途が提起された。
また、祖国統一の途上にかもしだされた障害をとりのぞく中間的措置をへて、完全な統一に到達する現実的な具体的方途もうちだされた。
金日成首相は、つぎのようにのべている。

「わが国の自主的平和統一は、南朝鮮から外国軍隊を撤退させた条件のもとで、一連の過渡的措置をへて漸次的に実現されなければなりません」

それは、アメリカ帝国主義の民族分裂政策が生んだ南北間の不信感をなくして相互理解を深め、南北間の人為的障害をとりのぞき、民族的連帯を回復するためのものであった。

金日成首相は、最高人民会議をはじめ重要な会議の演壇から国の分裂に起因する人民の苦しみをやわらげ、祖国統一の促進に役だたせるべく、政治問題とは切りはなして南北間の経済文化交流を実現することをくりかえして提議し、生き別れになった父母、妻子、親戚、親友たちの切実な念願をかなえるべく南北間の往来、書信のやりとりだけでもまず実現することをかさねて提議した。

また南北間に生じた緊張状態を緩和し、南朝鮮人民の肩に重くのしかかっている軍事費負担を軽くするために、最高人民会議第二期第一回会議と第六回会議をはじめ一連の会議では、アメリカ帝国主義侵略軍を撤退させたうえで南北朝鮮の軍隊をそれぞれ十万またはそれ以下に縮少し、たがいに相手側に反対して武力を行使しない協定をむすぶことを提議した。

金日成首相の発起にもとづき、最高人民会議第二期第八回会議で採択された意見書には、アメリカ帝国主義の植民地従属化政策によって、見るかげもなく破壊された南朝鮮の民族経済を全面的に復興発展させ、塗炭の苦しみにおちいった民生問題を早急に解決するために、共和国政府がそれに必要な各種の設備や資材、ばく大な資金と必要な技術的援助を提供することが明らかにされていた。

金日成首相のこの主動的な発起はだれ一人思いおよばなかった大胆な措置であったし、これはまた共和国北半部に築かれた強力な物質的土台にもとづいた現実的な方案であった。

金日成首相が提起したすべての方策は、朝鮮人であるかぎりだれ一人拒否できないもっとも合理的で、現実的な

方案であった。

しかし、人民の心を強くとらえた首相のこれらすべての威力ある正当な方案のまえに、南朝鮮統治者たちは、これといったことばもかえせず、だまりこんでしまった。南朝鮮を一つの大きな監獄にかえ、人民の血涙を吸って生きているかれらには、金日成首相の方案はあたかも死刑場への出頭を命ずる呼出し状のように恐ろしかったのである。

アメリカ帝国主義とその手先どもは、金日成首相の方案を支持してたちあがる人民を弾圧するのに狂いたった。弾圧の強化とともに、かれらはますますその醜悪な正体をさらけだし、人民の憤激と反抗にぶつかり、あわてふためなければならなかった。

こうして、金日成首相が提示した統一方案は、アメリカ帝国主義者とその手先どもを徹底的に孤立させ、うちのめす強力な武器として、南朝鮮の各界各層人民を自主的統一のための反米救国闘争へとふるいたたせる巨大な革命的作用をおよぼしたし、現在もおよぼしているのである。

自主的平和統一をめざすたたかいの全過程をつうじて、首相がいま一つの重要なものとして提起した問題は、全民族の総力を結集して挙族的な反米救国闘争を展開することであった。

首相は、祖国の統一は南北朝鮮人民の結合した力によって達成されなければならないという観点から、朝鮮全域にわたる反米救国統一戦線を結成することをきわめて重視し、その結成において提起される戦略戦術的原則を明らかにした。

金日成首相は、つぎのようにのべている。

「南北朝鮮のすべての愛国的人民は、アメリカ帝国主義者の民族離間政策を決定的にうちくだき、反米救国闘争の旗のもとに、祖国統一の旗のもとにかたく団結しなければなりません。

われわれは、民族の利益を守り、祖国の統一のためにたたかう人であれば、その過去と政治的信念いかんをとうことなく、ともに団結してすすむでありましょう」

このように首相は、反米救国闘争の旗、祖国統一の旗のもとに、北半部の革命的社会主義力量と、南朝鮮の労働者、農民をはじめとする勤労人民および帝国主義に反対する民族ブルジョアジーまでもふくめた広はんな愛国的民主力量との団結をよびかけた。そして、たとえ過去において祖国と人民に罪を犯したとしても、こんにち民族の利益を守り、祖国統一のためにたちあがる人びとには寛容をもってむかえる意向を明らかにした。

これは、祖国と民族をかぎりなく愛し、一人でも多くの人を救い、かれらに輝かしい新生活をあたえようという首相の崇高な人道主義をそのまま反映したものである。

金日成首相は、共和国北半部の革命基地が不敗の力量につくりあげられた条件のもとで、北半部の社会主義力量の主導的役割によって南北の民族的結合をなしとげ、朝鮮の地からアメリカ帝国主義侵略者を追いだすたたかいに砲火を集中するならば、祖国の自主的平和統一を実現することができると考えた。

これにもとづいて首相は、祖国統一の主要な攻撃方向をつねにアメリカ帝国主義侵略者にむけ、統一問題を民族の主体的立場にたって解決するため南北の民族的結合に力をつくした。

首相は、南北朝鮮の全愛国的政党、社会団体、民族的良心をもつすべての人士をもうらした反米救国統一戦線を結成するために、あらゆる機会と可能性をすべて利用して南北朝鮮の政党、社会団体による連席会議をよびかけた。また、南朝鮮の革命情勢を適時に把握し、それに相応した南北朝鮮の各代表間の接触と意見の交換をつうじて民族的団結と協調を達成すべく、ねばり強い努力を惜しまなかった。

金日成首相のこれらすべての主導的措置は、首相の民族の運命にたいする崇高な責任感と民族的任務にたいするかぎりない忠実さのあらわれである。

また、これらすべての主動的措置は、北半部革命基地の偉大な力にもとづいている。

金日成首相は、北半部革命基地の不敗の力量に依拠して南朝鮮で成長する革命力量を正しく導き、革命情勢をそのつどとらえてそれを主動的に利用し、祖国の統一問題解決でつねに主導権をとった。

これはすでに、解放直後アメリカ帝国主義の南朝鮮占領によってもたらされた情勢にたいし、北半部に強力な革命基地を創設して朝鮮人民の主体的力量を強化し、それにもとづいて徹底的な反米反帝闘争をくりひろげ、それによって祖国統一と朝鮮革命の勝利をなしとげるという、金日成首相の偉大な構想の礎石である北半部革命基地創設路線の偉大な勝利を意味するものであった。

南朝鮮における情勢の発展をつねに注意深く見つめ、南朝鮮同胞の運命に思いをはせる金日成首相は、南朝鮮でアメリカ帝国主義と朴正煕一味の戦争政策とファッショ政策がますます強化されている最近の情勢に対処して、南朝鮮革命と祖国統一を促進するための決定的な措置を講じた。

首相は、一九六六年十月、歴史的な朝鮮労働党代表者会議において、共和国北半部で経済建設と国防建設を並進させ、南朝鮮では革命力量の蓄積をさらに強化し、祖国統一の革命的大事変を主動的にむかえる万端の準備態勢をととのえる戦闘的課題を提示した。

金日成首相が提示した祖国統一の革命的大事変を主動的にむかえるための積極的な方針は、北半部で社会主義建設の革命的大高揚をよびおこし、南朝鮮人民を、武装闘争をふくむ積極的なたたかいへと力強くたちあがらせ、アメリカ帝国主義とその手先どもをよりいっそう窮地におとしこんでいる。

金日成首相がしめした祖国統一の原則は、国際的にも日ましにいっそう大きな反響と共感をよびおこしている。

社会主義諸国をはじめアジア、アフリカ、ラテンアメリカの新興独立国家と全世界の革命的人民は、祖国の自主的統一をめざす朝鮮人民のたたかいに全的な支持を表明し、「アメリカ帝国主義侵略者は南朝鮮からでてゆけ」との

抗議の叫びを高めている。

アメリカ帝国主義は国の内外で打撃をこうむり、いっそう深刻な窮地におちこんでおり、情勢は朝鮮人民にとってますます有利に発展している。

歴史が証明しているように、侵略者はみずから掘った墓穴に葬られる運命にある。侵略者、掠奪者は、決してその支配体制をながく維持することはできない。歴史とともに歩み、各時代のあらゆる敵を葬ってきた人民は、いかなる敵をも決して容赦はしない。侵略者や掠奪者は、凶悪にふるまえばふるまうほど、それだけおそろしい砲火をあびるものである。

金日成首相の指導のもとに、朝鮮の共産主義者たちは、かつて国も権力も、確固とした物質的後方もなかったあのきびしい条件のもとで、日本帝国主義の百万大軍と十五年間もたたかいぬき、ついに勝利した。

しかし、いま偉大な領袖金日成首相をいただく朝鮮人民には、勝利のためのあらゆる条件をととのえた共和国北半部と南朝鮮の愛国的力量があり、強力な世界の反米革命勢力がある。

四千万朝鮮人民の偉大な領袖金日成首相の賢明な導きのもとに、南北の全同胞が統一された祖国で隆盛と繁栄を謳歌する日はかたく約束されている。

金日成首相は、統一された祖国の未来についてつぎのようにのべている。

「祖国の統一が実現されれば、われわれは、南北朝鮮全人民の英知と力をあわせ、南北の資源を統一的に開発して、人民のための住みよい、繁栄する新しい朝鮮を建設することができるでしょう。統一されれば、わが国は四千万の人口をもつ大きな国に、人後におちない富強な国になるでしょう」

住みよくて繁栄する朝鮮、大きくて富強な国！　これはたんなる浪漫的な希望ではなく、遠からずむかえる朝鮮の未来像なのである。

4　つねに南朝鮮を思い

金日成首相は、北半部の人民がなしとげた革命と建設の成果を見るたびに、つねに南朝鮮の同胞の身のうえに思いをはせている。

首相は、日照りや長雨にも南朝鮮農民の野良仕事を気づかい、寒風が吹きすさんでも、荒れ地やテントやバラックで苦しむ南朝鮮人民の生活に心を痛めた。

また首相は、どのような会議の演壇にたっても、あれこれの活動を討議するときも、民族分裂の悲劇と南朝鮮人民の苦痛を想起させ、すべてを祖国統一のためのたたかいとむすびつけたし、労働者、農民、学者たちとひざをまじえるときにも、南朝鮮人民のためにいっそう熱心に、より多くの仕事をするように訴えた。

首相はつねに、北半部の人民が享受している幸福を南朝鮮同胞と分かちあうことを熱望した。しかし、凶悪なアメリカ帝国主義者のためにそのねがいはかなえられず、ながい歳月だけが流れ去った。

そしていま、南朝鮮人民はすべてが逆さになった社会で、いいつくせない苦痛と不幸にさいなまれている。

ヤンキーどもとその手先らは豪華な邸宅でぬくぬくと寝そべり、農民が汗水たらして働いた一年間の収穫すら、一夜の酒宴につかい果たしている。しかし、都市の裏通りや農村では、おそろしい飢えが人びとをなぎたおし、いたるところでファッショが横行し、それは人間的で進歩的なものすべてに毒蛇のようにおそいかかっている。

それればかりではない。ヤンキーどもは、かつてかれらの先祖が「黒人狩り隊」なるものを組織し、平和な土着民を手当りしだいに殺害し、かれらの頭蓋骨で水を飲み、酒をくみかわしたというあの野蛮な本性そのままに、南朝鮮で天人ともに許すことのできない、ありとあらゆる蛮行をほしいままにしている。

かれらは気休めに南朝鮮の子どもやおとなたちを射ち殺し、道ゆく人びとを自動車でひき殺し、たき木をひろう農民に大砲までうちまくっている。

またかれらは、強盗のように民家におしいり、手当りしだいに略奪し、火を放ち、白昼公然と婦女子や老婆におそいかかって暴行をはたらいている。

かいらい一味は、このような野蛮人どもに天誅をくわえようとする人びとを逆に投獄しており、アメリカの狼どもは憤怒にうちふるえる南朝鮮人民を手当りしだいに虐殺している。

略奪者にとっては天国、人民にとっては地獄の世の中で、南朝鮮人民は悪夢のような日々をおくっている。しかし南朝鮮人民は決してたたかいを放棄してはおらず、そのなかでめざめ、たたかい、革命の隊伍をととのえている。

まさにこれまで、南朝鮮人民が流した血と涙を一か所に集めるならば、ゆうに大河をなすほどであり、人民の苦悶の叫びは南朝鮮津々浦々にみちみちている。

四千万朝鮮人民の偉大な領袖金日成首相は、南朝鮮人民の血と恨みの叫びをきき、寝もやらず夜を明かしては心を痛めた。

「われわれは、決して北半部で築かれた成果に自己満足し、安逸をむさぼることはできません。こんにち、南朝鮮人民が飢えにあえぎ、血を流してたたかっているのに、どうしてわれわれが手をこまねいていることができましょうか？」

首相はこのように、北半部の人民をつねに教育し、社会主義建設のすべての分野で、北半部の革命基地を鉄壁のようにかためる千里馬の大進軍に、ひきつづき力強い拍車をかけている。

こうすることこそ、祖国統一後、破壊された南朝鮮経済をすみやかに復旧し、零落した南朝鮮人民の生活を改善

する道であった。

すなわち金日成首相は、北半部における社会主義建設のすべての成果を、南朝鮮人民を解放し、祖国統一をなしとげるための力強い保障としてだけではなく、統一後、破壊された南朝鮮の経済を復興し、南朝鮮人民に安定した生活を保障するための確固たるもとでとみなしたのである。

それゆえ首相は、北半部で発電所一つ、セメント工場一つを建設するにあたっても、破壊された南朝鮮経済の復興のことを考えたし、紡績工場を建て、農村を建設するときでも、塗炭の苦しみのなかでのたうつ南朝鮮同胞救出の方途について構想した。また首相は、託児所や幼稚園でたのしく遊びまわる子どもや舞台で踊る子どもを見ては、雑草のように踏みしだかれている南朝鮮の子どもたちにあたえる、学ぶ権利や学校や書物のことについて思いをめぐらした。

首相はつぎのようにのべている。

「わが党は、工場一つ、発電所一つを建設するにあたっても、一つの灌漑工事をするにあたっても、北半部人民の幸福な生活だけでなく、南朝鮮人民の未来のためという目的から出発しています。社会主義建設でわれわれが達成した成果のなかには、南朝鮮人民が将来享受すべき部分もふくまれています」

首相は、南朝鮮の破壊された民族経済を復旧し、人民生活を救いだす具体的な対策までたてた。

共和国政府は、首相の発起にしたがって一九五七年、飢えと貧困にあえぐ南朝鮮人民に十万石の救護米とばく大な救済物資をおくることを発表した。また一九五八年には南朝鮮の数百万の失業者と数十万の浮浪児たちを救済するため、白米十五万石、布地五百万メートル、水産物一万トン、靴四百万足を提供し、すべての浮浪児を共和国政府がひきとって養育し、学費難になやむ三千名の南朝鮮大学生に、毎月一千ウォン(旧貨)の奨学金を恒久的に提供する内閣決定を採択した。

さらに、一九六〇年十一月にピョンヤンでひらかれた最高人民会議第二期第八回会議では、破産し没落した南朝鮮の民族経済を、力強い北半部の経済力で最短期間内に復興するという、同胞愛にみちた大設計図を発表した。

首相が講じたこのような措置と配慮はあまりにも多く、枚挙にいとまがないほどである。

しかしアメリカ帝国主義とその手先は、これにおそれをなして石のように沈黙してしまったし、北半部の同胞愛にみちた措置が南朝鮮人民に知れわたることをおそれ、人民の目や耳をふさぐのに汲々とした。

そうなればなるほど金日成首相は、祖国を統一し、南朝鮮人民を救援する決意をいっそうかためるだけであった。首相の思いは、どこで、なにを見ても、ただひたすら祖国統一の日、南朝鮮人民を救出する日へと走るばかりであった。

一九五六年、南浦造船所を現地指導したとき、首相は西海(黄海)における水産業の発展のために、この工場が、すすむべき方向を教え、南半部には船舶の修理工場もないため、南北が統一されたのちに南半部漁業の発展に寄与する技能工を、いまから数多く育成しなければならないとのべた。

首相はまた、黄海北道の鳳山ナムリか原と黄州のキンドンか原をうるおす三万四千余町歩の灌漑工事場をたずねたときにも、今後共和国各地でより大きな灌漑工事をしなければならないだけでなく、祖国統一後、南半部も北半部のように灌漑網でおおわなければならないと強調した。

一九五八年八月、海州セメント工場を現地指導したときのことである。首相は、この工場の発展方向について具体的に指導したあと、埠頭の方へ足をはこび、しばらくのあいだ深い思いにふけってから、海のなかからそびえたっているこの工場の出荷施設である巨大な鉄塔を指さし、この施設は祖国が統一されたら南半部を復興するセメント資材を船につみ、仁川をへてソウル、釜山へはこんでゆく輸送設備であるから、そのまま保存しなければならないとのべた。

首相はビナロン工場を建設するときにも、活動家たちが一万トン級の工場建設案をたて、これでも大きすぎはしないかと考えているのを見て、一万トンではなく二万トン能力の大ビナロン工場を建設してこそ、祖国統一後、南半部の人民にも安くて質の良い服地をたくさんあたえることができるのだとのべた。

金日成首相は、祖国統一のその日に、南朝鮮人民にも北半部人民と同じ幸福な新生活、新制度をあたえることができる偉大な綱領まで提示した。

一九五九年九月、黄海製鉄所を現地指導したとき、金日成首相は労働者たちのまえでつぎのようにのべた。

「祖国が統一されれば南朝鮮の農民になにをしてやれるでしょうか？

第一に、地主の土地を没収し農民に分けあたえるでしょう。つぎには約三年のあいだに南朝鮮の肥沃な土地に灌漑工事を施し、治山治水もおこない、干害も克服し、水害もなくすでしょう。そうすれば農業もよくでき、三年もたてば農民が裕福に暮らすようになるでしょう。われわれには経済の土台があるため、こうした灌漑工事も治山治水も十分におこなうことができます」

このように、首相は、南朝鮮農民に生きがいのある新生活と幸福をあたえるために、南朝鮮農民の世紀的な宿望である土地を無償で分けあたえ、永久に水害と干害をなくすよう農村の水利化を施し、将来は、農民を骨の折れる労働から解放するよう農村の化学化、電化、機械化をも構想しており、現物税もとらないだろうとのべた。

首相が提示したこの綱領が実現される統一後の南朝鮮農村の展望は、なんと輝かしいものであろうか！　領袖がさししめした綱領は、南朝鮮農民の解放とかれらのすすむべき道を明るく照らしている。

南朝鮮人民に思いをはせるとき、きまってまず労働者のことを考える首相は、南朝鮮労働者の境遇を根本的に改善する統一後の未来を明らかにしながら、統一がなれば、南朝鮮労働者も北半部と同じように国の主人になるだろうし、朝鮮労働党は、労働者階級のために八時間労働制と社会保障制度を実施し、無償治療もおこない、なに一つ

心配のない幸福な生活を保障するだろうとのべた。

また金日成首相は、「統一が実現されれば、南朝鮮青年になにをあたえることができるだろうか？」とのべながら、つぎのように明らかにしている。

「……青年にたいしては、北半部と同じように義務教育制を実施し、無償で勉強させ、学生服や学用品をすべて供給してやるでしょう。われわれは、確固たる物質的土台をもっているために、このような綱領をうちだすことができます」

首相はこのように、南朝鮮の青年学生が、統一された祖国で生活する展望を明らかにし、その日を一刻でも早めるために、南朝鮮の青年学生運動がすすむべき道を明確にしめした。

金日成首相は、アメリカ帝国主義と外国独占資本の圧迫のもとでたえず破産し、没落する南朝鮮の中小企業家にたいしても、つぎのような綱領をうちだした。

「われわれは北半部でも、日本帝国主義と隷属資本家、親日派の工場だけを没収しました。個人企業家、商人たちの所有までをすべて没収したのではありません。

南朝鮮でも同様です。民族資本家たちの経営に手をつける必要はありません。われわれはかれらが、国家と社会のために、人民のために有益な仕事をするように支援し導くでしょう。社会主義についてのかれらの態度についてのべるならば、それは、かれら自身が生活と実際の経験をつうじて、自己の意志にしたがって決定する問題です。

現在、南朝鮮の民族資本家はアメリカ帝国主義の略奪と圧迫のもとで、ひきつづき破産しています。かれらの唯一の活路は祖国の平和的統一にあり、そのためにかれらも、われわれとともに手をたずさえてすすまなければなりません」

領袖がさししめした偉大な綱領は、統一したあかつき、南朝鮮人民がいとなむべき新生活を準備する輝かしい展

望をひらいたものであり、南朝鮮人民がすすむべきたたかいの明確な前途を明らかにし、南朝鮮人民に新しい希望と確信をいだかせるたたかいの旗じるしなのである。

どんなことがあっても南朝鮮人民を救出しようとする父なる領袖金日成首相の情熱は、かぎりなく熱く、力強いものである。

南半部の同胞に思いをはせる領袖のあたたかい心情は、南半部を故郷とする人びとにたいする肉親的な配慮と一つにむすびついている。

南半部に故郷をもつ人びとは、八・一五解放後、とくに祖国解放戦争の困難な時期にアメリカ帝国主義とその手先に反対して勇敢にたたかい、党と領袖にしたがって社会主義祖国にあこがれ、北半部に移った人びとである。

金日成首相は、かれらを南朝鮮革命と祖国統一の貴重な力として大切にし、いつくしみ、あたたかい配慮をめぐらした。

首相は南半部から移ってきた人びとについて、つぎのようにのべている。

「かれらはみな、われわれの貴重な宝であり、南半部革命の重要なもとでであります。……われわれは南半部からきた同志たちをとくに愛し、かれらの発展のためにより多くの関心をはらい、もっと多くの援助をあたえなければなりません」

一九六四年八月、金日成首相が黄海南道の農村で現地指導をおこなったときのことである。

首相はある日、郡協同農場経営委員会の技師長として働いている一女性が南朝鮮に故郷をもつことを知り、彼女をよんでいろいろと話しあった。

首相は、軍隊に服務してから農業大学を卒業したというその女性技師長に、やがて国が統一され、南半部の故郷に帰り、親類や友人、そして子どもたちの教育にたずさわれば、どんなに多くの人びとを団結させることができる

だろうと話しながら、つぎのようにつづけた。

「南朝鮮からきたきみたちは、とくに、南朝鮮をかたときも忘れてはならない。われわれの世代に必ず統一を達成しなければならない。われわれは、統一されていない祖国をどうしてつぎの世代にゆずりわたすことができようか！　絶対そうすることはできない！

地主も資本家も知らず、苦労をしたこともないつぎの世代に、分断された祖国をゆずりわたすことはできない。

……」

「きみたちのように南半部からきた人たちは、統一を実現するうえでもそうだし、統一後に南朝鮮人民を結集させるうえでも、非常に重要な役割を果たさなければならない貴重な人たちだ。

全羅道（ジョンラ）には全羅道の人たちがゆき、慶尚道（ギョンサン）には慶尚道の人たちがいって仕事をすべきで、咸鏡道の人がいったのでは大衆をより多くかちとることはできない。咸鏡道の人が十のことを話すよりも、きみが話すひとことの方がより感動をあたえ、人びとをひきつけることができるだろう。

だからきみは、いつでも南半部にいって活動できるように、これからもより多く学んで準備しなければならない！」

首相は、いまの仕事も重要ではあるが「……将来、南朝鮮にいって政治活動ができるよう政治学習もりっぱにやり、党活動についても学ぶのがよい」とのべながら、祖国が統一されれば政治運動をする人、すなわち党活動、政権機関活動をりっぱにおこなう人がより多く必要になるとくりかえし、いいきかせた。

首相はまた女性技師長に、南半部でいっしょに仕事をしていた人で北半部にきた女性がいるかどうか、その人たちはどこでなにをしているのか、その夫たちはどの部門で働いているかなど、こまかくたずねてから、南半部からきた同志たちはみな貴重な人たちであるが、なかでも女性たちはとりわけたいせつであると話した。

そして首相は、いっしょに北半部にきた友人たちに、将来、南半部でりっぱな革命活動ができるように準備することをよびかける手紙を書いてほしいとたのんだ。
首相は彼女と別れるとき、かさねてこうのべた。
「南朝鮮をかたときも忘れてはいけない。いつでもいって活動できるように、しっかりと準備をととのえなさい！」
首相は、南半部からきた人たちと出会えば、いつもこのような意味のことを話し、かれらをかぎりなく激励した。首相は、国が統一されれば、南朝鮮でも人民がのぞむ北半部のような民主改革をおこない、社会主義を建設しなければならない、そのために多くの幹部が必要となることを早くから見とおし、かれらを幹部候補として大々的に養成する措置をとった。
こうして南朝鮮に故郷をもつ多くの青年たちは、首相の慈父のような愛情につつまれ、松都（ソンド）大学、共産大学をはじめ共和国各地の大学で心おきなく学ぶようになった。
首相は、父母、親戚を南朝鮮にのこしているかれらに、学習と生活でいささかの支障もうけないように国家から特別な援助をあたえ、機会あるたびに直接かれらに会って激励し、南朝鮮解放にたいする大きな抱負と希望をはぐくんだ。
戦後、廃墟のなかから工場を建設し、歯をくいしばって悪戦苦闘していた一九五四年、金日成首相が新解放地区である開城（ケソン）を現地指導したときのことであった。
首相は十二月のある日、南朝鮮に故郷をもつ青年たちが学ぶ松都大学をおとずれた。
首相の車が大学の玄関に到着するや、全学生と教職員は熱狂的な歓呼をもって慈父とあおぐ領袖をむかえた。
首相は、学長室で教職員たちを見まわしながらこう語った。

「この大学で学ぶ学生たちは、みんなアメリカ帝国主義に反対して勇敢にたたかった人たちであり、また祖国が統一されれば、南朝鮮で困難な苦しい仕事をうけもって働く貴重な幹部となる人たちなのです。だから、この大学は大きな使命をになっています。あなたがたは学生たちをたいせつにし、よく教えてあげなければなりません。わたしの考えでは、校舎も四階建てのりっぱなものを新しく建て、制服、下着、学用品なども無償で支給し、奨学金も十分にあたえるべきです」

ついで首相は、「学生たちに少し会ってみよう」といいながら、教室の方へ足をはこんだ。

自分たちをかぎりなくいつくしんでくれる領袖のひろいふところにいだかれた学生たちは、じつの父母もおよばない肉親的な配慮と大きな愛情のなかで、このうえない幸福感にひたった。

首相は、学生たちの手をかわるがわるにぎりしめながら、勉学のうえで不便なことはないか、宿舎は寒くないか、たりない学用品はないかなどとこまかくたずねた。

「困ったことなどありません」、「十分です」

学生たちがこうこたえると、首相は笑みをうかべながら、「ないはずはなかろう。まだたりないものが多いはずだ。あとででも学長をつうじて提起しなさい、解決するようにしよう」と語った。

ついで首相は、前列にたっている一人の女子学生の肩に手をのせながら、やさしくたずねた。

「故郷はどこかね？」

「ソウルです」

「ソウルにはだれがいるの？」

「年老いた母がおります」

「お母さんに会いたくないかね?」
「会いたいと思います」
「お母さんをつれてきたいだろうに……」
「はい、いますぐにでもつれてきたいと思います」
ここまで話すと、その学生はこみあげる感激をおさえきれず、首相のあたたかい胸に顔をうずめて泣きだしてしまった。
首相は学生の頭をなでながら、窓ごしに南の空を見やった。首相の顔がくもった。アメリカ帝国主義の血にそまった軍靴に踏みにじられ、身もだえする祖国の南の地、敵の苛酷な搾取と抑圧のもとで呻吟する南朝鮮人民の苦しいあえぎをきいているかのようであった。
教室にはしばらく重苦しい沈黙が流れた。首相は、自分をとりかこんでいる学生たちを見まわしながら、低く重々しい声で話をしはじめた。
「われわれは、祖国の半分の地である南朝鮮をかたときも忘れることはできない。また忘れてはならない!
われわれは必ずアメリカ帝国主義を追いだし、南半部の父母兄弟を解放しなければならない。
そのために、きみたちはもっと一生懸命に学ばなければならない。……」
学生たちは首相の気高い志をかかげて、必ず南朝鮮を解放し、祖国統一の偉業をなしとげずにはおかないという決意も新たに、首相の革命思想で身をかため、いっそう勉学にいそしんだ。
この大学の学生たちにたいする首相の肉親的な配慮は、まさにつきることがなかった。
首相は党と国事に多忙をきわめていたにもかかわらず、じつに七回にわたってこの大学の学生や教職員をたずね、あたたかい慈父の手をさしのべて導いたし、南朝鮮にいるかれらの父や兄にかわり、卒業式にも親しく出席し

てかれらの門出を祝った。
こうして、かつては南朝鮮で、作男の息子として、失業者や苦学生として苦痛をなめてきた青年たちは、首相のふところで堂々たる党と国家、経済機関の働き手に、社会活動家に、技師に、芸術家に育った。
金日成首相が、南朝鮮に故郷をもつ人びとにあたえた厚い配慮と信任は、まさにアメリカ帝国主義者と朴正煕一味に反対してたたかう、南半部のすべての革命家たちと愛国的人民にあたえる配慮であり、信任なのであった。
だからこそ南朝鮮人民は、太陽を慕うひまわりのように首相を敬慕しながら、「現在の南朝鮮を救うことのできる指導者は、民族の太陽である金日成首相だけ」だと語っており、アメリカ帝国主義の凶悪非道な植民地ファッショ・テロ支配のなかででも、つねに希望と勇気をふるいおこして、最後の勝利をめざして力強くたたかっているのである。

5　父なる領袖の愛は海をこえ

金日成首相の父なる愛は海をこえ、海外同胞にも太陽の光のようにおよんでいる。
首相はつねに、海外同胞の問題を朝鮮人民の反帝民族解放の課題と密接にむすびつけてきた。
それは、数多くの同胞が海外に追われていって生きるようになった原因が、日本帝国主義者の悪らつな植民地支配によるものであり、そしてかれらが、海外で帝国主義反動層の民族的圧迫と搾取にしいたげられてきたためである。
かつて祖国が日本帝国主義侵略者に占領されていたとき、数多くの同胞は土地と職場を奪われ、生きる道をもとめて北間島（中国東北の吉林以東一帯）や日本、さらにはハワイやメキシコにまであてもなく流浪しなければならなか

った。しかし、その地でわが同胞を待ちうけていたものは、やはり帝国主義者の民族的圧迫と虐待であり、果てしない悪夢のような生活苦だけであった。

とくに日本帝国主義の大陸侵略と第二次世界大戦のときは、「人夫募集」、「報国隊」、「徴用」などの名によって日本に強制連行された数百万の同胞が、炭鉱、鉱山、軍事施設の建設場などでもっとも危険な労働を強要され、日本帝国主義のムチのもとで血の涙を流しながらたおれていった。亡国の民の不幸とは、なんとおそろしく悲惨なものであろう！

海外同胞がこうむっていたこれらの不幸を一掃する道――、それはただ日本帝国主義を打倒し、奪われた祖国をとりかえす以外にはなかった。

だからこそ金日成首相は、日本帝国主義を打倒して祖国をとりもどすために、また海外に追われていった同胞がいっしょに集まって、しあわせな生活がいとなめるその日のために、祖国光復ののろしを高くかかげ、十五星霜にわたる苦難にみちた抗日武装闘争をくりひろげたのである。

首相が展開した抗日武装闘争は、海外にいた同胞にかぎりないはげましと希望をあたえ、たたかいの道へとふるいたたせた。

首相は解放後、朝鮮民主主義人民共和国を創建することによって、祖国を奪われた海外同胞を堂々たる独立国家の公民にした。また祖国北半部を強固な自立的民族経済と燦然たる民族文化を誇る社会主義強国にかえ、すべての海外同胞に無限の誇りと希望をあたえた。

こうしていま、海外同胞の境遇は根本的にかわった。

金日成首相は、つぎのようにのべている。

「……こんにち海外同胞は、自分たちの愛する祖国――朝鮮民主主義人民共和国の堂々たる海外公民として、か

ぎりない民族的自負と誇りをいだき、共和国の隆盛と発展のなかに自己の幸福な未来を見出しています」

金日成首相は、共和国北半部で達成されたこの威力ある政治、経済的成果にもとづいて、海外同胞――とくにその絶対多数を占める在日朝鮮同胞に、たえず慈愛にみちた手をさしのべている。

首相は、日本帝国主義の敗北によって祖国が解放された直後の複雑な政治情勢のもとで、在日同胞の士気は高まっていたものの、闘争の方向がはっきりととらえられていなかったときに、かれらに正しく明確なたたかいの方向をさししめし、勝利の信念をいだかせた。

解放直後、在日同胞は敬愛する領袖金日成将軍の祖国凱旋にかぎりなくはげまされ、一九四五年十月に、最初の統一戦線体である在日本朝鮮人聯盟（略称朝聯）を結成して愛国活動に決起した。しかし在日同胞の愛国活動は、アメリカ帝国主義をはじめ、日本反動層と南朝鮮かいらい一味のたえまない弾圧と迫害により、二重三重の難関にぶつかった。

朝鮮戦争を準備していたアメリカ帝国主義者は、日ましに強まる朝聯の活動と在日同胞の革命的力量にたいして不安を感じ、日本反動支配層をそそのかし、一九四九年九月に朝聯を強制的に解散するというファッショ的蛮行をあえておこなった。

しかし在日同胞は、祖国の人民がアメリカ帝国主義侵略者との戦争でしめした英雄的闘争に大きくはげまされ、難関をのりこえながら力量を再編強化する頑強なたたかいをつうじて、一九五一年一月、より強力な統一戦線体である在日朝鮮統一民主戦線（民戦）を結成した。

だが民戦は、その活動において朝鮮革命の主体を確立することができなかったうえに、アメリカ帝国主義の指示をうけた日本反動支配層の弾圧と迫害の強化のため、きわめて困難な状態におかれた。

事態は新しいたたかいの方向をもとめた。

金日成首相は、在日同胞が情勢にそくして愛国運動の路線をただし、主体を確立するよう明確な方針をさししめした。

金日成首相は、在日同胞がたとえ異国で生活していても、祖国のために愛国活動をおこなうべきであり、朝鮮革命をりっぱに遂行することが他国の革命にも寄与することになると指摘し、在日同胞のたたかいでもっとも重要なことは、日本の内政に干渉せず、ひたすら自己の民主主義的民族権利を守り、祖国の自主的統一を促進するためにたたかうことであると教えた。

この方針は、内外のすべての愛国的、民主的勢力を反米救国闘争に結集し、祖国統一の偉業をすみやかに達成するばかりでなく、米日反動の弾圧策動をはねのけ、在日同胞の愛国活動を力強く発展させるもっとも正しい方針であった。

在日同胞にあたえられた金日成首相の教えは、在日同胞の生活と愛国活動の発展において歴史的な転換をもたらした。

在日同胞は首相の教示から自己のすすむべき道を見出し、一九五五年五月、自己の真の組織である在日本朝鮮人総聯合会（総聯）を結成した。

総聯の活動で金日成首相の教えが徹底的につらぬかれた結果、総聯は各界各層の同胞たちと血縁的な連係を強め、大衆のなかに深く根をおろし、その大衆的基盤を拡大し、それをしっかりとかためるようになった。

こうして総聯は、一つの思想と意志でかたく団結し、敬愛する領袖金日成首相のさししめす道をすすむことによって、いかに複雑な状況のもとでも、大衆を愛国活動に組織動員することのできる不敗の隊伍に拡大強化された。

中央本部、県本部、支部、分会など整然とした組織体系と、青年組織、女性組織、商工人組織、教員組織をはじめとする階層別の単一団体と、科学、文化、芸術、出版報道、経済など各種の活動機関をもつ総聯は、六十万在日同

胞の圧倒的多数をもうらする力強い民主主義的民族的連合体として、内外にゆるぎない権威と影響力を発揮できるようになった。総聯の全幹部と六十万在日同胞は、首相があたえた総聯という威力ある武器を手にすることにより、米日反動層のいかなる弾圧策動も断固うちやぶり、つねに敬愛する領袖金日成首相の肉親の情を身近に感じつつ、民主主義的民族権利を守り、祖国の自主的統一のための闘争を力強くおしすすめている。

金日成首相は、つぎのようにのべている。

「こんにち、六十万在日同胞は、朝鮮労働党と共和国政府のまわりにかたく結集し、総聯の指導のもとに、日本当局の不当な民族的迫害と蔑視に反対し、民主主義的民族権利のために勇敢にたたかっており、祖国の統一と民族の繁栄のために、ひきつづき力強くたたかっています」

金日成首相は、在日同胞の生活においてもっとも切実な問題の一つである、新しい世代の民族教育の問題に多くの配慮をほどこしている。

首相は在日同胞の子弟がすべて日本で生まれ、祖国のことばと生活風習を知らず、なかんずく日本の反動支配層が在日同胞を日本人に「同化」させようと執拗に策動している条件のもとで、在日朝鮮青少年にたいする民族教育事業は単純な教育事業ではなく、「民族をとりもどす事業」であり、重要な民族的課題であると教えた。

首相は、在日同胞子弟に必ず民主主義的民族教育を実施し、かれらを社会主義祖国のりっぱな働き手に育成しなければならないと、くりかえし強調した。

子弟にたいする民主主義的民族教育は、在日同胞の切実な宿望の一つであった。

在日同胞は、かつて自分自身が教育をうけることができなかったために体験したさげすみを子どもたちがふたたび経験することなく、新しい祖国建設のすぐれた働き手に育つようにと切実にねがい、解放直後、教員も教科書もない困難な条件のもとで、日本各地で倉庫、住宅などをかりて学校をつくり、教科書をつくり、母国語による民族

教育をはじめた。しかし在日同胞の民族教育事業は、日本反動層のたびかさなる破壊策動と物質的、財政的難関により、多くの紆余曲折をへなければならなかった。

民族教育にたいする在日同胞の宿望は、金日成首相が慈愛にみちた手をさしのべることによって、はじめて達成された。

子どもたちと若ものを掌中の玉として愛する金日成首相の父なる愛は、日本に住む同胞たちの子弟をもあたたかくつつんだ。

首相は、国全体が一本の釘、一すじの糸をも惜しみ、えがたい外貨を極力節約しながら、破壊された経済をたてなおしていた停戦直後のあの困難な時期に、ばく大な外貨を在日同胞子弟の民主主義的民族教育のために惜しみなくおくった。

首相がおくった教育援助費と奨学金は、一九五七年四月から一九六七年末にいたる十年間だけでも二十五回におよび、その総額は日本円で六十一億二千四百十五万余円という、じつにばく大な額に達した。

首相のあたたかい配慮にかぎりなくはげまされた在日同胞は、総聯の指導のもとに、力のある人は力を、知識のある人は知識を、金のある人は金をだし、こぞって学校建設事業にたちあがった。

「ボロ学校」と笑いものにされていたバラック建ての校舎は姿を消し、日本でも指折りの建築設備をもつ朝鮮大学校をはじめ、百五十余の現代的な各級学校が新たに建設され、幼稚園から大学にいたるまでの整然とした民族教育体系のもとで、四万余の青少年が民族教育をうけている。

朝鮮大学校と日本の各大学、科学研究機関で学ぶ多くの大学生と研究生もまた、首相がおくってくれた奨学金で存分に学ぶことができるようになった。

子弟に教育をほどこすことは、父母であるならば、だれもがもつよろこびである。ましてや、いきどおりと悲し

みにみちている他国に住みながら、祖国の奨学金までうけて学ぶ子弟をみる在日同胞のよろこび、それも虚偽と不正義と堕落の毒素にみちたブルジョア「文化」のうずのなかで、反動層の敵意にみちた視線をあびながらも、偉大な領袖と富強な祖国の保護のもとで気高く、そして革命的な民族教育をうけ、社会主義祖国の働き手に成長する子弟をみる在日同胞の誇り――かれらのこの誇りとよろこびはかけがえのない至上のものである。

世界には百九十余の国があるといわれるが、海外に居住する自国の公民の民族教育のために、このように深い関心をはらい、ばく大な資金をおくる国はただ一つ、金日成首相が指導する朝鮮民主主義人民共和国だけである。

金日成首相の父なる愛情と配慮は、これにつきるものではない。

首相は、在日同胞の民主主義的民族権利を保障するために、あらゆる努力と適切な措置をとった。

首相は在日同胞の民主主義的民族権利にかんする問題を、在日同胞が異国で民族の尊厳と真の生活の権利を守るためのもっとも重要な問題の一つとみなし、つねにこの問題に深い関心をはらってきた。

首相は、在日同胞が堂々たる独立国家の海外公民として、外国人として、当然あらゆる民族的権利を保障されなければならないとのべた。

しかし日本の反動層は、アメリカ帝国主義の指示のもとに、朝鮮民主主義人民共和国と在日同胞にたいし終始一貫して敵対政策を実施し、在日同胞の人権と生活権をはじめとする諸般の民主主義的民族権利を乱暴に侵害している。

日本の反動支配層は、在日同胞を侮辱して「無国籍者」とか、「第三国人」などとよび、むやみやたらに逮捕拘禁し、不良やならずものをあおりたてては、在日朝鮮公民の民主主義的団体である総聯をおそわせるなどの蛮行をくりかえしている。

日本反動政府は、在日朝鮮公民に、職業、住宅、「社会保障」、銀行取引、財産相続、教育などをはじめ、朝鮮

商工業者にたいする販路、融資、資材購入など、あらゆる面において制限措置をとっている。
日本の反動層は在日朝鮮公民にかいらい「韓国国籍」を強要し、かれらの民主主義的民族意識をマヒさせようと各種の「反共」宣伝を強めており、在日同胞の民族教育事業を抹殺しようと「同化教育」を執拗に強要している。
はなはだしくは、在日朝鮮公民の帰国協定を一方的に破棄し、過去八年間、順調にすすめられてきた帰国事業を破綻させようとしている。
米日反動支配層の悪らつな策動のため、在日同胞がこうむっている不幸と苦痛を推察した金日成首相は、在日朝鮮公民にたいする共和国政府の一貫した同胞愛的な立場をかさねて明らかにした。
金日成首相は、つぎのようにのべている。
「朝鮮民主主義人民共和国政府は、六十万在日同胞をはじめ海外に住むすべての朝鮮公民を保護し、かれらの民族的権利を擁護することを自己の神聖な義務としています。われわれは、海外朝鮮公民の民族的権利を侵害し、かれらを迫害、蔑視するあらゆる不当な策動に反対してひきつづき頑強にたたかい、海外同胞の正当な闘争をつねに力強く支持声援するでありましょう」
首相は、総聯と在日同胞にたいする日本政府の不当な弾圧と民族的差別、人権侵害などにたいし、そのつどそれを排撃すべく国家的措置を講じた。
日本反動政府の不当な措置に厳重に抗議する共和国政府の声明は、そのつど世界人民の広はんな支持をうけ、在日同胞にかぎりない力と勇気をあたえた。
それればかりでなく、首相は一九六三年十月に共和国国籍法を発表し、共和国公民としての在日同胞の地位を法的に確固と保障した。
金日成首相は、在日同胞が災難をこうむるたびに、あたたかい救援の手をさしのべた。

災害をうけた同胞や、大村収容所に不当に収容されて苦しんでいる同胞のためにいくたびも救援金を送り、あらゆる同胞愛的な措置をとった。

首相は、一再ならず数多くの総聯幹部と熱誠者、愛国的商工人に国家授勲の栄誉をあたえ、教員には功勲教員の称号、体育人には体育名手の称号、俳優と芸術家には功勲俳優、功勲芸術家の称号を授与し、朝鮮大学校教員には共和国教授および助教授の学職を授与した。とくに一九六七年の最高人民会議代議員選挙では、在日六十万同胞の代表を代議員候補者にまで推せんし、かれらが祖国の政治に直接参加できる道をひらいてくれた。

かつては、どこでゆきだおれになろうとも、かえり見る人とていなかった亡国の民の悲しみを体験した在日同胞が、父なる領袖のあたたかい愛情と配慮のもとに、はじめてよろこびにみちて生活するようになった。なに一つ不自由のないように心をくばり、生きるすべをあたえてくれた父なる領袖金日成首相の配慮について、ある在日同胞は、つぎのように語っている。

「金日成首相が祖国をとりもどし、心からの配慮をめぐらしてくださっているからこそ、わたしたちは異国の地に住みながらも強力な総聯組織をもち、学校も建て、新聞も発行し、自分たちの権利を守りながら堂々と暮らせるのです。これがむかしだったら、どこで犬死にしても、だれ一人ふりかえってくれる人すらなかったでしょう。ですから、山がいくら高いといっても、領袖の恩の高さにはおよびません。考えれば考えるほど、感謝の一言につきます」

首相は、在日同胞の世紀的な念願であった帰国の道をひらき、帰国同胞を共和国のあたたかいふところにいだき、その生活のすみずみにまで心をくだいている。隆盛発展する祖国に帰り、祖国の人民とともに社会主義建設に参加することは、在日同胞の切実な宿望であった。

金日成首相は、異国で苦痛にさいなまれている在日同胞を一日も早く、一人でも多く共和国に帰国させようと心

血をそそいだ。
首相はつぎのようにのべている。
「在日同胞は、日ましに隆盛発展する朝鮮民主主義人民共和国の公民として、自分の祖国に帰り、国内の同胞とともに幸福な生活をいとなむ当然の権利があります。
共和国政府は、在日同胞が祖国に帰って新しい生活ができるよう、あらゆる条件を保障するでありましょう。われわれはこれを、自己の民族的義務とみなしています」
首相の適切な措置により、帰国実現のための会談が開始された。しかし、帰国問題は容易に解決されなかった。日本反動政府は、ありもしない口実をもうけては、会談を紛糾させた。そのため一部の人びとは、在日同胞の帰国実現は不可能なこと、おぼつかないことだと考えるようになった。
しかし、首相の立場は確固不動であった。首相はいかなる方法、いかなる手段をもちいても、異国で苦しむ同胞を祖国にむかえなければならないとのべ、帰国実現のためにあらゆる対策を講じた。
首相の確固たる態度と同胞愛にみちた措置によって、やがて、困難で複雑だった帰国協定が調印された。
一九五九年十二月十四日、在日同胞をのせた最初の帰国船が勝利の汽笛をひびかせ、新潟港から清津にむかって白波をけたてて すすんだ。
最初の帰国船が到着するまでのまる二日間、首相は帰国同胞の身に不幸でもおこってはと、かたときも心を休めず、夜もまんじりとしなかった。首相は帰国船が無事清津港に到着したというよろこばしい知らせをうけて、はじめて安堵の色をみせた。まさに、このような領袖をいただいているがゆえに、かつては亡国の悲運に涙を流しながら玄海灘をわたっていった海外同胞も、なつかしい祖国のふところに帰ることができたのである。
清津埠頭における祖国の人民と帰国同胞の感激的な邂逅――あの熱烈な歓呼と万歳の声、あの強い抱擁とよろこ

びのむせび泣き、二十年、三十年の生き別れのすえに再会した妻子や親戚の名をよびあう声……。この声をきく母なる祖国の大地も、あまりのよろこびにたえかね、熱い涙を流したことであろう。
最初の帰国船が清津港に錨をおろしたその瞬間から、帰国事業は活発にすすめられ、一九六七年十二月までの八年間に、じつに八万八千余名の在日同胞が祖国のふところにいだかれた。
広はんな世界の人民は、在日同胞の帰国を「資本主義から社会主義への民族の大移動」であると驚嘆し、これを金日成首相の同胞愛的施策の輝かしい勝利として、熱烈に歓迎してやまなかった。
首相は、すべての帰国同胞を肉親の愛情であたたかくむかえ、かれらに幸福な家庭をととのえ、遠くはなれていたわが子を何十年ぶりでむかえる父の心情で、かれらをいたわり、心からもてなしたのである。
ピョンヤンで親しく帰国同胞を接見した首相は、かれら一人ひとりの手をしっかりとにぎり、船酔いはしなかったか、健康状態はどうか、帰国後心配になることはないかなどとくわしくたずね、やさしいねぎらいと熱い歓迎のことばをのべた。
「わたしたちはひとところに集まり、ともに暮らしてゆかなければならない。かつて、わたしたちの祖国が悲運にみまわれていたときは、やむなく散りぢりになって生きなければならなかったが、人民が主権をにぎった祖国があり、それを導く党があるいまでは、たがいにはなればなれになって暮らす理由はない。
それゆえ、在日同胞が愛する祖国――朝鮮民主主義人民共和国に帰国することは当然であり、祖国の人民が在日同胞の帰国を熱烈に歓迎するのも当然である。……ことに、わが民族は単一な民族である。わたしたちは一つの家庭によりつどい、苦楽をともにしなければならない」
首相は、資本主義社会で生活してきた帰国同胞に祖国の社会主義建設の成果についてくわしく語り、帰国同胞の前途には幸福な生活が約束されているとのべ、つぎのようにつづけた。

「みなさんは社会主義建設場で、自分の才能と能力にしたがい、思う存分はたらくことができる。みなさんには共和国公民としてのあらゆる自由が保障され、就職をはじめすべての生活条件が保障される。知識のある人は知識で、力のある人は力をだして社会主義建設に積極的に貢献しなければならない。わたしたちは力をあわせて、富強な社会主義祖国を建設すべきである。……わたしたちはよろこびも悲しみもともに分かちあい、みんないっしょになって幸福な生活を築かなければならない」

心から慕いつづけてきた金日成首相と席をともにすることができたかれらは、祖国のふところにあたたかくむかえてくれた首相の大恩にむくいようと、かたい決意を新たにした。

国事に多忙な身であるにもかかわらず首相は帰国同胞の生活に心をくばり、親しくかれらの家庭を訪問しては、こまごまと世話をしたりした。

一九五九年十二月十六日、首相はピョンヤン市人民通りの文化住宅におちついたある帰国同胞の家庭をたずねた。

首相は、どれ、新生活を見せてもらおうかといいながら、あいさつにでてきた新婚夫婦のあとにつづいて台所にはいっていった。米びつと食器棚がきちんと整理されているのを見た首相は、炊事場の焚き口にまで目をくばり、石炭がうまく燃えていないようだといいながら、かたわらにいた人民班長にむかい、よく面倒をみてあげるようにとたのんだ。

炊事場をでた首相は、家庭生活でなにか困ることはないか、寒くはないかなどとやさしくたずねた。

夫婦は口をそろえ、生活のうえで困ることはなに一つありませんとこたえた。実際かれらは、父なる領袖の配慮により、白米がいっぱいはいっている米びつと、たくさんの食器がならんだ茶だんす、家具類など生活に必要な一切のものを国家から供給され、なに不自由なく生活していた。

首相が、職場はどこかとたずねたとき、夫婦は、二人とも希望どおり、金策工業大学とピョンヤン医科大学で学んでいますとこたえた。すると首相は、「希望どおりとは、よろこばしいことだ」と満足し、家庭をもちながら学校にかようことは困難ではあろうが、りっぱに大学を終え、社会主義建設に参加しなければならないと語った。

その後かれらは、首相の心からの配慮のもとに、優秀な成績で大学を卒業し、専攻分野の職場に配置された。

また首相は、還暦をすぎた帰国同胞の家庭もたずね、生活や子どもたちの就職についてもこまかい心づかいをしめした。

高血圧のためにながく苦しんだだけでなく、貧しさのため治療も思うにまかせなかったという老人の話をきいて、首相は顔をくもらせ、資本主義社会では金がなければ病気の治療もできないが、共和国では無料で治療をうけることができると語り、温泉にいって療養もし、病院にもかよい、よく効く薬をつかって十分に治療をうけるようにとすすめた。

さらに首相は、日本で大学を卒業しながらも思いどおりに研究生活ができなかった帰国同胞にたいしても、かれらの希望どおりの研究をつづけさせ、その活動にあたたかい配慮をめぐらした。

かつては国を奪われたがゆえに異国に追いやられ、無権利とさげすみのもとで生活してこなければならなかった帰国同胞は、祖国のふところにいだかれたその日から、首相のつきることない愛と配慮につつまれ、国の堂々たる主人となったのである。帰国した同胞たちはいま、最高人民会議をはじめとする各級政権機関の代議員、国家経済機関、工場企業所の幹部、著名な科学者、技術者、文化芸術家として活動しており、労働者階級と農場の一員として、自己の知恵と才能を心ゆくまで花咲かせている。

いざりのまま、父母の背におぶさって帰国した一女性が、労働党時代の赤い医療活動家たちの献身的な治療をうけ、まさに二十年ぶりにはじめて、まぎれもない自分の足で、新しい生命の躍動する社会主義祖国の大地を闊歩す

るようになった。また、日本でのひどい労働災害によって失明した帰国同胞が、祖国ではじめて光明をとりもどすよろこびにひたった。

異国の地で、祖国のあたたかいふところを知らずに育った帰国同胞の子弟は、祖国の地で人民学校から大学にいたるまで無料教育の恩恵に浴しており、すべての帰国同胞が共和国のふところで、衣食住の心配もなく、しあわせにみちた生活をおくっている。

だからこそ六十万在日同胞、いや海外のすべての同胞は、四千万朝鮮人民の敬愛する領袖金日成首相にたいする敬慕の情をおさえることができず、首相の万年長寿を心からいのってやまないのである。

「いま、わたしたちが味わっている幸福——これはすべて首相さまのおかげです。どんなに感謝をささげてもたりません。首相さま、ほんとうにありがとうございます。心から感謝し、厚くお礼を申しのべたいと思います。首相さまの万年長寿をいのってやみません」

在日同胞はその歴史的な体験をつうじて、金日成首相の偉大な革命思想と卓越した指導をはなれては、祖国と民族の繁栄も、燦然たる未来も、そして自己の幸福もありえないと信じている。だからこそ在日同胞は、金日成首相を領袖としてあおいで生きてゆくことを最高の栄誉、最大の幸福と考えており、首相の思想を身につけ、首相の教えをかかげて生き、たたかいぬくことを自己の本分としているのである。

在日同胞のこの気高い思想と信念が不動のものであるがゆえに、かれらは、米日帝国主義者の弾圧と迫害がきびしい資本主義制度のもとでも、ひたすら金日成首相をあおぎみて力強くたたかっているのである。

ある夜ふけに突然、火災が起こった。燃えさかる炎が総聯の分会事務所をなめつくそうとしたとき、初級中学校の一生徒の脳裏にひらめいたものは、事務所のなかにある金日成首相の胸像だった。一瞬、その生徒は火のなかへとびこんでいった。首相の胸像が分会の役員たちによって、すでにほかのところに移されたということがわかって

も、それを自分の家に移して、はじめて安心したというけなげな生徒のエピソード——。

「首相さまは、祖国の山河をつくりかえておられるだけでなく、海外にいる同胞たちにも新しい時代をもたらしてくださったお方です。首相さまのおことば——、それは、わたしの新生活の灯台なのです。だからわたしは、首相さまの教えであれば、たとえ骨がくだけるようなことがあっても、最後までそれを実践するでしょう」

これは、還暦をすぎた年齢ではじめて文字を学び、『金日成選集』をくりかえし学習しているというある老婦人の決意である。

また、一般の書物は入手できなくても、『金日成選集』と『抗日パルチザン参加者たちの回想記』だけは必ずそろえ、一家そろって熱心に学ぶというある同胞の話——。

これら多くの事実は、金日成首相の思想と教えどおりに生きようとする、全在日同胞の生活信条をそのまま物語っている。

だからこそ外国の人びとも、四千万朝鮮人民の敬愛する領袖金日成首相のまわりにかたく団結し、威風堂々と前進している在日同胞の姿を見て、心からの感動を表明しているのである。

日本のある著名人は、つぎのように語っている。

「偉大な指導者のまわりに、一つに結集する朝鮮人民の堂々とした姿に、大きな感動をおぼえた。世界には指導者も多いが、海外にいる自己の公民に、このように数かずのはかり知れない配慮をめぐらし、在日同胞を一つの心に団結させ、祖国愛に燃えたたせている指導者は、朝鮮民主主義人民共和国の金日成首相をおいてはほかにない」

ひまわりが太陽を慕うように、敬愛する領袖金日成首相をあおぎみて、首相のまわりにかたく団結してすすむ在日同胞の前途をはばむ力は、この世に存在しないのである。

6　敬愛する領袖をあおぎみて

太陽の光を鉄鎖でつなぐことができず、川の流れを銃剣でせきとめることができないように、アメリカ帝国主義者とその手先どもは、いかなる手段と方法によっても、南朝鮮人民にたいする金日成首相の偉大な愛と、首相にたいする南朝鮮人民の熱烈な敬慕の情をおさえつけることはできない。

敵の弾圧がいっそう悪らつになり、不幸と苦痛がひどくなればなるほど、南朝鮮人民は金日成首相を四千万朝鮮人民の偉大な領袖として、民族の太陽としていっそう熱烈に慕い、統一なった祖国で、首相のふところのなかで幸福に暮らすその日をめざし、ますます強力にたたかっている。

かれらは、あらゆる虐待と苦役にさいなまれながらも、金日成首相をあおいで勇気をふるいおこし、希望をはぐくみ、峻嶺をよじのぼるよりも苦しい日々をねばり強くたたかいぬき、革命を準備し、隊列をととのえている。

金日成首相にたいする南朝鮮人民のつきない敬慕の情は、ここ一、二年のあいだに生じたものではない。それはまさに、深くながい歴史的根源にもとづいている。

金日成将軍が英雄的な抗日武装闘争を開始した一九三〇年代の初期から、すでに朝鮮人民は将軍を絶世の愛国者として、民族の太陽として、賢明な領袖としてあおぎみてきたのである。

あの暗たんたる受難のときにも、朝鮮の労働者、農民、知識人、学生たちは、全国各地と海外で、将軍を慕って各種の闘争をくりひろげたし、将軍の指導のもとに日本帝国主義とたたかうため、あるときは単身で、あるときは集団で白頭山の密林にむかった。

それゆえに、八・一五祖国解放をむかえたときの南朝鮮人民の最初の叫びは、「金日成将軍万歳!」であった。

金日成将軍がソウルにくるといううわさがつたわり、ソウル駅が群衆でとりまかれたこともまだ記憶に新しい。
日本帝国主義支配のもとでしいたげられてきた人びとは、こぞって抗日武装闘争の伝説的英雄である金日成将軍に祖国の未来と運命をたくし、将軍のもとで幸福な新しい生活をいとなむことができるよう熱望した。
金日成将軍にたいする南半部人民の敬慕の情がいかに切実なものであったかは、八・一五解放直後に発行された南朝鮮の出版物からも、はっきりとこれを見出すことができる。
南朝鮮のある出版物は、つぎのように書いた。
「……一九三一年、満州事変がぼっ発するや、金日成将軍はながいあいだの沈黙をやぶり、東の空高く輝く明星のように、日本帝国主義の根本的打倒と東方弱小民族の解放のための旗じるしを高くかかげて登場した。
……金日成将軍の活躍は文字どおり縦横無尽であった。革命運動史上にのこされた功績は数かぎりなく、こんにち、金日成将軍の名は世界史の一ページを飾るにふさわしいものとなっている」（『海外朝鮮革命運動小史』第二輯）
金日成首相にたいする南朝鮮人民の尊敬と敬慕の情は、アメリカ帝国主義侵略者が南朝鮮を占領し、ふたたび植民地奴隷の運命を強要するという条件のもとで、いっそう熱烈なものとなった。
これは当然なことであった。
南朝鮮人民は、金日成首相の指導のもとに人民が国の主人となり、諸般の民主改革が実施され、自由で幸福な新しい社会となった北朝鮮の現実から大きなはげましをうけ、自分たちも首相のもとで幸福に暮らすためには、アメリカ帝国主義とその手先どもにたいし、頑強にたたかいぬかなければならないということを切実に感じとった。
一九四六年八月の光州、和順炭鉱労働者のたたかいをはじめ、荷衣島農民暴動、南朝鮮労働者の九月ゼネストと十月の人民抗争、一九四八年の二・七救国闘争、五・一〇単独選挙反対闘争など、連続的にくりひろげられた南朝

鮮人民の救国闘争は、このようにしてはじまったのである。南朝鮮人民は、アメリカ帝国主義の植民地従属化政策と民族分裂政策に反対して、祖国の統一と民主主義的改革を要求し、金日成首相の直接的な導きのもとに暮らすことをねがっていたのである。

祖国解放戦争の時期、朝鮮人民軍によって解放された南朝鮮人民は、みじかい期間ではあったが、金日成首相の配慮のもとで主権と土地の主人となり、新しい制度、新しい政治のよろこびと生きがいを体験した。こうしてかれらは、砲火のなかでも『金日成将軍の歌』をうたい、人民軍をたすけ、アメリカ帝国主義侵略者と勇敢にたたかった。

南朝鮮人民は、そのときに感じた生きがいと、たたかいにたいする誇りをつぎのように回想している。

「……人民軍がソウルを解放したという知らせをきき……、みんなでたがいに抱きあい、感激の涙を流しながら、『金日成将軍万歳！』を声をかぎりに叫びつづけた。そして、『これからはわたしたちも、金日成将軍の賢明な導きのもとで共和国公民としての誇りを胸に、かぎりなく幸福な生活が送れるようになった』と、くりかえしくりかえし、つぶやいたものです」

「みじかい期間ではあったが、わたしは首相が指導される政治の恩恵をうけ、それをつうじて、金日成首相こそ偉大な愛国者であるということをはっきりと知ることができました」

「六・二五のとき、みじかい月日ではありましたが、新しい政治のもとで暮らし、だれもが金日成将軍こそ、わが民族の偉大な指導者であるということを深く感じとったものです」

「戦争中、わたしの村に人民軍がやってきましたが、人民の生命や財産を守り、それをたいせつにする気がまえが一貫しておりました。このときわたしたちは、金日成将軍が人民のための政治をなさるお方だということを肌身で感じました」

「金日成将軍さまが農民に土地を無償であたえられたのは、生活に苦しむ農民を幸福に暮らせるようにする政治をなさるからだ」

八・一五後のきびしいたたかいのなかで敵に肉親を奪われた遺家族、夫や息子や娘を北半部に送った家族など、南朝鮮のすべての愛国的人民は、アメリカ帝国主義とその手先どもの暗黒の政治のもとで、ひたすら金日成首相の導きによってなしとげられる祖国統一の日を待ちわびながら、ねばり強く生き、たたかっている。

多くの人びとが金日成首相の肖像と共和国の国旗を大事にしまっており、たたかいに決起するとき、たえがたい試練をのりこえるときには必ずそれをあおぎ、無限の勇気と力をえている。またかれらは、集まれば『金日成将軍の歌』をうたい、大いなる未来に思いをはせている。

金日成首相にたいする南朝鮮人民の熱烈な敬慕の情は、その教えにしたがって革命と祖国統一のために決起したかれらの闘争と直接むすびついている。

一九六〇年、南朝鮮人民の英雄的な四月蜂起のときの感動的な話のなかには、つぎのような事実もあった。

ある母親は決戦場にむかう自分の息子とその戦友たちに、それまで大事にしまってきた敬愛する領袖金日成首相の写真をとりだして見せた。人民軍が南半部を解放した感激のあの日から、十年一日のごとくたいせつにしてきた首相の写真であった。写真をまえにしたその母親は、若ものたちに、祖国の解放と人民の幸福のために不滅の業績を築きあげた領袖の崇高な愛国精神と徳性をじゅんじゅんと説いてきかせた。そして首相のように国を愛し、困難に屈することなくたたかうようくりかえしさとした。

南朝鮮人民の信念と不屈の志向について、南朝鮮革命組織の一代表はつぎのようにのべている。

「共和国北半部と金日成首相にたいする敬愛と憧憬——、これは南朝鮮の全人民を一つの意思と志向にむすびつける偉大な旗じるしであります。

この旗じるしがあるがゆえに、わたしたち南朝鮮人民はこんにちまでの、あの凄惨な血の海のなかでも屈することなく、休むことなく、また道を見失うことなく、日ましにいっそう団結を強化しながらたたかうことができたのです」

このような信念によって南朝鮮人民は、ファッショ的暴圧が絶頂に達したきわめて困難な条件のもとでも、争議、スト、デモ、籠城闘争など、さまざまな形態の闘争をたえずくりひろげ、軍事ファッショ独裁を打倒するために、頑強かつ積極的な闘争をくりひろげた。

アメリカ帝国主義者と歴代のかいらい一味は、南朝鮮人民の革命的進出を阻止しようとあがいたが、野獣のような暴圧と「反共」騒動によっても、南朝鮮人民の不屈の革命的闘志をくじくことは決してできなかった。

アメリカ帝国主義者とその手先どもの植民地ファッショ支配をくつがえし、祖国を統一するためにたたかっている南朝鮮人民にとって、金日成首相の名とその教えは、闘争の武器であり、勝利の旗じるしであり、あかあかと前途を照らす灯台である。

日本のある学会の招きで訪日した南朝鮮の一大学教授は、その手記でつぎのようにしたためた。

「わが民族の偉大な指導者である金日成首相をいただき、全人民が首相にたいする敬愛と尊敬の一念にみちあふれ、約束された幸福、不敗の力が全国の山河に躍動する。

金日成首相のかぎりない愛とその教えこそ、私の余生のゆるぎない羅針盤であり、灯台であるということを確信するようになった。

われわれ南朝鮮人民は、金日成首相の賢明な導きを待ちこがれている。

首相のひろく深い愛の手で、南の地の暗雲が一日も早くとりのぞかれるよう、微力ではあるが、首相の教えにしたがって一身をささげることをまたとない光栄に思う」

김일성원수님은 우리 민족의 태양이시다

로동신문

나는 김일성장군을 지지한다

四千万朝鮮人民の偉大な指導者金日成首相にたいする
南朝鮮人民の熱烈な敬慕の情をつたえる『労働新聞』

それだけではなく、ソウル大学校の卒業生や在学生、そして中学校の教員など、南朝鮮の数多くの愛国的青年学生と知識人は、金日成首相の革命活動を具体的に学ぼうと、厳重な警戒網のなかで首相の労作と朝鮮労働党史を熱心に研究している。

かれらのなかには、偉大な領袖金日成首相に忠誠を誓い、共和国の国旗を胸にいだき、「祖国統一のために、わたしの命をささげる」と悲壮な決意をかためる人も少なくなかった。

南朝鮮では、金日成首相を偉大な領袖として、民族の太陽としてあおぎ、首相にたいするおさえがたい敬慕の情を爆発させる事例が、日ましにひんぱんにおこっている。

忠清南道牙山郡に住む二人の農村青年は、朴正熙一味のいわゆる「反共決起大会」に強制的に狩りだされての帰り道、バスのなかで、「わたしは金日成将軍を支持する！」と、声高らかに叫んだ。

慶尚道の一青年は、各地をまわっては若ものたちに『金日成将軍の歌』と共和国の愛国歌を教え、厳重な弾圧

をものともせず、つぎのような確信をひれきした。
「金日成首相の偉大な指導のもとに、四千万全同胞が、うるわしい祖国の山河でしあわせに暮らせる日は必ずやってくる」
また南朝鮮の江原道(江原道は南北両方にまたがっている)の明徳(ミョンドク)鉱業所というところで働いている一労働者は、道ゆく人びとにむかい、アメリカ帝国主義と朴正熙ファッショ一味の気違いじみた戦争政策を糾弾し、「北朝鮮におられる金日成将軍万歳！」をくりかえし叫びながら、共和国北半部を支持する演説をおこなった。
全羅北道の一青年は、中学生を集めてつぎのように語った。「きみたちは金日成将軍に忠誠を誓い、命をささげなければならない」と。
南朝鮮人民の心からの叫びは、町や村、学校や車内だけではなく、かいらい軍隊のなかにまでひびきわたっている。
かいらい軍のある師団では、五名の兵士が五百余名の同僚をまえにして、「絶世の愛国者であり、民族の偉大な指導者である金日成将軍万歳！」、「朝鮮民主主義人民共和国万歳！」を声高らかに叫んだ。また、かいらい軍の他の師団では、「ベトナム派兵に反対しよう！」「歴史に永遠に光り輝く金日成将軍！」と書かれたビラがはりつけられていた。
またソウル大学校に在学中、かいらい軍に徴集されて軍事境界線付近に配置された「国軍」の一少尉は、自分が統率している兵士たちに抗日武装闘争の時期のいろいろな話をきかせ、つぎのように語った。
「金日成将軍こそは、朝鮮の解放と自由のために抗日武装闘争を最後までくりひろげ、祖国をとりもどした真の愛国者であり、わが民族の唯一の指導者である」
アメリカ帝国主義と朴正熙一味は、太陽をあおぐひまわりのように領袖を慕う南朝鮮人民を手当りしだいに逮捕

投獄したが、『金日成将軍の歌』と『インターナショナル』は、監獄のなかにまで力強くひびきわたっている。

江原道のある労働者は、『金日成将軍の歌』をうたったという理由でかいらい警察に逮捕されたが、かれは警官の面前で、「朴正熙の犬畜生め！」と断罪し、「朝鮮民主主義人民共和国万歳！」を声高く叫んだ。また南朝鮮のある知識人は、留置場に拘留された人びとのまえで「金日成将軍万歳！」を叫び、『インターナショナル』をうたった。

このような熱情は、幾多の波乱にみちた生活のなかで、人びとが胸中深くはぐくんできた敬愛する領袖にたいする燃えるような敬慕の情と憧憬のあらわれであり、アメリカ帝国主義とその手先の野蛮な虐政にたいする炎のような敵愾心のあらわれである。いま、こうしたはげしい熱気は、南朝鮮の全人民の胸に脈々と波うっており、それは日を追っていっそう力強い巨大な流れとなっている。

愛国的人民は敵の監視を避け、たがいに心のつうじるもの同士でこのような信念を語りあい、明るい未来を描いている。

敵がいかにきびしい目で人民を監視しても、いかに強盗のように民家におしいり、家財道具のすみずみまでをひっかきまわしながら捜索さわぎをくりひろげてみても、人民の胸のなかにしっかりと刻みつけられた敬愛する領袖金日成首相への熱烈な敬慕の情と、その指導のもとで生きようという将来にたいする強い希望を決しておさえつけることはできないのである。

南朝鮮の革命家たちと愛国的人民は、敵の弾圧がきびしければきびしいほど革命勢力を保存しつつ、それをたえず蓄積し、積極的に発展させることによって、革命の大事変をむかえる準備をととのえなければならないとのべた金日成首相の教えを闘争の指針として、信条として、たたかっている。

したがって、金日成首相にたいする敬慕の情と熱情的な忠誠心を吐露した実例は、かくされた全体のきわめて小

さな一部にすぎず、それはまさに氷山の一角といえよう。水面に姿を見せている部分よりも、その下に沈んでいる部分が比較にならないほど大きい氷山のように、人民の胸中深くひめられ、日ましに熱烈になってゆく領袖にたいする敬慕の情は、なにものをもってしてもはばむことはできない。

歳月がきびしくなればなるほど、南朝鮮人民は怒濤のようにわきたってくる。猛りたった怒濤の波間からは、その熱情が放つ光彩がたえまなく目を射る。

南朝鮮のある女性は、嫁ぐときに衣裳を仕立てようと準備しておいた錦織(にしきおり)の絹地に、「金日成元帥万歳！」という文字を刺繡した。

ひっきりなしに警察や密偵がうろつきまわるなかでも、その女性は休むことなく刺繡しつづけた。雪の夜ふけも雨の朝(あした)も、思いがけない惨事がつづき、飢えが胸をえぐる日々にも、彼女はひたすら偉大な領袖金日成首相を思いうかべ、ひと針ひと針、真心をこめて、じつに三百六十余日も刺繡をつづけた。

その文字にこめられた忠誠の情――、それをどうして彼女一人だけのものといえようか！　すべての貧しい人びとの至誠がこめられたその贈り物は、ついに金日成首相にとどけられた。

南朝鮮の錦山(グムサン)に住む一老人は、「国軍」兵士と席をともにしたとき、かれのねがいをつぎのように語った。

「金日成将軍の指導をうける北半部の人民は、ほんとうにしあわせだ。将軍こそはまさに、朝鮮人民の絶世の愛国者だ。わたしは、将軍のようにりっぱなお方を民族の指導者にいただく朝鮮人民に生まれたことを、このうえない幸福、このうえない光栄であると思う。わたしの最大のねがいは、生きているうちに将軍にお目にかかり、その賢明な指導をうけて暮らしてみたいということだ」

また、つぎのように語った人もいる。

「金日成首相さまこそは、わが民族の傑出した愛国者であり、朝鮮人民を代表する唯一のお方であり、わが民族

の偉大な指導者であり、全世界からたたえられているお方である。

わが国、わが民族の重大な問題は、朝鮮民族の唯一の代表者である金日成首相がお話しにならないかぎり、なに一つ解決することはできない」

南朝鮮で革命を志すすべての人びとは、抗日武装闘争の伝説的英雄である金日成将軍をたたえ、祖国と人民にたいする将軍の献身的服務と卓越した指導、朝鮮革命に寄与した将軍の偉大な功績と高まいな品性、気高い徳性についてくわしくつたえている。

一九六七年に南朝鮮で発行された一出版物は、金日成首相の指導のもとに組織展開された抗日武装闘争について、つぎのように書いている。

「……一九三一年ごろから、とくに白頭山一帯と松花江沿岸を中心とした地域および朝、満国境一帯で神出鬼没の戦術をもちい、日本軍と警察がその名をきいただけでふるえあがった抗日勢力が出現した。それが金日成将軍を中心とする朝鮮人遊撃隊であった。

この遊撃隊は、一九三六年に祖国光復会を組織して、つぎのような事項を決議し、パルチザン闘争によって苛烈な抗日戦争を展開した。

『強盗日本帝国主義支配を転覆し、朝鮮人民政府を樹立する。……日本軍、憲兵、警察を武装解除して朝鮮革命軍を組織する。……』

この遊撃隊は、おもに……、日本軍と満州軍から奪った武器をもって十万の隊員の武装を完備し、神出鬼没の行動と卓越した戦法で日本軍と警察隊を奇襲して、これをつねにせん滅したが、一夜に金日成将軍と称する人物が四方にあらわれるなど、日本帝国主義をして収拾のつかない混乱におとしいれた」

金日成首相の革命活動を多少なりとも知るようになった人びとは、その感動をつぎのように表現している。

「金日成将軍のご家庭は、祖父母、父母はいうまでもなく、母の実家の人たちまで、みなが日本帝国主義に反対し、朝鮮の独立のためたたかってこられた。このような家庭で育てられた首相さまであるからこそ、祖国を解放するために、あれほどまでたたかわれたのだ」

「金日成首相のように多くの苦労をされながら、真に祖国をとりもどすためにたたかった方はこの世にいない。金日成首相の闘争業績を思うたびに、偉大で賢明な首相がわれわれを導いてくださるという信念をいっそう強くすることができる。わたしたちはいまこそ、しっかりとした自立精神をもっていかに生くべきかを悟った」

南朝鮮のある青年は、『抗日パルチザン参加者たちの回想記』を読み終え、つぎのようなたたかいの決意をかためた。

「わたしはいままで、じつに無駄な生活をおくってきた。しかしわたしはいま、文字どおり新しく生まれかわった。なぜなら、この『回想記』がわたしの思想の大きな糧となり、わたしを真の人間につくりかえてくれたからである。わたしは、金日成首相こそ真の愛国者であり、卓越した統帥者であるということをいっそうはっきりと知ることができたし、遊撃隊員が朝鮮の独立のために、どのようにたたかってきたかを知ることができた。わたしもこれからは革命先烈の精神をうけつぎ、屈することなくたたかいぬく決心だ」

また、他の一青年はこう語っている。

「わたしがこれまで生きてきた道、わたしの父母が生きてきた道は、さげすみと迫害にみちた道であった。しかしもうこれ以上、こんな生活をつづけることはできない。そのためにはなによりも、革命にたちあがらなければならない。わたしの子どもたちが北半部の同胞たちのような、希望にみちた生活をおくることができるように、わたしはアメリカ帝国主義と朴正煕一味を打倒して、労働者や農民が主人となる新しい社会をつくるために、力のかぎりたたかいぬくつもりだ」

このように、偉大な領袖金日成首相にたいする敬慕とその革命活動にたいする研究は、南朝鮮人民のなかで革命への情熱を燃えたぎらせており、それはさらに強力な実践闘争へと発展している。

金日成首相とその革命活動にたいする憧憬と理解は、南朝鮮人民にとっては生きることと解放闘争の武器となり、アメリカ帝国主義とその手先どもにとっては、その足もとで、いつ爆発するとも知れない威力ある時限爆弾となっている。

首相にたいする南朝鮮人民の敬慕と、朝鮮革命の勝利にたいするゆるぎない確信は、朝鮮革命の不敗の基地――共和国北半部にたいする憧憬と一つにとけこんでいる。それは、金日成首相の偉大な革命思想と卓越した指導によって、北半部では朝鮮人民の歴史的な念願が輝かしく実現されており、そこに、南朝鮮人民が自己の未来を見出しているからである。

南朝鮮人民が金日成首相の導く共和国北半部にたいし、どれほど強くあこがれているかについては、南朝鮮を訪問した日本の『ジャーナリスト』紙の記者が、「南朝鮮の人びとは、穴のあくほど北を見つめている」と書いた事実からもうかがうことができる。

同記者は、「北朝鮮にいったことがあるか?」と質問する南朝鮮人民の心は、北半部にむかってひた走りに走っていると指摘し、つぎのようにつけくわえた。

「ひとたび峠をこえた民衆は、二度ともとの状態にもどりはしない。一人ひとりの胸に、すでに以前とは異なったものが芽ばえている」

南朝鮮人民は、大きく隆盛発展する祖国――共和国北半部の燦然たる現実をあおぎみて、そこに幸福と希望にみちた明日の新生活を見出している。

人びとはこう語っている。

「北朝鮮だけが真の指導者と真の政治をもつ、世上もっともりっぱな社会である」
「金日成将軍の政治は、人民のための政治であり、人民の利益と要求をすべてかなえる政治であり、ひとたびきめれば、必ずなしとげる政治である」
「すべての人が自由であり、平等であり、職業に貴賤のない北半部の政治は、もっともすぐれた政治である」
「金日成首相がりっぱな政治をおこない、人民が衣食住、教育、病の治療などに少しも心配しない輝かしい社会が北半部なのだ」
「一日も早く国が統一し、われわれ南の人民も金日成首相の政治のもとにあってこそ、りっぱな暮らしができるのである」
共和国北半部にあこがれる南朝鮮のある女流歌手は、警察に連行されながらも北半部をたたえる歌を最後までうたい、敵とたたかった。
生活苦にさいなまれていた彼女は夜おそくまで働き、家に帰る途中、「通行禁止」時間に違反したという理由でかいらい警察に連行されたのである。
警官らは侮辱と迫害をくわえたが、彼女は堂々と共和国北半部をたたえ、頑強に抵抗しつづけた。業をにやした警官は、かよわい女流歌手を容赦なくムチでうった。しかし彼女は憤然として顔をあげると、なおも共和国北半部をたたえる歌を高らかにうたいつづけたのである。
工場、鉱山、鉄道、埠頭などで、資本の鉄鎖につながれて苦しんでいる労働者たちも、不屈の志を北半部にたいする憧憬とむすびつけ、つぎのように語っている。
「北半部では、千里馬運動がすごいらしい！」
「金日成首相は、工場においでになれば労働者の住居を見てまわり、暮らしむきや子どもたちの教育、おかずの

ことにまで気をくばり、石炭をたく方法までも教えてくださるということだ。だから労働者は、精いっぱい仕事にはげむことができるんだ」

「八時間労働制が完全に実施され、社会保障もすばらしい北半部の工場で、たった一日だけでも仕事ができれば悔はない」

搾取と貧困が永遠に一掃され、一つの家庭のように団結している北半部——灌漑網でおおわれ、機械で農業をいとなむ北半部の社会主義農村を希望の灯とあおぎながら、南の農民はつぎのように話している。

「一国の首相がたびたび農村をたずね、農民とひざをまじえて話しあわれるというから、これこそ、ほんとうに人民のなかから生まれた首相さまだ。わしらは、この事実に感激の涙をおさえることができなかった」

「北のように、人間にかわって機械が野良仕事をやり、凶作も知らないところで思いきり働いてみたい」

南朝鮮人民は、自分たちのことをかたときも忘れず、南朝鮮の解放と祖国統一に心血をそそいでいる金日成首相の偉大な姿をあおぎみて、つぎのように語っている。

「南朝鮮人民の苦しみを、ご自身の苦しみとされる首相さまの気高いお心に、いいようのない感動をおぼえた」

「南北が統一され、首相の指導のもとで幸福に暮らす日は、そう遠くない。世界的に見ても、わたしたちの首相さまのように卓越した指導者はいない。首相さまの指導をうける日は必ずやってくる」

日本をおとずれた南朝鮮のある同胞は、つぎのような手記をしたためている。

「われわれは、あまりにもながいあいだしいたげられ、さまよってきた。李承晩の『勝共統一』についで、いままた『先建設、後統一』などというでたらめなスローガンのもとで、相かわらず民衆はだまされ、苦しめられている。しかし、これ以上だまされて暮らすことはできない。われわれは、だまされっぱなしでひっこむような民衆ではない。一つの国土の北半部からふりそそぐ曙光——これをさえぎることはできない。ソウル、釜山はいうまでも

なく、いまはたとえ安心して心ゆくまで語るところはなくとも、民衆の一人ひとりの胸は北半部へのあこがれで燃えたち、いつの日か必ず、ソウルや釜山においでになる金日成首相を一日千秋の思いで待ちこがれている」

南朝鮮の革命家たちと愛国的人民は、金日成首相が発表した偉大な革命思想、自主、自立、自衛の主体思想でつらぬかれた共和国政府の十大政綱から、明日の勝利を強く確信している。

「金日成首相の政綱演説は、われわれに民族的な誇りをあたえ、朝鮮人民の力でもってすれば、どんなことでもなしとげられるということを教えてくれた。首相の主体思想は、祖国統一の確固とした信念をあたえ、勝利への道を明るく照らしてくれた」

「首相さまの演説をきいて、新しい力がわいてきた。アメリカがどんなにわめいても、われわれはビクともしない。朝鮮人民は必ず勝利する」

このように、南朝鮮の革命家たちと愛国的人民は、アメリカ帝国主義とその手先どものファッショ暴圧をはねのけ、金日成首相が明らかにした南朝鮮革命の勝利と祖国統一の日を早めるために、命をとしてたたかうことをかたく決意している。

首相の偉大な革命思想を学べば学ぶほど、南朝鮮の労働者階級は、国の主人となった北半部の労働者階級とともに、朝鮮の労働者階級の一部であるという誇りと自負心を高め、必ず遂行しなければならない南朝鮮革命の歴史的使命を自覚し、反米救国闘争の先頭にたっている。

けわしい山々や荒れ果てた田野の片隅で、民族の太陽金日成首相の話に花を咲かせている南朝鮮の農民も、労働者と肩をならべて南朝鮮革命を遂行しなければならない重大な任務を自覚し、アメリカ帝国主義とその手先どもの農村収奪、地主どもの苛酷な搾取に反対し、土地を要求するたたかいを力強くくりひろげている。

ファッショ旋風が吹き荒れるなかでも、朝鮮の心臓であるピョンヤンからの放送に耳をかたむけ、金日成首相の

偉大な革命思想を身につけるため、夜を徹してその労作を研究する南朝鮮の愛国的な青年学生と革命的インテリは、革命のかけ橋としての役割を一身にになない、労働者や農民大衆のなかへはいってゆき、かれらとの団結を強化しながら、反米救国闘争を頑強にくりひろげている。

むろん、いまだに敵の悪宣伝にだまされたり、さまざまな事情でめざめていない人びともいる。

しかし、すでに南朝鮮人民のすう勢は革命をめざして流れており、隊列をととのえ、力をたくわえている以上、たちおくれた一部の人びとがめざめるのは、もはや時間の問題である。

なよやかな草木も、春になれば青々と芽をふき、風にあえばゆられて波うつように、民衆は革命の機が熟すれば闘士となってふるいたち、炎のように燃えさかるものなのだ。

南朝鮮の革命家たちと愛国的人民は、アメリカ帝国主義とその手先どもを打倒し、南朝鮮革命と祖国統一をなしとげるために、地下や山中、都市や農村、街頭や部落、監獄や殺人法廷で勇敢にたたかい、新しい力と隊列を育てながら決戦のときにそなえている。

また、少なからぬ南朝鮮の闘士たちは直接手に武器をとり、東に声をあげては西をうち、西に声をあげては東をうつという抗日武装闘争以来の伝統的な陽動戦術を駆使し、アメリカ帝国主義侵略者と朴正熙かいらい一味を痛烈にうちのめしている。

南朝鮮が解放され、祖国が統一される日は近い。そして、南北四千万同胞が統一なった祖国の地で、統一された民族として、民族の太陽である偉大な指導者金日成首相をいただき、どの民族よりも幸福に暮らすその日はもう遠くはない。たたかいによってその日を早めること——、これはすべての朝鮮人民の神聖な義務である。

第六章　世界革命の傑出した指導者

1　徹底した国際主義的な立場

金日成首相のすべての活動は、広はんな世界人民の耳目を集めている。首相の数多くの著作はもとより、各種の会議でおこなった演説や、現地指導の過程で人民にあたえた教示、さらには、外国の賓客たちとまじえたみじかい話すらも、国際的な反響をまきおこしている。朝鮮を訪問したすべての外国の人びとは、だれもが金日成首相に接見できることをこのうえない光栄としている。

世界の革命的な人民と、革命的な組織と党の代表はもちろん、新興独立国と中立国をはじめアジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国の首班も、金日成首相を深く尊敬し、心から敬慕している。

これは、金日成首相が、四千万朝鮮人民の偉大な領袖であるばかりでなく、国際共産主義運動と労働運動のすぐれた指導者のひとりであり、首相のすべての政治活動が強い世界的影響力をもっているからである。

金日成首相は、つねに朝鮮を念頭において世界を考え、また世界を念頭において朝鮮を考え、朝鮮革命を偉大な勝利へと導きながらつねに世界革命に思いをはせている。

これは、金日成首相が、各国の労働者階級の革命闘争は本質において国際主義的であり、また、そうあってこ

そ、個別的に、または国際的に終局的勝利を達成することができるというマルクス・レーニン主義的理解から出発しているからである。

それゆえ金日成首相は、早くして革命の道にすすんで以後、真の共産主義者、真の革命家として、朝鮮革命をりっぱに遂行するばかりでなく、世界革命を積極的に支援することをつねにその本分とみなした。

金日成首相は、つぎのようにのべている。

「自国の革命にかぎりなく忠実であり、同時に世界革命の終局的勝利のためにたたかうことは、全世界の共産主義者の義務であります」

首相は革命活動の全期間にわたり、こうしたプロレタリア国際主義の義務にかぎりなく忠実であることによって、その生きた模範をしめしたのである。まさに首相は、朝鮮革命の領袖として朝鮮革命を勝利のうちに導いてきたばかりでなく、真の共産主義者として、また勝利したプロレタリア国家の領袖として、朝鮮革命をつねに世界革命とむすびつけ、国際共産主義運動と労働運動の発展のためになしうるすべての努力をかさねている。

金日成首相は一九三〇年代に、朝鮮人民の反日民族解放闘争を、そのもっとも高い形態である抗日武装闘争に発展させるとともに、朝鮮革命を世界革命促進のひとつの環とした。

朝鮮を占領した日本帝国主義者の侵略的目的は、たんに朝鮮を植民地として支配し、略奪することだけにあったのではなく、朝鮮を足場にして、アジア大陸、すすんではソ連をも侵攻しようとすることにあった。

金日成首相は、こうした日本帝国主義侵略勢力に反対し、偉大な抗日武装闘争を展開することによって、世界ファシズムの主要な勢力のひとつである日本帝国主義侵略勢力の大陸侵略戦争拡大政策を牽制し、朝鮮の独立と解放をめざす民族的義務と世界革命を支援する国際主義的義務とを徹底的にむすびつけた。

首相は抗日武装闘争の時期に、「武力でもってソ連を擁護しよう！」、「朝、中人民は団結して共同の敵日本帝国

主義を打倒しよう!」というプロレタリア国際主義の旗じるしを高くかかげ、武器をとってソ連と中国人民の革命闘争を擁護し、支持した。そして、徹底したプロレタリア国際主義の模範をしめしたのである。
抗日武装闘争の過程で具現された国際主義思想とその業績は、解放後、朝鮮労働党と人民がうけついだ革命伝統の重要な構成部分となった。
金日成首相は、解放後の新しい歴史的条件のもとで、プロレタリア国際主義の革命的原則を徹底的に堅持し、革命の民族的任務と国際的任務を密接にむすびつける一方、世界革命を積極的に支援した。
金日成首相はなによりもまず、朝鮮の共産主義者と人民の主体的な力に依拠して朝鮮の革命と建設を成功裏に遂行し、それによって世界革命に積極的に貢献する立場をしっかりと守った。
首相はつぎのようにのべている。
「朝鮮で生まれた人は朝鮮で革命をおこない、社会主義と共産主義を建設する任務を負っています。朝鮮革命は朝鮮人に課せられた国際主義的義務であります。それゆえ朝鮮人は、なによりもまず朝鮮革命をりっぱにおこなってこそ、国際主義的義務を忠実に果たすことになります」
金日成首相のこの主体的で革命的な立場は、国際革命発展の利益を考慮せず、自国の利益だけを考える民族利己主義とはなんらの共通性もない、真のプロレタリア国際主義的立場である。
首相のこうした立場は、世界が多くの民族国家からなっている条件のもとで、世界革命の終局的勝利はそれぞれの国における社会主義、共産主義の勝利によってのみ達成されうるという観点から出発している。
首相は、それぞれの国で革命と建設を成功裏に遂行することが、どのように国際革命運動に寄与することになるかについて明らかにしながら、それは第一に、社会主義陣営と国際共産主義運動のそれぞれの戦線を強化することにより、結局は社会主義陣営と国際共産主義運動全般を強化発展させ、第二に、自国の革命にたいする兄弟諸党と

人民のいろいろな負担を軽くすることにより、かれらが自国と他の国の革命発展にさらに多くの力をふりむけることを可能にし、第三に、自国の革命を成功裏に遂行して強固な物質的土台を築くことにより、他の兄弟諸国と人民の革命闘争をさらに積極的に支援できるようにすることであると教えた。

金日成首相は、つねにこうした立場から出発して社会主義革命と社会主義建設を勝利のうちに導き、世界革命に大きく貢献した。

革命と建設の全過程で、金日成首相は主体的立場と自力更生の革命的な原則を徹底的に堅持した。金日成首相は、そうすることが兄弟諸国に大きな負担をかけず、ひいては社会主義陣営と国際共産主義運動の強化発展に忠実に寄与することであるとした。

そして首相は、つねに、党と人民大衆に、世界革命が完遂されていない条件のもとでは世界革命のためにもっと多くの努力をはらわねばならないと教えた。

首相は、朝鮮が解放されてすでに二十年になるが、前例のない苛酷な戦争と二回の復興期をへなければならなかった困難な状態のもとでも、朝鮮人民自身の力に依拠しきわめてみじかい期間に、政治において自主的であり、経済において自立的であり、国防において自衛的な社会主義強国にかえたし、そうすることによって、朝鮮を世界革命の東方の前哨をしっかり守る強力なとりでに、物質的支援のゆるぎないもとでをもつ強力な基地にかえた。

アメリカ帝国主義侵略者をうちやぶった三年間の祖国解放戦争においても、金日成首相はプロレタリア国際主義の旗じるし、反帝反米闘争の旗じるしをたかくかかげ、祖国の自由と独立を守ったばかりでなく、社会主義陣営を守り、世界平和を守る国際主義的義務に忠実であった。

首相はすでに戦争の初期、アメリカ帝国主義の武力侵攻に反対する朝鮮人民の闘争は、祖国の自由と独立をめざす正義の祖国解放戦争であると同時に、新たな世界大戦をひきおこそうとするアメリカ帝国主義者の策動を粉砕

し、世界の平和と安全を守り、社会主義陣営の東方の前哨線を守る闘争であると宣言し、その使命を果たすために全力をかたむけた。

こうして首相は、朝鮮労働党と人民を導いてアメリカ帝国主義侵略者をうち破り、祖国の自由と独立を守ったばかりでなく、世界革命運動と世界人民のもっとも凶悪な敵として登場したアメリカ帝国主義を滅亡の下り坂へ追いやったのである。

この国際革命運動にたいする金日成首相と朝鮮人民の貢献は、はかり知れないほど偉大なものである。

それはばかりでなく、金日成首相が朝鮮人民をひきいてアメリカ帝国主義侵略者との戦争でかちとった勝利は、略奪者の抑圧のもとであえいでいた世界の被抑圧人民に、アメリカ帝国主義をはじめとする侵略者にたいしては真っ向うからたたかってこれを撃破しなければならず、またゆうに撃破しうるということ、そして、祖国の自由と独立のために武器を手に決死的な闘争にたちあがった人民は、どのような力をもってしても征服することはできず、たたかえば必ず勝利しうるという確固たる信念と闘志を植えつけた。

事実、世界の革命的な人民は朝鮮人民の勝利から大きな力をえて、反帝反米闘争をいっそう激しくくりひろげ、すでに大きな勝利をかちとった。

しかし金日成首相は、こうした寄与によって、首相自身と朝鮮の共産主義者に負わされた国際主義的義務をすべて果たしたとは決して考えなかった。首相は、朝鮮革命を成功裏に遂行することによって国際革命運動に貢献するばかりでなく、世界革命を直接援助し、その終局的勝利のために積極的にたたかうことが、共産主義者の国際主義的義務を果たすことであると考えた。

金日成首相は、つぎのようにのべている。

「われわれは、朝鮮で帝国主義者とその手先一味である地主、資本家を打倒し、社会主義革命を全国的に完遂しなければならず、また国際共産主義運動の一部隊として、世界革命の終局的勝利のためにたたかう義務を負っています」

この立場から首相は、自国の革命の成果に満足して世界革命を忘れ去り、プロレタリア国際主義的偉業から身をひく日和見主義者に断固反対し、精神的にも物質的にも、世界の革命的人民の革命遂行を積極的に支援するプロレタリア国際主義の革命的旗じるしをつねに徹底的に守りつづけてきた。

金日成首相は世界革命を支援するにあたって、世界革命の基地としての社会主義国家の役割につねに大きな意義をあたえてきた。そして革命で勝利した社会主義国は、第一に、みずからの社会主義建設の模範をつうじて世界人民の革命闘争をたえず激励しなければならず、第二に、帝国主義に反対するすべての勢力と団結しなければならず、帝国主義に反対する闘争で武装闘争をふくむあらゆる形態の闘争を物心両面から積極的にたすけ、第三に、人民の権利と利益を侵害する帝国主義者のいかなる策動とも妥協せず、帝国主義者のあらゆる反革命輸出陰謀を阻止し破綻させなければならず、平和のためのたたかいを帝国主義に反対する闘争と切りはなしてはならないと強調した。

金日成首相は、ただこうした革命的立場を堅持する条件のもとでのみ、社会主義陣営が名実ともに世界革命の基地としての役割を果たすことができるであろうとのべた。

金日成首相は、こうしたゆるぎないプロレタリア国際主義的立場、徹底した革命的立場から出発して世界革命を積極的に支持声援し、そのためにあらゆる努力をはらった。

首相は、社会主義陣営の統一と国際共産主義運動の団結のために断固たたかう一方、アジア、アフリカ、ラテンアメリカの新興独立諸国との友好協力関係を発展させ、これらの地域人民の反帝民族解放運動とすべての国の人民

の革命運動を積極的に支援し、帝国主義、とくにその元凶であるアメリカ帝国主義の侵略と戦争政策に反対し、世界平和と人類の進歩のために断固たたかった。

首相のこうしたたたかいにおいてもっとも輝かしいものは、アメリカ帝国主義の侵略と戦争政策に反対する世界人民の革命闘争を、つねに断固として支持声援していることである。

金日成首相はつねに、アメリカ帝国主義者をかしらとする帝国主義者の侵略と戦争政策にたいして警戒心を高め、その侵略をうけているすべての国の人民に無条件の支持をあたえた。一九五六年、スエズ運河にたいするイギリス、フランス帝国主義者の侵略に反対するエジプト人民の闘争と、一九六二年、アメリカ帝国主義のカリブ海事件の挑発に反対するキューバ人民の闘争にたいする首相の支持は、これらの国の人民にとって大きなはげましとなり、プロレタリア国際主義の生きた模範となった。

首相のこうした模範はとくに、アメリカ帝国主義侵略者に反対し、正義の抗戦に決起したベトナム人民にたいする積極的な支援においてしめされた。

首相は、ベトナムにたいするアメリカ帝国主義者の犯罪的な侵略とそれに反対するベトナム人民の英雄的な闘争を、単にベトナム労働党とベトナム人民の問題とはみなさなかった。金日成首相は、アメリカ帝国主義のベトナムにたいする侵略を、社会主義諸国全体にたいする強盗的な侵略、世界の平和愛好人民にたいする横暴きわまりない挑戦とみなし、ベトナム戦争は社会主義陣営をはじめ世界の革命的人民が遂行する戦争になるべきだと認めた。

ここから首相は、階級的兄弟にたいする共産主義者の気高い同志的信義、徹底したプロレタリア国際主義的立場でベトナム人民にたいする支援問題をとらえ、実践をつうじてその模範をしめした。

金日成首相は、ベトナム人民を支援するためにはなにものをも惜しまなかった。

首相は、朝鮮人民がベトナム人民を援助するのは、祖国の南半部を占領したアメリカ帝国主義侵略者の勢力を弱

める重要な条件になるとのべ、ベトナム人民を積極的に支援するために、かれらの分として生産をさらに高めるよう組織し、武器をふくむ軍需物資、鉄、セメント、肥料など大量の援助物資をおくった。とくに首相は、国際義勇軍の派遣を発起し、ベトナム政府とベトナム人民が要求するときは、いつなんどきでも義勇兵を派遣し、かれらの闘争を血をもってたすけることを、どの国よりも先に表明したのである。

このほかにも金日成首相は、反帝民族解放闘争にたちあがったアジア、アフリカ、ラテンアメリカの数多くの国ぐにの人民に物心両面の支持をあたえている。

こうした援助は全面的に、これらの国の独立の強化と繁栄をねがうものであり、まったく私心のないものである。朝鮮の場合、他国へのぼう大な援助は決してなまやさしい問題ではない。朝鮮は民族分裂の苦痛をなめており、朝鮮人民は国の半分を数十万の兵力をもって占領し、侵略の機会をうかがい、火遊びをことしている世界人民の最大の敵アメリカ帝国主義と直接対峙している。こうした条件のもとで、経済建設をいっそう促進し、国防建設を並進させなければならないため、その負担はきわめて大きい。しかし、金日成首相は、万難を排して他国に私心のない援助をあたえている。それゆえ、こうした援助物資の一つ一つには、自分の肉親にあたえるのと同じような献身的な真心がこもっており、熱い愛情がこめられているのである。

これは、金日成首相が国際資本の勢力に反対する世界の労働者階級と同じ戦線、同じ塹壕で苦楽をともにわかちあい、ともにたたかっていることをしめすものであり、世界人民の革命闘争を自身の闘争とみなしていることをしめすものである。

別の側面からみれば、こうした援助は、朝鮮に建設された強力な自立的民族経済の国際的意義を証明するものである。

万が一、金日成首相が朝鮮人民を指導して強力な自立的民族経済を建設しなかったならば、とりわけ朝鮮がおか

れた緊張した環境のなかでは、他国にたいするぼう大な援助など到底不可能なことであったろう。

ある人びとが「閉鎖された経済」うんぬんとたわごとをならべたが、金日成首相は人民を導き悪戦苦闘のなかで強力な自立経済を建設し、それによって朝鮮革命がりっぱに遂行され、世界革命も大きな支援をうけるようになったのである。

要するに、世界の革命的人民にたいする支援は、金日成首相がマルクス・レーニン主義の革命的な旗、プロレタリア国際主義の旗、反帝反米闘争の旗をたかくかかげ、それを徹底的に守っているが故に真に価値があり、強力なのである。

こんにち、世界の多くの国の人民が、金日成首相にあつい感謝と尊敬の念をしめしているのは、まさに首相の気高い国際主義的立場と、実践的な模範にかぎりないはげましをうけているからである。

朝鮮を訪問したベトナム民主共和国政府経済代表団団長は、つぎのようにのべた。

「朝鮮労働党と尊敬する金日成首相の指導のもとに、全朝鮮人民はいたるところで、そしてどの部門で働いていようとも、アメリカ帝国主義に反対するベトナム人民のたたかいが完全な勝利を達成するまで徹底的に支持し、全力をつくして援助しようという決意をもっている。これは同じ環境におかれている兄弟と、そして共同の革命的志向と共同の敵アメリカ帝国主義に反対する塹壕のなかで、ともにたたかう親しい同志の戦闘的な団結と気高いプロレタリア国際主義精神の高貴で美しいあらわれである」

また、キューバ共産党中央委員会第一書記であり、キューバ共和国政府のフィデル・カストロ首相は、一九六二年四月、キューバにたいするアメリカ帝国主義の武力侵攻が開始されたとき、金日成首相と朝鮮人民がおくった戦闘的な支持と連帯にたいし、「朝鮮革命がラテンアメリカおよびその他の地域の人民の闘争にあたえた影響は、じつにはかり知れないほど大きい」とのべた。さらに、ナセル大統領は、イギリスとフランス帝国主義者の武力侵攻

に反対してたちあがったエジプト人民によせる金日成首相の積極的な支持声援にたいし、「永遠に忘れないであろう」とのべた。

じつに、金日成首相の世界革命にたいする積極的な支援は、帝国主義と植民地主義に反対し、自由と解放をめざしてたたかう世界の革命的人民にとってかぎりないはげましとなっており、地球上から帝国主義を一掃し、社会主義、共産主義を建設するための人類の偉大な理想の実現を早める偉大な力となっている。

2　世界革命のすぐれた戦略

世界革命の発展における金日成首相の貢献のなかで、もっとも輝かしい位置を占めるものは、世界の共産主義者と革命的人民にたいし、地球上から帝国主義と植民地主義を終局的に一掃し、社会主義、共産主義の勝利を実現する世界革命のすぐれた戦略を、灯台のように明るくさししめしたことである。

事実、国際共産主義運動と労働運動、そして植民地民族解放運動は、金日成首相によってこの問題が解決されるまでは、現下の世界革命にたいする正しい戦略戦術をもつことができなかった。

もちろん、マルクス・レーニン主義の創始者たちは、人類の偉大な理想である社会主義、共産主義の世界的勝利が合法則的であることを論証し、その実現のためにたたかったが、かれらは、かれら自身が生きた時代の制約のため、世界に社会主義体制が樹立され、資本主義、帝国主義が全面的に滅亡する時期における世界革命の戦略戦術の問題は明らかにすることができなかった。

したがってこの課題は、こんにちの革命的時代に活動している共産主義者とその党のまえに提起されざるをえなかった。こうして世界革命が正しい戦略戦術をもつ問題は、現下の国際共産主義運動のさしせまった要求として提

起されたのである。

しかもこの問題は、こんにち世界革命が国際共産主義運動内に発生した左右の日和見主義によって試練をへている情況のもとでは、なおさら切実なものとして提起された。

左右の日和見主義は、労働運動内部にあらわれたブルジョアおよび小ブルジョア思想であって、両極からマルクス・レーニン主義の革命的な真髄を歪曲し、革命に大きな害をおよぼしている。

右翼日和見主義は、「情勢の変化」と「創造的発展」という口実のもとにマルクス・レーニン主義を修正し、その革命的真髄をゆがめている。かれらは階級闘争とプロレタリア独裁を拒否し、階級協調なるものを説教しながら帝国主義との闘争を放棄し、声高に妥協を主張している。現代修正主義はまた、帝国主義にたいする幻想をふりまき、社会的および民族的解放めざす人民の闘争をあらゆる面から妨害している。

他方、左翼日和見主義は、変化した現実を考慮せず、マルクス・レーニン主義の個別的な命題を教条主義的に唱えながら超革命的なスローガンをかかげ、革命的な大衆を極端な冒険主義的行動へと追いやっている。そして、マルクス・レーニン主義党を大衆から遊離させ、革命力量を分裂させ、主な敵に攻撃を集中できなくさせている。

このように、世界革命が左右の日和見主義の発生によって試練をむかえ、世界の共産主義者と革命的人民がすすむべき正しい戦略戦術を待ちのぞんでいたとき、国際共産主義運動と労働運動のすぐれた指導者のひとりである四千万朝鮮人民の敬愛する領袖金日成首相は、世界革命のもっとも正しい戦略戦術的諸問題を明らかにしたのである。

金日成首相は、一九六六年十月、朝鮮労働党代表者会議でおこなった報告『現情勢とわが党の課題』と、一九六七年十二月、最高人民会議第四期第一回会議で発表した朝鮮民主主義人民共和国政府の政綱『国家活動のすべての分野で自主、自立、自衛の革命精神をいっそう徹底的に具現しよう』、そして一九六七年八月十二日、アジア・ア

フリカ・ラテンアメリカ人民連帯機構の理論機関紙『スリー・コンチネンタル』創刊号に発表した論文、『反帝反米闘争を強めよう』などで、世界革命運動の現状を全面的に分析し、世界の革命家と革命的人民が必ず守るべき原則的な立場を明らかにし、世界革命の正しい戦略戦術的方針を明確にさししめした。

とくに首相は、論文『反帝反米闘争を強めよう』において　世界の人民に世界革命の戦略戦術で基本問題となる反帝反米闘争の正しい道をはっきりとさししめし、具体的な闘争方途を明らかにした。

金日成首相がうちだした世界革命の戦略は、現代にたいするもっとも正しい評価から出発している。

時代にたいする正しい評価は、世界革命の戦略的構想では初歩的な問題であり、その出発点となる。

金日成首相は、こんにちの世界革命勢力と反革命勢力間の相互関係と世界政治情勢を科学的に分析し、現情勢の一般的な特徴にたいする正確な規定をくだした。

首相はつぎのようにのべている。

「こんにちの国際舞台では、社会主義と帝国主義、革命勢力と反革命勢力とのはげしい闘争がくりひろげられています。全世界的な範囲において社会主義勢力、民族解放運動、労働運動と民主主義運動はひきつづき成長しています。

とりわけ、アジア、アフリカ、ラテンアメリカでは解放闘争の炎がはげしく燃えあがっています。帝国主義はこれらの地域で人民の強力な抗争にぶつかっており、もっとも大きな打撃をうけています。闘争にたちあがった諸国人民は、帝国主義、植民地主義の古い世界をうちこわし、新たな世界を創造する革命の大業で新しい勝利をかちとっています。

社会主義をはじめ世界革命勢力の成長と植民地体制の崩壊によって、帝国主義勢力はいちじるしく弱まっています。帝国主義の内部矛盾はますます深まっており、帝国主義列強間の葛藤が激化しています。帝国主義者は内部か

らも外部からも強力な打撃をこうむっており、ますます窮地におちこんでいます。……社会主義の勝利、帝国主義の滅亡は、どのような力をもってしても避けることのできないわれわれの時代の基本的なすう勢であります」

このように首相は、現代を、全世界的な範囲で社会主義と帝国主義、革命勢力と反革命勢力間にはげしい闘争がくりひろげられている時代、革命的暴風雨の時代、社会主義が全面的に勝利し帝国主義が滅亡する時代であると評価した。

現代にたいする金日成首相のこのような評価から、世界革命の勝利にたいする確固不動の信念がわきおこるのである。

しかし金日成首相は、たとえ帝国主義が滅亡の道におちこみ、ひきつづき下り坂を歩んではいるものの、決して帝国主義はみずからすすんで歴史の舞台からひきさがるものではなく、かれらの侵略的本性もまた、決してかわることがないとみなした。そして、帝国主義がいまだに危険な勢力としてのこっており、滅亡の境遇からぬけだすために侵略と戦争を悪どく強化していることを見逃さなかった。

こんにちアメリカ帝国主義者は社会主義諸国に反対し、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ人民の民族解放闘争を野蛮に抑圧し、世界の進歩的勢力を弾圧しようと悪らつに策動している。アメリカ帝国主義は、社会主義諸国と民族解放闘争に反対する野蛮な侵略戦争をくりひろげており、公然と武力干渉をおこなっている。アメリカ帝国主義はふたたび新興独立諸国を従属させるために、たえず侵略行為と破壊行為をはたらいている。このようにアメリカ帝国主義は、滅亡の時期がせまればせまるほど、ますます狂気じみた強盗的本性をさらけだしている。

金日成首相は、アメリカ帝国主義のこうした侵略策動を暴露し、つぎのようにのべている。

「国際舞台でくりひろげられているすべてのことがらは、アメリカ帝国主義が侵略と戦争のおもな勢力であり、

国際憲兵であり、現代植民地主義の牙城であり、全世界人民のもっとも凶悪な敵であるということをますますはっきりしめしています」

これにもとづいて首相は、共産主義者と世界の人民は、反帝反米闘争の旗を高くかかげ、地球上から帝国主義を完全に掃滅するときまで闘争をつづけなければならないと指摘した。

金日成首相はこのように、帝国主義に反対してあくまでたたかうことについての原則的な問題を指摘しながら、「こんにちの世界革命の基本戦略は、アメリカ帝国主義に主要な攻撃をむけることにある」と教えた。

首相は論文『反帝反米闘争を強めよう』で、つぎのように指摘している。

「帝国主義に反対してたたかうために重要なことは、なによりもまず世界帝国主義の頭目であるアメリカ帝国主義に攻撃を集中することである。アメリカ帝国主義は、全世界に侵略の魔手をのばすことによって、世界のすべての人民の共同の敵となっている。地球上には、アメリカ帝国主義のために自主権を侵害されていない国や、アメリカ帝国主義の侵略の脅威をうけていない国はない」

革命で闘争のおもな対象を正しく規定し、それに攻撃のホコ先を集中することは、マルクス・レーニン主義戦略戦術の基本原則である。

金日成首相は、アメリカ帝国主義に反対する闘争を力強く展開するためには、すべての社会主義国と全世界の反帝勢力が、広はんな反米統一戦線を形成し、反米共同行動を強化しなければならないと教えた。

首相は論文『反帝反米闘争を強めよう』でつぎのようにのべている。

「アメリカ帝国主義に反対する一つの戦線での勝利は、それだけアメリカ帝国主義の力を弱めることになり、別の戦線での勝利を促進するであろう。世界のどの地域でアメリカ帝国主義侵略勢力を消滅するにしても、それは世界のすべての人民にとって非常によいことである。したがってもっとも広はんな反米統一戦線を形成し、アメリカ

帝国主義を徹底的に孤立させ、かれらが侵略の手をのばしているすべての地域で、連合してアメリカ帝国主義に打撃をあたえることが必要である。ただこうしてのみ、アメリカ帝国主義の力を最大限に分散、弱化させることができ、それぞれの戦線において、人民は決定的に優勢な力をもってアメリカ帝国主義をうちたおすことができるのである」

金日成首相は、反帝共同行動と反帝統一戦線実現のための当面の重要な方途として、社会主義諸国がアメリカ帝国主義のベトナム侵略政策を糾弾し、たたかうベトナム人民を積極的に支援する問題を提起した。

金日成首相がうちだした反米統一戦線と反米共同行動の方針は、国際革命運動の歴史上はじめて提示された世界革命の戦略戦術的方針であり、労働者階級の国際主義的連帯にかんするマルクス・レーニン主義思想を国際革命運動の新たな歴史的条件にそくしていっそう発展させ、豊富にした領袖のすぐれた戦略思想の具現である。

金日成首相はとくに、アメリカ帝国主義の侵略的な基本戦略の本質をするどく洞察し、これに対処して反米闘争の方法を科学的に明示した。

首相は、アメリカ帝国主義の基本戦略をつぎのように明らかにした。

「こんにち、社会主義諸国と世界の進歩的な国ぐにを侵略しようとするアメリカ帝国主義者の基本的な戦略は、大きな国とはできるだけ関係を悪化させず対決を避けながら、おもに、分裂した国や小さな国を一つ一つ攻めとろうとすることにあります。

これによって、アメリカ帝国主義者は、とくにその侵略のホコ先をベトナムをはじめアジア諸国に向けていますアメリカ帝国主義者のこのような侵略策動は、わが国とアジアのすべての地域で緊張を極度に激化させており、全般的な世界平和に重大な脅威をおよぼしています」

首相は、このような基本戦略に立脚したアメリカ帝国主義の侵略と戦争政策を阻止破綻させるための闘争方針

を、つぎのように明示した。

「こんにちの情勢において、アジアとヨーロッパ、アフリカとラテンアメリカ、そして大きい国と小さい国とをとわず、世界のすべての地域とすべての戦線でアメリカ帝国主義者に打撃をあたえ、その力を最大限に分散させるべきであり、アメリカ帝国主義が足を踏みいれたすべての地域で、かれらが勝手にふるまえないように手足をしばりつけなくてはなりません。ただそうすることによってのみ、あれこれの地域や国ぐにに力を集中して、社会主義国をはじめとする国際革命勢力を各個撃破しようとするアメリカ帝国主義者の戦略を成功裏にうちやぶることができるのです」

金日成首相はこの方針を提示しながら、大きな国だけがアメリカ帝国主義をうちくだけるのではなく、たとえ小さな国であっても団結してたたかえば、アメリカ帝国主義をゆうにうちやぶれるという卓越した戦略をうちだした。

「たとえ小さな国であっても、帝国主義に反対して、より多くの国が力をあわせて断固たたかうならば、それぞれの戦線で人民は決定的に優勢な力をもってアメリカ帝国主義をうちのめすことができます。革命をおこなうすべての国の人民が、世界のいたるところでアメリカ帝国主義者の手足をもぎとり、首を切りおとさなければなりません。アメリカ帝国主義者は強そうにみえても、このように多くの国の人民が、四方八方から攻撃をくわえ、みながよってたかって手足をもぎとるならば、かれらは力つきるであろうし、ついには滅び去るでありましょう」

この戦略は、金日成首相が帝国主義、とくにアメリカ帝国主義が滅びゆくという現代のすう勢、大きい国とは関係を悪化させせない方向ですすみながら、小さくて分断された革命的な社会主義諸国と新興独立諸国を武力で各個撃破しようとするアメリカ帝国主義の世界戦略、左右の日和見主義者が反帝反米闘争路線において混乱をおこしている国際共産主義運動隊列内部の状態などを科学的に分析した基礎のうえで明らかにした、もっとも革命的な反米闘争戦略である。

これはまた、金日成首相が、わが国の革命と反帝反米闘争の経験、ベトナムとキューバ革命の経験などを科学的に一般化してうちだした、革命をおこなう小さな国ぐにの反米闘争戦略であり、アメリカ帝国主義の世界戦略を破綻させ、アメリカ帝国主義を完全に守勢と受身に追いやるもっとも闘争的な戦略である。

金日成首相は、この革命的で闘争的な卓越した反米闘争戦略を明らかにすることによって、全世界人民に、アメリカ帝国主義に反対して積極的にたたかうべきであり、たたかえば必ず勝利できるという信念をあたえ、とくに大きな国に期待をかけながらたたかうことをおそれる国の人民に、主体的立場にたって勇敢に反米闘争にたちあがるようはげました。

金日成首相が提示したこの戦略的方針は、もっとも現実的かつ創造的なものであり、革命的な闘争方針であり、たたかう国の人民に勝利の信念をあたえ、実践的闘争の強力な武器となっている。

現実は、金日成首相のこの戦略的方針の正しさをはっきりしめしている。

こんにちアメリカ帝国主義者は、朝鮮で、さらに、たたかうベトナムの地で、両足をもぎとられつつあり、アジア、アフリカ、ラテンアメリカのいたるところでたたかう人民の革命闘争によって手足を傷つけられており、その息の根はますますしめつけられている。

アメリカ帝国主義は結局、たたかう革命的人民の闘争によって滅びさるであろう。

金日成首相はまた、侵略と戦争の主要な勢力であるアメリカ帝国主義にホコ先をむけながら、かれらと結託している同盟者、とくに日本軍国主義と西ドイツ軍国主義に反対してたたかうべきであると教えた。

首相は、日本軍国主義と西ドイツ軍国主義がアメリカ帝国主義の積極的な庇護のもとに急速に復活し、かれらがアジアとヨーロッパで新たな戦争の温床となっている問題にたいして深い注意をむけ、この二つの軍国主義復活にこぞって反対する闘争は、やはり世界の平和を守るためのたたかいであり、これを反米闘争の重要な一環であると

みなした。

金日成首相が明らかにしたこうした戦略戦術的方針は、世界革命の圧殺をもくろむアメリカ帝国主義の悪らつな世界戦略を成功裏に粉砕し、世界革命をいっそう促進させるもっとも賢明で正しい反米闘争路線である。

金日成首相は、共産主義者と世界の革命的人民にたいし、世界革命戦略の重要な構成部分の一つとして、世界革命勢力をかたちづくっている社会主義勢力、民族解放運動、労働運動と民主主義運動の地位と役割を規定し、さらにこれらの勢力を強化するための方途をも明らかにした。

金日成首相は、世界革命を力強く前進させるためには、なによりもまず社会主義陣営の統一と国際共産主義運動の団結を保障し、世界革命の基地としての社会主義陣営の威力を強めてその役割を高めなければならないと教え、この問題において社会主義国の党が必ず堅持しなければならない一連の原則的な問題を明示した。

金日成首相は、社会主義陣営の威力を強化するためには、社会主義国の各党が自国の革命と建設を成功裏に遂行し、国の威力をあらゆる面から強めることによって、国際共産主義運動のまえに課せられた自己の民族的義務に忠実でなければならないと教えた。

それぞれの社会主義国を強めることは、社会主義陣営の全般的威力を強める基本条件である。なぜなら、社会主義陣営を形成している基本単位である各社会主義国を強化し、その力をあわせることによってのみ、社会主義陣営全体を強化できるからである。

金日成首相は、社会主義陣営のそれぞれの国が、世界革命の遂行で果たすべき役割について強調した。

金日成首相は、社会主義陣営の各国共産党および労働者党は自国の革命の成果に満足してはならず、世界革命の勝利のために最後までたたかう、プロレタリア国際主義の革命的立場を徹底的に守りぬくことがもっとも重要であると教えた。

金日成首相は、社会主義国の党はなによりも帝国主義、とくに世界革命の主要な闘争対象であるアメリカ帝国主義に反対して、断固たる立場をとるべきであるとのべた。

首相はこうのべている。

「アメリカ帝国主義にたいする態度は、こんにちの共産党、労働者党の立場を点検する重要な尺度となります。共産主義者は、帝国主義、なによりもまずアメリカ帝国主義に反対する原則的な立場をつねに堅持しなくてはなりません。とくにアメリカ帝国主義者がベトナムにたいする侵略を拡大しているこんにち、すべての社会主義国はアメリカ帝国主義にたいしてもっと冷厳で強硬な態度をとるべきであります」

首相は、独立もよいし革命もよいが、平和がもっと貴重であるとして、アメリカ帝国主義との闘争を避けようとし、かれらと妥協しようとする態度は、結局帝国主義の侵略策動を助長し、戦争の危険を増大させるだけであると警告し、平和の破壊者に反対してたたかい、奴隷の平和に反対して抑圧者の支配をくつがえさないかぎり、真の平和をかちとることはできないと教えた。

これとともに首相は、帝国主義に反対すると大声をはりあげながら、実際の行動においては帝国主義とたたかうことをおそれる態度も裏返しの妥協路線であり、これらはいずれも、真の反帝闘争とは縁もゆかりもないものであり、帝国主義の侵略と戦争の政策に手をかすだけであると指摘した。

首相は、社会主義諸国は帝国主義諸国とも外交関係をむすぶことができるが、これに反帝闘争を解消させてはならず、つねに階級的な原則を堅持し、アメリカ帝国主義に圧力をくわえ、侵略と戦争の政策を暴露糾弾し、実際的な措置としてそれを阻止するためにたたかうべきであるとのべた。

金日成首相は、社会主義諸国は戦争にたいしても原則的な立場を堅持すべきであると教えた。

首相はこうのべている。

「帝国主義の侵略と戦争の政策に反対し、世界の平和と安全のためにたたかうことは、社会主義諸国の対外政策の原則であります。しかし共産主義者は、戦争防止のためにたたかいはするが、決して戦争をおそれてはならず、帝国主義者が武力でおそいかかるときは、侵略者を徹底的に消滅しなくてはなりません」

首相は、歴史的経験がしめしているように、戦争を防止するからといって帝国主義者の侵略的要求に屈従するならば、それはかえって帝国主義者をさらにごう慢にさせ、かれらの侵略策動を助長させ、戦争の危険を大きくするだけであると指摘し、ただ帝国主義に反対する原則的立場を堅持し、断固たる反帝闘争を展開してのみ、帝国主義の侵略をうちくだき、平和を守ることができると教えた。

金日成首相は、社会主義諸国は帝国主義に反対するすべての勢力と積極的に団結をはかり、武装闘争をふくむあらゆる形態の反帝闘争を物心両面から積極的に援助すべきであるとのべた。

社会主義諸国は、資本主義社会を革命的にくつがえすためにたたかっている全世界の労働者階級に階級的連帯を表明すべきであり、帝国主義と植民地主義の鉄鎖をたち切るためにたたかうアジア、アフリカ、ラテンアメリカの被抑圧人民の解放闘争をあらゆる面から支援すべきである。

とくに金日成首相は、こんにち反帝反米闘争の焦点となっているベトナム人民の正義の解放闘争を全力をつくして支援することは、社会主義諸国と革命的人民のもっとも気高い国際主義的義務であると教えた。

首相は、ベトナムにたいするアメリカ帝国主義の侵略は、たんにベトナム人民に反対するものであるだけでなく、社会主義陣営にたいする侵略に、民族解放運動にたいする挑戦になるとみなした。

それゆえ首相は、「アメリカ帝国主義のベトナム侵略と、それに反対するベトナム人民のたたかいにたいしてどのような態度をとるかは、帝国主義に強く反対するかどうか、諸国人民の解放闘争を極力支持するかどうかをしめす基準となるものです。ベトナム問題にたいする態度は、革命的立場と日和見主義的立場、プロレタリア国際主義

と民族的利己主義を区分する試金石であります」とのべたのである。
金日成首相は、すべての社会主義国と平和を愛する人民に、アメリカ帝国主義のベトナム侵略に反対し、ベトナム人民の正義の解放闘争をあらゆる面から支援し、共同でアメリカ帝国主義のベトナム侵略を破綻させようと訴えた。
首相は、アメリカ帝国主義がその追従国のかいらい軍をひきいれてベトナム民主共和国にまで侵略を拡大している条件のもとで、社会主義陣営の東南のとりでを守り、アジアと世界の平和を守るためにたたかうベトナムを支援することは、兄弟のベトナム人民にたいする社会主義諸国の国際主義的義務であるとのべた。
金日成首相のこうした原則的な立場は、ベトナム人民にたいするもっとも断固たる支援であり、真の国際主義的声援であり、帝国主義に反対する共同闘争で勝利した革命にたいする徹底した擁護となる。
また金日成首相は、社会主義諸国と世界の革命的人民は、ベトナム革命にたいする支持とともに、キューバ革命をアメリカ帝国主義の侵略から守り、キューバの社会主義建設を全力をつくして援助しなければならないと教えた。
首相は、「キューバ革命の勝利は、アメリカの鼻先でおこった社会主義革命の最初の勝利であり、ラテンアメリカにおける偉大な十月革命の継続であります。これは、社会主義陣営を西半球にまでおしひろげ、ラテンアメリカの革命運動に新しい転換をもたらした歴史的な出来事であります。キューバ共和国は、ラテンアメリカにおける革命の基地となっております」とのべ、キューバ革命を守ることは、社会主義陣営とラテンアメリカ諸国人民、全世界の進歩的人民の神聖な国際主義的義務であると教えた。
首相は、キューバ人民にたいする積極的な連帯と支持を表明するとともに、社会主義諸国はキューバ人民の革命偉業を全面的に支持し積極的に支援すべきであると指摘し、ラテンアメリカ諸国人民と全世界の進歩的人民は、キ

ューバ共和国にたいするアメリカ帝国主義の封じこめ政策を破綻させ、キューバにたいするかれらの軍事的侵攻企図を挫折させるため、すべての努力をつくすときにのみ、その国際主義的義務を果たすことができると教えた。

さらに金日成首相は、植民地民族解放運動を強化発展させるうえで提起される、もっとも原則的な問題をも明らかにした。

首相は、世界革命を遂行するうえで、植民地民族解放運動が果たす大きな戦略的意義を明らかにした。

共産主義運動の隊列内にあらわれた左右の日和見主義者が、植民地民族解放運動をブルジョア運動であるかのように描写し、その革命的意義を過少評価したり、またそれを戦争の危険をもたらす「葬送のための運動」であると冒瀆したとき、首相は、この運動を帝国主義をくつがえす偉大な革命勢力として、プロレタリアートのもっとも親しい同盟者として正当に高く評価した。

金日成首相は論文『反帝反米闘争を強めよう』のなかで、植民地民族解放運動が世界革命の発展においてもつ戦略的意義について、つぎのようにのべた。

「アジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国人民の反帝反植民地主義闘争は、抑圧され、さげすまれてきた数億万人民の神聖な解放闘争であると同時に、世界帝国主義の生命線を断ち切る偉大な闘争である。この闘争は社会主義をめざす国際労働者階級の革命闘争とともに、われわれの時代の二大革命勢力をなしており、これは帝国主義を葬り去る一つの流れに合流している」

このように金日成首相は、反帝反植民地主義闘争が世界革命において果たす意義を高く評価しながら、まだ独立をかちとることができず、植民地主義の抑圧のもとにある国と、民族の独立をかちとった新興独立諸国人民の反帝反植民地主義闘争の前途を明示した。

首相は、被抑圧人民が民族解放を達成する道はただ一つ、帝国主義との闘争の道をおいてはないと教えた。

首相は論文『反帝反米闘争を強めよう』のなかで、帝国主義の本性は決してかわらず、したがって帝国主義は死滅するときまで人民を搾取し、圧迫し、略奪するであろうし、ましてかれらが植民地の人民に独立を贈るということはありえないとのべ、つぎのように指摘している。

「被圧迫人民は、ただ闘争によってのみ自分自身を解放することができる。これは歴史によって確証された単純で明白な真理である。帝国主義者の欺瞞宣伝を暴露し、かれらが植民地や従属国において、その地位をすすんでゆずりわたすだろうという幻想を徹底的にたたきこわす必要がある。圧迫のあるところに反抗はつきものである。被圧迫人民が自身の解放のためにたたかうのは、避けられないことである。帝国主義が暴力で弱少民族を略奪し圧迫する以上、被圧迫民族が武器を手にして侵略者に反抗してたたかうのは奪うことのできないかれらの権利である」

金日成首相は、三大陸人民が帝国主義に反対してたたかう場合においても、世界帝国主義の頭目であるアメリカ帝国主義に攻撃のホコ先を集中すべきであり、この共同の敵に反対して反米統一戦線を形成することがなによりも重要であると教えた。

首相は論文『反帝反米闘争を強めよう』のなかで、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ人民は反帝反米闘争で共通した利害関係をもっていると指摘し、つぎのようにのべている。

「アフリカとラテンアメリカが自由でなければ、アジアが自由であるはずがなく、アジアからアメリカ帝国主義者を追いだせば、アフリカとラテンアメリカ諸国人民の解放闘争に有利である」

このように首相は、三大陸人民の反帝反米闘争の弁証法的相互関係を明らかにし、社会制度の差異や政治的理念の差異は、力をあわせてアメリカ帝国主義に反対してたたかい、共同歩調をとるうえで決して障害とはなりえないと強調した。ここから首相は、自己の特殊な国家的利益や党派の利益を前面にかかげて反米統一戦線を分裂させたり、共同行動を拒んだりすることが許されてはならないとのべた。

金日成首相のこのような教えは、三大陸人民の反米闘争にたいするもっとも正しい評価であり、この地域の人民の民族解放闘争におけるもっとも正しい闘争指針なのである。

また金日成首相は、帝国主義のくびきから解放され、新たに独立した国ぐにがすすむべき道をも明らかにした。首相は、帝国主義の従属からぬけだした国の人民は、必ず社会主義の道にすすむべきであるとのべ、つぎのように教えた。

「資本主義の道は搾取と抑圧、従属と没落の道であり、社会主義の道は階級的搾取と民族的抑圧をなくし、すべての人民の自由と幸福を保障し、国の完全独立と繁栄を保障する道であります」

金日成首相は、新たに独立した国ぐにが遂行すべき一連の社会経済的課題についても明らかにした。

首相は、アジア、アフリカ、ラテンアメリカの新興独立諸国人民にたいし、こんにち帝国主義者は三大陸で民族解放闘争を弾圧しているばかりでなく、新興独立諸国を反帝戦線から一つ一つ切りはなすための破壊活動を強行している事実に注意を喚起させながら、帝国主義が露骨な暴力とともに、いわゆる「援助」をエサにして新興独立諸国に浸透し、内政に干渉し、内部を瓦解させようとしていると警告した。

アメリカ帝国主義はそれらの国ぐにの反動どもを買収、糾合して進歩的な勢力に反対させ、一部の新興独立国を右傾化させようとしている。かれらの目的は、これらの国ぐにを内では革命勢力を弾圧させ、外では社会主義諸国に反対させて、反帝勢力を瓦解させようとするところにある。

金日成首相は、帝国主義者、とくにアメリカ帝国主義者のこうした策動を暴露しつつ、新興独立諸国のすすむべき道について、『反帝反米闘争を強めよう』のなかでつぎのように明らかにした。

「独立をかちとった国ぐにの人民は、外来帝国主義と国内反動勢力の破壊活動を粉砕し、その経済的地盤をとりのぞき、革命勢力を強化し、進歩的な社会制度を樹立し、自立的民族経済と民族文化を建設するためにたたかうべ

きである。ただこうすることによってのみ革命の獲得物を守り、国と民族の繁栄をなしとげることができ、帝国主義を葬り去るための世界各国人民の共同闘争に貢献することができるであろう」

金日成首相はこのように、新興独立諸国の人民に民族解放革命の偉業をあくまで遂行し、反帝反米闘争を徹底的におこなわなければならないと教え、かれらの革命偉業を心から支持声援した。

首相が提示した民族解放革命の課題を徹底的に遂行する過程は、同時に、社会主義へすすむ道でもある。新興独立諸国の人民は、ただ社会主義の道にすすんでのみ、あらゆる民族的不平等をなくし、真の自由と繁栄をかちとることができるのである。こんにち、それぞれの国の植民地民族解放運動が、自己の宗主国である帝国主義に反対することにのみ、その闘争のホコ先をむけていた時期はすでにすぎ去った。

金日成首相が明らかにしたように、アジア、アフリカ、ラテンアメリカのすべての被抑圧人民と新興独立諸国の人民は、社会主義をめざす国際労働者階級とかたく同盟して反米統一戦線を形成し、いたるところでアメリカ帝国主義をうちのめさなければならず、独立をかちとったのちには、搾取と抑圧が終局的に一掃され全人民が自由で平等に暮らすことのできる社会主義、共産主義社会を建設するために、ひきつづき革命闘争をおしすすめなければならない。

三大陸から帝国主義の頭目であるアメリカ帝国主義が追放されれば、この地域で帝国主義の全般的陣地が大きく弱化するであろうし、帝国主義が弱化すれば、資本の支配を転覆するための資本主義国の労働者階級の闘争もいっそう有利に発展するであろう。

社会主義陣営の力がいっそう強まり、ますます多くの植民地従属国が帝国主義の支配体系から解放されて社会主義の道にすすみ、資本主義国の労働者階級と人民が社会主義をめざして資本に反対する決定的な闘争にたちあがるとき、資本主義は全世界的範囲で完全に滅亡するであろう。

金日成首相の偉大な革命思想は、朝鮮人民と全世界の革命的人民を世界革命の正しい戦略戦術と革命的立場でしっかり武装させ、新たな勝利へと力強く導く威力ある思想的、理論的武器であり、日和見主義を思想的、理論的に粉砕し、マルクス・レーニン主義を擁護、発展させたりっぱな模範である。

金日成首相による世界革命戦略の確立は、マルクス・レーニン主義が、二十世紀後半期にいたって新たな発展段階にはいったということを意味する。

こんにちマルクス・レーニン主義は、世界革命の新たな歴史的段階、帝国主義の完全な崩壊と社会主義の全面的勝利の時代をむかえ、まさに金日成首相によって、各種の日和見主義との熾烈な思想闘争のなかでいっそう発展し、豊富になっている。

革命の新たな歴史的段階において、新しい戦略戦術的問題を正しく解決するためには、反帝闘争にたいする断固たる立場、すぐれたマルクス・レーニン主義的識見、豊富な反帝革命闘争の経験などをかねそなえていなければならない。

まさに金日成首相こそは、たぐいまれな不撓不屈の革命的闘士であり、マルクス・レーニン主義理論の深い理解とそれにたいする創造的態度、豊富な革命闘争の経験をもつていたがゆえに、世界革命発展の新たな歴史的段階で提起された客観的要求を正しく反映し、偉大な戦略思想をうちだすことができたのである。

こんにち世界の人民は、金日成首相が明らかにした世界革命のすぐれた戦略を革命闘争の指導的指針としてたたかっており、金日成首相のようなすぐれた指導者が存在するがゆえに、くめどもつきない勇気と力をえている。

いま世界の革命的な人民、共産主義者と革命家たちは、四千万朝鮮人民の偉大な領袖である金日成首相を、「国際革命運動のすぐれた戦略家」、「全世界革命運動の指導者」、「三大陸人民の傑出した指導者」、「反帝闘争のシンボル」として、かぎりない尊敬の念をこめてたたえ、あおぎみている。

またかれらは、金日成首相の世界革命戦略を深く体得するために、首相の不朽の労作である、論文『反帝反米闘争を強めよう』、朝鮮労働党代表者会議の報告『現情勢とわが党の任務』、朝鮮民主主義人民共和国政府政綱『国家活動のすべての分野で自主、自立、自衛の革命精神をいっそう徹底的に具現しよう』などをひろく研究しており、そこから、民族的および社会的解放を実現し世界革命の終局的勝利をかちとる唯一の指導的指針を学びとっている。
　それゆえかれらは、論文『反帝反米闘争を強めよう』について、「現国際情勢にたいするマルクス・レーニン主義のもっとも正確にして基本的な適用であり、理論的にも実践的にも現代世界の最高水準の文献」、「たたかう世界の革命家にはかぎりない勇気と信念をいだかせる教科書であり、敵である帝国主義者には爆弾である文献」、「三大陸人民の傑出した指導者である金日成首相の論文は、世界の革命家の革命的闘志をいっそうふるいたたせる貴重な文献」であるとたたえているのである。

3　分裂に反対し団結をめざし

　金日成首相は、世界革命の強力な勢力としての社会主義陣営と国際共産主義運動の地位について、だれにもまして深い関心をはらっていた。
　首相はつぎのように教えている。
　「社会主義陣営と国際共産主義運動は、こんにち、人類の歴史の発展を規定する決定的な要因であります。これは、帝国主義とすべての反動勢力に対決しているわれわれの時代のもっとも威力ある革命勢力であります。統一された強力な社会主義陣営と国際共産主義運動の存在は、帝国主義者の侵略と戦争の政策をおさえ、世界各国人民の革命闘争を力づけています」

このように、社会主義陣営と国際共産主義運動の存在は、全世界の労働者階級と革命的人民を結束し、全世界の進歩的人民を英雄的な闘争へとふるいたたせる力であり、その威力がいっそう大きくなればなるほど、それは全般的な国際情勢を人民の革命闘争に非常に有利にし、アメリカ帝国主義をはじめ、帝国主義の侵略政策と反動勢力に打撃をあたえる強い力となる。

それゆえ金日成首相は、帝国主義反動の破壊陰謀策動と左右の日和見主義者の分裂策動に対処し、社会主義陣営の統一と国際共産主義運動の団結の旗じるしを高くかかげ、つねに原則的な闘争をくりひろげてきた。

アメリカ帝国主義をかしらとする帝国主義者とその手先どもが、社会主義陣営と国際共産主義運動を破壊しようと狂奔し、とくに社会主義陣営を内部から切りくずし、それらの国ぐにを一つ一つ攻めとろうという凶悪な策動をくりひろげているときに、社会主義陣営と国際共産主義運動の内部にあらわれた左右の日和見主義は、社会主義陣営の分裂をつくりだし、国際共産主義運動の前進を大きくはばんでいる。

かれらは、自分たちの考えをうけいれないからといって、他の党に圧力をくわえ、その内部問題にまで口ばしをいれた。そしてかれらは、あたかも自分の党だけが、国際共産主義運動で提起される諸問題に結論をくだすことができるかのように思いこみ、みだりにあれこれの問題に結論をくだし、革命を裏切った国を勝手気ままに社会主義陣営にひきいれたり、また逆に、この陣営に属する国を身勝手に切りはなそうとする策動もあえて辞さなかった。

さらに左右の日和見主義者たちは、自分たちの見解を支持しなかったり、それにしたがわないからといって、マルクス・レーニン主義を徹底的に固守するわが朝鮮労働党をはじめ、原則的立場にたつ兄弟諸党にたいして「中立主義」、「折衷主義」、「日和見主義」だのというレッテルをはり、これを誹謗しさえした。

そして、あげくの果てにかれらは、兄弟諸党間の論争を国家的関係にまでもちこみ、社会主義諸国間の団結を弱化させる結果まで生みだした。

このため事実上、社会主義陣営と国際共産主義運動は、統一した勢力として、世界革命運動のまえに負った重大な義務と役割を満足に果たすことができなくなった。

世界革命の前途を重視する人びと、また帝国主義に反対し、自由と解放めざしてたたかう革命的人民は、社会主義陣営と国際共産主義運動の内部に生じたこんにちの事態を非常に憂慮し、一日も早く難局を打開し、革命を力づよく前進させるよう切望した。

事態は、左右の日和見主義者をしりぞけ、社会主義陣営の統一と国際共産主義運動の団結を保障する課題を切実に提起した。

しかしながら、世界には数多くの共産党や労働者党が存在しているが、どの党もこうした難局を打開し、社会主義陣営の統一と国際共産主義運動の団結を回復するための正しい道をうちだすことができなかった。

このさしせまった困難な課題は、ひとえに、アルクス・レーニン主義の原則と主体的立場にしっかりとたち、朝鮮革命を勝利へと導いているばかりでなく、世界革命の利益のためにたたかう徹底したマルクス・レーニン主義者であり、国際主義者である四千万朝鮮人民の偉大な領袖金日成首相と、その賢明な導きをうける朝鮮労働党だけが正しく解決することができたのである。

金日成首相の賢明な指導のもとに、朝鮮労働党はマルクス・レーニン主義の原則と主体的立場をしっかりと守りぬき、内外の活動でいかなる路線上の誤りもおかさず、国際共産主義運動で提起されるすべての問題にたいし、つねに原則的な立場を守りながら、その解決に主導的な役割を果たした。

金日成首相は、国際共産主義運動の内部に修正主義があらわれたとき、だれよりも先にその正体を鋭く見ぬき、その影響が党内におよばないよう先見の明をもって措置をとる一方、現代修正主義に反対するたたかいの旗を高くかかげたのである。

首相は現代修正主義が台頭した当初から、マルクス・レーニン主義の原則と主体的立場をしっかりと守ることにより、修正主義の誤った主張をしりぞけ、国際共産主義運動を正しい方向へと導くうえで、じつに重要な役割を果たした。

また金日成首相は、現代修正主義とともに、国際共産主義運動の隊列内にあらわれた左翼日和見主義にも断固反対してたたかった。

首相は、左翼日和見主義が助長されれば、それが個別的な党や国際共産主義運動にたいして、現代修正主義におとらない大きな危険になりうるとみた。事実、左翼日和見主義に反対してたたかわなければ、反帝勢力を団結させ、帝国主義と成功裏にたたかうことができず、現代修正主義に反対する闘争を正しく遂行することができなかった。

金日成首相は、論文『自主性を擁護しよう』をはじめ、朝鮮労働党中央委員会機関紙『労働新聞』の論説をつうじて、国際共産主義運動のこんにちの事態にたいする朝鮮労働党の立場と態度を明らかにし、左翼日和見主義者と、かれらの指揮棒にしたがって踊る人びとと党にたいし、原則的な批判をくわえた。

首相は、マルクス・レーニン主義の原則を守るための反日和見主義闘争を力強くすすめる一方、左右の日和見主義を克服し、社会主義陣営の統一と国際共産主義運動の団結を回復するための、もっとも正しい方針をうちだした。

国際共産主義運動にたいする首相の立場と態度は、朝鮮労働党代表者会議でおこなった報告『現情勢とわが党の課題』で集大成された。

世界の共産主義者と革命的な人民は、これによってはじめて国際共産主義運動の現事態を打開する唯一の正当な声を耳にすることができたのである。

首相は、社会主義陣営の統一と国際共産主義運動の団結をかちとるためには、左右の日和見主義を克服し、マルクス・レーニン主義の純潔を守らなければならないと指摘した。そしてこの闘争を、つねに社会主義陣営の統一および国際共産主義運動の団結のための闘争と密接にむすびつけておこなうという、原則的な立場を堅持すべきであるとのべた。

首相はつぎのようにのべている。

「わが党は、左右の日和見主義とたたかうと同時に、団結の旗をかたく守ってすすむでありましょう。われわれは日和見主義に反対するからといって、団結を否定する極左的誤りをおかしてもならず、団結を守るからといって日和見主義との闘争を放棄する右翼的誤りをおかしてもいけません。わが党は、左右の日和見主義にたいして妥協のない闘争をくりひろげながら、社会主義陣営の統一と国際共産主義運動の団結を守るために全力をつくすでありましょう」

首相はこうした原則的な立場にたって、社会主義陣営を分裂させようとする左右の日和見主義者の策動に反対し、ねばりづよくたたかった。

首相はまず、革命の裏切り者を社会主義陣営にひきいれ、社会主義陣営を異なった性格の協同体にかえようとする現代修正主義者の策動に断固反対した。

現代修正主義者は、マルクス・レーニン主義を裏切り、社会主義陣営と国際共産主義運動から離脱し、アメリカ帝国主義者と結託して国際革命運動にたいする破壊活動をはたらいてきたユーゴスラビアのチトー一味を、社会主義陣営と国際共産主義運動の隊列内にひきいれようと試みた。

首相は、こうした試みを断固しりぞけ、ユーゴスラビアを社会主義陣営の一国として認めることはできず「ユーゴスラビア共産主義者同盟」は決して共産党および労働者党と一つの隊列内におくことができないと主張した。

首相はつぎのようにのべている。

「……兄弟党間の意見の相違がどんなに深刻であっても、それは社会主義陣営と国際共産主義運動の内部の問題であります。党と党とのあいだの意見の相違を、組織的な決裂にまで導いてはならず、それはあくまでも団結をねがう立場から、思想闘争の方法で解決しなければなりません」

首相のこの主張には、共産主義者が兄弟党、兄弟諸国に偏見をもって対処したり、主観主義におちいるようなことがあってはならないという、原則的な要求がこめられている。

首相は、兄弟党間の関係を、決して帝国主義との関係のような敵対的関係として見てはならず、兄弟党の指導部があやまちをおかした場合にも、共産主義者は、同志的な批判をあたえ、正しい道にすすむようたすけてやるのが当然であると教えた。

これとともに首相は、兄弟諸国が一連の否定的な側面をもっているにせよ、それを敵と同列においたり、帝国主義者の側においたり、帝国主義者の側におしやるようなことがあってはならないとのべた。

首相は、社会の性格は政権がどの階級の手中にあり、生産手段にたいする所有形態がどうであるかによって規定されるとのべ、つぎのように教えた。

「われわれは、社会主義国家と資本主義国家の差異を正しくとらえなければなりません。社会主義国家と資本主義国家とのあいだには、社会制度の本質からくる根本的な矛盾があります。この矛盾は、あるだれかの主観的な意図とも関係なく、客観的に存在するものであります。指導者たちのあれこれの措置によって、社会主義国と資本主義国との矛盾がもっとするどくなるか、もしくはやわらぐことはありえますが、社会制度が対立しているかぎり、社会主義と資本主義とのあいだの根本的な矛盾が消滅するようなことはありません」

首相は、「こんにち、社会主義陣営は意見の相違のために複雑な状況におかれているが、しかし、それは厳然と

して存在」しており、「社会主義陣営は、共通の政治的、経済的基礎のうえに団結しており、社会主義、共産主義建設の同じ目的でたがいに連結された一つの全一体」であり、「すべての社会主義国家はみな同等のメンバーとして社会主義陣営を構成している」とのべた。

このことから首相は、意見の相違があるにしても、兄弟党と兄弟諸国にたいしては軽率に結論をくださず、時間をかけてたたかい、点検することが必要であり、かれらが帝国主義に反対し、民族解放運動を支持し、兄弟党と兄弟諸国の内部問題に干渉しないという条件をもとに団結をつちかってゆかねばならず、誤りは批判をとおしてただし、正しい点は評価して支持する積極的な態度をとるべきであると教えた。

左右の日和見主義を克服するたたかいで、団結と闘争を密接にむすびつけるという金日成首相の原則的な方針は、すべての日和見主義にたいする非妥協的な立場を明らかにしたものであり、すべての反帝勢力が団結して、アメリカ帝国主義に闘争のホコ先をむけなければならないこんにちの反帝闘争の要求に完全に合致した、もっとも正しい方針である。

首相は、思想闘争とともに、アメリカ帝国主義に反対する革命闘争の実践をつうじて、左右の日和見主義を克服する方針をうちだした。

首相はつぎのようにのべている。

「……アメリカ帝国主義に反対する共同闘争をつうじて、マルクス・レーニン主義と修正主義のけじめもいっそう明らかになるでしょう。実際闘争のなかで、アメリカ帝国主義に反対するのがほんものなのか、にせものなのか、ベトナム人民を支援するのがほんものなのか、見せかけなのかが明らかにされるでありましょう。実践は真否を見分ける基準となります。日和見主義も思想闘争と革命闘争の実践のなかで克服することができるのです」

首相は、反帝共同行動と反帝統一戦線が実現されれば、ベトナム人民にたいする支援運動をいっそう強力に展開

し、アメリカ帝国主義の侵略と戦争政策を阻止し、アジアと世界平和を守ることができるばかりでなく、兄弟党間の意見の相違をしだいに克服し、社会主義陣営の統一と国際共産主義運動の団結を回復しうる条件をつくることができ、すべての国ぐにおける革命運動をいっそう積極的におしすすめることができるとみた。

そして金日成首相は、全世界の共産主義者のまえに、アメリカ帝国主義に反対し、ベトナム人民を支援するうえで共同行動をとるための具体的な対策をうちだした。首相はまず、たたかうベトナム人民を助けるために国際的な支援部隊を派遣することが必要であり、またすべての国際民主団体が連合してアメリカ帝国主義に反対し、たたかう人民を支援することに活動の中心をおき、この国際民主団体をとおして各国の民主的社会団体は反帝共同行動をくりひろげるべきであることを、社会主義諸国に提起した。

しかし首相は、こうした対策だけでは、反帝共同行動と反帝統一戦線の実現を完全に解決することができないとみた。

首相は、共産党および労働者党はまず、それぞれ個々の位置で帝国主義に反対して断固たたかい、人民の革命運動を積極的に支援すべきであり、こうした実践過程をへてしだいに相互間の意見の相違をせばめ、接触することのできる雰囲気をつくることによって、反帝共同行動を実現しうる条件をととのえ、そのときになって兄弟党は評議会をひらき、反帝共同行動の問題を具体的に討議し、それをいっそう積極的に実現すべきであるとのべた。

アメリカ帝国主義に反対する共同闘争の実践をとおして、左右の日和見主義を克服するという金日成首相の方針は、帝国主義と強力にたたかうことを可能にするだけでなく、人民大衆を革命的にめざめさせ、あらゆる日和見主義に反対してマルクス・レーニン主義の純潔性を守り、社会主義陣営の統一と国際共産主義運動の団結を回復するもっとも正しい方針である。

金日成首相はまた、社会主義陣営の統一と国際共産主義運動の団結のためには、共産党および労働者党が自主性

を徹底的に堅持すべきであると教えた。
金日成首相は、つぎのように指摘した。
「自主性は、だれもおかすことのできない各党の神聖な権利であり、各党はまた他の兄弟党の自主性を尊重する義務があります。自主性を尊重することは、兄弟党間の団結と協調の前提であり、基礎であります。すべての党がたがいに自主性を尊重してこそ、兄弟党間の団結と協調が真に自発的で、強固で、同志的なものとなりえます」
首相は、自主性と独自性を確固と堅持するためには、すべての党が大国主義を警戒すべきであると教え、もし自主性と独自性を失い、他人がやるように真似してゆくなら、路線と政策で原則性と一貫性を保つことができなくなり、結局、自国の革命と建設に大きな害毒をおよぼすことになり、ひいては、国際共産主義運動にも大きな損失をもたらすことになろうと警告した。
金日成首相が堅持する自主的な立場は、プロレタリア国際主義の原則と密接に結合されている。それゆえ首相は、自主性を堅持しながらも孤立主義や民族主義に徹底して反対し、労働者階級の国際的団結と、兄弟党および兄弟諸国との団結をこのうえなく重んじるのである。
首相は、自主性を徹底的に堅持することによって、兄弟党間の相互関係の規範をむすぶべきであると強調した。
首相はつぎのようにのべている。
「兄弟党は、完全な平等と自主性、相互尊重と内政不干渉および同志的協調の原則にもとづいて、相互関係をむすぶべきであります。この規範は、国際共産主義運動の歴史的経験にもとづいて、各国の党代表者による一九五七年会議と一九六〇年会議で規定されたものであり、すでに実践において、その正しさが確証されております。共産党および労働者党は、いずれの党をとわず、この規範を厳格に守り、この規範に忠実でなければなりません。万一この規範がおかされた場合には、兄弟党のあいだに複雑な問題がおこり、国際共産主義運動の団結がくずれ、前進

途上には多くの難関が生まれることになります」

首相は、共産党および労働者党間には、高い党と低い党、指導する党と指導される党などありえず、いかなる党であっても、国際共産主義運動の内部で特権的な地位を要求することはできないと主張した。

金日成首相は、こんにち、国際共産主義運動の内部で、各国の党の活動を全一的に指導する、そうした国際的な組織の必要性をまったく認めていない。

首相は、時代はかわり、共産主義運動において国際的な中央を必要としていた時期はすでにすぎ去ったとみた。事実、第三コミンテルンが解散したのちは、国際共産主義運動内部に「中央」や「中心」などなく、また、革命運動の「中心」が、ある一つの国から他の国にいったりきたりすることもなくなり、まして、ある一国が「世界革命の中心」になるとか、ある一つの党が国際共産主義運動の「指導的党」になることはできないのである。

世界の革命運動はすべての大陸におよび、大きな規模とさまざまな形態で拡大発展しており、情勢は急激に、また複雑に変化している。さらに各国の共産党および労働者党は長期にわたる革命闘争をとおして、自国の革命を責任をもって勝利のうちに導きうる程度に洗練されたし、強力な政治的力量に育った。

もともとそれぞれの国の革命は、国際的「中央」や他の国の党によってではなく、その国の党の指導のもとに、その国の人民によっておこなわれるものである。

こうした条件のもとでは国際的「中央」を必要とせず、もしそれを認めるならば、ある一つの党にたいし特権をあたえることになるであろう。兄弟党間にこうした関係が生じれば、各党は自主性を失い、自国の革命と建設を成功裏に遂行することができなくなる。それればかりか、これは、世界革命の発展にも大きな害毒をあたえることになるのである。

それゆえ金日成首相は、国際共産主義運動において、こうした関係は絶対に許されてはならないと主張したので

ある。

首相は、共産党および労働者党が革命で前衛部隊の役割を果たすためには、必ずマルクス・レーニン主義によって指導されるべきであるとのべ、各党はマルクス・レーニン主義を自国の現実に創造的に適用し、自分の指導理論をもち、それを指針にして革命をおこなうべきであると教えた。

他の党の指導理論は、その国の革命遂行においてのみ指導理論となりうるが、決してそれは別の国の指導理論にはなりえない。

朝鮮の共産主義者にとっての唯一の指導的指針は、マルクス・レーニン主義を朝鮮の現実に創造的に適用し発展させた金日成首相の偉大な革命思想であり、その具現である朝鮮労働党の路線と政策である。

首相は、兄弟党が相互関係の規範を徹底的に順守するためには、決して自己中心的に考えるべきでなく、他の党に自分の思想をおしつけてはならないとのべた。そして兄弟党は、一方が他方の内政に干渉し、一方的な尊重を要求する行為は、正常な関係を悪化させる重要な原因になると強調した。

首相はまた、国際共産主義運動内部には、原則的な問題について勝手に結論をくだす権利を独占できる党はなく、したがって、いかなる党も国際問題にたいしては意のままに結論をくだしてはならず、まして、自分の政策を他の党におしつけてはならないという立場を堅持した。

首相はつぎのように教えている。

「共産党および労働者党は、相互の関心事となっている問題については協議すべきであり、たがいに合意に達した結論にしたがって行動すべきであります。こうしてこそ、意志と行動の統一を保つことができます」

首相は、共産主義者が、自分のいうことをきかないとか、自分と見解が異なるからといって、兄弟党を意のままに評価するようなことがあってはならないとのべた。

とくに、マルクス・レーニン主義を守り、自主的立場を守りぬく兄弟党にたいし、自分たちの気にいらないからといって、勝手にレッテルをはるような行為は絶対に許せないとのべた。

首相は、一部の人びとが、朝鮮労働党をはじめとするマルクス・レーニン主義党にたいして、「中立主義」だの、「折衷主義」だのというレッテルをはり、「無原則的な妥協の道」を歩んでいるとか、「二つの椅子のあいだに腰かけている」などと中傷したことにたいして強力な打撃をくわえながら、つぎのようにのべている。

「われわれにも自分の椅子があります。われわれがなんのために自分の椅子をすて、他人の二つの椅子のあいだに腰かけるという不便なことを、あえてするでありましょうか。われわれはつねに、自分の正しいマルクス・レーニン主義の椅子にすわっているであります。自分の正しい椅子にすわっているわれわれにたいし、二つの椅子のあいだに腰をかけていると誹謗する人たちこそ、右側か左側のかたむいた椅子のどちらかにすわっているにちがいありません」

共産主義者はすべて、マルクス・レーニン主義を指針にしているが、さまざまな問題で見解を異にする場合もありうる。首相は、こうした場合でもたがいに理解をもって接し、まじめに協議し、団結を実現するために努力すべきであると指摘した。

金日成首相が、社会主義陣営の統一と国際共産主義運動の団結のためにさししめした原則と方針は、ゆるぎない自主的立場で革命を最後まで遂行しなければならないという、革命的で自主的な方針である。

じつに、なにをもってしても傷つけることのできない権威と威信をもつ金日成首相が、国際共産主義運動の内部に発生した左右の日和見主義を克服し、社会主義陣営の統一と国際共産主義運動の団結のために確固と堅持しているすべての原則と方針は、こんにちの国際共産主義運動におけるゆるぎない指導的指針となっており、数億万の世界人民の心を強くとらえている。

世界の堅実な共産主義者と革命的人民は、こうした方針から、金日成首相の確固不動のマルクス・レーニン主義的原則性、世界革命の未来にたいする高い責任感、反帝闘争の一念から出発した社会主義陣営と国際共産主義運動の統一団結のための私心のない努力に感動しており、これに一致した支持を表明している。

日本共産党の機関雑誌である前衛の編集長は、日本の多くの人びとが左右の日和見主義の発生に憂慮をしめし、いったい日本共産党はどの道にすすんでゆくのかとたずねるたびに、「われわれは、かれらに………、朝鮮労働党を見よ、金日成同志は左右の日和見主義に反対し、マルクス・レーニン主義を堅持しており、それを創造的に発展させているとこたえる」とのべている。

マリ・スーダン連盟党の一政治委員は、マリは「朝鮮の勇敢な立場を歓迎し支持する。朝鮮労働党と金日成首相の立場、そして朝鮮民主主義人民共和国の立場は、当然支持されるべきであり、また、支持されるであろう。……歴史は必ず、朝鮮労働党の正しい立場を証明するであろう」と強調した。

左右の日和見主義は、金日成首相がうちだした方針にしたがって必ず克服されるであろうし、社会主義陣営と国際共産主義運動は、必ずや戦闘的な統一と団結を回復するであろう。

4 偉大な貢献

国際共産主義運動と労働運動のすぐれた指導者の一人である金日成首相は、現代の国際共産主義運動と世界革命運動の発展に、じつに偉大な貢献をなしてきたし、またなしている。

首相は、傑出した思想家、理論家、戦略戦術家として、朝鮮における革命と建設の問題から世界革命全般にわたるひろい分野で数多くの新しいマルクス・レーニン主義の命題と独創的な路線や方針を生みだし、マルクス・レー

ニン主義理論の深化発展に大きく寄与した。さらに首相は、卓越した実践家として朝鮮革命をもっとも正しい道に力強く導き、社会主義をもっとも模範的に建設し、その貴重で豊富な実践的経験によって世界革命の発展に大きく寄与した。

まさに、金日成首相の四十余年間にわたる革命闘争の歴史は、朝鮮人民の民族的および社会的解放と新しい社会の建設において偉業をつみかさねた偉勲の歴史であり、世界革命を促進し、マルクス・レーニン主義の革命理論をゆたかにし、発展させるうえで、じつに巨大な不滅の業績をうちたてた輝かしい歴史である。

金日成首相は、早くから一身を革命にささげ、こんにちにいたるまで、だれも歩んだことのない苦難の道程を切りひらかなければならなかった。

朝鮮における革命と建設は、内外の敵との形容しがたい熾烈な階級闘争のなかで、また歴史発展の特殊性によって生みだされた非常に複雑で、苦難にみちた環境のもとでおこなわれた。

解放前には、もっとも野蛮かつ悪らつな軍事封建的帝国主義である日本の侵略者の三十六年間にわたる直接的な植民地支配のもとで、民族的および社会的解放の実現めざすたたかいをすすめなければならなかった。

また八・一五解放以後は、世界反動の頭目であり、現代植民地主義の牙城であり、侵略と戦争の元凶であり、国際憲兵であり、人間の皮をかぶった狼であるアメリカ帝国主義侵略者と直接対峙しながら、北半部で革命と建設をおしすすめなければならなかった。とくに、かつてたちおくれた植民地半封建社会であった条件のもとで、社会主義、共産主義建設を遂行しなければならなかったし、それも朝鮮革命の全国的勝利のために、もっとも早いテンポで建設をすすめなければならなかったのである。

したがって、この困難な革命を終始一貫して導いてきた首相のまえには、革命と建設が提起する数多くの複雑で困難な問題が山積していた。

たとえば、まだだれも解明していなかった植民地民族解放運動の具体的な戦略戦術の問題、かつて植民地であった条件のもとにおける民主主義革命と社会主義革命の遂行途上で提起される一連の理論、実践的問題、社会主義の完全な勝利と共産主義建設の方途の問題、社会主義の終局的勝利にかんする問題、さらには、地球上で帝国主義が滅亡し社会主義が勝利する時代の新しい歴史的時期における世界革命戦略と、国際共産主義運動および労働運動で提起される一連の原則的諸問題など、じつにぼう大な問題が新たに提起されていたのである。

これらは、マルクス・レーニン主義の創始者たちも解明できなかったし、また、解明をあたえることのできない問題であった。

したがって、首相は新しい歴史的時期にそくした革命的指導理論を創造し、マルクス・レーニン主義理論をさらに発展させ、それにもとづいて革命と建設を指導しなければならなかった。

歴史発展の合法則性と時代の切迫した要求、労働者階級の歴史的任務と革命闘争がおこなわれる環境、そして革命遂行の方途などをだれよりも知りつくし、人民大衆と革命の利益にだれよりも忠実な偉大な政治的領袖であり、革命の天才である金日成首相は、自身に課せられたこの困難な歴史的使命をりっぱに解決した。

金日成首相は、主体的な立場にたってマルクス・レーニン主義の一般的原則を堅持し、革命と建設が要求するすべての問題を現代と朝鮮の具体的実情にそくして、独創的に解くことによって、マルクス・レーニン主義の宝庫をさらにゆたかにし、国際共産主義運動と世界革命の発展にたぐいまれな貢献をなした。

こうして、金日成首相の偉大な革命思想は、社会主義、共産主義の偉大な理論、実践的指針、世界革命のもっとも正しい科学的理論、戦術として、一つの整然とした体系をもつようになった。

首相の革命思想は、現代の歴史発展の法則、人民の民族的および社会的解放をめざす闘争の法則、社会主義、共産主義建設の法則と、それを革命実践に具現するうえで提起される理論、実践的問題を体系的に解明した科学的思

想である。
首相の革命思想が具現されている数かずの労作と文献には、労働者階級をはじめ、被圧迫人民が資本の抑圧と帝国主義と植民地のくびきから解放し、真の自由と解放の道をもとめるための闘争方針と方途が、灯台のようにあかあかと照らしだされている。
そこにはまた、帝国主義と資本家、地主制度を粉砕し、自己の手中に政権をにぎった労働者階級が新しい社会をどのように建設し、社会主義革命と社会主義建設で提起される理論、実践的問題をどのように解いてゆくかという諸問題にたいする正しい解明がなされており、ひいては、共産主義社会の思想的要塞を占領するうえで提起される問題のもっとも正しい道が明らかにされている。
金日成首相の偉大な革命思想の真髄をなすものは、思想における主体、政治における自主、経済における自立、国防における自衛の原則で一貫した首相の徹底した主体思想である。
首相の主体思想は、マルクス・レーニン主義を自国の歴史的な条件と民族的特性にそくして適用してゆく現実的で創造的な立場を教えており、他人にたいする依頼心をすて、自力更生の革命精神を発揮し、自分の問題はあくまでも自身が責任をもって解決してゆく自主的立場をさししめし、人民の民族的な自負心と自主意識を高め、自力更生の革命的な気風を発揮させることによって、革命偉業をもっと正しく前進させる革命的で創造的な思想である。
首相の革命思想である主体思想は、革命と建設を遂行するためのわが時代のもっとも正しいマルクス・レーニン主義指導思想であり、全世界の共産主義者と革命的人民が、その政策作成と活動において、必ず把握しなければならない指針である。
金日成首相がマルクス・レーニン主義の宝庫をさらに豊富にするうえで貢献した思想、理論的財富は、じつに数

えきれないほど多く、また巨大である。

金日成首相は早くから、植民地民族が民族的および社会的解放を実現する唯一の正しい道をさししめし、植民地民族解放闘争の戦略戦術的問題に明確な解答をあたえた。

金日成首相は、反帝民族解放革命の勝利のためには、武装した植民地支配者を革命的武装力で粉砕すべきだという戦略的方針をたて、それを模範的に実践した。

そしてその過程で、革命の基本任務と情勢発展の各段階に合った武装闘争の総体的な目的と当面の任務の樹立、武装闘争と党創建の組織思想的準備と広はんな統一戦線運動の結合、武装闘争と地下闘争の組合わせ、相異なる形態の遊撃根拠地の創設とその強化、情勢と革命任務に照応した相異なる遊撃闘争形式の選択、遊撃隊の建設方途などをはじめ、その他多くの遊撃闘争の戦略戦術的問題を独創的にあみだしたし、卓越した軍事戦略と遊撃戦術を創造した。

金日成首相が創造的にあみだした反帝民族解放をきめる武装闘争理論と数かずの戦略戦術は、大きな理論、実践的意義をもっている。

それはまさに、こんにち民族解放闘争を力強くくりひろげているアジア、アフリカ、ラテンアメリカの革命家と革命的人民に強力な理論的、実践的武器となっている。

一九六八年のはじめ、ハバナ文化大会において、栄えある抗日武装闘争の戦略戦術にかんする文献『金日成同志の直接的指導のもとに組織展開された朝鮮人民の抗日武装闘争』を大会文献として採択し、それをこんにち、世界の革命的な人民が積極的に支持賛同している事実は、そのはっきりとした実例の一つである。

金日成首相はまた、過去において植民地半封建社会であった国における民主主義革命、そしてとくに、社会主義革命と社会主義建設で提起される一連の理論、実践的問題にもっとも正確な解答をあたえ、それを実践によって確

証することにより、革命遂行のもっとも正しい道を明らかにした。

金日成首相は、かつてたちおくれた植民地半封建社会であった条件のもとで、それも解放後アメリカ帝国主義の南朝鮮占領によって国が南北にひき裂かれた条件のもとで革命と建設の道を独創的に切りひらき、きわめて短期間に共和国北半部を強力な自立的民族経済をもつ社会主義強国にかえた。

その過程で首相は、革命的民主基地創設路線、反帝反封建民主主義革命の課題を遂行したのち、ただちに社会主義建設へと移行する路線、過渡期の総的任務の正確な規定、技術的改造に先だって経営形態を社会主義的に改造する独創的な農業協同化方針と、都市商工業の社会主義的改造方針、自立的な民族経済建設路線と、重工業を優先的に発展させながら軽工業と農業を同時に発展させる理論と路線を創造した。

そして、社会主義革命と社会主義建設のもっとも正しく早い道を切りひらき、その理論と実践的経験によって、社会主義革命と社会主義建設にかんするマルクス・レーニン主義理論を豊富にするうえで大きく貢献した。

金日成首相は、とくに、社会主義制度が確立されたのち、社会主義建設が深化発展する過程で提起される一連の問題を独創的に明らかにし、これを正しく解決して、社会主義、共産主義建設で歴史的な出来事となる強力な理論的武器を創造した。

社会主義制度がいったん確立したのち、マルクス・レーニン主義の党のまえには、この制度の優越性を最大限に発揮し、革命をつづけて共産主義の要塞まで占領すべき困難でやりがいのある任務が提起される。

この任務を遂行するためには、革命と建設が深化発展するにしたがい、相ついで新たに提起される理論、実践的問題をその国の具体的実情にそくして、マルクス・レーニン主義的に正しく解決しなければならない。すなわち新しい環境にあうように、どのように党と国家の指導を改善し、経済を管理運営すべきか、またどのように都市と農村との差異と労働者階級と農民との階級的差異をなくすか、経済をどのようにつねに早いテンポで発展させるか、

さらに帝国主義と対決しながら社会主義、共産主義を建設する条件のもとでは、社会主義国家のプロレタリア独裁機能をどのように高め、革命と建設をどのように促進し、社会主義の完全な勝利はどのように実現すべきかなど、数多くの新しい問題に科学的、理論的な解答をあたえ、それを実践によって正しく具現しなければならない。

しかし、これらの問題にたいしては、これまでだれも現実的な解答をあたえることができなかった。

一言にしていえば、現代の世界は深奥な理論の貧困を痛感していたのである。社会主義制度をいったん確立するまでに人類が到達した成果にもとづいて、それをふたたび高い位置へ飛躍させる理論が、また世界革命にいっそう拍車をかけるうえで必要な、革命的な理論が貧困だったのである。

こうした実情のもとで、多くの国の共産主義者と革命家たちは、現代の社会主義革命と社会主義、共産主義建設、さらに世界革命を急テンポで発展させる正しい科学的理論の実践的な教科書を切実に要求している。

しかし、こうした切迫した諸問題も、確固とした主体的な立場で万事を独創的に解決する金日成首相によってのみ、天才的に解明され、また解決されている。

首相が現在まで新しく解決した原則的な理論的、実践的問題は、じつに数多いばかりでなく、その一つ一つがきわめて深遠である。

そのなかでも、もっとも輝かしい位置を占めるのは、社会主義制度がうちたてられたあと、新しい環境にそくして、党と国家の指導をつらぬくうえで決定的な意義をもつ青山里精神と青山里方法であり、また、それを経済の指導管理に具現した共産主義的な企業管理方法である大安(テアン)の事業体系と農業体系であり、もっとも革命的で科学的な計画化方法である計画の一元化と細部化であり、社会主義のもとでは人民経済がたえず早いテンポで発展するという経済法則の発見とその具現であり、『わが国における社会主義農村問題にかんするテーゼ』が明らかにした社会主義下の農村問題の終局的な解決の方途などである。

そしてさらに、社会主義社会発展の動力問題に科学的解答をあたえた人民大衆の政治的、思想的統一と階級闘争の正しい結合の問題、社会主義、共産主義の建設を階級関係の見地から明らかにした全社会の革命化、労働者階級化の問題と、思想革命をしっかり先行させながら思想、文化、技術革命をおしすすめる問題、帝国主義と対峙して革命の獲得物を固守し、社会主義、共産主義の建設を成功裏に推進する唯一の革命路線である経済建設と国防建設の並進路線、社会主義国家のプロレタリア独裁機能の向上と社会主義の完全な勝利にかんする問題などである。

このように金日成首相が、かつてだれも解決することができなかった社会主義、共産主義建設で提起される原則的な理論、実践的問題を正しく解明したため、こんにち、世界の共産主義者と革命的人民は、その道にしたがって社会主義、共産主義の大路を正しく、しかも早いテンポで前進することができるようになったのである。

金日成首相が明らかにしたすべての革命理論と路線は、朝鮮においてはもちろん、世界的な範囲でめざましい巨大な成果をもたらすであろうし、共産主義運動の勝利的な前進のなかで、その偉大な生命力をいっそう大きく発揮するであろう。

金日成首相は、現在の国際共産主義運動および労働運動で提起される一連の原則的な問題についても、もっとも正しい解明をあたえた。

すなわち、すべての社会主義陣営を擁護してたたかう問題、共産党および労働者党の活動と社会主義諸国の相互関係において、自主性を堅持する問題、たたかいながら団結し、団結しながらたたかい、実践をとおして点検することにより、左右の日和見主義を克服する原則的な方針などを明示した。

首相が明らかにしたすべての方針は、現在の国際共産主義運動の統一と社会主義陣営の団結を保障するための唯一の正当なものである。

とくに金日成首相は、現在の反帝反米闘争と民族解放闘争の戦略戦術の諸問題について、全面的に正しく解明し

た。

わけても、アメリカ帝国主義者に攻撃のおもなホコ先をむけ、すべての反帝勢力がかたく団結して反帝共同行動と反帝統一戦線を形成し、小さな国ぐにが四方八方からとびかかってアメリカ帝国主義の頭と手足をもぎとり、アメリカ帝国主義を打倒するという闘争戦略などは、反帝民族解放運動における綱領的指針となるものである。

このほかにも、金日成首相は、社会主義の終局的勝利にかんする問題など、現在の国際共産主義運動と世界革命運動の発展で提起される数かずの理論的、実践的な問題にたいして、すぐれたマルクス・レーニン主義的分析と正しい解決の方針をさししめした。

そして、現代の深奥な理論の貧困を率先して克服しつつ、世界の共産主義者と革命的人民がすすむべき前途を明かるく照らし、マルクス・レーニン主義の宝庫をゆたかにするうえで、偉大な貢献をなしている。

じつに、四千万朝鮮人民の敬愛する領袖金日成首相は、マルクス・レーニン主義の発展と国際共産主義運動および国際革命運動の発展に寄与した大きな貢献によって、世界の広はんな人民からかぎりない尊敬と厚い信頼をうけている。

革命の偉大な領袖とは、みずからが称してなれるものではない。

それはひとえに、人民大衆の利益と志向を代弁し、だれもできないような卓越した貢献をする、そうした指導者だけがなれるものなのである。

キューバ革命政府のカストロ首相は、「金日成同志は、現代のもっとも高名な、すぐれた英雄的な社会主義指導者のひとりとして、その歴史は、社会主義の偉業に服務する一革命家が書きうる、もっとも美しいものの一つである」と語ったし、カンボジアの国家元首は、「金日成首相の偉大な功績は、アジア、アフリカおよびラテンアメリカ諸国の人民に、完全で終局的な解放の道をさししめしたことにある」と強調した。

また、アラブ民族会議の書記長は、金日成首相について、「じつに偉大な人物である。世界の革命運動には多くの指導者がいるが、金日成同志のように偉大な領袖はいない」とたたえ、朝鮮を訪問したことのあるメキシコ労農連盟代表は、「わたしは生涯をつうじて、永遠に忘れることのできない深い印象をうけて帰る。金日成首相は真に偉大な指導者である。どの国の指導者をもってしても、金日成首相とくらべることはできない」と強調した。

こんにち、世界の革命的人民と多くの共産主義者たちは、金日成首相の偉大な革命思想とその労作を「国際共産主義運動の指導的指針」であり、「国際共産主義運動の偉大な旗じるし」であり、自主、自立をめざしてたたかう「すべての発展途上にある国ぐにと、独立国にとっての憲章」であるとたたえ、それを熱心に学んでいる。

まさにかれらは、階級の敵と民族の敵に反対し、それらといかにたたかって勝つか、また社会主義革命と社会主義、共産主義建設をどのようにしておこなうべきかをそこから学びとり、また学びつづけている。

アフリカの一政治活動家は、『金日成(キムイルソン)！　あなたは赤い太陽』と題する詩で、つぎのようにうたっている。

偉大なる　ここ朝鮮にさしのぼった輝かしい太陽
その赤い太陽は偉大なるあなた金日成！
その陽光(ひかり)　全世界のしいたげられた人びとのうえにさしこみ
人びとは金日成思想をその胸深くにたたむ

火と燃える太陽が　どうして朝鮮だけを照らすといいえよう
煌煌(こうこう)たるその光りが　どうして朝鮮だけのものといいえよう
その太陽はアフリカ　ラテンアメリカ　アジアの被圧迫人民の明るい燈台

朝鮮革命のほのおに火を点じたその火花
きょうは圧迫をうける国々で燃えあがり
きょうは遠くとおく圧迫にあえぐ人びとに
あなたの思想はあたたかい光りのように絶えまなくふりそそぐ

あなたの思想は働く人びとに幸せをもたらした
ながい　いつの日からか　私はどんなにあなたにお会いしたかったことか
その距離は　はるか遠くへだたってはいても
私の心はいつもこの地に飛んでいた

どんなにあなたの慈しみをこがれていただろう
いま　あなたのそば近く坐り
あなたの思想が映える九龍淵の水を口に含み
賢明なるあなたの素朴な弟子になりたいと思う

あなたの思想は気高く　あなたの偉業はこのうえなく偉大だ
あなたは革命の偉大なる巨人
一九四五年その年　日本帝国主義をうち破り

一九五三年その年　アメリカ帝国主義侵略者を撃退した
春とともにこの地に農耕の季節きたり
灌漑水はうねうねを浸して流れゆく
おお秋よ　労働の実りをのせて早くきたれ
喜びと幸せのるつぼ　統一の日を早くもたらせ
私を導くあなたのふところへ
私が訪ねてきたのは
赤い太陽の陽光(ひかり)をこの全身にうけたいがため
あなたの思想　あなたの偉大な業績を
私はわが国ナイジェリアへもち帰るであろう

朝鮮の要塞を　あるがままに
祖国の統一と完全独立のため闘う
朝鮮人民の闘争を全世界に伝えるだろう
私はまた　ナイジェリアの勤労者のため
一身をささげてたたかうだろう。

また、朝鮮を訪問したビルマ国会代表団の団長は、金日成首相の偉大さをたたえて、感銘深くつぎのようにのべ

ている。

「わたしたちの伝説によれば、ヒマラヤ山には『アタワティ』という花がありますが、それは千年にたった一度しか咲かないといわれています。

そのため天使はもちろん、この世の人びとも、このめずらしい花をたいへん尊んでおります。

朝鮮をながい暗黒からめざめさせた貴国の指導者金日成首相の賢明さと、朝鮮をこんにちのような偉大な国に発展させた神秘的な手腕は、わたしたちをして、その神秘的な花のことを思いおこさせます。

あなたがたの偉大な指導者の名声は、いままさに、その『アタワティ』の馥郁とした香りのように、全世界にひろがっています」

それだけではない。アジア、アフリカ、ラテンアメリカ三大陸の革命組織をはじめ、世界の革命的な組織と労働者、農民、女性、学生など、広はんな各階層の人民大衆も、金日成首相の偉大な革命思想とすぐれた指導から自己のたたかいの道と勝利をみてとり、熱烈な尊敬と敬慕の情をこめた書簡を首相に数多く寄せている。

まさしく、世界革命の傑出した指導者金日成首相にたいする全世界の革命的人民の信頼と支持は絶対的であり、その権威は、なにものをもってしてもゆるがすことはできない。

世界の広はんな人民は、四千万朝鮮人民の偉大な領袖であり、洗練されたマルクス・レーニン主義者であり、国際共産主義運動と労働運動のすぐれた指導者のひとりである金日成首相を、世界革命のたぐいまれな指導者にいただいていることをこのうえない幸福と考え、その教えにしたがって新たな勝利をめざし、力強く前進している。

第七章　四千万朝鮮人民の偉大な領袖

世界の少なからぬ国ぐにの民族の歴史には、ほまれ高き英雄や領袖たちがその名をつらねている。
しかし金日成首相のように、すぐれた革命理論と偉大な実績によって、自国と世界の革命に特出した貢献をなし、自国の人民はむろん、全世界の進歩的な人民大衆から、革命の偉大な領袖として絶対的な支持と尊敬を集めている民族の英雄、傑出した領袖はまれである。
かえりみれば、わが国の近代史は沈痛をきわめたものであった。無力で老衰した封建李朝政権は、侵略的な外勢の波に奔弄され、絶望的な深みでもがき苦しんでいた。民族は怒りにふるえたが、団結の中心がなかった。
やがて祖国は日本帝国主義の植民地に転落し、民族は暗たんたる月日を羅針盤も櫓もたず、波濤荒れ狂う大海に身をゆだねる運命となった。そして人民は、塗炭の苦しみにおちこんだ祖国を救い、民族を明るく新しい社会の実現へと導く指導者を待ちこがれた。
この渇望にこたえてたちあがった朝鮮人民の偉大な領袖こそ、まさに金日成首相その人であった。
金日成首相は、民族興亡のもっともけわしく激烈な革命の時代、嵐の時代の領袖である。
首相は自身の独創的な革命思想によつて、さげすまれ、踏みにじられてきた人民を闘士に育てあげ、武装させ、祖国を救ってそれを輝かしく不滅のものとした。
首相は一代で、文盲と貧困と飢えに苦しむ祖国を強力な自立的民族経済をもつ社会主義強国にかえた。

時代の操縦桿は首相の手にしっかりとにぎられていたし、現代朝鮮の人民の歴史は、首相とそのまわりに団結して前進してきた人民の行軍の過程で創造された。

まさに、金日成首相を民族の太陽とたたえるそのことばのなかには、いかに巨大で深い意味がこめられていることか！

早くも十四歳の少年の身で革命の嵐にたちむかったそのときから、十五年間の偉大な抗日武装闘争の時期をへて、共和国北半部に輝かしい社会主義の楽園を築くまでの首相の四十余年間にわたるたたかいの歴史は、ただひたすら朝鮮人民の自由と解放のために、朝鮮における社会主義、共産主義の建設のために、国際共産主義運動と民族解放闘争の勝利的な前進のために、自身のすべてをささげてたたかってきた偉大な革命闘争の歴史である。

この歴史こそは、まさに、もっとも崇高な一共産主義者の歴史にたいする賛歌のなかでも、もっとも偉大な闘争と創造のうたであろう。

首相は、その苦難にみちた闘争の日々をつうじ、朝鮮革命と世界革命の発展に寄与した特出した理論的、実践的貢献によって、四千万朝鮮人民だけでなく、全世界の革命的な人民からも、偉大な革命の指導者として絶対的な信頼と尊敬をうけている。

偉大な金日成首相を領袖として推戴している朝鮮人民の幸福と誇りは、たとえようもなく大きく、また高い。

古くから、共産主義運動と労働運動の歴史において、労働者階級のすぐれた指導者が革命運動の発展において、いかに巨大な役割を果たすかは周知のとおりである。

マルクス・レーニン主義は、歴史を創造して発展させるものは人民大衆であると教えている。しかしこれは、歴史発展の過程で果たされる個人の役割を認めないとか、革命闘争における指導者の役割を過小評価してもよいという意味ではない。

こんにちまでの人類の歴史は、いかに進歩的な階級であっても、その階級と、その階級の革命闘争を正しく導くことができる自己の先進的な領袖を推戴できなかったときは、絶対に支配権を確立することができないということを教えている。

労働者階級と勤労大衆が革命闘争で勝利するためには、社会発展にたいする知識と階級闘争にかんする理論によって武装しなければならず、科学的な戦略戦術を身につけなければならない。

また自己の同盟者をたたかいとり、革命の後続部隊を動員し、それを正しく活用することを知らねばならない。

このすべての活動は、ただ労働者階級の党と、その領袖によってのみ解決されるのである。

労働者階級の真の領袖は、共産主義運動と労働運動のすべての経験を一般化し、マルクス・レーニン主義の原理を自国の具体的な実情にあうよう創造的に適用、発展させ、人民大衆に正確な闘争綱領を提示し、革命と建設の各段階ごとに正しい戦略と戦術をうちたて、人民大衆の革命闘争を勝利へと導いていく。そして古くて反動的なものすべてを一掃し、新しいものを創造する革命思想で大衆を武装させ、正確な闘争スローガンをさししめし、複雑多岐にわたる革命の各段階において、それにそくして大衆を力強く組織動員する問題は、労働者階級の卓越した領袖が党を動かし、党が人民大衆をひきいてこそ解決できるのである。

労働者階級の領袖は、労働者階級の支配権がうちたてられたのちの時期においては、その社会制度の優越性を十分に発揮させ、その社会の発展を促進させるうえでもきわめて大きな働きをする。

いかにすばらしい武器であっても、無能な兵士の手にかかっては威力を発揮できないように、りっぱな社会制度がうちたてられても、その国の指導者が自己の領導的使命を十分に果たすことができない場合は、その社会制度の優越性を到底発揮することはできない。つまり、まったく同じ社会主義社会であっても、その国の領袖の才能と知勇、政治的手腕と指導力の如何によって、社会制度の優越性の発現程度と前進速度が左右されるのである。

このように、領袖の役割の問題は、労働者階級の革命闘争の全歴史的期間をつうじて、その死活的な運命にかかわるもっとも深刻な問題の一つである。

朝鮮革命がたどった道程は、現代のいかなる国、いかなる民族の場合にもまして、人民大衆をもっとも機敏に勝利へと導くことができる卓越した領袖の指導を切実に要求した。

それは朝鮮革命が最初から、それ以前のどの国の革命よりも、もっとも困難であり、もっとも複雑な革命であったからである。

事実、こんにちまでの世界の革命の歴史には、かつて朝鮮革命が切りひらいてきたような苦難にみちた独創的な道程をへた革命はなかった。

一般的にいって、典型的な資本主義発展の段階をへていないアジア諸国の革命は、多くの未知数をのこしているといわれてきたし、とくに朝鮮革命にたいしては、先行したマルクス・レーニン主義の古典的な理論家たちもその遂行方法を全然予言できなかったし、また予言できるはずもなかった。それほど朝鮮革命は、従来の既成の公式などでは到底解きほぐすことのできない数多くの新しい理論的、実践的な課題をもっていたのである。

したがって先に革命を遂行した国ぐにの経験も、一連の特殊性からして、より複雑で前例のない苦難にみちた朝鮮革命にとっては、一つの参考とはなっても、決定的なものとはなりえなかった。

朝鮮革命は最初から、だれも歩んだことのない新しい道を独創的に切りひらく過程をたどってきたし、それだけに、苦難にみちたものではあったが、また栄光のある革命となったのである。

まさに、朝鮮革命のこのような特殊性が、革命をだれよりも独創的に機敏に導くことのできる、たぐいまれな天才的な領袖を切実に待ちのぞんだのである。この渇望は、ただ金日成首相が革命の陣頭にたつことによってのみ、全的にいやされた。

ながいあいだ波乱と失敗をくりかえしてきた朝鮮人民の民族解放闘争と共産主義運動は、まさに金日成首相が朝鮮革命の陣頭にたったその瞬間から、はじめて科学的な革命路線と戦略戦術をもち正しい道をつきすすむことができたのであり、確固不動の勝利めざして前進することができたのである。

すぐれた革命理論に高い組織的手腕と不屈の意志をもつ金日成首相は、だれも切りひらくことができなかった朝鮮革命のけわしい道を独創的に打開し、革命と建設を勝利と栄光の道ひとすじに、もっとも模範的に導いてきた。

こうした模範は、それ自体が国際共産主義運動と世界革命の発展にたいする巨大な貢献となった。

じつに、かつて大きくたちおくれていた朝鮮人民が、暗くながい苦難の茨の道を勝利のうちに切りひらき、こんにち、もっとも先進的な人民の隊列と堂々と肩をならべ、わが国の史上かつてなかった一大民族的繁栄期をむかえているのも、全的に金日成首相の天才的な指導があったからこそである。

偉大な領袖金日成首相は、ひたすら革命のために、朝鮮を救い、それを輝かせるために生まれた領袖であり、革命を自身の使命として、革命のために自己のすべてをささげ、生きるよろこびも、しあわせも、革命のなかでのみ感じとる領袖である。

両親をはじめ、すべてが熱烈な反日革命闘士である革命的な家庭に生まれた首相は、年少の身で革命の長途につき、すでに、学生時代にマルクス・レーニン主義の旗をかかげ、大衆運動を組織指導する革命家としてひろく知られていた。

こうした首相であったからこそ、青少年時代にはすでに、日本帝国主義者にとっては恐怖の対象となり、朝鮮人民には希望の灯台となったのである。

首相においては、階級の敵にたいする炎のような憎悪と、人民にたいする熱烈な愛と大胆な革命的実践とが有機

的に統一されていた。

金日成首相は、人民の敵にたいしては毫も容赦せず、たたかいにおいてひるむことを知らぬ闘志の持主であり、真理と原則と革命の利益のためには、危険をもかえりみず前進する不撓不屈の革命家である。

首相は、犠牲となった戦友のまえでは涙を流したが、難関のまえでは涙することを知らなかった。首相は、もともと難関を突破しなければ革命を成就することができないと考えていたために、どんなにきびしい試練や障害のまえでも失望することを知らなかった。

前進して突破すること、革命して創造すること、これは首相のもっとも大きな幸福であり、よろこびであった。そして首相は、生死をとした危険すら、革命家だけが味わうことのできるよろこびにかえたのである。

だからこそ首相は、二十一歳の身で抗日遊撃隊を組織し、すぐれた戦略と千変万化の戦術で日本帝国主義の百万大軍を十五星霜にわたってうちやぶり、炎と吹雪の数十万里を踏破し、やがて祖国を救ったのである。

ながい歳月にわたる抗日武装闘争は、金日成将軍が導かなければ不可能な、そして革命隊伍の保存も、終局的勝利ものぞむことが不可能な、それほど苦しく難関の多い熾烈な闘争であった。

しかし、人間の生命と闘志を容赦なくうちのめす飢えと病魔、はげしい寒さと果てしない行軍、きびしい情勢と間断なくつづく敵軍との激戦など、最悪の難関と苦痛のなかにおいても、将軍は少しの失望も動揺もなく、ひたすら十五星霜をマルクス・レーニン主義の信念と不撓不屈の革命的闘志をもってたたかいぬき、最後の勝利を手中におさめることができたのである。

解放後、共和国北半部にこんにちのような社会主義の楽園が築かれるまでには、じつに形容できない数かずの困難と試練がよこたわっていた。

しかし、金日成首相は革命の陣頭にたち、このすべての難関をそのつど果敢にのりこえ、人民を機敏に動員し、

勝利に勝利をかさねてきた。
党と国家のまえに一時的な困難が到来し、そのすきに乗じて分派分子らが挑戦してきたときにも、それを一撃のもとにうちくだき、かえって革命を大きく高揚させせたし、また世界「最強」を豪語していたアメリカ帝国主義侵略軍が、誕生まもない共和国に火を放ったときも、それに断固として反撃をくわえ、歴史的な勝利をかちとった。
さらに戦後、すべてのものが破壊しつくされ、なにから先に、どのように手をつけるべきかが混とんとしていたときにも、アメリカ帝国主義をうちたおしたその気勢で人民を導き、復興建設の世紀的な大進軍をもたらしたのも、わが金日成首相であった。
ある国の指導者たちが、革命の前途に生じた難関のまえで右往左往していたとき、しかも、帝国主義の頭目であるアメリカ帝国主義者が朝鮮で新たな戦争挑発に狂いたっていたちょうどそのときに、マルクス・レーニン主義の原則と、とくに反帝反米路線を徹底的に堅持しながら、経済建設と国防建設の二つの戦線を力強くおしすすめていったのも、まさしく、金日成首相をおいてほかにはいなかった。
このように、金日成首相は不屈の革命家、真正な共産主義者であるばかりでなく、人民の名と血でむすばれている真の人民の領袖である。
首相は平凡な人民の息子として誕生し、苦楽を人民とともにわかち、人民のなかで成長した。
首相は幼いときから、家庭と自身のまわりにいる人びとと自然のすべてをつうじ、歴史的にひきつがれてきた朝鮮人民の血ぬられた悲しみと苦痛を骨身に徹して感じとった。
とくに首相は、不撓不屈の反日革命闘士であった父金亨稷(キムヒョンジク)先生と、熱烈な女性革命家であった母康盤石(カンバンソク)女史の革命活動をつうじ、幼年時代から、この世では人民のために働くことほど大きな栄光はなく、人民を不幸と苦痛から救うことほど重大な仕事はないと考えるようになった。

だからこそ首相は、人民の抑圧者、侵略者をうちくだき、人民を解き放つことが自身の使命であり、それが人民にたいする真の愛であると悟り、革命闘争に一身をなげうったのである。

首相の生きがいのすべては、人民のために献身することにあったし、そうした献身のよろこびも、自身にかえってくる栄誉によってではなく、生産にはげみ、たたかい、革命をおしすすめる人民の偉勲のなかでもとめた。

首相は、一滴の涙を流すにも人民のために流し、笑いも、憂いも、ただ人民の笑いと憂いのなかにこそあったのである。人民にたいするこのような熱烈な愛は、同時に、祖国にたいするかぎりない愛とむすびついていた。

首相こそ、まさしく人民にもっとも忠実な領袖であると同時に、故郷の山河と祖国の大地をだれよりも熱烈に愛した絶世の愛国者である。

首相は人民をだれよりもたいせつにし、愛したからこそ、つねに人民のなかにあり、人民のなかでその声と息吹きをききとり、そうすることによって力と勇気と知恵をえたのである。また、そうであったからこそ、すぐれた人民の領袖として、真の教師として人民を教育したばかりでなく、人民から学ぶことにも力をそそいだのである。

このような首相であるからこそ、困難な状況につきあたったときでも、まず自身が先頭にたって人民に思いをはせ、みずから人民をたずね、かれらとともに苦楽を分かちあい、大小さまざまな国事をかれらとともに話しあったのである。

首相は、苦難にみちた抗日武装闘争の時期、敵弾にたおれた隊員のために人知れず涙を流し、深く悲しみにとざされてただ一人夜を明かしたことも多かった。また、アメリカ侵略軍に父母を奪われた一人の孤児のためにも胸を痛め、ひと晩中まんじりともせず朝をむかえることもたびたびであった。敵にたいしては飛虎のように勇猛で非妥協的な首相であったが、工場をたずねれば慈愛にみちた労働者の父となり、農村へゆけば農民の素朴な旧友となり、師となってかれらと膝をまじえ農作業について話しあった。

首相は、大小さまざまな国事についての政策を樹立するにあたっても、また幼子のおもちゃ一つをつくるについても、つねにまず人民を考え、人民と相談した。

祖国のまえに一時的に危機がせまったときでも、首相は真っ先に国の柱である労働者階級をたずね、困難の打開策を語りあったし、かれらの炎のような革命的決意に新しい信念と勇気をえた。

首相はまた、名もない一労働者の確信にみちた声のなかからも、祖国の輝かしい未来を展望し、一老母の素朴なことばにも、領袖のまわりに団結した人民の不敗の威力と革命的な闘志を感じとった。

じつに金日成首相の革命活動の全期間は、人民にたいするかぎりない愛と配慮にみちあふれており、革命と人民のためには一身の危険も、難関も、疲労も知らぬ崇高な徳性につらぬかれている。

だからこそ、首相の偉大な構想によって世上に明らかにされるすべての政策と路線、教えと指示は、そのすべてが人民のためのものとして、人民の絶対的な支持と賛同をえているのである。

偉大な領袖金日成首相は、このように人民のなかに永遠に生きる人民の領袖であるがゆえに、人民とともにかぎりなく偉大であり、巨大なのである。

金日成首相は不屈の革命家、高潔な人民の領袖であるばかりでなく、もっともきびしい風雪にたえて鋼鉄のごとくきたえられ、ゆたかで高貴な経験をつみ、もっとも洗練され、完成された、たぐいまれな領袖である。

首相は、いくつかの大きな戦闘で勝利をものし、一朝一夕に名をあげ、「すい星のごとくあらわれては消える」型の軍事戦略家でもなく、また平穏な環境で経済や文化建設だけを導いてきた指導者でもない。闘争だけを知って創造を知らず、建設だけを絶対視して闘争と革命、戦争一般を否定するような、そうした指導者ではさらにない。

首相はまさしく、一つの人民の歴史、一つの民族の歴史が一世代に圧縮された、苦難にみちた朝鮮人民の歴史的道程を一身にになって解決したもっとも洗練された民族的英雄であり、闘争と創造と勝利につらぬかれたわが民族

の近代革命史を陣頭で組織し、指揮した偉大な歴史の創造者なのである。
首相は、激動する時代の闘争と創造のもっとも傑出した領袖であり、革命と建設の天才的な領袖である。
首相はまた、かつての革命活動をつうじて、強大な二つの帝国主義をうちやぶって勝利した鋼鉄の統帥者である。
中国大陸を侵略し、インドシナ半島と太平洋一帯を併呑しようとした日本帝国主義と真っ向から戦いをいどんで十五年、あらゆる超人的な悪戦苦闘をくりかえした末、ついに敵を撃破して栄えある勝利をかざり、それからわずか五年後には、世界制覇を夢見ながら誕生まもない共和国を一気に征服しようとしたアメリカ帝国主義にたいし、人民を機敏に指導することによって世界史上はじめてアメリカ帝国主義を撃破した、もっとも英知ある勇猛な領袖である。
さらに首相は、凶悪な帝国主義者とのたたかいで洗練された鋼鉄の統帥者であるばかりでなく、もっとも困難な社会革命をりっぱに導いて勝利した革命と建設の老練な領袖である。
金日成首相は解放後、共和国北半部において困難かつ複雑な二つの社会革命を、それも類例のない困難な条件のもとで指導し、どの国よりもりっぱに模範的になしとげている。いいかえれば、首相は解放後、アメリカ帝国主義が南朝鮮を占領し、植民地隷属化政策を実施した困難な条件のもとで反帝反封建的民主主義革命を指導し、最短期間内にその課題をもっとも徹底的に輝かしく解決したし、その後の革命をたゆみなくおしすすめて、社会主義革命の課題を提示し、それを精力的に導いて、ふたたび輝かしい勝利を達成したのである。
すぐる期間、首相は廃墟のうえに社会主義の楽園を築く復旧建設の荘厳な大戦闘を組織指導したし、世人を驚嘆させた千里馬運動の大進軍も指導した。
党と国家機関内に巣喰った分派分子と各種の異色分子らとの闘争も先頭にたって組織展開し、反帝反米闘争と社

会主義陣営の統一団結のための闘争も、もっとも原則的な立場にたってくりひろげた。

首相の革命歴史と活動はかぎりなくひろく、深く、巨大であり、活動におけるエネルギーはおどろくほど強力である。

国家活動の総路線を作成することからはじまって、南朝鮮の孤児たちを救済する問題にいたるまで、共産主義運動の統一団結のための実践的闘争から人民軍兵士たちの射撃訓練にいたるまで、首相の直接的な指導と関心のおよばなかった分野はない。

じつに、われらが敬愛する領袖金日成首相は、これまでの革命活動をつうじ、一国の天才的な領袖として、また世界革命の卓越した指導者の一人として、あらゆる試練をすべてのりこえ、なさねばならぬこと、なしうることのすべてを細大もらさず遂行し、また遂行しているのである。

この苦しくながい革命活動をつうじて、首相は百戦百勝の戦略戦術をもつ鋼鉄の統帥者となり、深く豊富な革命理論と経験、巨大な業績と卓越した領導芸術をかねそなえたすぐれた領袖となった。また革命と建設を指導する過程をつうじて新しく切りひらいた数多くの理論的、実践的な模範により、マルクス・レーニン主義の宝庫をいっそう豊富にし、世界革命の発展に大きく貢献した。

じつに歴史は、金日成首相のように、もっとも苦難にみちた革命の風波をすべて体験しながら、あらゆる分野にわたって人民を力強く導き、ひたすら勝利と栄光に輝く一国の近代革命運動史をおりなした、そのような領袖をいまだ知らない。まさに金日成首相のように長期にわたり、革命の嵐のなかでもっと豊富な経験と高貴な革命業績をつみ、もっとも傑出した領袖にのみ固有な天才的な知恵と不撓不屈の闘志と気迫、深遠な革命理論と卓越した領導芸術、高潔な革命的大衆観点、革命と建設にかんするすべての科学知識と高い文化的素養かねそなえた領袖はほかにいない。

金日成首相は、もっとも老練な、もっとも完成した労働者階級の領袖だけがもつことのできる、そのすべてのものをかねそなえていたがゆえに、類例のないほど複雑で困難な朝鮮革命の道を主動的に切りひらき、革命活動の全期間をつうじて、ただの一度の過失と失策もなく、人民をりっぱに導き、ひたすら勝利に勝利をかさねることができたのである。

まさに、こうした首相であるからこそ、帝国主義者が見さかいなくふるまっている現情勢下においても、とくに帝国主義の頭目であるアメリカ帝国主義が南朝鮮を占領し、虎視たんたんと北半部をねらっている条件のもとでも、寸分の譲歩やためらいもなく、徹底した反帝反米闘争の立場を堅持しながら、同時に、どの国よりも革命と建設を正確に、急速におしすすめているのである。

また、そのような領袖であるからこそ、国際共産主義運動の内部に左右の日和見主義が徘徊する現情勢下においても、マルクス・レーニン主義の革命的原則と純潔性をかたく守り、共産主義運動において新しく提起される複雑な理論、実践的問題に天才的な回答をあたえ、マルクス・レーニン主義の宝庫を豊富にする輝かしい模範をしめしているのである。

金日成首相は、このようにたぐいまれな、偉大な領袖であるがゆえに、自分自身の力を信じるまえに他人の力に大きくたよったり、自分では考えもせず、他人の考えにたよってその真似ごとに汲々とするような現象にたいしては、少しもこれを許さないのである。

もともと複雑多難な未開拓地の連続である朝鮮革命それ自体が、こうした腑ぬけの立場と態度を一蹴し、ひたすら自主、自立、自衛の革命的立場にしっかりたつことを要求した。

このような朝鮮革命の要求を反映し、金日成首相は革命活動の初期から、主体思想にもとづく独創的な指導理論を創始し、それを革命と建設の過程で自由自在に駆使した。

まさにそうしたからこそ、首相は、だれも切りひらくことのできなかった波乱万丈の朝鮮革命を果敢におしすすめ、偉大な勝利をかさねることができたのである。

首相が創始し、自身のながい革命実践をつうじて体系化した、思想における主体、政治における自主、経済における自立、国防における自衛の原則によってつらぬかれた主体思想——、これを真髄とする首相の偉大な革命思想は、朝鮮革命を完成し、朝鮮人民を社会主義、共産主義へもっとも正しく導き、ひいては世界革命を勝利へ導く、現代のもっとも正確なマルクス・レーニン主義的指導思想である。

したがって、この思想を指針としてさししめされる金日成首相のすべての路線と政策、教示と命題には、まずなによりも朝鮮人民の革命的気質と朝鮮の気概が生きているのである。

またそこには、必ずマルクス・レーニン主義の革命的原則と真髄がつらぬかれており、独創性と創造性が脈うっている。

まさに、世界革命にたいする卓越した戦略から朝鮮革命の戦略戦術にいたるまで、社会主義革命と建設で提起されるすべての理論、実践的問題から人民の衣食住の問題を解くことにいたるまで、首相がさししめしたすべての路線と政策は、そのどれもがマルクス・レーニン主義の普遍的真理と朝鮮の具体的実情にあわないものはなく、独創性と創造性が躍動していないものは一つもない。

またそのために、金日成首相のすべての路線と政策は、そのどれもが世上にしめされるやいなや、はかり知れない生活力と感化力をもってすべての人民の心をとらえている。

じつに、朝鮮人民の繁栄と勝利的な前進の道程は、ただ金日成首相の偉大な革命思想、主体思想の輝かしい具現の道程であり、勝利の道程なのである。

首相は自身の独創的な指導思想、指導理論を創始しただけではなく、その指導思想を貫徹する朝鮮革命の参謀

部、すなわち朝鮮労働党を創建し、それを苦難にみちた革命闘争のなかで鍛練し、洗練された必勝不敗の戦闘的なマルクス・レーニン主義の党に強化発展させた。

金日成首相は、すでに革命活動の初期から堅実な闘士たちを団結させ、革命的に教育し鍛練しながら、朝鮮において社会主義、共産主義を実現するためのマルクス・レーニン主義党創建に心血をそそいだ。

首相は自身の積極的な闘争によって、抗日武装闘争の時期にマルクス・レーニン主義党創建のための組織思想的準備をおこない、これにもとづいて解放後の複雑多難な時期に敏速にマルクス・レーニン主義の党を創建した。そして、創建された党を強力な革命的党にきたえるため、あらゆる努力をはらってきた。

金日成首相のこのような賢明で積極的な導きがあったからこそ、朝鮮労働党は創建当初からこんにちにいたるまでの二十余年間、帝国主義と内外の反動勢力に反対するたたかいでつねに勝利することができたし、共産主義運動の隊列のなかに発生した各種の日和見主義をうちやぶることができたのである。そして革命活動の実践闘争のなかで、より豊富な経験をつんだ老練な党に、どのような嵐にも微動だにしない百戦百勝のマルクス・レーニン主義の党に成長したのである。

首相は党を創建し、それをつねに組織思想的にきたえながら党のまえに明確な目標をさししめし、前人未到の栄えある革命の道へと党を大胆に導いていった。

そして革命と建設の実践をつうじて、朝鮮革命の全般的な新しい構想を輝かしく実現したのである。

首相は党を導き、革命と建設を勝利へと導く全過程で、革命的な大衆路線と、そこから生まれる人民的活動作風と人民的活動方法を徹底的に堅持した。

人民大衆の力と知恵を信じ、それに徹底的に依拠し、すべての革命課題を遂行することは、首相が一貫して堅持してきた革命的大衆路線であり、人民的活動作風であった。

首相は、「革命は人民のための事業であり、人民自身の活動」であるというところから、革命と建設を促進するうえで、どのような条件のもとでも人民大衆の創造力を最大限に動員し、かれらの情熱と創意性と才能を全面的に発揮させた。

首相はつねに大衆のなかにはいり、かれらとともに国事を相談し、つねに政治活動を先行させ、大衆の無限の力と知恵を革命と建設の勝利ひとすじに導いてきた。

金日成首相はつねに、革命と建設が提起する成熟した問題をそのつど科学的にとらえ、現在および遠い未来にたいする精密な分析と大衆の力と知恵を打算し、路線と政策をうちたてたのちには不撓不屈の革命的意志とたぎる情熱、無比の革命的展開力と賢明かつ具体的な指導をもって、それを最後までつらぬいてきた。

活動をくりひろげるときには、複雑な環のなかでもつねに中心的な環をとらえ、それに「火力」を集中させ、いったん一つの「高地」を占領したのちには、ひきつづき新しい「高地」の占領へと導きながら、大衆を継続革新、継続前進へふるいたたせた。

まさに、このような革命的大衆路線と人民的活動作風、活動方法によって、金日成首相の指導力は文字どおり必勝不敗であり、いたるところで超人的な奇跡を生みだしたのである。

首相はまさしく、偉大な領導芸術の体現者である。

かつての革命活動の全期間にわたり、首相がなしとげた偉大な業績は、かぎりなく大きく、またぼう大である。いま共和国北半部に生みだされた社会と自然におけるあらゆる世紀的な変化は、そのすべてが全的に金日成首相の天才的な指導と、朝鮮労働党の先鋒的役割によってなしとげられたものである。

こんにちの共和国北半部は、苛酷な搾取と圧迫、世紀的なたちおくれと貧困が支配した過去の涙の地ではなく、わが人民も、かつての亡国の民、踏みにじられ、さげすまれ、ありとあらゆる虐待に血の涙を流してきた、そのよ

うな人民ではない。

こんにちわが人民は、四千万朝鮮人民の偉大な領袖金日成首相の賢明な導きをうけており、首相が創建した百戦百勝のマルクス・レーニン主義党である朝鮮労働党の指導をうけている。

金日成首相の賢明な導きのもとに、かつては大きくたちおくれ、貧苦をきわめた北半部に、いまではすべてがたがいにたすけあい、はげましあいながら幸福に暮らす、もっとも先進的な社会主義制度がうちたてられ、政治においては自主的であり、経済においては自立的であり、国防においては自衛的な社会主義強国が築きあげられている。

また、科学と技術が急速に発展し、社会主義的民族文化が燦然と花ひらき、数千万におよぶ技術者と民族幹部の大部隊が成長している。

こんにち、共和国北半部の全人民は、搾取と圧迫が永遠に一掃されたりっぱな社会主義制度のもとで、衣食住にたいする不安や病気の治療にたいする心配、子弟の教育にたいする心配も知らず、たのしく働き、しあわせに生活している。

朝鮮人民は社会主義制度のもとで、領袖のまわりに政治思想的にますますかたく団結しており、革命と建設の困難なたたかいのなかで英雄的な人民に成長した。

人民にたいする教育と鍛練は、領袖と党のもっとも重要な活動分野の一つである。

それは人民にたいする教育と鍛練の程度によって、革命と建設の成果と未来が大きく左右されるからである。

朝鮮人民を革命的に教育し、鍛練する活動で、金日成首相がつみあげた偉大な成果は、その革命活動におけるもっとも輝かしい勝利の一つである。

こんにち、朝鮮人民がそなえている、みずからの領袖、党、国家、制度にたいする献身的な忠実性、熱烈な革命性と団結の精神、共産主義的同志愛と集団的英雄主義、労働にたいする愛と不撓不屈の闘志、思想的な純潔性と楽

天性、物質的な条件においてだけでなく崇高な政治的生命と精神の領域においても幸福をもとめることを知る高度な文明性、敵と不正にたいする非妥協性と熱烈な闘争精神など、この高まいな気質の全面的な開花——、ここには、金日成首相の領導芸術の偉大さが燦然と輝いているのだ。

人民をこのように革命的に教育した金日成首相には、ただ勝利と栄光のみが約束されている。

朝鮮人民はみずからの実際の体験と信念によって、領袖と党をかぎりなく信頼しており、領袖の思想と党のすべての政策と路線を自己の死活的な問題としてうけとめ、領袖と党、祖国と人民のために、自分自身の幸福のためにすべてをささげてたたかっている。

じつに、五千年にわたるわが国の歴史において、朝鮮人民が千里馬時代のこんにちのように、堂々と希望にみちあふれた生活と闘争をおしすすめてきた時代は、かつてない。

共和国北半部に築かれたこのすべての奇跡的な変化とその過程は、事実上、一国の偉大な領袖が革命をどのように遂行し、社会主義と共産主義はどのように建設しなければならないかについて、もっとも貴重な模範を創造したことを意味する。

金日成首相は、共和国北半部における革命と建設を、つねに南朝鮮人民を解放し、祖国を統一させるための民族至上の課題とむすびつけてきた。

首相は二十余年間、祖国の統一問題にたいしてつねに主導権をにぎっている。自主統一の革命的で公明正大な原則によって、南北朝鮮人民の確固とした支持をよびおこし、アメリカ帝国主義者とその手先らを孤立させたのも金日成首相であり、南朝鮮革命の戦略戦術をさししめし、南朝鮮人民に革命の糧（かて）、解放の旗じるしをさずけたのも金日成首相であった。

金日成首相は、四千万朝鮮人民の偉大な領袖であるばかりでなく、国際共産主義運動の傑出した指導者として、

世界革命の発展にはかり知れぬ巨大な貢献をなした。

首相はまずなによりも、朝鮮革命と建設を導く過程で蓄積した自身の豊富な経験により、マルクス・レーニン主義の思想的財富をゆたかにし、それによってマルクス・レーニン主義をいっそう発展させ、新しくより高い段階へひきあげた。

これとともに首相は、国際共産主義運動が新しい発展段階にはいったこんにち、社会主義、共産主義の建設で提起される新しい先鋭的な数多くの理論、実践的問題にたいして、もっとも正確な解答をあたえた。

首相は、国際共産主義運動の隊列内に発生した左右のあらゆる日和見主義に反対し、マルクス・レーニン主義の純潔性を固守するうえでも、共産主義運動の統一団結を達成するうえでも、世界革命の陣頭にたって特出した貢献をなしている。

また、すでに下り坂にさしかかったアメリカ帝国主義が世界各地で火遊びに狂いたっているこんにち、もっとも革命的であり、戦闘的な反帝反米闘争の戦略を提示し、その最前線でアメリカ帝国主義の手足をしばりつけているのも金日成首相であり、民族解放闘争がすすむべき、もっとも正確な方向をしめしているのも四千万朝鮮人民の偉大な領袖金日成首相である。

まさにそうであるからこそ、世界の数多くの国ぐにの指導者と人民大衆は、金日成首相を心からあおぎ、かぎりない尊敬と信頼をよせているのである。

首相にたいする惜しみない尊敬と信頼の賛歌は、アジアとヨーロッパ、アフリカとラテンアメリカから、たたかうベトナムとキューバから、革命をおこなう人民、堅実な共産主義者たちと労働者階級が存在するすべての国ぐにから高まり、強くひびきわたっているのである。

世界の革命的人民、堅実な共産主義者と革命家たちは、金日成首相を、「どの国の指導者とも対比することがで

きない」「国際共産主義運動と労働運動のもっとも偉大な、洗練された指導者」として、「もっとも卓越したマルクス・レーニン主義者」として、「全世界の革命的人民の偉大な領袖」としてあおぎみ、首相について学ぶことを革命勝利の確固とした保障であると考えている。

このように金日成首相は、朝鮮革命と国際共産主義運動、世界革命の発展に寄与したすぐれた貢献によって、朝鮮人民とともに全世界の革命的人民が一致してあおぎみる偉大な革命の領袖として、絶対的な信頼と尊敬をうけているのである。

絶世の愛国者であり、民族的英雄であり、百戦百勝の鋼鉄の統帥者であり、国際共産主義運動と労働運動のすぐれた指導者の一人である偉大な領袖金日成首相を自己の領袖として推戴している四千万朝鮮人民は、世界でもっとも幸福な栄光にみちた人民である。

まさにそうであるからこそ、朝鮮人民はこんにちのすべての勝利と自身の幸福について考えるたびに、偉大な領袖金日成首相を胸に描き、領袖を民族の太陽としてあおぎ、敬慕しているのである。

朝鮮人民は、金日成首相が導くかぎり、祖国と人民の前途には必ず勝利と栄光があるということを体験をつうじて知っている。だからこそ領袖の真の革命戦士として、永遠に領袖に忠実であり、その導きのもとに最後までたたかいぬく決意をかため、金日成首相以外にはだれをも知らず、その革命思想以外にはいかなる思想をも知らぬ領袖の戦士となるために、すべての情熱をかたむけている。

偉大な領袖にしたがって前進する朝鮮人民をはばむことはできない。革命と建設のもっとも困難な試練にうち勝ち、もっとも困難な条件のもとでも強敵を屈服させた領袖と人民には、勝利だけが約束されている最後の戦闘があるのみである。

アメリカ帝国主義者には、なんらの勝算もない。

かれらが万一、かつての朝鮮戦争における惨敗の教訓を忘れ、見さかいなく挑戦してくるならば、終局的な滅亡をまぬがれることはできないであろう。

金日成首相は、革命的大高揚にわく社会主義朝鮮の高峰にたっている。そこでは、北半部の燦然たる楽園と暗黒の南朝鮮が一望のもとに見わたされ、硝煙けむる世界のすべての反帝戦線がうかびあがってくる。首相は天才的な慧眼をもって、そのすべての細部まで見とおし、そのすべてに勇気と知恵をあたえている。

金日成首相のたつところ、そこには首相が朝鮮人民を導き、築きあげてきたかぎりない偉業が存在する。夜空の星よりも数多い巨大な業績は、その一つ一つが黄金の塔のごとくそびえて林立し、その一つ一つが炎のごとく光を放ち、そこにこめられた叙事詩的なたたかいを物語っている。

その偉業の燦然たる輝きは千万年にわたって光をなげ、すべての後裔の未来を照らすであろう。そしてかれらは、自己を生みはぐんだ楽園のふところで、つねに偉大な領袖金日成首相のあたたかい手を感じ、崇高な使命を果たしてゆくであろう。

南朝鮮が解放され、祖国が統一される日は遠くない。アメリカ帝国主義者とその手先どもを一掃した祖国の地で金日成首相をあおぎみ、しあわせにつつまれて泣き笑う日はもう近い。

金日成首相にたいする四千万朝鮮人民の感謝と敬慕の情は、内外すべての同胞たちとともに、幼子と母親たちも幸福にみちてうたう『金日成将軍の歌』となり、朝鮮の津々浦々にまでひびきわたっている。

わたしも金日成首相の万年長寿をねがい、その歌をもって、このながい稿をとじることにしよう。

長白の山なみ血にそめて
鴨緑の流れを血にそめて

自由朝鮮きずくため
戦いきたりしそのあとよ
　ああ、その名も高き金日成将軍
　ああ、その名もゆかし金日成将軍

満州の吹雪よ語れかし
密林の長き夜よ告げよかし
不滅のパルチザンはそも誰ぞ
絶世の英雄はそも誰ぞ
　ああ、その名も高き金日成将軍
　ああ、その名もゆかし金日成将軍

金日成首相の主要活動年表
（一九一二年四月〜一九六七年十二月）

一九一二年四月十五日
ピョンヤン市万景台区域万景台里（当時、平安南道大同郡古平面南里）において、金亨稷先生と康盤石女史の長男として誕生。

一九一七年三月二十三日
金亨稷先生が反日地下組織である朝鮮国民会を組織。

一九一七年の秋〜一九一八年の秋
金亨稷先生がピョンヤンの監獄において獄中闘争を展開。

一九一九年の夏〜一九二三年一月
中江鎮、臨江をへて八道溝の小学校で学ぶ。
金亨稷先生が中江鎮、臨江、八道溝において反日闘争を継続。

一九二三年二月〜一九二五年のはじめ
故郷の彰徳学校で学ぶ。

一九二五年のはじめ（十四歳）
祖国解放の大志をいだき鴨緑江をわたる。

一九二六年六月五日
金亨稷先生逝去。

一九二六年の夏〜秋
樺甸県華成義塾に入学し非合法組織ㅌ・ㄷ（打倒帝国主義同盟）を組織。秋に華成義塾を中退し撫松でセナル少年同盟を組織。

一九二七年の春
吉林毓文中学校入学。ここでマルクス・レーニン主義を探求。

一九二七年の春〜一九二八年
吉林ではじめて共産主義青年同盟を組織。反帝青年同盟を組織。朝鮮人留吉学友会を指導。吉林でおこなわれた安昌浩の民族改良主義的演説を論駁。
康盤石女史、撫松で婦女会主任として活動。

一九二八年十月〜十一月
吉会線鉄道敷設反対闘争を組織指導。

一九二九年の春
「南満青総大会」に参加したが、柳河県三源浦で民族主義者の分裂行動を糾弾する弾劾文発表。

一九二九年
満州反動軍閥に反対する青年学生の同盟休校闘争を組織指導。

一九二九年下半期～一九三〇年の春
吉林監獄で獄中闘争。植民地民族解放問題、朝鮮革命路線などを研究。

一九三〇年の夏～一九三一年のはじめ
朝鮮革命にかんする主体的なマルクス・レーニン主義的革命路線を提示。抗日武装闘争のために共産主義者たちの武装組織である朝鮮革命軍を組織。吉東地区で共青組織を指導。卡倫、孤楡樹、五家子、敦化、安図地方の農民大衆のなかで活動。農村青少年のなかで軍事訓練を実施。

一九三〇年八月
武装闘争の最初の試みとして国内に武装グループを派遣。武装グループ責任者の叔父金亨権先生は、豊山、洪原などで活動中、日本帝国主義者に逮捕され一九三五年、ソウル西大門刑務所で獄死。

一九三一年の秋
九・一八「満州事変」ののちに開催された安図地方革命組織責任者集会で、抗日武装闘争路線を具体化。

一九三一年十一月
明月溝会議に参加し、抗日遊撃隊の組織問題を討議。

一九三一年の秋～一九三二年の春
間島朝鮮農民の秋収暴動と春慌暴動に農民大衆を組織動員。

一九三二年四月二十五日
抗日遊撃隊を創建。

一九三二年の夏
民族主義者たちの武装力である独立軍の司令梁世奉と談判、民族団結をよびかける。

一九三二年七月三十一日
康盤石女史逝去。

一九三二年の夏〜一九三五年　東満各県に遊撃根拠地——解放地区を創設。根拠地内に人民革命政府を樹立。土地改革をはじめとする社会経済改革を指導。

一九三三年六月　「反日部隊」の頭目呉義成と談判。

一九三三年九月　東寧県城進攻戦闘を指揮。

一九三三年十二月〜一九三四年一月　小汪清遊撃根拠地の防御戦闘を指揮。

一九三五年二月〜三月　大荒崴会議、腰営溝会議で反「民生団」闘争の左翼偏向路線などを批判。

一九三五年六月〜一九三六年二月　老黒山戦闘を指揮。北満遠征おこなわれる。各部隊が南満洲、東満州、国内各地に進出。

一九三六年二月　南湖頭会議をひらき、反日民族統一戦線、党創建準備のより積極的な推進および遊撃隊の鴨緑江沿岸、白頭山西南部地帯への進出方針を提示。

一九三六年五月　東崗会議で南湖頭会議の方針を具体化。

一九三六年五月五日　祖国光復会創建。十大綱領を発表。機関誌として『三・一月刊』の発刊決定。金日成将軍が祖国光復会会長に推戴さる。

一九三六年八月十七日　撫松県城進攻戦闘を指揮。

一九三六年下半期　白頭山根拠地創設。

一九三七年一月　甲山一帯の祖国光復会下部組織の一つ朝鮮民族解放同盟結成。

一九三七年六月四日　普天堡戦闘を指揮。朝鮮人民につげる布告文を発表。

一九三七年六月三十日　間三峰戦闘を指揮。

一九三七年九月　日本帝国主義の中日戦争挑発——七・七事変と関連し国内人民につげるアピールを発表。

一九三七年十一月～一九三八年三月　馬塘溝で軍政学習を指導。

一九三八年十一月　南牌子会議で極左冒険主義路線である熱河遠征を批判。三個の方面軍を編成。

一九三八年十二月～一九三九年四月　南牌子から長白への苦難の行軍。

一九三九年五月一日　長白県小徳水でおこなわれたメーデー慶祝大会で演説。

一九三九年五月十八日～二十三日　茂山地区戦闘を指揮。

一九三九年の秋～一九四〇年のはじめ　白頭山東北部一帯で大旋回作戦を指揮。

一九四〇年八月　第二次世界大戦の勃発と関連し、敦化県小爾巴嶺会議を召集、会議で最後の決戦に対処する方針を提示。小部隊活動へ移行。

一九四一年の春　汪清、延吉、東寧など各県と国内における小部隊および武装グループの軍事政治活動を指揮。武装グループは羅津、雄基一帯で活動。

一九四一年十二月　日本帝国主義の太平洋戦争開始に対応した人民革命軍の活動方針を提示。

一九四二年～一九四五年八月　戦争情勢の新たな転換と関連し、最後の決戦に対処する準備活動を推進。武装グループが東満州とピョンヤン、会寧、雄基、清津、羅津一帯で活動を展開。

一九四五年八月八日　ソ連の対日宣戦布告を契機に、朝鮮人民革命軍に日本帝国主義にたいする最後の攻撃命令をくだす。

一九四五年八月九日～十五日　朝鮮人民革命軍が雄基郡一帯での戦闘をはじめ、羅津、清津、羅南、元山解放戦闘などを展開。

一九四五年八月十五日　朝鮮人民、日本帝国主義の植民地支配から解放される。朝鮮人

民革命軍の祖国凱旋。

一九四五年八月十五日　金日成将軍が指導した栄えある抗日武装闘争の偉大な勝利。日本帝国主義の敗亡。朝鮮解放。絶世の愛国者であり、民族的英雄である朝鮮革命の偉大な指導者金日成将軍の祖国凱旋。

一九四五年十月十日　朝望鮮共産党を創建。党の政治路線と組織路線を提示。

一九四五年十月十三日　各道党責任幹部たちのまえで『新朝鮮建設と民族統一戦線について』演説。

一九四五年十月十四日　ピョンヤン市民衆大会で祖国凱旋を内外に宣布。

一九四五年十一月一日　党機関紙『正路』発刊。

一九四五年十一月十五日　党中央組織委員会第二回拡大執行委員会を指導。

一九四五年十二月十七日～十八日　党中央組織委員会第三回拡大執行委員会を指導。

一九四五年十一月～一九四六年一月　大衆社会団体などの結成を指導。北朝鮮民主女性総同盟結成（一九四五年一一月一八日）。北朝鮮職業総同盟結成（一九四五年一一月三〇日）。北朝鮮民主青年同盟結成（一九四六年一月一七日）。北朝鮮農民同盟結成（一九四六年一月三一日）。

一九四六年二月八日　北朝鮮臨時人民委員会を樹立し、その首班に推戴される。

一九四六年三月四日　党中央組織委員会第五回拡大執行委員会を指導。

一九四六年三月五日　土地改革法令を発布。

一九四六年三月二十三日　二十か条政綱のを発表。

一九四六年五月二十一日　普通江改修工事着工式に参席し最初のシャベルをとる。

一九四六年六月二十四日　労働法令を発布。

一九四六年七月二十二日　北朝鮮民主主義民族統一戦線を結成。

一九四六年七月三十日　男女平等権法令を発布。
一九四六年八月十日　重要産業国有化法令を発布。
一九四六年八月二十八日～三十日　北朝鮮労働党創立大会で『勤労大衆の統一的党の創建のために』を報告。北朝鮮労働党を創立。党機関紙『労働新聞』、雑誌『勤労者』発刊を決定。
一九四六年九月～十月　南朝鮮労働者たちの九月ゼネスト。十月人民抗争。
一九四六年十一月三日　朝鮮での最初の民主選挙である北朝鮮道、市、郡人民委員会委員選挙を実施。平安南道江東郡選挙区で、平安南道人民委員会委員にえらばれる。
一九四六年十一月二十五日　建国思想総動員運動――思想意識の変革のためのたたかいを展開する方針を提示。
一九四七年二月二十二日　北朝鮮人民委員会を組織。その首班に推される。北半部で社会主義への過渡期はじまる。自立的民族経済建設路線を明示。
一九四七年三月十五日　北朝鮮労働党中央委員会第六回会議を指導。
一九四八年二月八日　不敗の革命武力――英雄的な朝鮮人民軍を創建。閲兵式で『朝鮮人民軍創建に際して』演説。
一九四八年三月二十七日～三十日　北朝鮮労働党第二回大会を指導。
一九四八年四月二十日～二十四日　南北朝鮮の政党、社会団体代表者たちの連席会議を指導。
一九四八年九月九日　栄えある朝鮮民主主義人民共和国を創建し、その首班に推戴される。
一九四九年二月十二日～十三日　北朝鮮労働党中央委員会第五回会議を指導。
一九四九年六月二十五日　祖国統一民主主義戦線を結成。

一九四九年六月三十日　南北朝鮮労働党の合党。その委員長となる。

一九四九年十二月五日～十八日　党中央委員会第二回総会を指導。

一九五〇年六月二十五日　アメリカ帝国主義とその手先李承晩一味の共和国北半部にたいする武力侵攻。祖国解放戦争開始。

一九五〇年六月二十六日　朝鮮人民軍最高司令官であり、百戦百勝の鋼鉄の統帥者である金日成首相が、『すべての力を戦争勝利のために』を放送演説。軍事委員会を組織し、その委員長に推される。

一九五〇年六月二十八日　ソウル解放戦闘を指揮。

一九五〇年七月八日　演説『アメリカ帝国主義者の武力侵攻を断固粉砕しよう』を放送。

一九五〇年七月二十日　大田解放戦闘を指揮。

一九五〇年十一月二十日　朝鮮人民軍の禿魯江軍政幹部会議を指導。

一九五〇年十二月二十一日～二十三日　党中央委員会第三回総会を指導。

一九五一年九～　一、二一一高地戦闘を指揮。

一九五一年十一月一日～四日　党中央委員会第四回総会を指導。

一九五二年二月一日　道、市、郡人民委員長および党指導幹部連席会議で、『現段階における地方政権機関の任務と役割』にたいして演説。

一九五二年六月二十一日　楽元機械工場を現地指導。

一九五二年十二月五日～十八日　歴史的な党中央委員会第五回総会を指導。

一九五三年七月二十七日　金日成首相のすぐれた指導のもとに、祖国解放戦争で朝鮮人民が偉大な勝利を達成。アメリカ帝国主義の敗北。

一九五三年八月三日　降仙製鋼所を現地指導。

一九五三年八月五日～九日　戦後の社会主義基礎建設の総的課題と、独創的な社会主義経済建設の基本路線を提示。党中央委員会第六回総会を指導。

一九五三年十二月十八日～十九日　党中央委員会第七回総会を指導。

一九五四年三月二十一日～二十三日　党中央委員会三月総会を指導。

一九五四年十一月一日～三日　党中央委員会十一月総会を指導。

一九五五年四月一日～四日　党中央委員会四月総会を指導。

一九五五年四月　朝鮮革命の性格と課題にかんするテーゼ『すべての力を祖国の統一独立と共和国北半部における社会主義建設のために』を発表。

一九五五年十二月二～三日　党中央委員会十二月総会を指導。

一九五五年十二月二十八日　党の宣伝扇動活動家たちのまえで、『思想活動において教条主義と形式主義を一掃し、主体を確立することについて』演説。

一九五六年四月二十三日～二十九日　朝鮮労働党第三回大会を指導。

一九五六年八月一日　東方で最初の全般的初等義務教育制を実施。

一九五六年八月三十日～三十一日　党中央委員会八月総会を指導。

一九五六年十二月十一日～十三日　歴史的な党中央委員会十二月総会を指導。金日成首相が創造した社会主義建設における朝鮮労働党の総路線——千里馬運動はじまる。

一九五七年四月十八日～十九日　党中央委員会四月総会を指導。

一九五七年十月十七日～十九日　党中央委員会十月総会を指導。

一九五七年十二月五日～六日　党中央委員会十二月拡大総会を指導。

一九五八年三月三日～六日　朝鮮労働党代表者会議を指導。

一九五八年六月五日～七日　党中央委員会六月総会を指導。

一九五八年八月　金日成首相の独創的な協同化方針の偉大な勝利。農村経済の協同化と個人商工業の社会主義的改造が完成。

一九五八年九月二十六日～二十七日　党中央委員会九月総会を指導。

一九五八年十月二日　全般的中等義務教育制を実施し、技術義務教育制を準備することにかんする法令発表。

一九五八年十一月二十日　全国市、郡党委員会宣伝員のための講習会で、『共産主義教育について』演説。

一九五九年一月五日～九日　全国農業協同組合大会を指導。

一九五九年二月二十三日～二十五日　党中央委員会二月総会を指導。

一九五九年六月二十七日～三十日　党中央委員会六月総会を指導。

一九五九年十月十四日　全国地方産業および生産協同組合熱誠者大会を指導。

一九五九年十二月一日～四日　党中央委員会十二月拡大総会を指導。

一九六〇年二月八日　平安南道江西郡青山里党総会で、『社会主義的農業の正確な運営のために』と題して演説。偉大な青山里精神、青山里方法を創造。

一九六〇年四月十九日　李承晩ファッショ統治に反対する南朝鮮人民の大衆的蜂起。李承晩かいらい政権の崩壊。

一九六〇年八月八日～十一日　党中央委員会八月拡大総会を指導。

一九六〇年八月二十二日　全国千里馬作業班運動先駆者大会を指導。

一九六〇年十二月二十日～二十三日　党中央委員会十二月拡大総会を指導。

一九六一年三月二十日～二十二日　党中央委員会三月総会を指導。

一九六一年四月七日　党中央委員会常務委員会北青拡大会議を指導。
一九六一年九月十一日〜十八日　勝利者の大会、団結の大会——朝鮮労働党第四回大会を指導。
一九六一年十一月二十七日〜十二月一日　党中央委員会第四期第二回総会の拡大会議を指導。
一九六一年十二月　大安電機工場と粛川郡にたいする現地指導。社会主義経済にたいする共産主義的指導管理体系を確立。
一九六二年三月六日〜八日　党中央委員会第四期第三回総会の拡大会議を指導。『党組織事業と思想事業を改善強化することについて』結論をくだす。
一九六二年八月七日〜八日　地方党および経済活動家の昌城連席会議を指導。
一九六二年十二月十日〜十四日　党中央委員会第四期第五回総会を指導。
一九六三年五月十三日〜十五日　党中央委員会第四期第六回総会を指導。
一九六三年九月三日〜五日　党中央委員会第四期第七回総会を指導。
一九六四年二月二十五日〜二十七日　党中央委員会第四期第八回総会を指導。『わが国における社会主義農村問題にかんするテーゼ』を発表。
一九六四年六月二十五日〜二十六日　党中央委員会第四期第九回総会を指導。
一九六四年十二月十四日〜十九日　党中央委員会第四期第十回総会を指導。
一九六五年三月二十五日　朝鮮農業勤労者同盟を創立。
一九六五年四月十四日　『朝鮮民主主義人民共和国における社会主義建設と南朝鮮革命について』を発表。
一九六五年六月二十九日〜七月一日　党中央委員会第四期第十一回総会を指導。
一九六五年十月十日　党創建二十周年慶祝大会で、『朝鮮労働党創建二十周年に際して』と題して報告。

一九六五年十一月十五日〜十七日　党中央委員会第四期第十二回総会を指導。

一九六六年三月二十八日〜四月四日　党中央委員会第四期第十三回総会を指導。

一九六六年四月二十九日　農業現物税制を完全に廃止することにかんする法令発表。

一九六六年十月五日〜十二日　国際共産主義運動と労働運動の卓越した指導者の一人である金日成首相が、歴史的な朝鮮労働党代表者会議で、『現情勢とわが党の任務』にたいして報告。朝鮮革命と国際共産主義運動および全般的世界革命運動の画期的発展のための偉大な革命路線を提示。

一九六六年十一月二十四日　アジア最初の全般的九年制技術義務教育を実施することについての法令を発表。

一九六七年五月四日〜八日　歴史的な党中央委員会第四期第十五回総会を指導。

一九六七年五月二十五日　党思想事業部門活動家たちのまえで、『当面する党宣伝活動方向について』演説。

一九六七年六月二十八日〜七月三日　党中央委員会第四期第十六回総会を指導。

一九六七年八月十二日　労作『反帝反米闘争を強化しよう』を発表。

一九六七年十二月十六日　朝鮮民主主義人民共和国政府政綱『国家活動のすべての分野で自主、自立、自衛の革命精神をいっそう徹底的に具現しよう』を発表。

あとがき

これは、白峯（ペクポン）著『民族の太陽金日成（キムイルソン）将軍』第二部第八章、すなわち「朝鮮（チョソン）を自立経済の国に」から、第十四章「四千万朝鮮人民の偉大な領袖」までを訳したものである。

これで、『民族の太陽金日成将軍』第一部、第二部を日本語に完訳したことになる。

もともと朝鮮語と日本語はたいへん近いことばで、他のどの国のことばに飜訳するより容易であるはずにもかかわらず、まだまだ十分な日本語とはいえないものにしかならなかった。

これはひとえに、われわれ飜訳委員会の力不足のいたすところで、著者および読者のみなさんには、すまないことであると思う。気づいた点は、今後の増版のときになおしていくつもりである。

これで読者のみなさんは、四千万朝鮮人民の偉大な領袖金日成首相の輝かしい半生について、おおむね理解されたことと思う。

そして、それと同時に、かつて日本帝国主義の支配のもとで、すべてを奪われてあえいでいた朝鮮と、その暗黒のなかで、光をもとめて雄々しくたちあがった朝鮮人民の英雄的な姿を知っていただけたと思う。

事実、この『金日成伝』第一部、二部、三部は、朝鮮人民の偉大な領袖金日成首相の伝記であると同時に、一九一〇年以降こんにちまでの朝鮮人民の輝かしい闘争の歴史でもある。朝鮮における真の革命の歴史は、金日成首相

が革命の道に第一歩をしるしたそのときからはじまるのであり、また朝鮮の共産主義運動の四十余年の歴史は、そのまま金日成首相の革命闘争の歴史である。

わたしたちは、日本の読者のみなさんがこの伝記をとおして、朝鮮の自主的平和統一と社会主義の終局的な勝利のために、朝鮮人民の先頭にたってすすむ現代の偉大な英雄金日成首相を深く知っていただくと同時に、首相の教えを胸に、そのあとにつづく英雄的な朝鮮人民をもよく理解してくださるよう切望する。

わたしたちは、この伝記を読まれた日本の読者のみなさんが、さらにすすんで、金日成首相の労作を日本語訳した『金日成二巻選集』や、その主体(チュチェ)思想を体系的にわかりやすく解説した『現代朝鮮の基本問題』なども、あわせて読んでくださるようねがってやまない。

一九七〇年二月八日

朝鮮人民軍創建二十二周年記念日に

『金日成伝』飜訳委員会

白峯著・金日成伝翻訳委員会訳

金日成伝〈第三部〉

昭和四五年二月八日初版
昭和四五年二月一五日二版
定価九八〇円

発行者　長坂一雄
発行所　雄山閣出版株式会社
東京都千代田区富士見二—六—九
電話東京(二六二)三二三一(代)
振替東京一六八五

印刷　亜細亜印刷株式会社
株式会社祥文堂印刷所
新成美術印刷社
製本　協栄製本株式会社
製函　有限会社加藤紙器製造所

金日成伝

III

自立経済の国から十大政綱発表まで

白峯著

翻訳委員会訳

雄山閣

金日成伝 Ⅲ

自立経済の国から
十大政綱発表まで

白峯著
翻訳委員会訳

定価980円